

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第306集

大里郡妻沼町

飯塚北遺跡Ⅰ

妻沼西部工業団地造成事業用地内
埋蔵文化財発掘調査報告

—Ⅰ—

<第1分冊>

2005

埼玉県

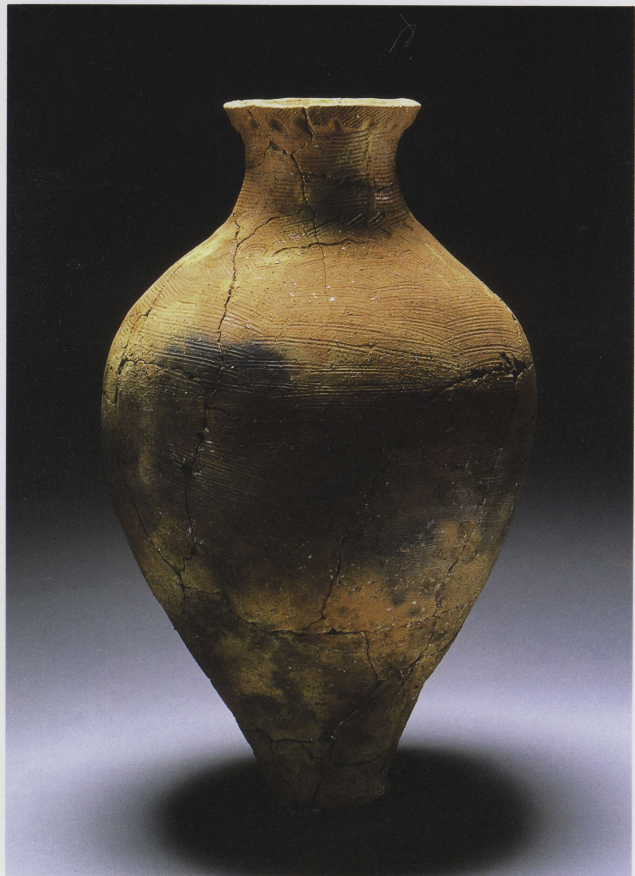
財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



調査区全景



第 1 号再葬墓出土遺物



第 1 号再葬墓出土遺物



第 2 a 号 · 2 b 号再葬墓出土遺物



第 2 a 号再葬墓出土遺物



第 2 a 号再葬墓出土遺物



第 2 b 号再葬墓出土遺物



第 2 b 号再葬墓出土遺物

発刊に寄せて

わが国を取り巻く社会情勢は、本格的な少子・高齢化の到来、高度情報化の進展、地球環境問題など、大きく変化しております。

本県では、今後も21世紀の輝く彩の国づくりに向けて、埼玉の活力を高めるために、県内の経済を活性化することが必要であります。

企業局は、これまで各事業をとおして、公営企業としての経済性を発揮しつつ、公共サービスの提供や社会資本の整備により、県民福祉の向上や地域の発展に寄与してきました。現在は県が整備した工業団地を産業団地としての分譲方法の見直しなどにより、企業が進出しやすい条件を整えとともに、進出企業に対する支援などを行うことで、成長産業をはじめとする様々な企業の県内立地を促進しております。その一事業として、地域経済の活性化と雇用の創出を図るため、妻沼西部工業団地の造成事業が計画されました。

本事業地内には、弥生時代、奈良・平安時代の集落から中世に亘る遺跡である飯塚北遺跡が確認され、これら貴重な埋蔵文化財を財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団に委託して、発掘調査を実施し、記録保存の措置をいたしました。

この報告書は、その調査結果をまとめたものです。県民の皆様方の教育及び文化向上のために御活用いただければ幸いです。

平成17年3月

埼玉県公営企業管理者

田村健次

序

埼玉県北部地域は利根川を境として群馬県と接し、本県の北の玄関口として広域交通の要衝になっています。

県北に位置する妻沼町には、通称“聖天様”で知られる歓喜院長楽寺があります。歓喜院長楽寺は、1179年(治承3年)、白髪神社を改修合祀し「聖天宮」として奉られたのが始まりで、その後、別当聖天山歓喜院長楽寺として、近隣地方の信仰の中心となりました。妻沼町はこの門前町として栄えましたが、現在では寺周辺にその面影を残しながらも、利根川沿いの田園地帯に位置する県内でも有数の野菜生産地となっています。

この田園地帯には群馬県と通じる国道407号が通り、交通も便利であることから、地域経済の活性化と雇用の創出を図るため妻沼西部工業団地の造成事業が計画されました。

事業地内には周知の埋蔵文化財包蔵地として飯塚北遺跡が該当しており、その取扱いについて、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が関係諸機関と慎重に協議を重ねてまいりましたが、やむを得ず記録保存の措置を講じることとなりました。発掘調査は、埼玉県企業局の委託を受け当事業団が実施しました。

今回の調査の結果、飯塚北遺跡からは弥生時代の再葬墓や奈良・平安時代の竪穴住居跡、掘立柱建物跡などの遺構が多数発見され、奈良・平安時代の大規模な集落跡の一部であることが明らかになりました。竪穴住居跡からは、土師器・須恵器などの土器類や、土製品・金属製品、他に灰釉陶器・緑釉陶器という愛知、岐阜方面で生産された古代の陶器が出土し、当地域の歴史を解明する上で貴重な発見となりました。

本書は、これらの発掘調査の成果をまとめたものであります。埋蔵文化財の保護・普及啓蒙の資料として、また学術研究の基礎資料として広く活用していただければ幸いです。

本書の刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整に御尽力いただきました埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課をはじめ、埼玉県企業局、妻沼町教育委員会並びに地元関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成17年3月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

理事長 福田 陽 充

例 言

- 1 本書は、埼玉県大里郡妻沼町大字永井太田1,531番地他に所在する飯塚北遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の略号と代表地番及び発掘調査に対する指示通知は以下のとおりである。
飯塚北遺跡（I I Z K K T）
埼玉県大里郡妻沼町大字永井太田1,531番地他
平成9年4月25日付け教文第2-7号
平成10年4月24日付け教文第2-8号
平成11年4月14日付け教文第2-3号
- 3 発掘調査は、妻沼西部工業団地造成事業に伴う事前調査であり、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が調整し、埼玉県の委託を受け、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
- 4 本事業は、第I章の組織により実施した。本事業の発掘調査については利根川章彦・山本禎・細田勝・川島健・岩瀬譲・吉田稔・書上元博・末木啓介・岩田明広・村田章人・大谷宏治が担当し、平成9年4月1日から平成10年9月30日まで、平成11年4月1日から平成11年8月31日まで実施した。整理・報告書作成事業は、山本禎・細田勝・福田聖が担当し、平成12年4月10日から平成13年3月23日まで、平成13年11月1日から平成14年3月22日まで、平成14年4月8日から平成14年8月31日まで、平成15年4月8日から平成15年8月29日まで、平成16年4月8日から平成17年3月まで数次に亘って実施した。
- 5 遺跡の基準点測量・空中写真撮影は、株式会社シン技術コンサルに委託した。口絵写真撮影の一部は、小川忠博氏に委託した。
- 6 写真は、発掘調査時の撮影を各担当者が行い、遺物の撮影は山本が行い、大屋道則の協力を得た。
- 7 出土品の整理・図版の作成は、山本・細田・福田が行い、上野真由美・渡辺元子・兵ゆり子・萩野谷正宏・中村恵美の協力を得た。金属製品については、瀧瀬芳之が行った。緑釉・灰釉陶器の産地比定は、中堀遺跡を参考として田中広明が行った。
- 8 本書の執筆は、山本が行い、I-1を埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課、IV・V・VII-1を細田が、金属製品については瀧瀬が執筆した。
- 9 本書の編集は、山本が行った。
- 10 本書に掲載した資料は、平成17年度以降、埼玉県立埋蔵文化財センターが管理・保管する。

凡例

1 遺跡全体におけるX・Yの数値は、国土標準平面直角座標第IX系（原点：北緯36度00分00秒、東経139度50分00秒）に基づく各座標値を示す。また、各挿図における方位は、全て座標北を示す。

2 遺跡におけるグリッドの設置は、国土標準平面直各座標第IX系に基づいて設置しており、10m×10mの方眼である。

3 グリッドの名称は、北西杭を基準として、東西方向は西から東へ1、2、3…、南北方向は北から南へA、B、C…と付けている。

（例 A-2グリッド）

4 本書の遺構の略号は以下のとおりである。

S J 竪穴住居跡 S B 掘立柱建物跡

S K 土坑 S D 溝跡

S E 井戸跡 S X 性格不明遺構

5 本書の挿図の縮尺は、原則として以下のとおりである。

調査区全測図 1 : 400

竪穴住居跡 1 : 60

土坑 1 : 60

弥生土器拓影図 1 : 3

石器 1 : 3

土器 1 : 4

土錘 1 : 3

金属製品 1 : 2

6 須恵器は、断面を黒塗りしてあるが、酸化焰焼成となっているものは塗っていない。また、緑釉・灰釉陶器については、施釉範囲を網かけて

示した。

網は、灰釉5%、緑釉20%、各陶器断面40%、自然釉5%、黒色土器30%、油煙60%、羽口還元範囲10%、羽口ガラス質30%である。

7 遺構図における水平数値は、海拔高度を示しており、単位はmである。

8 遺構図中のスクリーンは、焼土範囲と被熱焼土範囲を示す。

9 遺物観察表は次のとおりである。

・口径・器高・底径は、cmを単位とする。

・（ ）内の数値は推定値である。

・胎土は肉眼で観察できるものを次のように示した。

A : 白色粒子 B : 角閃石 C : 石英

D : 雲母 E : 長石 F : 赤色粒子

G : 黒色粒子 H : 白色針状物質 I : 片岩

J : 砂粒 K : 小礫

・焼成は、良好・普通・不良の3段階に分けた。

・残存率は、図示した器形の部分に対して%で表した。

・土錘の長さ・径・孔径はcmを単位とし、径は最大径である。

・（ ）は現存の長さ・径を表す。

10 本書に掲載した地形図は、国土地理院発行の1/50,000地形図と妻沼町都市計画図1/10,000と白地図1/2,500を使用した。

目次

口絵

発刊に寄せて

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要	1	5. グリッド出土石器	53
1. 発掘調査に至る経過	1	VI 奈良・平安時代の遺構と遺物	55
2. 発掘調査・報告書作成の経過	2	1. 住居跡	55
3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織	3	(第149号住居跡まで)	258
II 遺跡の立地と環境	6	〈第2分冊〉	
III 遺跡の概要	10	(第150号住居跡から)	259
IV 縄文時代の遺構と遺物	13	VII まとめ	443
1. 土壌	13	1. 弥生時代の遺物	443
2. グリッド出土土器	15	(1) 飯塚北遺跡出土の弥生土器	443
V 弥生時代の遺構と遺物	16	(2) 再葬墓と他の遺構との関連性について	447
1. 再葬墓	16	2. 奈良・平安時代の遺物	451
2. 土壌	26	写真図版	
3. 遺物集中区	28	付図	
4. グリッド出土土器	45		

挿 図 目 次

〈第1分冊〉

第1図	埼玉県の地形	6	第35図	第2号住居跡出土遺物	58
第2図	周辺の遺跡	8・9	第36図	第4号住居跡	59
第3図	調査区周辺の地形(1)	11	第37図	第4号住居跡出土遺物	60
第4図	調査区周辺の地形(2)	12	第38図	第5号住居跡	61
第5図	縄文・弥生時代の遺構全体図	14	第39図	第5号住居跡出土遺物	61
第6図	土壌	15	第40図	第6号住居跡	62
第7図	土壌出土土器	15	第41図	第6号住居跡出土遺物	62
第8図	再葬墓(1)	17	第42図	第10号住居跡	63
第9図	再葬墓出土遺物(1)	18	第43図	第10号住居跡出土遺物	64
第10図	再葬墓出土遺物(2)	19	第44図	第11号住居跡	65
第11図	再葬墓(2)	23	第45図	第11号住居跡出土遺物	65
第12図	再葬墓出土遺物(3)	25	第46図	第12号住居跡	66
第13図	土壌	27	第47図	第12号住居跡出土遺物	66
第14図	第1集中区出土遺物	29	第48図	第13号住居跡	67
第15図	第2集中区	30	第49図	第13号住居跡出土遺物	68
第16図	第2集中区出土遺物	31	第50図	第14号住居跡	69
第17図	第3集中区	33	第51図	第14号住居跡出土遺物	69
第18図	第3集中区出土遺物(1)	34	第52図	第15号住居跡	70
第19図	第3集中区出土遺物(2)	35	第53図	第15号住居跡出土遺物	70
第20図	第4集中区	37	第54図	第16・40・41号住居跡	72
第21図	第4集中区出土遺物(1)	38	第55図	第16号住居跡出土遺物	73
第22図	第4集中区出土遺物(2)	39	第56図	第40号住居跡出土遺物	73
第23図	第5集中区出土遺物(1)	41	第57図	第41号住居跡出土遺物	73
第24図	第5集中区出土遺物(2)	42	第58図	第17号住居跡	74
第25図	第5集中区出土遺物(3)	43	第59図	第17号住居跡出土遺物	74
第26図	グリッド出土遺物(1)	46	第60図	第18号住居跡	75
第27図	グリッド出土遺物(2)	47	第61図	第20号住居跡	75
第28図	グリッド出土遺物(3)	48	第62図	第20号住居跡出土遺物	76
第29図	グリッド出土遺物(4)	49	第63図	第21号住居跡	77
第30図	グリッド出土石器(1)	51	第64図	第21号住居跡出土遺物	77
第31図	グリッド出土石器(2)	52	第65図	第22号住居跡	78
第32図	第1号住居跡	55	第66図	第22号住居跡出土遺物	79
第33図	第1号住居跡出土遺物	56	第67図	第23号住居跡	80
第34図	第2号住居跡	57	第68図	第23号住居跡出土遺物	80

第69图	第24号住居跡	81	第106图	第44号住居跡出土遺物	111
第70图	第24号住居跡出土遺物	81	第107图	第45号住居跡	112
第71图	第25・29号住居跡	82	第108图	第45号住居跡出土遺物	113
第72图	第29号住居跡出土遺物	82	第109图	第46号住居跡	114
第73图	第26号住居跡	83	第110图	第48・49号住居跡	115
第74图	第26号住居跡出土遺物	83	第111图	第48号住居跡出土遺物	116
第75图	第27号住居跡	84	第112图	第49号住居跡出土遺物	117
第76图	第27号住居跡出土遺物	85	第113图	第51号住居跡	118
第77图	第28号住居跡	86	第114图	第51号住居跡出土遺物	118
第78图	第28号住居跡出土遺物(1)	87	第115图	第52号住居跡	119
第79图	第28号住居跡出土遺物(2)	88	第116图	第53号住居跡	119
第80图	第30号住居跡	89	第117图	第53号住居跡出土遺物	120
第81图	第30号住居跡出土遺物	90	第118图	第54号住居跡	121
第82图	第31号住居跡	90	第119图	第54号住居跡出土遺物	122
第83图	第31号住居跡出土遺物	91	第120图	第55号住居跡	123
第84图	第33号住居跡	92	第121图	第56号住居跡	123
第85图	第33号住居跡出土遺物	93	第122图	第56号住居跡出土遺物	124
第86图	第34号住居跡	94	第123图	第58号住居跡	125
第87图	第34号住居跡出土遺物	95	第124图	第58号住居跡出土遺物	125
第88图	第35a・35b号住居跡	96	第125图	第59・65号住居跡	127
第89图	第35a号住居跡出土遺物(1)	97	第126图	第59号住居跡出土遺物	128
第90图	第35a号住居跡出土遺物(2)	98	第127图	第65号住居跡出土遺物	129
第91图	第35a号住居跡出土遺物(3)	99	第128图	第61号住居跡	129
第92图	第35b号住居跡出土遺物	101	第129图	第61号住居跡出土遺物	130
第93图	第36号住居跡	101	第130图	第62号住居跡	130
第94图	第36号住居跡出土遺物	102	第131图	第62号住居跡出土遺物	131
第95图	第37号住居跡	103	第132图	第63・77号住居跡	132
第96图	第37号住居跡出土遺物	104	第133图	第63号住居跡出土遺物	133
第97图	第38・57号住居跡	105	第134图	第64号住居跡	134
第98图	第38号住居跡出土遺物	106	第135图	第64号住居跡出土遺物	135
第99图	第57号住居跡出土遺物	107	第136图	第66号住居跡	135
第100图	第39号住居跡	108	第137图	第66号住居跡出土遺物	136
第101图	第42号住居跡	108	第138图	第67号住居跡	137
第102图	第42号住居跡出土遺物	109	第139图	第67号住居跡出土遺物	138
第103图	第43号住居跡	110	第140图	第68号住居跡	138
第104图	第43号住居跡出土遺物	110	第141图	第68号住居跡出土遺物	139
第105图	第44号住居跡	111	第142图	第69号住居跡	139

第143图	第69号住居跡出土遺物	140	第180图	第92号住居跡出土遺物	165
第144图	第70号住居跡	140	第181图	第93号住居跡	166
第145图	第70号住居跡出土遺物	141	第182图	第93号住居跡出土遺物	167
第146图	第71号住居跡	141	第183图	第94号住居跡	168
第147图	第71号住居跡出土遺物	142	第184图	第94号住居跡出土遺物	169
第148图	第72号住居跡	142	第185图	第95号住居跡	171
第149图	第72号住居跡出土遺物	143	第186图	第95号住居跡出土遺物	172
第150图	第73・78号住居跡	143	第187图	第96号住居跡	173
第151图	第73号住居跡出土遺物	144	第188图	第96号住居跡出土遺物	174
第152图	第78号住居跡出土遺物	144	第189图	第97号住居跡	175
第153图	第74号住居跡	145	第190图	第97号住居跡出土遺物	175
第154图	第74号住居跡出土遺物	145	第191图	第98号住居跡	176
第155图	第76・79号住居跡	146	第192图	第98号住居跡出土遺物(1)	177
第156图	第76号住居跡出土遺物	147	第193图	第98号住居跡出土遺物(2)	178
第157图	第79号住居跡出土遺物	147	第194图	第100号住居跡	179
第158图	第80号住居跡	148	第195图	第100号住居跡出土遺物	180
第159图	第80号住居跡出土遺物	149	第196图	第101・102・103・104号住居跡	182
第160图	第81号住居跡	150	第197图	第102号住居跡	183
第161图	第81号住居跡出土遺物	150	第198图	第101号住居跡出土遺物(1)	184
第162图	第82・83号住居跡	151	第199图	第101号住居跡出土遺物(2)	185
第163图	第82号住居跡出土遺物	152	第200图	第102号住居跡出土遺物(1)	186
第164图	第83号住居跡出土遺物	153	第201图	第102号住居跡出土遺物(2)	187
第165图	第84号住居跡	154	第202图	第103号住居跡出土遺物(1)	189
第166图	第84号住居跡出土遺物	154	第203图	第103号住居跡出土遺物(2)	190
第167图	第85・86号住居跡	155	第204图	第103号住居跡出土遺物(3)	191
第168图	第85号住居跡出土遺物	156	第205图	第104号住居跡出土遺物	192
第169图	第86号住居跡出土遺物	156	第206图	第106号住居跡	193
第170图	第87・99・124号住居跡	157	第207图	第106号住居跡出土遺物	193
第171图	第87号住居跡出土遺物	158	第208图	第107号住居跡	194
第172图	第99号住居跡出土遺物	158	第209图	第107号住居跡出土遺物(1)	195
第173图	第89号住居跡	159	第210图	第107号住居跡出土遺物(2)	196
第174图	第89号住居跡出土遺物	160	第211图	第108号住居跡	197
第175图	第90号住居跡	161	第212图	第108号住居跡出土遺物(1)	198
第176图	第90号住居跡出土遺物	162	第213图	第108号住居跡出土遺物(2)	199
第177图	第91号住居跡	163	第214图	第109号住居跡	200
第178图	第91号住居跡出土遺物	164	第215图	第109号住居跡出土遺物	200
第179图	第92号住居跡	164	第216图	第111号住居跡	201

第217回	第111号住居跡出土遺物	202
第218回	第112号住居跡	203
第219回	第114・115・116号住居跡	204
第220回	第114号住居跡出土遺物	205
第221回	第115号住居跡出土遺物	205
第222回	第116号住居跡出土遺物	206
第223回	第117号住居跡	207
第224回	第117号住居跡出土遺物	208
第225回	第120号住居跡	209
第226回	第120号住居跡出土遺物(1)	210
第227回	第120号住居跡出土遺物(2)	211
第228回	第122号住居跡	212
第229回	第122号住居跡出土遺物	213
第230回	第123号住居跡	214
第231回	第123号住居跡出土遺物	215
第232回	第125号住居跡	216
第233回	第125号住居跡出土遺物	216
第234回	第126号住居跡	217
第235回	第127・212号住居跡	218
第236回	第127号住居跡出土遺物(1)	219
第237回	第127号住居跡出土遺物(2)	220
第238回	第212号住居跡出土遺物	221
第239回	第128号住居跡	221
第240回	第128号住居跡出土遺物	222
第241回	第129号住居跡	224
第242回	第129号住居跡出土遺物	224
第243回	第130号住居跡	225
第244回	第130号住居跡出土遺物	226
第245回	第132・142号住居跡	227
第246回	第132号住居跡出土遺物	228
第247回	第142号住居跡出土遺物	228
第248回	第133号住居跡	229
第249回	第133号住居跡出土遺物	230
第250回	第134号住居跡	231
第251回	第134号住居跡出土遺物(1)	232
第252回	第134号住居跡出土遺物(2)	233
第253回	第135号住居跡	233

第254回	第135号住居跡出土遺物	234
第255回	第136号住居跡	236
第256回	第136号住居跡出土遺物	236
第257回	第137・154号住居跡	238
第258回	第137号住居跡出土遺物	239
第259回	第154号住居跡出土遺物	239
第260回	第138号住居跡	240
第261回	第138号住居跡出土遺物	240
第262回	第139号住居跡	241
第263回	第139号住居跡出土遺物	242
第264回	第140号住居跡	243
第265回	第140号住居跡出土遺物	243
第266回	第141号住居跡	244
第267回	第141号住居跡出土遺物	245
第268回	第143号住居跡	247
第269回	第143号住居跡出土遺物	248
第270回	第144号住居跡	249
第271回	第144号住居跡出土遺物(1)	250
第272回	第144号住居跡出土遺物(2)	251
第273回	第146号住居跡	252
第274回	第146号住居跡出土遺物	253
第275回	第147号住居跡	254
第276回	第147号住居跡出土遺物	254
第277回	第148号住居跡	255
第278回	第148号住居跡出土遺物	256
第279回	第149号住居跡	257
第280回	第149号住居跡出土遺物	258

〈第2分冊〉

第281回	第150号住居跡	259
第282回	第150号住居跡出土遺物	260
第283回	第151号住居跡	261
第284回	第151号住居跡出土遺物	262
第285回	第152号住居跡	264
第286回	第152号住居跡出土遺物	265
第287回	第153号住居跡	266
第288回	第155・163号住居跡	267
第289回	第155号住居跡出土遺物	267

第290图	第163号住居跡出土遺物	268	第327图	第173号住居跡	304
第291图	第156号住居跡	268	第328图	第173号住居跡出土遺物	305
第292图	第156号住居跡出土遺物	269	第329图	第174号住居跡	306
第293图	第157号住居跡	270	第330图	第174号住居跡出土遺物	307
第294图	第157号住居跡出土遺物	270	第331图	第176号住居跡	308
第295图	第158号住居跡	271	第332图	第176号住居跡出土遺物(1)	309
第296图	第158号住居跡出土遺物	271	第333图	第176号住居跡出土遺物(2)	310
第297图	第159号住居跡	272	第334图	第177·198·202号住居跡	311
第298图	第159号住居跡出土遺物	272	第335图	第177号住居跡出土遺物	310
第299图	第161号住居跡	273	第336图	第198号住居跡出土遺物	312
第300图	第161号住居跡出土遺物	274	第337图	第202号住居跡出土遺物	312
第301图	第162号住居跡	275	第338图	第178号住居跡	313
第302图	第162号住居跡出土遺物	275	第339图	第178号住居跡出土遺物	314
第303图	第164·175号住居跡	277	第340图	第179号住居跡出土遺物	315
第304图	第164号住居跡出土遺物	277	第341图	第179号住居跡	316
第305图	第175号住居跡出土遺物	278	第342图	第180号住居跡	317
第306图	第165·172号住居跡	279	第343图	第180号住居跡出土遺物	318
第307图	第165号住居跡出土遺物	280	第344图	第195号住居跡	319
第308图	第172号住居跡出土遺物	281	第345图	第195号住居跡出土遺物	319
第309图	第166·186·219号住居跡	282	第346图	第201号住居跡	320
第310图	第166号住居跡出土遺物(1)	283	第347图	第201号住居跡出土遺物	321
第311图	第166号住居跡出土遺物(2)	284	第348图	第181号住居跡	322
第312图	第166号住居跡出土遺物(3)	285	第349图	第181号住居跡出土遺物	323
第313图	第166号住居跡出土遺物(4)	286	第350图	第182号住居跡	324
第314图	第186号住居跡出土遺物	289	第351图	第182号住居跡出土遺物	325
第315图	第219号住居跡出土遺物	290	第352图	第183号住居跡	326
第316图	第167·220号住居跡	291	第353图	第183号住居跡出土遺物	326
第317图	第167·220号住居跡出土遺物	292	第354图	第184号住居跡	327
第318图	第168号住居跡	294	第355图	第184号住居跡出土遺物	328
第319图	第168号住居跡出土遺物	295	第356图	第185号住居跡	329
第320图	第169号住居跡	296	第357图	第185号住居跡出土遺物	330
第321图	第169号住居跡出土遺物	297	第358图	第187号住居跡	331
第322图	第170·213号住居跡	299	第359图	第187号住居跡出土遺物	332
第323图	第170号住居跡出土遺物	300	第360图	第188号住居跡	332
第324图	第213号住居跡出土遺物	301	第361图	第188号住居跡出土遺物	333
第325图	第171号住居跡	302	第362图	第189号住居跡	333
第326图	第171号住居跡出土遺物	303	第363图	第189号住居跡出土遺物	334

第364图	第190号住居跡	335	第401图	第215号住居跡出土遺物	363
第365图	第190号住居跡出土遺物	336	第402图	第216号住居跡	364
第366图	第191号住居跡	337	第403图	第216号住居跡出土遺物	365
第367图	第191号住居跡出土遺物	338	第404图	第217号住居跡	366
第368图	第192号住居跡	339	第405图	第217号住居跡出土遺物	366
第369图	第192号住居跡出土遺物	339	第406图	第218・229・247・253号住居跡	367
第370图	第193・205号住居跡	340	第407图	第218号住居跡出土遺物	368
第371图	第193号住居跡出土遺物	341	第408图	第229号住居跡出土遺物	369
第372图	第205号住居跡出土遺物	342	第409图	第247号住居跡出土遺物	370
第373图	第194号住居跡	343	第410图	第253号住居跡出土遺物	370
第374图	第194号住居跡出土遺物	343	第411图	第221号住居跡	371
第375图	第196号住居跡	344	第412图	第221号住居跡出土遺物	372
第376图	第196号住居跡出土遺物	345	第413图	第223号住居跡	373
第377图	第197号住居跡	346	第414图	第223号住居跡出土遺物	374
第378图	第197号住居跡出土遺物	347	第415图	第224号住居跡	375
第379图	第199号住居跡	347	第416图	第224号住居跡出土遺物	376
第380图	第199号住居跡出土遺物	348	第417图	第244号住居跡	376
第381图	第200号住居跡	348	第418图	第244号住居跡出土遺物	377
第382图	第200号住居跡出土遺物	349	第419图	第225号住居跡	378
第383图	第203号住居跡	350	第420图	第225号住居跡出土遺物	379
第384图	第203号住居跡出土遺物	351	第421图	第226号住居跡	379
第385图	第204号住居跡	352	第422图	第226号住居跡出土遺物	379
第386图	第204号住居跡出土遺物	352	第423图	第227号住居跡	380
第387图	第206・207・222号住居跡	353	第424图	第227号住居跡出土遺物	381
第388图	第207号住居跡出土遺物	354	第425图	第228・237号住居跡	383
第389图	第222号住居跡出土遺物	354	第426图	第228号住居跡出土遺物	384
第390图	第208号住居跡	355	第427图	第237号住居跡出土遺物	384
第391图	第208号住居跡出土遺物	355	第428图	第230号住居跡	385
第392图	第209号住居跡	356	第429图	第231号住居跡	386
第393图	第209号住居跡出土遺物	357	第430图	第231号住居跡出土遺物	386
第394图	第210号住居跡	357	第431图	第232号住居跡	387
第395图	第210号住居跡出土遺物	358	第432图	第232号住居跡出土遺物	387
第396图	第211号住居跡	359	第433图	第233号住居跡	388
第397图	第211号住居跡出土遺物	360	第434图	第233号住居跡出土遺物	388
第398图	第214号住居跡	361	第435图	第234号住居跡	389
第399图	第214号住居跡出土遺物	361	第436图	第234号住居跡出土遺物	389
第400图	第215号住居跡	362	第437图	第235号住居跡	390

第438図	第235号住居跡出土遺物	390	第472図	第258号住居跡	419
第439図	第236・239・250・282・299号住居跡	392	第473図	第258号住居跡出土遺物	419
第440図	第239号住居跡	393	第474図	第262・295号住居跡	420
第441図	第236号住居跡出土遺物	394	第475図	第262号住居跡出土遺物	421
第442図	第239号住居跡出土遺物(1)	395	第476図	第295号住居跡出土遺物	421
第443図	第239号住居跡出土遺物(2)	396	第477図	第263号住居跡	422
第444図	第250号住居跡出土遺物	396	第478図	第263号住居跡出土遺物	422
第445図	第282号住居跡出土遺物	397	第479図	第264・312号住居跡	423
第446図	第299号住居跡出土遺物	397	第480図	第264号住居跡出土遺物(1)	424
第447図	第238号住居跡	398	第481図	第264号住居跡出土遺物(2)	425
第448図	第238号住居跡出土遺物	399	第482図	第312号住居跡出土遺物	426
第449図	第240・333号住居跡	400	第483図	第265号住居跡	427
第450図	第241号住居跡	401	第484図	第265号住居跡出土遺物	428
第451図	第241号住居跡出土遺物	402	第485図	第266・286号住居跡	428
第452図	第242・243号住居跡	403	第486図	第267号住居跡	429
第453図	第242・243号住居跡出土遺物	403	第487図	第267号住居跡出土遺物	430
第454図	第246・251号住居跡	404	第488図	第268・269・270号住居跡	431
第455図	第246号住居跡出土遺物	405	第489図	第268号住居跡出土遺物	432
第456図	第251号住居跡出土遺物	406	第490図	第269号住居跡出土遺物	432
第457図	第248・260・261号住居跡	407	第491図	第270号住居跡出土遺物	433
第458図	第248号住居跡出土遺物	408	第492図	第271・272号住居跡	434
第459図	第260号住居跡出土遺物	408	第493図	第271・272号住居跡出土遺物	435
第460図	第261号住居跡出土遺物	409	第494図	第274・275号住居跡	436
第461図	第249号住居跡	410	第495図	第274号住居跡出土遺物	437
第462図	第249号住居跡出土遺物	411	第496図	第274・275号住居跡出土遺物	438
第463図	第252号住居跡	412	第497図	第276・285・292・303・304号住居跡	439
第464図	第252号住居跡出土遺物	413	第498図	第276号住居跡出土遺物	440
第465図	第254号住居跡	414	第499図	第285号住居跡出土遺物	440
第466図	第254号住居跡出土遺物	414	第500図	第303号住居跡出土遺物	441
第467図	第255号住居跡	415	第501図	第277号住居跡	441
第468図	第255号住居跡出土遺物	415	第502図	第277号住居跡出土遺物	442
第469図	第256号住居跡	416	第503図	飯塚北遺跡と周辺の再葬墓出土土器	445
第470図	第256号住居跡出土遺物	417	第504図	弥生土器集中区部分	448
第471図	第257号住居跡	418			

図版目次

〈第2分冊〉

- 図版1 遺跡全景
- 図版2 遺跡全景
- 図版3 第1号再葬墓（S K 602）遺物出土状況
第2号再葬墓（S K 879）遺物出土状況
- 図版4 第3号再葬墓（S K 936）遺物出土状況
第4号再葬墓（S K 701）遺物出土状況
第4号再葬墓（S K 701）
第5号再葬墓（S K 789）遺物出土状況
第741号土壙遺物出土状況
第741号土壙
第938号土壙
- 図版5 第1号住居跡遺物出土状況
第2号住居跡 第5号住居跡カマド
第5号住居跡 第6号住居跡
第10号住居跡 第11号住居跡カマド
第11号住居跡
- 図版6 第13号住居跡カマド 第13号住居跡
第14号住居跡カマド遺物出土状況
第14号住居跡 第15号住居跡
第16号住居跡カマド 第16号住居跡
第17号住居跡
- 図版7 第18号住居跡
第20号住居跡カマド遺物出土状況
第20号住居跡
第21号住居跡カマド遺物出土状況
第21号住居跡
第22号住居跡カマド遺物出土状況
第22号住居跡
第23号住居跡カマド遺物出土状況
- 図版8 第23号住居跡 第24号住居跡カマド
第24号住居跡 第26号住居跡
第27号住居跡カマド遺物出土状況
第28号住居跡カマド
第28号住居跡カマド遺物出土状況
- 第28号住居跡
- 図版9 第28号住居跡遺物出土状況
第30号住居跡
第30号住居跡遺物出土状況
第31号住居跡
第33号住居跡カマド遺物出土状況
第33号住居跡 第33・43号住居跡
第34号住居跡カマド遺物出土状況
- 図版10 第34号住居跡
第35号住居跡カマド遺物出土状況
第35号住居跡遺物出土状況
第35号住居跡
第37号住居跡遺物出土状況
第37号住居跡 第38・57号住居跡
- 図版11 第38号住居跡 第42号住居跡カマド
第42号住居跡 第44号住居跡
第45号住居跡
第48号住居跡遺物出土状況
第48号住居跡
第49号住居跡遺物出土状況
- 図版12 第49号住居跡
第53号住居跡カマド遺物出土状況
第53号住居跡
第54号住居跡カマド遺物出土状況
第54号住居跡
第56号住居跡カマド遺物出土状況
第56号住居跡 第58号住居跡
- 図版13 第59号住居跡カマド遺物出土状況
第59号住居跡 第61号住居跡
第62号住居跡カマド遺物出土状況
第62号住居跡
第63号住居跡カマド遺物出土状況
第63号住居跡遺物出土状況
第63号住居跡

- 図版14 第64号住居跡カマド遺物出土状況
 第64号住居跡 第67号住居跡カマド
 第67号住居跡 第68号住居跡
 第70号住居跡 第71号住居跡
 第74号住居跡
- 図版15 第76・79号住居跡 第73・78号住居跡
 第80号住居跡 第81号住居跡
 第82号住居跡
 第85号住居跡カマド遺物出土状況
 第85号住居跡
 第86号住居跡カマド遺物出土状況
- 図版16 第86号住居跡 第90号住居跡
 第91号住居跡カマド遺物出土状況
 第91号住居 第92号住居跡
 第93号住居跡遺物出土状況
 第93号住居跡
- 図版17 第95号住居跡カマド遺物出土状況
 第95号住居跡
 第96号住居跡カマド遺物出土状況
 第96号住居跡 第98号住居跡
 第100号住居跡 第101号住居跡
 第101・102・103号住居跡
- 図版18 第103・104号住居跡
 第107号住居跡カマド遺物出土状況
 第107号住居跡
 第108号住居跡遺物出土状況
 第108号住居跡 第109号住居跡
 第111号住居跡 第115号住居跡
- 図版19 第116号住居跡 第117号住居跡
 第120号住居跡遺物出土状況
 第120号住居跡 第122号住居跡
 第123号住居跡カマド 第123号住居跡
 第125号住居跡カマド遺物出土状況
- 図版20 第125号住居跡 第126号住居跡
 第127号住居跡カマド 第127号住居跡
 第128号住居跡 第129号住居跡カマド
 第129号住居跡 第132号住居跡
- 図版21 第133号住居跡カマド遺物出土状況
 第133号住居跡カマド 第133号住居跡
 第134号住居跡カマド遺物出土状況
 第134号住居跡
 第135号住居跡カマド遺物出土状況
 第135号住居跡 第136号住居跡
- 図版22 第137号住居跡
 第138号住居跡遺物出土状況
 第138号住居跡
 第139号住居跡カマド遺物出土状況
 第139号住居跡遺物出土状況
 第139号住居跡
 第140号住居跡カマド出土状況
 第140号住居跡
- 図版23 第141号住居跡遺物出土状況
 第141号住居跡
 第144号住居跡カマド遺物出土状況
 第144号住居跡遺物出土状況
 第144号住居跡 第147号住居跡
 第148号住居跡カマド 第148号住居跡
- 図版24 第150号住居跡カマド 第150号住居跡
 第151号住居跡カマド 第151号住居跡
 第152号住居跡カマド 第152号住居跡
 第156号住居跡 第157号住居跡カマド
- 図版25 第157号住居跡 第158号住居跡
 第159号住居跡 第161号住居跡
 第162号住居跡 第164号住居跡カマド
 第164号住居跡 第165号住居跡カマド
- 図版26 第165号住居跡
 第166号住居跡遺物出土状況
 第166号住居跡 第167号住居跡
 第168号住居跡カマド遺物出土状況
 第168号住居跡
- 図版27 第169号住居跡
 第170号住居跡カマド遺物出土状況
 第170号住居跡 第171号住居跡
 第172号住居跡

	第173号住居跡カマド遺物出土状況		第238号住居跡カマド遺物出土状況
	第173号住居跡		第238号住居跡 第239号住居跡
	第174号住居跡・第240号土坑		第239・260号住居跡カマド
図版28	第175号住居跡 第176号住居跡	図版35	第241号住居跡 第242・243号住居跡
	第178号住居跡 第179号住居跡		第244号住居跡 第246号住居跡
	第180号住居跡		第249号住居跡カマド遺物出土状況
	第181号住居跡カマド遺物出土状況		第249号住居跡 第251号住居跡
	第181号住居跡		第254号住居跡カマド遺物出土状況
	第182号住居跡カマド遺物出土状況	図版36	第254号住居跡 第255号住居跡
図版29	第182号住居跡 第183号住居跡		第256号住居跡 第257号住居跡
	第184号住居跡		第258号住居跡 第262号住居跡
	第185号住居跡カマド遺物出土状況		第264号住居跡 第277号住居跡
	第185号住居跡 第186号住居跡	図版37	第1号再葬墓出土遺物
	第187号住居跡 第189号住居跡		第2a号再葬墓出土遺物
図版30	第190号住居跡		第2b号再葬墓出土遺物
	第191号住居跡カマド遺物出土状況		第4号再葬墓出土遺物
	第191号住居跡 第192号住居跡	図版38	第1号再葬墓出土遺物
	第195号住居跡 第196号住居跡		第2a号再葬墓出土遺物
	第196・197号住居跡 第197号住居跡		第2b号再葬墓出土遺物
図版31	第198号住居跡 第200号住居跡		第5号再葬墓出土遺物
	第203号住居跡カマド遺物出土状況	図版39	第3号再葬墓出土遺物
	第203号住居跡 第204号住居跡		第510・511号土坑出土遺物
	第205号住居跡カマド 第205号住居跡	図版40	第1集中区出土遺物
	第210号住居跡	図版41	第2集中区出土遺物
図版32	第211号住居跡 第213号住居跡	図版42	第3集中区出土遺物(1)
	第214号住居跡 第215号住居跡	図版43	第3集中区出土遺物(1)(2)
	第216号住居跡 第217号住居跡		第3周中区出土遺物(2)
	第218号住居跡古銭出土状況	図版44	第4集中区出土遺物(1)
	第219号住居跡	図版45	第4集中区出土遺物(2)
図版33	第223号住居跡カマド遺物出土状況	図版46	第5集中区出土遺物(1)
	第223号住居跡	図版47	第5集中区出土遺物(1)(2)
	第223・224・225号住居跡		第5集中区出土遺物(2)
	第224号住居跡 第225号住居跡	図版48	第5集中区出土遺物(2)(3)
	第227号住居跡 第228号住居跡		グリッド出土遺物(1)
	第230号住居跡	図版49	グリッド出土遺物(1)
図版34	第232号住居跡 第234号住居跡		グリッド出土遺物(2)
	第236号住居跡 第237号住居跡	図版50	グリッド出土遺物(2)

	グリッド出土遺物 (3)	第67号住居跡出土遺物
図版51	グリッド出土遺物 (3)	第68号住居跡出土遺物
	グリッド出土遺物 (4)	第70号住居跡出土遺物
図版52	グリッド出土石器 (1)(2)	第71号住居跡出土遺物
図版53	第2号住居跡出土遺物	第76号住居跡出土遺物
	第4号住居跡出土遺物	図版62 第80号住居跡出土遺物
	第5号住居跡出土遺物	第82号住居跡出土遺物
	第12号住居跡出土遺物	第85号住居跡出土遺物
	第14号住居跡出土遺物	第90号住居跡出土遺物
図版54	第17号住居跡出土遺物	第91号住居跡出土遺物
	第20号住居跡出土遺物	図版63 第92号住居跡出土遺物
	第21号住居跡出土遺物	第93号住居跡出土遺物
	第22号住居跡出土遺物	第94号住居跡出土遺物
	第23号住居跡出土遺物	第96号住居跡出土遺物
	第24号住居跡出土遺物	図版64 第96号住居跡出土遺物
図版55	第24号住居跡出土遺物	第98号住居跡出土遺物
	第26号住居跡出土遺物	第100号住居跡出土遺物
	第28号住居跡出土遺物	図版65 第101号住居跡出土遺物
図版56	第28号住居跡出土遺物	第102号住居跡出土遺物
	第30号住居跡出土遺物	第103号住居跡出土遺物
	第33号住居跡出土遺物	図版66 第103号住居跡出土遺物
	第35a号住居跡出土遺物	第107号住居跡出土遺物
図版57	第35a号住居跡出土遺物	第111号住居跡出土遺物
図版58	第35a号住居跡出土遺物	第115号住居跡出土遺物
	第35b号住居跡出土遺物	第117号住居跡出土遺物
	第36号住居跡出土遺物	図版67 第115号住居跡出土遺物
	第37号住居跡出土遺物	第117号住居跡出土遺物
図版59	第37号住居跡出土遺物	第120号住居跡出土遺物
	第38号住居跡出土遺物	図版68 第120号住居跡出土遺物
	第42号住居跡出土遺物	第122号住居跡出土遺物
	第48号住居跡出土遺物	第123号住居跡出土遺物
図版60	第48号住居跡出土遺物	図版69 第125号住居跡出土遺物
	第49号住居跡出土遺物	第128号住居跡出土遺物
	第53号住居跡出土遺物	第130号住居跡出土遺物
	第54号住居跡出土遺物	図版70 第129号住居跡出土遺物
	第59号住居跡出土遺物	第132号住居跡出土遺物
図版61	第63号住居跡出土遺物	第134号住居跡出土遺物

- | | | | |
|------|-----------------------|------|--------------|
| | 第136号住居跡出土遺物 | | 第189号住居跡出土遺物 |
| | 第137号住居跡出土遺物 | 図版81 | 第190号住居跡出土遺物 |
| | 第138号住居跡出土遺物 | | 第191号住居跡出土遺物 |
| 図版71 | 第140号住居跡出土遺物 | | 第194号住居跡出土遺物 |
| | 第143号住居跡出土遺物 | | 第195号住居跡出土遺物 |
| | 第144号住居跡出土遺物 | | 第196号住居跡出土遺物 |
| | 第146号住居跡出土遺物 | 図版82 | 第196号住居跡出土遺物 |
| 図版72 | 第148号住居跡出土遺物 | | 第197号住居跡出土遺物 |
| | 第149号住居跡出土遺物 | | 第199号住居跡出土遺物 |
| | 第150号住居跡出土遺物 | | 第201号住居跡出土遺物 |
| | 第151号住居跡出土遺物 | 図版83 | 第201号住居跡出土遺物 |
| | 第152号住居跡出土遺物 | | 第203号住居跡出土遺物 |
| 図版73 | 第152号住居跡出土遺物 | | 第207号住居跡出土遺物 |
| | 第161号住居跡出土遺物 | 図版84 | 第209号住居跡出土遺物 |
| | 第162号住居跡出土遺物 | | 第210号住居跡出土遺物 |
| | 第165号住居跡出土遺物 | | 第210号住居跡出土遺物 |
| | 第166号住居跡出土遺物 | | 第211号住居跡出土遺物 |
| 図版74 | 第166号住居跡出土遺物 | | 第213号住居跡出土遺物 |
| 図版75 | 第166号住居跡出土遺物 | 図版85 | 第214号住居跡出土遺物 |
| 図版76 | 第166号住居跡出土遺物 | | 第215号住居跡出土遺物 |
| 図版77 | 第166号住居跡出土遺物 | | 第216号住居跡出土遺物 |
| | 第167号住居跡出土遺物 | | 第219号住居跡出土遺物 |
| | 第168号住居跡出土遺物 | | 第223号住居跡出土遺物 |
| | 第169号住居跡出土遺物 | | 第224号住居跡出土遺物 |
| 図版78 | 第169号住居跡出土遺物 | 図版86 | 第224号住居跡出土遺物 |
| | 第170号住居跡出土遺物 | | 第227号住居跡出土遺物 |
| | 第171号住居跡出土遺物 | | 第231号住居跡出土遺物 |
| | 第173号住居跡出土遺物 | | 第233号住居跡出土遺物 |
| 図版79 | 第173号住居跡出土遺物 | | 第235号住居跡出土遺物 |
| | 第174号住居跡出土遺物 | | 第237号住居跡出土遺物 |
| | 第179号住居跡出土遺物 | 図版87 | 第237号住居跡出土遺物 |
| | 第180号住居跡出土遺物 | | 第238号住居跡出土遺物 |
| | 第181号住居跡出土遺物 | | 第239号住居跡出土遺物 |
| | 第182号住居跡出土遺物 | 図版88 | 第239号住居跡出土遺物 |
| | 第184号住居跡出土遺物 | | 第244号住居跡出土遺物 |
| 図版66 | 第186号住居跡出土遺物 | 図版89 | 第244号住居跡出土遺物 |
| | 第187号住居跡・第218号住居跡出土古銭 | | 第246号住居跡出土遺物 |

- | | | | |
|------|------------------|------|--------------|
| | 第247号住居跡出土遺物 | | 第63号住居跡出土遺物 |
| | 第248号住居跡出土遺物 | | 第103号住居跡出土遺物 |
| | 第249号住居跡出土遺物 | | 第133号住居跡出土遺物 |
| 図版90 | 第251号住居跡出土遺物 | 図版93 | 第148号住居跡出土遺物 |
| | 第252号住居跡出土遺物 | | 第168号住居跡出土遺物 |
| | 第254号住居跡出土遺物 | | 第200号住居跡出土遺物 |
| | 第260号住居跡出土遺物 | | 第223号住居跡出土遺物 |
| | 第262号住居跡出土遺物 | | 第228号住居跡出土遺物 |
| 図版91 | 第262号住居跡出土遺物 | 図版94 | 第236号住居跡出土遺物 |
| | 第263号住居跡出土遺物 | | 第238号住居跡出土遺物 |
| | 第264号住居跡出土遺物 | | 第244号住居跡出土遺物 |
| | 第269号住居跡出土遺物 | | 第256号住居跡出土遺物 |
| | 第271・272号住居跡出土遺物 | | 第260号住居跡出土遺物 |
| | 第274・275号住居跡出土遺物 | 図版95 | 第59号住居跡出土遺物 |
| | 第277号住居跡出土遺物 | | 第93号住居跡出土遺物 |
| 図版92 | 第4号住居跡出土遺物 | | 第96号住居跡出土遺物 |
| | 第28号住居跡出土遺物 | 図版96 | 第120号住居跡出土遺物 |
| | 第48号住居跡出土遺物 | | |

I 発掘調査の概要

1. 発掘調査に至る経過

埼玉県では、自然環境の保全、生活環境の整備に配慮しつつ、県土の調和と均衡ある発展を目指して基盤整備を進めるため、各種の施策を実施している。

その一環として、県企業局では、工場誘致と適切な工場配置のため、妻沼町大字永井太田及び大字飯塚地内で妻沼西部工業団地の造成を計画した。

埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課では、これら県が実施する公共開発事業に係る文化財の保護について、従前より関係部局と事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

妻沼西部工業団地造成に係る埋蔵文化財の所在及び取扱いについて、県企業局土地造成課長（当時）から文化財保護課長あて照会があったため、文化財保護課では、平成9年2月3日から同7日にかけて約54haを対象に試掘による確認調査を実施した。

確認調査の結果、事業地内に飯塚北遺跡（遺跡No.61-042）及び飯塚古墳群（遺跡No.61-081）の所在が確認されたため、文化財保護課長からはその所在に加えて、取り扱いとして、「埋蔵文化財については現状で保存することが望ましいが、やむを得ず現状を変更する場合には、事前に記録保存のための発掘調査を実施すること」、「発掘調査の実施については文化財保護課と協議すること」を回答した。

これを受けて、県企業局土地造成課（当時）と文化財保護課は、「現状保存が望ましい」という基本的な考え方に基づいて、飯塚北遺跡及び飯塚古墳群の埋蔵文化財の保護に係る協議を行った。

その結果、工業団地の周辺緑地帯部分において一部埋蔵文化財を現状保存することができたが、他の部分については工事計画の変更が困難であったため、やむを得ず記録保存のための発掘調査を実施することになった。また、発掘調査については、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施することになった。

文化財保護法第57条の3第1項の規定による埼玉県知事からの発掘の通知は平成9年4月1日付け企局土第13号で提出され、それに対する埼玉県教育委員会教育長からの勧告は、平成9年4月25日付け教文第3-63号及び教文第3-64号で行った。

発掘調査は、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団により平成9～11年度に実施された。なお、飯塚古墳群については、造成計画の一部変更により平成15年度にも発掘調査が行われた。

文化財保護法第57条第1項の規定による財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長からの発掘調査の届出に対する埼玉県教育委員会教育長からの指示通知については以下のとおりである。

[平成9年度]

飯塚北遺跡

平成9年4月25日付け教文第2-7号

飯塚古墳群

平成9年4月25日付け教文第2-8号

[平成10年度]

飯塚北遺跡

平成10年4月24日付け教文第2-3号

飯塚古墳群

平成10年4月24日付け教文第2-2号

[平成11年度]

飯塚北遺跡

平成11年4月14日付け教文第2-3号

[平成15年度]

飯塚古墳群

平成15年11月11日付け教文第2-56号

(埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課)

2. 発掘調査・報告書作成の経過

発掘調査

発掘調査は、平成9年4月1日から平成10年3月31日までと平成10年10月1日から平成11年8月31日まで、中断を挟んで調査を実施した。調査面積は10,000㎡で、下面の調査が3,500㎡増加した。

平成9年4月から、事務手続きなどの準備を行い、同時に事務所としてプレハブの設置、器材運搬等の発掘準備と重機による表土除去作業を行った。

表土除去終了後、備前渠に沿った東西外周道路と、そこから北へ延びる南北外周道路及び緑地帯を挟んだ北側の造成地の一部の遺構確認を行い遺構精査に着手した。遺構ごとに精査し、遺構内の土層堆積状態の観察と実測をし、遺物出土状況・遺構全体の実測・写真撮影の記録保存を行った。調査の結果、平安時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡・木棺墓・土坑や中世の井戸・火葬跡・掘立柱建物跡・溝跡等が検出された。調査の段階で、遺構の床面や壁面から他の遺構が確認され、平安時代の遺構が2層に分れることが明らかとなった。

遺構が2層に分かれることから、東西外周道路と南北外周道路計画地の一部については上層面調査終了後空中写真撮影を行った。再度掘削を行い、下面の遺構確認調査をした。その結果、竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・溝跡を多数検出した。

平成10年4月から事務手続きを行い、昨年度からの継続調査を行った。東西外周道路と南北外周道路の確認調査を終了した部分から遺構の精査を行った。また、外周道路の下面調査終了後緑地帯北側の調査に着手し上面の調査終了後掘削を行い、下面の調査を行った。調査の結果、弥生時代中期の遺物包含層と再葬墓、奈良・平安時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑・溝跡・井戸・火葬跡・柵列、中世の土坑・溝・井戸・火葬跡が検出された。

平成11年4月から、事務手続きなどを行い、昨年度掘削した下面の遺構確認をし、遺構精査を行った。同じように遺構ごとに精査・記録を行った。調

査の結果、弥生時代の再葬墓、平安時代の竪穴住跡・掘立柱建物跡・土坑・井戸が検出された。8月は遺構清掃後、空中写真撮影を行った。発掘器材・発掘事務所の撤収と埋め戻し作業を行った。

整理・報告書作成

整理・報告書作成は、平成12年4月10日から平成13年3月23日、平成13年11月1日から平成14年3月22日、平成14年4月8日から平成14年8月31日、平成15年4月8日から平成15年8月31日、平成16年4月8日から平成17年3月24日までの5年に亘り断続的に実施した。

平成12年度は備前渠に沿った東西外周道路と西端の南北の外周道路部分の整理作業を行った。4月から遺物の水洗・註記および接合・復元を行い、終了したものから順次実測作業を行った。遺構図の図面整理は、遺構ごとに平面図・断面図・遺物出土状態の図を編集する作業から行った。編集したものは第2原図として説明文を組み合わせた版下を作成した。データ編集としては第二原図作成終了後、遺構計測データ処理を行い、計測表等の作成をし、また遺構ごとに土層注記の入力を行った。

平成13年度は、昨年度の整理範囲の東側、緑地帯に接した北側部分の整理作業を行った。昨年度と同様に遺構ごとに、遺物の水洗・註記および接合・復元、遺物実測作業を行った。遺構図は編集を行い、第2原図を作成し、スキャナーでパソコン内に取り込み遺構図のトレースを行った。遺構図にはパソコン内で諸記号・数字・スケール・土層説明等の貼りこみを行い完成させた。データ編集は土層注記の入力を行った。

平成14年度は、昨年度整理範囲の北側部分を昨年と同様に整理作業を行った。

平成15年度は、平成13年度に行った範囲の下面を昨年度と同様に整理作業を行った。

平成16年度は、平成14年度に行った範囲の下面を昨年度と同様に整理作業を行った。また、平成12年度から平成16年度で整理した竪穴住居跡出土遺物は遺物観察表作成のデータ処理を行い、遺物観察表を作成した。遺物で図示し切れない部分等は拓影を採り、実測図を製図ペンで墨入れしたものと組み合わせて版組し、番号・スケールなどの貼り込みをして、遺物図版を作成した。また、復元した遺物は1点ごとに写真撮影を行った。

写真図版は、調査時に撮影した写真を選択し、遺物写真とともにトリミング等を行った。

原稿執筆終了後、原稿・遺構図・遺物図・遺物観察表と写真を用い報告書の割付を行った。更に、遺構図は印刷できるようにデータ処理をした。

図面類・写真類・遺物等を整理・分類し、収納作業を行った。報告書印刷用原稿等の入稿後3回の校正を経て、3月下旬に報告書を刊行した。

3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織

主体者 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

発掘調査 (平成9～11年度)

平成9年度

理 事 長	荒 井 桂
副 理 事 長	富 田 真 也
専 務 理 事	塩 野 博
常務理事兼管理部長	稲 葉 文 夫
管理 部	
庶 務 課 長	依 田 透
主 査	西 沢 信 行
主 任	長 滝 美 智 子
主 任	腰 塚 雄 二
専門調査員兼経理課長	関 野 栄 一
主 任	江 田 和 美
主 任	福 田 昭 美
主 任	菊 池 久
調 査 部	
理 事 兼 調 査 部 長	梅 沢 太 久 夫
調 査 部 副 部 長	今 泉 泰 之
調 査 第 四 課 長	鈴 木 秀 雄
主 査	利 根 川 章 彦
主 査	川 島 健
主 任 調 査 員	山 本 禎
主 任 調 査 員	細 田 勝
主 任 調 査 員	書 上 元 博
主 任 調 査 員	岩 田 明 広
調 査 員	大 谷 宏 治

平成10年度

理 事 長	荒 井 桂
副 理 事 長	飯 塚 誠 一 郎
常務理事兼管理部長	鈴 木 進
管理 部	
庶 務 課 長	金 子 隆
主 査	田 中 裕 二
主 任	長 滝 美 智 子
主 任	腰 塚 雄 二
専門調査員兼経理課長	関 野 栄 一
主 任	江 田 和 美
主 任	福 田 昭 美
主 任	菊 池 久
調 査 部	
調 査 部 長	谷 井 彪
調 査 部 副 部 長	水 村 孝 行
調 査 第 四 課 長	鈴 木 秀 雄
統 括 調 査 員	細 田 勝
統 括 調 査 員	川 島 健
主 任 調 査 員	岩 瀬 讓
主 任 調 査 員	吉 田 稔
主 任 調 査 員	末 木 啓 介

平成11年度

理 事 長 荒 井 桂
 副 理 事 長 飯 塚 誠一郎
 常務理事兼管理部長 広 木 卓
 管理副部長兼経理課長 関 野 栄 一
 管理部庶務課
 庶 務 課 長 金 子 隆
 主 査 田 中 裕 二
 主 任 江 田 和 美
 主 任 長 滝 美智子
 管理部経理課
 主 任 福 田 昭 美
 主 任 腰 塚 雄 二
 主 任 菊 池 久
 調査部
 調 査 部 長 増 田 逸 郎
 調 査 部 副 部 長 水 村 孝 行
 主席調査員 (調査第四担当) 杉 崎 茂 樹
 統 括 調 査 員 細 田 勝
 主 任 調 査 員 村 田 章 人

整理事業 (平成12～16年度)

平成12年度

理 事 長 中 野 健 一
 副 理 事 長 飯 塚 誠一郎
 常務理事兼管理部長 広 木 卓
 管理部
 管 理 副 部 長 関 野 栄 一
 主 席 (庶務担当) 阿 部 正 浩
 主 席 (施設担当) 野 中 廣 幸
 主 任 菊 池 久
 主 席 (経理担当) 江 田 和 美
 主 任 長 滝 美智子
 主 任 福 田 昭 美
 主 任 腰 塚 雄 二
 調査部
 調 査 部 長 高 橋 一 夫
 調査部資料副部長 鈴 木 敏 昭
 主席調査員 (資料整理担当) 磯 崎 一
 統 括 調 査 員 細 田 勝

平成13年度

理 事 長 中 野 健 一
 副 理 事 長 飯 塚 誠一郎
 常務理事兼管理部長 大 舘 健
 管理部
 管 理 幹 持 田 紀 男
 主 任 菊 池 久
 主 任 江 田 和 美
 主 任 長 滝 美智子
 主 任 福 田 昭 美
 主 任 腰 塚 雄 二
 調査部
 調 査 部 長 高 橋 一 夫
 調 査 部 副 部 長 坂 野 和 信
 主席調査員 (資料整理担当) 磯 崎 一
 統 括 調 査 員 細 田 勝

平成14年度

理 事 長 桐 川 卓 雄
 副 理 事 長 飯 塚 誠一郎
 常務理事兼管理部長 大 舘 健
 管理部
 管 理 幹 持 田 紀 男
 主 任 江 田 和 美
 主 任 長 滝 美智子
 主 任 福 田 昭 美
 主 任 腰 塚 雄 二
 主 任 菊 池 久
 調査部
 調 査 部 長 高 橋 一 夫
 調 査 部 副 部 長 坂 野 和 信
 主席調査員 (資料整理担当) 磯 崎 一
 主 任 調 査 員 福 田 聖

平成 15 年度

理 事 長 桐 川 卓 雄
副 理 事 長 飯 塚 誠 一 郎
常務理事兼管理部長 中 村 英 樹
管理部
管 理 部 副 部 長 村 田 健 二
主 席 田 中 由 夫
主 任 江 田 和 美
主 任 長 滝 美 智 子
主 任 福 田 昭 美
主 任 腰 塚 雄 二
主 任 菊 池 久
調査部
調 査 部 長 宮 崎 朝 雄
調 査 部 副 部 長 坂 野 和 信
主席調査員 (資料整理担当) 金 子 直 行
統 括 調 査 員 細 田 勝

平成 16 年度

理 事 長 福 田 陽 充
副 理 事 長 飯 塚 誠 一 郎
常務理事兼管理部長 中 村 英 樹
管理部
管 理 部 副 部 長 村 田 健 二
主 席 田 中 由 夫
主 任 長 滝 美 智 子
主 任 福 田 昭 美
主 任 菊 池 久
主 事 海 老 名 健
主 事 石 原 良 子
調査部
調 査 部 長 宮 崎 朝 雄
調 査 部 副 部 長 坂 野 和 信
主席調査員 (資料整理担当) 磯 崎 一
統 括 調 査 員 山 本 禎

II 遺跡の立地と環境

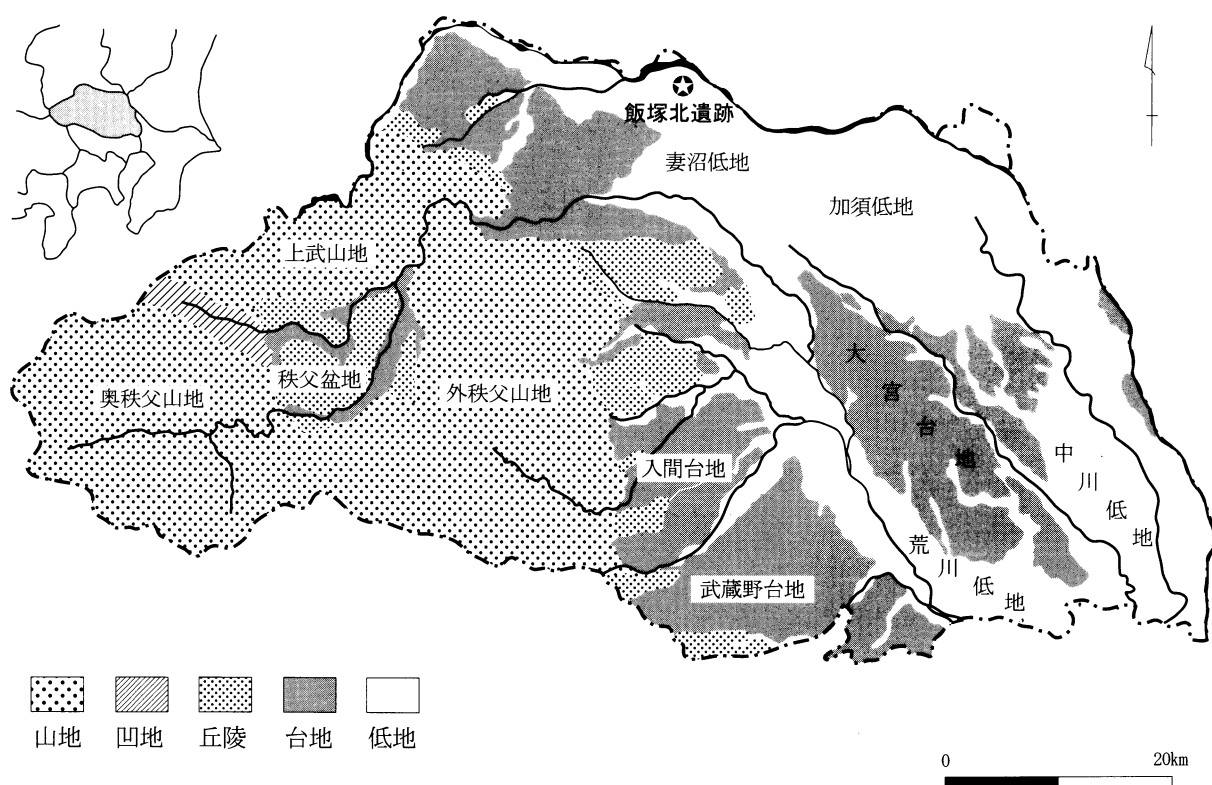
埼玉県北部の群馬県との境となる利根川右岸の周辺部一帯は、利根川及び利根川の支流によって形成された自然堤防とその背後地からなる低地帯で、妻沼低地と呼称されている。妻沼町域は、西から東に向かい高さを減じながら傾斜している。地形的には、福川と奈良川との間に形成された南側の微高地、芝川と福川の間の中部微高地、芝川と利根川の間形成された北側の台地に大別できる。

飯塚北遺跡は、大里郡妻沼町大字永井太田1,531番地他に所在し、利根川の南方約2kmの微高地上に位置する。この微高地はかつての利根川の支流によって形成された自然堤防で、標高29.4～30.8mを測り、南から北東方向に緩やかに傾斜している。

旧石器から縄文時代の遺跡は極めて少ないが、縄文時代に入ると櫛引台地上と妻沼低地にも遺跡がみられる。妻沼低地の寺東遺跡では、前期関山式土器

が検出され、櫛引台地上の三ヶ尻遺跡群内では前期黒浜期の集落と中期から後半の集落が検出されている。中期末葉から後期になると櫛引台地上の深谷町遺跡や妻沼低地の本郷前東遺跡・原遺跡・上敷免遺跡・前遺跡・諏訪木遺跡・寺東遺跡・石田遺跡などがある。縄文晩期になると妻沼低地では前述のこれらの遺跡を継承した位置に集落が営まれる。諏訪木遺跡では、後期から晩期の遺構や包含層が検出されている。このように縄文時代後期から自然堤防上へ生活の拠点を展開していった状況が窺える。

弥生時代に入ると縄文時代の遺跡立地を踏襲する形で自然堤防上の遺跡が多くなる。北島遺跡では前期末の土壌が検出され、後期にかけて遺構が検出された。中期では、飯塚北遺跡・飯塚遺跡・飯塚南遺跡・横間栗遺跡・宮ヶ谷戸遺跡・明戸東遺跡・上敷免遺跡・池上遺跡・小敷田遺跡・北島遺跡の他、荒



第1図 埼玉県の地形

川扇状地の扇端部に位置する平戸遺跡、荒川左岸の段丘上の舌状台地の先端に位置する三ヶ尻上古遺跡、妻沼低地を望む櫛引台地の舌状台地端部に位置する用土平遺跡、櫛引台地の西北端に位置する四十坂遺跡などがあげられる。飯塚遺跡・三ヶ尻上古遺跡では土壇墓、飯塚南遺跡では、竪穴住居跡・埋設土器が検出された。飯塚北遺跡では再葬墓・土坑墓・土坑、横間栗遺跡では、再葬墓・土坑が検出された。上敷免遺跡からは、再葬墓が検出され、用土平遺跡では、竪穴住居が検出されている。後期には熊谷市東沢遺跡、行田市池森遺跡・小敷田遺跡・明戸東遺跡から吉ヶ谷式土器が出土している他、弥藤吾新田遺跡では、南関東系の弥生町式土器が出土している。

古墳時代には、古墳・集落ともに台地ばかりでなく低地部の自然堤防上の微高地に進出する傾向が窺える。前期には、起会遺跡・森下遺跡・本郷前東遺跡・明戸東遺跡・宮ヶ谷戸遺跡・東川端遺跡・清水上遺跡・根絡遺跡・横間栗遺跡・東別府条里遺跡・弥藤吾新田遺跡、鶴森遺跡、上江袋遺跡・一本木前遺跡があげられる。

集落が大規模に展開するのは和泉式土器後半の段階からで、原遺跡・東川端遺跡・新屋敷東遺跡・本郷前東遺跡・上敷免遺跡・砂田遺跡・居立遺跡・城北遺跡・柳町遺跡・妻沼小学校内遺跡・鶴森入胎遺跡・飯塚南遺跡・道ヶ谷戸遺跡・弥藤吾遺跡・北島遺跡・小敷田遺跡・一本木前遺跡などがある。

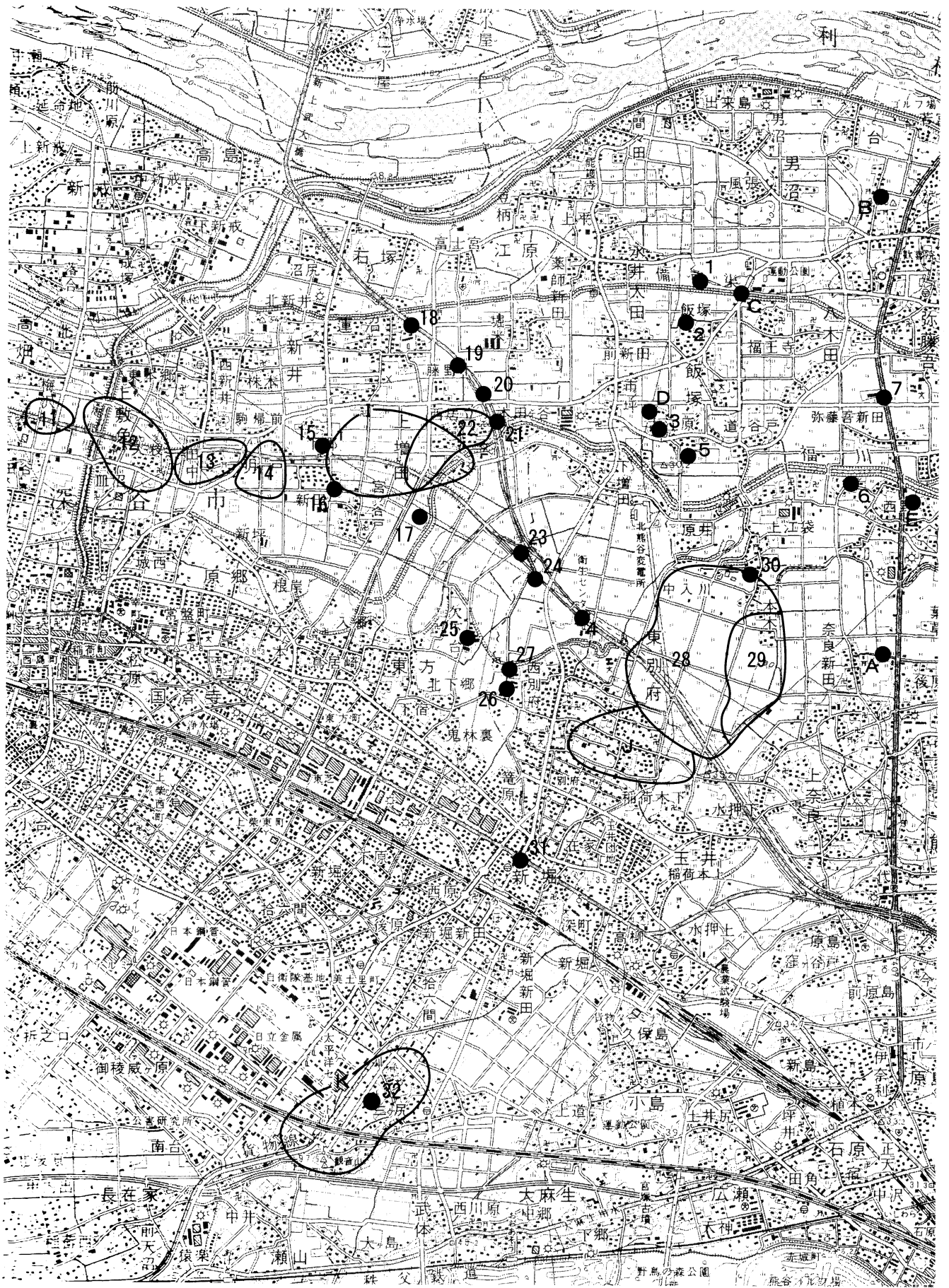
古墳時代後期になると、妻沼低地では別府・奈良地域の拠点として250軒以上の住居跡が検出されている一本木前遺跡を初めとして、根絡遺跡・天神下遺跡・砂田遺跡・柳町遺跡・上敷免北遺跡・新屋敷東遺跡・本郷前東遺跡・宮ヶ谷戸遺跡・原遺跡・城北遺跡・八日市場前遺跡・東川端遺跡・清水上遺跡・飯塚南遺跡・道ヶ谷戸遺跡と爆発的に拡大する。中条地域の拠点として北島遺跡は前期から規模を拡大し、周囲には諏訪木遺跡などがあり平安時代にかけて水辺祭祀が行われている。

古墳は中期後半、B種横刷毛の朝顔形円筒埴輪を

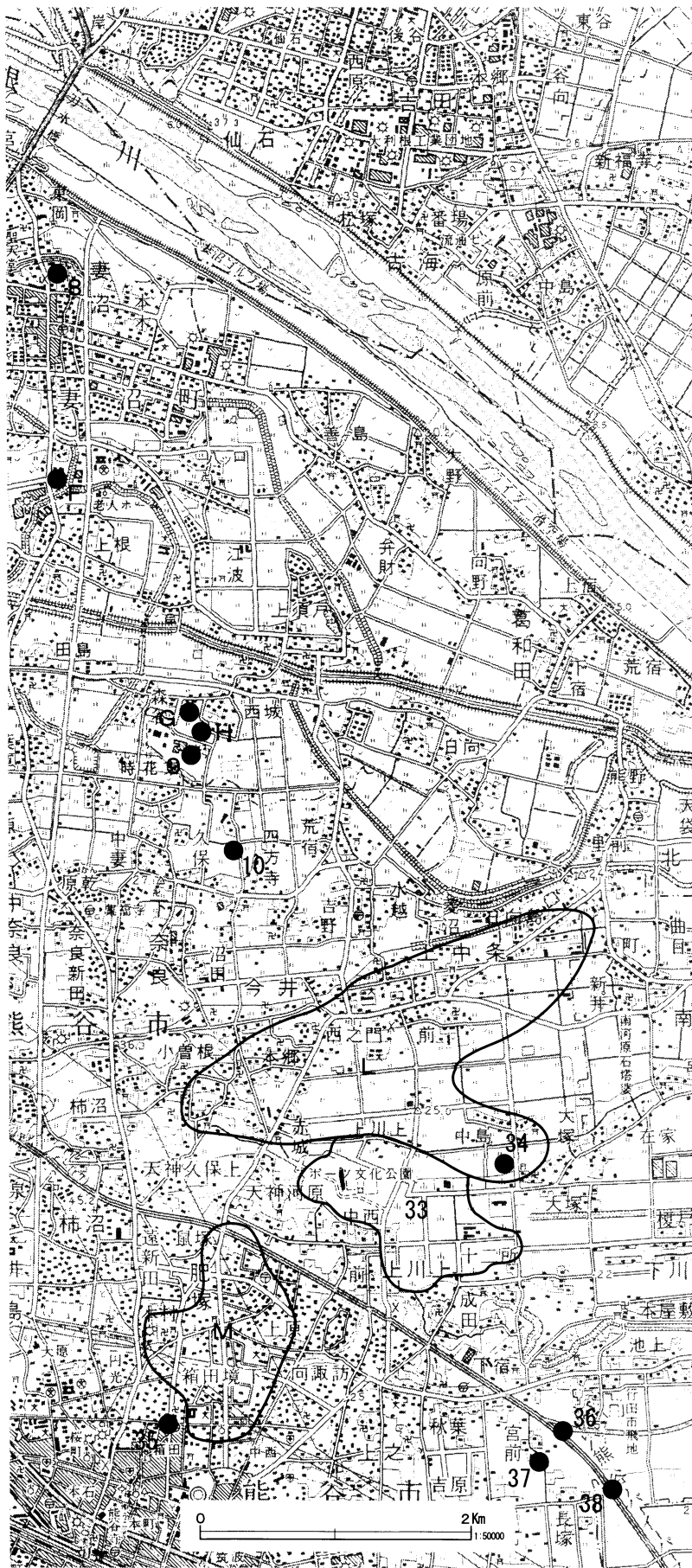
もつ前方後円墳の横塚山古墳を緒源とし、円墳の摩多利神社古墳、飯塚古墳群の他に上江袋遺跡・入胎遺跡・上増田古墳群・中条古墳群がある。櫛引台地縁辺部の三ヶ尻古墳群は埴輪を有するものと有しない古墳があり、やねや塚古墳からは全周する円筒埴輪列のほか形象埴輪が検出されている。また、肥塚古墳群では川原石乱石積みと角閃石安山岩切組積みの2種類の胴張り横穴式石室が確認されている。

古代に入ると規模の拡大と官衙関連施設を想定させる特定集落が発見されている。幡羅遺跡では総柱の倉庫群が発見され幡羅郡衙の正倉域と考えられ、西別府廃寺は幡羅郡の郡寺と想定されている。西別府祭祀遺跡は県内でもほとんど類例のない遺跡で、奈良時代を中心とした古墳時代後期から平安時代までの水辺の祭祀遺跡である。これらとともに一本木遺跡を含めた別府条里や北島遺跡・諏訪木遺跡を中心とした中条条里が展開している。また、小敷田遺跡では7世紀末から8世紀初頭にかかる出拳木簡が出土した他、池上遺跡では9世紀代の企画性のある掘立柱建物跡群が検出されている。諏訪木遺跡では区画性のある集落と大型掘立柱建物跡が発見され特殊な様相を示している。

集落は、古墳時代後半に自然堤防上の微高地に形成された多くが奈良・平安時代へと継続されていく。新屋敷東遺跡・明戸東遺跡は、竪穴住居主体に掘立柱建物跡で構成された集落である。他に柳町遺跡・東川端遺跡・清水上遺跡・根絡遺跡・道ヶ谷戸条里・上江袋遺跡・飯塚南遺跡・鶴森入胎遺跡・弥藤吾新田遺跡・上敷免遺跡・一本木前遺跡・籠原裏遺跡等がある。



第2図 周辺の遺跡



- | | |
|------------|-------------|
| 1 飯塚北遺跡 | A 横塚山古墳 |
| 2 飯塚遺跡 | B 摩多利神社古墳 |
| 3 飯塚南遺跡 | C 飯塚古墳群 |
| 4 横間栗遺跡 | D 妻沼No.6古墳 |
| 5 道ヶ谷戸条里 | E 妻沼No.12古墳 |
| 6 上江袋遺跡 | F 王子古墳 |
| 7 弥藤吾新田遺跡 | G 西城古墳 |
| 8 妻沼小学校内遺跡 | H 妻沼No.19古墳 |
| 9 鷯森・入胎遺跡 | I 上増田古墳群 |
| 10 長安寺北遺跡 | J 別府古墳群 |
| 11 森下遺跡 | K 三ヶ尻古墳群 |
| 12 上敷免遺跡 | L 中条古墳群 |
| 13 本郷前東遺跡 | M 肥塚古墳群 |
| 14 新屋敷東遺跡 | |
| 15 明戸東遺跡 | |
| 16 宮ヶ谷戸遺跡 | |
| 17 東川端遺跡 | |
| 18 砂田遺跡 | |
| 19 柳町遺跡 | |
| 20 城北遺跡 | |
| 21 居立遺跡 | |
| 22 原遺跡 | |
| 23 清水上遺跡 | |
| 24 根絡遺跡 | |
| 25 幡羅遺跡 | |
| 26 西別府廃寺 | |
| 27 西別府祭祀遺跡 | |
| 28 別府条里遺跡 | |
| 29 一本木遺跡 | |
| 30 前遺跡 | |
| 31 籠原裏遺跡 | |
| 32 三ヶ尻上古遺跡 | |
| 33 北島遺跡 | |
| 34 田谷遺跡 | |
| 35 深谷町遺跡 | |
| 36 池上遺跡 | |
| 37 諏訪木遺跡 | |
| 38 小敷田遺跡 | |

Ⅲ 遺跡の概要

飯塚北遺跡は、妻沼低地内の自然堤防上に立地し、利根川が東流から南東流する変換点付近の南約2kmに位置する。遺跡の北側は低地で、西から南西部が自然堤防の僅かな高まりがみられる。調査区部分は遺跡範囲の東限にあたり、北東側は低地となっている。

遺跡は、弥生時代中期と奈良・平安時代から中世に亘る遺跡である。文化層は2面確認され弥生時代と奈良・平安時代以降とに分かれ、平安時代の住居跡も上下2面で検出されたものもあった。利根川の氾濫などで埋没した後再び集落が構築されたと推定される。

遺構は調査区北西部と南東部以外は遺構が重複して検出され、調査区中央西部は特に遺構の重複が激しい。調査区外への集落は南西へと広がっていくと推定される。

検出された遺構は、弥生時代の再葬墓3基・土壙墓6基・土坑2基の他、縄文の石器も一部含む弥生の土器集中区が5箇所検出された。

古墳時代の土器は数点出土しているが遺構は確認されていない。

また、奈良時代の竪穴住居跡43軒、掘立柱建物跡5棟、平安時代の竪穴住居跡262軒、掘立柱建物跡33棟、木棺墓1基、土坑984基、井戸41基、溝

99条等である。土坑・井戸跡・溝跡はほとんどが住居跡を切って構築されおり、住居跡以降の平安時代以降のものがほとんどである。

出土遺物は、土坑から縄文時代の土器片が若干出土したのみであるが、遺構に伴うものではなく土坑内に混入したものである。遺構以外からは土器・石鏃や打製石斧が出土している。

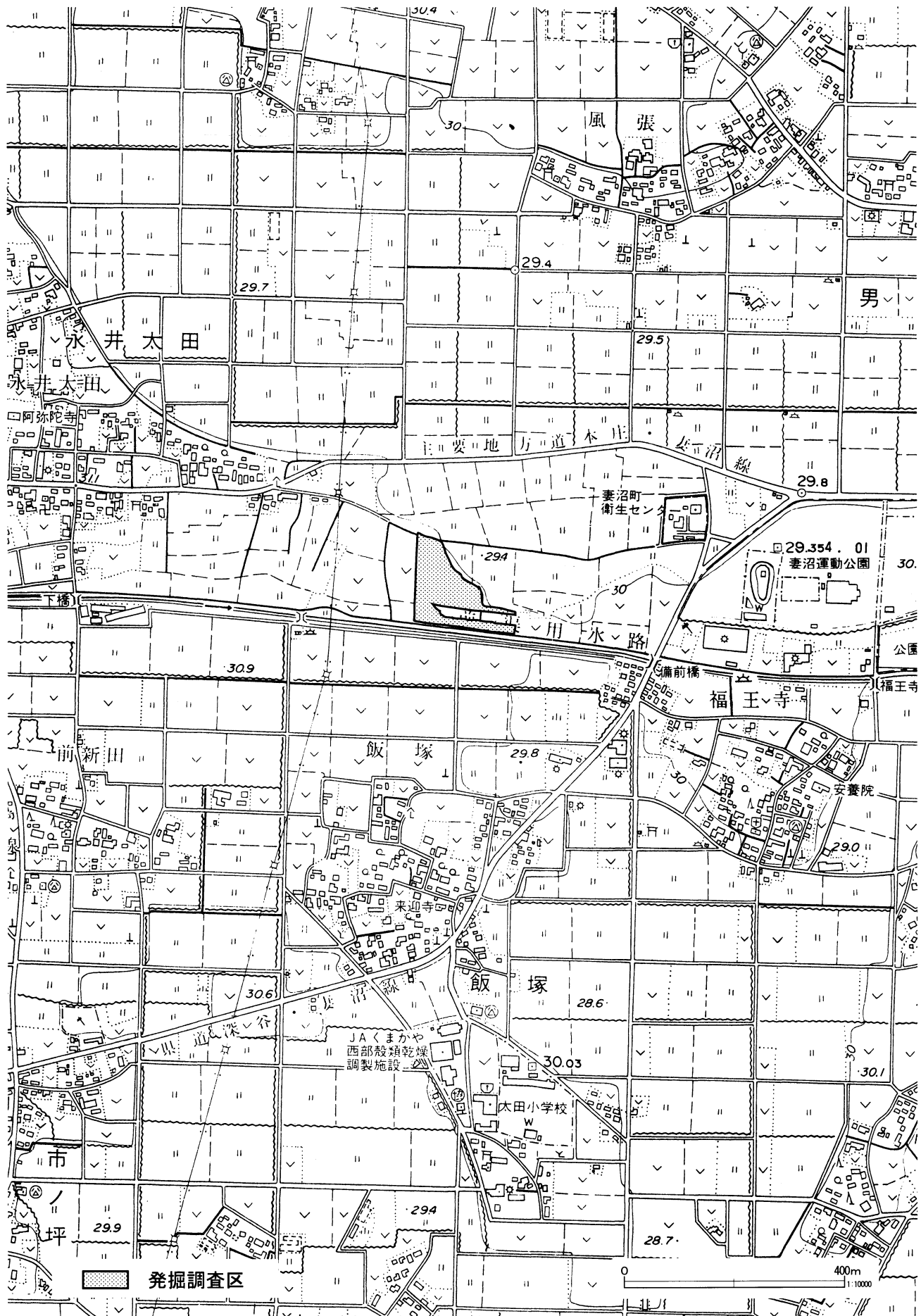
弥生時代は、3基の再葬墓から壺が出土し、2基の土坑からは、壺・甕が出土している。6基の土坑墓からは炭化物のほか骨片・骨粉が検出された土坑墓も確認されている。

土器集中区は、遺構として確認されたものではなく、縄文土器・弥生土器や石器が纏まって出土している状態で、5箇所が確認された。

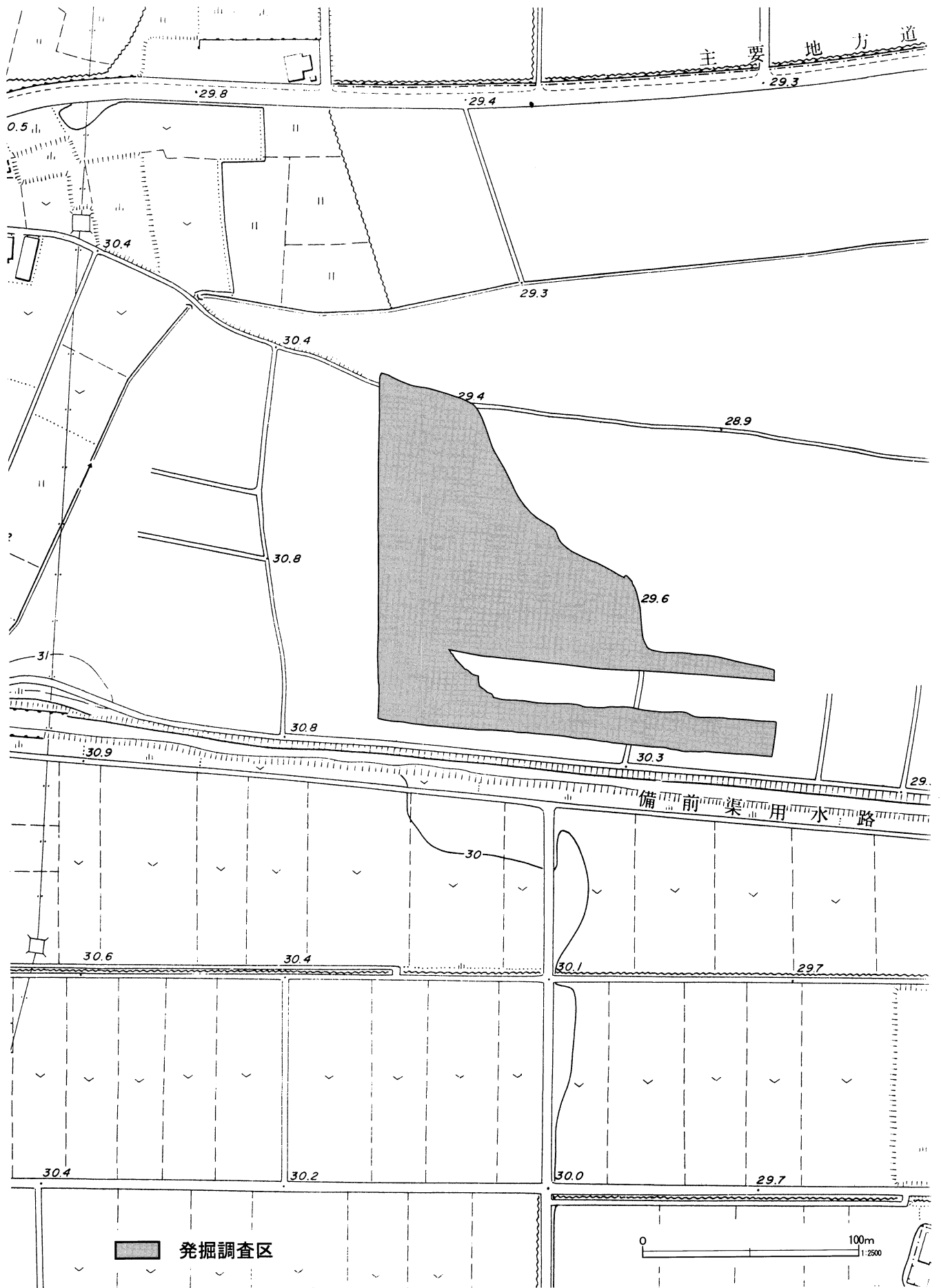
遺構以外からも縄文土器・弥生土器や石器類が出土した。

奈良・平安時代の住居跡からは、土師器・須恵器が出土した他に、灰釉陶器・緑釉陶器も出土している。須恵器で注目されるものは、破片ではあるが円面硯のなかの圈足硯に分類されるものが6軒の住居跡から出土した。

また、第120号住居跡からは、鉸具と帯金具や石製の丸鞆などの帯飾が一式出土している。



第3図 調査区周辺の地形(1)



第4図 調査区周辺の地形(2)

IV 縄文時代の遺構と遺物

飯塚北遺跡の調査では、平安時代の調査面から約0.3～0.4 m下層に縄文時代から弥生時代にかけての生活面が存在することが判明した。これは遺跡が自然堤防上にあるため、調査時期によっては地下水位の上昇などの影響を受けることから、調査当初に設定した排水溝の観察および、中世の大溝や平安時代の住居跡、井戸跡の調査において、遺構覆土から当該期の遺物が混在して出土していたことから明らかとなっていた。

縄文時代も弥生時代と同様に、平安時代以降の地形と差異はない。遺跡が位置する自然堤防は形成された時期が古く、遺構の覆土内に洪水の影響などが見られなかったことから、縄文時代後期から弥生時代中葉にかけては、安定した環境化にあったものと考えられる。

自然堤防上から低地にかけて、地形の傾斜を確認

するために一部を掘削した。その結果、低地に向かって急傾斜で落ち込んでいることが明らかとなった。現在は自然堤防と低地の水田面との差が1 m程度で、変化に乏しい地形であるが、当時にとっては比高差の明瞭な地形であったと考えられる。

平安時代以降の調査が終了した後に、再度重機による掘削を行い、当該期の遺構確認と精査を実施した。その結果、縄文時代後期後葉から晩期にかけての遺構・遺物が検出された。

縄文時代の遺構では、後期末葉の土壌が2基検出されたのみであった。遺跡の位置する自然堤防は広大な面積があり、調査対象箇所以外にも縄文時代の遺構が存在していた可能性は高い。しかしながら調査範囲内では遺物量も極めて少なく、器形復元可能な資料は検出できなかった。

1. 土壌

第510号土壌（第5図）

Q-17グリッドで検出された。直径が0.7 mで壁が緩やかに立ち上がる方形の土壌である。確認面から底面までの深さは0.2 mで、覆土は暗褐色土1層のみであった。覆土内から出土した土器によって縄文時代の土壌と判断した。

第510号土壌出土土器（第6図1）

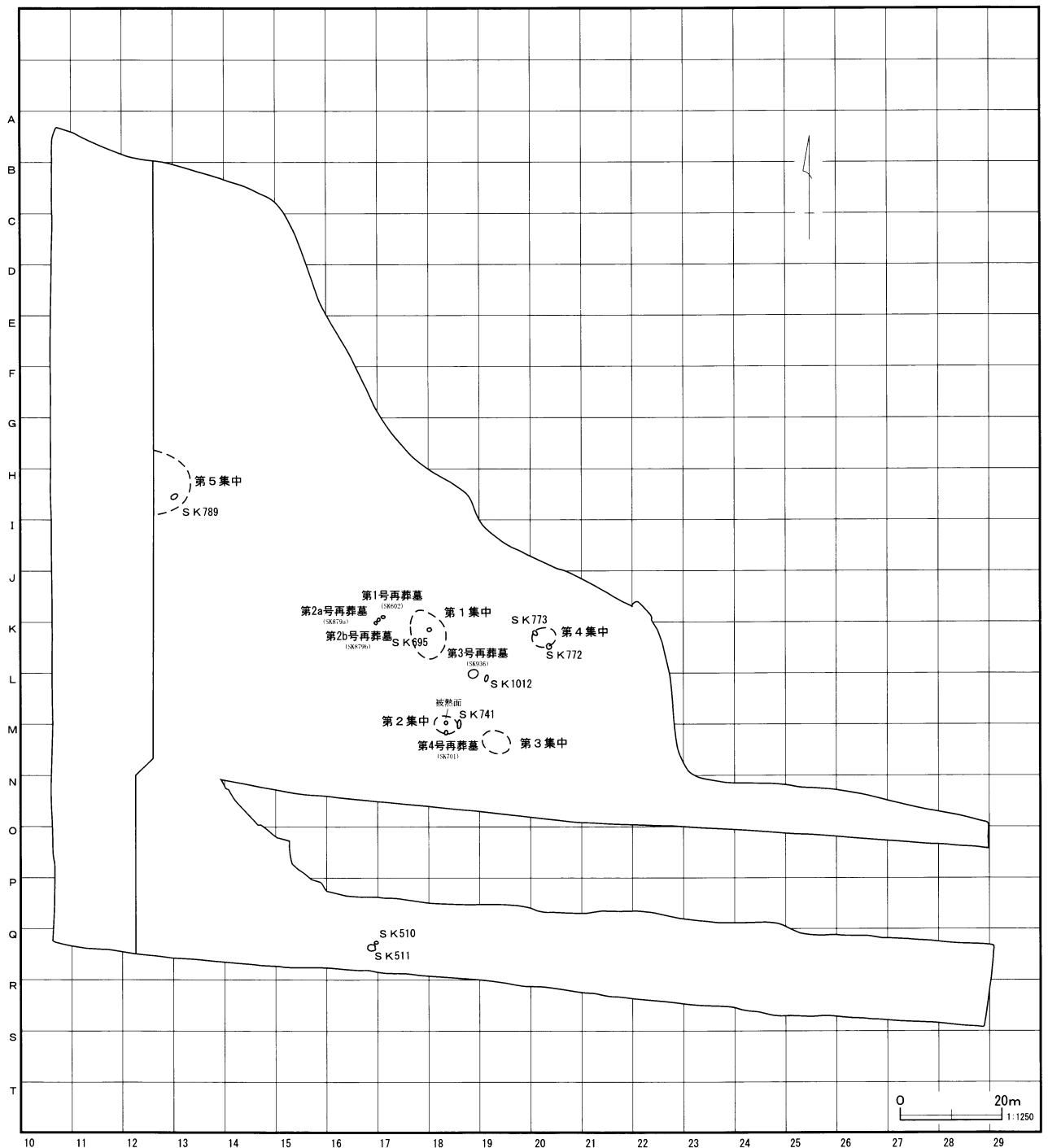
第6図1は縦長の刺突が施された突起をもち、突起間がやや肥厚し刻みが加えられている。形状から安行I式に比定される台付き鉢の脚部であろう。

第511号土壌（第5図）

Q-17グリッドで検出され、第510号土壌の南側に隣接している。第511号土壌は3回の重複からなる土壌と判断した。先ず長径1.6 m×短径1.3 m

の楕円柱状の土壌が掘られ、その埋没後に内部に長方形の土壌が再度掘り込まれたものと考えられる。当初に築かれた円柱形の土壌は、確認面から約1.6 mの深さまで掘り下げたが、湧水のため底面を検出することはできなかった。覆土は1層で、埋め戻された可能性も否定できない。形態からみて、縄文後期以降に特徴的な土壌と考えてよいであろう。

埋没後に掘削された長方形の土壌は、長径1.3 m×短径0.6 mで、確認面からの深さは約0.7 mである。土層観察では2回の掘り込みが想定できる。即ち5層から8層が最初に掘り込まれた土壌で、自然埋没後に掘り込まれた土壌の覆土が1層から3層と考えられる。覆土出土土器によって、縄文時代の土壌と判断した。



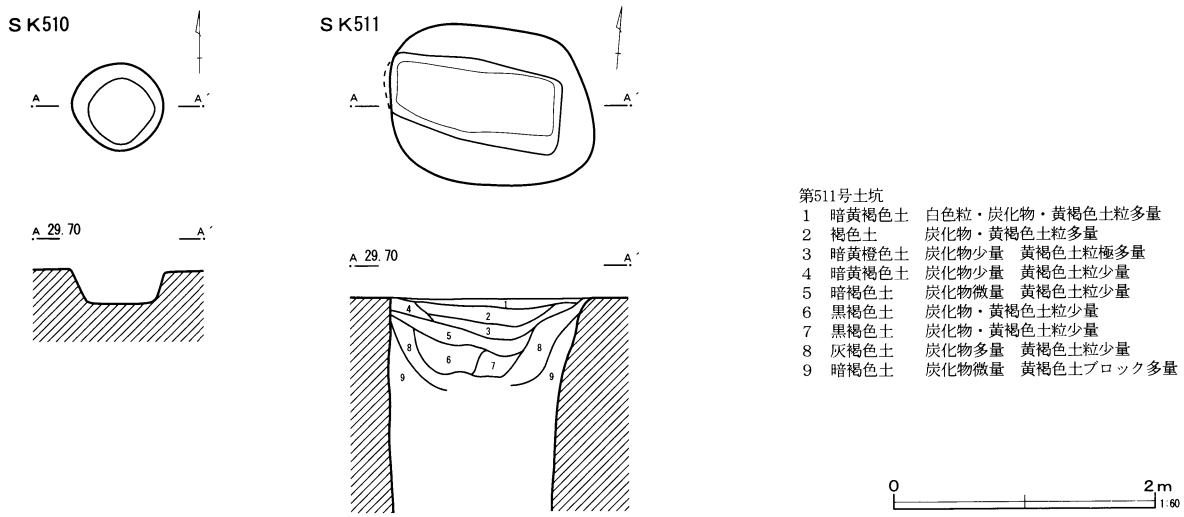
第5図 縄文・弥生時代の遺構全体図

第511号土壙出土土器 (第6図2～10)

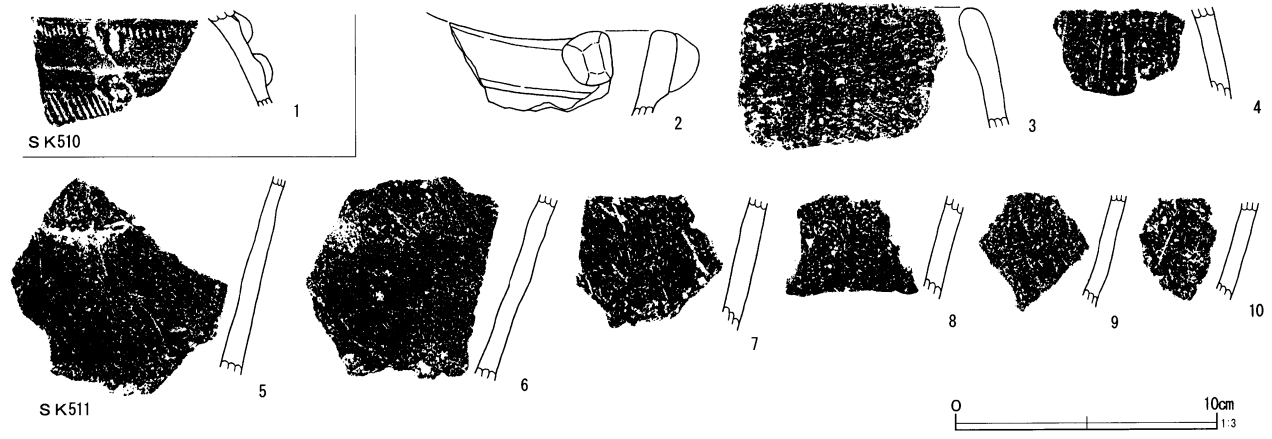
第6図2～10が第511号土壙出土土器である。2は山形状の4単位波状口縁をもつ深鉢の波底部破片である。口唇が段上に肥厚するが縄文は施文されていない。波底部の突起には刺突が加えられず、ヘラ状工具で周囲が面取りされている。

3は口縁が内傾する無文あるいは紐線文系の深鉢

形土器である。口唇内面が肥厚し、器面にはヘラ状工具で粗いナデ整形が施されている。4以下は胴部破片である。胎土から同一個体と考えられる。5には刻み列が認められることから、紐線文系土器と判断されるが、他の破片に条線や沈線文などは認められない。全体に風化が進み、整形などは定かでない。



第6図 土壌



第7図 土壌出土土器

2. グリッド出土土器 (第26図1~9)

遺構以外の出土土器は図示した9点のみである。1は加曾利B式土器で、段を持ち口縁が強く開く鉢形土器が想定される。口唇外面の刻み目を持ち、口縁部には斜位の条線が密に施文されている。

2~9は安行3c式土器である。2口縁が内湾する深鉢形土器で、幅広い口縁部には3列の楕円形刺突が施されている。

3~4は壺形土器で、同一個体と考えられる。3は胴上半に弧線文が施文されている。5~6は恐らく対弧線が施文された例であろう。

8~9は同一個体で、形状から壺形土器と考えられる。胴部の横帯区画間には、細い沈線で入り組み文が描かれ、文様間には密な刺突が施されている。文様空白部に三叉文は認められない。

V 弥生時代の遺構と遺物

弥生時代では中期前半の須和田式に比定される再葬墓5基が検出された。加えて土壇6基と、土器片を主体に石器や不定形の剥片類を含む5ヶ所の遺物集中地点が検出された。

下層の遺構検出面は、中世や平安時代の遺構が密集していた上層の検出面から、0.3～0.4 m下部に位置している。上層では平安時代を中心とする300軒以上の住居跡や1000基を超える土壇、平安時代から中世にいたる間に掘削された数多くの溝や井戸跡等が検出され、これらの遺構群には下層まで掘り込まれているものが数多く存在する。従って第5図に示した下層の遺構分布図は、水平・垂直方向に複雑に重複する遺構群から縄文時代と弥生時代に比定される遺構に限定して抽出したものである。

既に上層の遺構群を調査する時点で把握されていたが、特に弥生時代に関しては、第5図に示した遺構の位置する場所以外に、調査区南西隅のN～P-10～12グリッド周辺、あるいはF～H-10～11グリッド周辺に遺物が比較的多く出土しており、さらには調査区全体からも、散漫ながら上層の遺構覆土に混在して土器や石器が出土していた。このことから、弥生時代の遺構には、平安時代の集落形成によって破壊されたものも少なからず存在したと考え

1. 再葬墓

再葬墓は総数5基が検出された。位置的には後述する第936号土壇を中心とする半径約20 mの範囲に形成されていた。平面形態は円形や楕円形で、複数個体の土器を伴うものと、1個体あるいは土器片を伴うものがあるが、これらはすべて再葬墓として扱った。複数個体が出土した再葬墓にも、掘り込みの底面に設置されたものと、底面から浮いた状態で出土したものがあり、後者にも同じような状況を示すものがある。発掘調査時の観察では、土器棺の

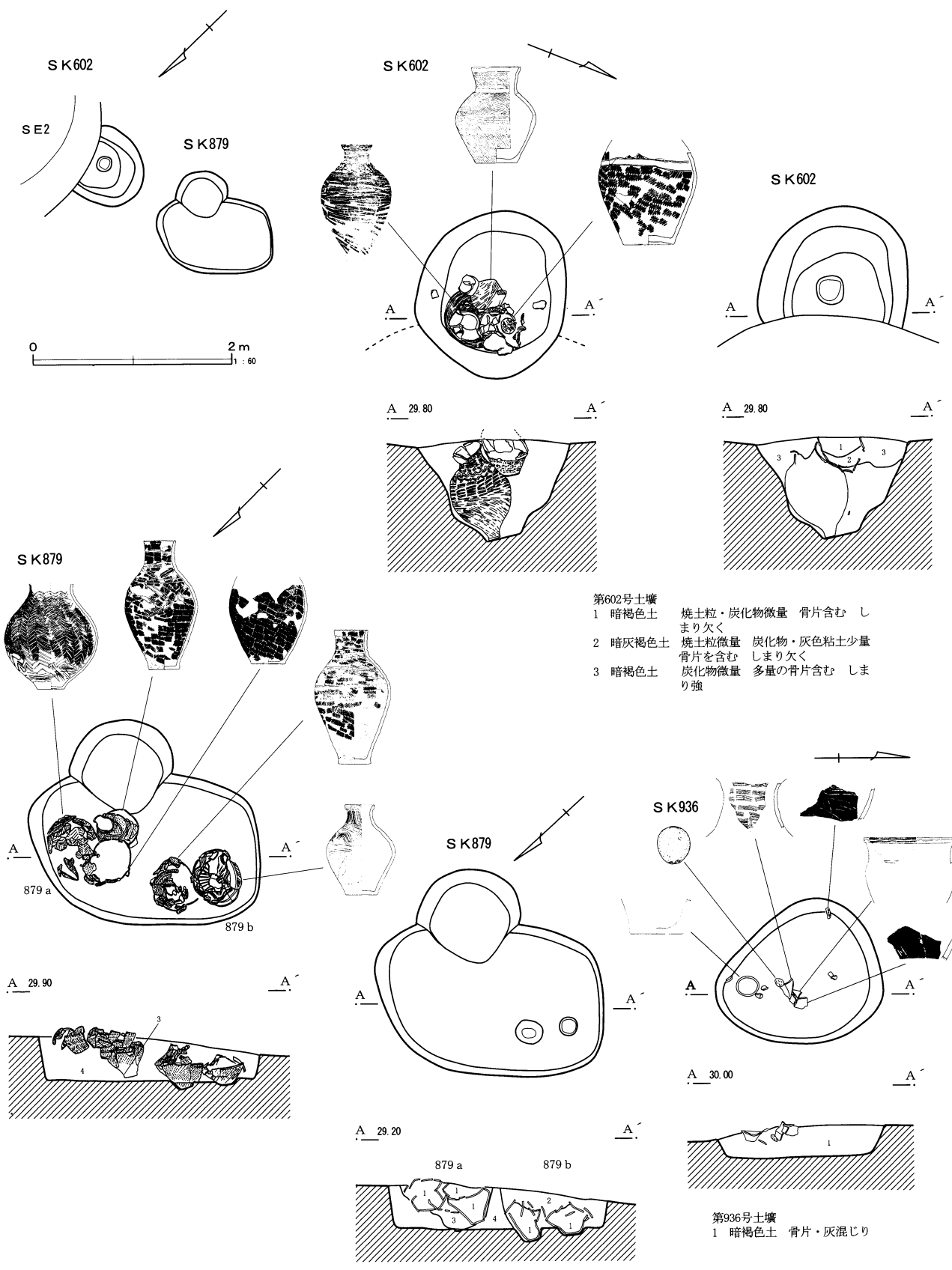
られる。

遺構の分布は調査区の中央部に集中しており、第一次埋葬が推定される少数の土壇墓、複棺や単棺の再葬墓、土壇墓や再葬墓と近接する遺物集中区とともに、それら遺構群のほぼ中心部に人骨を含む土壇が検出された。遺物集中区は、調査当初は住居跡の可能性も想定された。実際、第2集中区では浅いながら掘り込みを有していた可能性もあり、被熱し赤変した地山面も検出されたことから、住居の可能性が否定しきれているわけではない。しかしながら土壇や再葬墓に隣接或いは重複していることや、再葬墓と同時期に形成されていることなどを総合すると、現時点で住居と確定することはできず、再葬にともない形成された一連の遺構との観点で考えるべきかもしれない。以上の遺構群を有機的な関係で捉えると、遺体の埋葬から再葬および人骨の処理等、一連の過程を復元しえる可能性を示していると考えられる。

5箇所検出された遺物集中区のうち、第5集中区は他の集中区や土壇・再葬墓と離れた位置にある。さらにM～P列には東西に緑地帯として未調査区域があることから、調査区の西側や南側にも再葬墓や土壇墓などが存在する可能性を考えるべきであろう。

埋設に際して覆土ないしは埋土が掘り返され、追葬された形跡を確認することはできなかった。

発掘調査時には再葬墓もすべて土壇として取り扱っていた。土壇に対しては時期や性格を問わずに通し番号を付けていたが、再葬墓は単なる掘り込みからなる土壇とは性格が異なることや、第一次埋葬の性格が想定される土壇との混乱を避けるために、ここでは第1号から第5号再葬墓と命名し、加えて調査時の土壇番号を併記した。

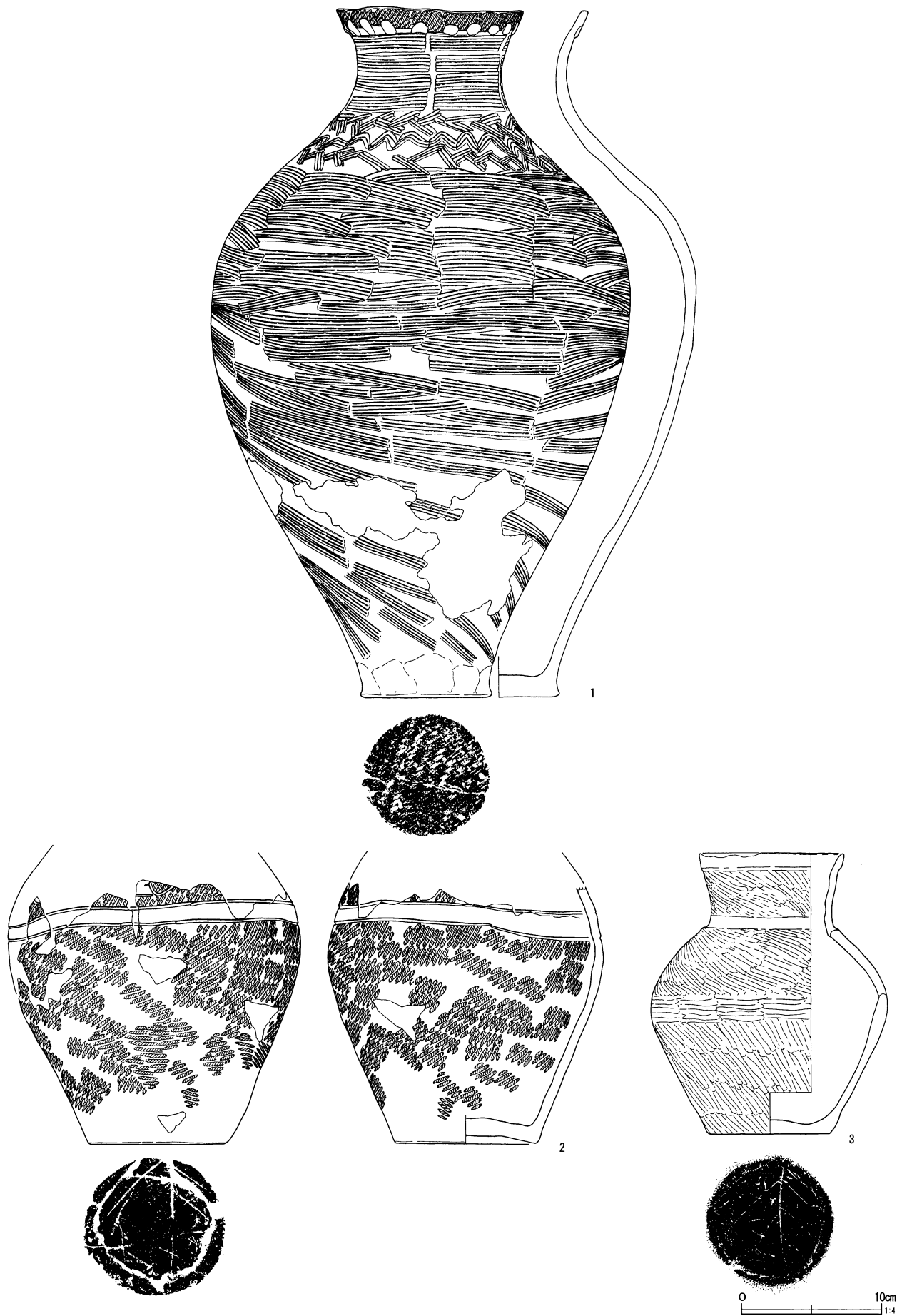


- 第602号土坑
- 1 暗褐色土 焼土粒・炭化物微量 骨片含む し
まり欠く
 - 2 暗灰褐色土 焼土粒微量 炭化物・灰色粘土少量
骨片を含む しまり欠く
 - 3 暗褐色土 炭化物微量 多量の骨片含む し
まり強

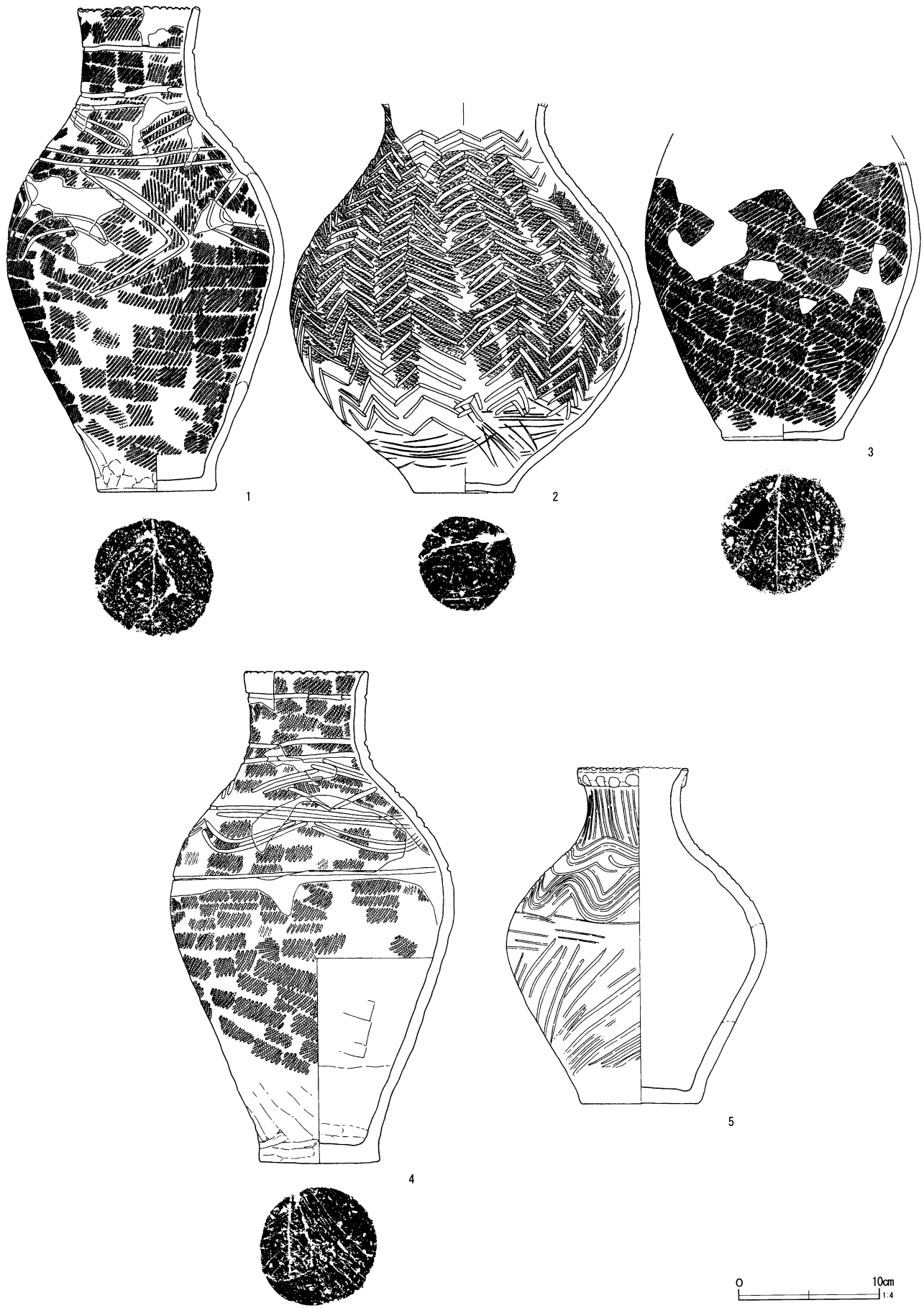
- 第879号土坑
- 1 暗褐色土 黄褐色土含む 骨片微量
 - 2 暗黄褐色土 黄褐色土多量
 - 3 暗黄褐色土 黄褐色土ブロック多量 埋設土器固定のた
めの意図的埋土
 - 4 暗黄褐色土 黄褐色土多量 土器設置後の人為的埋土

- 第936号土坑
- 1 暗褐色土 骨片・灰混じり

第8図 再葬墓(1)



第9図 再葬墓出土遺物(1)



第10図 再葬墓出土遺物(2)

第1号再葬墓（第602号土壙 第8図）

J-17グリッドで検出された。中世と考えられる第2号井戸の掘削によって、掘り込みの一部が破壊されていた。現存部では長径0.7m×短径0.55mであるが、本来は長径約0.8m程度の楕円形の掘り込みをもっていたと推定される。第8図に示した遺物出土状態図には、想定された平面形を図示している。底径は0.4m～0.5m程度と推定される。

壁は急角度で掘り込まれ、底面から約0.2m上部で段をもっている。底面には径が0.3m程度の浅いくぼみが認められた。恐らく土器棺を直立して埋設する際に、安定を図るため掘りこまれたものと考えられる。

土層断面図からわかるように、再葬墓の基本となる覆土は第3層である。この層には炭化物と共に多量の骨片が含まれていた。調査時の所見では、骨片は白色から灰白色で、被熱した形跡が認められた。しかし微細で脆いものが多かったため、採集・同定することはできなかった。土器棺内の堆積土にも微細な骨片が含まれていたが、量的には極めて少量であった。土器棺内の堆積土は、遺構の堆積土と同質の土層であり、土器を埋設する過程に長い時間が経過していたとは考えにくい。磨り消し縄文の壺形土器は既に破損していたが、土圧によるものと攪乱によるものとの2要因が考えられる。土器棺が設置された後に、骨片を含む土で覆われていた可能性が高いことから、土器棺に骨片を入れた後に埋設したのか、あるいは覆土が流れ込んだ結果であるのか、判断はつきかねる。

遺構内からは系統を異にする3個体の土器が密集して出土した。出土状態をみると、大型の壺形土器が最初に埋設され、骨片を含む土で埋め戻された後に、壺の肩部に沿うように磨り消し縄文の壺を設置し、その後に無文の壺形土器を埋設したことがわかる。このように埋設の順序が確認できるが、有文や無文の壺形土器の上部にも下部と同質の土層が確認できたことから、土壙を掘り返して順次土器を設置

していった可能性は低く、同時に極めて短期間のうちに埋設された可能性が高いといえる。有文の壺形土器内部には、土壙覆土とは異なる堆積土が認められた。後世に例えば井戸の掘削などの攪乱を受け、破損したためか、あるいは上部に埋設された土器棺が開口していた可能性も否定できないであろう。井戸によって破壊される以前は、さらに複数個体の土器が埋設されていた可能性も考えられる。

第1号再葬墓（第602号土壙）出土土器（第9図 1～3）

1は口唇がやや受け口状で、外面が肥厚する。頸が短く、なだらかに張る肩部から胴上半部に最大径をもち、胴下部から底部にかけて緩やかにすぼまる壺形土器である。口唇外面はLR縄文を施文後に、下部に棒状と思われる工具によって押圧が施されている。

頸部と胴部の施文に用いられる工具は五条一単位の同一工具である。頸部には横位に間隔を空けて4単位、縦には密に4段の条痕が施文されている。

肩部には三条一単位の工具が用いられている。先ず上下に反時計回りに左傾-右傾の線を交互にずらしつつ矢羽状のモチーフを描き、次に中間に鋸歯状のモチーフを描いている。

胴部には頸部と同様の工具により上半部で横位、下部では斜位の条痕が施されている。胴下部には二次的な被熱によって生じたと考えられる器面の剥落がある。

底部直上には指頭によって面取り状にナデ整形が施されている。底面は網代底である。胎土には小礫を含むが、精選されており、条痕施文以前に丁寧にナデ整形されていたと思われる。全体に褐色を帯び、焼成は極めて良好である。器高49.3cm、口径13.4cm、最大径30cm、底径9.5cmである。

2は胴部最大径の上半にある肩部文様帯から口頸部にかけて欠損しているが、恐らく広口の壺形土器であろう。地文はLR縄文で、太さの異なるR原体

を撚り合わせたために、附加条縄文のような印象を与えている。縄文が施文されない部分でも器面の荒れが見られないことから、地文の施文に先立って丁寧なナデ整形が施されていたものと考えられる。地文の施文方向は横位から斜位で、底部近くでは縄文が省略されるなど全体に施文が粗くなっている。器面全面に縄文を施文した後に、平行沈線によって文様帯下端区画が描かれ、区画内は地文が磨り消しされている。残存部位が少なく、詳細は明らかではないが、磨り消しを伴うモチーフ構成である。底部は上げ底状で、木葉痕をもつ。内面も丁寧にナデ整形が施されている。胎土には小礫を多く含み、伴出した無文の壺形土器に近い。色調は橙色～暗褐色、焼成は良好である。現存高 18.2cm、最大径 20.8cm、底径 9.6cm である。

3 は口頸部が外反気味に開き、口唇外面が肥厚する無文の小形壺形土器である。胴中央部が「く」の字状に屈曲し、直線的に底部にいたる。口唇が若干欠損しているが、ほぼ完形である。乾燥が進んだ状態で、器面にはヘラ状工具による細かく密なミガキが施されるが、口頸部・肩部・胴下部では斜位に、胴屈曲部では横位にナデ整形され、あたかも文様帯区画や条痕施文と同様の意図を持っているかのようである。内面も丁寧なナデ整形が施されるが、口頸部では輪積み痕が残されている。器面の胴中位から底部直上にかけて、内面でもほぼ同じ位置に炭化物が付着している。表面では胴中位から頸部にかけて、二次的被熱によると思われる剥離が観察される。底部から胴下部には二次的被熱や器面剥落が見られないことから、日常の使用による結果とは考えがたい。砂粒を多く含むが精選された胎土で、浅黄橙色を呈する。焼成はきわめて良好である。器高 20.3cm、口径 10.4cm、最大径 17cm、底径 8.8cm である。

第 2 号再葬墓 (第 879 号土壙—第 8 図)

J-16～17 号グリッドに位置し、第 602 号土壙の約 1 m 西側に位置していた。遺構検出時には第

2a 号再葬墓の土器のみが確認されたため、長径 1.2 m×短径 0.8 m の長方形の単独再葬墓と考えた。精査を進めたところ遺構の北西壁近くからも土器が出土したことから、遺物出土状態や土層を再検討した。その結果、近接した 2 基の再葬墓が存在したと判断した。重複関係がないことから、いずれの再葬墓が先行するか判断できない。

第 2a 号再葬墓 (第 879a 号土壙) は、径が 0.6 m～0.7 m 前後の楕円形と推定される。確認面からの深さは 0.45 m で、底面は平坦であった。南東側は時期の新しい土壙が掘られ、このために土器 (第 10 図 1) の胴部も壊されていた。掘り込み内からは 3 個体の土器が重なるような状態で出土した。土器棺の埋設は第 10 図 2→第 10 図 1→第 10 図 3 の順に行われている。埋設に際しては、土壙を掘削後に、第 3 層の暗黄褐色土を填圧しつつ土器を設置していったものと考えられる。1 個体を底面に立つように最初に設置し、その肩部に接して 2 個体を埋設した状況や、系統を異にする 3 個体の土器で構成されている点も、第 1 号再葬墓と同様である。土層観察や各土器棺の設置状況をもても、土器棺は同時か極めて短期間に埋設された可能性が高い。

土器棺内部の堆積土を水洗選別した結果、少数の微細骨片が検出された。第 1 号再葬墓とは異なり、遺構の覆土内には骨片が含まれていないことから、土器棺の設置に先立って入れられた可能性が高い。

第 2b 号再葬墓 (第 879 b 号土壙) は第 2a 号再葬墓に近接して掘り込まれており、土壙の大きさ、形状、なども第 2a 号再葬墓とほぼ同じである。土壙からは 2 個体の壺形土器が密接して出土した。設置順序は第 10 図 4→第 10 図 5 である。土器棺の堆積土内からは微細な骨片が検出されたが、土器を設置した後に人為的に埋め戻した暗黄褐色の地山土を基調とした土層からは、骨片などは出土していない。従って土器棺には意図的に骨片が入れられた可能性

が高い。断面からもわかるように、土壌底面で検出された小ピットは、土器を安定して設置する目的で掘り込まれたものであろう。

第2a号再埋葬（第879a号土壌）出土土器（第10図1～3）

第10図1～3が2a号再埋葬（第879a号土壌）、同図4～5が第2b号再埋葬（第879b号）出土土器である。1は口頸部が短く外傾気味で、肩部の張りが緩やかな壺形土器で、第7図1に類する器形である。口唇上には棒状工具により密な刻みが施されている。器面全面に細く撚りの密なLR縄文が横位～斜位に施文されている。口頸部と肩部の文様帯区画や肩部と胴部の文様は平行沈線で描かれるが、磨り消しは施されない。文様は二条の平行沈線で、肩部には端部が閉塞する斜行沈線による三角形の沈線文が、胴部には「く」の字状の平行沈線文で菱形あるいは矢羽根状に構成され、内部に弧状の沈線文が描かれている。底部直上が直立気味で、指頭押圧後にヘラ状工具でナデ整形され、底部には木葉痕を有する。内面は底部付近にヘラケズリが顕著で、肩部までは横位のヘラナデが施されている。器高34.7cm、口径8.7cm、最大径20.4cm、底径8.4cmである。

2は張りが強く球形に近い胴部をもつ壺形土器で、胴中央より下部に最大径をもつ。口頸部が欠損しているが、残存部位から見ても他と同様に頸部の短い壺であろう。器面整形後に撚りの細かいLR縄文を、胴口頸部では縦位に、胴部では最大径付近までを斜位に、最大径付近から以下を縦位に施文している。底部直上では縄文は認められないが、磨り消しされているわけではなく、粗い条痕調整が施されている。地文上には頸部から胴下部にかけて縦位に14単位の矢羽根状沈線文が描かれているが、底部直上の条痕調整を以下に施文されることはない。沈線文の描き方は方向を変えて縦列に施文した「ハ」の字状沈線を1単位として縦に描いているが、「ハ」の字を描く方向は一定していない。矢羽根状沈線は系統的

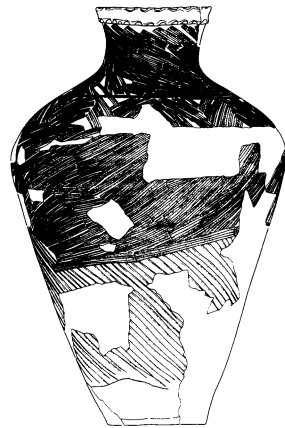
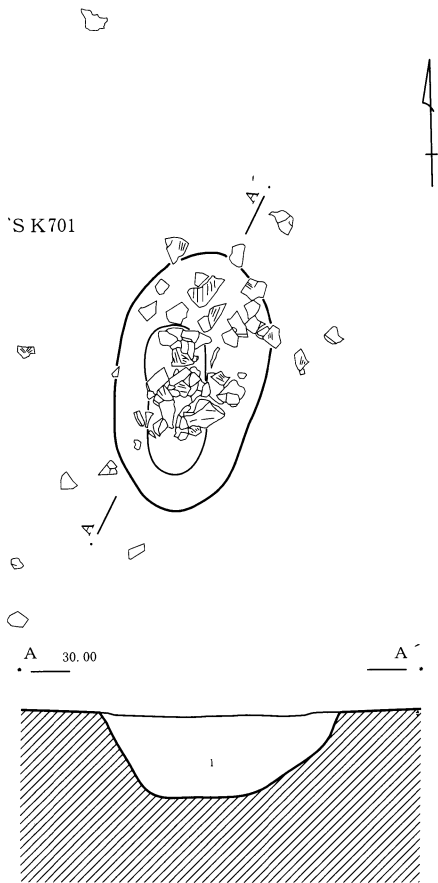
に遡及する縦位の条痕文と関連し、底部直上に施文された横位の粗い条痕は、文様帯下端区画の意図を持っていると思われ、1とは系統を異にすることは明らかである。口頸部・肩部に文様帯は区画されていない。底部は上げ底で木葉痕をもつ。砂粒を多く含む胎土で、色調は明褐色である。現存高28cm、最大径25cm、底径7cmである。

3は残存部位の器形から見て、胴部の張りが弱く1に近似した壺形土器と思われるが、最大径は1よりもやや下部にありそうである。地文はLの斜位回転施文で、底部直上まで施文されている。若干上げ底状の底部には木葉痕をもつ。砂粒を多く含み色調は淡褐色である。現存高20cm、最大径19.4cm、底径8cmである。

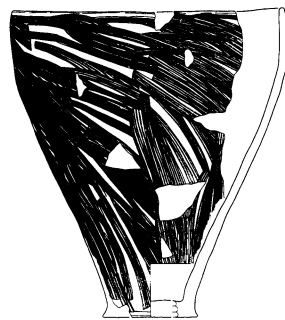
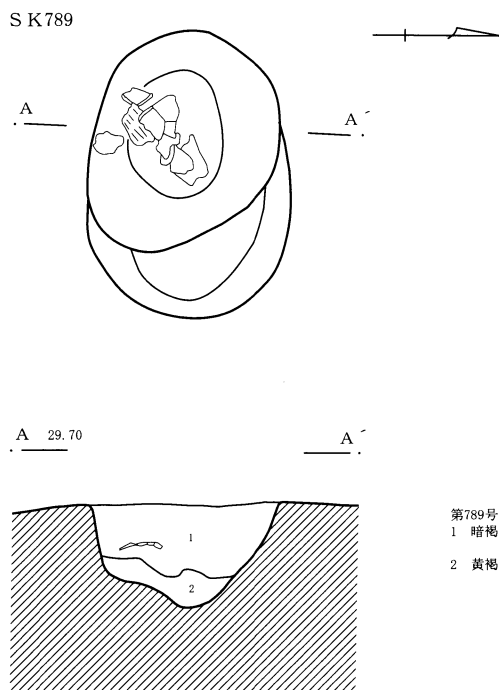
第2b号再埋葬（第879b号土壌）出土土器（第10図4～5）

4は口頸部の短い壺形土器で、胎土・整形・地文なども1と酷似しているが、1よりも器高があり、最大径も上部にある。口唇上には連続刻み目が施されており、使用された工具は、文様描出に用いられたものと同一であろう。文様帯は口頸部と肩部にあり、肩部では最大径まで二帯が設定されており、この文様帯とモチーフに関しては1との相違が認められる。地文はLR縄文で、胴部最大径付近までは横回転、胴下部では斜位に施文されているが、1と比較すると施文が粗い。文様は肩上部では平行沈線による「ハ」の字状文に単沈線文様を組み合わせ、鋸歯状の単位文が施文されている。肩下部では平行沈線による下向き弧線文が施文されている。地文の磨り消しは認められない。胴下部から底部にかけてはヘラナデされている。砂粒を多く含み、浅黄橙の色調も1と酷似していることから、同一製作者の手によるとも考えられる。内面は底部との接合部に指頭ナデが、胴部にはヘラナデが施されている。器高35cm、口径9cm、最大径20.4cm、底径8.6cmである。

5は小型の壺形土器で、胴部は第1号再埋葬（第



第701号土壤
 1 暗褐色土 焼土粒・炭化物微量
 黄褐色粒子少量



第789号土壤
 1 暗褐色土 黄褐色土粒子・褐色土ブロック多量
 炭化粒微量 黄褐色ブロック少量
 2 黄褐色土 黄褐色土粒子多量

0 1m 1:30

第11図 再葬墓(2)

602号土壙)出土土器(第9図3)に近似するが、口頸部がやや細い点が異なっている。口唇部が受け口状で、外面には粘土帯が貼付され、さらに指頭による押圧が施されている。口唇上には棒状工具による刻み目が施されている。文様帯区画線や文様などは三条一単位の櫛状工具により施文されている。肩部文様帯では主文様である波状文が描かれた後に上端の波状区画線と下端の平行区画線が描かれている。胴部最大径以下底部直上までは同一工具による粗い条痕調整である。器面の風化が著しく、整形等の詳細が不明瞭である。胎土には砂粒が多く含まれ、色調は淡褐色である。器高24cm、口径8.8cm、最大径18.5cm、底径8.6cmである。

第3号再葬墓(第936号土壙-第8図)

K~L-18グリッドで検出された。長径1.7m×短径1.4mの不整楕円形で、壁は急角度で掘り込まれ、確認面からの深さは約0.3mである。覆土は暗褐色土1層のみで、骨片や灰が含まれており均質な覆土であることから、人為的に埋め戻されたものと考えられる。遺構の覆土上面には甕や壺などの大型土器片や円礫などが集中しており、出土した底部破片は埋設されたような出土状態であったことから、第1号・第2号とは形態の異なった再葬墓と判断した。後世の攪乱などによって土器が破壊された可能性も考えられる。

第3号再葬墓(第936号土壙)出土遺物(第12図3~8)

3は甕形土器の口頸部破片で、肥厚する幅狭い口縁部にLR縄文が施文された後、沈線が引かれている。頸部は無文で幅広く、胴部との境に弱い段を持っている。胴部以下は詳細不明。現存高6.3cm、推定口径23cmである。

4は壺形土器の口頸部破片で、口端部が強く開く形態であろう。3条1単位の櫛状工具により横位に複数段の櫛描き状の文様が施文されている。頸部下

半から肩部にかけては縦区画を伴うものと思われるが、詳細は不明である。

7は無文の底部破片で、風化が進んでいる。底部には木葉痕を持つ。底径12cmである。

5~6は条痕施文の胴部破片である。接合しないが胎土や施文手法などから同一個体と思われる。恐らく壺形土器の胴下部から底部近くの破片であろう。

8の円礫には磨耗痕や擦痕は認められない。第12図4に接して出土していることから、土器と共に設置されたものと考えられる。

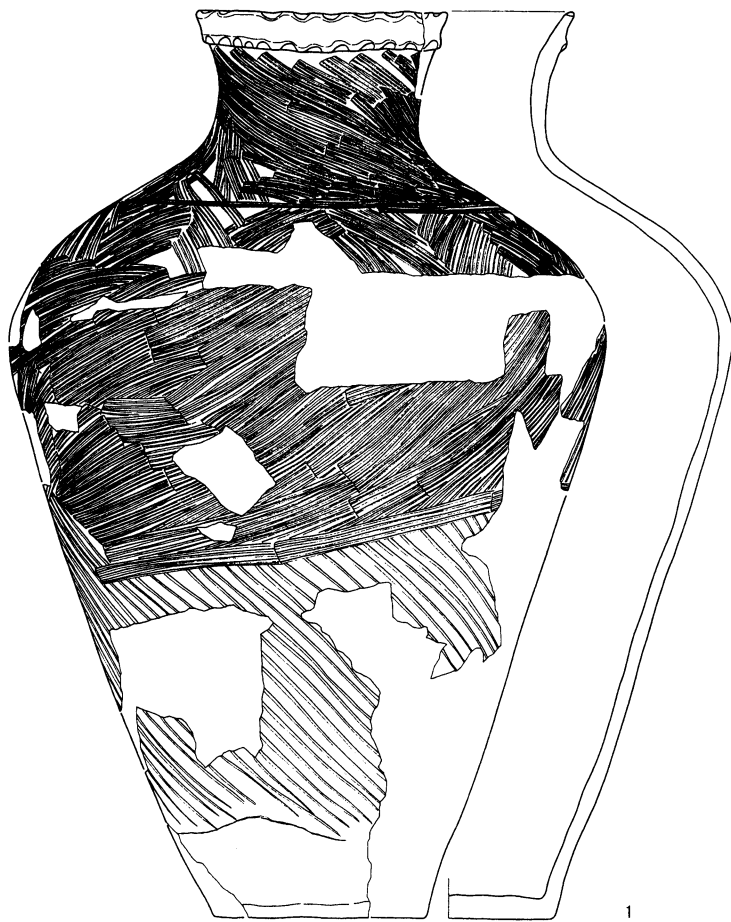
第4号再葬墓(第701号土壙-11図)

M-18グリッドで検出された。第4号再葬墓は第2集中区の南端部に位置し、第2集中区の調査中に検出された遺構である。第2集中区の土器が遺構の上部に乗ったような状況であったが、出土土器が異なることから、独立した第4号再葬墓と認識した。

遺構は長径1.96m×短径1.13mの長楕円形で壁の傾斜は緩い。底径は0.57m×0.24m、確認面からの深さは0.6mである。土壙覆土は暗褐色土1層で、焼土粒や炭化物が含まれていたが、骨片は検出できなかった。覆土の状況からは人為的に埋め戻されたものと考えられる。覆土上面には土壙の規模とほぼ等しい範囲で大型の土器片が集中していた。覆土内からは土器が出土しなかったことからみて、遺構が埋め戻された後に土器の一部が土壙内に設置されたか、埋土上に安置された個体が、土圧などによって潰れたものと考えられる。

第4号再葬墓(第701号土壙)出土土器(第12図1)

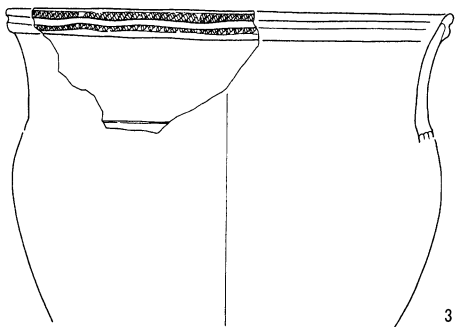
口頸部が短く肩部が強く張り、直線的にすぼまる壺形土器である。口唇下部に粘土帯を貼付し、指頭によるナデ整形が施されるが、部分的に指頭押圧が加えられ、段状に整形されている。口唇上下端には連続した指頭押圧が施されている。施文は木口状工具による比較的細かな条痕で、横位に施文すること



SK701



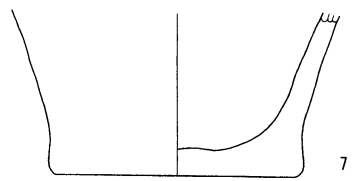
SK789



3



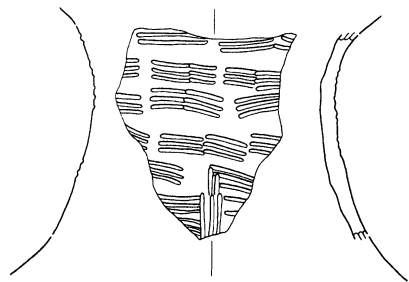
5



7

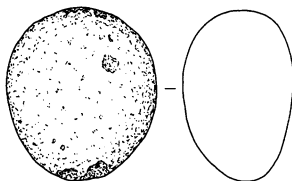


6

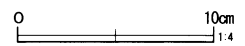
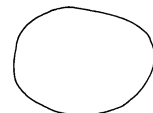


SK936

4



8



第12図 再葬墓出土遺物(3)

により頸部と肩部を、最大径付近で施文の種類を変えることにより肩部と胴部を区画している。胴中位には横位に条痕施文されており、胴部文様帯を区画している。文様は頸部に口唇肥厚帯直下から斜位の条痕文を、肩部には「ハ」の字を縦に重畳させることにより鋸歯状文を、胴上半には斜位の条痕文が施文されている。胴下部には半截竹管あるいは櫛状工具による間隔の粗い条痕調整がなされ、密な条痕文はその後に描かれたものである。底部直上はナデ整形され、底部には木葉痕をもつ。器高46.4cm、口径22.8cm、最大径30cm、底径10.6cmである。

第5号再葬墓（第789号土壌）（第11図）

L-18グリッドに位置し、第701号土壌に近接して検出された。2基が重複していることから、掘り返された可能性がある。旧土壌の覆土内からは土器が出土せず、時期は不明である。重複状態での全

2. 土壌

土壌は総数6基が検出された。形態は小型の円形や楕円形で掘り込みがやや深いものと、長方形のもの、および不整形のものなどがある。覆土内から遺物が出土しなかったものを土壌として区分したが、再葬墓と形態を同じくするものもある。また再葬墓や遺物集中区と近接していることから、これら相互に有機的な関連があった可能性はきわめて高いといえる。人骨などが検出されなかったことから、機能は特定できないが、第一次埋葬施設としての性格を推定することも可能であろう。

第695号土壌（第13図）

J-16グリッドで検出された。第879号土壌に近接した位置関係にある。径が0.94m×0.75mの楕円形で、確認面からの深さは0.5mである。遺物は出土しなかった。

長は長径2.16m×短径1.42m、土器が出土した新しいと考えられる土壌は、長径1.73m×短径1.3mである。底径は0.4m前後の楕円形で、確認面からの深さは0.8mである。覆土中層から大型土器片が出土し、接合した結果同一個体と判明した。

第5号再葬墓（第789号土壌）出土土器（第12図2）

底部から外湾気味に開く甕形土器で、壺の口頸部から胴上半部を省略したような形態である。口唇は内傾気味で端部は平坦に面取りされている。器面には幅の狭い小口状工具による条痕が胴上半部では横位に、以下では斜位～縦位に施されている。底部直上から張り、底面には木葉痕をもつ。暗褐色で焼成は良好、器高29cm、口径25cm、最大径26cm、底径9cmである。

第741号土壌（第13図）

L～M-18グリッドで検出された。第701号土壌に近接し、後述する第2集中地点の東端にあたる。長径2.3m×短径0.96mの長方形で、確認面からの深さは0.4m前後である。底面は平坦で、壁際には地山である黄褐色のブロック土が堆積していた。遺物は出土しなかった。

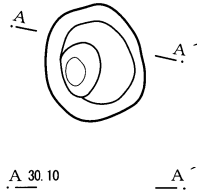
第772号土壌（第13図）

K-20グリッドで検出された。後述する第4集中地点の南端に位置している。長径1.44m×短径1.06mの楕円形で、確認面からの深さが0.2mと浅い土壌である。覆土からは炭化物が検出されているが、骨片や土器などは出土しなかった。

第773号土壌（第13図）

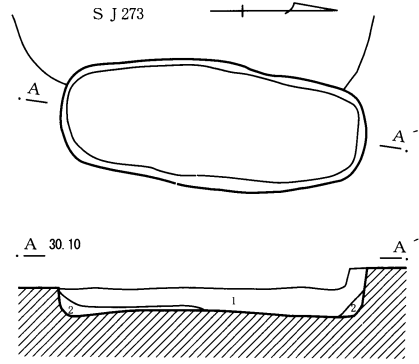
K-20グリッドに位置し、第772号土壌に隣接する。また後述する第4集中地点の南端にあたる。

S K 695



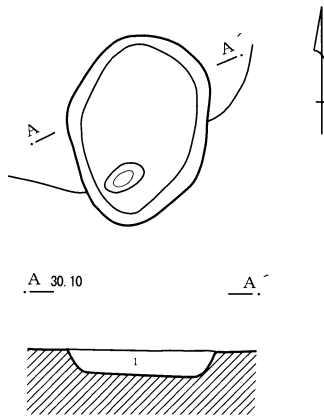
第695号土壌
1 暗褐色土 暗褐色土・灰色粘土の混土
2 暗褐色土 褐色土粒子多量 灰色粘土少量

S K 741



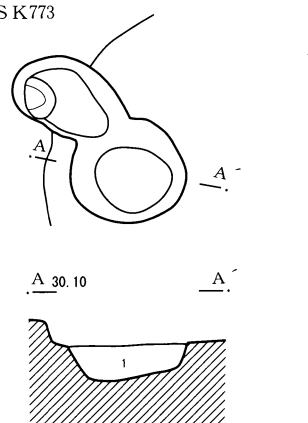
第741号土壌
1 暗褐色土 焼土粒・炭化物微量
2 暗黄褐色土 黄褐色ブロック混入

S K 772



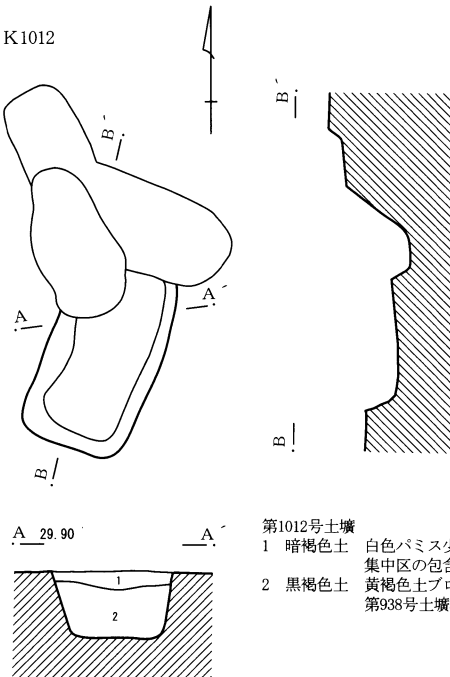
第772号土壌
1 暗褐色土 炭化物粒子少量 黄褐色土小ブロック多量

S K 773



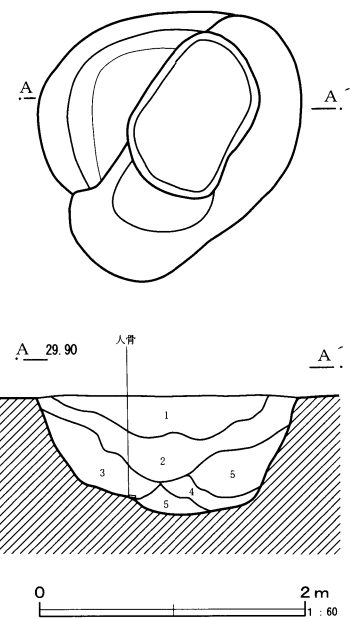
第773号土壌
1 暗褐色土 炭化物粒子少量 黄褐色土小ブロック多量

S K 1012



第1012号土壌
1 暗褐色土 白色パミス少量 弥生再葬墓及び土器集中区の包含層に対比
2 黒褐色土 黄褐色土ブロックを含む 炭化物微量 第938号土壌5層に近似

S K 938



第938号土壌
1 暗褐色土 骨片・骨粉・灰を多量に含む 炭化物・焼土粒ほとんど含まない 再葬に伴う人骨の廃棄土壌
2 黒褐色土 骨片・骨粉は1層に比べ少ない 下部で黄褐色土ブロック含む
3 暗黄褐色土 くすんだ黄褐色土 壁の崩落土 最下面から被熱していない人骨が出土
4 黒褐色土 黄褐色土ブロック・粒子多量
5 暗黄褐色土 黒褐色土ブロック含む

第13図 土壌

径が0.8～0.9 mの楕円形で、時期の新しい土壌に壊されている。確認面からの深さは0.45 mである。覆土には炭化物が含まれるが、骨片や土器などは出土しなかった。

第938号土壌 (第13図)

K～L-18グリッドで検出された土壌である。この土壌は再葬墓や第一次埋葬の性格が考えられる土壌の中間に位置する点が注目される。不整楕円形で、径が1.9 m～2.2 m、壁の下部に段を持ち、底面は隅丸長方形の浅い掘り込みをもっている。確認面から底面までの深さは0.8 m、底面の掘り込みは、長径1.25 m×短径0.86 mである。

土壌の覆土には、他と比較して際立った特色がある。1層には骨片や骨粉、灰、炭化物などが多量に含まれており、このため覆土には白色の帯状堆積も存在した。出土した骨片には白色や灰白色化したものが多く、明らかに二次的に被熱した痕跡を有していた。しかし、骨は風化の度合いが高く極めて脆かったために、採集・同定することができなかった。2層にも骨片や炭化物が含まれているが、1層ほど顕著ではなかった。

3層は1・2層と状況が異なり、灰や炭化物などは含まない。3層下面近くからは被熱していない骨が出土しており、調査所見では上腕骨や大腿骨と思われる骨が含まれていた。骨は腐食が著しく覆土

3. 遺物集中区

飯塚北遺跡からは5箇所遺物集中区が検出された。このなかで第5集中区を除く4箇所は、人骨が廃棄された第938号土壌の周辺部で検出されており、先に述べた再葬墓や土壌と近接関係にあり、一部の土壌とは重複関係をもっている。遺物を取り上げた後に精査したが、住居跡と同定する根拠に乏しいことから、再葬墓の形成に伴う遺構と想定した。再葬墓から出土した土器はおよそ2段階に区分できるものと考えられるが、遺物集中区においても再葬墓と並

との同化が進んでいたことから慎重に作業を進めたが、採取することができなかった。腐食が進んでいたことを差し引いても量的に少なく、あくまでも肉眼観察の結果に過ぎないが、出土部位に偏りが見られたことから、遺骸を土葬した遺構とは考えにくい。なお4～5層では人骨は検出できなかった。

以上から推察すると、この土壌は再葬墓の形成と深いかわりがあるようである。即ち、土壌に葬られた第一次埋葬人骨を掘り出し、不要な人骨を土壌に廃棄するとともに、選択した人骨を焼き、少量を土器棺に入れた後に、大半の骨を再び土壌に廃棄した一連の過程を示していると考えられる。全ての再葬墓がこの過程を経ているかなお問題も多いが、考慮すべき過程であろう。なおこの土壌からは人工遺物は全く出土していない。

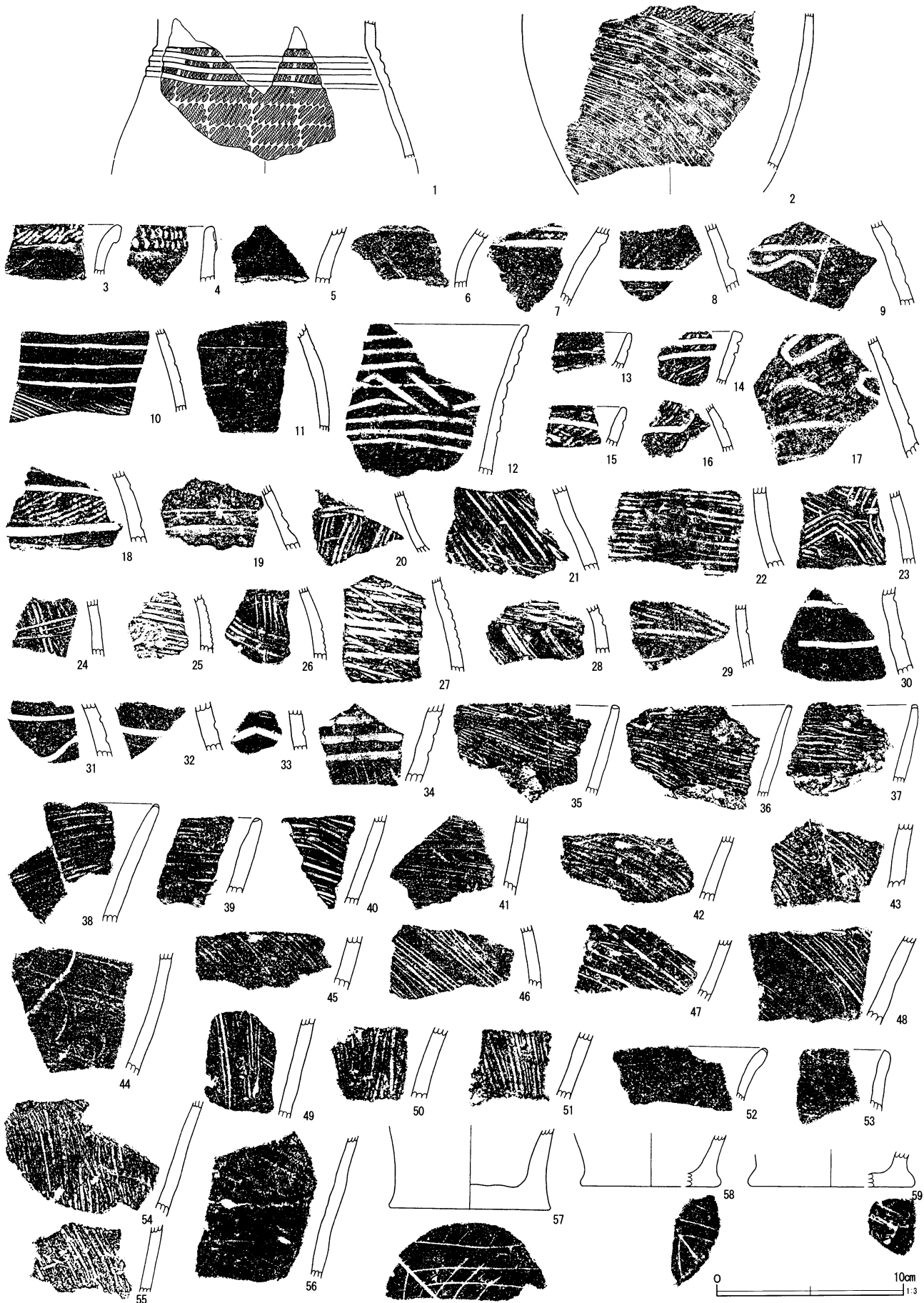
第1012号土壌 (第13図)

L-19グリッドに位置し、第936号土壌に隣接している。平安時代の土壌に壊されており、全形は不明だが、短径0.85 mで長径は推定1.6 m前後の長方形と考えられる。確認面からの深さは0.5 mである。覆土は2層に区分され、上層が再葬墓や遺物集中区の覆土に近く、下層は隣接する第938号土壌の最下層である5層に近似していることから、弥生時代とみなしてよいであろう。

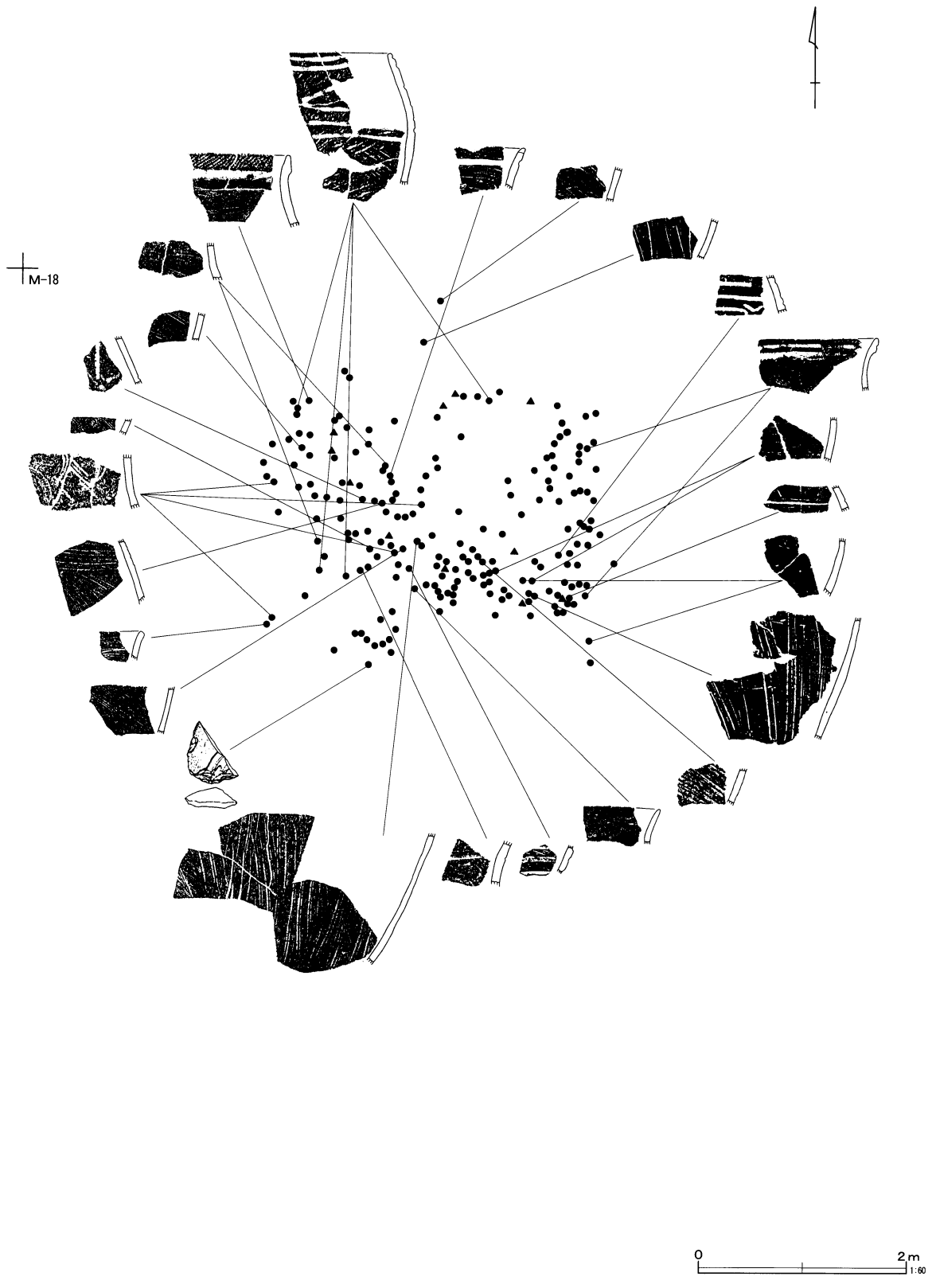
行期の資料を含んでいることから、相互に関連して機能したものと考えられる。なお後述するように、これら集中区を積極的に住居と評価できる要素は検出できなかった。

第1集中区 (第7図)

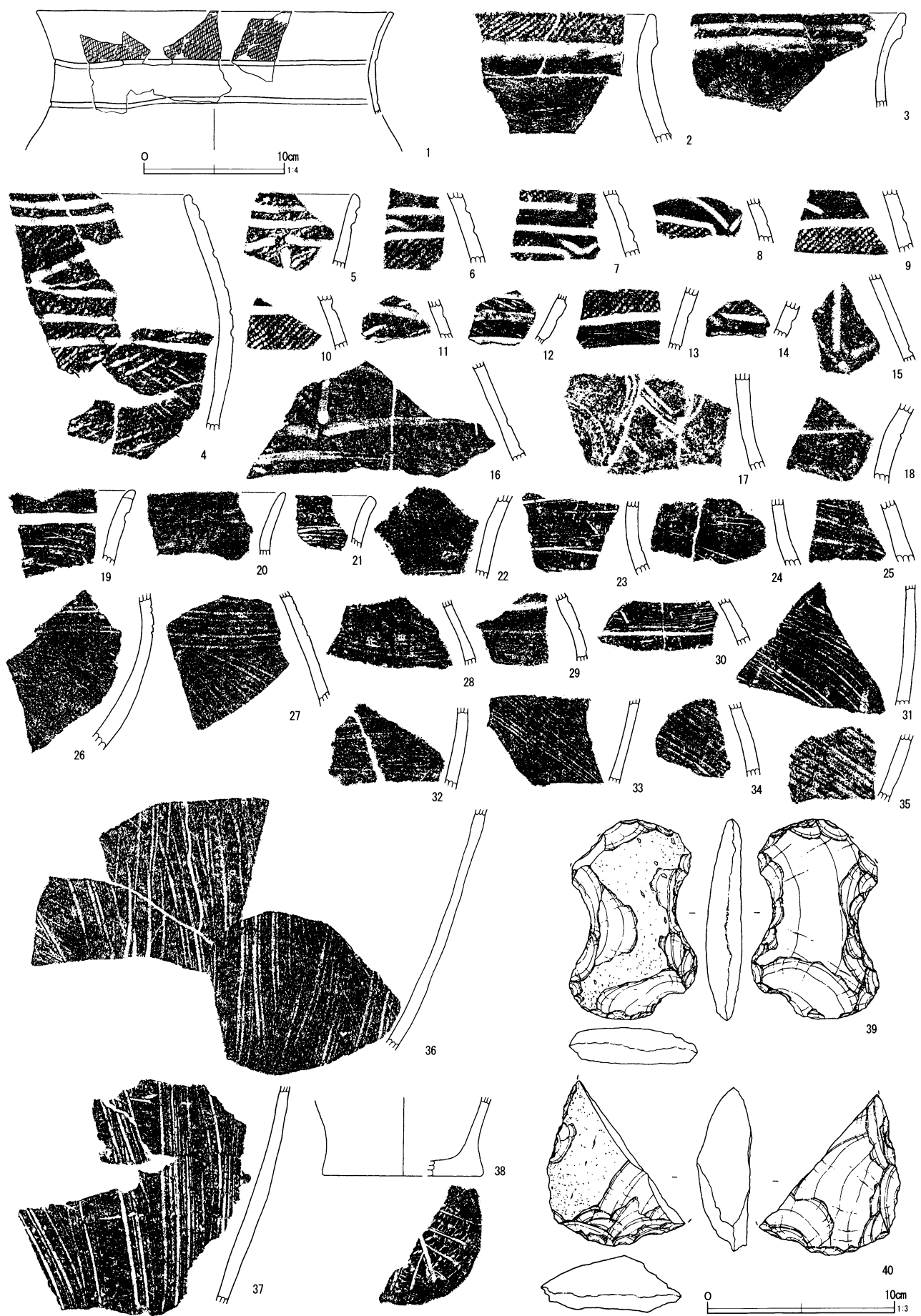
J～K-17～18グリッドで検出された。第1集中区の西側には第1号再葬墓(第602号土壌)、第2ab号再葬墓(第879ab号土壌)と第605号土壌が



第 14 图 第 1 集中区出土遗物



第15图 第2集中区



第16图 第2集中区出土遺物

ある。南北5 m×東西3 mの楕円形の範囲に土器片を主体に、石器・剥片類を含んでいた。遺物の分布は平面的で、この範囲では堆積層も形成されておらず、遺物の出土位置に上下関係も認められなかった。

遺物を取り上げた後に周辺部も含めて精査したが、掘り込みや柱穴・炉跡などの竪穴住居を示す痕跡を検出することはできなかった。

第1集中区出土遺物（第14図）

遺物数は比較的多かったが、土器には微細な破片や風化が著しい破片が多く、図示し得た資料は少ない。

1は長胴で張りの弱い壺形土器の口頸部破片である。頸部は無文で、頸下端と肩部の境に段をもち、文様帯はLR縄文地上に3条の平行沈線で区画されている。現存高7 cm、現存部の最大径は推定16 cmである。

2も恐らく壺形土器の胴下部であろう。最大径より下部まではLR縄文が施文され、以下には粗い条痕が施文されている。現存高8.5 cm、現存部最大径15.4 cmである。

3以下に破片を一括した。3～4は肥厚する口頸部破片で広口壺か甕形土器であろう。3には縄文が施文され、4には2条の半截竹管文が施文されている。何れも頸部は無文である。

6～19には沈線文と縄文が施文される破片を一括した。何れも横帯区画をもつ破片で、棒状工具による単沈線で区画や文様が描かれている。12は浅い縄文施文の痕跡が認められる。小破片が多く、器形や文様の詳細は不明であるが、充填縄文が施され、15～17のように図と地とのネガ・ポジ関係を示す曲線的なモチーフも存在するようである。

30～34は沈線文に前者との共通性が認められるが、地縄文を持たない土器として区分した。恐らく壺形土器であろう。

20～29は櫛状や小口状工具によって区画や文様が描かれる破片を一括した。何れも壺形土器の頸部

から肩部にかけての破片と思われる。20は頸部の縦条痕文、23～29は肩部から胴部破片で、菱形文や格子目文などが描かれているようである。

35～56には条痕文が施文された破片を一括した。甕を主体に壺形土器の破片が含まれている。比較的細密な印象を与える条痕と、1単位が粗い条痕、或いは間隔を空けて施文される条痕などが存在する。胴下部では縦方向に施文されており、概して粗い条痕が多いようである。35～37は同一個体で、甕形土器であろう。38～39は同一個体で、38の口唇は緩い山形状の突起を有する。

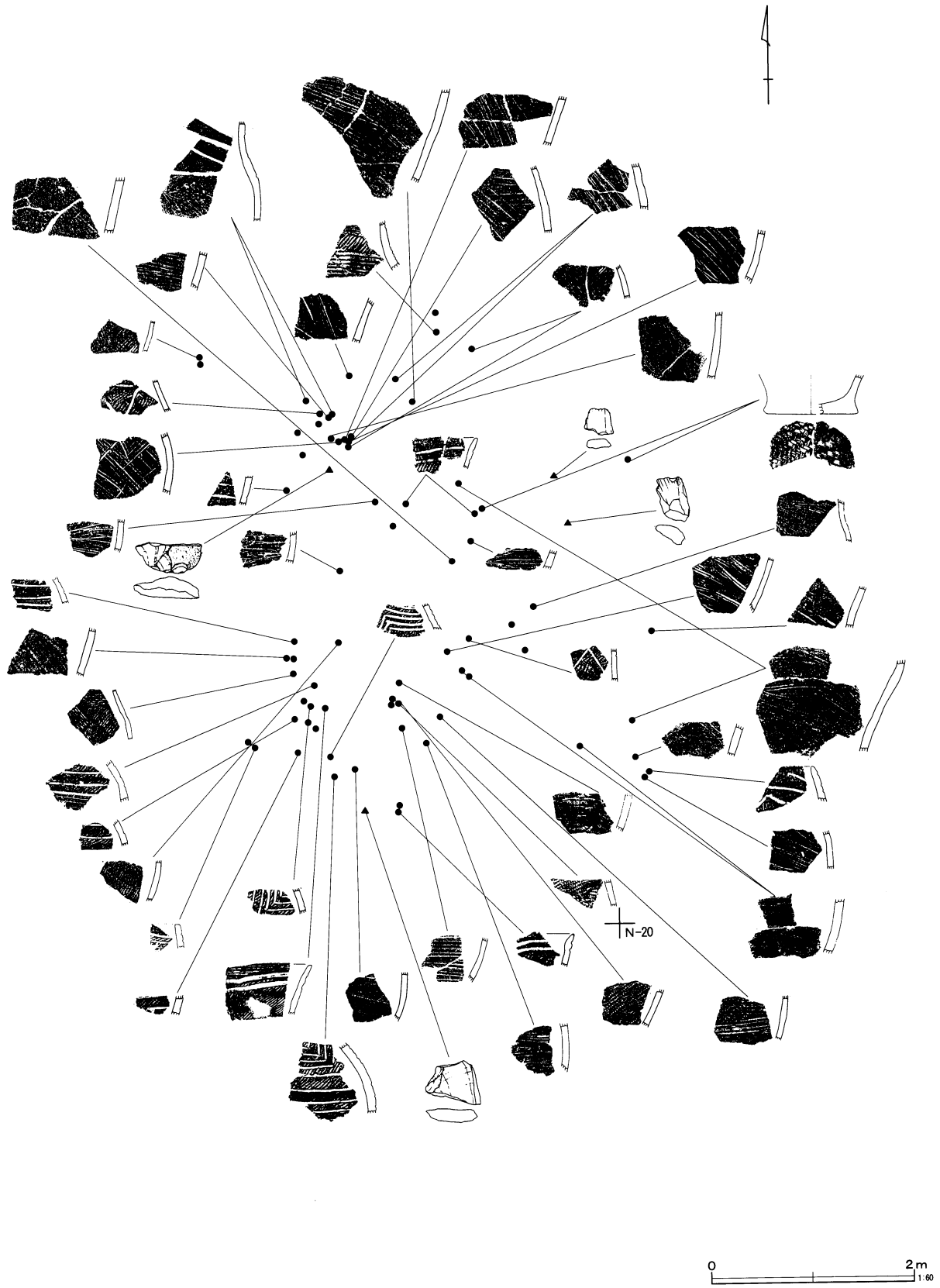
57～59に底部は破片を一括した。57は底部に向かって下端が張り出し、58～59は突出している。57～58は木葉痕を、59は網代痕をもつ。

第2集中区（第15図）

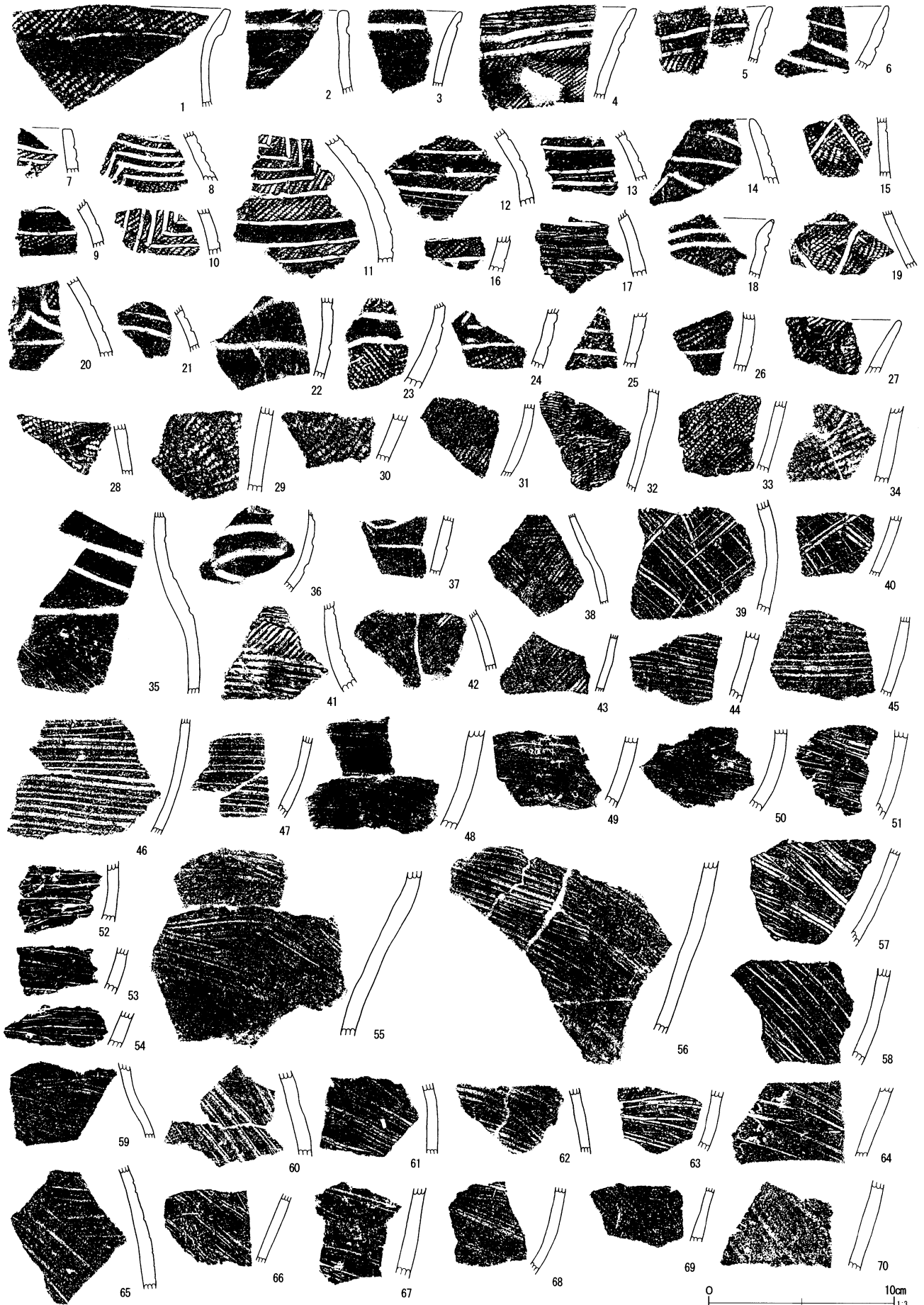
L～M-18グリッドで検出された。遺物の分布範囲は東西3.6 m×南北3.4 mで、平面的には楕円形を呈している。遺物分布範囲は暗黄褐色の地山面に対し、暗褐色の広がりを持っていたことから、竪穴住居の存在を想定した。遺物を取り上げた後に再度精査した結果、確認面から4～5 cm程度の極めて浅い落ち込みが存在した可能性があり、覆土と想定した暗褐色土はこの範囲に堆積していたものと推定した。垂直分布にも若干の上下差が存在していた。地形が窪んでいた部分に集中区が形成された可能性もあろう。遺物分布図ではこの範囲のみを図示したが、その後の調査で、散漫ながらこの範囲以外にも東側に若干分布範囲が広がることが明らかとなった。

遺物取り上げ後の精査では、地山面からは直径が0.3 m程度の被熱し赤変した個所が検出された。地床炉の可能性もあり精査したが、炉としての掘り込みは確認できなかった。成因は不明だが、平面的に被熱したものと思われる。柱穴も検出できなかったため、竪穴住居が存在した可能性は低いと考えられる。

第2集中区の南端には第4号再葬墓（第701号土壙）があり、集中区の土器が再葬墓上面に広がって

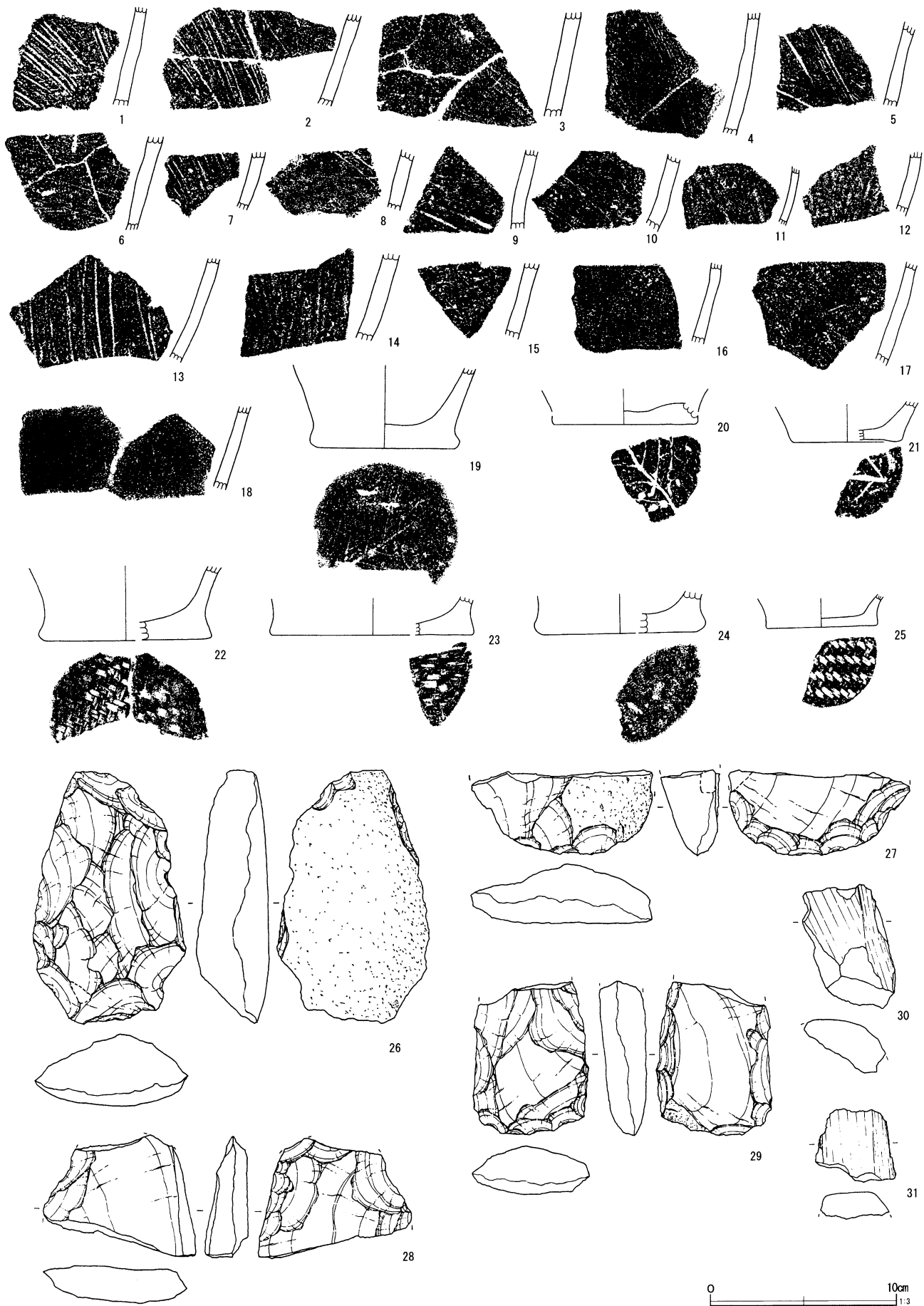


第17图 第3集中区



0 10cm
1:3

第18图 第3集中区出土遗物(1)



第19图 第3集中区出土遗物(2)

いた。集中区の遺物を取り上げた後に精査したところ、第741号土壙が検出された。このことから、第2集中区は土壙や再葬墓の形成後ほどなく遺物の廃棄が行われた場所と考えられる。出土遺物は土器を主体に、打製石斧、さらにチャートを主とした小型の剥片やチップ類が含まれていたが、石鏃等の定型的な剥片石器は出土しなかった。剥片には縁辺部に使用痕を持つものが僅かに認められた。

第2集中区出土遺物 (第16図)

1～15は縄文と沈線文が施文された土器群を一括した。1は甕形土器で、口唇部外面と口唇上にLR縄文が施文されている。頸部はナデ整形され無文である。2～3は口頸部が短く内傾する壺形土器である。口唇部が肥厚しLR縄文が施文される。3は縄文施文後に浅い沈線を施文している。

4は横帯区画間に三角形の単位文が施文されている。5、15～16は対弧モチーフの接点に、円形刺突を接続する縦沈線が引かれている。

6～14は同一個体で、充填縄文の土器である。17は半截竹管内面で小波状文が施文されている。

19～37には条痕施文の破片を一括した。壺を主とし、鉢や浅鉢形土器が存在しそうである。横帯構成を持つ破片が多いが、横帯間にモチーフが描かれる土器は少ないように思われる。19は小突起をもつ口唇下に沈線がめぐっている。胴下半から底部にかけては斜位から縦位の粗い条痕が施文されている。

38は木葉痕をもつ底部破片である。第2集中区で出土した底部は1点のみである。

39は片面に自然面をもつ分銅形の打製石斧である。長軸線に対して刃部と基部が斜行し、刃部に抉りを有する。長さ10.8cm、幅6.8cm、厚さ1.9cm、重さ158.4g。ホルンフェルス製。

40は片面に自然面を持つ大型打製石斧の刃部破片である。長さ8.8cm、幅7.4cm、厚さ2.4cm、重さ136.5g。ホルンフェルス製。

第3集中区 (第17図)

N-19グリッドで検出された南端の集中区で、東西4m×南北5mの範囲に遺物が集中する。第2集中区の約2.5m南東に位置するが、第3集中区との間は遺物が希薄であることから、両者を独立した集中区として把握した。遺物の垂直分布は平坦で特に掘り込み等は認められなかった。出土遺物は土器を主体に打製石器や、チャート主体の微細な剥片類が含まれていたが、全体に出土量は少なかったが大型破片や遺存状態の良好な破片が多かった。また出土土器には、再葬墓よりもやや新しい時期の土器が含まれていた。集中区の下部から土壙などは検出されなかった。第3集中区の南側には未調査範囲である緑地帯があり、この部分にも弥生時代の遺構が存在する可能性が高い。

第3集中区出土遺物 (第18図～第19図)

第18図1～38には縄文と沈線文が施文された土器を一括した。1～6は幅狭い口唇部に縄文施文される土器群である。1は受け口状で肥厚した口唇外面に縄文が施文されている。2～4は口唇直下に沈線がめぐり、2～3は頸部無文。4は口唇部に条痕が施文され、口唇直下の縄文地上に2条の沈線がめぐっている。

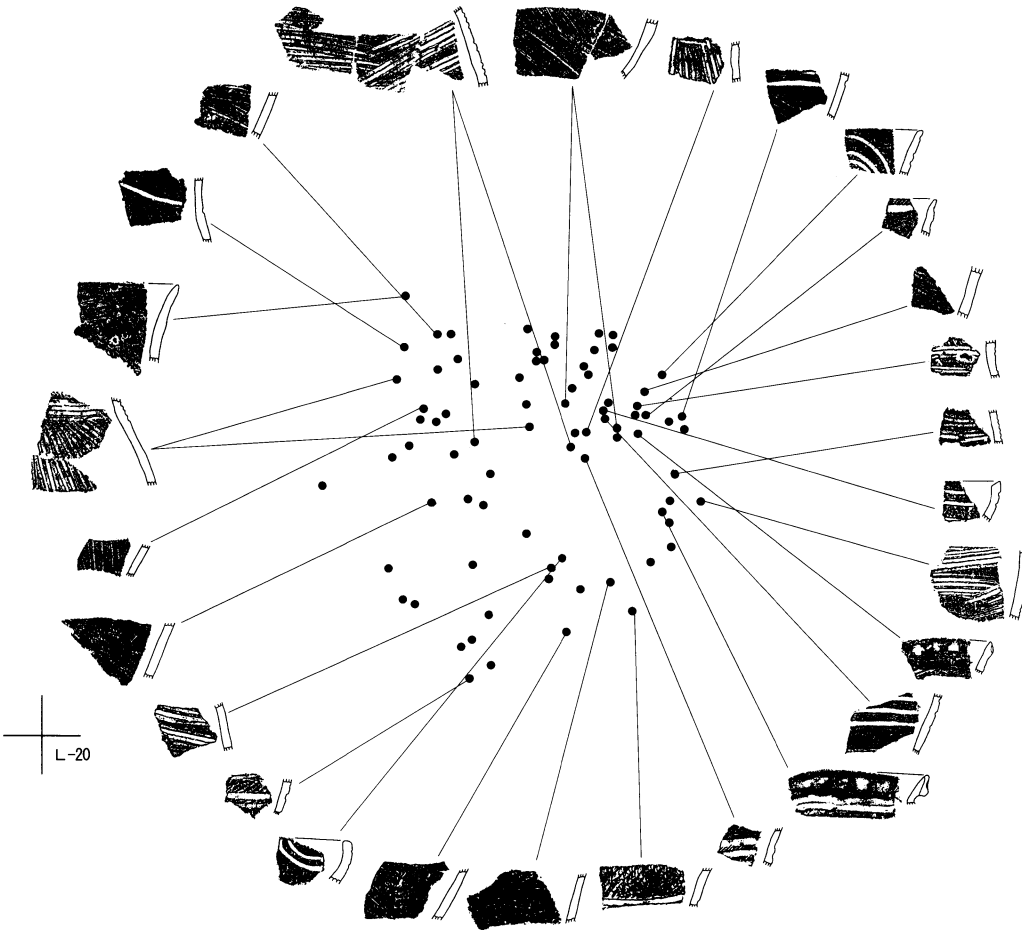
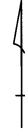
7～13、16は重畳する平行沈線で区画線や文様が描かれた土器である。このなかで7～8、10～11は胎土・整形・文様などから同一個体と考えられる破片で、縄文地文上に区画された横帯内に重四角文が施文されており、区画線間は地文が磨り消されている。

14～15、19は頸部から肩部破片で、平行沈線による横帯間に鋸歯文が施文されている。28～34は地文のみの胴部破片で、全てLRである。32は条が極めて細い。

35～37は沈線のみで文様が描かれた破片で、縄文施文の土器と文様は共通する土器である。

38～43は半截竹管や櫛歯状工具により文様が描

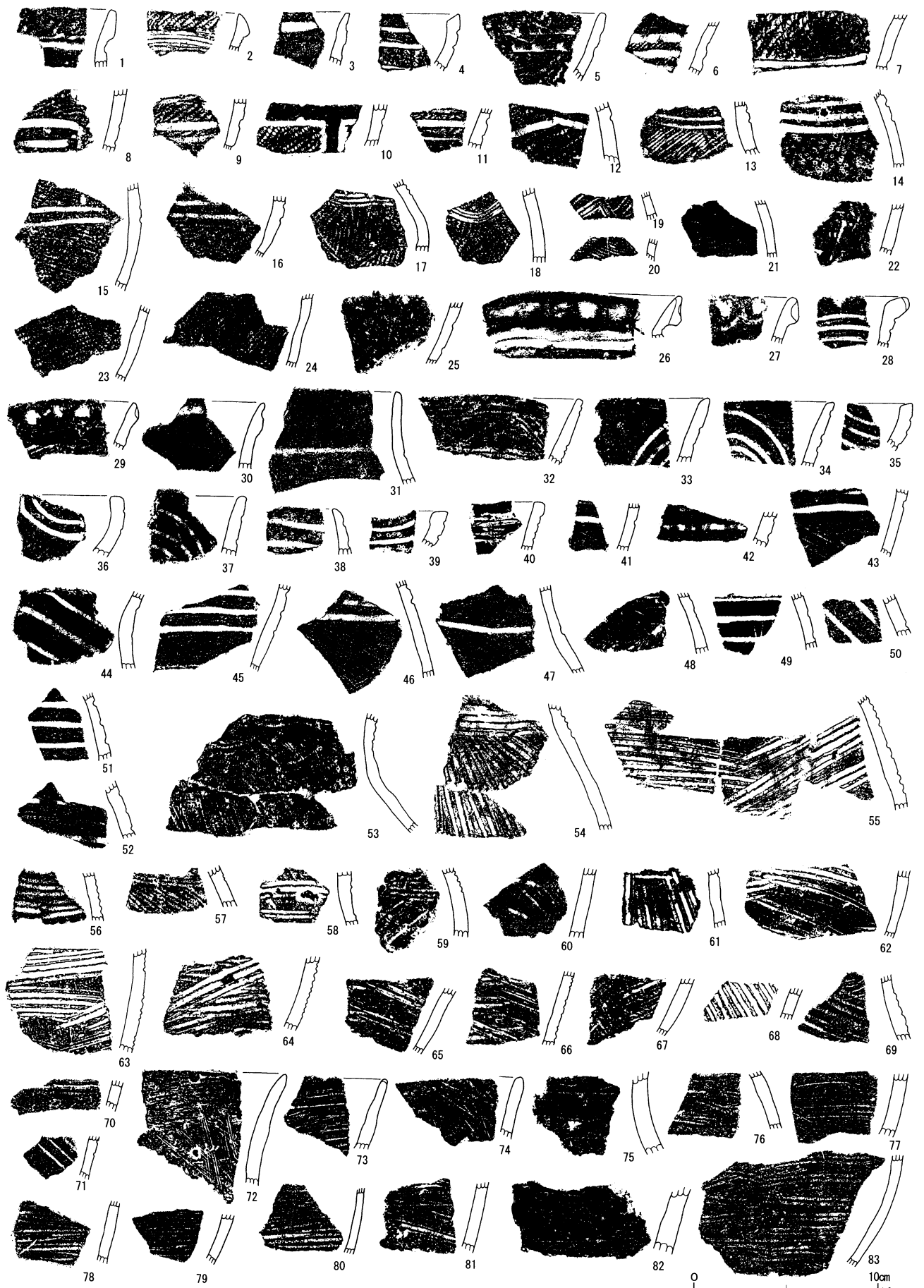
K-20



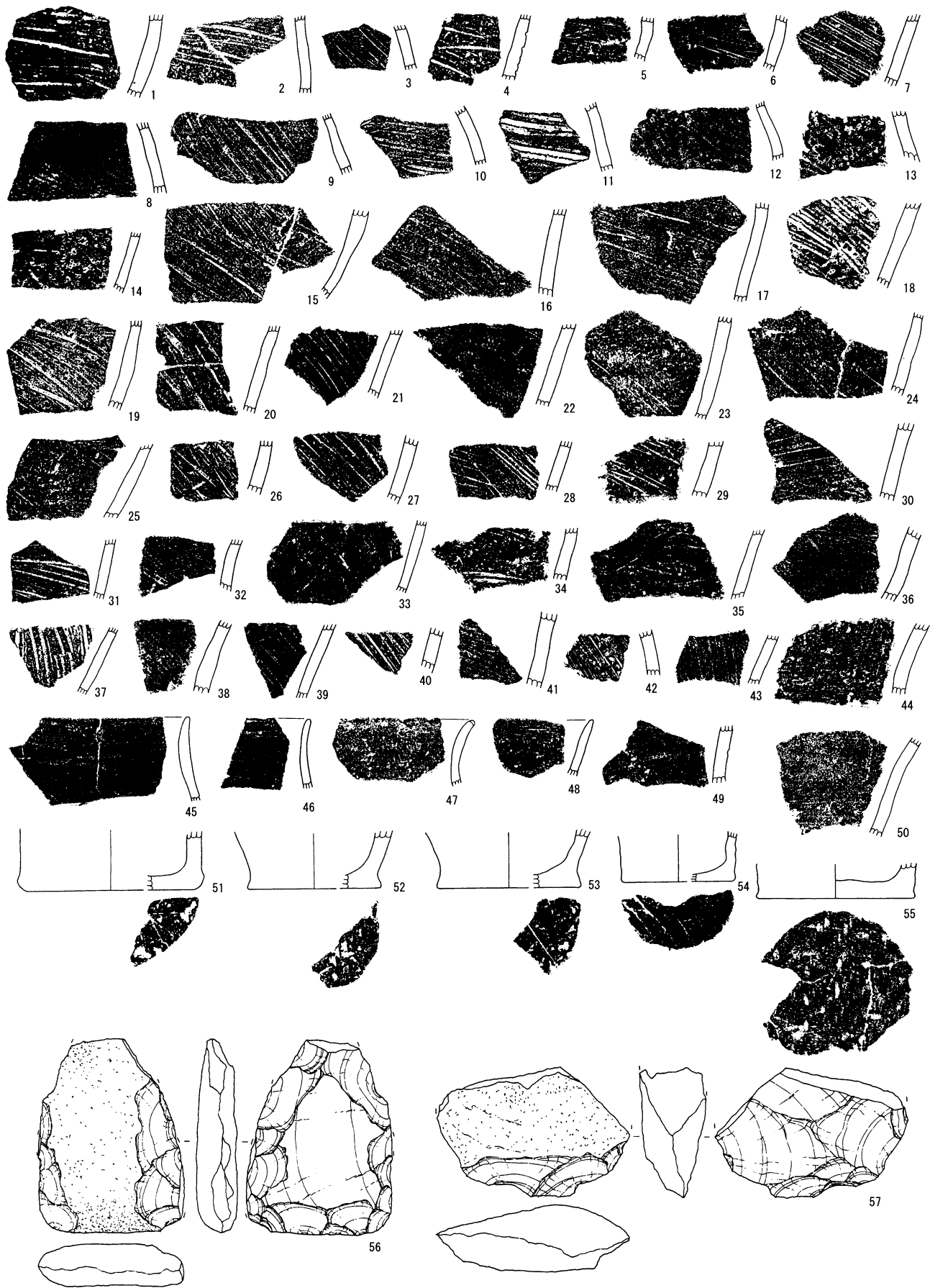
L-20

0 2m 1:60

第20图 第4集中区



第21图 第4集中区出土遗物(1)



第22图 第4集中区出土遗物(2)

かれた土器を一括した。38、41～43は壺形土器の頸部破片で、幅狭い横帯間に斜行線や鋸歯文が施文されている。39～40は同一個体で、半截竹管による格子目文が施文された壺形土器の胴上半部破片である。

44～70、第19図1～14は条痕施文の胴部破片で、44～55のように横位に施文され肩部・胴部文様帯下端を区画し、胴中位から底部にかけては斜行～縦位の条痕が施文されている。これらの土器は先述の有文土器と同一個体のものも含まれていると思われる。

第19図15～18は無文の胴下部破片で、残存部位から見ても条痕が施文されていた可能性は低い。

第19図19～25には底部破片を一括した。19～21は木葉痕を、22～25は網代痕を有する。

同図26～31は第3集中区から出土した石器類を一括した。

26は片面に自然面を残す打製石器で、石斧ないしは礫器と考えられる。刃部は丸みを持ち、剥離は裏面に集中しているが粗い造りである。長さ13.5cm、幅8.2cm、厚さ3.9cm、重さ418.6g、ホルンフェルス製

27は刃部のみの破片で、いわゆる石鋏である。長さ4.5cm、幅9.7cm、厚さ3.2cm、重さ136g、ホルンフェルス製

28は基部のみ残存した打製石斧ないしは石鋏であろう。長さ6.5cm、幅8.2cm、厚さ2.3cm、重さ121g、ホルンフェルス製

29は短冊形の打製石斧で基部の欠損品。刃部には擦痕が認められる。長さ8.2cm、幅6.2cm、厚さ2.6cm、重さ169.2g、ホルンフェルス製

30～31は砥石と考えられる欠損品で、31は使用面が赤色化している。31は長さ6.7cm、幅5cm、厚さ3.8cm、重さ57.4g、砂岩製。32は長さ4cm、幅4.3cm、厚さ2.1cm、重さ16g、砂岩製

第4集中区 (第20図)

K-20グリッドで検出された。東西-南北径が約3mの範囲内に遺物が集中していたが、量的にはさほど濃密な分布とはいえない。垂直分布に上下差はなく、ほぼ平坦な出土状態であった。出土遺物は土器片を主体に少量の打製石器を含んでいた。集中区の遺物取り上げ後に検出面の精査を行ったが、掘り込みや炉、柱穴などは検出できなかった。なお第772号・第773号土壌は集中区の範囲確認作業において検出された。

第4集中区出土遺物 (第21図～第22図)

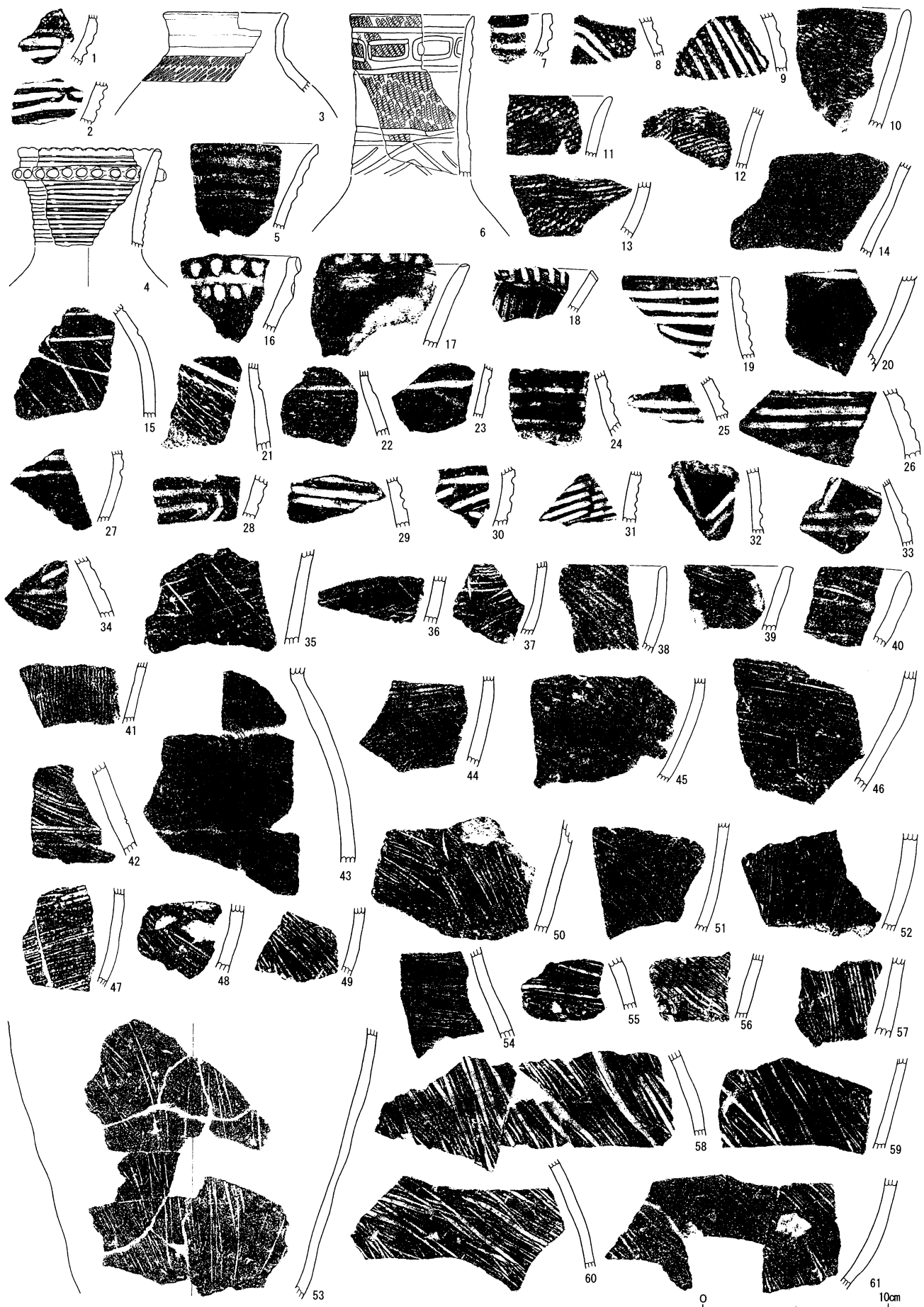
第21図1～19には縄文と沈線文が施文された破片を一括した。1～2は肥厚した口唇に縄文施文された破片で、1は単沈線で、2は櫛歯状工具で頸部が区画されている。3～16は棒状工具による単沈線で区画や文様が描かれた破片で、10は杵状に区画されている。17～19は櫛歯状工具により区画線や文様が描かれた破片である。20～23は縄文のみの破片で、残存部位からは有文か否かの判別はできない。

26～52には縄文を持たず単沈線で区画や文様が描かれた土器を一括した。26～30は幅狭い口唇部が肥厚し、口唇外面や口唇上に棒状工具の先端部や指頭によって円形の押圧が施された破片である。これに類する土器は、第2b号再葬墓(第879b号土壌)から出土(第10図5)している。

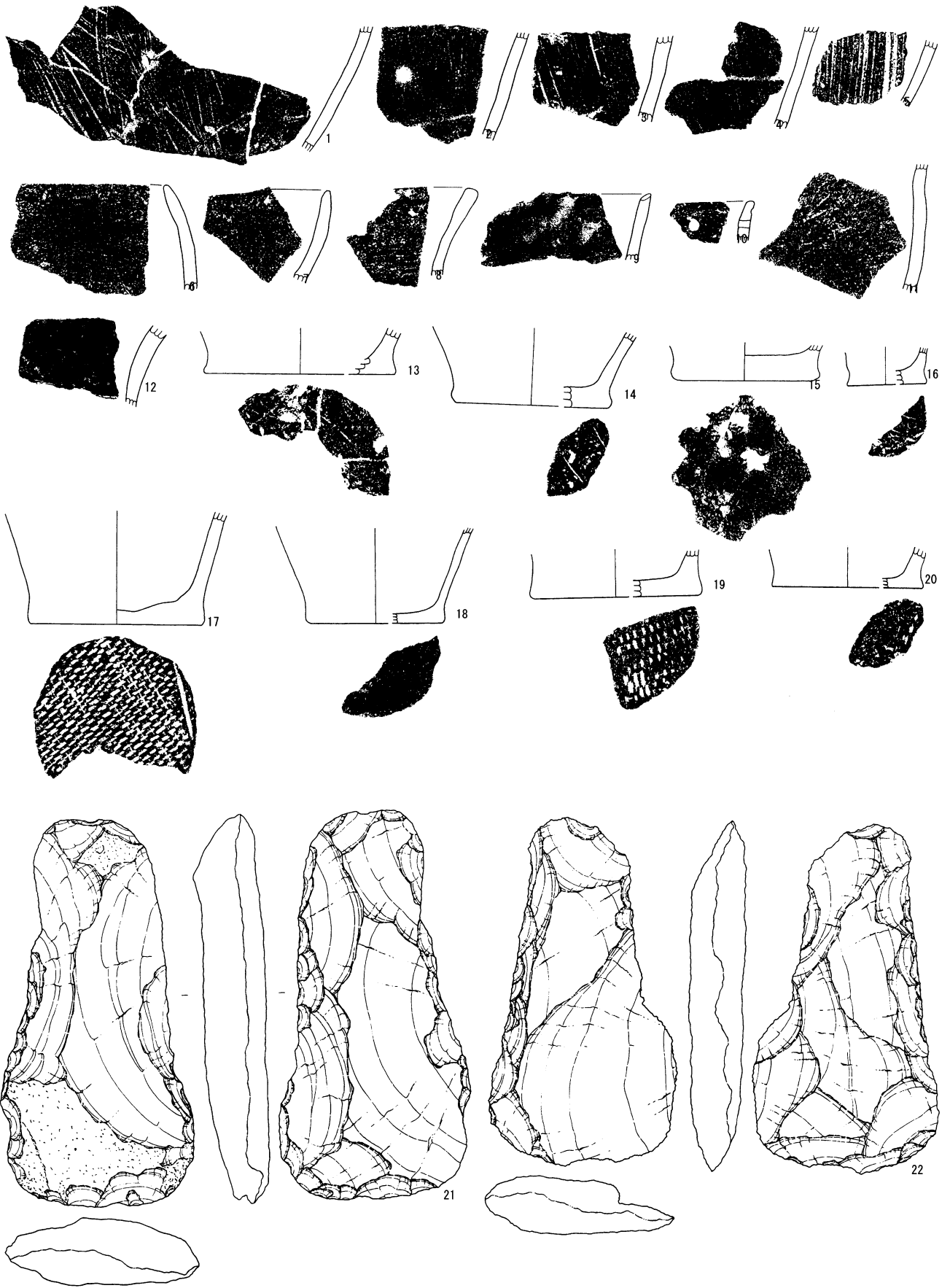
31～40は口唇が肥厚せず、平行沈線により直線や曲線的な沈線文が施文された土器である。32は半截竹管内面による波状文が施文されている。

53～83、第22図1～44には条痕施文の破片を一括した。文様帯の区画や文様は同一工具によって描かれ、胴中位では横位に、胴下半から底部にかけては、斜行～縦位の条痕文が施文されている。

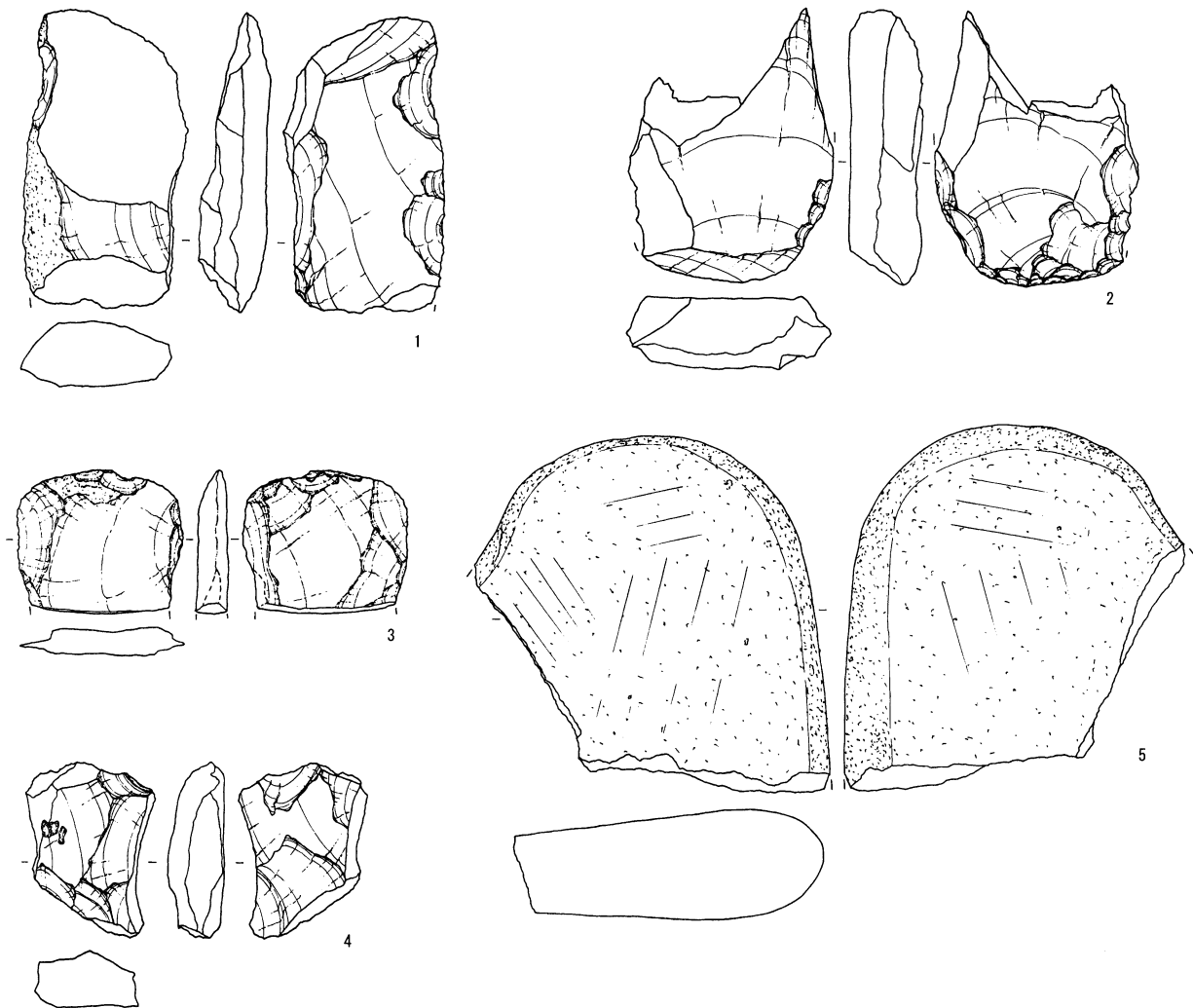
第22図45～50には無文の破片を一括した。器形には甕や壺が存在する。45～46は器内外が丁寧に研磨されている。



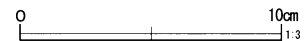
第23图 第5集中区出土遗物(1)



第24图 第5集中区出土遗物(2)



第25図 第5集中区出土遺物(3)



同図51～55に底部破片を一括した。直線的に底部に至るものと外方に張り出すものがあるが、何れにも木葉痕が認められる。

同図56～57は第4集中区から出土した石器である。56は撥形の打製石斧。長さ10.4cm、幅7.7cm、厚さ2.3cm、重さ207.7g、砂岩製

57は礫器の欠損品。長さ7cm、幅10.2cm、厚さ3.5cm、重さ256g、ホルンフェルス製

第5集中区(第7図)

G～H-12～13グリッドで検出された。第1～第4集中区と比較して分布範囲が広く、さらに西側に広がっていると考えられる。下層の調査範囲は12列中間から以西が緑地帯に変更されたため、下層部分が調査対象から除外された。従って西側への

広がりを確定できなかったが、推定では南北14～15m前後に広がりが想定できる。先に触れたように、遺物集中区と再葬墓、土壌などが関連して弥生時代の墓域を形成していたと可能性があることから、さらに西側に遺構が存在する可能性が高いと考えられる。

第5集中区では他と比較して遺物の分布がやや散漫であった。遺物の取り上げ後に精査したが、掘り込みや炉、柱穴などを検出することはできなかった。

第5集中区出土遺物(第23図～第24図)

第23図1～2は印刻手法による工字文が施文された破片である。残存部位が少ないが、浅鉢形土器の可能性が高い。

3・6～14には縄文が施文された土器を一括した。3は口頸部が短く肩部の張りが強い壺形土器である。

口頸部は無文で口唇部が「く」の字状に外反する。頸部と肩部との境には指頭によるナゾリが施され、段上に形成されている。肩部以下にはLR縄文が施文されている。現存高5 cm、口径9 cm、最大径12 cmで小型の壺形土器である。

6は長頸壺形土器の口頸部から肩部の破片である。LR縄文を地文に持ち、口唇直下に長方形の区画文が施文され、頸部はやや張り出した文様帯を形成し、素文である。単沈線を重畳させ、菱形状の文様が施文している。現存高12 cm、口径9 cmである。

4～5、15～37には縄文を持たず、単沈線や半截竹管による平行沈線で区画や文様が描かれた土器を一括した。5は口唇外面が鋭角に面取りされ、器面に幅の広い工具を横位に引くことにより、ミミズ腫れ状の微隆起線を複数段に作出した土器である。この種の土器は図示した1点のみであるが、第5集中区には他の時代の混入がないことから、弥生時代として扱った。或いは工字文の作出技法に関連する可能性も考えられる。黒褐色で風化が進んでいる。

4は口唇状に刻みが施され、口唇直下に貼付された粘土帯上に円形押圧が施された壺形土器の口頸部破片である。粘土帯下には半截竹管内面の重畳による半隆起線が引かれている。16～18は口唇上や口唇外面に刻みや押圧が施された類である。16は口唇直下の沈線を挟んだ2段の肥厚部に押圧が施されている。

19は平行沈線間に変形工字文風の文様が施文されており、20と同様浅鉢形土器と思われる。25～27、29～30も浅鉢の可能性が高い。以上の土器は沈線が概して浅く扁平に引かれている点が共通している。

15、21～24、31～34は壺形土器の頸部から肩部にかけての破片と考えられる。31は櫛歯状工具による横位の施文が、32～33は単沈線による鋸歯状文が施文されている。

35～37は格子目文が施文された例で、同様の資料は第3集中区にも類例(第18図39～40)がある。

第23図36～40は口唇から斜位に条痕のみが施文され、文様帯構成をもたない甕形土器であろう。

41から61、第24図1～5は条痕施文の胴部破片を一括した。壺形土器が多く、同一工具により文様帯区画線と文様を描いている。42～45のように比較的細かく密な条痕も存在するが、概してやや粗い印象を受けるものが主体を占めている。また胴下部から底部にかけては、縦位の施文方向をとり、一層粗い施文となっている。

第24図6～12には無文の土器を一括した。6は内湾する鉢、7は直立気味の鉢、8～12は甕形土器であろう。9には成形時の指頭圧痕が残されている。10には補修孔が見られる。

13～20には底部破片を一括した。13～16は木葉痕を、17～20は網代痕をもつ。圧痕と底形に違いは認められない。

第24図21～22、第25図1～5に石器類を一括した。21は撥方の完形品で、刃部と基部の片面に自然面を残す。両側縁の剥離は細かく丁寧である。長さ20.2 cm、幅10.1 cm、厚さ3.6 cm、重さ709.5 g、ホルンフェルス製

22は左側縁に大きな剥離が加えられ、基部が細めに整形されている。右側縁が直線的で調整剥離が丁寧なことから、石斧の欠損品を再加工したものであろうか。刃部は雑な剥離だが石鋏の形態を有している。長さ18.2 cm、幅9.8 cm、厚さ3 cm、重さ484 g、ホルンフェルス製

第25図1は打製石斧の欠損品。長さ11.7 cm、幅6.4 cm、厚さ2.7 cm、重さ231 g、ホルンフェルス製

同図2は打製石斧の刃部で、長さ10.8 cm、幅5 cm、厚さ2.9 cm、重さ240.5 g、ホルンフェルス製

3は打製石斧の基部のみ、4は欠損部位が多く全体の形状は不明だが、剥離から石斧と考えられる。石材はともにホルンフェルス製である。

5は扁平な河原石の両面が窪んでおり、擦痕が観察される。側縁部には加工痕が見られないことから、扁平楕円形の川原石を石皿として利用したものと考えられる。長さ14.1 cm、幅13.6 cm、厚さ5.2 cm、重さ1256.7 g、閃緑岩製

4. グリッド出土土器 (第26図10～第29図)

下層の調査で出土した弥生時代の遺物は、再葬墓や遺物集中区にまとまっており、それ以外からは散発的に出土したに過ぎない。また、上層の遺構を調査中に出土した弥生土器で、集中区に該当するもの以外はグリッド出土土器として扱った。既にふれたように、これらのなかには上層の遺構構築などの要因によって破壊された弥生時代の遺構に伴うものも存在したようである。グリッド出土遺物のうち、器形復元可能な大型破片が出土していることもその傍証となろう。

第26図10は胴の中央から下部寄りに最大径を持ち、口頸部がすぼまる広口壺形土器である。口唇が外反気味に立ち、口唇上面に連続した指頭押圧が施されて外方に張り出すと共に小波状に形成されている。器面にはLR縄文が横位施文されているが、成形時の輪積み痕が残されているために、縄文の施文が雑な印象を受ける。胴部に文様は認められない。現存高7.5cm、口径と最大径は推定で10.6cm、13.4cmである。

11は小型の浅鉢で、口唇上に押圧を施し、口唇外面には押圧部分を中心に沈線がめぐっており、工字文的な印象を与える。口唇部には赤彩された痕跡が残る。胴部は風化が著しいが、LR縄文地文と思われる。現存高3cm、口径12.8cmである。

第26図12以下には破片類を一括した。12～47、50は縄文と沈線文が施文される土器群である。12は壺形土器と考えられる破片である。肩部の文様は主文様である三角形の沈線文が単位文風に施文され、内面には主文様に沿うように沈線が引かれている。変形工字文の系統を引くモチーフであるが、主文様間に縦沈線などは施文されない。モチーフが描かれる部位は丁寧に磨かれており、モチーフ以下には撚りが細かいLR縄文が施文されている。精選された胎土を用いている。接合しないが13～14も同一個体と考えられる。東北的な様相をもった土器といえよう。

15～16は同一個体と考えられる。平行沈線による曲線的なモチーフ間に、撚りの細かなLR縄文が充填施文されている。

17～21は壺形土器の口頸部と考えられる破片で、肥厚した口唇部に縄文が施文される。口唇下には杵状の沈線文が施文されている。縄文施文にネガ・ポジの関係が認められる。

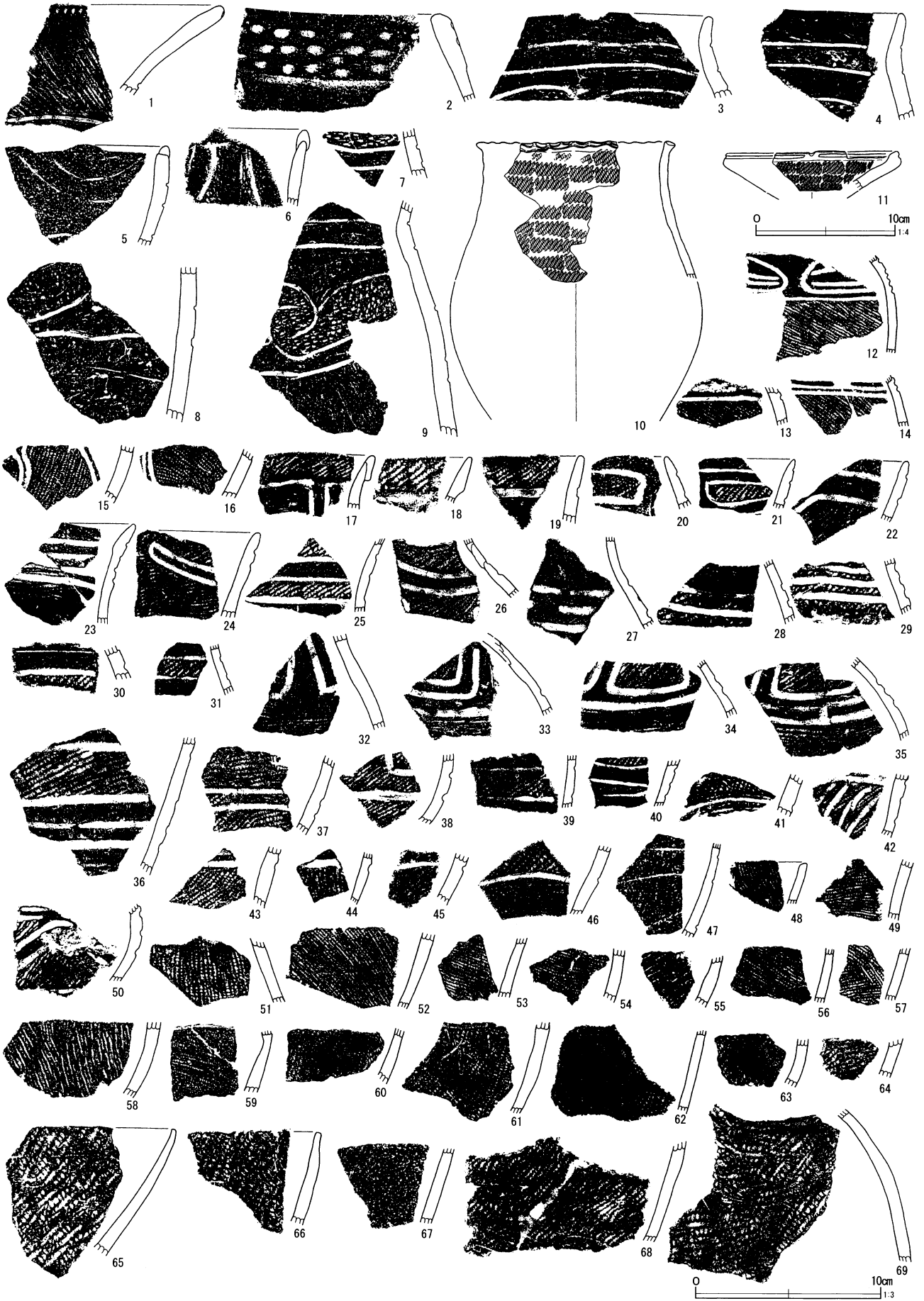
26～35は肩部周辺の破片で、方形ないしは長方形の区画文が施文されているが、沈線の重畳施文ではない。文様間には縄文が充填されており、文様以下底部にかけては条痕が施文されているようである。同一個体と考えられる。

22～24は甕形と考えられる破片で、23～24は波状口縁である。平行沈線によって区画文を構成すると思われるが、詳細は不明である。36～50は有文の甕形土器と思われ、文様間には縄文が充填施文されている。

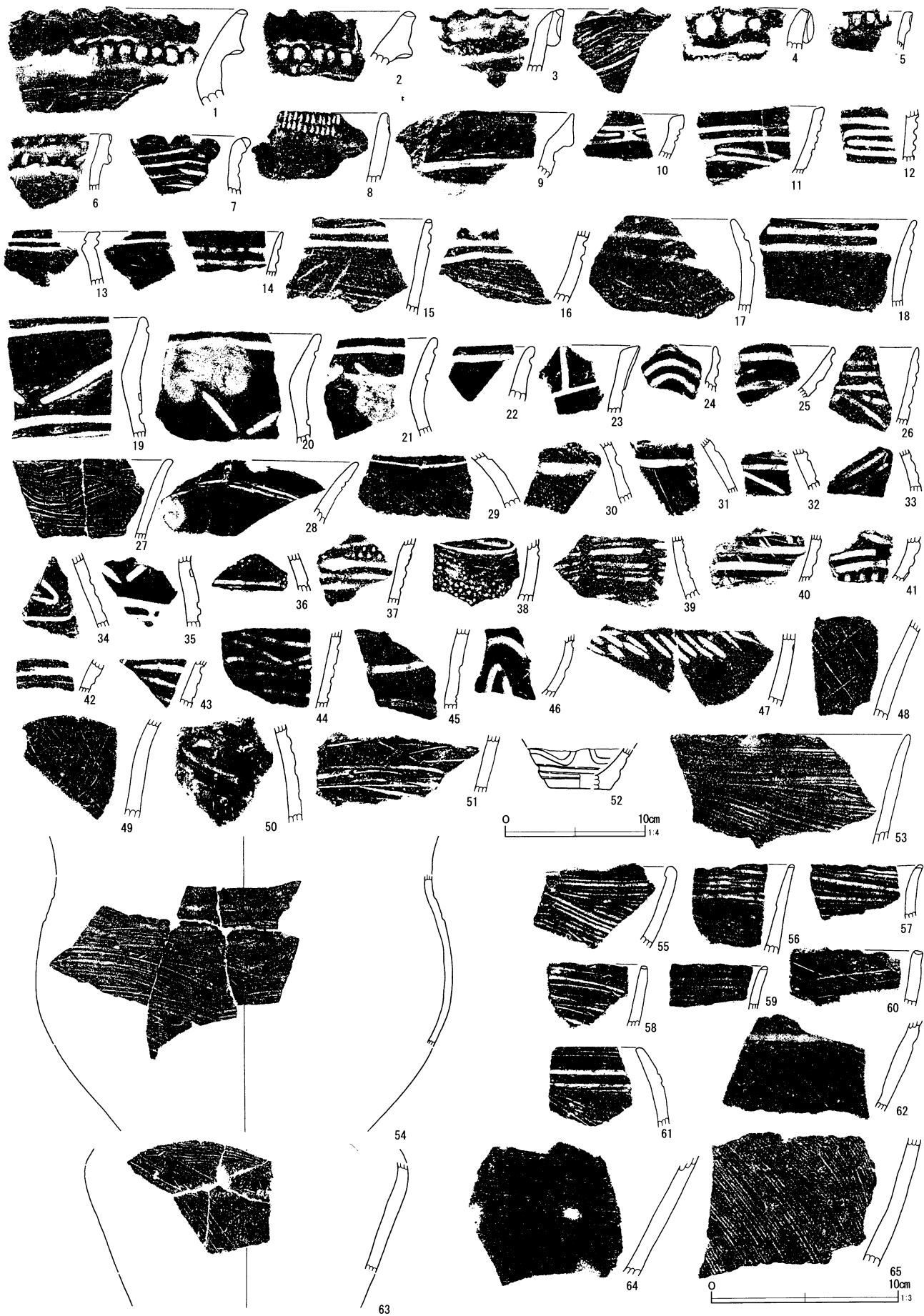
48～69には縄文施文の破片を一括したが、沈線文が施文される土器の胴下部の可能性もあり、厳密に縄文施文のみとは言えない。第26図12～14のように撚りが細かく密に施文されるものと、やや節が粗く、ランダムに施文されるものがある。器形は甕形が主体となるが、69のように壺形土器と考えられるものも存在する。

第27図には棒状工具あるいは半截竹管により沈線文が施文された土器群を一括した。この類の土器には縄文が用いられないようである。

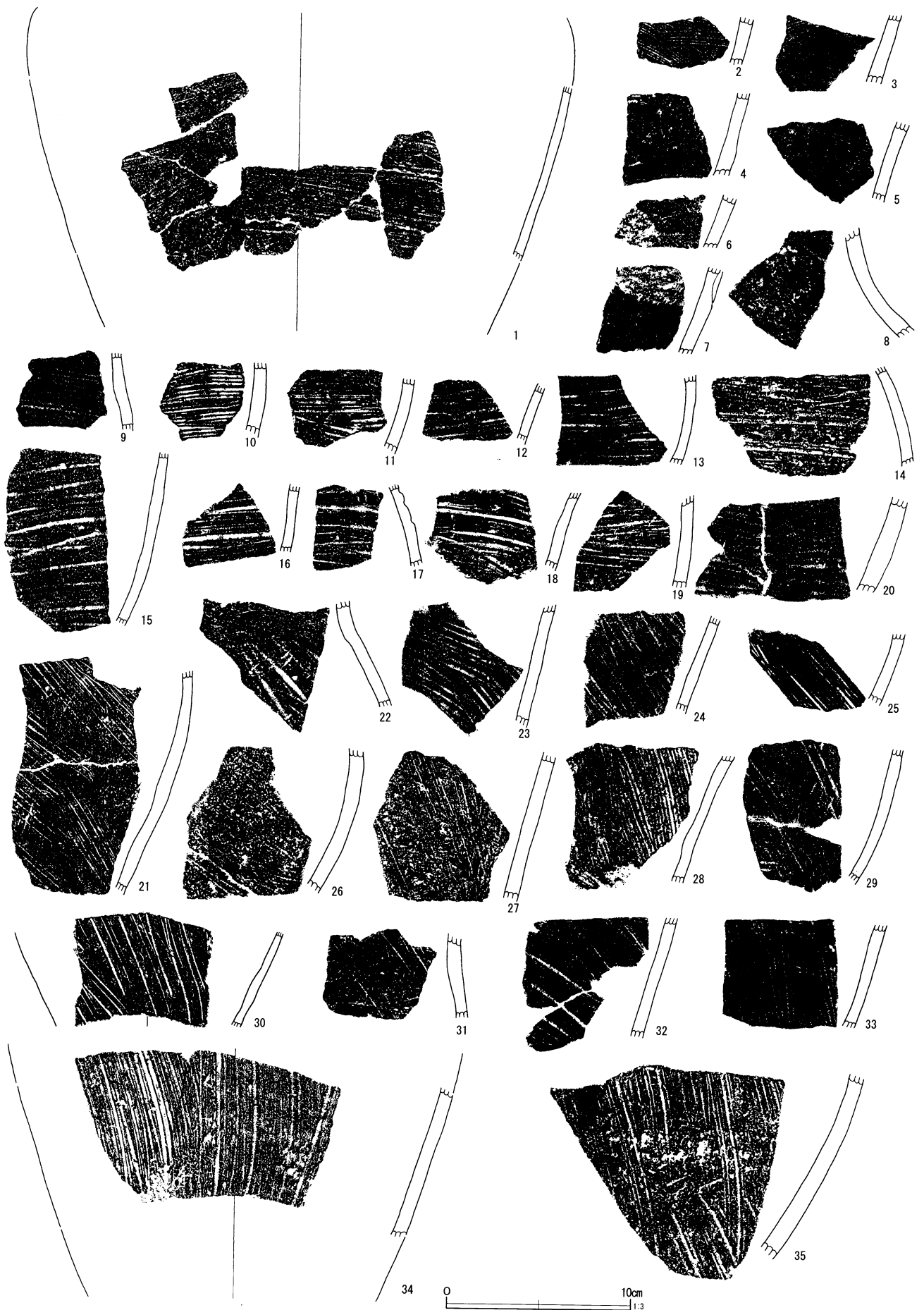
第27図1～4は口唇上が連続押圧によって小波状に形成され、口唇直下に貼付された隆帯上に円形押圧が施された壺形土器の口頸部破片である。1～2は同一個体で、口唇が強く外反する。3は口唇内面が内削ぎ状に成形され、内面にも条痕が施されている。9は口唇断面形が1～2と共通するが、口唇上の押圧や口唇直下の隆帯を持たないタイプであろう。隆帯下がどのような形態となるか定かではないが、1は小口状工具を用いた条痕により口頸部文様



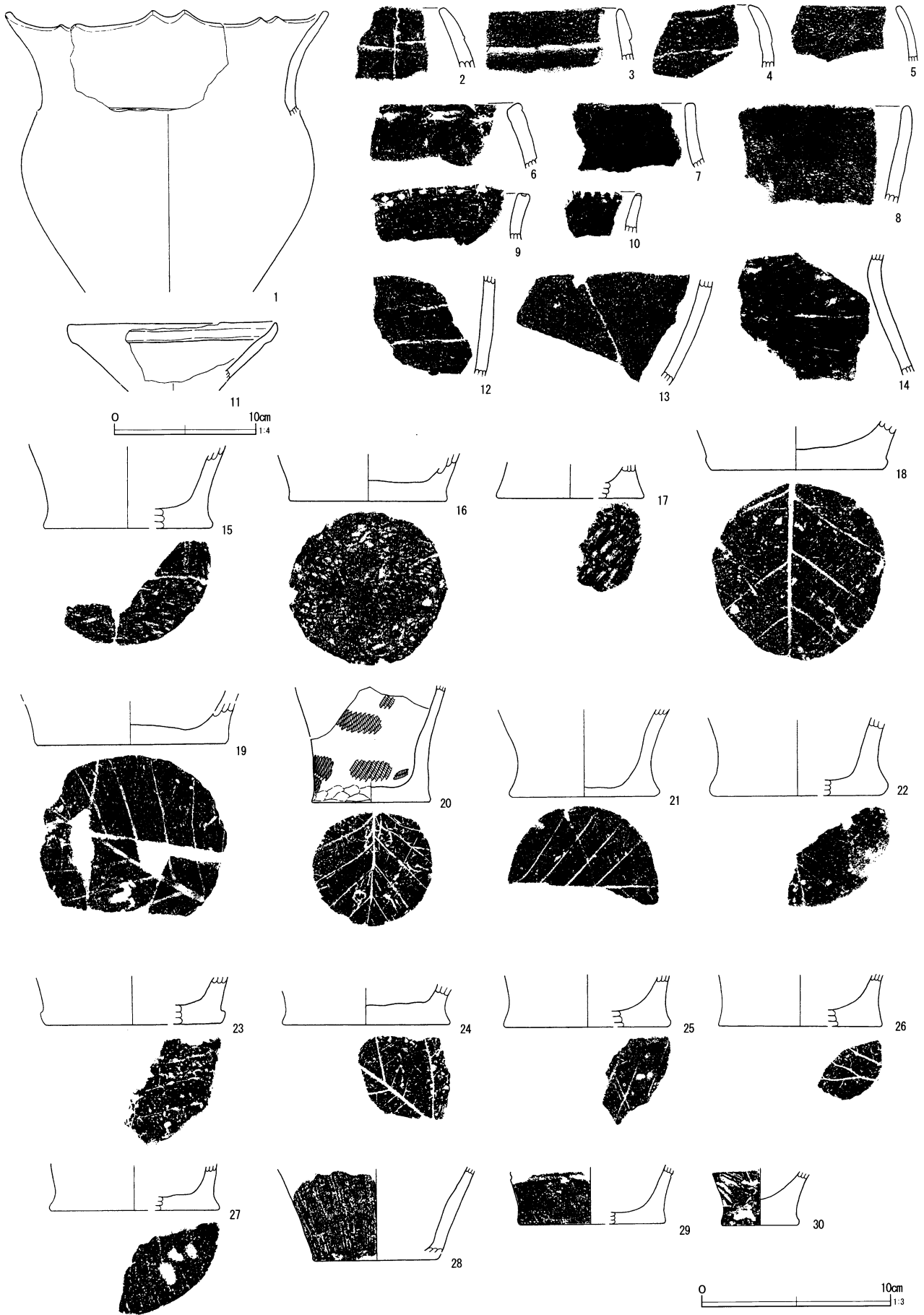
第26図 グリッド出土遺物(1)



第27図 グリッド出土遺物(2)



第28図 グリッド出土遺物(3)



第29図 グリッド出土遺物(4)

帯の上端区画線が引かれているようである。以上の土器群は条痕文が施文される特徴的な土器といえる。

同図5～6は口縁が受け口上となり、口唇下を巡る隆帯に押圧が施されている。7は口唇が外反し口唇上に刻みが施されている。口頸部文様帯区画線は半截竹管による平行沈線である。

8は口唇外面に二条の押し引きが施されたもので、隆帯が省略されたものとも考えられるが、他に類例はない。

10～12は口唇下の幅狭い文様帯に変形工字文系の沈線文が施文された土器である。小波状口縁の鉢形と考えられる。現存部位には縄文は施文されていない。10は工字文の末端が突出気味に描かれており、他の破片とは趣を異にしているが、沈線の描き方や器面整形などは、第26図12～14に酷似する。

同図13～18は口唇直下に二条の平行沈線が引かれた口縁部破片で、器形は13～16、18が鉢形、17は壺形土器と考えられる。13は口唇内面に一条の沈線が描かれている。沈線は扁平な印象を受けるものが多い。器面は無文地のものと、15～16のように条痕地文のものがある。

19～22は口縁が外反し胴上半が張る壺形土器が想定される。沈線によって区画された文様帯間に端部が接続しない単沈線により鋸歯文が描かれている。胎土・整形などからみて、4点は同一個体である。同様の構成で施文具や文様描出法が異なる破片に27がある。櫛歯状工具による施文で、文様が連続した波状文となっており、19～22例よりも後出の様相を感じさせる破片である。23～26は無文地上に単沈線で区画線や文様が描かれた土器であるが、小破片のため様相が把握できない。23～25は波状口縁で、23には波頂部から垂下する沈線が、恐らく文様帯上端区画と考えられる沈線に接している。24～25は複列の弧線が描かれる。26は壺形土器の口頸部と思われ、区画内には鋸歯文が描かれている。

29～36、40～46も単沈線による文様が描かれた土器で、殆どが壺の口頸部から肩部にかけての破片

であろう。

37は沈線によって工字文風の文様が描かれ、空白部には細かな円形刺突が施されている。他とは趣を異にする破片で注意を要する。

52は沈線文が施文されたミニチュア土器の底部破片である。残存部位が少なく、器形や文様の全容は把握しかねるが、胎土等は無文地上に単沈線文が施文される土器と同様である。

第27図52～第28図には、条痕文の土器を一括した。54は胴中位が張り、肩部から口頸部にかけてすばまる壺形土器で、無文の口頸部と肩部との境には弱い段を持っている。胴部には横位～斜行する粗い条痕文が施文されている。現存高9cm、推定最大径22cmである。

63は条痕文が施文された胴部破片で、強く張る肩部から直線的に底部にいたる器形は、第4号再葬墓（第701号土壌）に近い。現存高6cm、推定最大径17cmである。

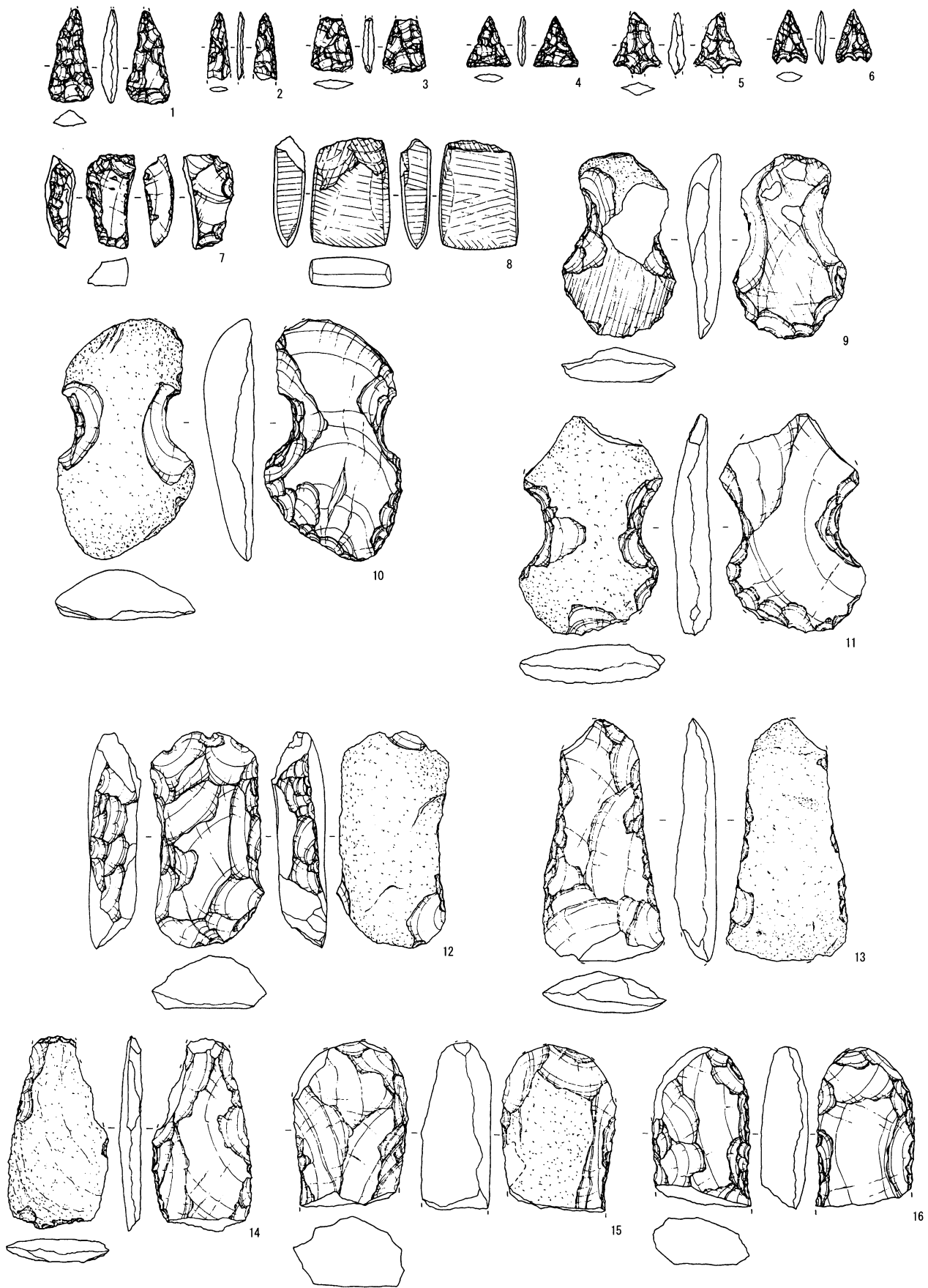
第28図1も第27図63と近似する器形が想起されるが、より大型の土器である。現存高9.8cm、推定最大径29cm前後と考えられる。

第27図53～59は小口状工具を用いた条痕によって文様帯の区画線と文様が描かれる甕形土器である。53の平縁と、55の小波状口縁および56～57の口唇部に連続押圧を施した小波状口縁がある。文様は三角ないしは鋸歯状文であろう。59は半截竹管による格子目文が施文された例で、口唇直下から施文されるこの種の土器は類例に乏しい。

61は17と同様の器形と沈線文をもつが、地文に条痕が施文された土器である。62も同様の土器であろう。

第27図64～65、第28図2～35は条痕施文の胴部破片で、殆どが壺形土器と思われる。胴部最大径付近まで横位に、底部にかけては斜行から縦位に条痕が施されている。

第29図1～14には無文の土器を一括した。1は推定4単位の双頭状の小波状口縁をもつ甕形土器で、



第30図 グリッド出土石器(1)



第31図 グリッド出土石器(2)

波底部にも低い双頭状の突起が付されている。器内外面は丁寧に研磨されており、全面に赤彩されていた痕跡が残されている。頸部と肩部との境は段状に整形されている。第1号再葬墓（第602号土壙）出土土器（第9図3）と、胎土・整形などが近似しており、極めて良質の胎土を用いている。現存高5.3cm、推定口径17cmである。

11は口唇が受け口状の浅鉢形土器である。口唇外面に粘土帯が貼付され、肥厚している。色調は灰白色だが、全面が赤彩されていた形跡が残る。現存

5. グリッド出土石器（第30図～第31図）

石鏃（第30図1～6）

1は二等辺三角形で片面の剥離が粗い。M-16グリッド出土。長さ3.3cm、幅1.6cm、厚さ0.6cm、重さ2.2g、チャート製。

2は基部が欠損しているが、小型尖頭器の可能性がある。薄手で片面縁辺部に丁寧な剥離が施されている。長さ2.4cm、幅0.9cm、厚さ0.3cm、重さ0.4g、黒色頁岩製。

3は先端部が欠損しているが、無茎の二等辺三角形の石鏃である。E-12グリッド出土。長さ1.9cm、幅1.5cm、厚さ0.4cm、重さ1.2g、黒色安山岩製

4は正三角形に近い完形の石鏃である。断面菱形で剥離も丁寧である。長さ1.8cm、幅1.6cm、厚さ0.3cm、重さ0.5g、黒曜石製。

5は二等辺三角形の有茎石鏃で、先端部が欠損、断面は菱形である。O-14グリッド出土。長さ2.1cm、幅1.7cm、厚さ0.6cm、重さ1.1g、黒色頁岩製。

6は基部に抉りをもつ有茎石鏃で、丁寧な剥離が施されている。長さ1.8cm、幅1.2cm、厚さ0.4cm、重さ0.7g、黒色頁岩製。

高3cm、推定口径14.8cmである。

同図2～7は内湾ないしは内傾する鉢形土器で、2～4は口唇が肥厚し段上に整形されている。6～10は甕形土器と思われ、9～19の口唇外面端部には刻みが加えられている。

14は壺の口頸部から肩部の破片であろう。

同図16～30には底部破片を一括した。15～17は網代痕をもつ。18～27は木葉痕をもつ底部破片で、27には堅果類と思われる圧痕が認められる。

くさび形石器（第30図7）

表裏面には第一次剥離面を大きく残し、側縁部に調整剥離が施されている。G-15グリッド出土。長さ3.3cm、幅1.8cm、厚さ1.1cm、重さ7.2g、チャート製。

磨製石斧（第30図8）

擦り切り手法で製作された両刃の磨製石斧である。両側縁が緩く湾曲していることから、再研磨されて用いられたようである。欠損部分を磨いて再利用されたと考えられる。L-20グリッド出土。長さ3.9cm、幅2.8cm、厚さ1.1cm、重さ9.7g、蛇紋岩製。

打製石斧（第30図9～15）

9は刃部が丸みを持つ分銅形の打製石斧で、片面に自然面を残す。両面に擦痕が認められる。長さ10.7cm、幅5.9cm、厚さ1.8cm、重さ92.2g、黒色頁岩製。

10は刃部と基部が直線的で軸線に対し傾斜を持つ分銅形石斧である。片面に大きく自然面を残し、刃部周辺の剥離は丁寧である。M-15グリッド出土。

刃部周辺の剥離は丁寧である。M-15グリッド出土。長さ12.7cm、幅7.2cm、厚さ2.7cm、重さ248.6g、黒色頁岩製。

11は片面に自然面を大きく残し、粗い剥離の石斧である。基部が欠損する。N-16グリッド出土。長さ11.5cm、幅7.5cm、厚さ2cm、重さ170.3g、ホルンフェルス製。

12は短冊形の石斧で、片面に自然面を残し、両側縁は丁寧な剥離が加えられている。Q-13グリッド出土。長さ11.4cm、幅5.7cm、厚さ2.8cm、重さ220.4g、ホルンフェルス製。

13は刃部が欠損した撥方の石斧である。剥離は裏面に限定され、粗い造りである。P-20グリッド出土。長さ12.7cm、幅6.3cm、厚さ2.2cm、重さ162g、ホルンフェルス製。

14は刃部と片側縁が欠損した撥形石斧で、裏面の剥離も粗い。N-16グリッド出土。長さ10cm、幅5.3cm、厚さ1.3cm、重さ69.5g、ホルンフェルス製。

15は刃部が欠損した肉厚の石斧で、基部が丸く礫器とも見られる。P-13グリッド出土、ホルンフェルス製。

16は刃部、基部先端と左側縁部を欠損している。両面から剥離され、側縁部の剥離は比較的丁寧である。G-14グリッド出土。長さ8.4cm、幅5.1cm、厚さ2.5cm、重さ138.2g、ホルンフェルス製。

石鍬（第31図1～7）

基部に比較して刃部の幅が広く、丸みを帯びた打製石器を石鍬として扱った。比較的薄手の造りが多

い。

1は両面に主要剥離面を持ち、片縁部の剥離が比較的丁寧である。長さ15.3cm、幅8.6cm、厚さ2.6cm、重さ337g、ホルンフェルス製。

2は両側縁が自然面で、中央部に抉りを持ち、直線的な刃部の石鍬である。刃部両面に擦痕が認められる。長さ15.3cm、幅7.4cm、厚さ2.3cm、重さ303.5g、黒色頁岩製。

3は刃部の丸みが強く基部が直線的で、石鍬の典型的な形態である。剥離が粗く風化が著しい。長さ14.2cm、幅10.8cm、厚さ2.4cm、重さ345.3g、ホルンフェルス製。

4は刃部が欠損するが、直線的な基部と共に、張り気味の刃部が想定される。Q-18グリッド出土。長さ11.3cm、幅7.2cm、厚さ3.7cm、重さ283g、ホルンフェルス製。

5も刃部が欠損するが、ほぼ3に近い寸同の形態とみてよいであろう。M-20グリッド出土。長さ12.7cm、幅8.7cm、厚さ2.6cm、重さ280.8g、ホルンフェルス製。

6は丸みを持つ刃部から基部に直線的に整形されており、両側縁下部に浅い抉りを持つ。基部が一部欠損するが風化が著しく、細かな調整などが不明である。長さ19.2cm、幅9cm、厚さ2.5cm、重さ435.9g、ホルンフェルス製。

7は全体に粗い造りで、刃部と基部中央から欠損しているが、残存部から石鍬と考えられる。M-13グリッド出土。長さ13.5cm、幅8.8cm、厚さ2cm、重さ335g、緑泥片岩製。

VI 奈良・平安時代の遺構と遺物

1. 住居跡

調査の段階で第1号住居跡から第331号住居跡まで番号を付したが、連続せずに欠番となっているものがある。調査段階で、住居跡でなく他の遺構になったものや他の遺構と判断しそのまま他遺構の番号が付されたが住居跡として捉えたものなどがある。住居跡番号は第333号住居跡までであるが、実数は305軒である。軒数が多いことから番号を付け直すことは混乱を生じるため、調査時の住居跡番号のまま、または他遺構から住居跡に変更したものには新住居跡番号を付している。本報告では263軒の住居跡について報告する。

第1号住居跡 (第32・33図)

H-14グリッドに位置する。南壁側が第155号住居跡に、カマド前が第16号溝と重複している。溝は2基の住居跡より新しく、第155号住居跡より古いと考えられる。

カマドのみの検出で東壁に設けられていたと推定される。カマドの主軸方位は、N-93°-Eを指す。燃焼部は、66cm×28～35cm、深さ3cmを測る。

遺物は、土師器坏、須恵器高台付 壺・高台部・甕が出土した。

第2号住居跡 (第34・35図)

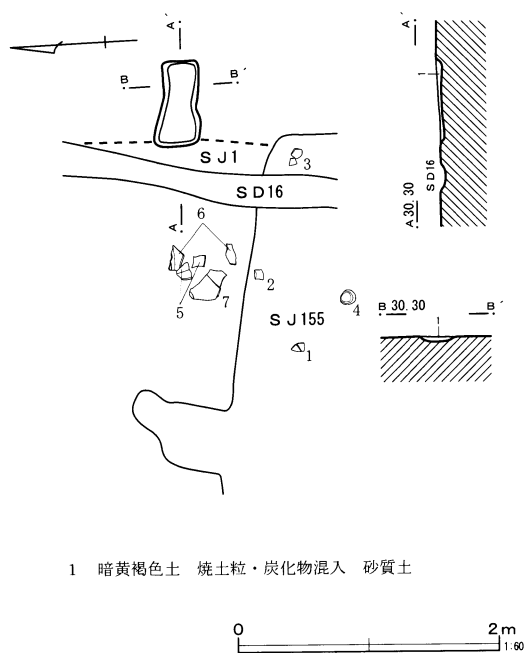
H-12・13グリッドに位置する。規模は、主軸長東西4.30m、南北3.10m、深さ20cm程を測る。

平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-102°-Eを指す。

貯蔵穴は、北東隅に設けられており、53cm×50cmの円形で、深さ27cmを測る。

カマドは、東壁中央に設けられている。燃焼部は97cm×68cm、深さ12cmを測り、煙道部は長さ100cmが確認できた。また、カマド南側は床面と段差を有し高くなっている。

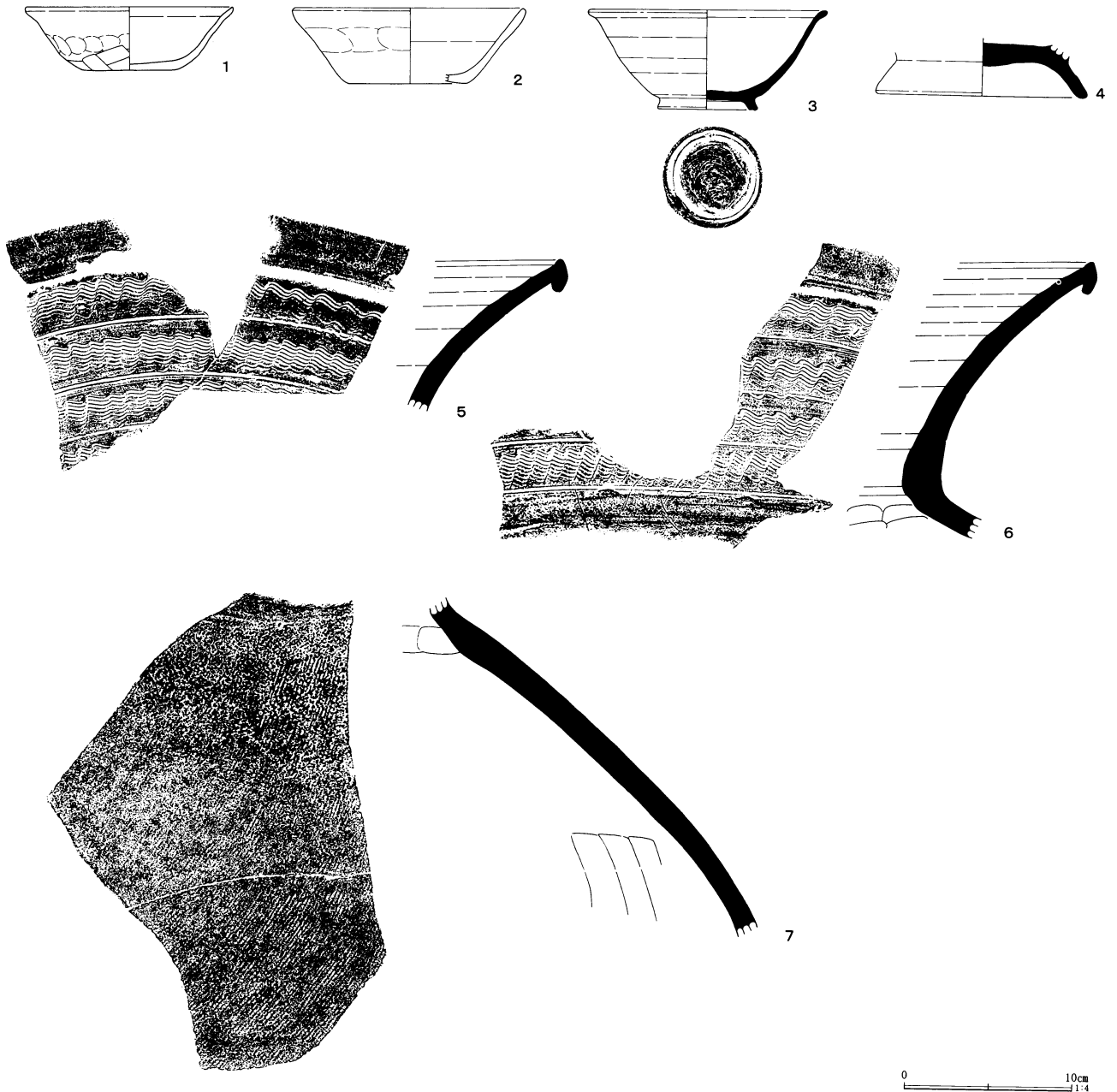
遺物は、土師器坏・台付甕・甕、須恵器坏・高



第32図 第1号住居跡

第1号住居跡出土遺物観察表 (第33図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.4)	3.8	(5.7)	A B F	普通	浅黄橙	30	覆土	底部外周のみへら削り、他無調整
2	土師壺	(13.7)	(4.5)	(7.1)	A B F	普通	灰黄	20	覆土	底部無調整
3	須恵高台壺	(14.0)	5.9	6.0	A I J	普通	灰	25	覆土	
4	須恵高台			12.4	A B	普通	にぶい黄橙	80	覆土	
5	須恵甕				A J	良好	黒	—	覆土	
6	須恵甕				A J	良好	黒	—	覆土	
7	須恵甕				A B J K	良好	浅黄	—	覆土	



第33図 第1号住居跡出土遺物

台付碗の他、鉄製の釘が出土した。11～13は鉄製釘である。いずれも基部上端をつぶして円形の頭を作り出している。11は全長11.0cm、頭部幅1.4cm、頭部はあまりつぶれていない。12は現存長6.3cm、頭部幅1.5cmである。脚部を欠く。13は現存長11.3cm、頭部幅1.4cmである。脚部を欠く。

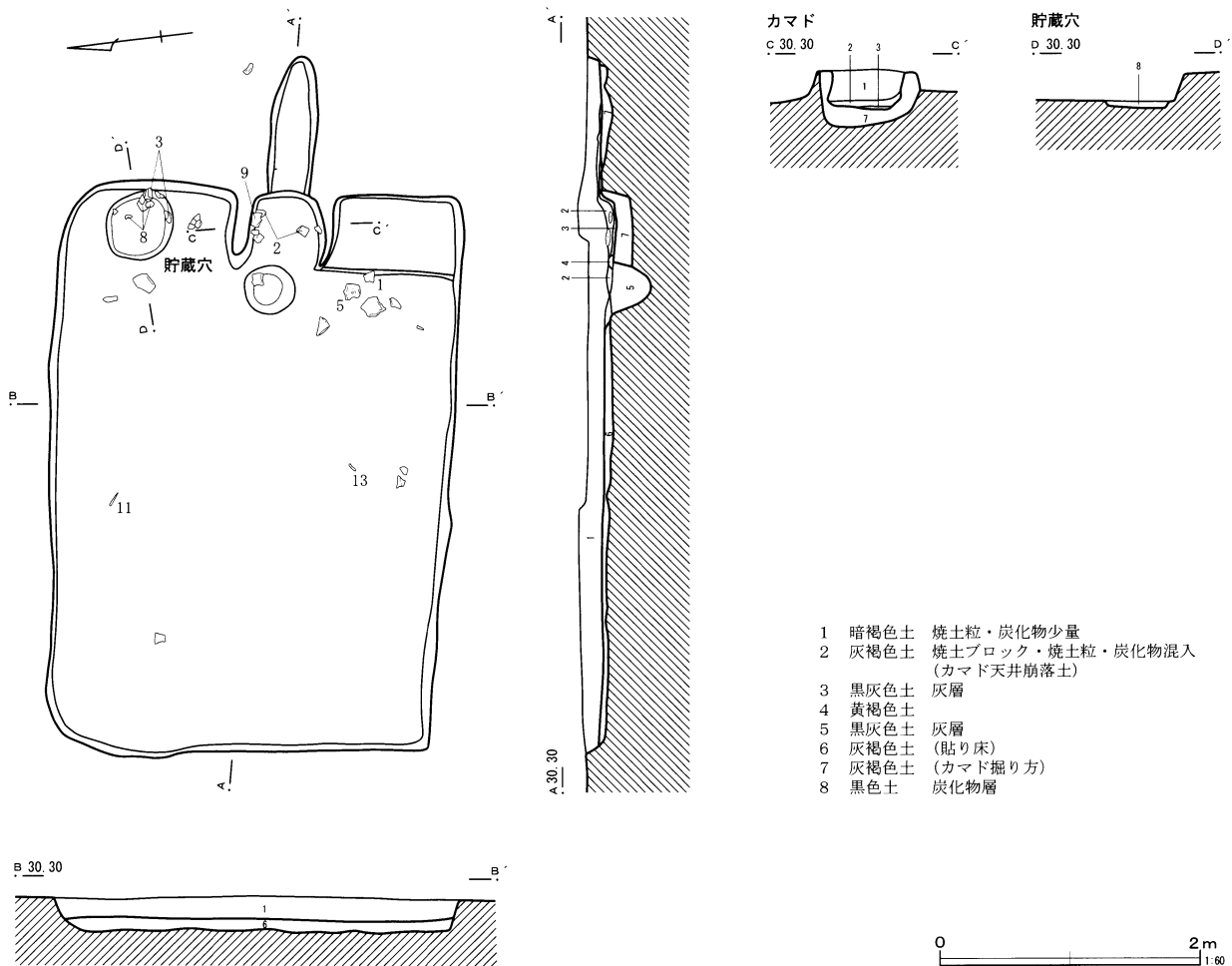
第4号住居跡 (第36・37図)

F-13グリッドに位置する。西側が第7号溝と重複し切られており、溝跡が新しい。規模は確認で

きた主軸東西長3.00m、南北3.83m、深さ30cm程を測る。平面形は、方形を呈すると推定される。主軸方位は、N-97°-Eを指す。

カマドは、東壁中央に設けられている。燃焼部は、90cm×50cm、深さ8cmを測り、煙道部は長さ93cmが確認できた。

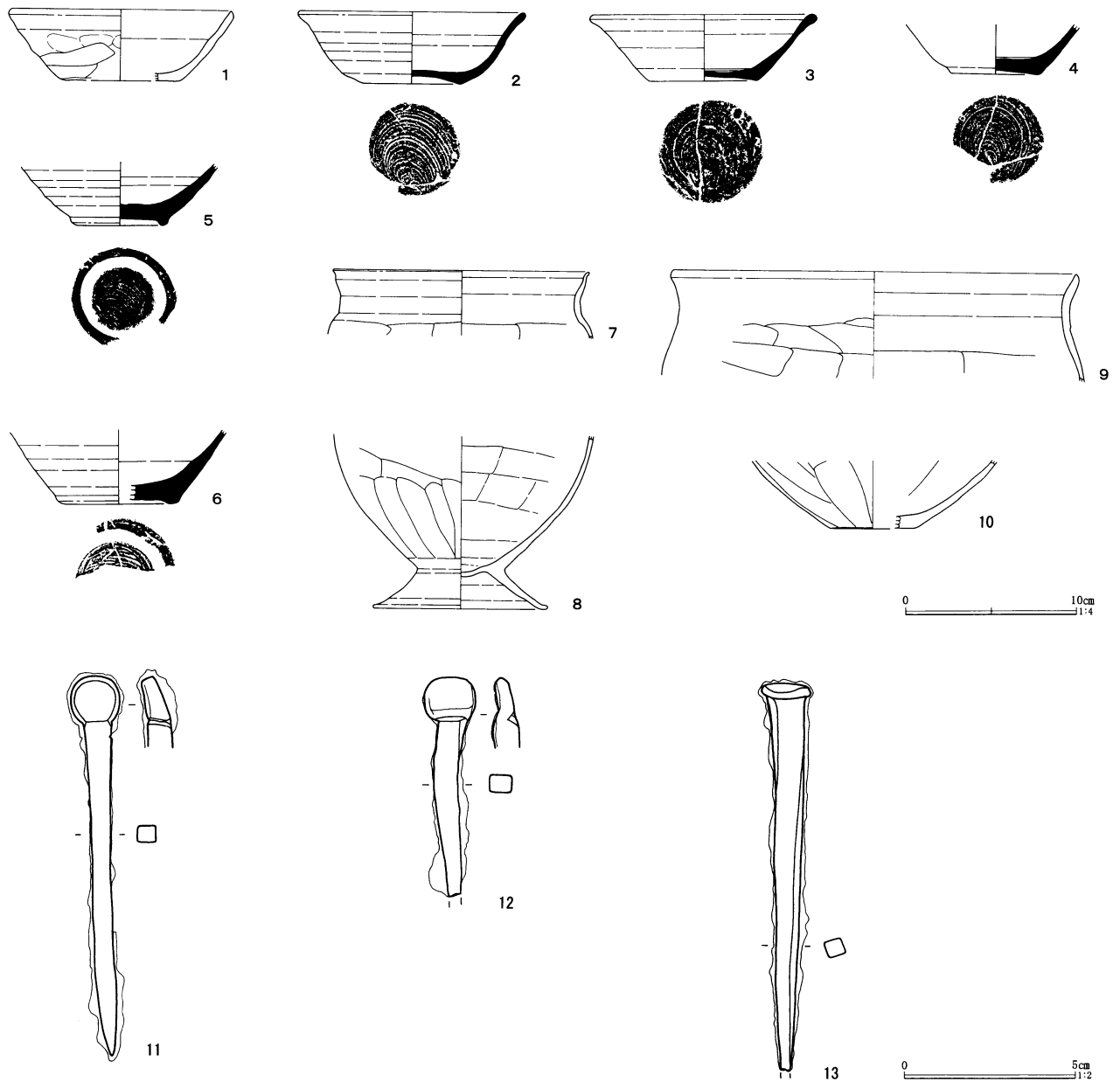
遺物は、土師器台付甕・甕、須恵器高台付碗、鉄鏃が出土した。7は鉄鏃である。現存長11.3cm、鏃身部現存長5.6cm、頸部長2.6cm、茎部現存長



第34図 第2号住居跡

第2号住居跡出土遺物観察表 (第35図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.8)	(4.1)	(7.0)	A B C E G	普通	にぶい黄褐	20	覆土	底部外周のみへら削り、他無調整
2	須恵坏	(13.1)	4.2	5.6	A J	普通	灰白	50	カマド	
3	須恵坏	(12.8)	3.9	6.2	A C J	不良	灰白	50	貯蔵穴	
4	須恵坏	(10.8)	(3.3)	5.1	A B J	不良	灰白	60	覆土	
5	須恵高台埴			5.7	A J	普通	灰白	85	床直	
6	須恵高台瓶			(7.1)	A F J	不良	灰オリーブ	30	覆土	
7	土師甕	(14.9)			A B F J	普通	にぶい黄橙	15	覆土	
8	土師台付甕			(10.2)	A B F	普通	褐灰	50	貯蔵穴	
9	土師甕	(23.6)			C F J	普通	浅黄橙	10	カマド	
10	土師甕			(5.0)	A C D F	普通	暗灰黄	30	覆土	



第35図 第2号住居跡出土遺物

4.0cmである。鍬身部先端をわずかに欠く。茎部は先端が折れ曲がり端部を欠いている。逆刺を有する平造りの長三角形鍬で、関部は角関である。

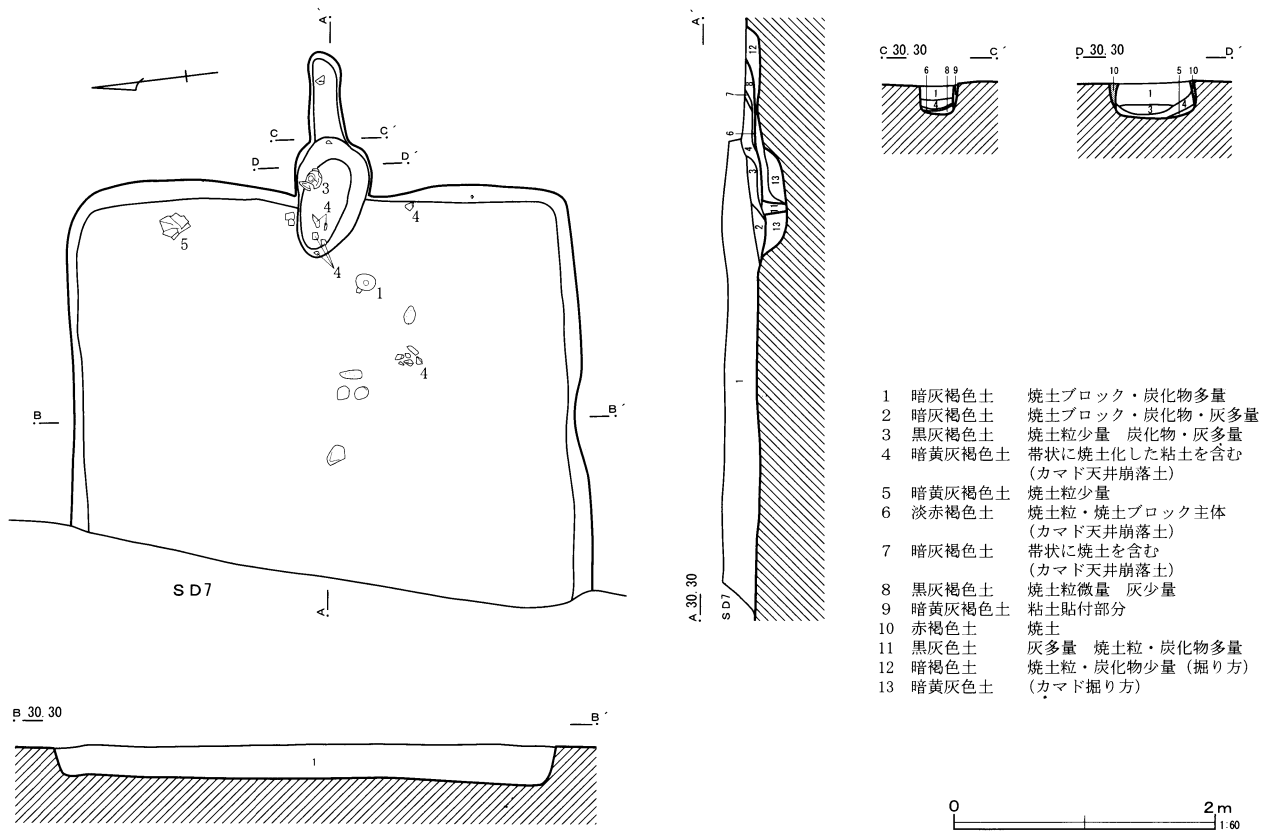
第5号住居跡 (第38・39図)

D・E-14グリッドに位置する。南壁の一部が木棺墓 (S K 156) と重複し、木棺墓より古い。規模は、主軸長東西3.92 m、南北5.84 m、深さ22cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-100°-Eを指す。

貯蔵穴は、カマド右袖に接して設けられており、39cm × 41cmの円形で、深さ23cmを測る。

カマドは、東壁ほぼ中央に設けられている。燃焼部は、71cm × 57cmで床面と同じ高さである。

遺物は、須恵器坏・灰釉陶器高台付壺が出土した。



第36図 第4号住居跡

第6号住居跡 (第40・41図)

F-14 グリッドに位置する。中央が土坑に切られているが、住居跡の床面までは達していない。規模は、主軸長南北3.38m、東西4.84m、深さ28cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-9°-Eを指す。

カマドは、北壁中央に設けられている。燃焼部は、100cm×102cmで床面と同じ高さである。

遺物は、土師器坏、須恵器坏が出土した。

第10号住居跡 (第42・43図)

N-11・12 グリッドに位置する。第12号住居跡と重複し、当住居跡の方が新しい。規模は、主軸長南北5.00m、東西3.96m、深さ10cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-9°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器甕、須恵器坏・高台付壺・皿、石

器、土錘と鉄製の釘などが出土した。14は現存長8.4cm、15は3.2cmとともに角棒状の鉄製品である。釘の基部と推定される。

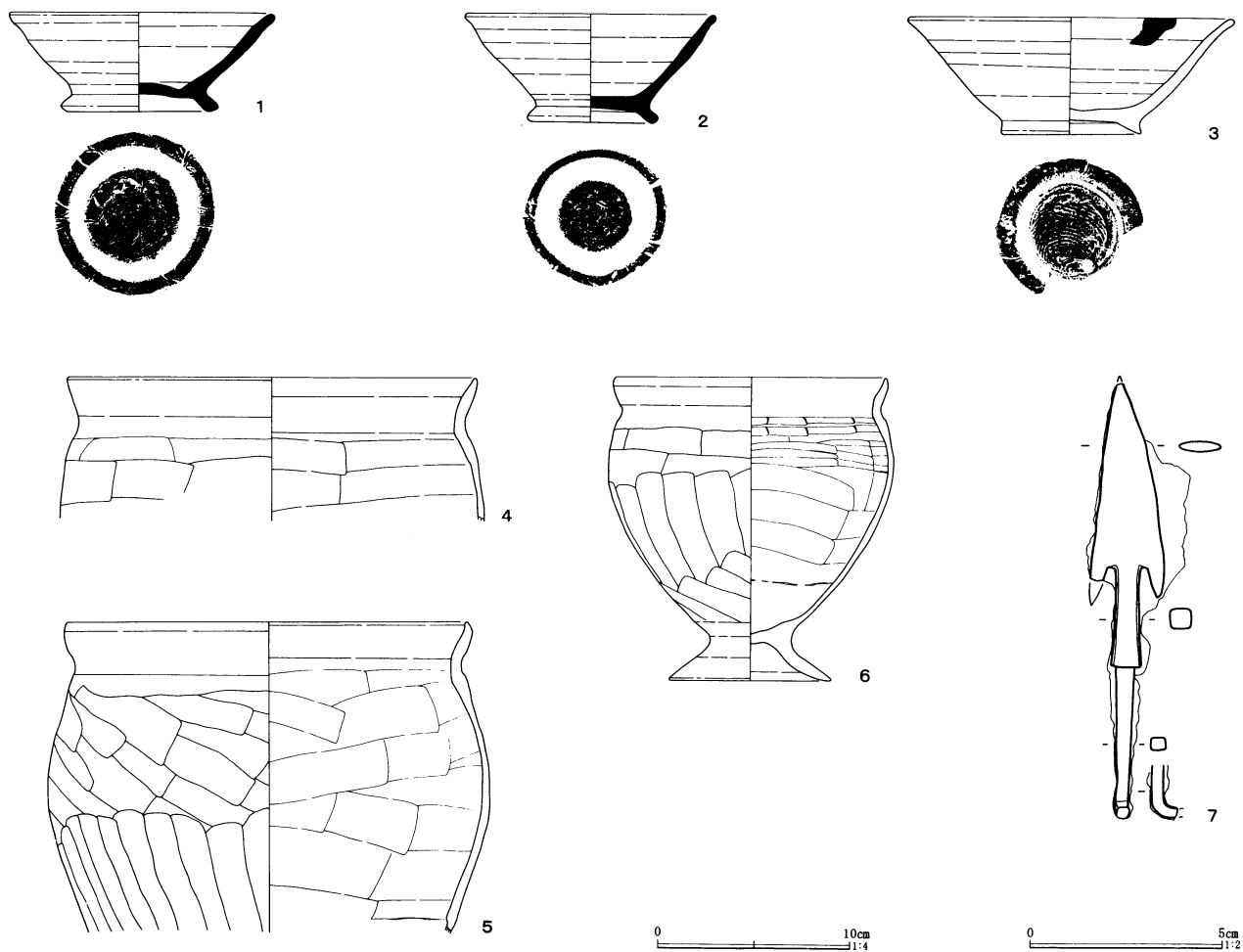
16は現存長2.6cmの延板状鉄製品である。片側の端部は丸く成形される。用途は不明である。

第11号住居跡 (第44・45図)

N・O-10 グリッドに位置する。西側が調査区域外となっている。規模は、確認できた主軸長東西2.75m、南北3.80m、深さ10cm程を測る。平面形は、方形を呈すると推定される。主軸方位は、N-104°-Eを指す。

カマドは、東壁中央に設けられている。燃焼部は、106cm×50cm、深さ7cmを測り、煙道部は長さ58cmが確認できた。

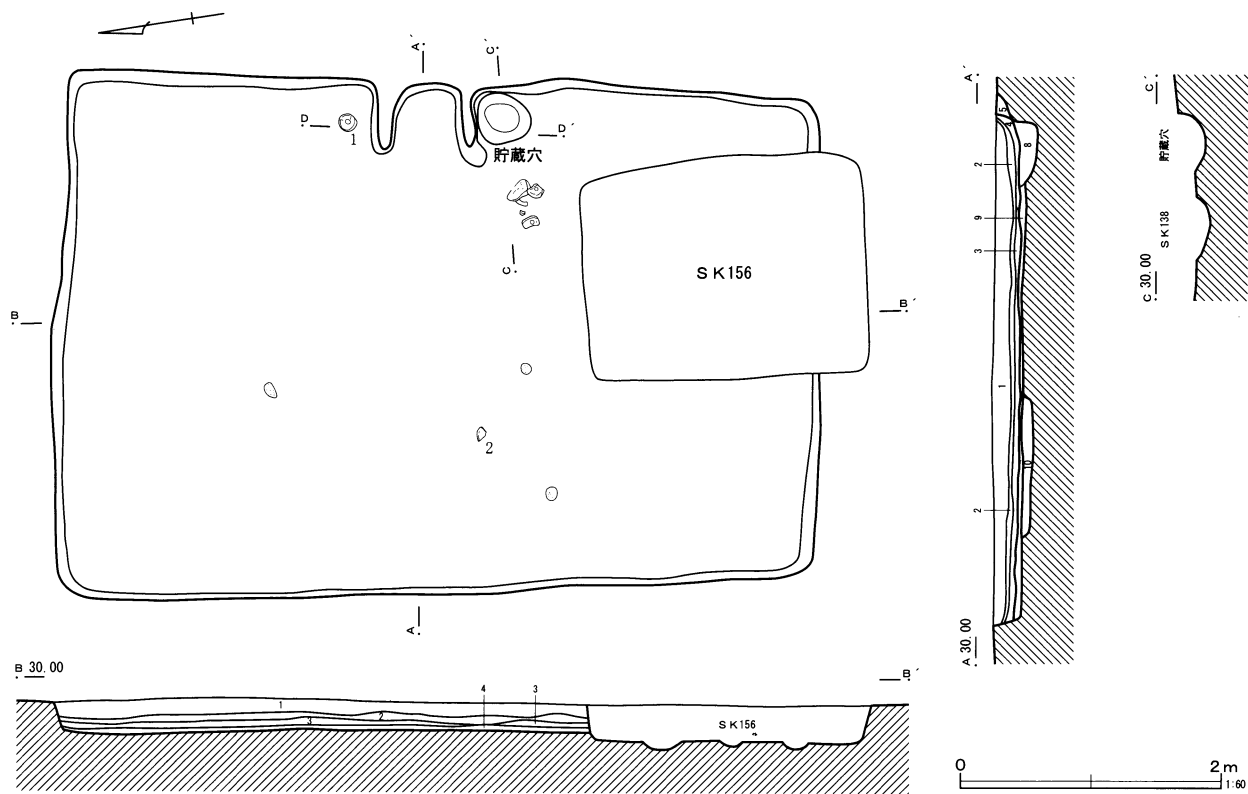
遺物は、須恵器坏・高台付壺、土錘が出土した。



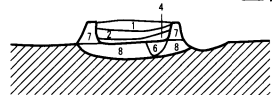
第37図 第4号住居跡出土遺物

第4号住居跡出土遺物観察表 (第37図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台碗	13.6	5.1	8.2	ABFJ	不良	灰白	100	覆土	酸化焰焼成 口縁部一部に油煙
2	須恵高台碗	(12.8)	5.7	6.8	AGJ	不良	にぶい黄橙	55	覆土	
3	須恵高台碗	16.7	6.1	7.3	ACDFGK	不良	にぶい橙	90	カマド	
4	土師甕	21.2			ACDF	普通	橙	70	カマド他	
5	土師甕	(20.8)			ACF	普通	橙	25	覆土	
6	土師台付甕	14.3	15.8	(8.3)	ABCFJ	普通	にぶい橙	80	床直	

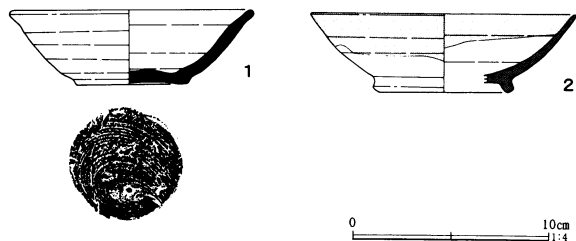


カマド
p. 30.00



- | | | | |
|---------|-------------------|----------|-----------------------|
| 1 暗灰褐色土 | 焼土粒・炭化物微量 | 6 黒灰色土 | 焼土粒・炭化物少量(カマド掘り方) |
| 2 暗灰褐色土 | 焼土粒・炭化物微量 | 7 暗黄灰色土 | 灰色粘土粒多量 |
| 3 暗灰褐色土 | 焼土粒・炭化物少量 粘土を含む | 8 暗灰褐色土 | 焼土粒・炭化物微量(カマド掘り方) |
| 4 黒褐色土 | 灰層 焼土粒・炭化物多量 | 9 暗灰褐色土 | 焼土粒・土器片少量(貼り床) |
| 5 暗灰褐色土 | 焼土粒・炭化物少量(カマド掘り方) | 10 暗灰黄色土 | 焼土ブロック・炭化物微量(S K 157) |

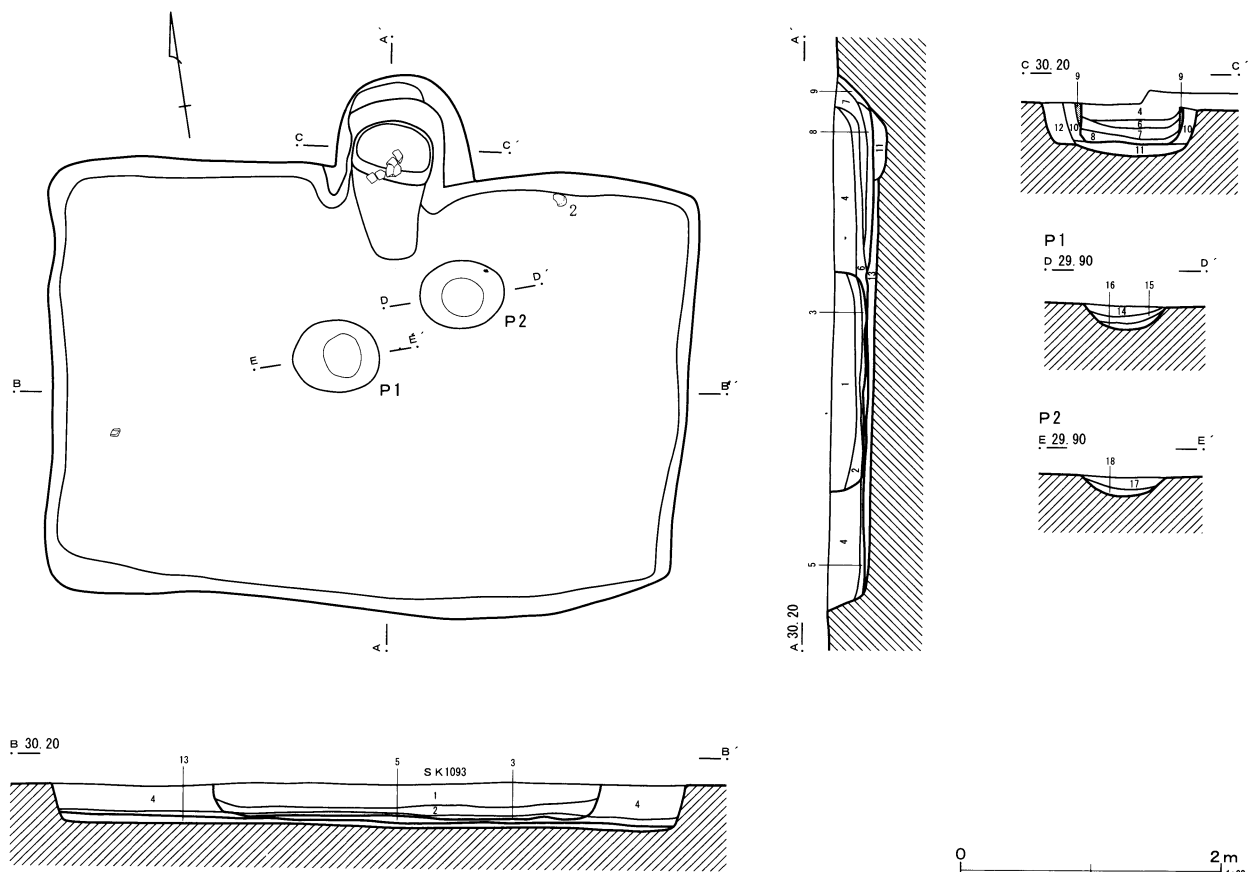
第38図 第5号住居跡



第39図 第5号住居跡出土遺物

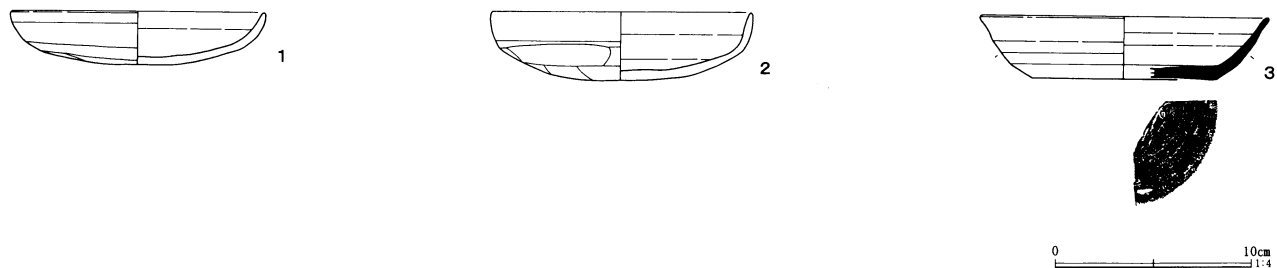
第5号住居跡出土遺物観察表 (第39図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	12.2	4.7	5.7	A B J	不良	灰白	100	覆土	歪みあり
2	灰釉高台碗	(13.4)	4.0	7.2	A G	良好	灰白	20	床直	東濃産



- | | |
|-----------------------------|------------------------------|
| 1 暗灰褐色土 焼土粒微量 | 10 暗黄褐色土 焼土粒微量 (カマド掘り方) |
| 2 暗灰褐色土 焼土ブロック少量 | 11 暗灰褐色土 炭化物・灰多量 (カマド掘り方) |
| 3 暗灰褐色土 炭化物を帯状に含む | 12 暗灰褐色土 黄褐色土を斑状に多量 (カマド掘り方) |
| 第6号住居跡 | 13 暗灰褐色土 焼土粒微量 (貼り床) |
| 4 暗灰褐色土 焼土粒少量 灰色粘土多量 (埋め戻し) | 14 暗黒灰褐色土 焼土ブロック少量 炭化物・灰多量 |
| 5 暗灰褐色土 焼土ブロック微量 | 15 暗灰褐色土 炭化物・灰少量 褐色土ブロック多量 |
| 6 暗灰褐色土 焼土ブロック少量 | 16 暗灰褐色土 焼土粒・炭化物微量 |
| 7 暗灰褐色土 焼土ブロック・炭化物・灰多量 | 17 暗灰褐色土 焼土ブロック・粘土多量 炭化物少量 |
| 8 暗灰褐色土 灰層 焼土ブロック・炭化物・灰多量 | 18 暗灰褐色土 焼土粒微量 |
| 9 淡赤褐色土 焼土層 (カマド側壁) | |

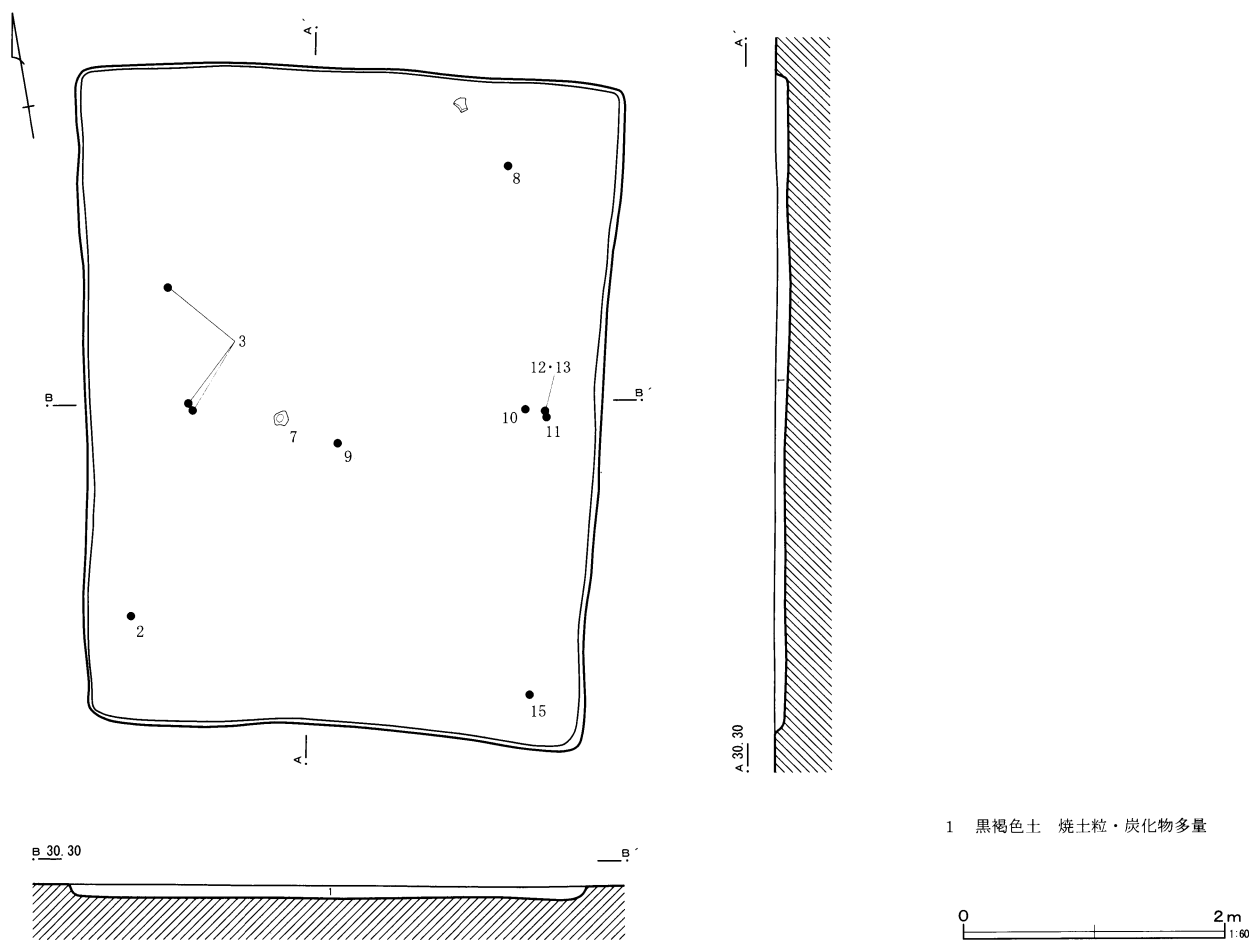
第40図 第6号住居跡



第41図 第6号住居跡出土遺物

第6号住居跡出土遺物観察表 (第41図)

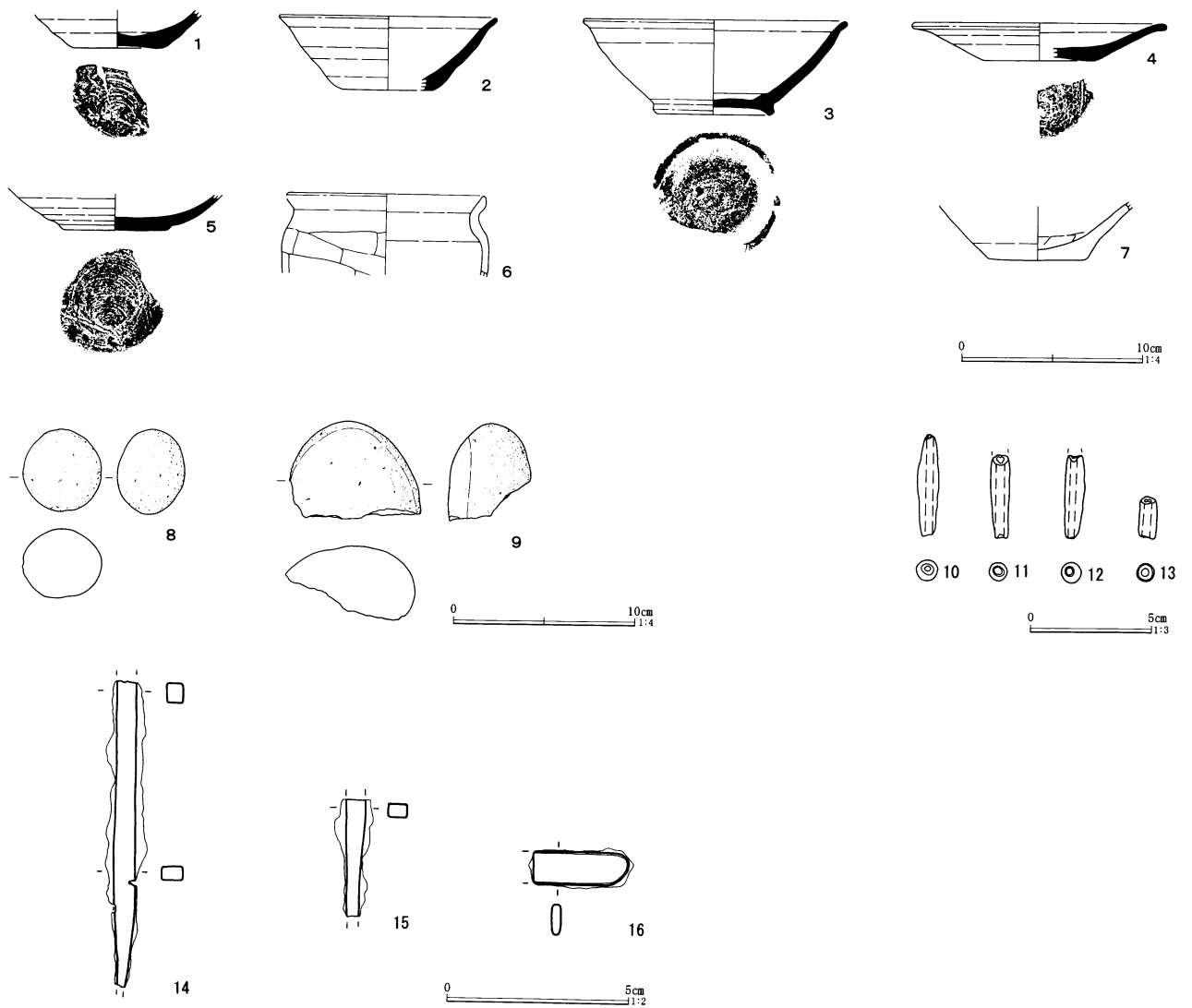
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.8)			A B C I	不良	にぶい褐	20	覆土	
2	土師坏	(13.3)	3.5		A D	普通	にぶい橙	60	床直	口縁内面～底部外周横ナデ 底部内面一部油煙付着
3	須恵坏	(14.6)	3.2	(9.4)	A H	良好	灰	25	覆土	体部外面中位以下及び底部全面右回転ヘラ削り



第42図 第10号住居跡

第10号住居跡出土遺物観察表 (第43図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏			(4.9)	A C	不良	灰	20	覆土	底部磨耗
2	須恵坏	(11.8)	4.1	(5.0)	B J	不良	灰黄	20	覆土	底部回転糸切り
3	須恵高台埴	(14.3)	5.2	6.2	A J	不良	褐灰	30	覆土	
4	須恵皿	(13.8)	(2.0)	(6.0)	A G	良好	灰	15	覆土	底部右回転糸切り
5	須恵皿			5.8	A C F	普通	灰	60	覆土	
6	土師甕	(10.8)			F	良好	にぶい黄橙	15	覆土	
7	土師甕			5.5	B F	普通	灰黄褐	60	覆土	底部へラ整形
8	磔	長さ4.6	幅4.3	厚さ3.2				—	覆土	
9	磔	長さ5.4	幅7.1	厚さ4.5				—	覆土	
10	土錘	長さ4.2	径0.90	孔径0.35		普通	にぶい黄橙	95	覆土	
11	土錘	長さ(3.4)	径0.75	孔径0.30		普通	灰白	80	覆土	
12	土錘	長さ(3.45)	径0.85	孔径0.30		普通	淡黄	90	覆土	
13	土錘	長さ(1.75)	径0.75	孔径0.30		普通	暗灰黄	30	覆土	



第43図 第10号住居跡出土遺物

第12号住居跡 (第46・47図)

N-11・12グリッドに位置する。第10・42・45号住居跡と重複し、第10・45号住居跡より古く、第42号住居跡より新しい。規模は、主軸長東西4.34m、南北3.48m、深さ16cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-100°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、51cm×60cmで床面と同じ高さである。煙道部は長さ56cmが確認できた。

遺物は、土師器甕、須恵器坏・高台付碗、灰釉陶器高台付碗、印刻花文の緑釉陶器高台付碗が出土し

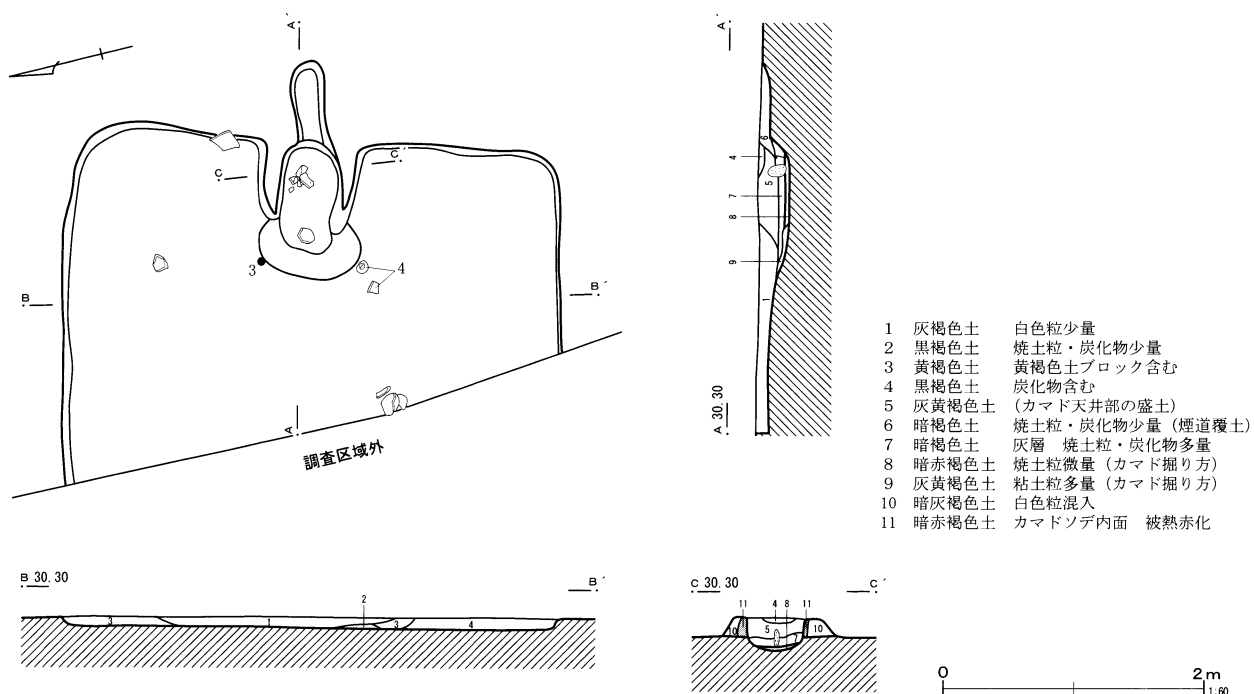
た。

第13号住居跡 (第48・49図)

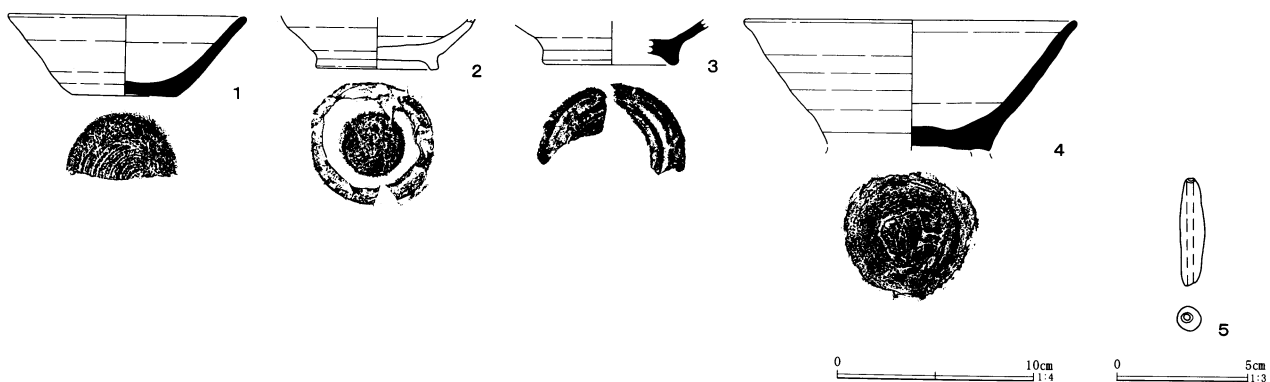
P・Q-10・11グリッドに位置する。西側は調査区域外となっている。規模は、確認できた主軸長東西3.68m、南北5.10m、深さ24cm程を測る。平面形は、長方形を呈すると推定される。主軸方位は、N-92°-Eを指す。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、74cm×60cm、深さ17cmを測り、煙道部は長さ80cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・高台付坏・蓋・瓶、緑釉片、石器、鉄器が出土した。10は鉄製刀



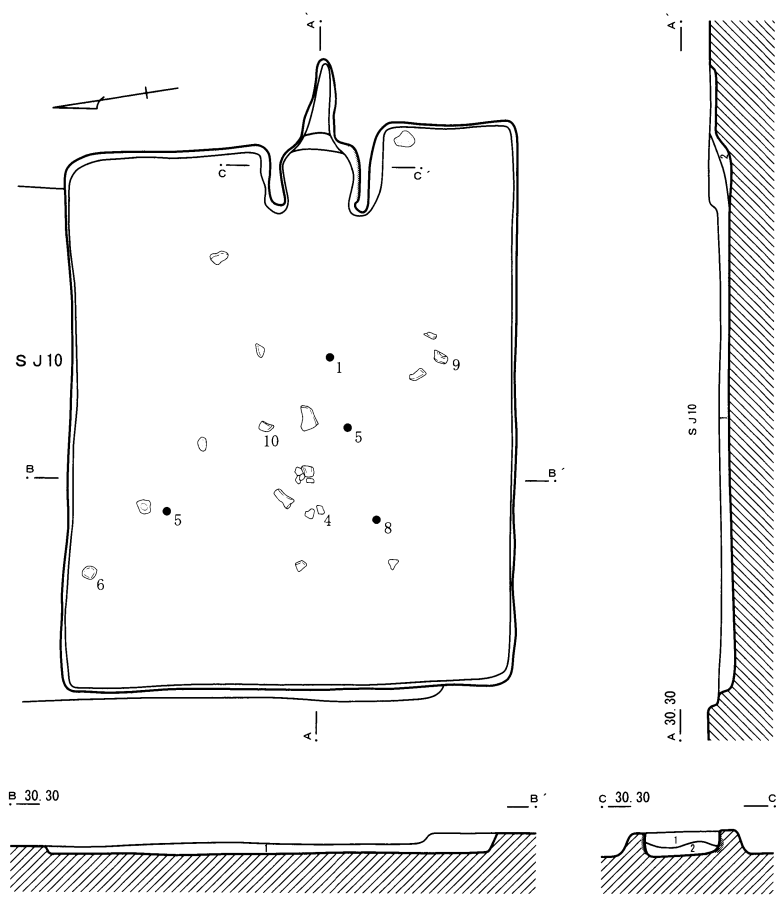
第44図 第11号住居跡



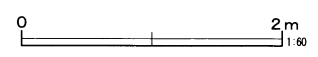
第45図 第11号住居跡出土遺物

第11号住居跡出土遺物観察表 (第45図)

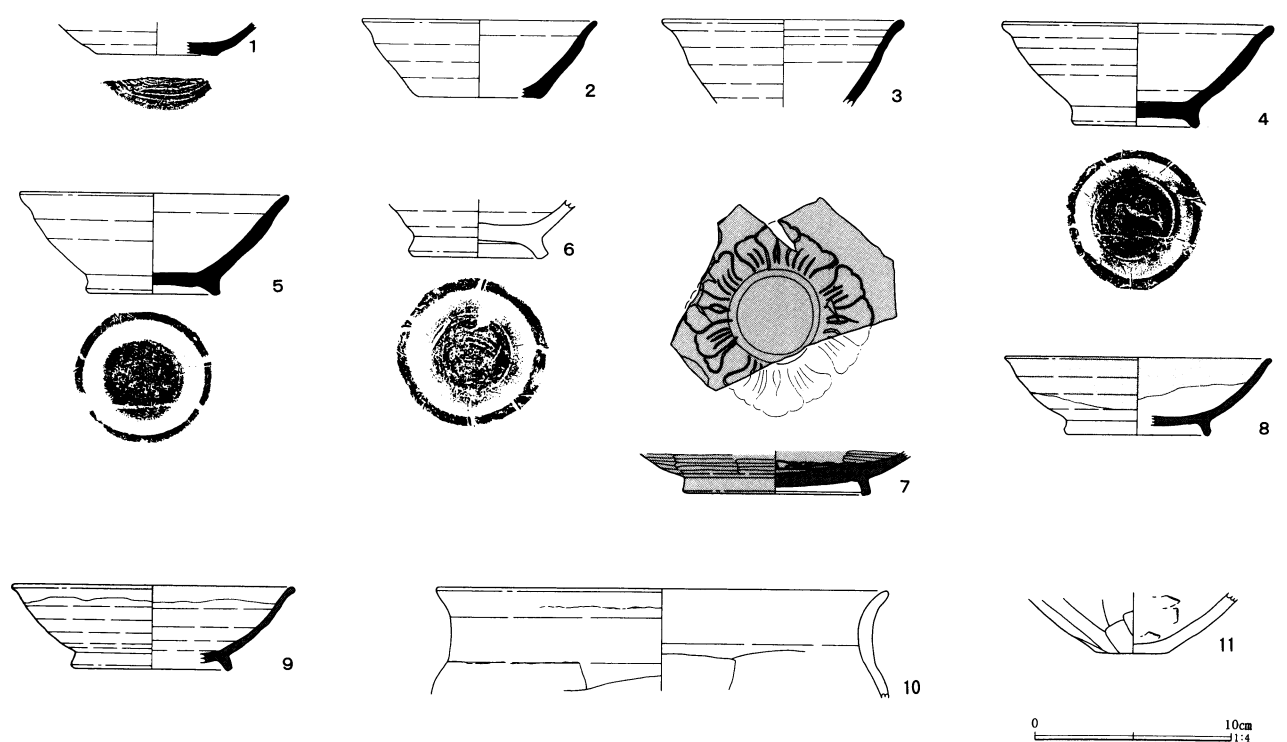
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(11.9)	4.1		J	普通	灰黄	35	覆土	
2	須恵高台埴			(6.2)	A F G I	普通	橙	70	カマド	一部除き酸化焰焼成
3	須恵高台埴			(6.5)	A B C G	不良	にぶい黄橙	40	覆土	
4	須恵高台埴	(16.7)			A G J	普通	灰黄	70	床直	高台部欠損
5	土錘	長さ4.1	径0.9	孔径0.2		普通	灰黄	100	覆土	



- 1 黑褐色土 烧土粒·炭化物少量
- 2 黑褐色土 烧土粒少量



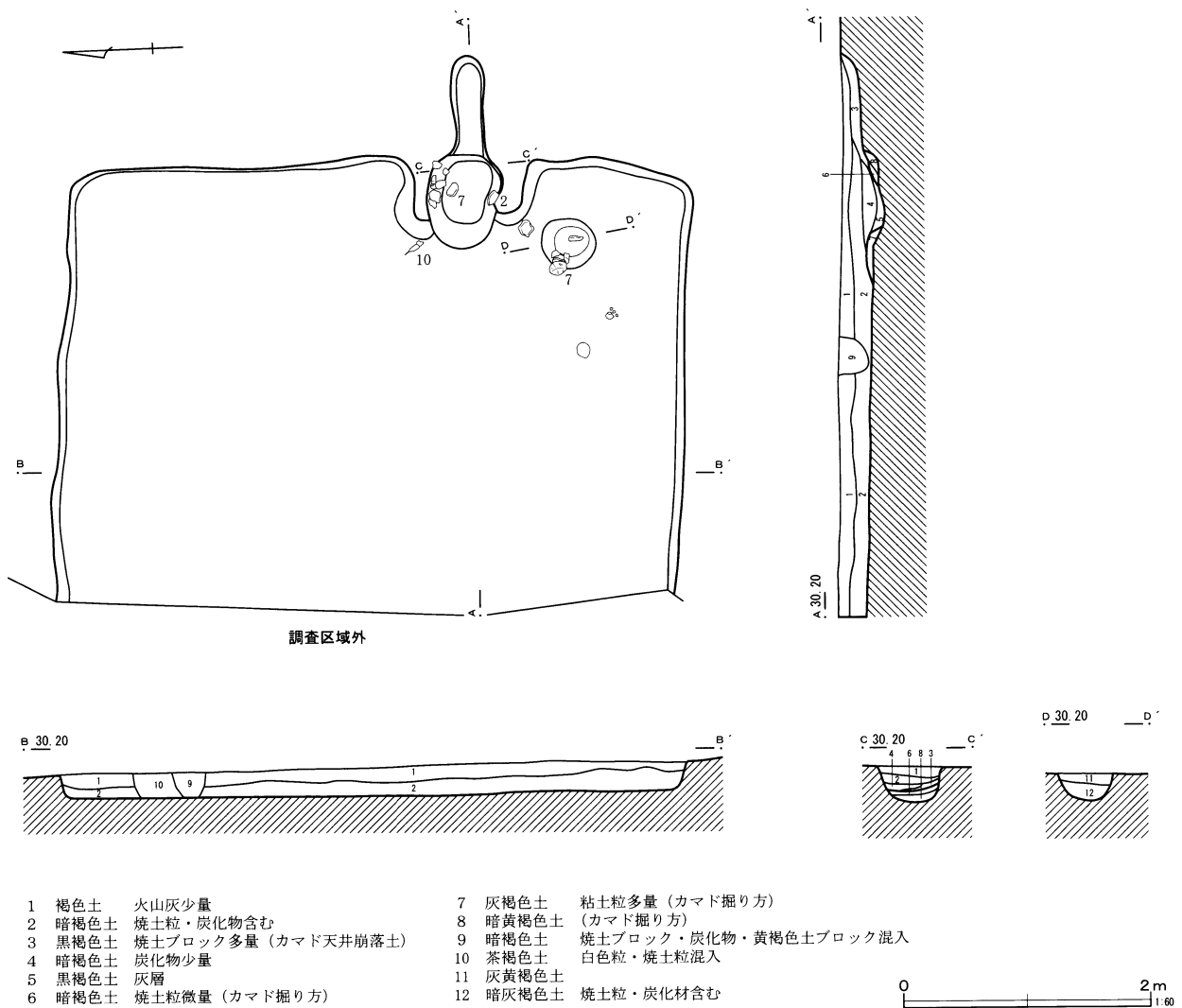
第46图 第12号住居跡



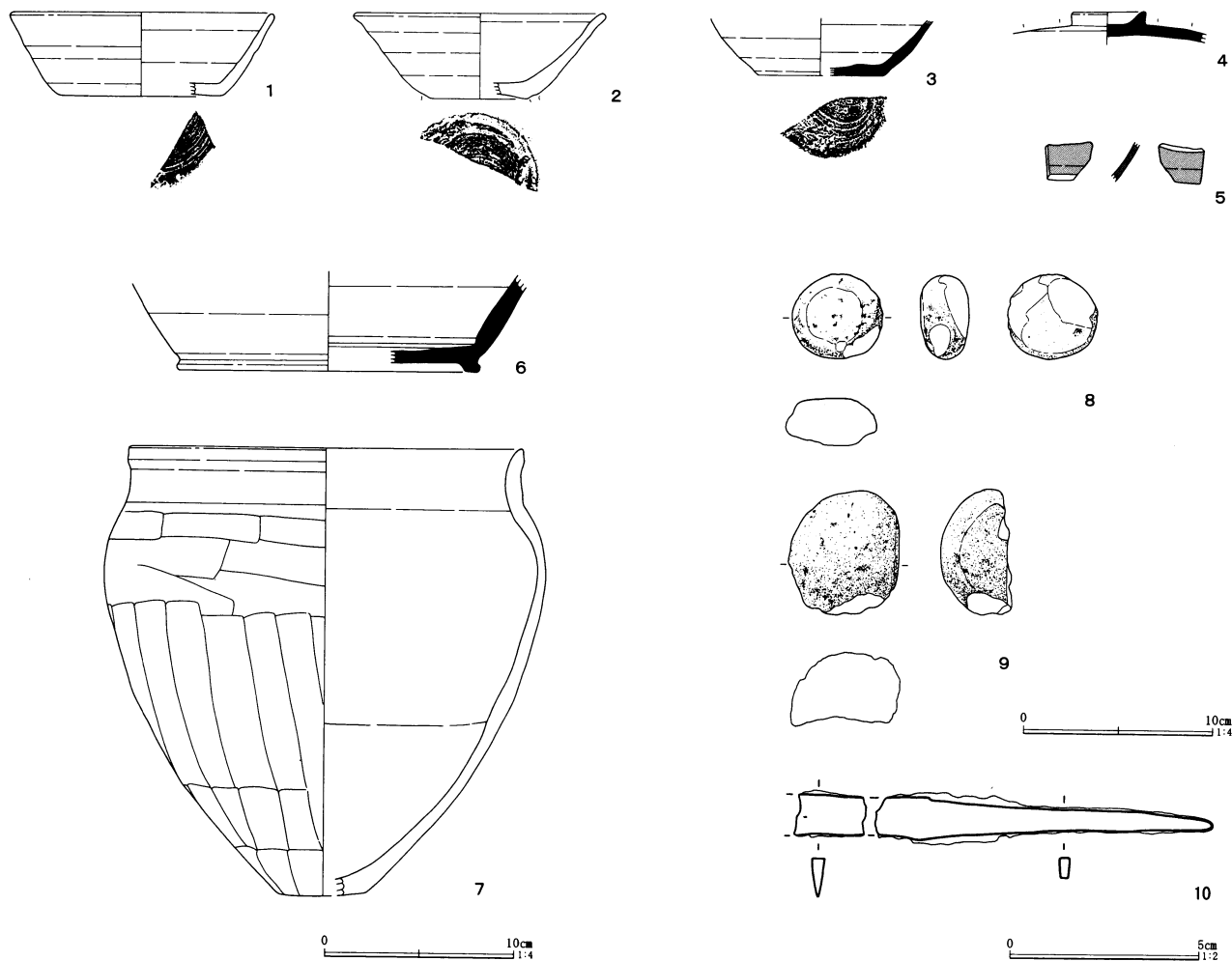
第47图 第12号住居跡出土遺物

第12号住居跡出土遺物観察表 (第47図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏			(6.0)	A B C	普通	灰	30	床直	
2	須恵坏	11.9	3.9	(6.2)	G J	不良	浅黄	10	覆土	底部回転糸切り
3	須恵坏	(12.0)			A G J K	不良	灰白	20	覆土	
4	須恵高台坏	(13.6)	5.2	6.0	A B	普通	にぶい黄	55	覆土	
5	須恵高台坏	13.5	5.2	6.4	A B J	不良	灰白	90	床直	
6	須恵高台壺			6.6	C J	普通	橙	70	覆土	酸化焰焼成
7	緑釉高台壺		(2.2)	9.5	A G	普通	灰オリーブ	60	覆土	高台内底部磨き 陰刻花文 猿投産
8	灰釉高台坏	(13.5)	3.9	(7.3)	G	良好	灰白	20	床直	高台内部回転ヘラ削り、外周ナデ 東濃産
9	灰釉高台壺	(14.2)	4.3	(7.8)	A G J	良好	灰白	20	覆土	高台内底部外周ナデ 二川産
10	土師甕	(22.7)			A B C F	普通	明赤褐	15	覆土	
11	土師甕			3.3	B F	良好	にぶい橙	10	カマド	



第48図 第13号住居跡



第49図 第13号住居跡出土遺物

第13号住居跡出土遺物観察表 (第49図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	13.6	4.4	(8.6)	J	良好	にぶい黄橙	15	覆土	高台剥離 つまみ径3.8 猿投産
2	須恵高台坏	(13.0)	(4.5)		DFI	良好	にぶい褐	30	カマド	
3	須恵坏			(6.6)	G	不良	にぶい黄橙	25	覆土	
4	須恵蓋				AH	良好	灰	破片	覆土	
5	緑釉陶器					—	—	破片	覆土	
6	須恵瓶			(15.7)	AG	良好	黒褐	15	覆土	
7	土師甕	20.7	23.6	4.5	ADFG	普通	黒褐	30	カマド・ピット	
8	礫	長さ4.5 幅4.7 厚さ2.5						—	カマド	
9	礫	長さ5.6 幅5.8 厚さ3.5						—	覆土	

子である。刃部の破片と関～茎部に分かれるが同一個体と考えられる。後者の現存長は8.8cmである。刃幅は最大で1.0cm、茎部長は7.5cmである。関は不明瞭であるが両関と推定される。

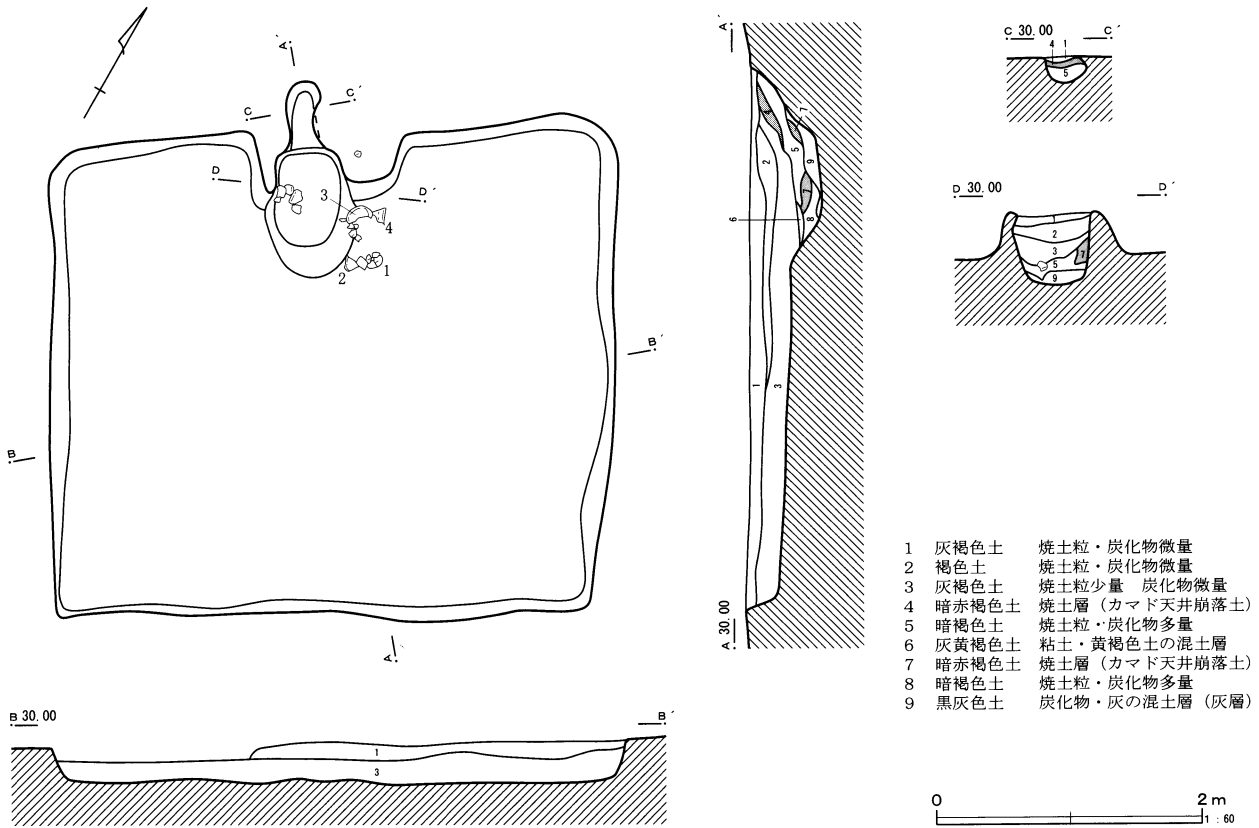
第14号住居跡 (第50・51図)

P・Q-11グリッドに位置する。第55号住居跡と重複し、当住居跡のほうが新しい。規模は、主軸長南北3.72m、東西4.34m、深さ30cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-32°

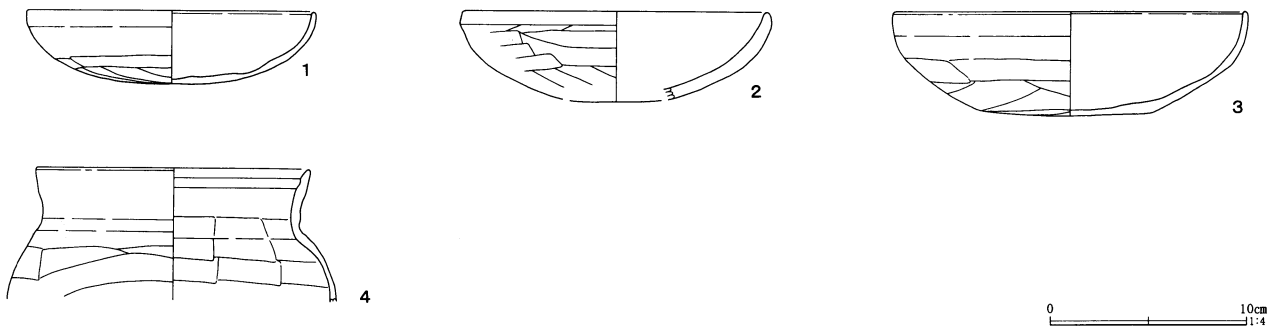
-Wを指す。

カマドは、北壁やや西寄りに設けられている。燃焼部は、100cm×67cm、深さ27cmを測り、煙道部は長さ50cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・甕が出土した。



第50図 第14号住居跡



第51図 第14号住居跡出土遺物

第14号住居跡出土遺物観察表 (第51図)

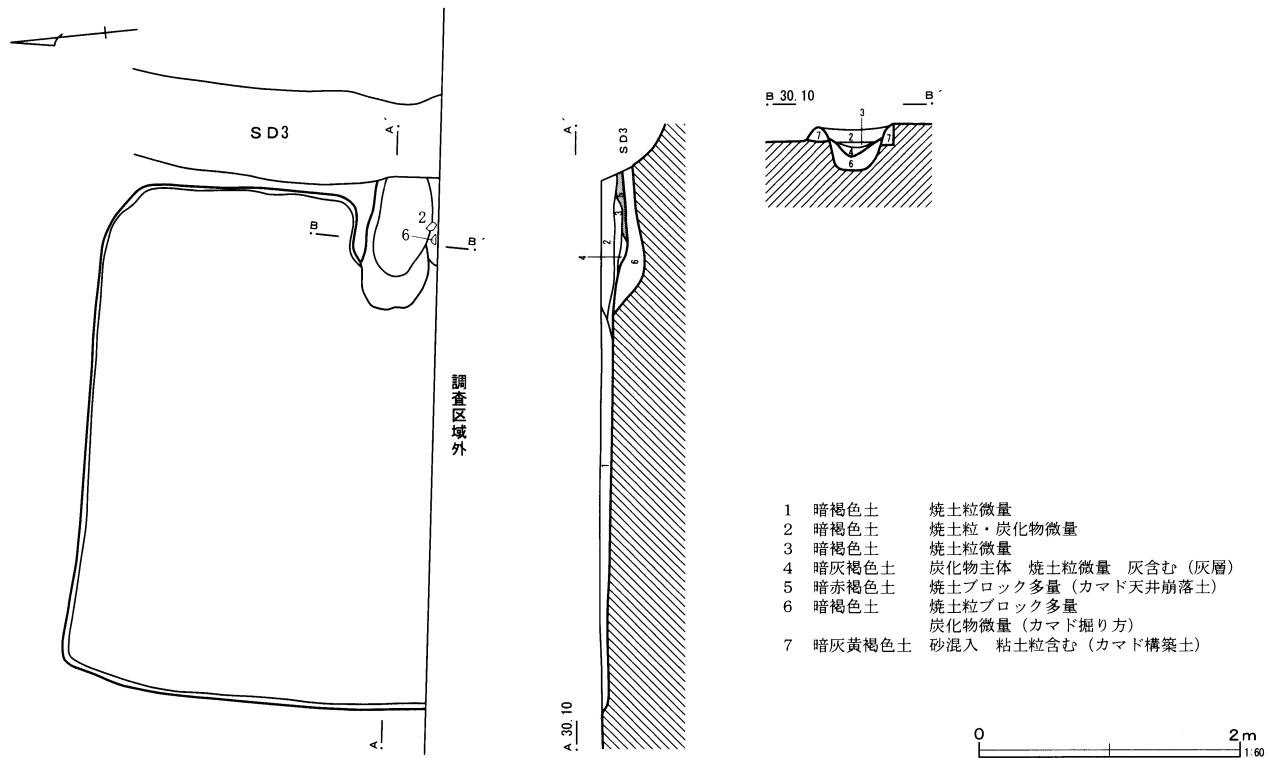
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	14.5	3.7		A F G	良好	橙	95	カマド	口縁部外面一部に油煙
2	土師碗	(15.5)			A B G	良好	灰黄	20	カマド	口縁部内面油煙付着
3	土師坏	17.8	5.3		A B G	良好	橙	80	カマド	
4	土師甕	14.0			A B D F	良好	にぶい橙	35	カマド	

第15号住居跡 (第52・53図)

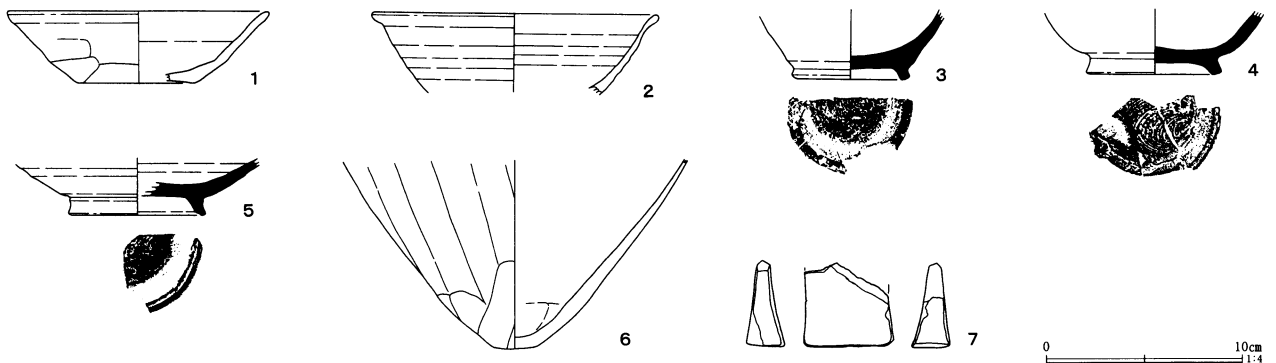
Q-12グリッドに位置する。南半は調査区域外で、カマド先端が第3号溝、第30・46号住居跡と重複し、溝よりは古く、2軒の住居跡より新しい。規模

は、主軸長東西3.92m、確認できた南北2.65m、深さ10cm程を測る。平面形は、方形を呈すると推定される。主軸方位は、N-97°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。先端が第3号



第52図 第15号住居跡



第53図 第15号住居跡出土遺物

第15号住居跡出土遺物観察表 (第53図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.1)	3.7	(5.9)	A F J	普通	浅黄橙	10	覆土	底部ヘラ削り 高台一部剥離
2	土師壺	(14.3)			A C F	良好	にぶい黄橙	10	カマド	
3	須恵高台壺			(5.3)	A J	普通	灰	30	覆土	
4	須恵高台壺			(6.3)	A K	普通	灰	30	覆土	
5	須恵高台壺			(6.7)	J	普通	黄灰	20	覆土	
6	土師甕			(2.3)	A B F	普通	灰黄	30	カマド	
7	砥石	長さ4.3 幅4.6 厚さ1.9					—	—	覆土	5面使用

溝に切られ燃焼部は、確認された100cm×52cm、深さ12cmを測る。

遺物は、土師器坏・壺・甕、須恵器高台付壺、砥石が出土した。

第16号住居跡 (第54・55図)

P-15グリッドに位置する。第41号住居跡・第82号溝と重複し、住居跡より新しい。規模は、主軸長南北3.34m、東西3.68m、深さ20cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-4°-Wを指す。

カマドは、北壁やや東寄りに設けられている。燃焼部は、68cm×50cm、深さ20cmを測り、煙道部は長さ104cmが確認できた。

遺物は、須恵器壺・高台付壺、灰釉陶器高台付壺、緑釉片が出土した。

第40号住居跡 (第54・56図)

P-15グリッドに位置する。カマドのみの検出である。燃焼部は、50cm×36cm、深さ21cmを測る。

遺物は、須恵器高台付壺が出土した。

第41号住居跡 (第54・57図)

P-15グリッドに位置する。南壁と西壁が第16号住居と重複して掘り込まれていることから、当住居跡が古い。南北に第81号溝に切られ、東西に第82号溝にも切られている。規模は、主軸長南北3.58m、東西4.60m、深さ14cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-4°-Wを指す。

カマドは、北壁西寄りに設けられている。第16号住居跡のカマドに切られており、燃焼部は、

56cm×53cm、深さ25cmを測る。

遺物は、土師器甕、須恵器坏・高台付壺が出土した。

第17号住居跡 (第58・59図)

Q-13グリッドに位置する。南側は、調査区域外になっている。第35号土坑、第1・2号掘立柱建物跡と重複し、土坑は新しいが、掘立柱建物跡との先後関係は不明である。規模は、主軸長東西3.56m、南北2.81mが確認でき、深さ6cm程を測る。平面形は、方形を呈すると推定される。主軸方位は、N-95°-Eを指す。

貯蔵穴は、南東部に設けられているが南側が調査区域外となっている。東西35cm、確認できた南北は30cm、深さ25cmを測り、方形を呈していると推定される。

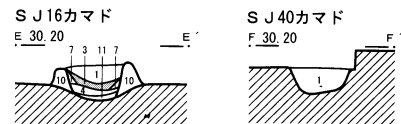
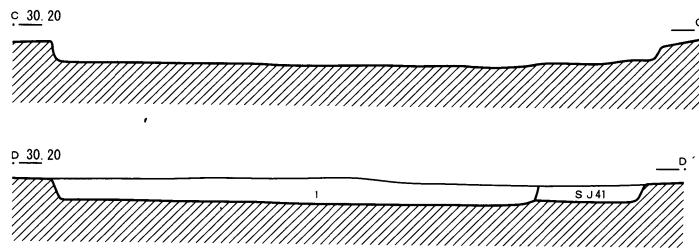
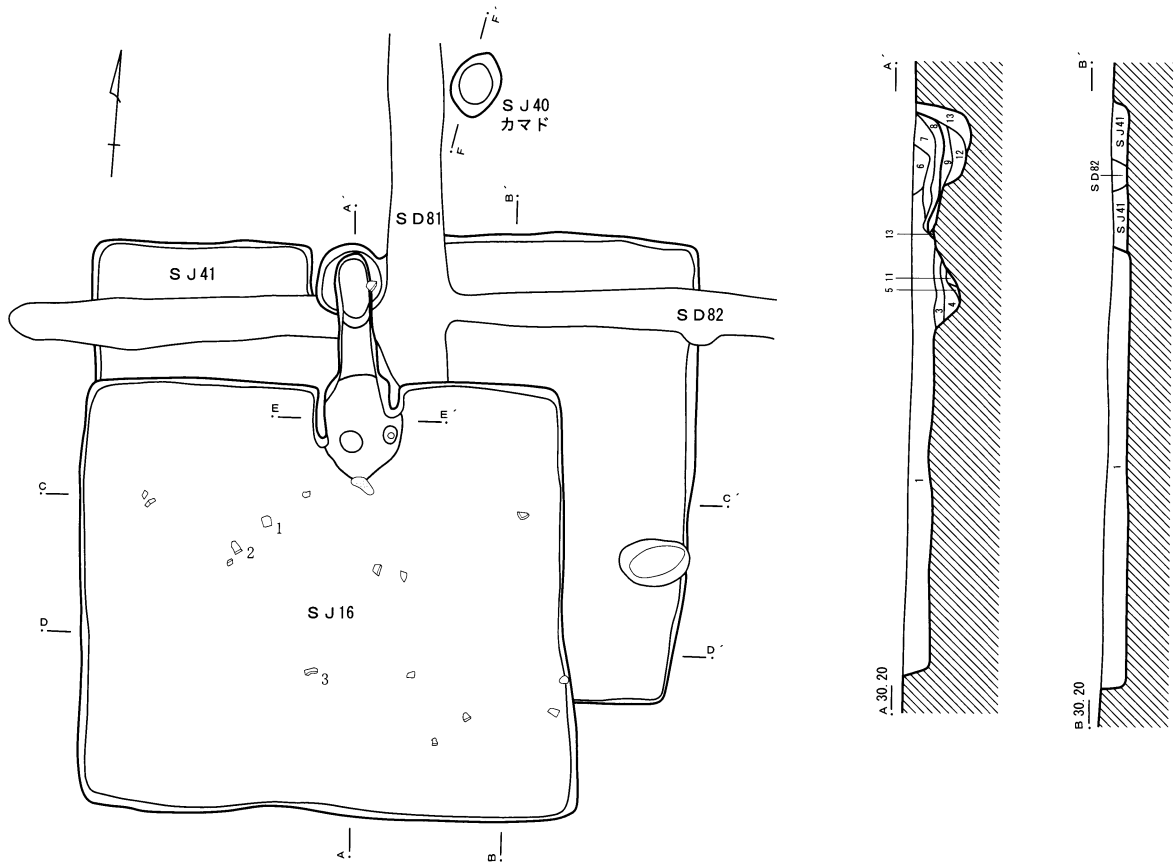
カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、64cm×47cm、深さ7cmを測る。

遺物は、土師器坏・小型甕、須恵器坏高台付壺・皿が出土した。

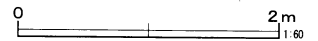
第18号住居跡 (第60図)

Q-15・16グリッドに位置する。規模は、主軸長東西4.06m、南北2.96m、深さ17cm程を測る。平面形は長方形を呈する。主軸方位は、N-91°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。



第40号住居跡カマド
1 暗褐色土 焼土粒・炭化物微量

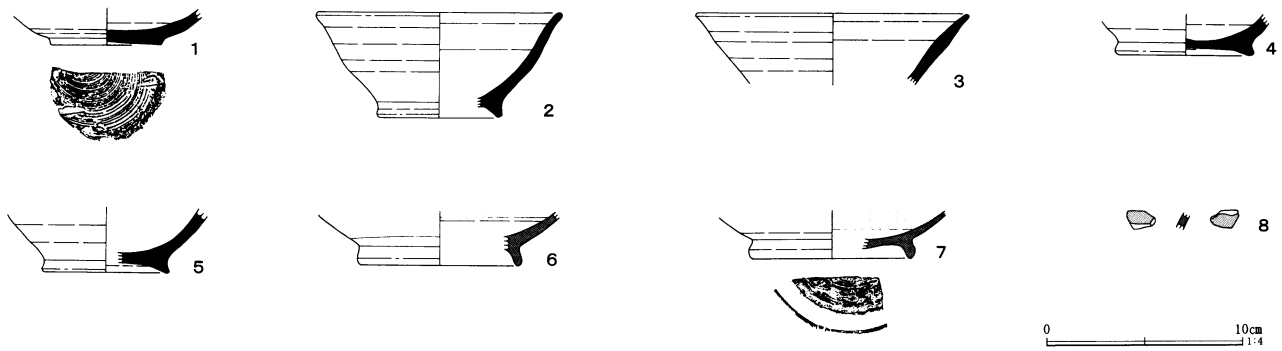


第16・41号住居跡

- 1 暗褐色土 焼土粒・炭化物少量 砂多量
- 2 暗褐色土 焼土粒・焼土ブロックやや多量 砂少量
- 3 赤褐色土 焼土粒・焼土ブロック主体 (天井崩落土)
- 4 灰褐色土 灰層 シルト含む
- 5 褐色土 シルト質 焼土ブロック含む
- 6 赤褐色土 白色粒やや多量 焼土ブロック・細砂粒含む
- 7 暗褐色土 焼土粒・焼土ブロック多量 砂粒少量 軽石やや多量

- 8 暗赤褐色土 焼土ブロック多量 (S J 16煙道床)
- 9 暗褐色土 焼土粒・炭化物・灰多量 (S J 41カマド)
- 10 褐色土 焼土ブロック少量 焼けた細砂質シルト
- 11 灰褐色土 シルト質 焼土ブロック少量
- 12 暗褐色土 灰層 焼土ブロック少量 炭化物
- 13 暗灰褐色土 焼土粒・炭化物少量

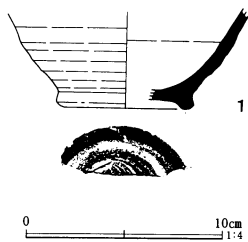
第54図 第16・40・41号住居跡



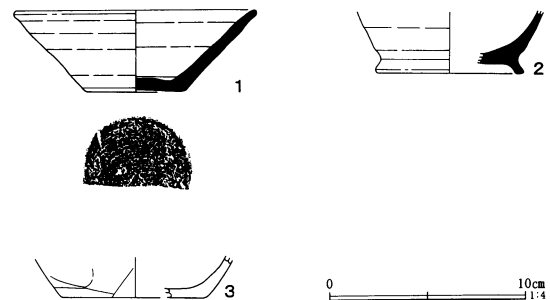
第55図 第16号住居跡出土遺物

第16号住居跡出土遺物観察表 (第55図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏			(5.7)	A K	良好	灰	35	覆土	底部右回転糸切り
2	須恵高台坏	(12.2)	5.4	(6.0)	F	不良	にぶい黄橙	25	覆土	
3	須恵碗	(13.7)			A C F	不良	にぶい黄	15	床直	
4	須恵高台碗			(6.7)	C F	不良	灰	40	覆土	磨耗し、高台内底部調整不明
5	須恵高台碗			(6.2)	A B J	不良	灰白	15	覆土	磨耗し、高台内底部調整不明
6	灰釉高台碗			(8.0)	A C	良好	灰白	10	覆土	浜北産
7	灰釉高台碗			(8.1)	A G	良好	灰	15	覆土	高台内底部へう削り 二川産
8	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産



第56図 第40号住居跡出土遺物



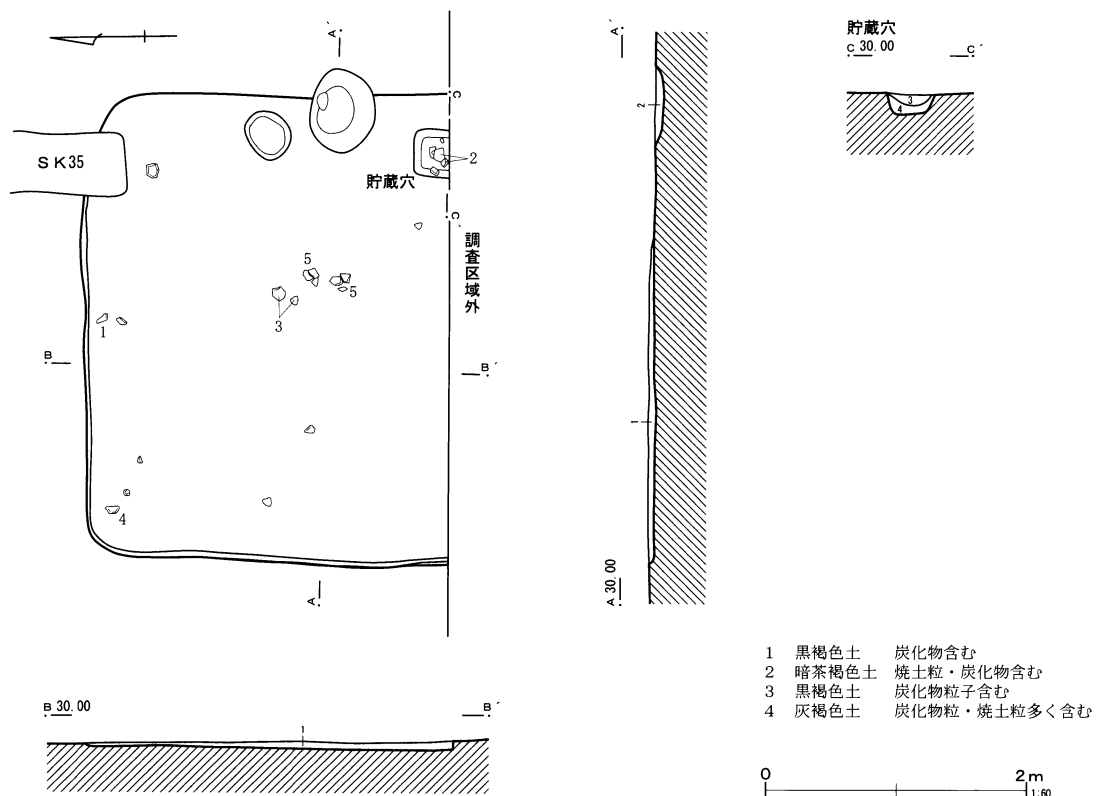
第57図 第41号住居跡出土遺物

第40号住居跡出土遺物観察表 (第56図)

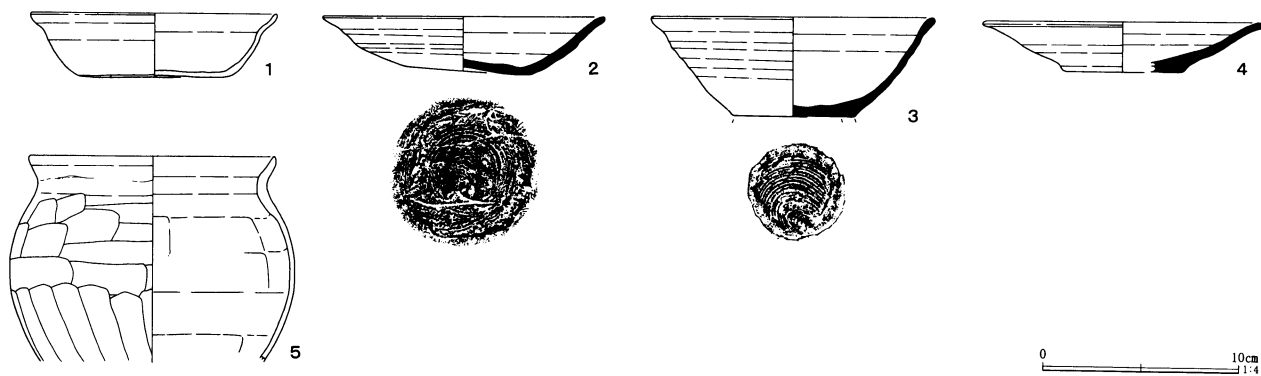
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台碗			(6.4)	A G	普通	灰	10	カマド	

第41号住居跡出土遺物観察表 (第57図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(12.2)	4.1	(5.0)	A B H	普通	黒褐	40	カマド	底部右回転糸切り
2	須恵高台坏			(7.8)	A G	良好	灰	20	カマド	高台内底部回転糸切り
3	土師甕			(7.2)	A B C	良好	にぶい褐	25	覆土	底部一方向へう削り



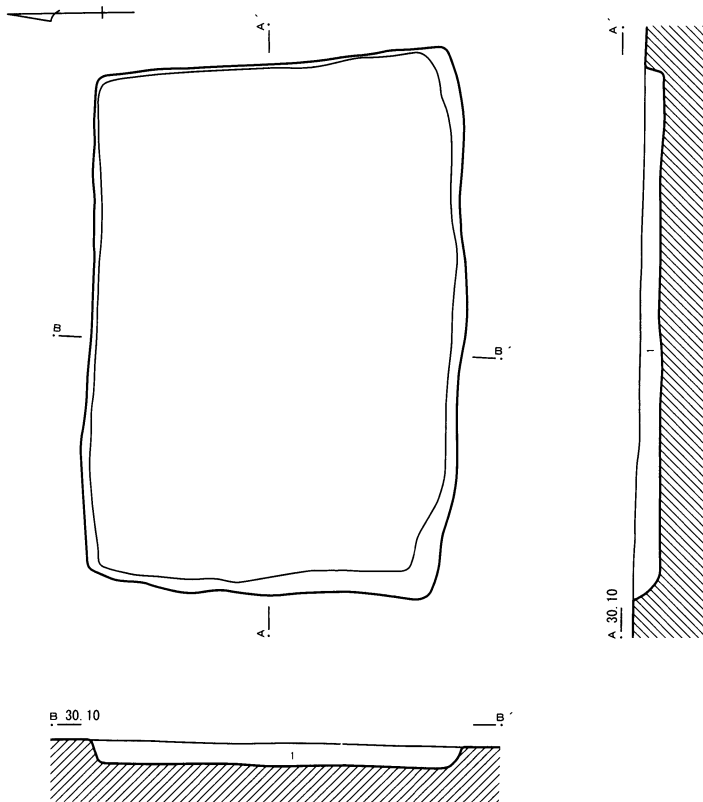
第58図 第17号住居跡



第59図 第17号住居跡出土遺物

第17号住居跡出土遺物観察表 (第59図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師杯	(12.6)	3.3	(7.6)	A B C	普通	橙	40	覆土	
2	須恵杯	(14.3)	2.8	6.2	A G J	普通	灰黄	70	ピット床	歪み大
3	須恵高台埴	14.2	5.0	6.2	A F J	普通	灰	75	覆土	高台欠損 底部のみ酸化焰焼成
4	須恵皿	(14.0)	2.6	(5.2)	A F	良好	灰	30	覆土	底部右回転糸切り
5	土師小形壺	(12.4)			A B F	良好	にぶい橙	40	覆土	



1 暗褐色土 白色粒・暗黄褐色粘土ブロック含む



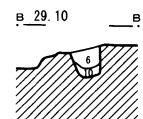
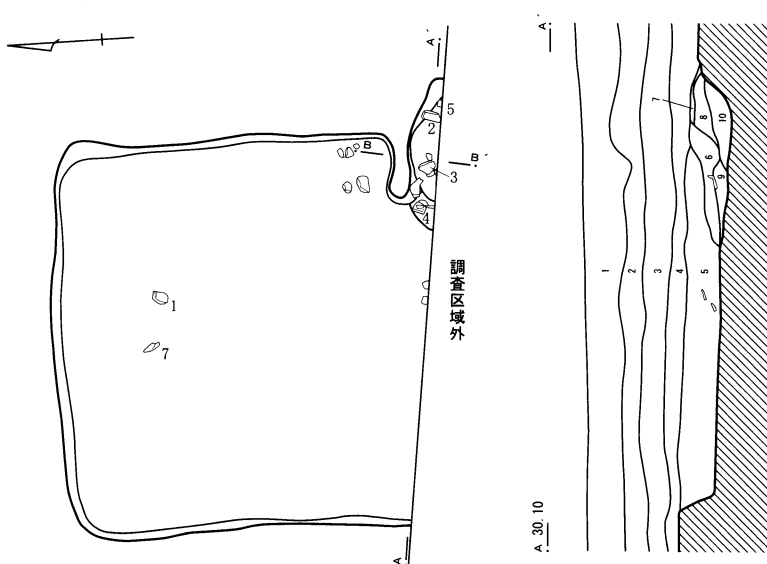
第60図 第18号住居跡

第20号住居跡 (第61・62図)

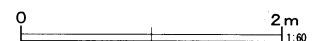
Q-11グリッドに位置する。南半部分が、調査区域外になっている。第52号住居跡と重複し、西壁上部を掘り込み、当住居跡のほうが新しい。規模

は、主軸長東西3.00 m、確認できた南北2.84 m、深さ28cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-97°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、



- 1 暗灰黄色土 砂粒多量
- 2 暗灰黄色土 砂粒少量
- 3 淡黒褐色土 焼土粒・炭化物微量
- 4 暗褐色土 焼土粒・炭化物少量
- 5 暗褐色土 焼土粒・炭化物多量
- 6 赤褐色土 焼土層
- 7 暗褐色土 焼土粒・炭化物少量
- 8 暗褐色土 焼土多量
- 9 暗灰褐色土 焼土粒多量
- 10 暗褐色土



第61図 第20号住居跡

118cm、深さ8cmを測る。

遺物は、土師器坏・甕・台付甕、須恵器高台付碗、礫、鉄製品が出土した。7は鉄製の鉈である。刃部先端を欠き、現存長13.1cmである。茎部は長さ9.4cmで、柄の木質が付着している。刃部は幅1.5cmの片丸造りである。

第21号住居跡（第63・64図）

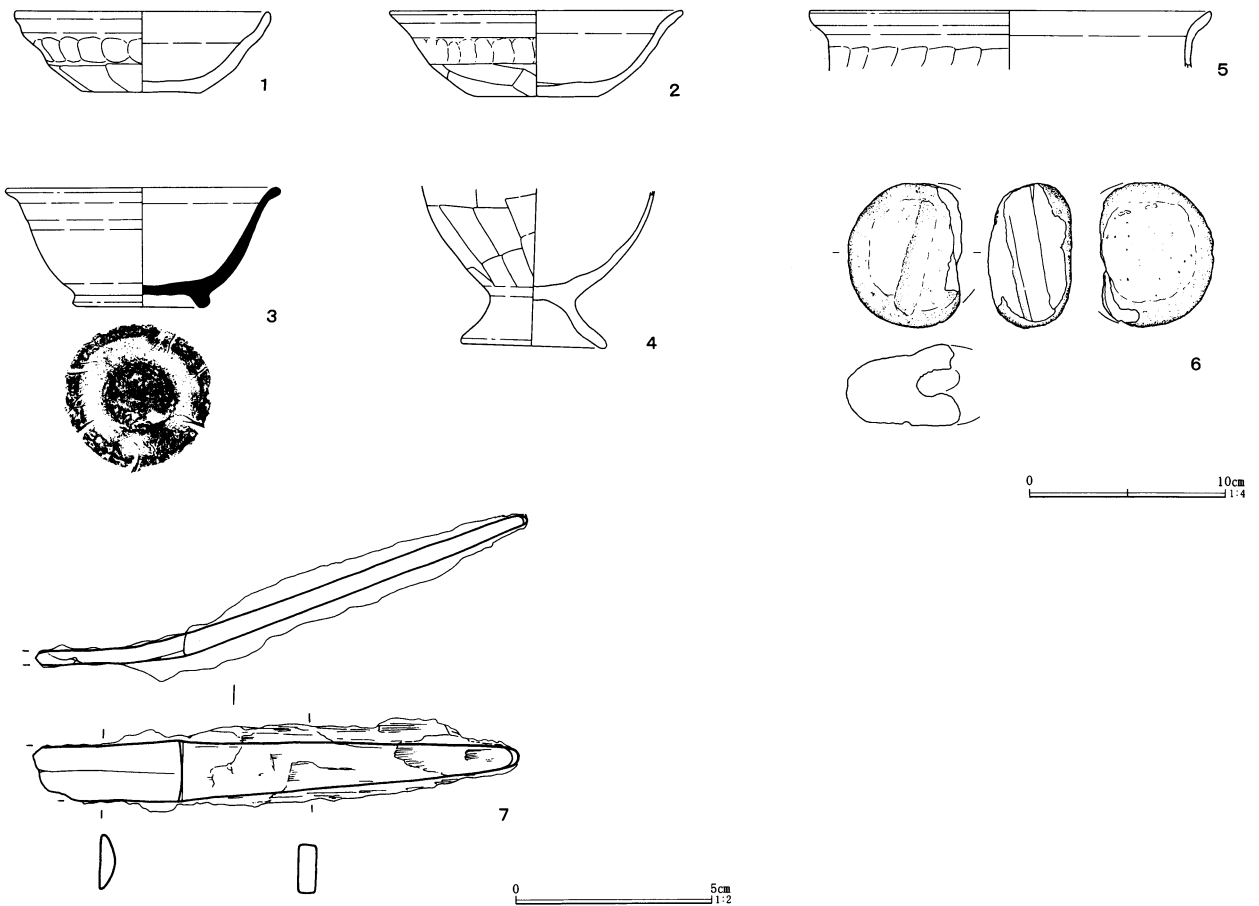
P-13・14グリッドに位置する。第24号住居跡と重複し、北西隅を掘り込み、当住居のほうが新し

い。規模は、主軸長東西3.11m、南北2.75m、深さ9cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-95°-Eを指す。

貯蔵穴は、カマド北の東壁際に設けられている。平面形は、楕円形で、規模は長軸58cm×短軸33cm、深さ10cmを測る。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、66cm×72cm、深さ10cmを測る。

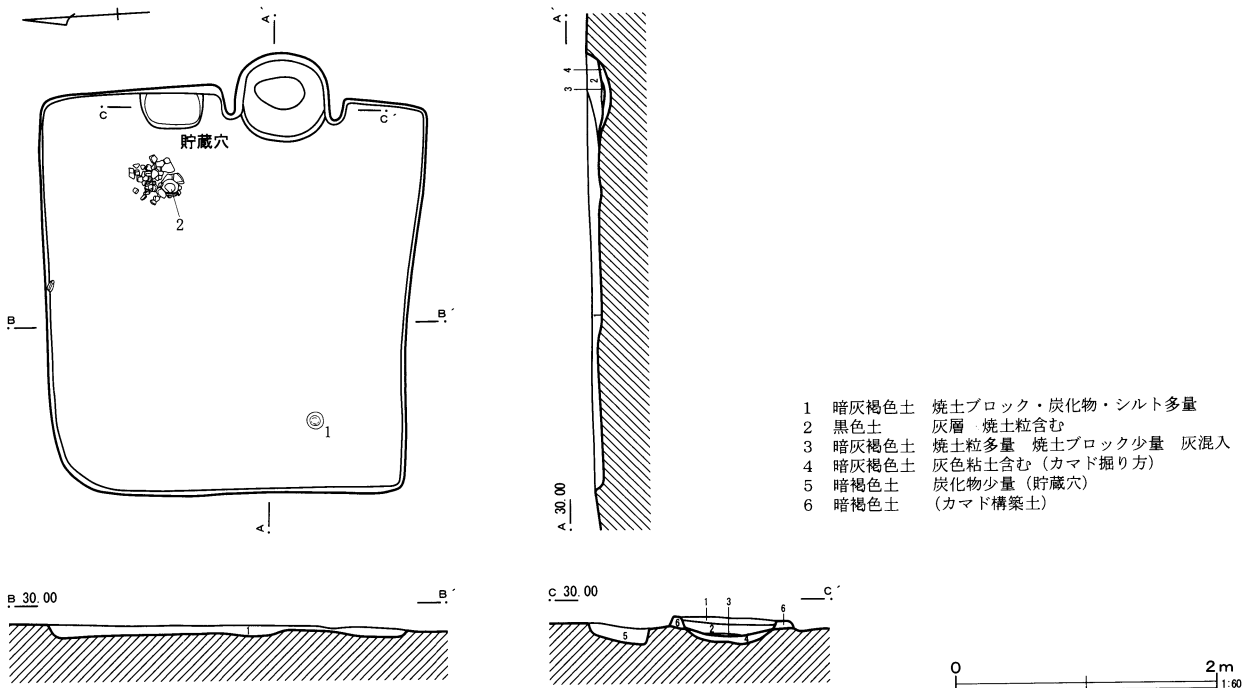
遺物は、土師器坏・甕が出土した。



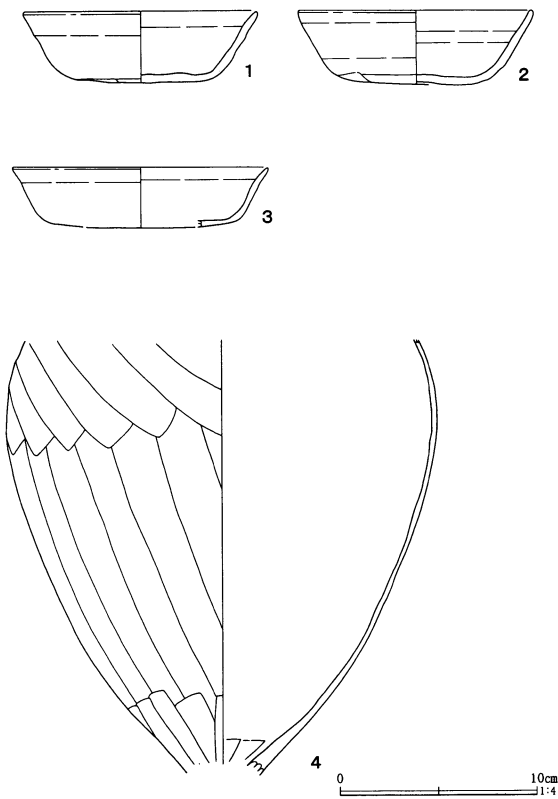
第62図 第20号住居跡出土遺物

第20号住居跡出土遺物観察表（第62図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.7)	4.1	6.0	ACFJ	普通	にぶい黄褐	60	カマド他	底部へラ削り
2	土師坏	(14.8)	4.4	6.2	ABF	普通	褐	30	カマド	底部一方向平行へラ削り
3	須恵高台碗	(13.6)	6.1	6.4	FK	不良	にぶい黄橙	65	カマド	
4	土師台付甕			7.2	ABFJ	良好	にぶい褐	80	カマド	
5	土師甕	(20.4)			AF	普通	にぶい黄橙	30	カマド	
6	礫	長さ7.3 幅5.8 厚さ4.2					-	-	覆土	



第63図 第21号住居跡



第64図 第21号住居跡出土遺物

第22号住居跡 (第65・66図)

Q-18・19グリッドに位置する。第44号住居跡と重複し、東壁を掘り込んでおり当住居跡のほうが新しい。規模は、主軸長東西3.34m、南北4.46m、深さ28cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-84°-Eを指す。

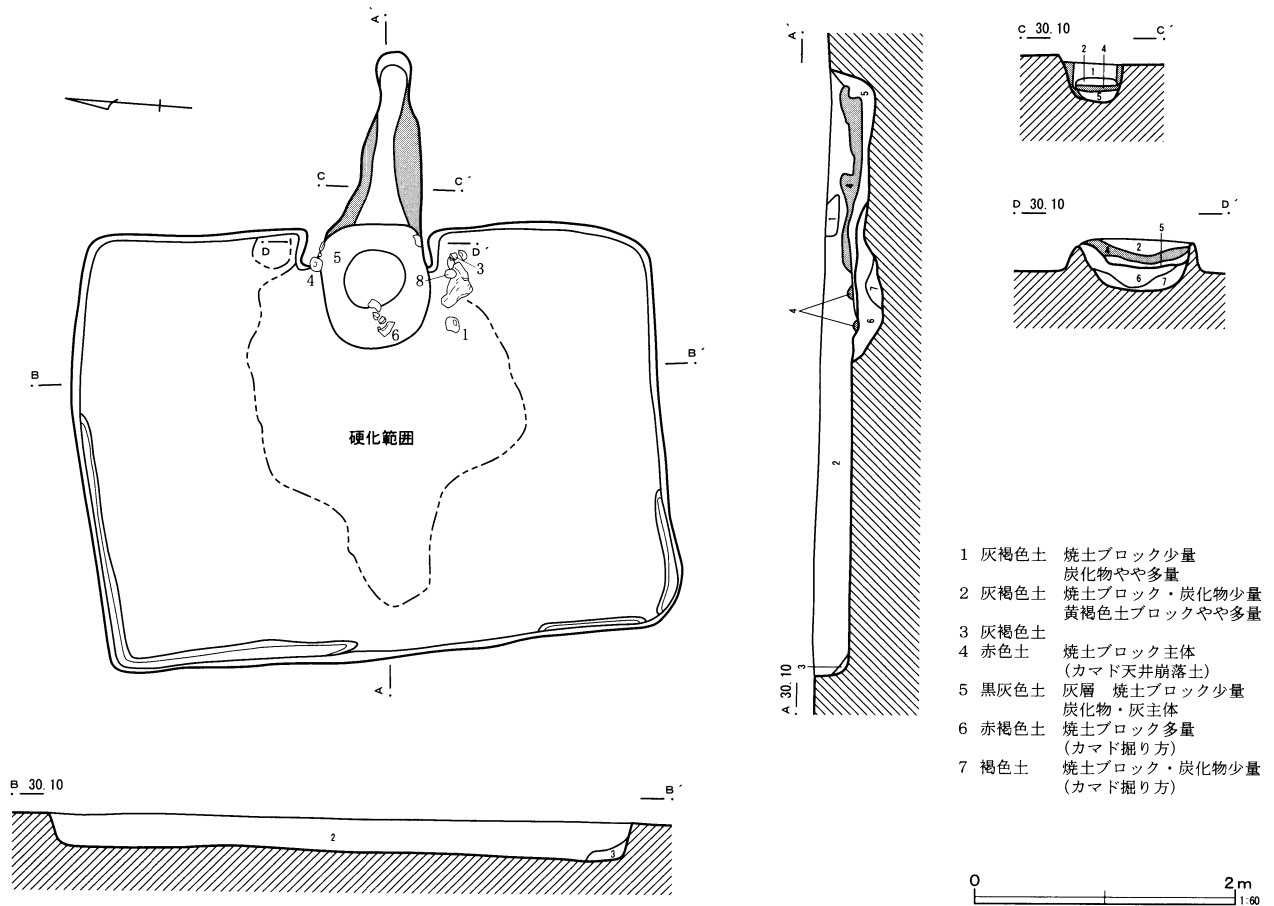
壁溝は全周せず、北壁西半部から西壁北半部と南壁・西壁のコーナー部に部分的に廻り、幅10~20cm、深さ2~10cmを測る。

カマドは、東壁中央に設けられている。燃焼部は、94cm×84cmを測り、床面と同じ高さである。煙道部は、長さ130cmが確認できた。燃焼部から煙道にかけて壁が被熱し、赤変していた。また、カマド前面には、硬化面がみられた。

遺物は、須恵器高台付壺、土師器甕、礫、鉄製品が出土した。9は角棒状の鉄製品である。2片に分かれるが同一個体と推定される。現存長は1.2cmと3.3cmである。用途は不明である。

第21号住居跡出土遺物観察表 (第64図)

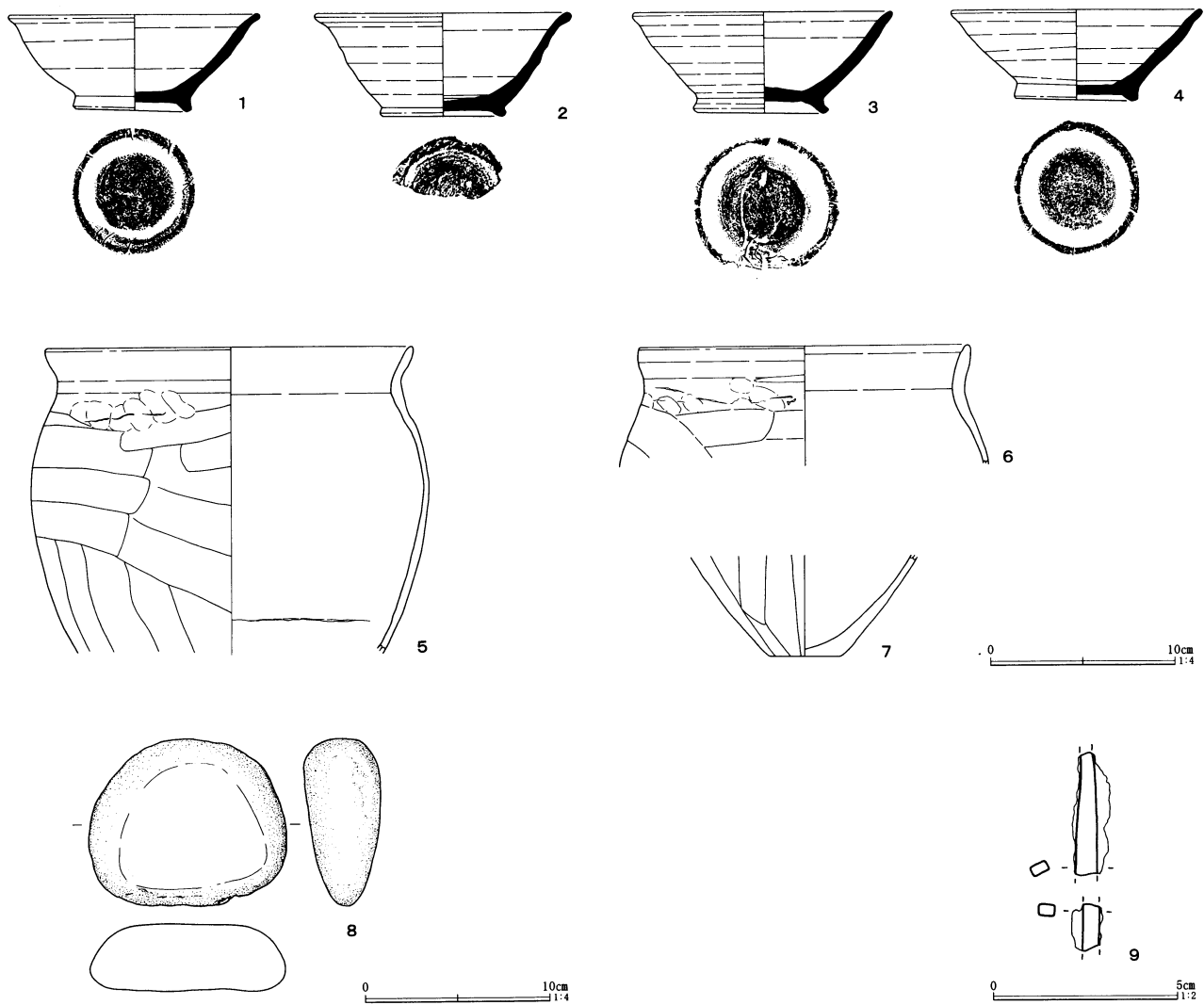
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	11.8	3.6		A C F	普通	明赤褐	100	床直	底部へラ削り、中央部無調整
2	土師坏	11.8	3.8	7.5	A C F	普通	褐	100	床直	底部へラ削り
3	土師坏	(12.9)			A B C	普通	にぶい橙	10	覆土	底部へラ削り
4	土師甕			3.6	A B F	良好	暗褐	80	覆土	



第65図 第22号住居跡

第22号住居跡出土遺物観察表 (第66図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台埴	13.3	5.3	6.0	A C J	不良	灰白	75	覆土	歪みあり
2	須恵高台埴	(13.5)	5.5	(6.5)	A G	普通	灰	20	覆土	
3	須恵高台埴	(13.3)	5.5	6.8	A J	不良	灰白	40	カマド	
4	須恵高台埴	13.2	5.0	6.2	B	普通	灰黄	100	カマド	
5	土師甕	(19.7)			A J	普通	にぶい黄橙	20	カマド	
6	土師甕	(17.7)			A B F J	普通	橙	20	カマド	
7	土師甕			(3.9)	A B F	良好	橙	40	覆土	
8	石器	長さ9.0 幅10.6 厚さ4.2						—	カマド	



第66図 第22号住居跡出土遺物

第23号住居跡 (第67・68図)

P・Q-20グリッドに位置する。第58号住居跡の東部隅と重複し、掘り込んでいることから当住居跡のほうが古い。規模は、主軸長東西3.29m、南北3.22m、深さ30cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-90°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、105cmが残存していた。煙道部は、長さ35cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏の他鉄製品が出土した。6は鉄製の刀子である。切先を含む刃部と茎先を欠く。現存長は8.3cmである。関は明瞭な段のついた両関である。7は刃部の破片である。現存長4.2cm、刃幅1.3cmである。刀子あるいは短刀の

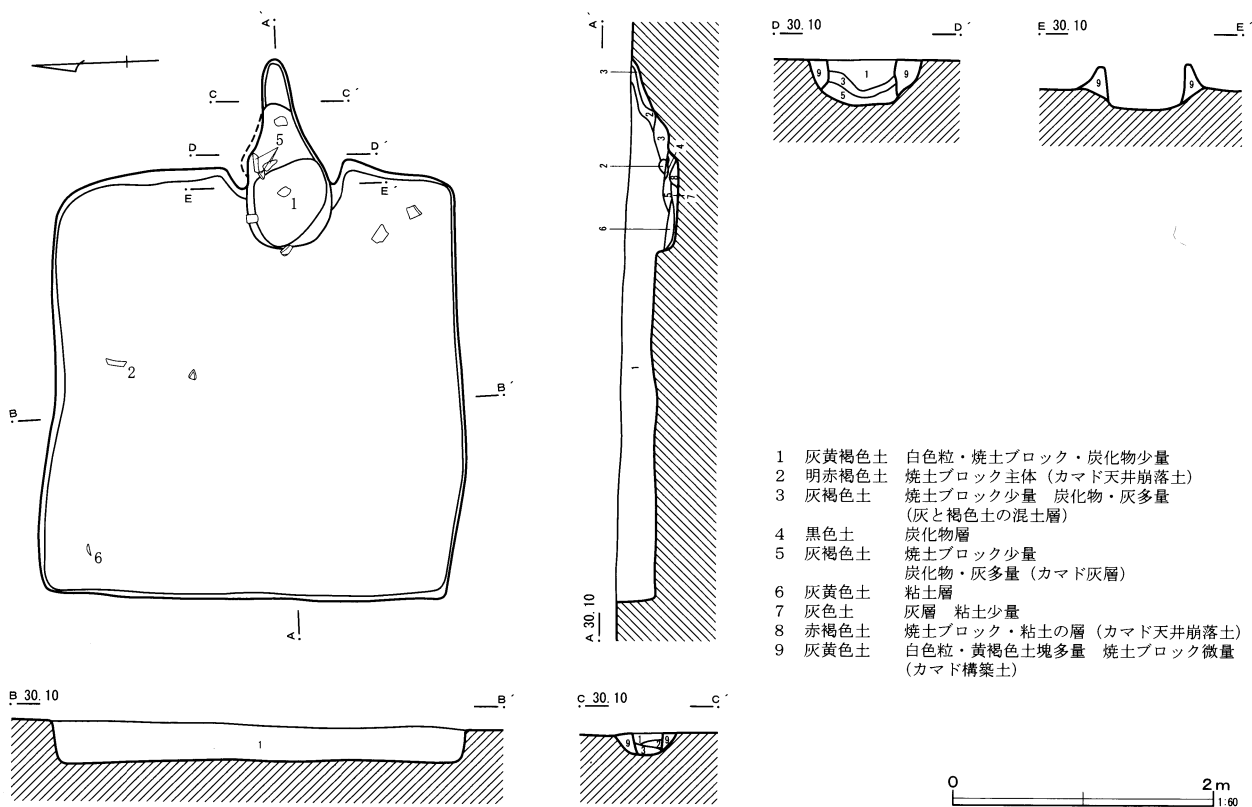
一部と考えられる。

第24号住居跡 (第69・70図)

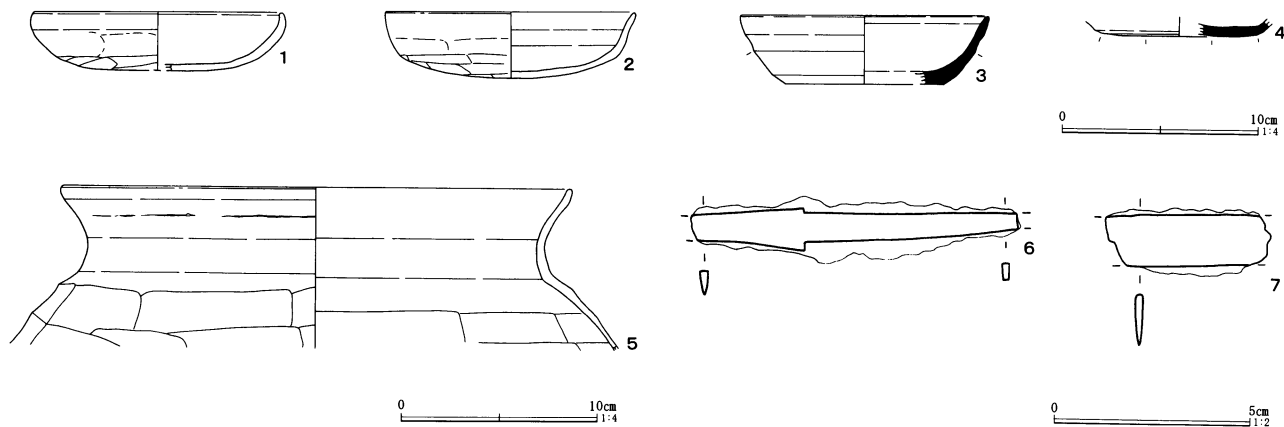
P・Q-13・14グリッドに位置する。第21・25・26・28・72号住居跡と重複し、第21号住居跡が新しく、第25・26・28・72号住居跡は古い。規模は、主軸長東西4.10m、南北4.52m、深さ13cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-101°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、42cmが残存していた。煙道部は、長さ62cmが確認できた。

遺物は、土師器坏、須恵器坏、磨石、須恵器転用の紡錘車が出土した。



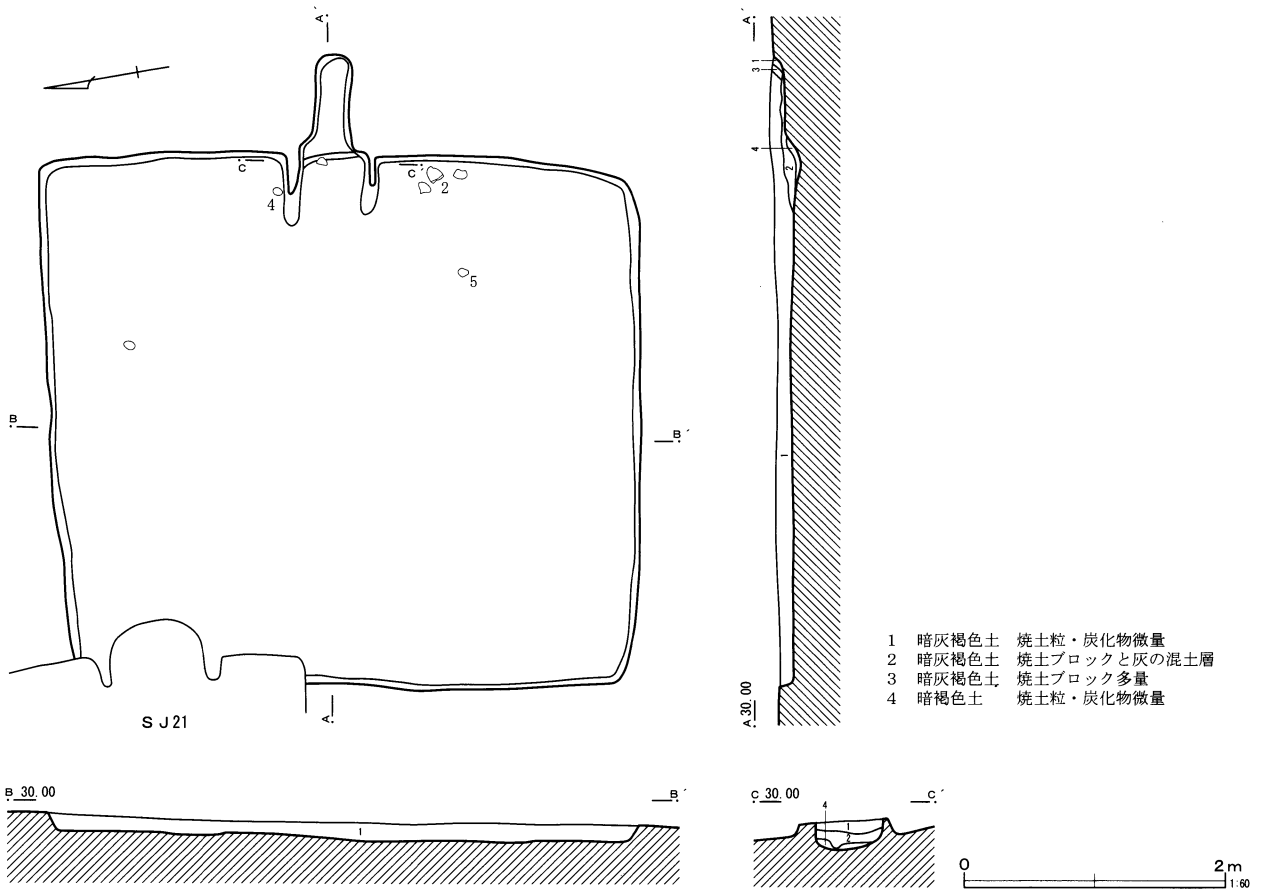
第67図 第23号住居跡



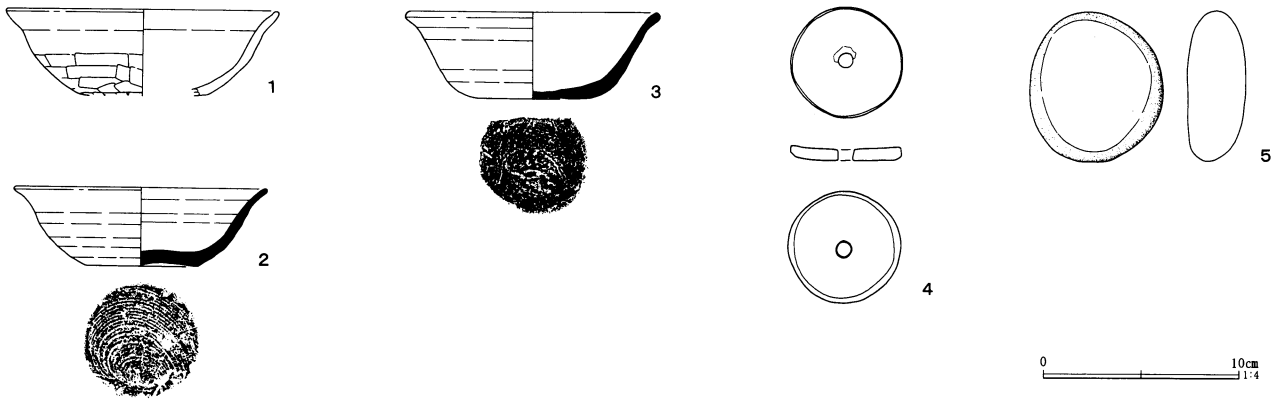
第68図 第23号住居跡出土遺物

第23号住居跡出土遺物観察表 (第68図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.5)	3.0		A B D	良好	褐	45	カマド	口縁部外面～体部内面ロクロナデ
2	土師坏	12.6	3.4		A B C	普通	にぶい褐	100	覆土	
3	須恵坏	(12.5)	3.5	(8.0)	A G K	普通	灰白	15	覆土	底部右回転ヘラ削り 体部外面下半右回転ヘラ削り
4	須恵坏			(8.0)	A G H	良好	灰	30	覆土	底部右回転ヘラ削り
5	土師甕	(25.8)			A B G	普通	橙	30	カマド	



第69図 第24号住居跡



第70図 第24号住居跡出土遺物

第24号住居跡出土遺物観察表 (第70図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.8)			A B E	良好	にぶい橙	20	覆土	
2	須恵坏	(12.7)	4.0	5.7	A J	普通	灰白	70	床直	
3	須恵坏	12.5	4.5	6.3	A G	普通	灰白	60	覆土	
4	紡錘車	径5.7 厚0.7 孔径0.8			A G	良好	灰	100	床直	須恵器転用
5	磨石	長さ7.7 幅6.8 厚さ2.9						-	床直	安山岩 炭化物付着

第25号住居跡 (第71図)

Q-14グリッドに位置する。南側は調査区域外で、西壁は不明である。第24・26・29・69号住居跡と重複し、第24号住居跡が新しく、当住居跡・第69号住居跡・第29号住居跡の順に古くなると考えられる。規模は、推定主軸長東西3.60m、南北3.20m以上が確認でき、深さ24cm程を測る。主軸方位は、N-96°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は南半部が調査区域外で詳細は不明であるが、東西長

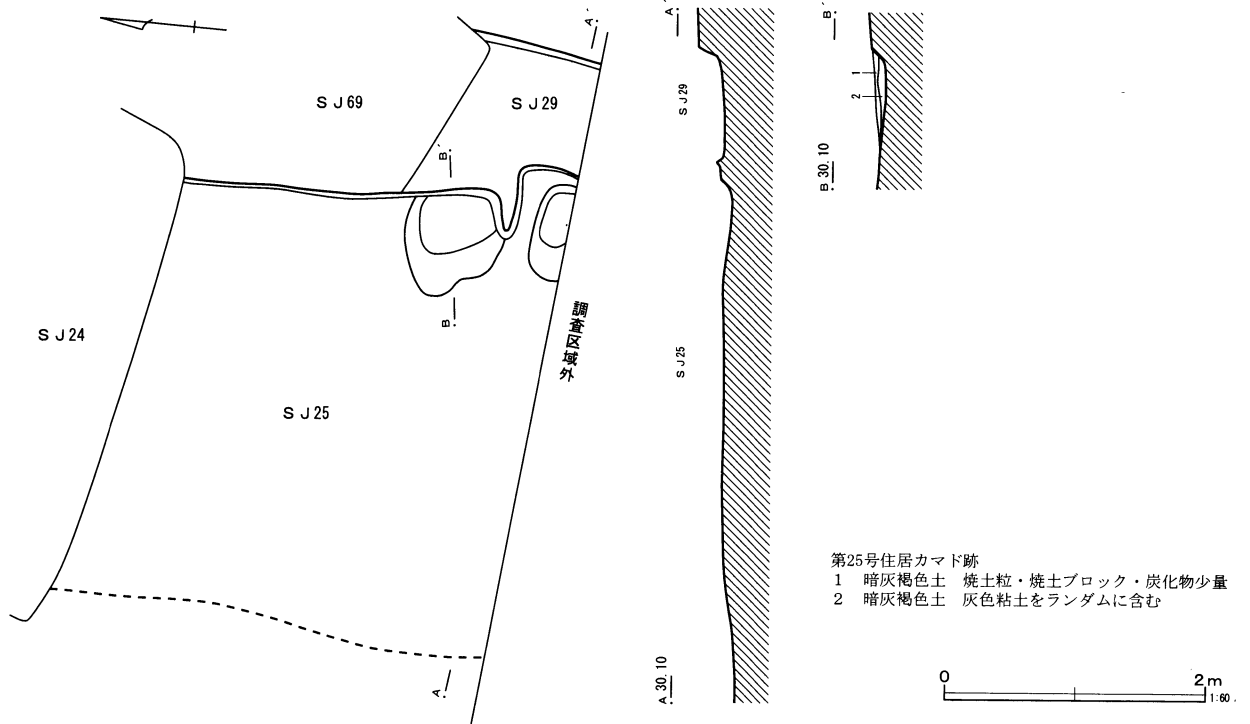
82cmが確認できた。カマド北袖部に土坑が確認できた。

第29号住居跡 (第71・72図)

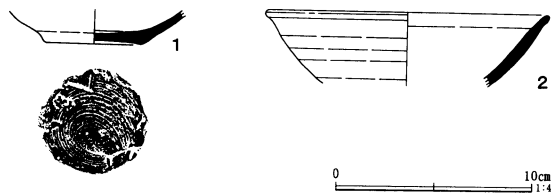
Q-14グリッドに位置する。北側は第69号住居に壊されており、西側は、第25号住居に壊され、南側は、調査区域外になっている。確認できた規模は、主軸長東西1.22m、南北1.33m、深さ18cmほどを測る。主軸方位は、N-98°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、須恵器坏・埴が出土した。



第71図 第25・29号住居跡



第72図 第29号住居跡出土遺物

第29号住居跡出土遺物観察表 (第72図)

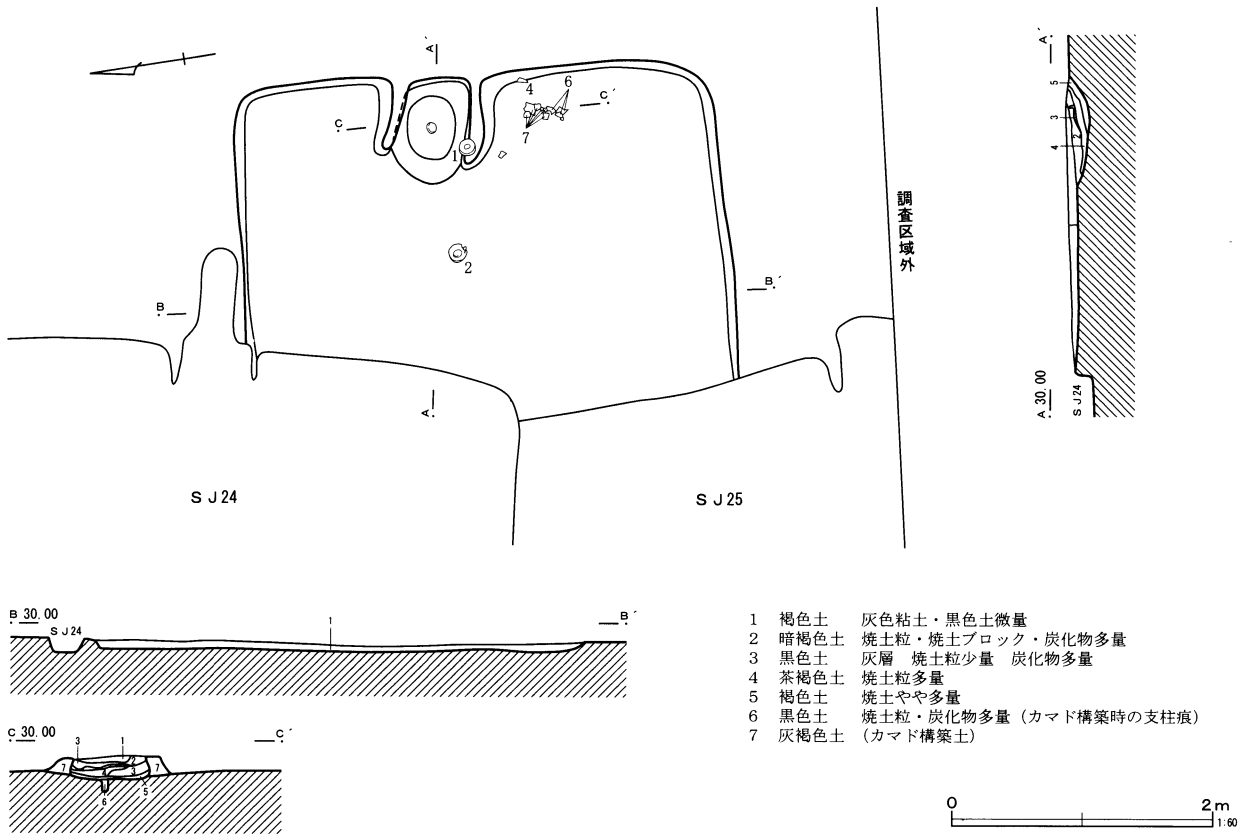
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏			5.0	AG	良好	灰	底部	床面	
2	須恵埴	(14.3)			CJ	不良	にぶい黄橙	15	床直	

第26号住居跡 (第73・74図)

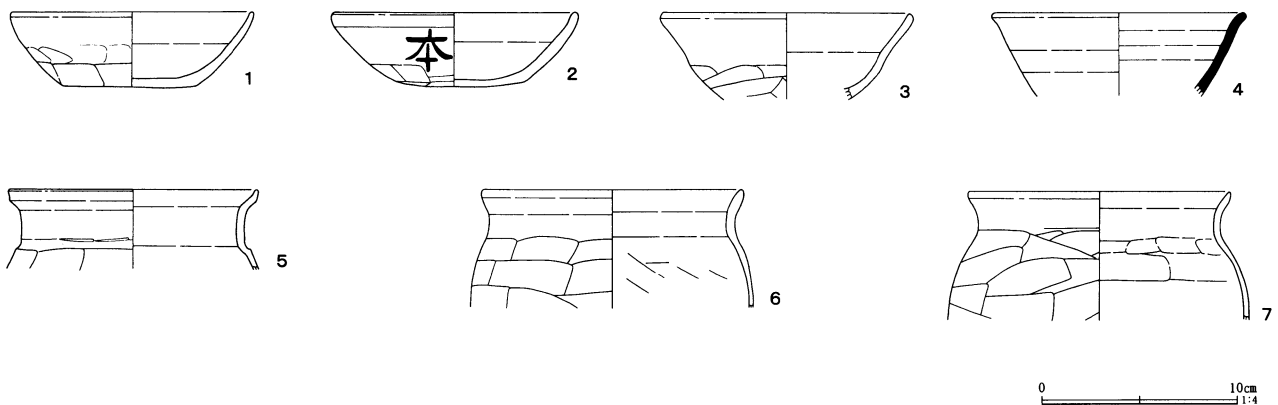
Q-14グリッドに位置する。第24・25号住居跡と重複し、2軒の住居跡より古い。規模は、確認できた主軸長東西2.64m、南北3.74m、深さ6cm程を測る。平面形は、方形を呈すると推定される。主軸方位は、N-95°-Eを指す。

カマドは、東壁北寄りに設けられている。燃烧部は、82cm×55cm、深さ10cmを測る。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏が出土した。



第73図 第26号住居跡



第74図 第26号住居跡出土遺物

第26号住居跡出土遺物観察表 (第74図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.3	4.8	6.8	A B C D F	良好	にぶい褐	100	カマド(袖)	底部一方向平行ヘラ削り
2	土師坏	12.3	3.8	6.7	A B C F	普通	にぶい橙	90	覆土	外面に墨書「本」底部外面一方向ヘラ削り、中央部無調整
3	土師坏	(12.6)			A B C F	良好	橙	20	カマド	
4	須恵坏	(12.6)			A	良好	灰	20	覆土	
5	土師甕	(12.6)			B C F	良好	橙	15	覆土	
6	土師甕	(13.2)			A B F	良好	にぶい黄褐	15	覆土	
7	土師甕	(13.3)			A B C F	良好	にぶい褐	20	覆土	

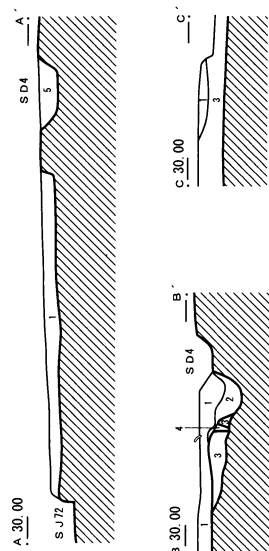
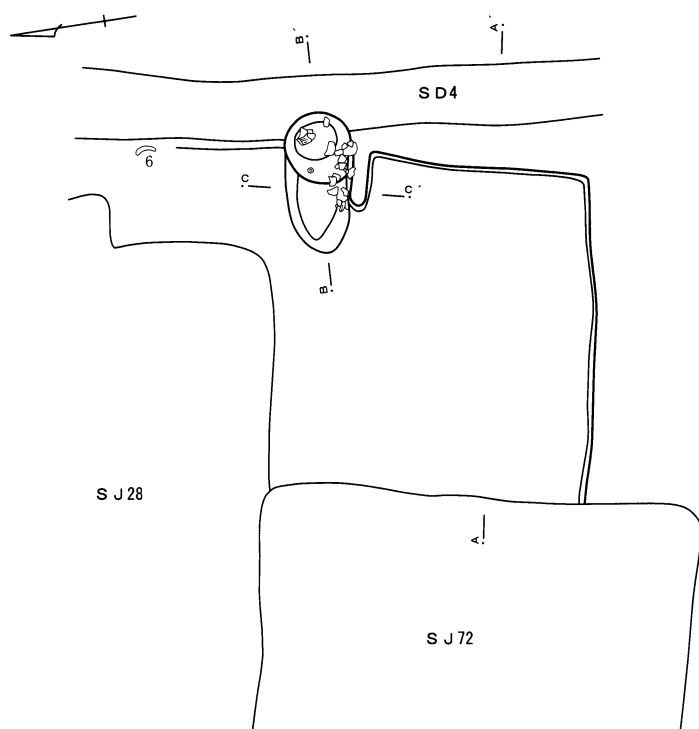
第27号住居跡 (第75・76図)

P・Q-14グリッドに位置する。第28・72号住居跡・第4号溝と重複し、北側は殆ど第28号住居に壊されており、南側も第72号住居に壊されていることから、溝と2軒の住居跡より古い。確認できた規模は、主軸長東西2.54m以上、南北3.94m以上、深さ12cm程を測る。主軸方位は、N-105°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。カマド先端部分は第4号溝に一部切られている。燃焼部は、

108cm×54cm、深さ23cmを測る。

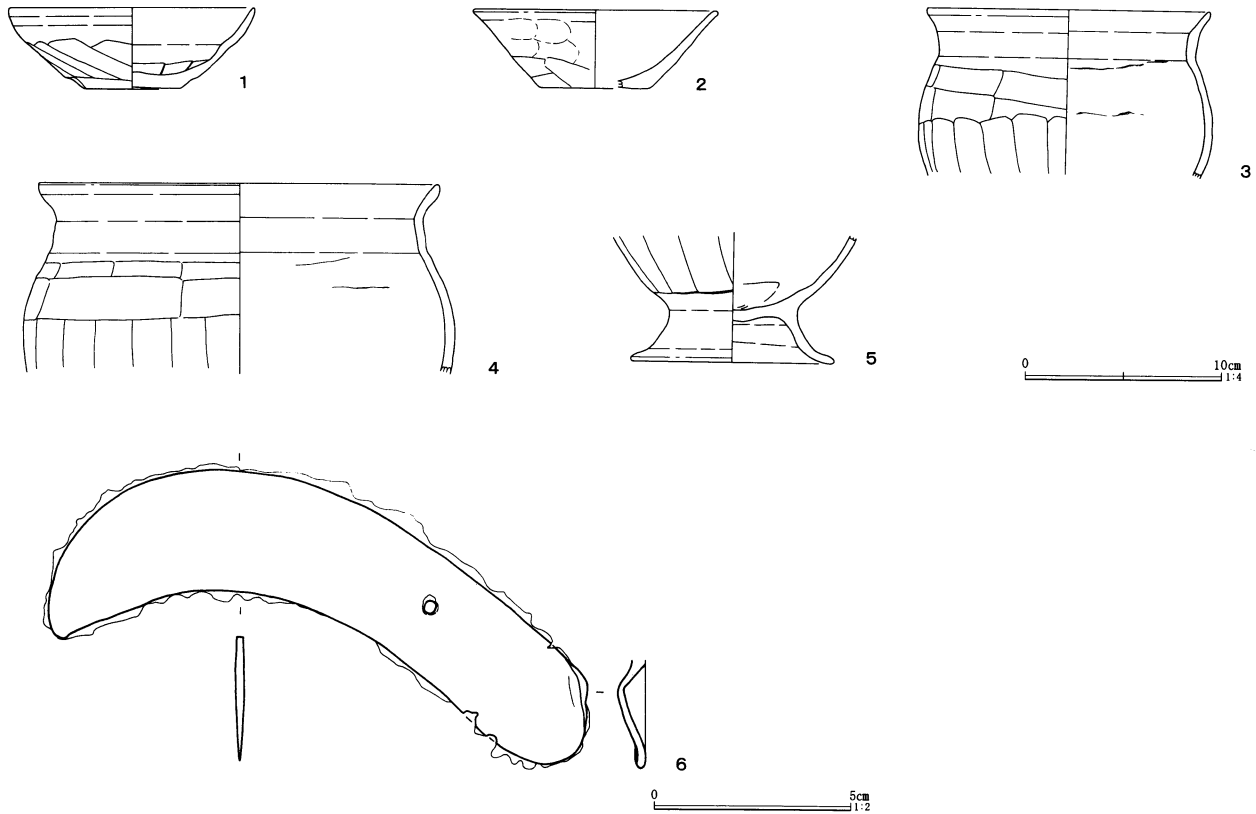
遺物は、土師器坏・甕・台付甕、鎌が出土した。6は鉄製鎌である。ほぼ完形で全長14.2cm、刃幅は最大で3.1cmである。曲刃鎌で先端の反りはあまりきつくない。柄を装着するために背側の端部をわずかに折り曲げている。その端部から5.3cmのところに径0.3cmの孔を設けているが、これも柄の装着のためのものと推定される。この孔は作られた時ではなく、使用中にあけたものと考えられ、おそらくはその孔に紐などを通して柄木を固定したのであろう。



- 1 暗褐色土 焼土粒・炭化物微量 砂粒少量
- 2 黒褐色土 焼土粒・炭化物少量
- 3 黒褐色土 (貼り床)
- 4 黒灰色土 焼土粒・炭化物多量 (カマド構築時の支柱痕)
- 5 黒褐色土 細砂粒微量 (S D 4覆土)



第75図 第27号住居跡



第76図 第27号住居跡出土遺物

第27号住居跡出土遺物観察表 (第76図)

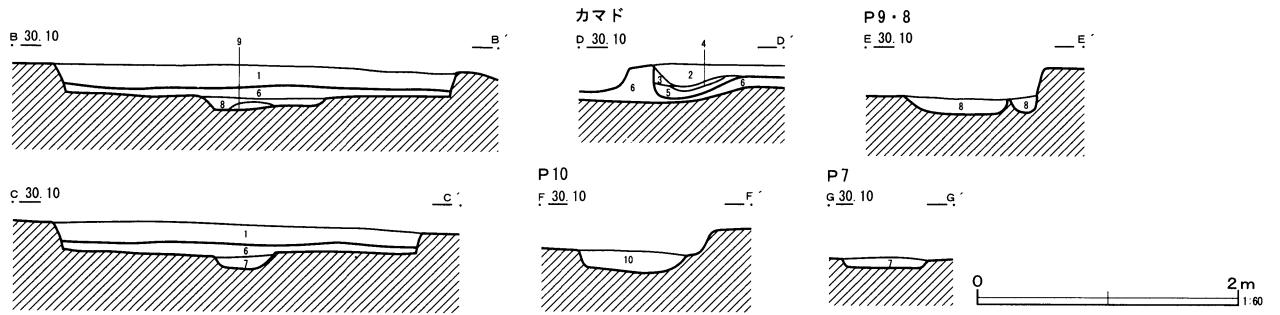
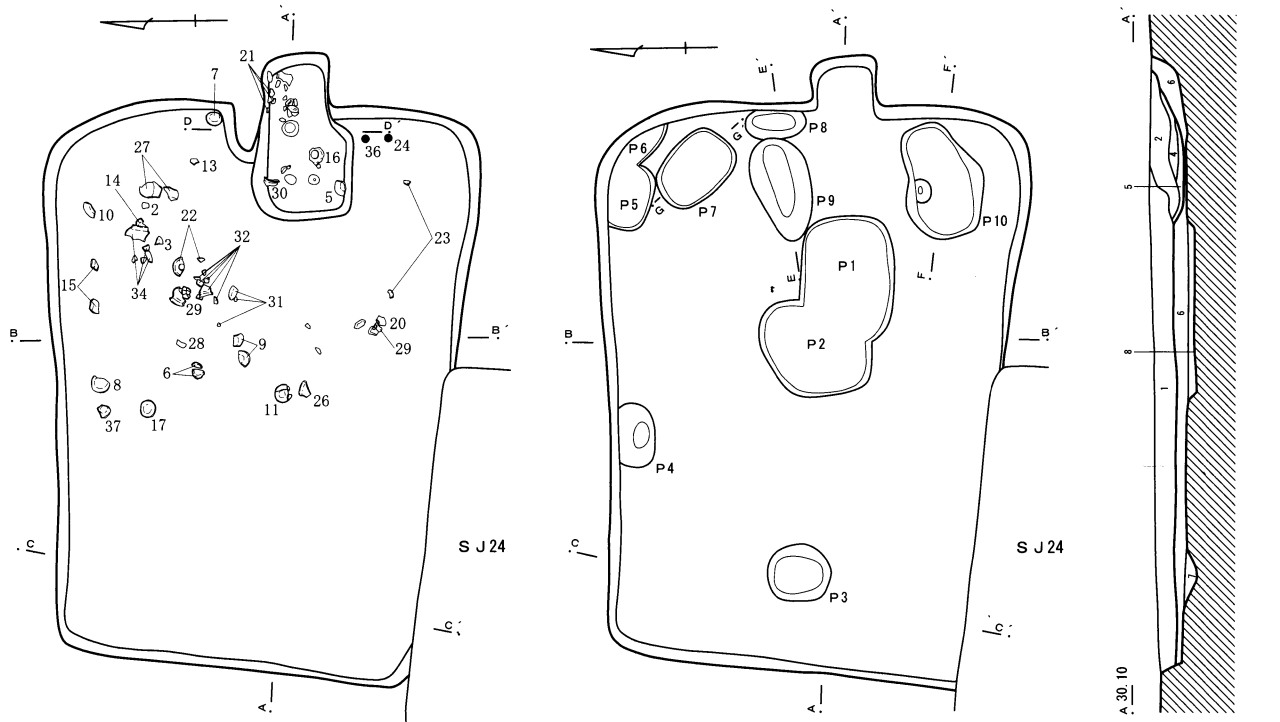
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.4)	4.2	4.9	A B C F	良好	にぶい黄橙	50	カマド	底部無調整
2	土師坏	(12.1)	4.0	(5.5)	A F	普通	にぶい黄橙	30	カマド	底部へラ削り
3	土師甕	(14.3)			A B F	普通	にぶい黄橙	35	カマド	
4	土師甕	(20.2)			F G	良好	にぶい黄橙	40	カマド	
5	土師台付甕			(10.0)	F	良好	にぶい橙	15	カマド	

第28号住居跡 (第77～79図)

P-14 グリッドに位置する。第24号住居跡と重複し、南壁半分が第24号住居跡に壊されている。規模は、主軸長東西4.34 m、南北3.30 m、深さ16cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-94°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、128cm×52～72cmを測り、床面と同じ高さである。貼床下には掘り方のピットが確認された。

遺物は、土師器坏・甕・小型甕・台付甕、須恵坏・高台付埴・皿・高台付皿・甕、土錘が出土した。

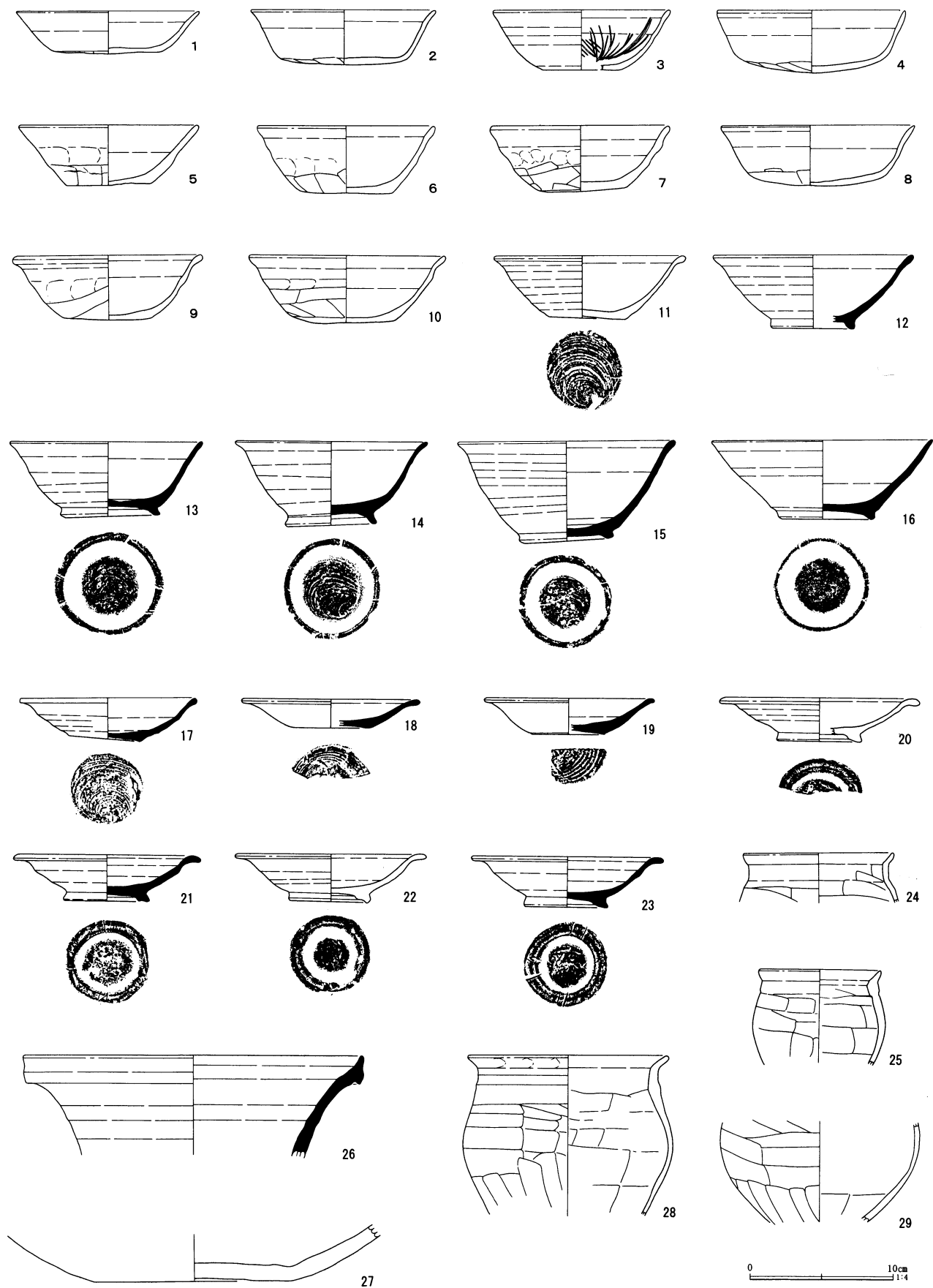


- 1 褐色土 白色粒含む 焼土粒少量
- 2 褐色土 白色粒・炭化物少量 焼土ブロック多量
- 3 暗灰褐色土 焼土ブロック多量 (壁天井部崩落土)
- 4 暗茶褐色土 焼土ブロック・炭化物多量
- 5 暗褐色土 焼土粒・炭化物多量
- 6 暗灰褐色土 粘土・黄褐色粘土の混土層 (貼り床)
- 床下土坑
- 7 暗褐色土 焼土粒・炭化物少量 黄褐色粘土多量
- 8 暗褐色土 白色粒・焼土粒・炭化物少量
- 9 暗黄褐色土 暗褐色土粒多量
- 10 暗茶褐色土 焼土ブロック・炭化物粒多量 黄褐色粘土ブロック少量

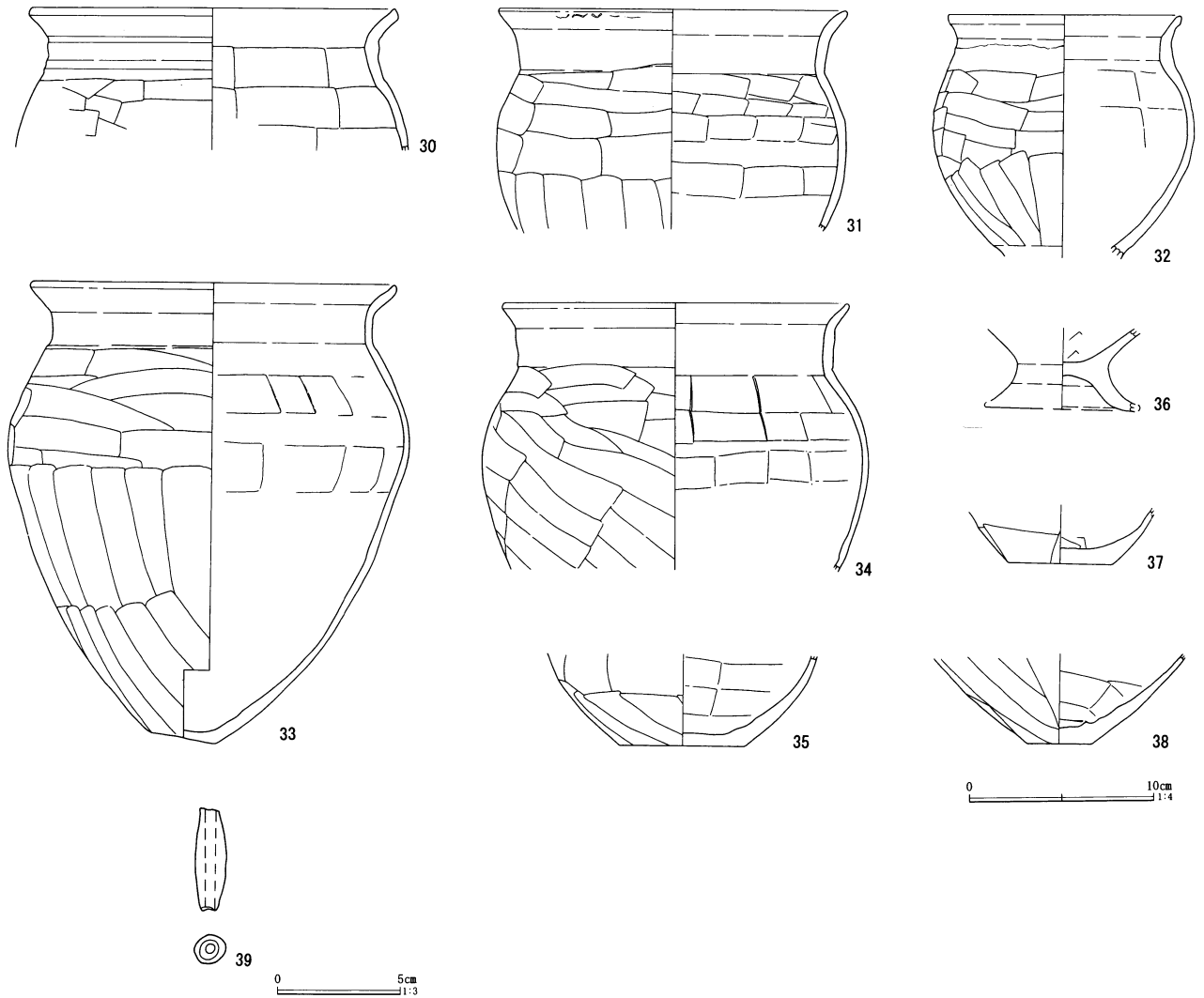
第77図 第28号住居跡

第28号住居跡出土遺物観察表 (第78図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.5)	(3.0)	(7.5)	A B C	普通	明赤褐	40	覆土	体部内面一部油煙付着 底部一方向平行ヘラ削り
2	土師坏	(12.6)	3.9	8.8	A B F	良好	橙	20	覆土	底部ヘラ削り
3	土師坏	(12.1)	4.2	(5.4)	A	普通	灰黄褐	25	覆土	内黒土器 内面磨き後暗文 底部回転糸きり
4	土師坏	(13.0)	4.4		A B F	普通	にぶい赤褐	50	覆土	底部ヘラ削り
5	土師坏	(12.3)	4.2	(5.8)	A B F	普通	にぶい黄橙	45	カマド	体部外面中位指ナデ 底部無調整
6	土師坏	(12.1)	4.7	6.3	A B F	普通	にぶい橙	60	床直	底部一方向ヘラ削り
7	土師坏	12.2	4.6	6.2	A B D F	普通	にぶい橙	100	覆土	底部ヘラ削り
8	土師坏	13.3	4.2		A B F J	良好	橙	80	覆土	底部ヘラ削り
9	土師坏	12.8	4.5	6.1	A B F	普通	橙	90	床直	体部外面中位指ナデ 下端ヘラ削り 底部一方向平行ヘラ削り



第78图 第28号住居跡出土遺物(1)



第79図 第28号住居跡出土遺物(2)

第28号住居跡出土遺物観察表(第78図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
10	土師坏	13.5	4.7	7.3	A B F	普通	橙	95	覆土	体部外面下半ヘラ削り 底部外面ヘラ削り、中央無調整
11	須恵坏	13.0	4.4	5.3	A F I K	普通	明赤褐	90	覆土	酸化焰焼成
12	須恵高台碗	(13.7)	5.1	5.8	A G J	普通	灰黄	35	覆土	
13	須恵高台碗	(13.2)	5.2	6.9	A C G	普通	灰	40	覆土	
14	須恵高台碗	13.2	5.9	6.4	G J K	普通	灰	80	覆土	歪みあり
15	須恵高台碗	14.9	5.0	6.5	A C I K	普通	灰黄	70	覆土	半分酸化焰焼成 歪みあり
16	須恵高台碗	(15.3)	5.5	6.7	A G J	普通	灰白	55	カマド	体部一部酸化焰焼成 歪みあり
17	須恵皿	12.2	3.1	5.0	A K	良好	灰	100	覆土	歪みあり
18	須恵皿	(12.4)	2.0	(5.0)	A C J	良好	灰	30	覆土	底部外面のみ酸化焰焼成 歪みあり
19	須恵皿	(11.9)	2.5	(4.9)	A J	良好	灰	25	覆土	
20	須恵高台皿	(14.0)	3.0	5.9	A F	普通	にぶい橙	25	覆土	酸化焰焼成
21	須恵高台皿	13.0	3.3	5.7	A F K	普通	明赤褐	100	カマド	
22	須恵高台皿	13.3	3.4	5.7	A F J	普通	明赤褐	85	覆土	酸化焰焼成
23	須恵高台皿	(13.1)	3.5	5.8	A F	普通	にぶい黄褐	55	覆土	

第28号住居跡出土遺物観察表 (第78・79図)

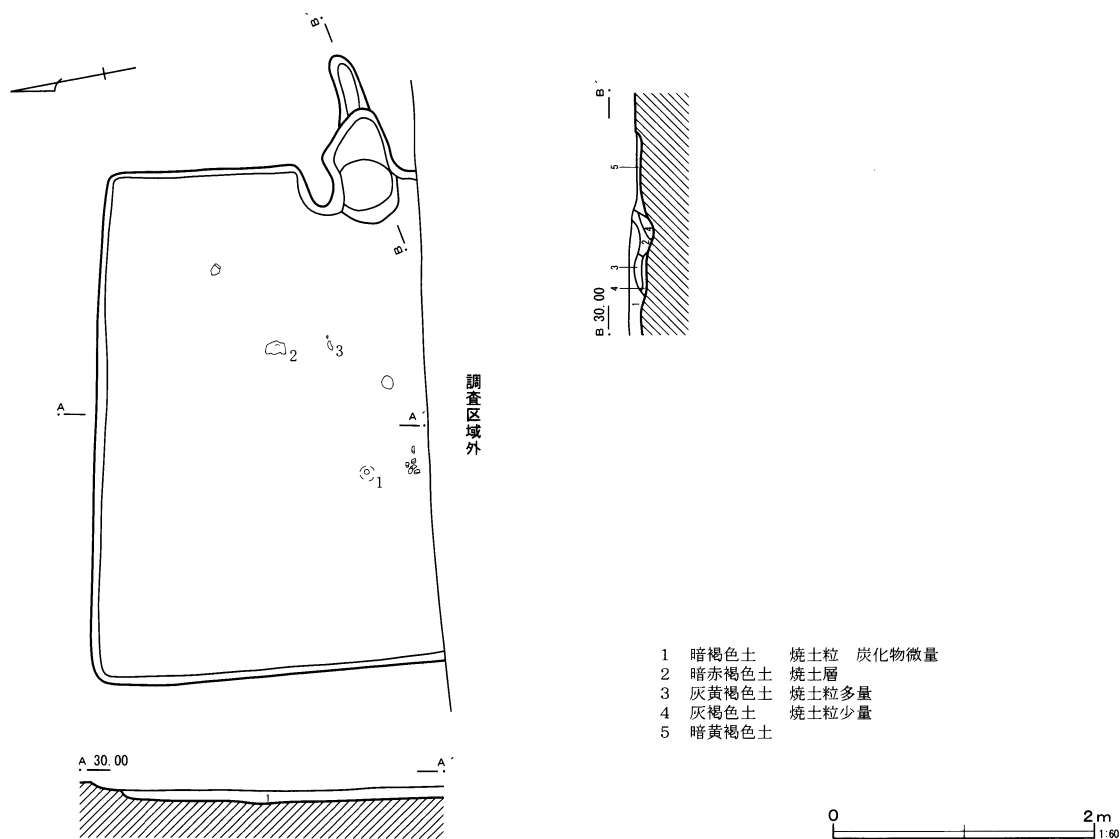
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考	
24	土師小形甕	(10.4)	25.0	3.6	A F	良好	にぶい橙	25	床直	内面ナデ	
25	土師小形甕	(8.4)			A F	良好	にぶい褐	20	覆土	内面ナデ 外面ヘラ削り	
26	須恵甕	(23.4)			A K	良好	灰	10	覆土		
27	須恵甕	(14.0)			A F I K	良好	浅黄	40	床直	体部下端外面→方向ヘラ削り 酸化焰焼成	
28	土師甕	(13.7)			A B F	良好	灰黄褐	20	覆土		
29	土師小形甕				F G	良好	にぶい橙	60	床直	胴部	
30	土師甕	(19.6)			A C F	良好	明赤褐	25	覆土		
31	土師甕	(18.8)			A B F	良好	にぶい橙	40	床直		
32	土師台付甕	12.6			A F	普通	浅黄橙	80	床直		
33	土師甕	(19.6)			A F	良好	橙	40	覆土		
34	土師甕	(18.5)			A F	良好	にぶい橙	30	覆土		
35	土師甕				A D	良好	にぶい橙	80	覆土	底部一方向ヘラ削り	
36	土師台付甕				(8.0)	A B F	普通	橙	60	カマド	脚部
37	土師甕				5.5	F J	普通	にぶい黄橙	60	覆土	底部一方向ヘラ削り
38	土師甕				3.4	A F J	良好	橙	40	覆土	底部一方向ヘラ削り
39	土錘	長さ4.2 径1.3 孔径0.4			—	灰褐	100	覆土			

第30号住居跡 (第80・81図)

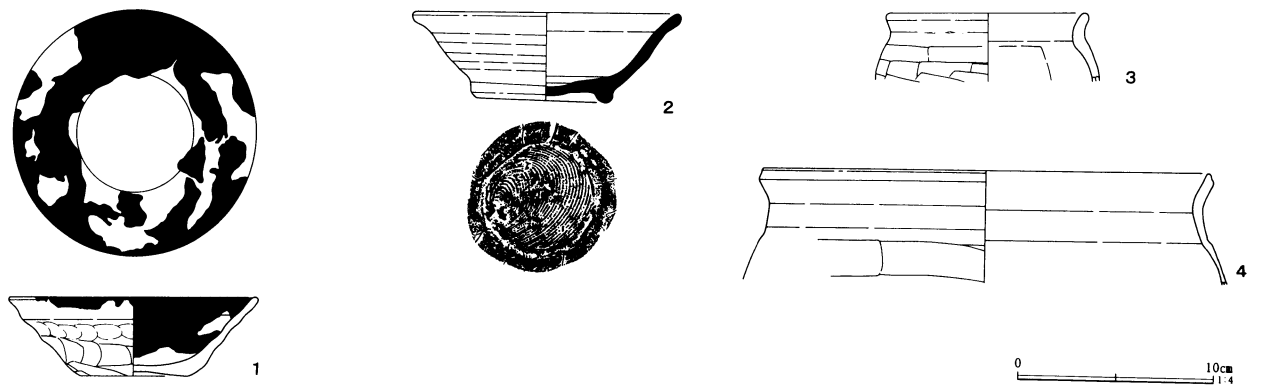
Q-11・12グリッドに位置する。南半は調査区域外となっている。第15号住居跡と重複し、上部を切られており、当住居跡が古い。規模は、主軸長

東西3.86m、確認できた南北2.54m、深さ8cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-99°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、



第80図 第30号住居跡



第81図 第30号住居跡出土遺物

第30号住居跡出土遺物観察表 (第81図)

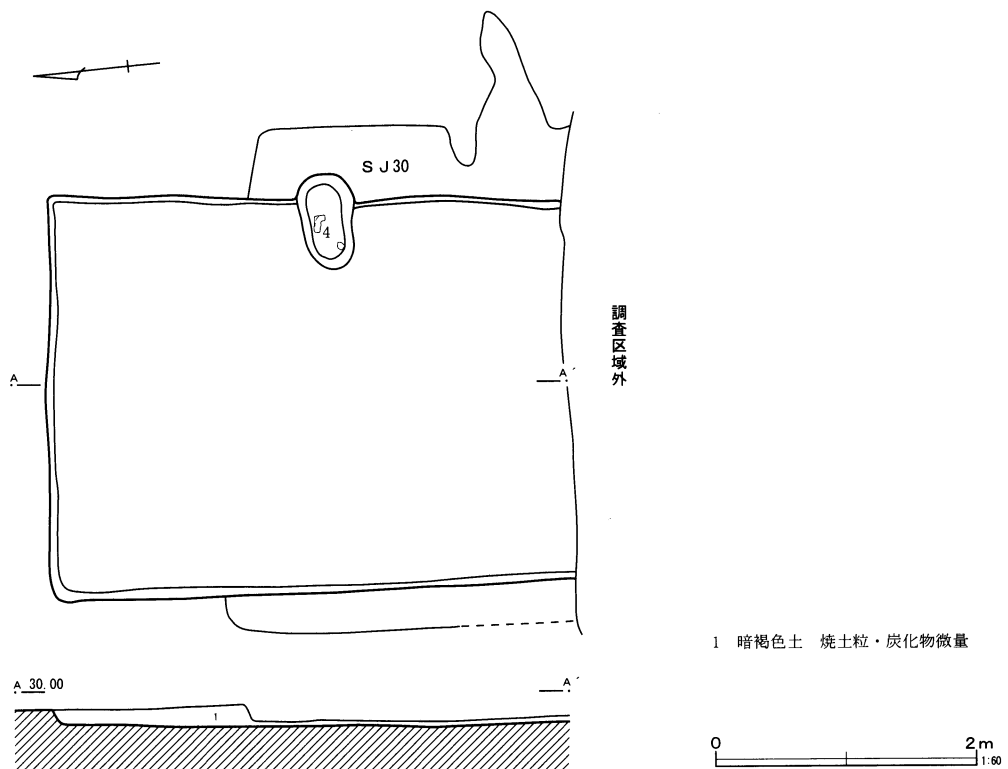
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.5	4.0	5.5	BCF	普通	浅黄橙	100	床直	体部外面油煙多量付着
2	須恵高台杯	13.5	4.5	7.3	J	不良	灰白	90	床直	
3	土師小形甕	(10.0)			ACF	良好	にぶい橙	25	床直	
4	土師甕	(22.6)			ABCF	普通	にぶい黄橙	20	カマド	

cm × 53cm、深さ 14cm を測り、煙道部は長さ 44cm が確認できた。

遺物は、土師器坏・甕・小型甕、須恵器高台付坏が出土した。

第31号住居跡 (第82・83図)

Q-11・12グリッドに位置する。南側は調査区域外となっている。第30号住居と重複し、南側上部が切られることから、当住居跡が古い。規模は、

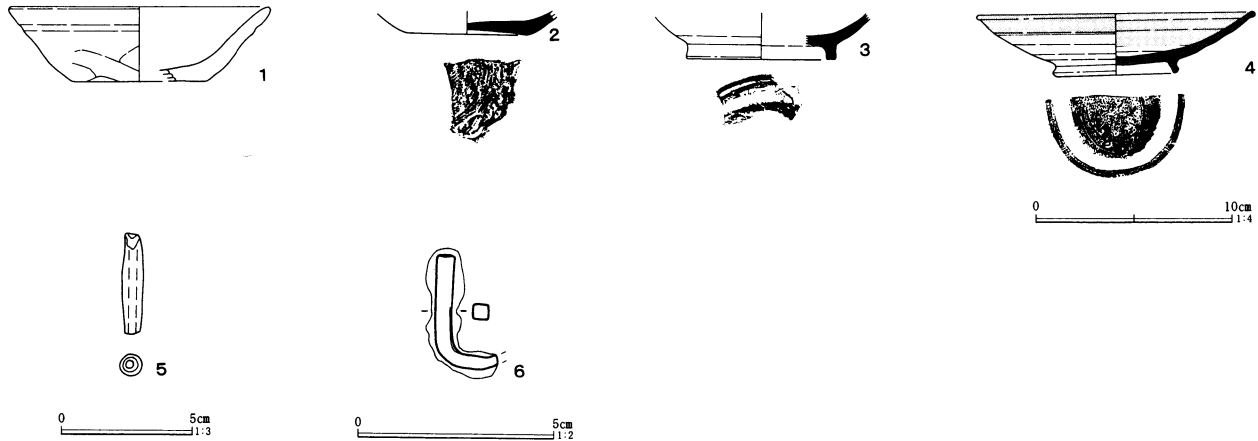


第82図 第31号住居跡

主軸長東西3.03 m、確認できた南北4.00 m、深さ16cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-96°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、70cm×43cm、深さ6cmを測る。

遺物は、土師器坏、須恵器坏・高台付碗、灰釉陶器高台付皿、土錘、鉄製品が出土した。6は鉄製品である。頭部をもたない切釘と考えられる。基部がほぼ90度折れ曲がり、脚部を欠失する。現存長は2.9cmである。



第83図 第31号住居跡出土遺物

第31号住居跡出土遺物観察表 (第83図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.2)	(3.8)	(6.8)	A C F	普通	にぶい黄橙	10	覆土	
2	須恵坏			(6.0)	F	普通	にぶい黄橙	20	覆土	底部外面のみ酸化焰焼成
3	須恵高台碗			(7.2)	G	良好	灰黄	8	覆土	
4	灰釉高台皿	14.2	3.1	6.2	G	良好	灰白	40	カマド	底部高台内へラ削り 施釉ツケガケ 東濃産
5	土錘	長さ3.9	径0.85	孔径0.3		-	灰白	95	覆土	

第33号住居跡 (第84・85図)

Q-18グリッドに位置する。南側は調査区域外となっている。第43・53号住居跡・第28号土坑と重複し、土坑に北壁南側が切られ、2軒の住居跡も切っており、土坑より古く、2軒の住居跡より新しい。規模は、確認できた主軸長南北2.52 m、東西4.30 m、深さ20cm程を測る。平面形は、方形を呈すると推定される。主軸方位は、N-12°-Wを指す。

カマドは、北壁中央に設けられ、同じ場所で2回付け替えが行われている。燃焼部は、126cm×63cm、深さ7cmを測り、煙道部は長さ92cmが確認できた。

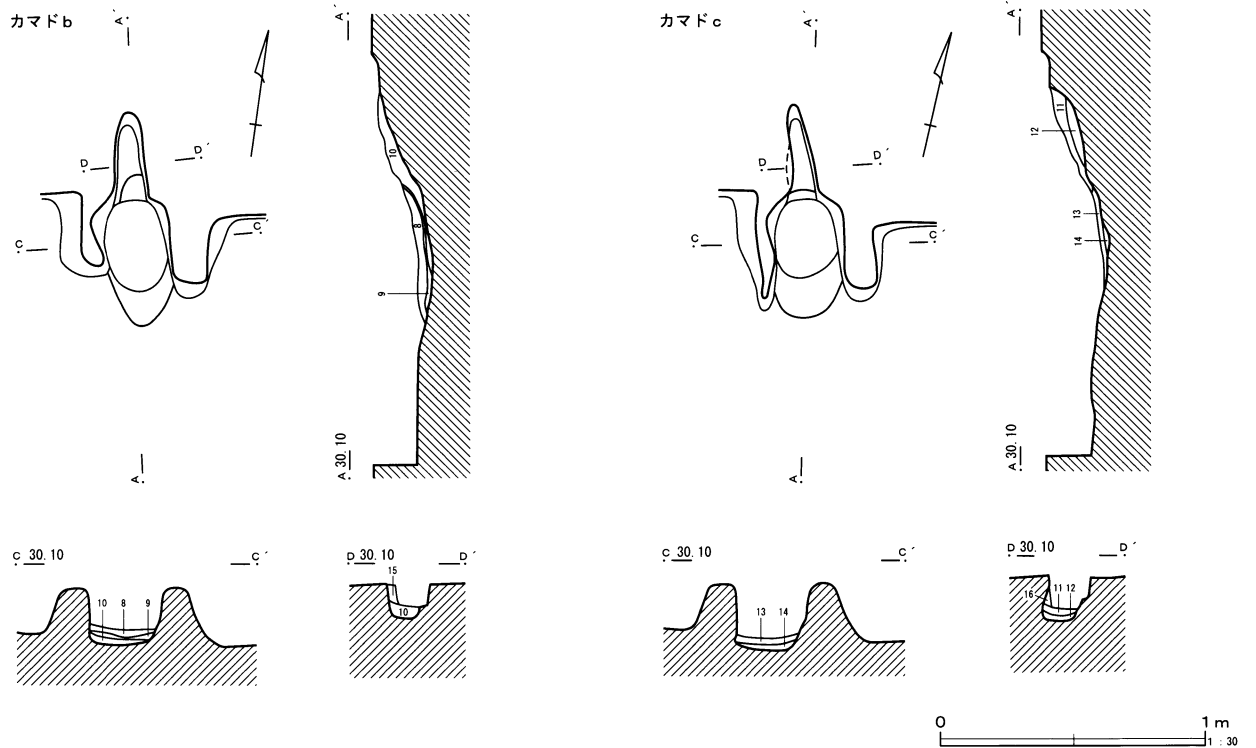
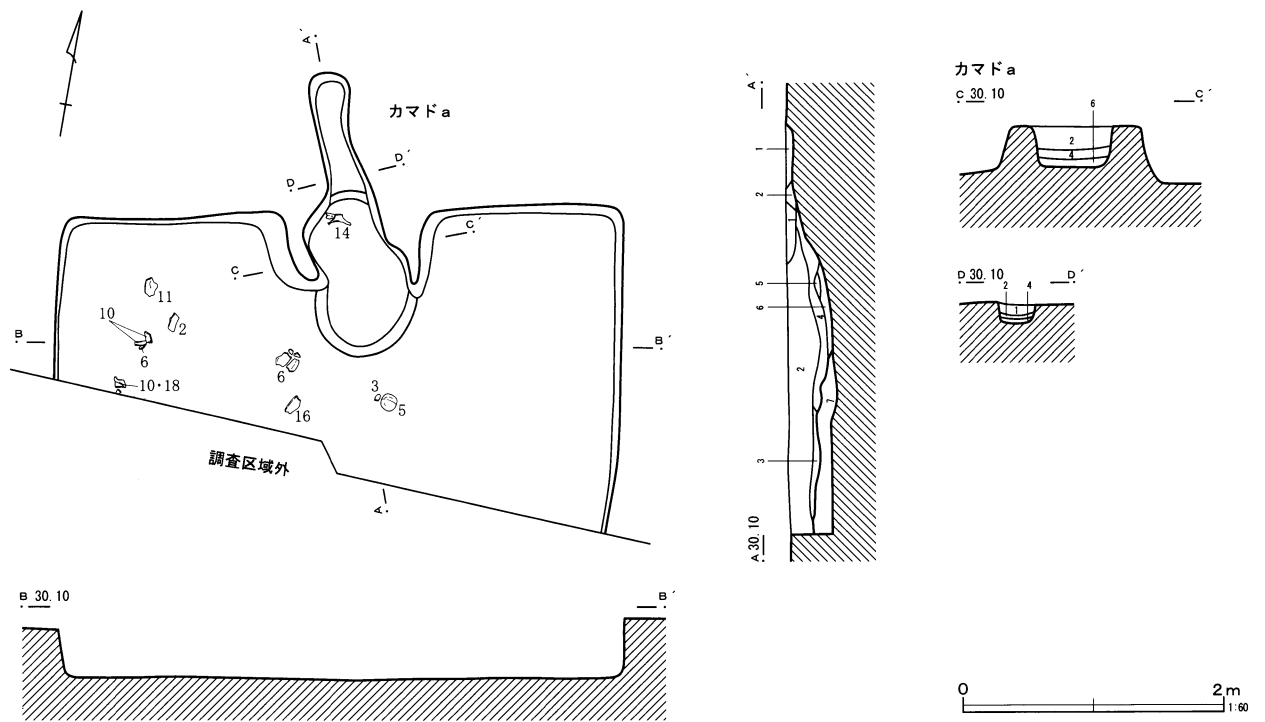
遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏が出土した。

第34号住居跡 (第86・87図)

Q-18・19グリッドに位置する。南壁が調査区域外となっている。第29号土坑・第53号住居跡と重複し、北壁西寄りの一部分が土坑に切られ、住居跡の上部を切ることから、土坑より古く、住居跡より新しい。規模は、主軸長東西3.42 m、南北4.04 m、深さ14cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-93°-Eを指す。

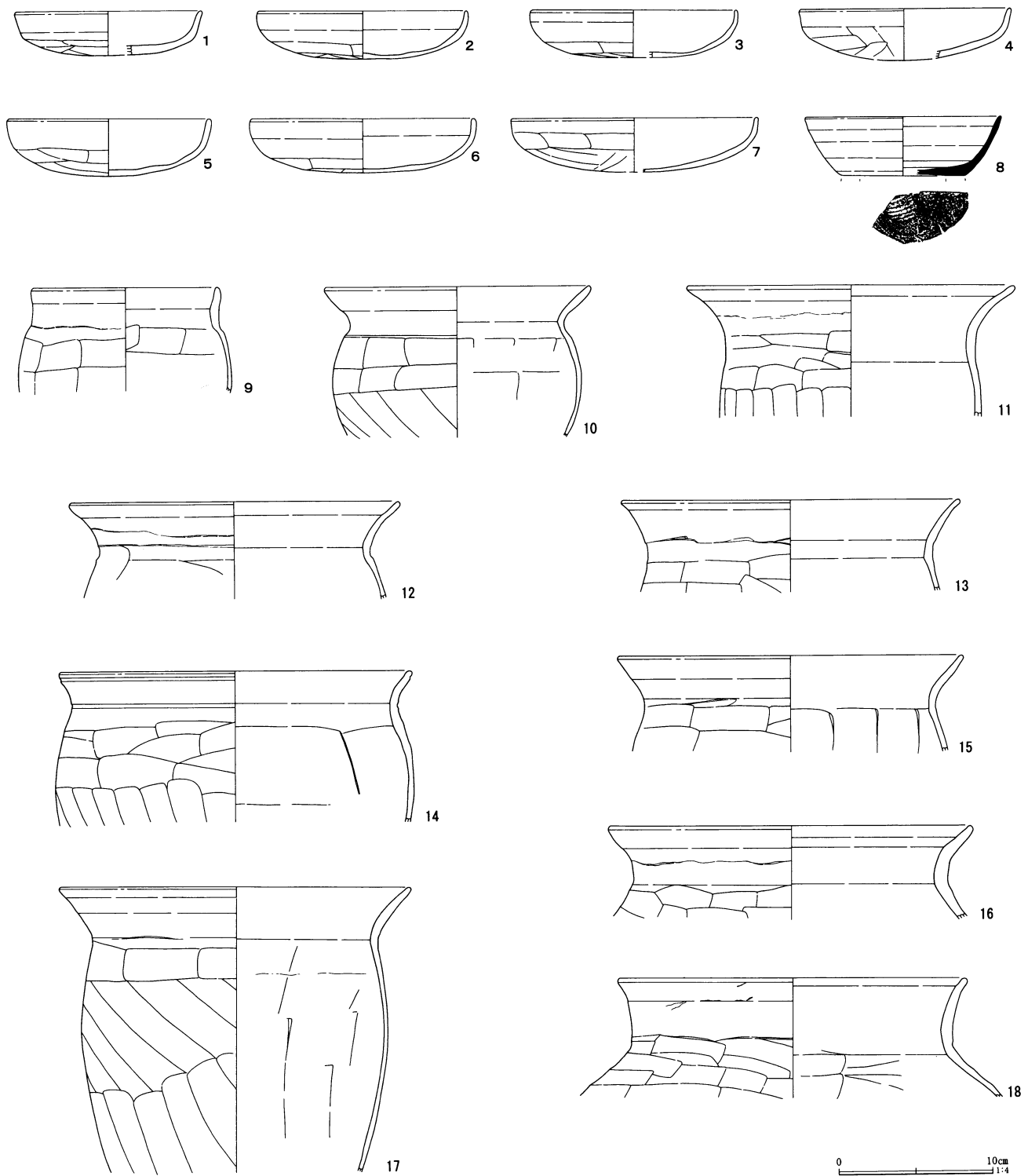
カマドは、東壁やや北寄りに設けられている。燃焼部は、80cm×53cm、深さ7cmを測る。カマド前は硬化面がみられた。

遺物は、須恵器坏・高台付碗・甕、土師器甕・台付甕が出土した。



- | | |
|----------------------------|------------------------------------|
| 1 暗赤褐色土 焼土粒多量 | 9 黒褐色土 灰層 |
| 2 灰黄色土 焼土粒少量 灰色粘土ブロックを含む | 10 暗褐色土 焼土粒やや多量 |
| 3 灰黄色土 焼土粒多量 | 11 暗黄褐色土 焼土粒・焼土ブロック多量 (カマドc天井部崩落土) |
| 4 暗赤褐色土 焼土粒多量 (カマドa天井部崩落土) | 12 暗褐色土 焼土粒少量 (カマドc覆土) |
| 5 暗赤褐色土 焼土粒少量 | 13 暗黄褐色土 焼土ブロック含む |
| 6 暗褐色土 焼土粒少量 灰混入 | 14 暗褐色土 焼土粒少量 (カマドc覆土) |
| 7 黄褐色土 (カマドa、b掘り方) | 15 暗灰褐色土 焼土粒少量 (カマドb覆土) |
| 8 暗赤褐色土 焼土粒多量 (カマド天井崩落土) | 16 暗灰褐色土 焼土粒少量 (カマドc煙道覆土) |

第84図 第33号住居跡



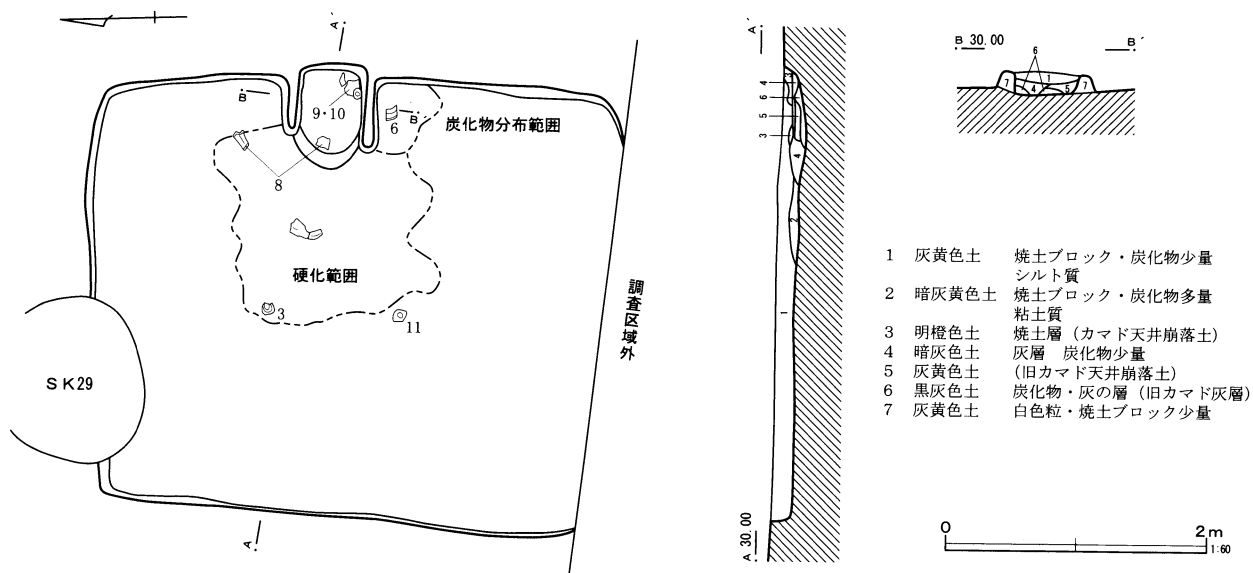
第85図 第33号住居跡出土遺物

第33号住居跡出土遺物観察表 (第85図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(11.9)	(2.9)		A B F	良好	にぶい橙	25	覆土	
2	土師坏	(13.3)	3.1		A B	良好	にぶい橙	40	覆土	
3	土師坏	(13.2)	3.1		A B C	良好	にぶい橙	20	覆土	
4	土師坏	(13.5)			A D	普通	にぶい橙	15	覆土	口縁部内外面横ナデ 内面一部油煙

第33号住居跡出土遺物観察表 (第85図)

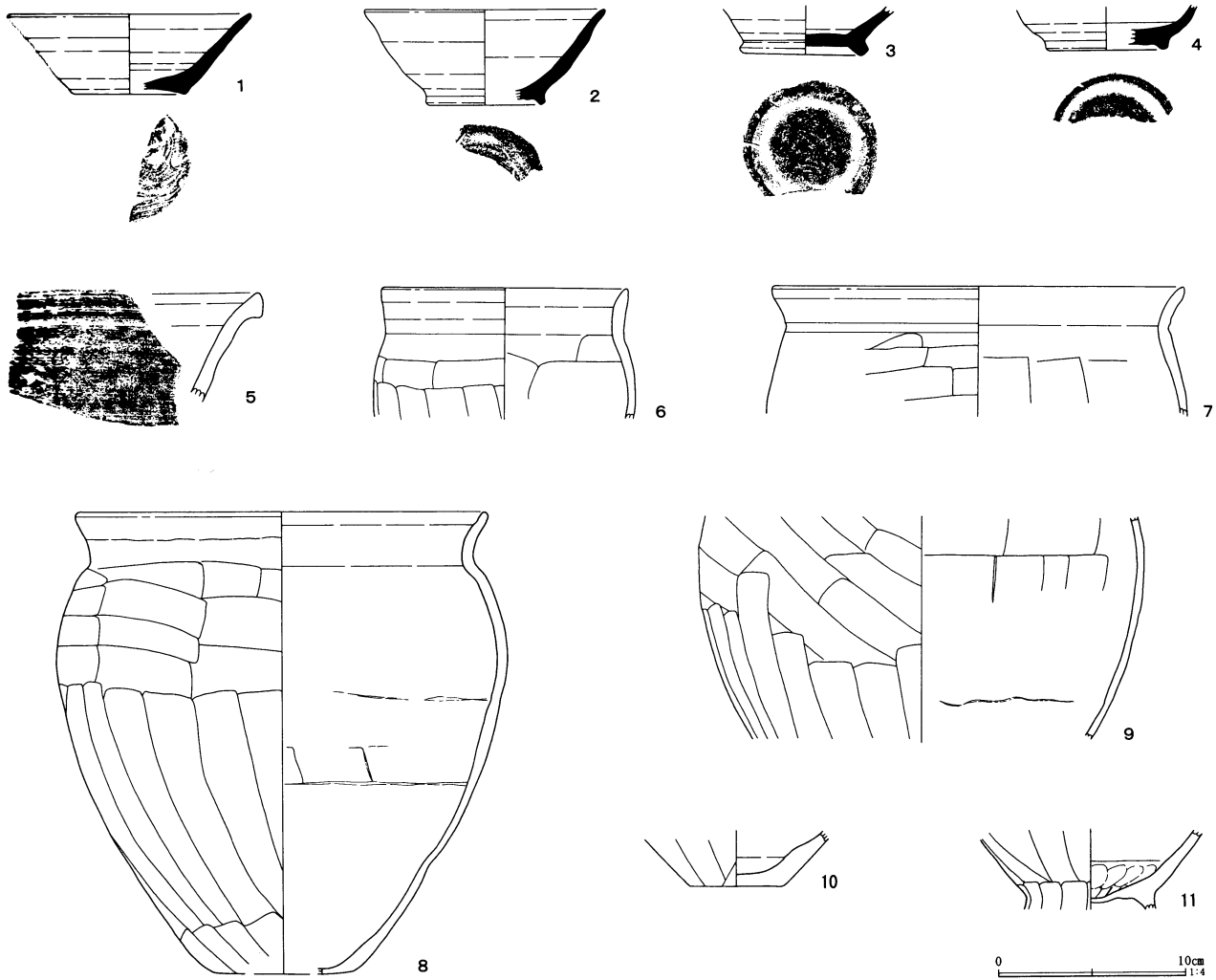
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
5	土師坏	13.0	3.8		A B	良好	にぶい褐	95	覆土	口縁部内外面横ナデ
6	土師坏	(14.3)	3.5		B C F	普通	橙	70	覆土	器壁摩滅
7	土師坏	(15.8)	3.5		A B C F	普通	橙	25	覆土	器壁摩滅
8	須恵坏	(12.6)	3.8	(8.0)	A H	良好	灰	15	覆土	底部周辺右回転ヘラ削り
9	土師甕	(11.9)			A B F J	良好	にぶい橙	20	覆土	
10	土師甕	(17.0)			A B F	普通	にぶい黄橙	60	覆土	
11	土師甕	(20.9)			A B C F	良好	にぶい橙	15	覆土	
12	土師甕	(21.2)			A B C D F	良好	にぶい橙	25	覆土	
13	土師甕	(21.8)			A C F	普通	橙	20	覆土	
14	土師甕	(22.5)			A B F	良好	灰黄褐	20	床直	
15	土師甕	(22.5)			A C F	良好	にぶい橙	20	カマド	
16	土師甕	(23.4)			A B F	良好	橙	20	覆土	
17	土師甕	(22.5)			A B C F	普通	にぶい褐	25	カマド	
18	土師甕	(22.8)			A C F	良好	橙	20	覆土	



第86図 第34号住居跡

第34号住居跡出土遺物観察表 (第87図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(12.8)	4.3	(6.0)	A B	不良	黄褐	20	覆土	底部右回転糸切り
2	須恵高台埴	(12.6)	5.1	(6.0)	A B	不良	灰黄	25	覆土	
3	須恵高台埴			6.1	A C	普通	黒褐	80	覆土	
4	須恵高台埴			(6.0)	A B C	不良	灰白	20	覆土	
5	須恵甕				A F	普通	橙	破片	床下	
6	土師甕	(13.0)			B F	良好	橙	45	カマド	



第87図 第34号住居跡出土遺物

第34号住居跡出土遺物観察表 (第87図)

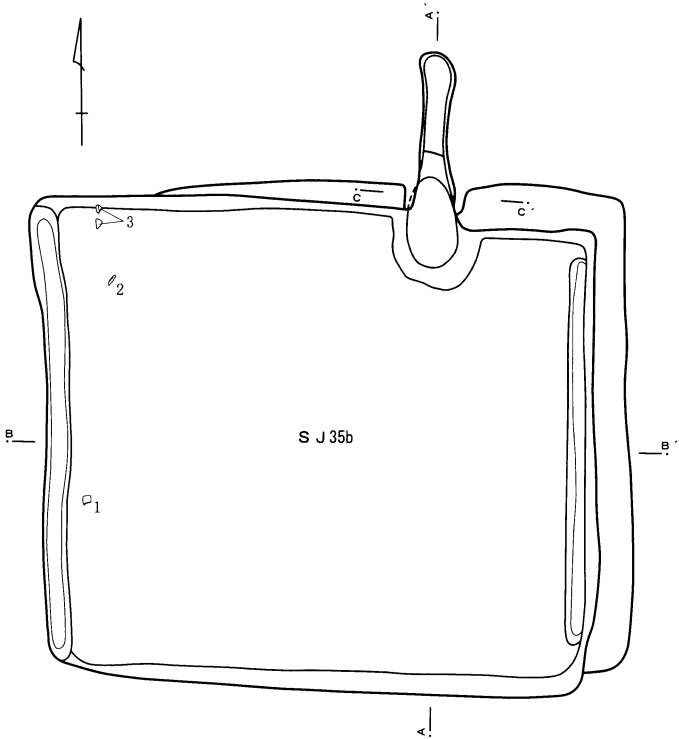
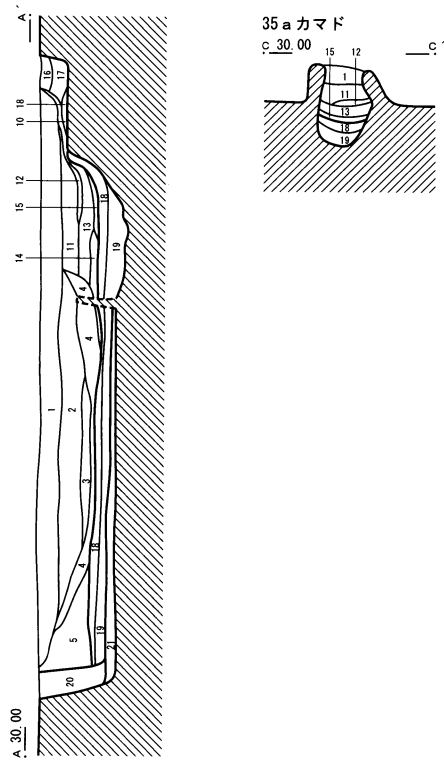
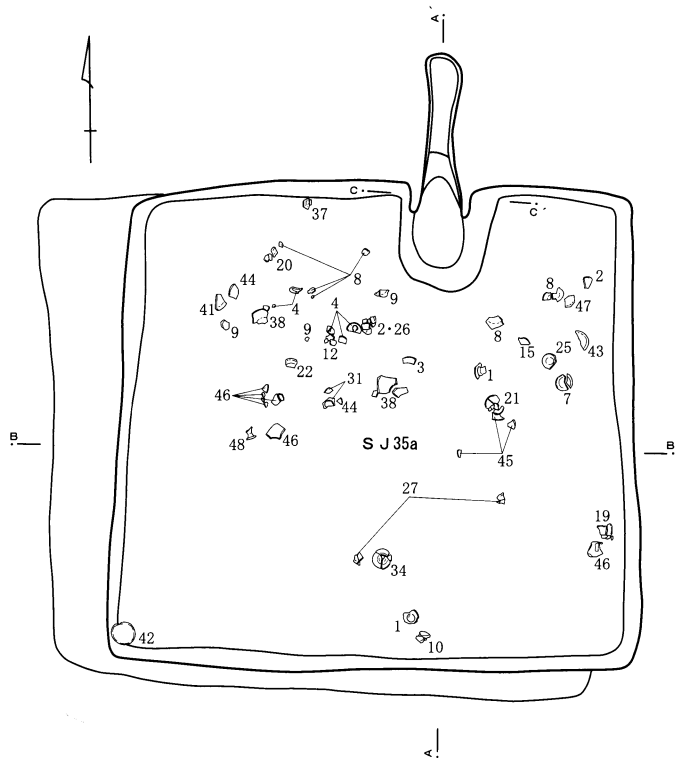
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
7	土師甕	(21.7)			ABF	普通	にぶい橙	15	覆土	
8	土師甕	(21.5)	24.6	(7.4)	ABF	普通	にぶい褐	35	カマド	
9	土師甕				AF	普通	にぶい橙	20	覆土	胴部
10	土師甕			4.8	ABF	良好	にぶい黄橙	60	覆土	
11	土師台付甕				BCFG	良好	橙	70	床直	

第35a号住居跡 (第88～91図)

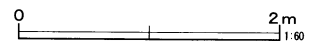
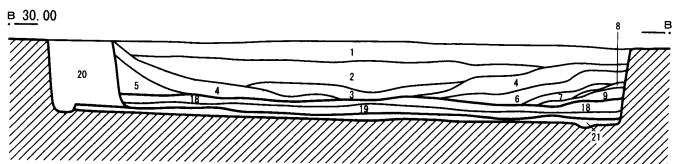
P-20グリッドに位置する。第35b・93号住居跡と重複し、当住居が最も新しく第35b・93号住居跡の順に古くなっている。規模は、主軸長南北3.73m、東西3.93m、深さ44cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-3°-Wを指す。

カマドは、北壁でやや東よりに設けられている。燃焼部は、106cm×40cm、深さ17cmを測り、煙道部は長さ76cmが確認できた。

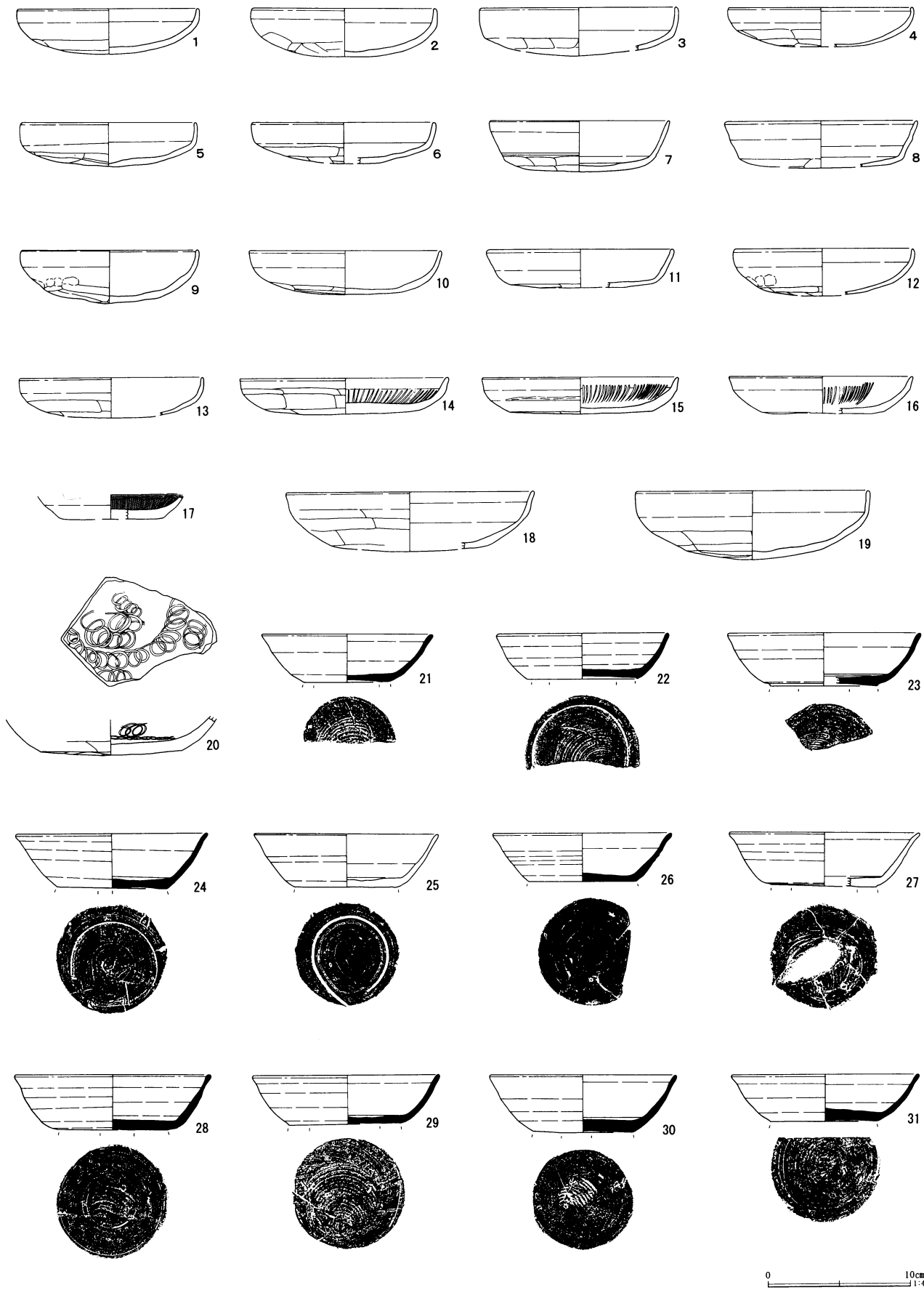
遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・碗・高台付碗・蓋・盤・高盤・水滴、灰釉陶器高台付坏・高台付皿、土錘他鉄製の刀子・釘が出土した。58は鉄製の刀



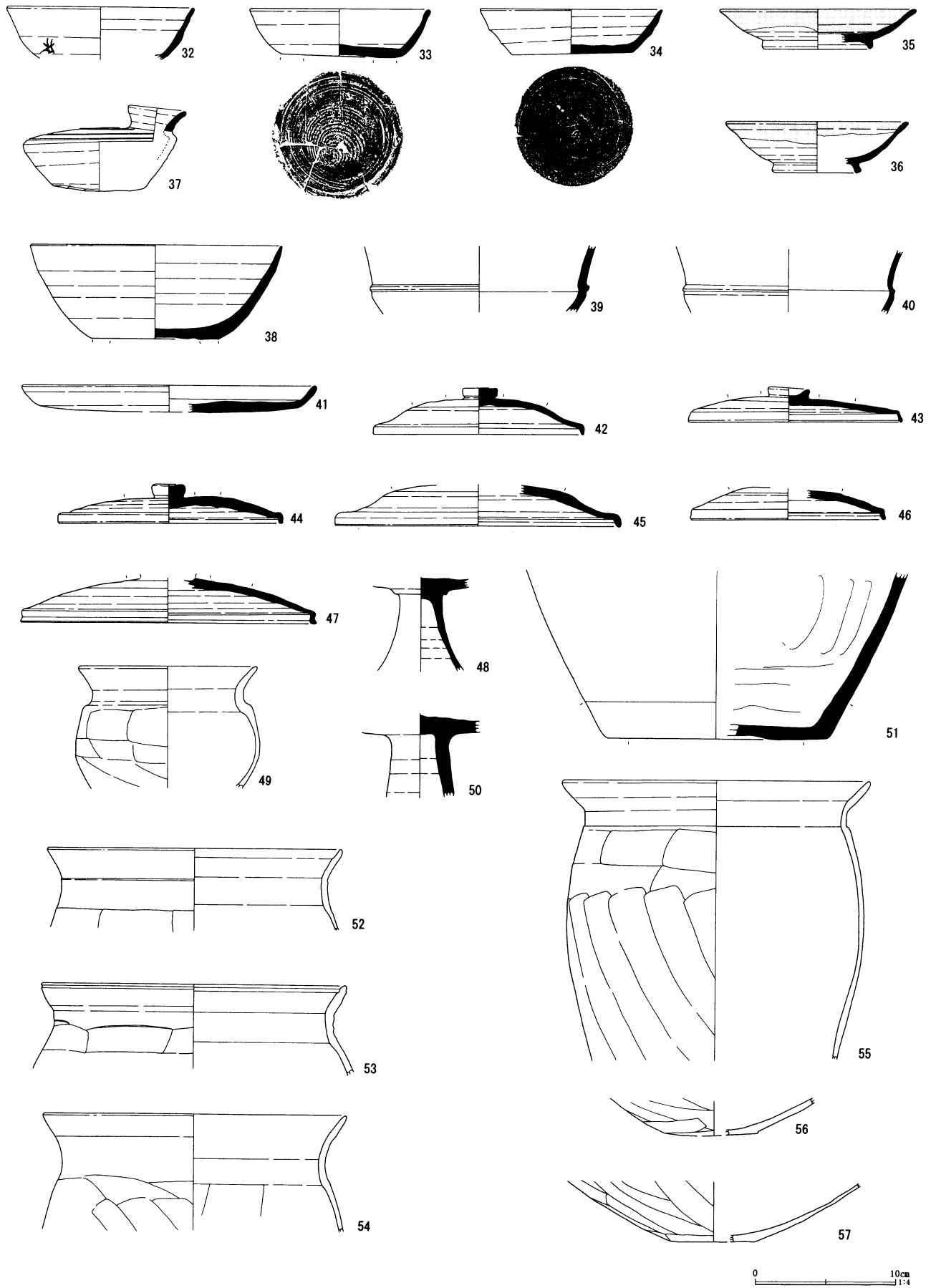
- 第35a号住居跡
- 1 暗灰褐色土 焼土ブロック・炭化物・黒色土含む
 - 2 暗灰褐色土 焼土ブロック・炭化物少量
 - 3 暗灰褐色土 焼土粒・炭化物多量
 - 4 暗灰褐色土 焼土ブロック・炭化物多量 (完形土器多量に出土)
 - 5 暗褐色土 焼土ブロック・炭化物少量
 - 6 黒褐色土 焼土ブロック・炭化物多量
 - 7 暗灰褐色土 灰混入 (完形土器・土器片多量に出土)
 - 8 暗灰褐色土 焼土粒・炭化物・土器片少量
 - 9 黒色土 炭化物層
 - 10 暗灰褐色土 焼土粒・炭化物・灰少量
 - 11 暗黄灰色土 煙突の補強部 (芯に須恵器破片)
 - 12 暗灰褐色土 焼土ブロック・炭化物少量
 - 13 暗赤褐色土 焼土層 炭化物微量
 - 14 暗灰褐色土 焼土粒・炭化物少量
 - 15 暗灰褐色土 焼土粒多量 炭化物少量 (大型土器片含む)
 - 16 黒褐色土 灰層 炭化物含む
 - 17 暗灰褐色土 焼土ブロック少量 炭化物混入
 - 18 暗灰褐色土 焼土ブロック多量
 - 19 暗黄灰色土 焼土粒・炭化物・黄褐色粘土少量 (貼り床)
 - 20 暗黄灰色土 焼土粒・炭化物微量 (貼り床)
- 第35b号住居跡
- 20 暗褐色土 焼土粒・炭化物微量
 - 21 黄褐色土 (貼り床)



第88図 第35a・35b号住居跡



第 89 图 第 35a 号住居跡出土遺物 (1)



第90图 第35a号住居跡出土遺物(2)

子である。現存長 12.0cm・刃長 9.8cm・刃幅最大 1.1cm である。茎先を欠く。段の明瞭な両関を呈する。茎部表面には柄木の痕跡がみられる。59 は延板状の鉄製品である。現存長 5.5cm。60 は角棒状の鉄製品である。現存長は 2.7cm。ともに用途は不明である。

第 35b 号住居跡 (第 88・92 図)

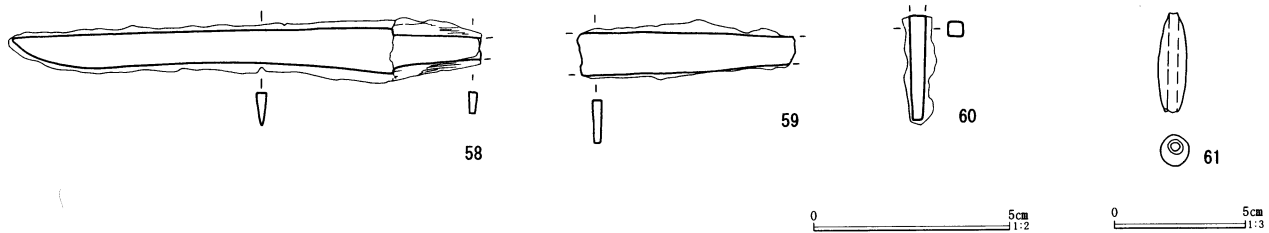
P-20 グリッドに位置する。第 35a・93 号住居跡と重複し、第 35a 号住居跡に切られ、93 号住居

跡を切っており、第 35a 住居跡・当住居跡・93 号住居跡順に古くなる。規模は、主軸長南北 3.70 m、東西 4.18 m、深さ 54cm 程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-3°-W を指す。

壁溝は東壁・西壁に検出され、幅 18~26cm、深さ 3~6cm を測る。

カマドは、北壁で東に片寄って設けられているが、第 35a 号住居跡のカマドである。

遺物は、土師器坏・須恵器坏が出土した。



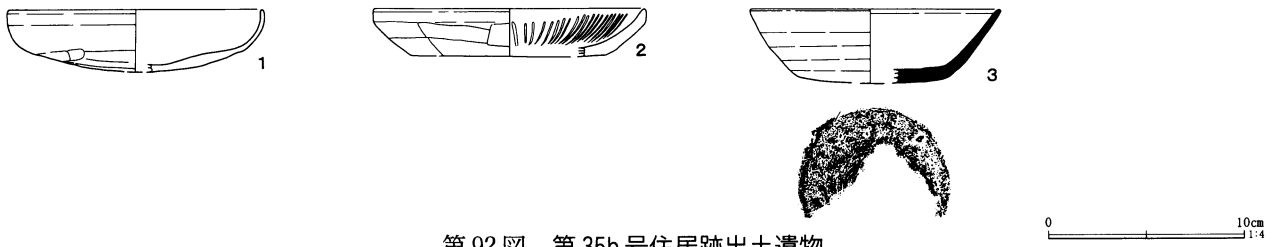
第 91 図 第 35a 号住居跡出土遺物 (3)

第 35a 号住居跡出土遺物観察表 (第 89 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.7	3.2		ABG	普通	にぶい橙	75	覆土	口縁部内外面ロクロナデ
2	土師坏	12.8	3.5		ABCG	普通	にぶい橙	70	覆土	口縁部内外面ロクロナデ
3	土師坏	(13.7)			AF	良好	橙	20	覆土	口縁部内外面横ナデ
4	土師坏	(12.9)	2.8		BF	普通	にぶい橙	30	覆土	
5	土師坏	12.2	3.1		AB	良好	にぶい橙	90	覆土	口縁部内外面ロクロナデ
6	土師坏	12.8	2.9		ABC	良好	橙	60	覆土	口縁部内外面ロクロナデ 内面底部指ナデ
7	土師器坏	12.6	3.6		ABDF	良好	橙	95	覆土	口縁部内外面横ナデ
8	土師坏	(13.3)			ABG	普通	にぶい橙	50	覆土	
9	土師坏	12.3	3.7		BCG	良好	橙	95	覆土	
10	土師坏	(13.5)	3.0		F	良好	橙	30	覆土	
11	土師坏	(13.0)	2.8		ABCF	良好	明赤褐	15	カマド	口縁部内外面横ナデ
12	土師坏	12.5	(3.3)		ABF	普通	橙	50	覆土	口縁部内外面ロクロナデ
13	土師坏	(12.8)			ABCF	良好	にぶい橙	10	覆土	
14	土師坏	(14.5)	2.6		AG	良好	橙	60	覆土	暗文土器
15	土師坏	(13.8)	2.6	10.0	ABF	良好	明赤褐	25	覆土	暗文土器
16	土師坏	(12.8)	2.6	8.6	AB	良好	明褐	13	覆土	暗文土器
17	土師坏			(7.2)	A	良好	にぶい黄橙	10	覆土	黒色土器
18	土師坏	(17.3)	(4.2)		AB	良好	にぶい橙	20	覆土	
19	土師坏	(16.4)	4.8		BC	良好	にぶい橙	55	覆土	
20	土師坏			10.0	ABC	良好	橙	15	覆土	螺旋暗文土器
21	須恵坏	(11.8)	3.5	(6.0)	AG	良好	灰	30	覆土	底部糸切り後周辺右回転ヘラ削り
22	須恵坏	(11.9)	3.2	(7.7)	ACFH	良好	灰白	50	覆土	底部糸切り後周辺右回転ヘラ削り

第35a号住居跡出土遺物観察表(第89~91図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
23	須恵坏	(13.4)	3.7	7.5	AH	良好	灰	30	覆土	底部糸切り後右回転ヘラ削り 底部のみ酸化焰焼成
24	須恵坏	13.4	3.9	7.7	AGHK	良好	灰	95	覆土	底部糸切り後右回転ヘラ削り 内外面に火樫痕
25	須恵坏	12.8	3.7	7.1	AH	普通	にぶい褐	85	覆土	底部全面右回転ヘラ削り 酸化焰焼成
26	須恵坏	(12.4)	3.4	(7.5)	AGH	良好	灰	50	覆土	底部全面右回転ヘラ削り
27	須恵坏	13.2	3.8	7.4	FJ	不良	灰黄	70	覆土	底部糸切り後周辺右回転ヘラ削り 酸化焰焼成
28	須恵坏	13.5	3.9	7.5	AHK	良好	灰	90	覆土	底部糸切り後右回転ヘラ削り 南比企産
29	須恵坏	(13.0)	3.5	7.9	AK	良好	黄灰	60	覆土	底部糸切り後右回転ヘラ削り 底部内面 ロクロ痕顕著
30	須恵坏	(13.0)	4.0	7.0	ACH	良好	灰	70	床直	底部糸切り後右回転ヘラ削り 南比企産
31	須恵坏	(13.0)	3.3	7.5	ACH	良好	灰	40	覆土	底部全面右回転ヘラ削り 底部のみ酸化焰焼成
32	須恵坏	(13.1)			AH	普通	灰黄	20	覆土	体部外面に墨書 酸化焰焼成
33	須恵坏	12.6	3.5	8.1	AH	良好	灰	60	覆土	底部糸切り後周辺右回転ヘラ削り 南比企産
34	須恵坏	13.8	3.3	8.5	A	良好	灰	100	覆土	底部全面右回転ヘラ削り
35	灰釉高台皿	(13.8)	2.9	(7.5)	G	良好	灰白	30	覆土	底部ヘラ削り 施釉ツケガケ 東濃産
36	灰釉高台杯	(12.7)	3.7	(6.3)	AJ	普通	灰黄	20	覆土	底部ヘラ削り 施釉ツケガケ 東濃産
37	須恵水滴	4.0	6.1	6.5	AG	普通	灰黄	95	覆土	体部上面同心円沈線3条 土器内より炭化物
38	須恵高台塊	(17.8)			G	普通	灰白	50	覆土	高台部剥離
39	須恵塊				AH	良好	灰	破片	床直	佐波理塊
40	須恵塊				AH	良好	灰	破片	覆土	佐波理塊
41	須恵盤	(20.7)	1.9	(18.5)	ACH	良好	灰	15	覆土	底部右回転ヘラ削り 内面に火樫痕
42	須恵蓋	14.9	3.3		AGHK	良好	灰	95	覆土	つまみ径2.4 天井部外面右回転ヘラ削り
43	須恵蓋	15.0	2.5		AHK	良好	灰	55	覆土	つまみ径2.9 天井部外面右回転ヘラ削り 歪みあり 南比企産
44	須恵蓋	15.8	2.8		AFH	良好	灰	90	覆土	つまみ径1.4 天井部外面右回転ヘラ削り
45	須恵蓋	(20.2)			CHJ	良好	灰	40	覆土	天井部外面右回転ヘラ削り 南比企産
46	須恵蓋	13.7			AGH	良好	灰	60	覆土	天井部外面右回転ヘラ削り 歪みあり つまみ欠損 南比企産
47	須恵蓋	(21.0)			AG	良好	灰	30	覆土	天井部外面右回転ヘラ削り つまみ欠損
48	須恵高盤				ACG	良好	灰白	破片	覆土	脚部 体部一部のみ
49	土師小形甕	(12.5)			AD	良好	暗褐	70	覆土	
50	須恵高盤				ACGH	良好	灰白	破片	覆土	脚部 体部一部のみ
51	須恵甕			(15.6)	G	良好	灰	40	覆土	体部外面裾部~底部外周←方向ヘラ削り
52	土師甕	(20.8)			ABF	普通	橙	50	覆土	
53	土師甕	(21.5)			AEF	良好	橙	25	覆土	
54	土師甕	21.6			AG	良好	橙	50	覆土	
55	土師甕	22.0			AF	良好	橙	50	覆土	
56	土師甕			(6.6)	ABC	良好	明黄褐	30	覆土	
57	土師甕			(6.0)	ABC	良好	橙	25	覆土	
61	土錘	長さ(3.8)	径1.1	孔径0.4		普通	灰黄褐	90	覆土	



第92図 第35b号住居跡出土遺物

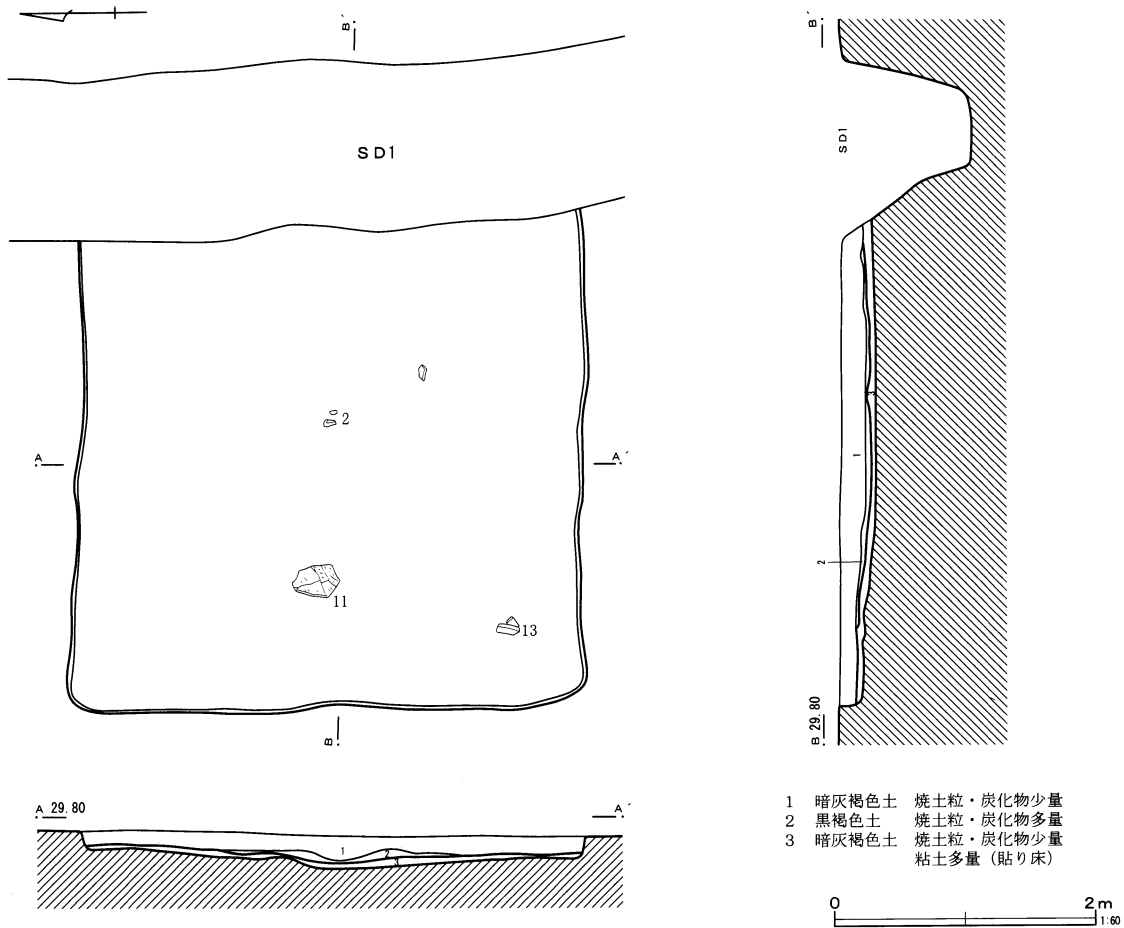
第35b号住居跡出土遺物観察表 (第92図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	13.0	3.2		A B	良好	橙	75	覆土	底部外面へラ削り及び外周一部へラナデ
2	土師坏	(13.8)		(10.0)	A F	良好	黄橙	12	覆土	体部外面～底部へラ削り 暗文土器
3	須恵坏	12.7	3.8	(7.7)	G	良好	灰	80	覆土	底部一部回転へラ削り 歪みあり

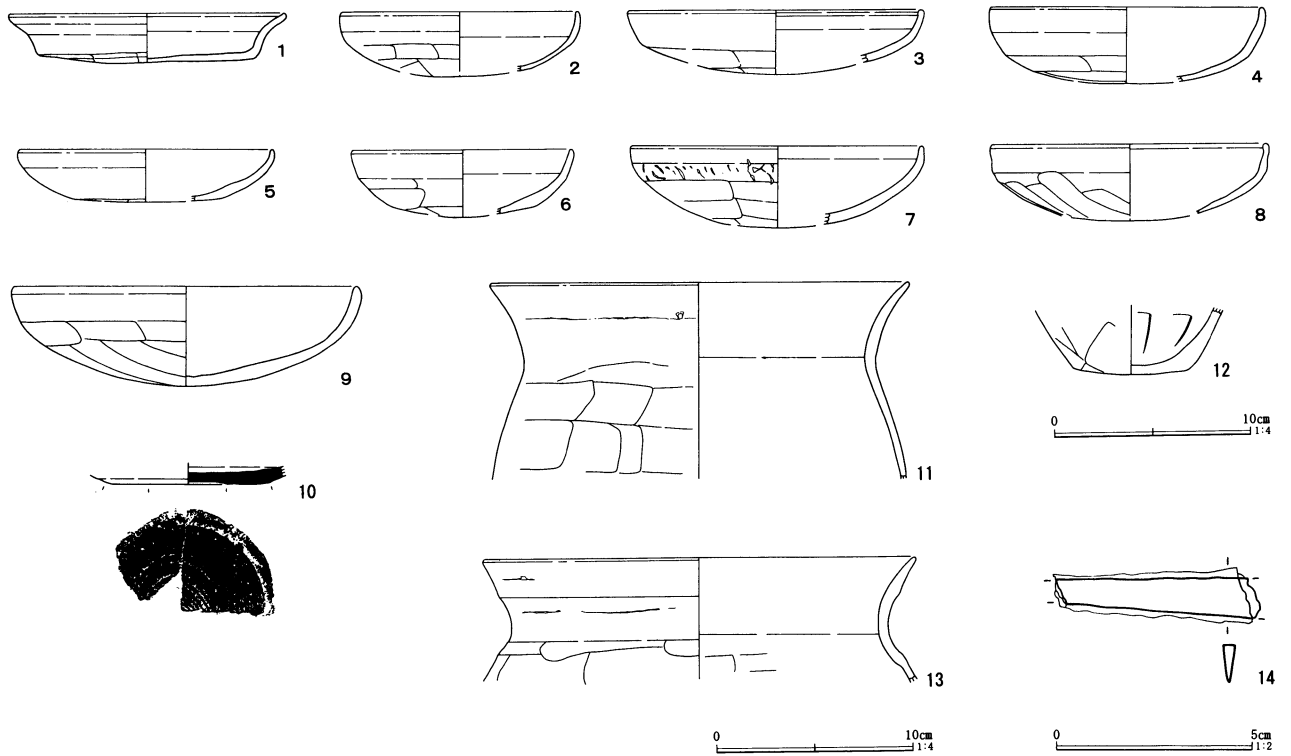
第36号住居跡 (第93・94図)

P・Q-19・20グリッドに位置する。第1号溝・第59・65号住居跡と重複し、溝に切られ、2軒の住居跡を切っていることから、溝より古く、住居跡

より新しい。規模は、確認できた主軸長東西3.67m、南北4.00m、深さ22cm程を測る。平面形は、方形を呈すると推定される。主軸方位は、N-90°-Eを指す。



第93図 第36号住居跡



第94図 第36号住居跡出土遺物

第36号住居跡出土遺物観察表 (第94図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	13.9	2.5		A B F	良好	橙	80	覆土	
2	土師坏	(12.0)			A B C	良好	にぶい褐	15	覆土	
3	土師坏	(14.9)			A B	良好	橙	10	覆土	口縁部内外面横ナデ
4	土師坏	(13.8)			A C F	普通	橙	15	覆土	口縁部横ナデ 内面油煙付着
5	土師坏	(12.9)			A	良好	にぶい褐	10	覆土	口縁部外面～体部内面横ナデ
6	土師坏	(11.1)			A B C J K	良好	にぶい橙	15	覆土	口縁部内外面横ナデ 体部外面一部へら削り
7	土師坏	(14.8)			A B C	良好	にぶい橙	15	覆土	
8	土師坏	(14.0)			A	良好	橙	15	覆土	口縁部外面～体部内面横ナデ
9	土師坏	(17.4)	5.1		A	良好	橙	50	覆土	口縁部内外面横ナデ
10	須恵坏			(8.5)	A H	良好	灰	40	覆土	底部糸り切後右回転へら削り
11	土師甕	(20.2)			A B D F	普通	にぶい赤褐	30	カマド	
12	土師甕			6.0	A B C	普通	にぶい褐	80	覆土	底部一方向へら削り
13	土師甕	(21.8)			A B F	良好	橙	20	床直	

カマドは、第1号溝により壊され確認できないが、東壁にあったと推定される。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏、鉄製品が出土した。14は鉄製刀子の刃部の破片である。現存長5.3cm、刃部最大幅1.0cmである。

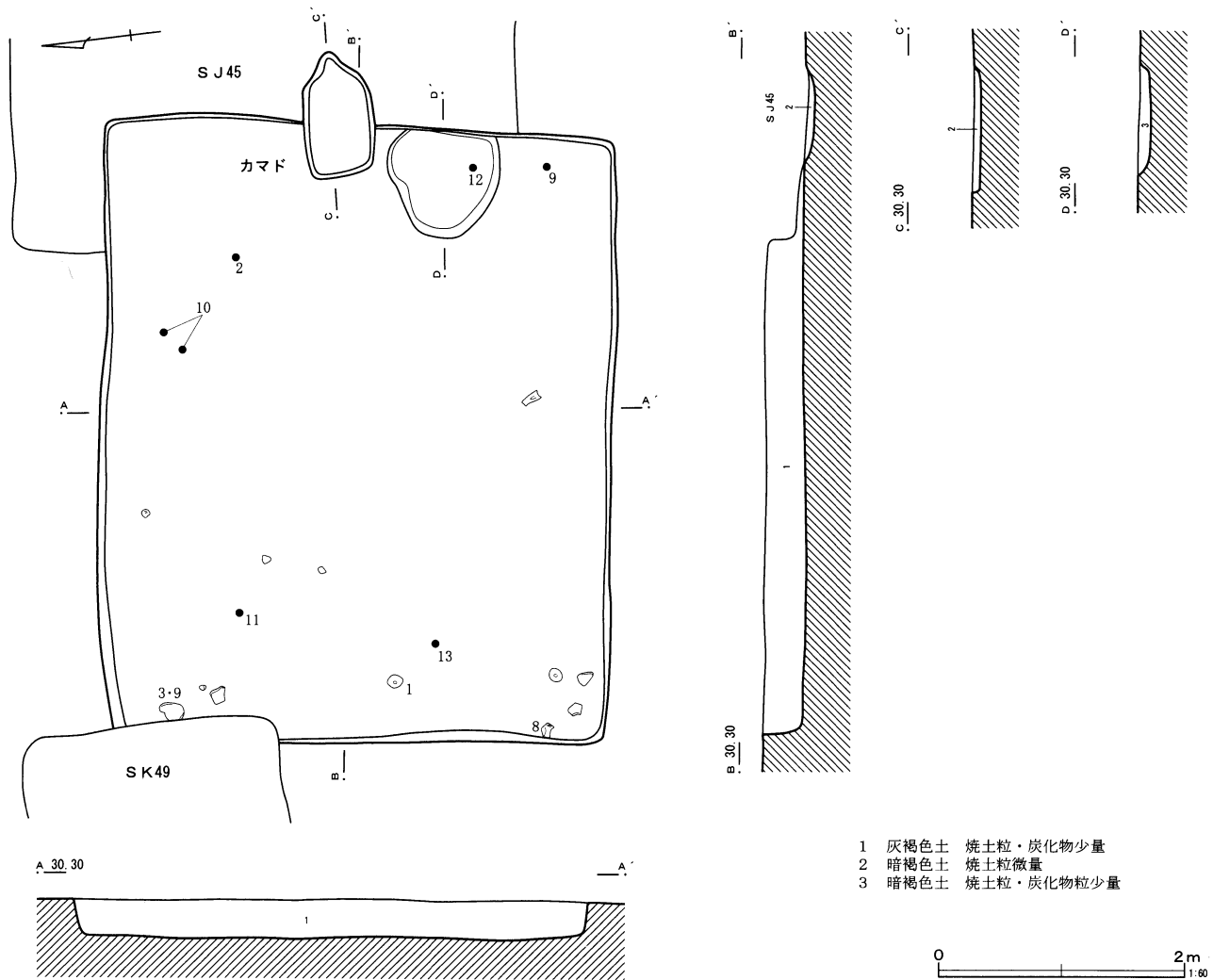
第37号住居跡 (第95・96図)

N-11・12グリッドに位置する。第45号住居跡・第49号土坑と重複し、土坑に北西隅、住居跡に東壁とカマド上部は切られることから、土坑・住居跡より古い。規模は、主軸長東西5.08m、南北4.15m、深さ31cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-98°-Eを指す。

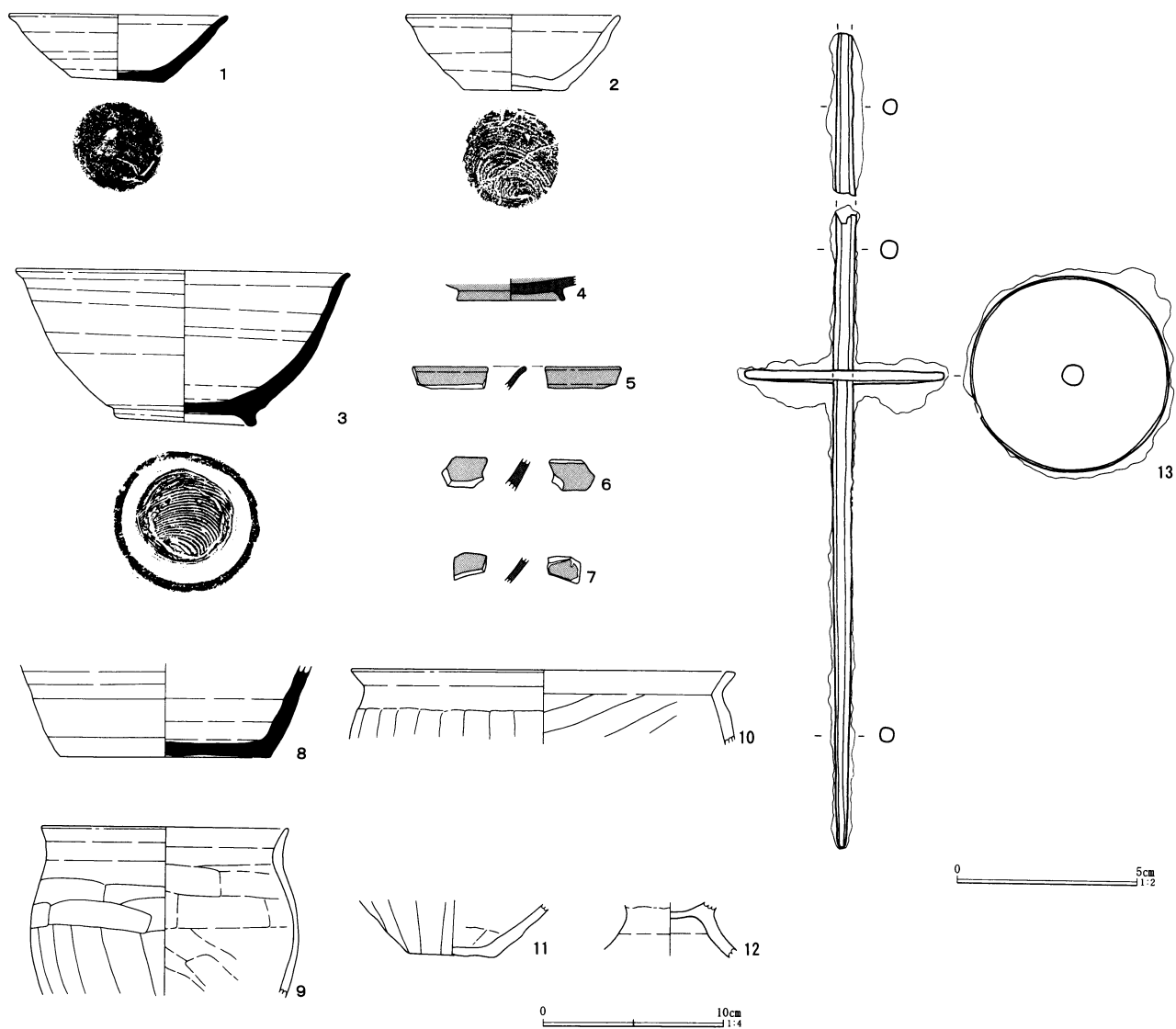
カマドは、東壁やや北寄りに設けられている。燃

焼部は、103cm×57cm、深さ6cmを測る。

遺物は、須恵器坏・高台付碗・甕、土師器甕・台付甕、緑釉陶器高台付皿、緑釉陶器片、鉄製紡錘車が出土した。13は鉄製紡錘車である。軸部は2片に分かれ、接合しないが同一個体と考えられる。現存長は4.4cmと17.9cm、最大径0.5cmの丸棒状を呈している。上端部を欠く。車部は径5.5cm、厚さ0.3cmの円盤である。



第95図 第37号住居跡



第96図 第37号住居跡出土遺物

第37号住居跡出土遺物観察表 (第96図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	12.0	3.6	5.0	A B D J	普通	にぶい黄橙	100	覆土	歪みあり
2	須恵坏	11.7	4.2	5.5	A B F	普通	橙	80	覆土	酸化焰焼成 外面ロクロ砂移動痕
3	須恵高台碗	18.3	8.5	7.3	A B K	不良	褐灰	90	覆土	歪みあり
4	緑釉高台皿			(6.0)	A F	良好	濃緑	25	覆土	尾北産
5	緑釉陶器						—	破片	覆土	外面被熱 猿投産
6	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
7	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
8	須恵甕			(11.7)	G J K	普通	灰	30	覆土	外面工具横ナデ
9	土師甕	(13.5)			A	良好	にぶい褐	20	覆土	胴部外面←・↓方向ヘラ削り 内面横ナデ
10	土師甕	(21.2)			A B C F	普通	にぶい黄橙	15	覆土	
11	土師甕			(4.7)	B F	良好	灰黄	25	覆土	外面↓方向ヘラ削り
12	土師台付甕				B F J	良好	にぶい黄橙	30	カマド2	

第38号住居跡 (第97・98図)

Q-19・20グリッドに位置する。第57号住居跡と重複し、切っていることから当住居跡が新しい。規模は、主軸長南北3.94 m、東西2.30 m、深さ38cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-3°-Wを指す。

北壁側に、僅かな段差をもって床面が高くなる場所がある。

カマドは、北壁やや西寄りに設けられている。燃焼部は、109cm×63cm、深さ15cmを測り、煙道部は長さ96cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・壺・甕の他に

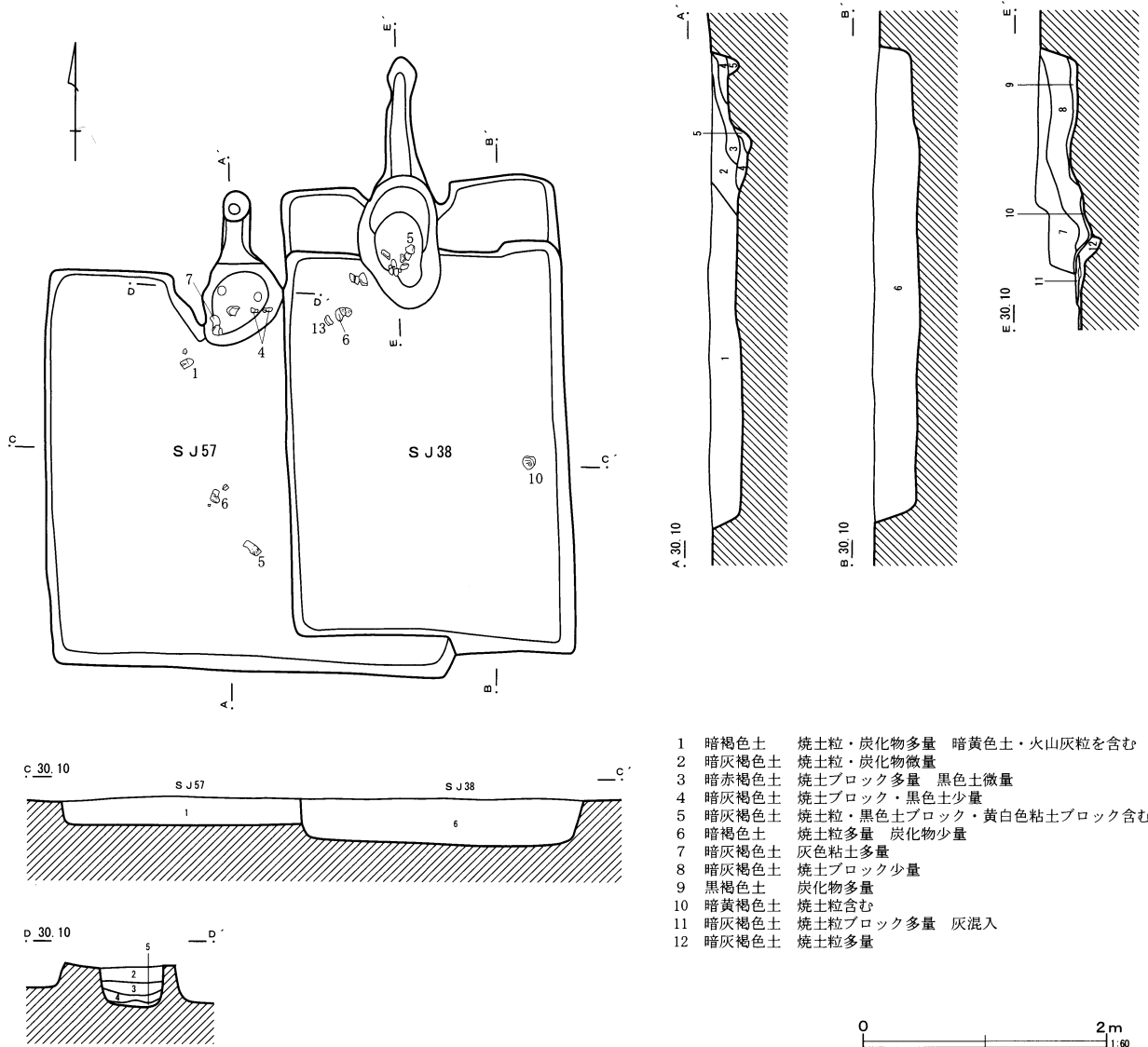
鉄製品が出土した。17は板状鉄製品の破片である。厚さ0.3cm。鋳造品と考えられる。

第57号住居跡 (第97・99図)

Q-19グリッドに位置する。第38号住居跡と重複し、東半部は切られていることから、当住居跡が古い。規模は、主軸長南北3.25 m、南壁で東西3.30 m、深さ24cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-1°-Wを指す。

カマドは、北壁に設けられている。燃焼部は、68cm×66cm、深さ14cmを測り、煙道部は長さ58cmが確認できた。

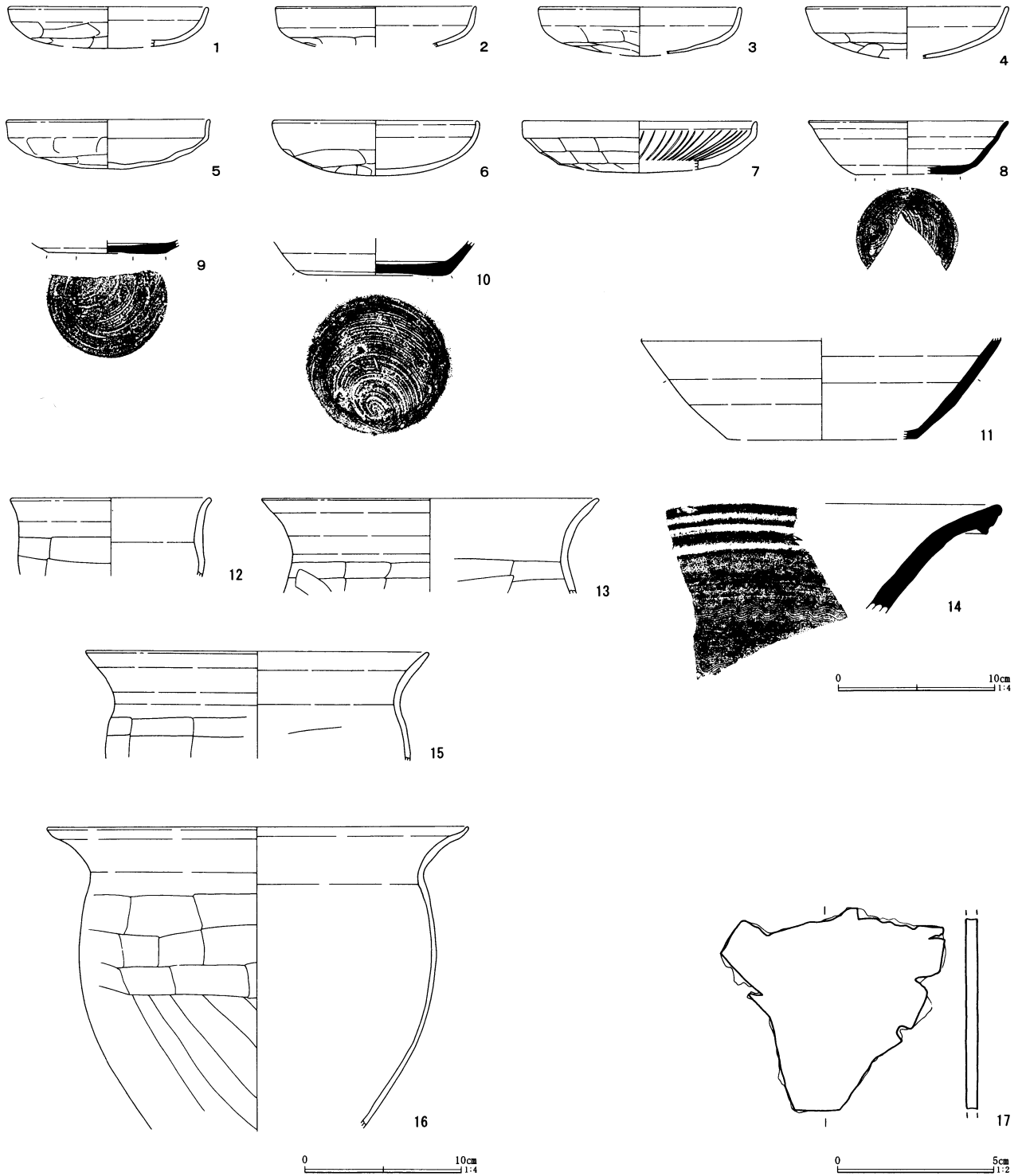
遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・高台坏壺の他



第97図 第38・57号住居跡

鉄製品が出土した。8は鉄鏝である。現存長7.4cm。
 長頸鏝で棘状関を有する。9はおそらく鉄鏝の茎部
 と考えられる。現存長は3.0cmである。1と同一個

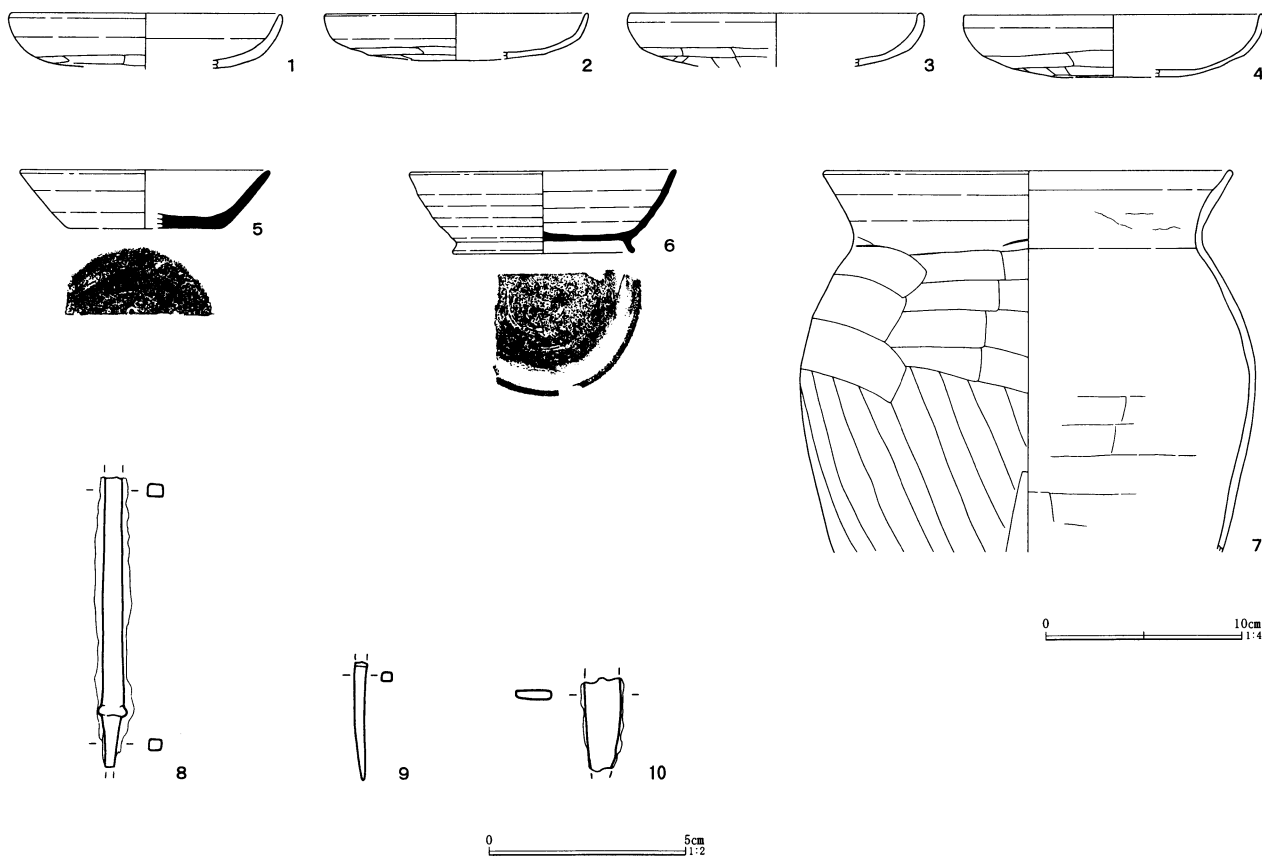
体の可能性もある。10は用途不明の延板状鉄製品
 である。現存長2.3cm。



第98図 第38号住居跡出土遺物

第38号住居跡出土遺物観察表 (第98図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.6)			A B	普通	橙	15	覆土	
2	土師坏	(12.7)			A B	普通	にぶい黄橙	20	覆土	外面口縁部分黒く変色
3	土師坏	(12.8)			A B C	普通	橙	25	覆土	
4	土師坏	(12.8)			A B	普通	橙	25	覆土	口縁部内外面横ナデ
5	土師坏	12.8	3.2		B G	良好	橙	50	カド・掘方	底部外周ヘラナデ他は削り
6	土師坏	13.0	3.5		A B	良好	橙	90	覆土	口縁部内外面横ナデ
7	土師坏	(14.8)			A B	良好	橙	10	覆土	暗文土器 口縁部外面横ナデ
8	須恵坏	(12.6)	3.4	6.5	A G H	良好	灰	40	カド・覆土	底部糸切後周辺右回転ヘラ削り
9	須恵坏			7.7	A H	良好	灰	60	覆土	底部糸切後周辺右回転ヘラ削り
10	須恵坏			8.8	A H	普通	灰黄	90	覆土	底部糸切後周辺右回転ヘラ削り
11	須恵甕			(12.0)	A G	良好	灰	20	覆土	下半外面←方向ヘラ削り
12	土師甕	(12.6)			A B C F	良好	橙	20	覆土	
13	土師甕	(21.4)			A B	良好	明赤褐	20	覆土	口縁部内外面横ナデ 胴部内面横ナデ
14	須恵甕				A C K	普通	灰	破片	覆土	
15	土師甕	(21.8)			A B C	良好	にぶい橙	25	覆土	口縁部内外面横ナデ
16	土師甕	(26.8)			A F	良好	橙	30	覆土	



第99図 第57号住居跡出土遺物

第57号住居跡出土遺物観察表 (第99図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.7)			D	普通	橙	15	覆土	口縁部内外面横ナデ
2	土師坏	(13.4)			B C	良好	にぶい褐	15	覆土	口縁部内外面横ナデ
3	土師坏	(14.8)			A F	普通	灰黄褐	20	覆土	口縁部内面横ナデ
4	土師坏	(15.1)	3.2		A B	良好	にぶい褐	25	カマド	口縁部内面横ナデ
5	須恵坏	(12.6)	3.0	(7.6)	A	良好	灰	30	覆土	底部丁寧な仕上げ調整痕不明
6	須恵高台坏	(13.4)	4.3	(9.1)	J	普通	灰白	30	覆土	底部右回転へら削り
7	土師甕	(20.6)			A B F	良好	にぶい褐	25	カマド	口縁部内外面横ナデ 胴部内面工具横ナデ

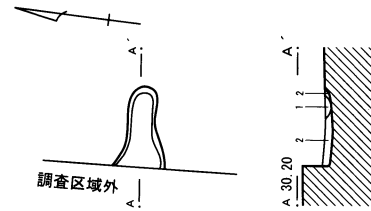
第39号住居跡 (第100図)

〇-10グリッドに位置する。カマド先端部のみの検出で、主軸方位は、N-86°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられていたと推定される。確認できた燃焼部は、60cm×40cm、深さ7cmを測る。

第42号住居跡 (第101・102図)

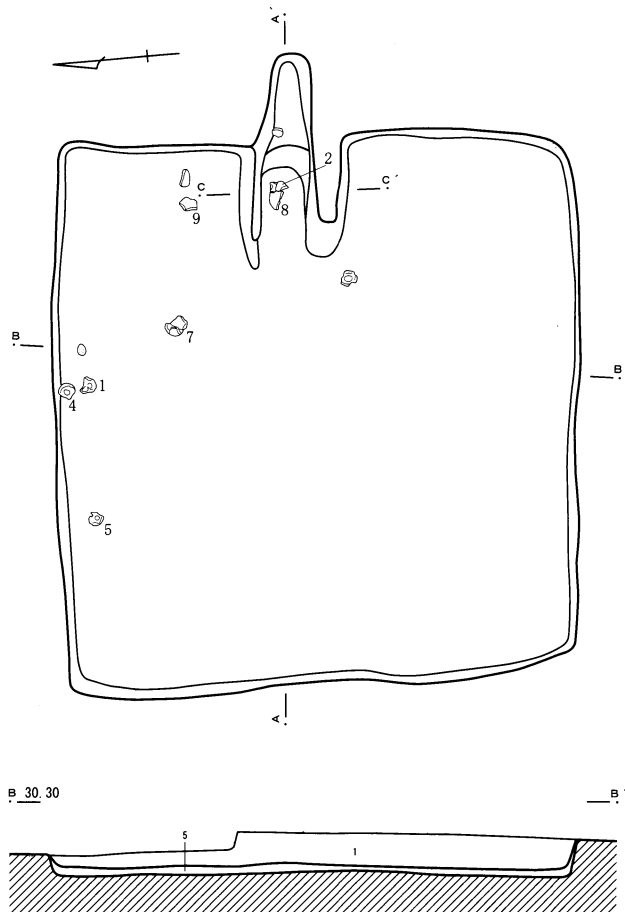
N・〇-11・12グリッドに位置する。第10号住



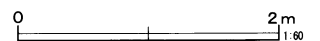
カマド
1 暗黄褐色土 焼土粒・焼土ブロック含む
2 暗黄褐色土 焼土粒少量



第100図 第39号住居跡



1 暗灰褐色土 焼土粒・炭化物少量
2 暗褐色土 焼土粒多量
3 黒褐色土 焼土粒少量 炭化物多量
4 暗褐色土 焼土ブロック多量
5 暗灰黄褐色土 灰色粘土・黄褐色土含む



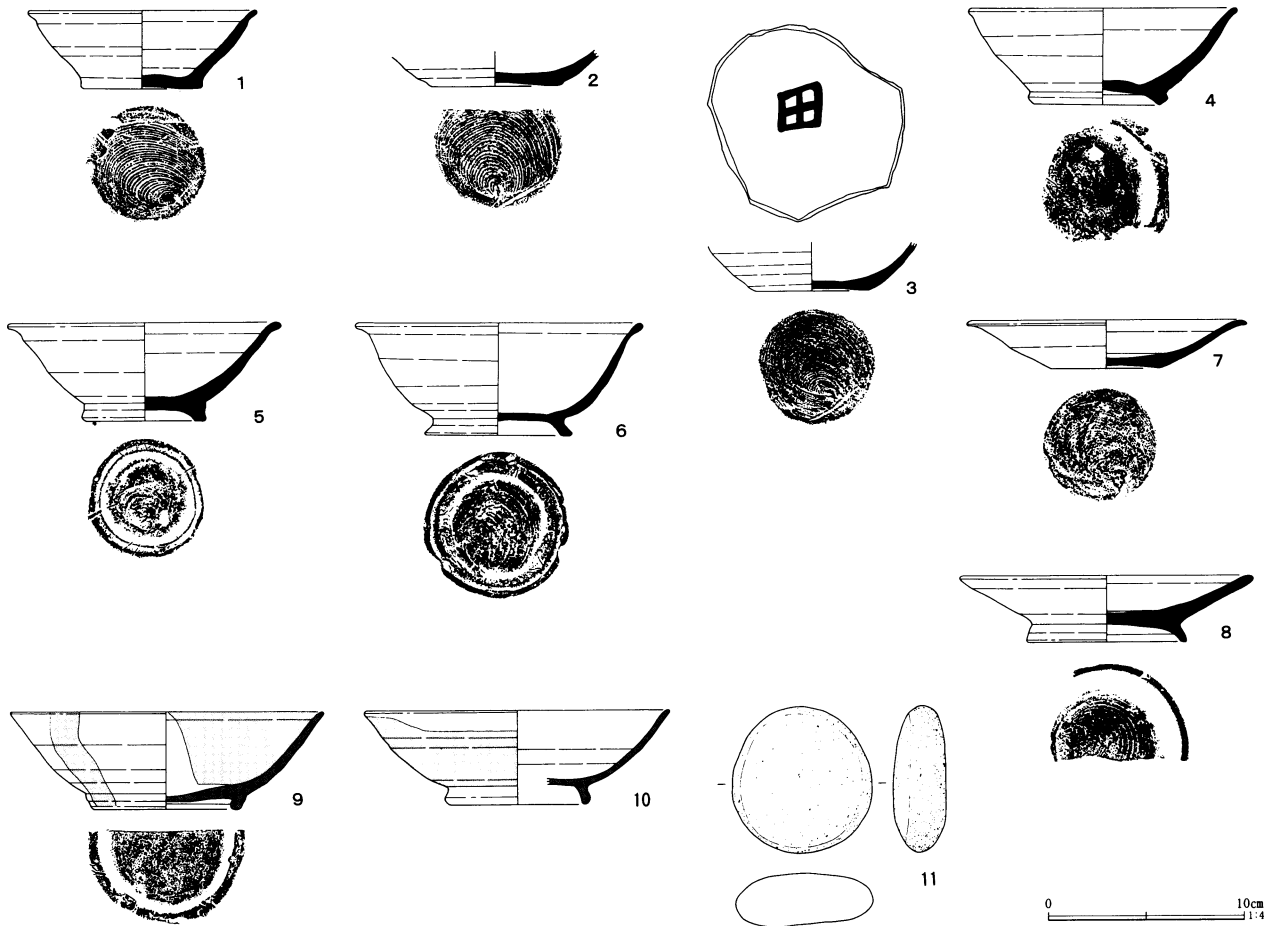
第101図 第42号住居跡

居跡と重複し、北壁上部が切られており、当住居が古い。規模は、主軸長東西4.22m、南北4.06m、深さ32cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-95°-Eを指す。

カマドは、東壁やや北寄りに設けられている。燃

焼部は、128cm×45cm、深さ8cmを測り、煙道部は、長さ72cmが確認できた。

遺物は、須恵器坏・高台付碗・皿・高台付皿、灰釉陶器高台付碗の他扁平な礫が出土した。



第102図 第42号住居跡出土遺物

第42号住居跡出土遺物観察表 (第102図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(11.6)	4.0	6.0	ABC	普通	灰	70	覆土	歪みあり
2	須恵坏			6.4	AGJ	良好	灰	60	カマド	
3	須恵坏			5.8	AGIJ	良好	灰	80	覆土	底部内面墨書「田」
4	須恵高台坏	13.5	4.9	(6.4)	J	不良	灰白	90	覆土	外面一部剥離 内面生地割れ
5	須恵高台坏	(13.5)	5.0	6.0	AJ	普通	灰	60	覆土	底部右回転糸切り
6	須恵高台碗	14.4	6.7	7.3	ABCGJK	普通	灰黄	95	覆土	底部回転糸切り
7	須恵皿	13.8	2.5	5.6	AK	普通	褐灰	70	覆土	底部のみ酸化焰焼成
8	須恵高台皿	(14.5)	3.4	(8.1)	ACFIJ	普通	灰白	45	カマド	
9	灰釉高台碗	(16.0)	5.0	7.4	AG	良好	灰	40	覆土	底部高台内へラ削り 施釉ツケガケ 東濃産
10	灰釉高台碗	(15.4)	4.8	(7.1)	GK	良好	灰	20	覆土	底部高台内へラ削り 施釉ツケガケ 東濃産
11	礫	長さ7.4 幅7.1 厚さ2.7						-	覆土	

第43号住居跡 (第103・104図)

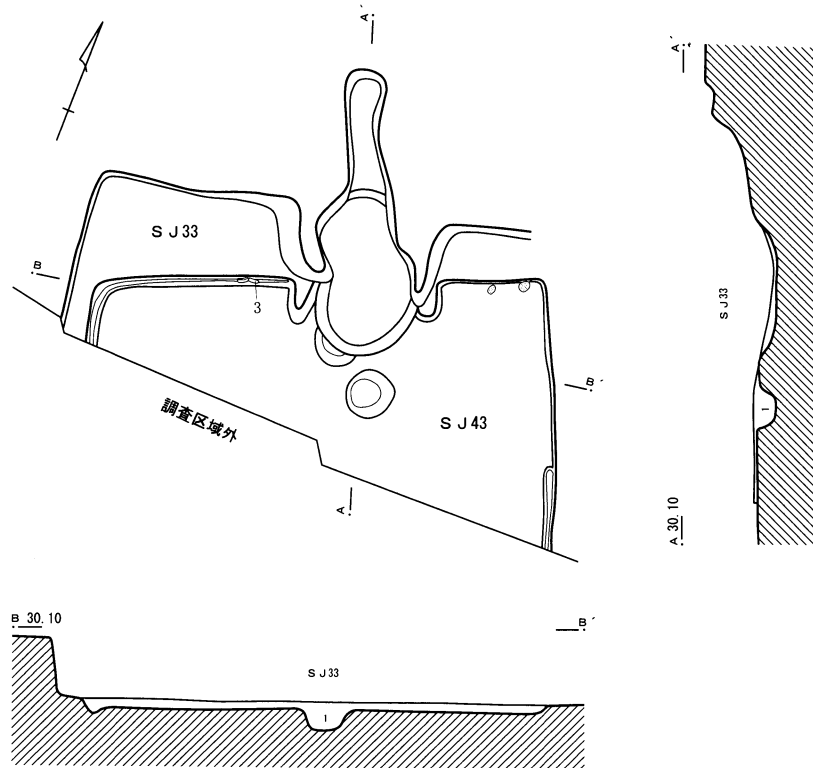
Q-18グリッドに位置する。南半は調査区域外で、第33号住居と重複し、上部を切られていることから、当住居跡のほうが古い。規模は、確認できた東壁2.05m、北壁3.52m、深さ5cm程を測る。平面形は、方形を呈すると推定される。主軸方位は、N-

21°-Wを指す。

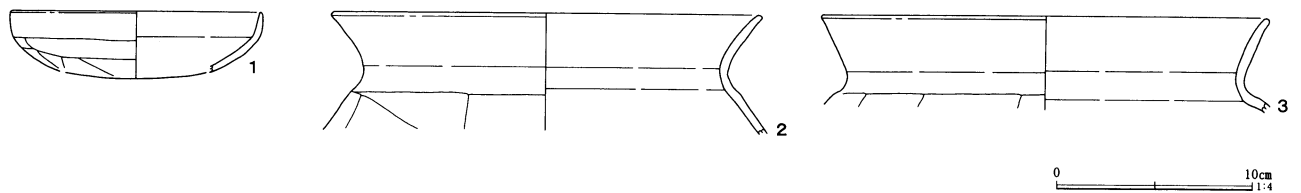
壁溝は東壁の一部で検出し、幅8~10cm、深さ4cm程を測る。

カマドは、北壁に設けられているが、第33号住居跡のカマドに切られ詳細は不明である。

遺物は、土師器坏・甕が出土した。



第103図 第43号住居跡



第104図 第43号住居跡出土遺物

第43号住居跡出土遺物観察表 (第104図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.7)			A C	良好	にぶい褐	20	床直	
2	土師甕	(21.8)			A B J	普通	にぶい橙	15	床直	
3	土師甕	(22.6)			A B J	普通	明赤褐	15	床直	

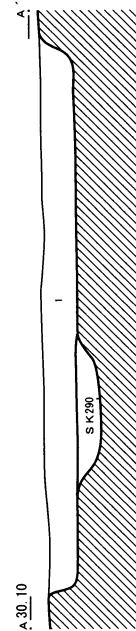
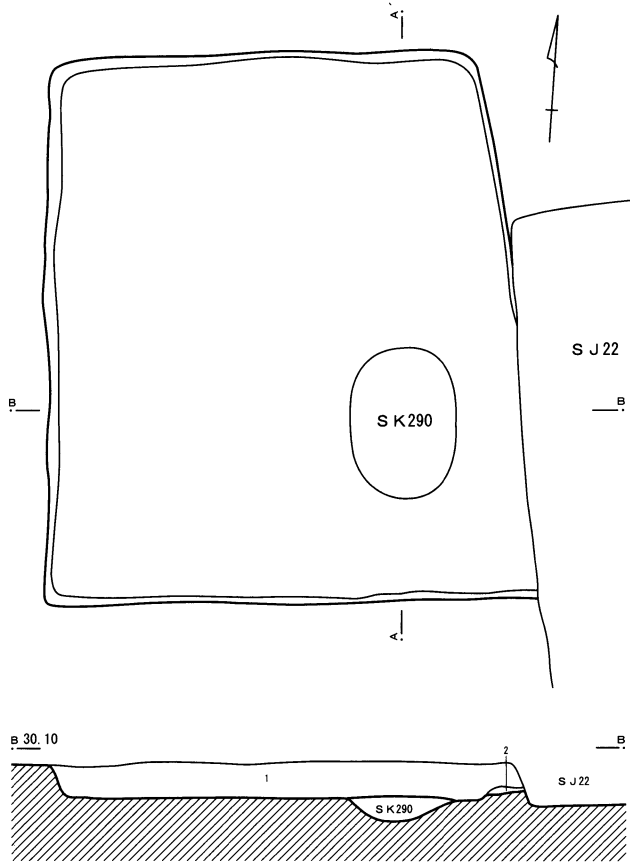
第44号住居跡 (第105・106図)

P・Q-18グリッドに位置する。第22号住居跡・第290号土坑と重複し、東壁南半が切られていることから、当住居跡のほうが古い。土坑は床面から確認できたもので詳細は不明である。規模は、主軸長南北4.23m、北壁3.28m、南壁3.80m以上、深さ

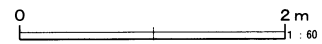
20cm程を測る。平面形は、台形を呈する。主軸方位は、N-6°-Wを指す。

カマド等の施設は確認できなかったが、灰層が確認できたことから、東壁にカマドが設けられていたと推定される。

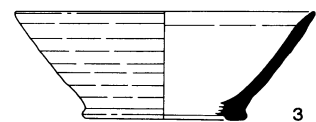
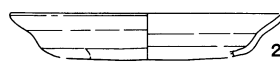
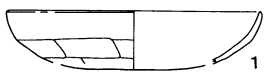
遺物は、土師器坏、須恵器高台付碗が出土した。



- 1 暗灰褐色土 焼土ブロック・炭化物少量
- 2 黒灰色土 焼土ブロック・炭化物多量 (カマドの灰層)



第105図 第44号住居跡



第106図 第44号住居跡出土遺物

第44号住居跡出土遺物観察表 (第106図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.8)			FG	良好	にぶい橙	10	覆土	
2	土師坏	(13.9)			BC	良好	にぶい橙	10	覆土	
3	須恵高台碗	(15.2)	5.5	(8.0)	ABC FG	不良	灰白	20	覆土	

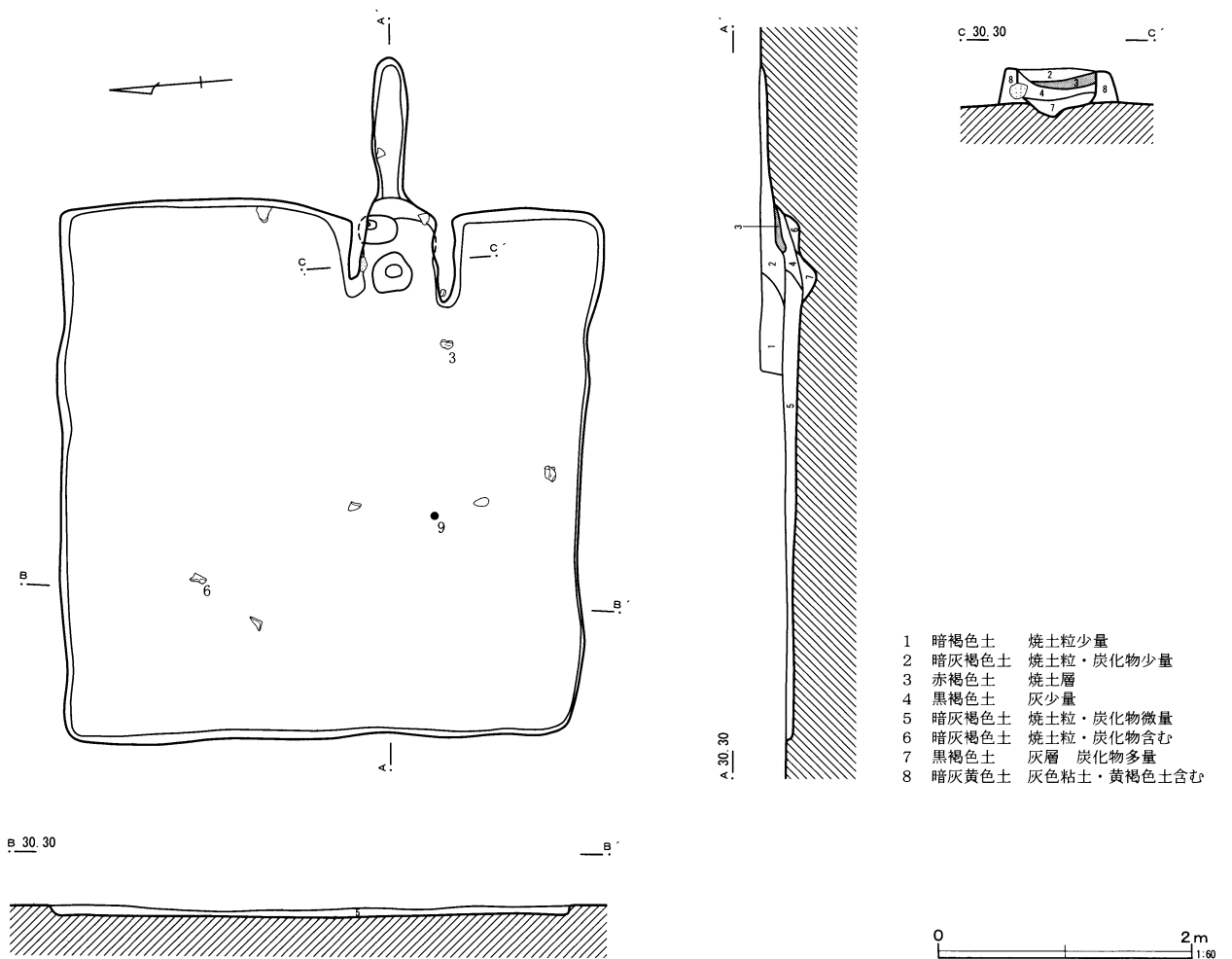
第45号住居跡 (第107・108図)

N-11・12グリッドに位置する。第12・37・56号住居跡と重複し、第56号住居跡、当住居跡、第12・37号住居跡の順に古くなる。規模は、主軸長東西4.24m、南北4.18m、深さ9cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-96°-Eを指す。

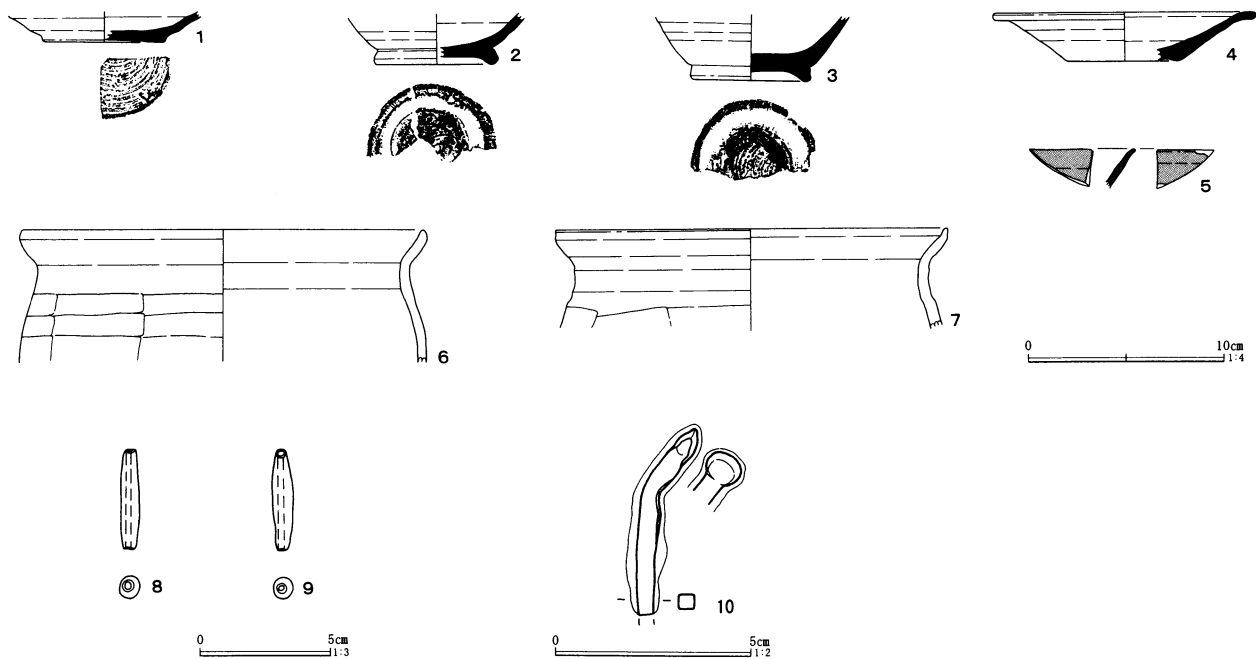
カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃

焼部は、122cm×60cm、深さ15cmを測り、煙道部は長さ118cmが確認できた。

遺物は、須恵器坏・高台付坏・皿、土師器甕、緑釉陶器破片、土錘の他に鉄製品が出土した。10は鉄製釘である。現存長4.9cm、頭部幅0.9cm、頭部は折れていない。基部はくの字状に折れ曲がり、脚部を欠く。



第107図 第45号住居跡



第108図 第45号住居跡出土遺物

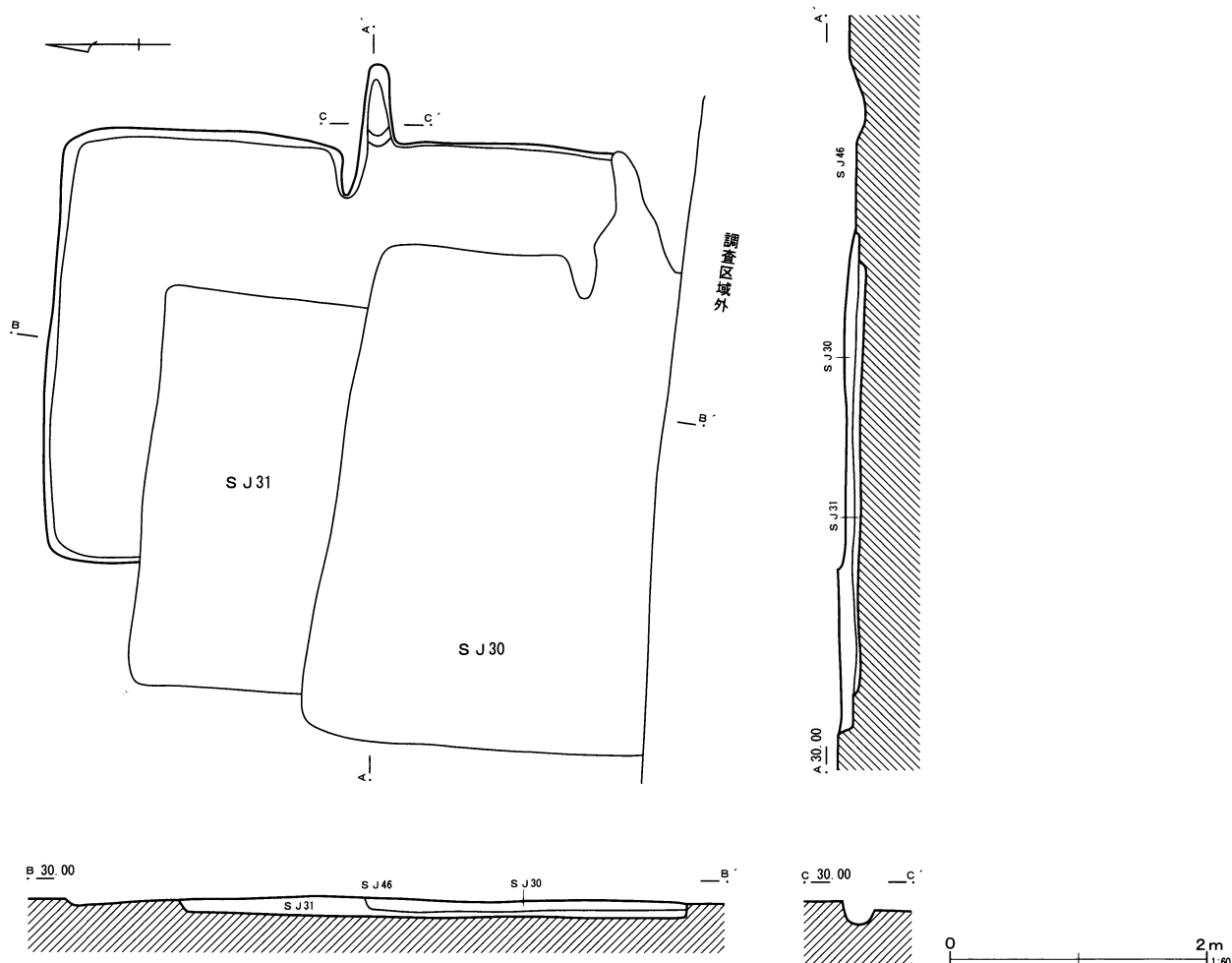
第45号住居跡出土遺物観察表 (第108図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏			(6.0)	A K	普通	灰白	10	覆土	底部右回転糸切り
2	須恵高台坏			(6.0)	A F J K	不良	にぶい橙	40	カマド	
3	須恵高台坏			(5.7)	A F	不良	黄灰	45	覆土	
4	須恵皿	(13.0)	2.5	(5.7)	A I	良好	灰	10	覆土	底部右回転糸切り
5	緑釉陶器						—	破片	覆土	
6	土師甕	(20.3)			A B F J	良好	橙	15	床直	
7	土師甕	(19.8)			A C F J	良好	橙	20	カマド	
8	土錘	長さ3.7	径0.75	孔径0.40		普通	灰白	100	覆土	
9	土錘	長さ3.8	径0.90	孔径0.25		普通	灰白	100	覆土	

第46号住居跡 (第109図)

P・Q-12グリッドに位置する。第30・31号住居と重複し、両住居跡に切られている。規模は、主軸長東西3.38m、確認できた南北4.38m、深さ8cm程を測る。平面形は、長方形を呈すると推定される。主軸方位は、N-91°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、60cm×27cm、深さ10cmを測る。



第109図 第46号住居跡

第48号住居跡 (第110・111図)

H-13グリッドに位置する。第49号住居跡・性格不明遺構と重複し、住居跡・性格不明遺構より新しい。規模は、主軸長東西3.80m、南北2.42m、深さ27cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-103°-Eを指す。

貯蔵穴は、南東隅に設けられており、軸長54cm×45cmの楕円形で、深さ39cmを測る。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、80cm×62cm、深さ8cmを測る。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器高台付坏・高台坏、灰釉陶器高台付塊が出土した。

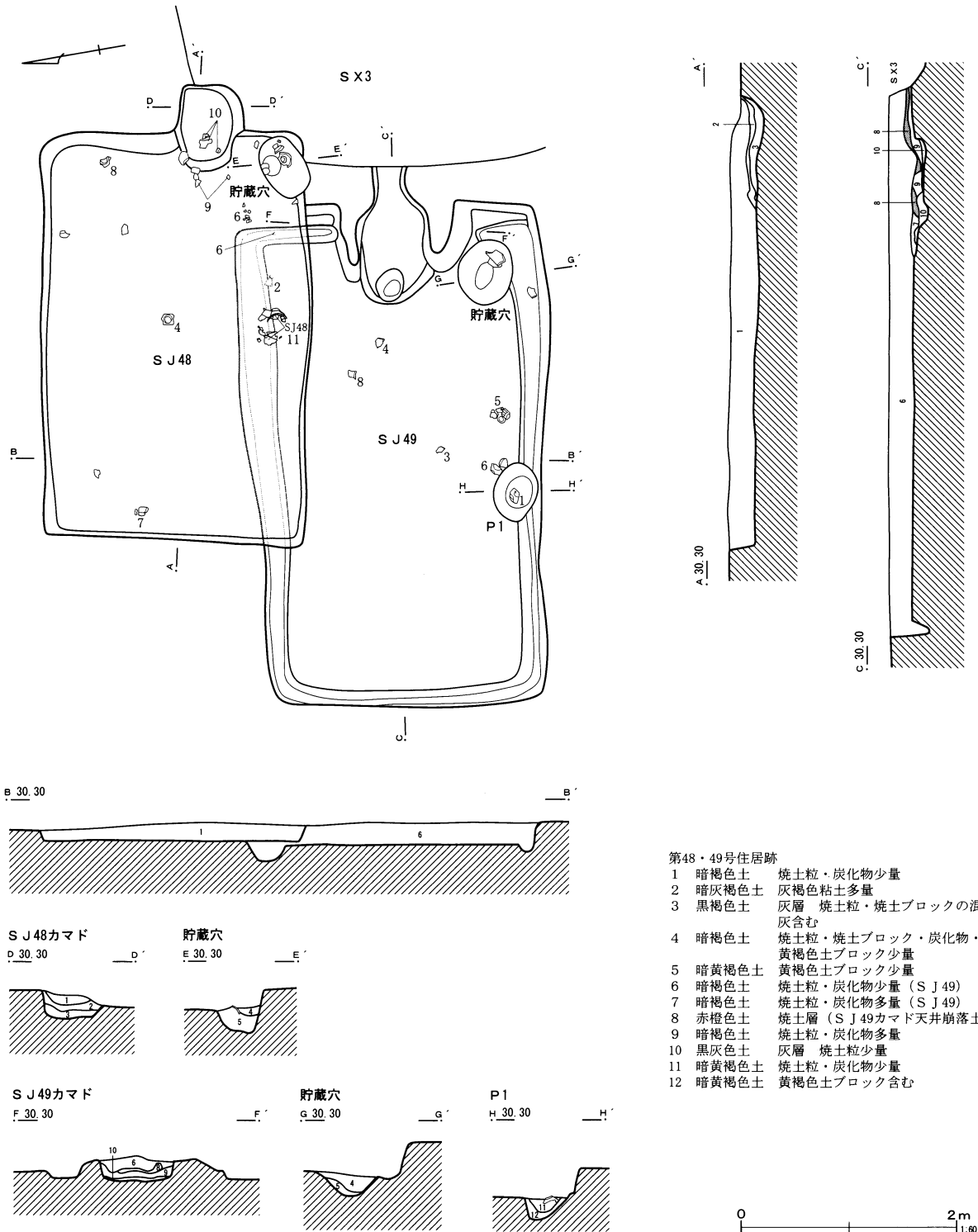
第49号住居跡 (第110・112図)

H-13グリッドに位置する。第48号住居跡・性格不明遺構と重複し、西壁上部を住居跡にカマド煙道部先端を性格不明遺構に切られることから、両者より古い。規模は、主軸長東西4.56m、南北2.82m、深さ23cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-98°-Eを指す。

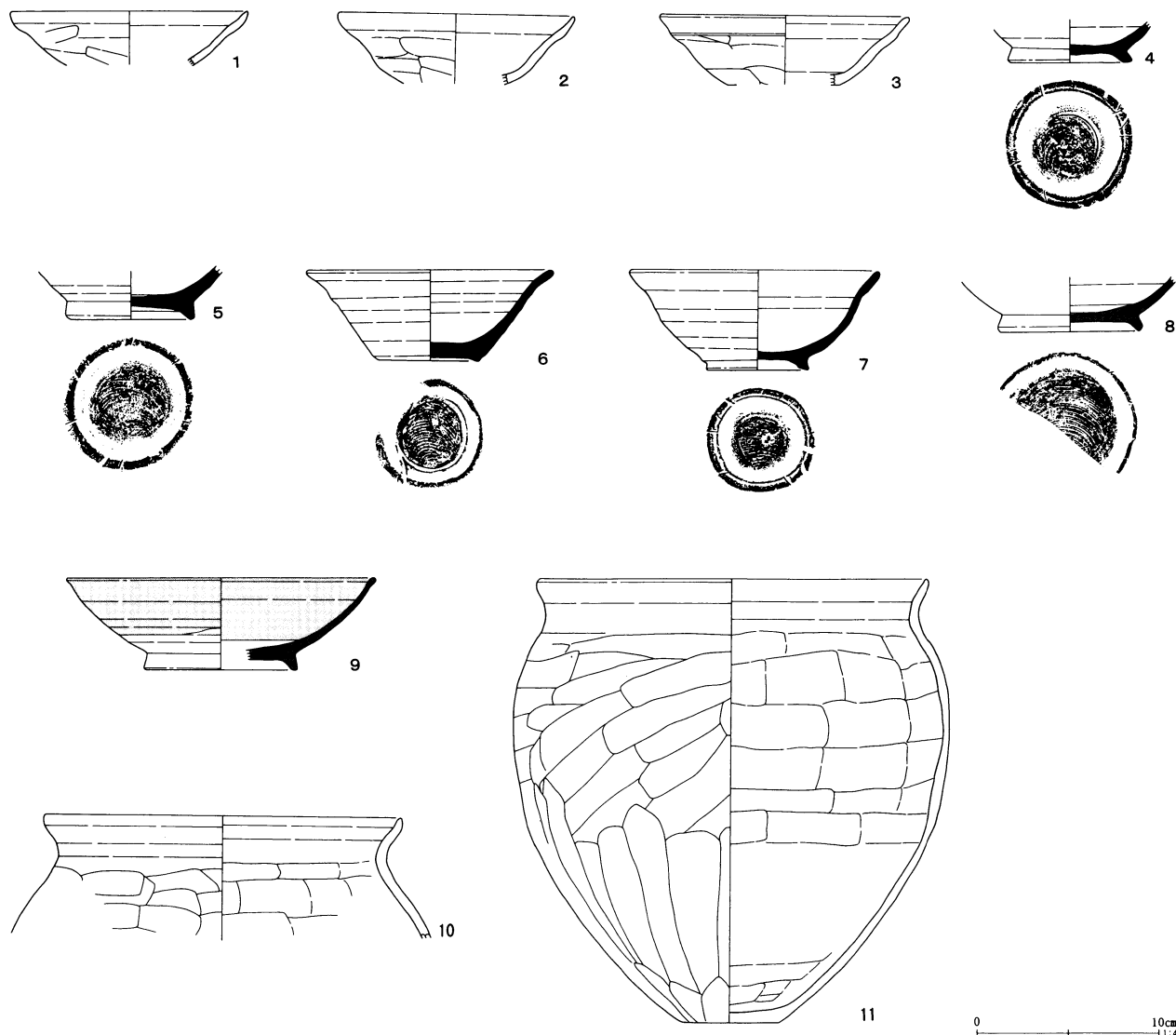
貯蔵穴は、南東隅のカマド袖付近に設けられており、径60cm×50cmの円形で、深さ48cmを測る。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、110cm×67cm、深さ13cm程を測る。煙道部は先端が欠損しているが、長さ46cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・台付甕台部・甕、須恵器坏・
高台付壺、灰釉陶器高台付壺が出土した。



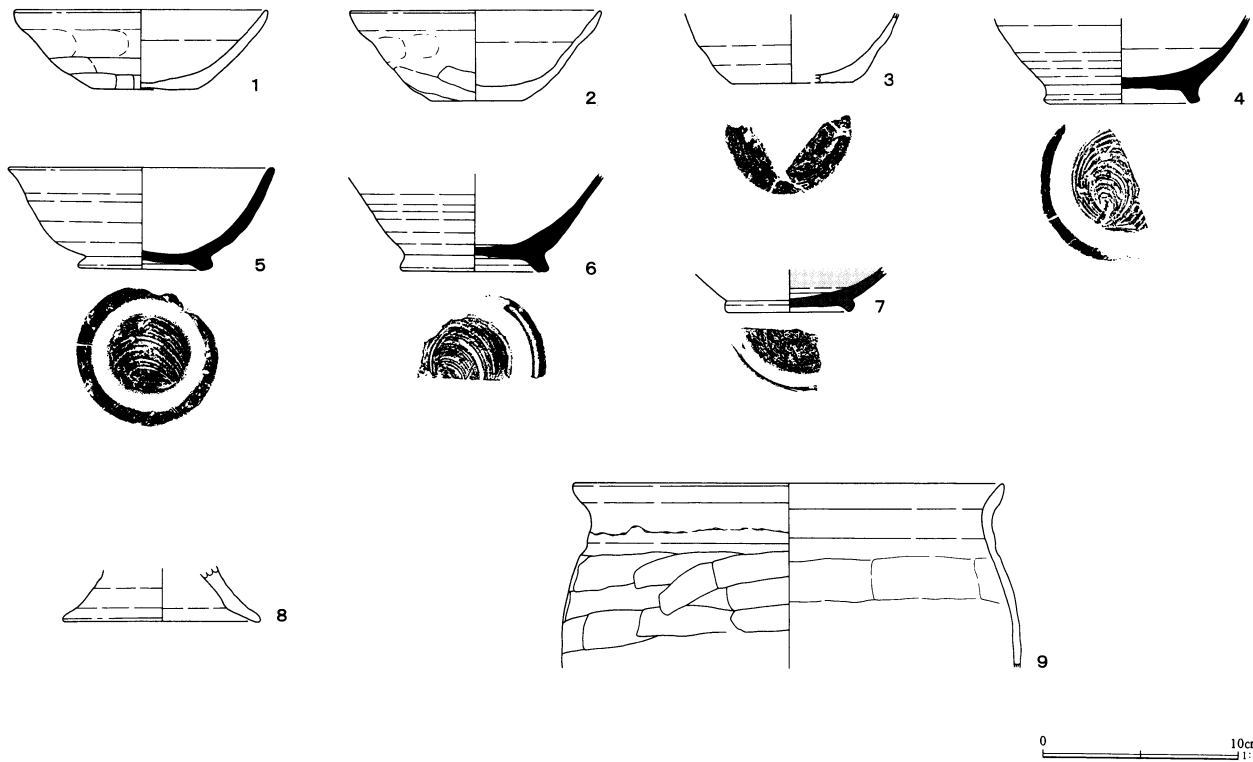
第110図 第48・49号住居跡



第111図 第48号住居跡出土遺物

第48号住居跡出土遺物観察表 (第111図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.0)			A F J	普通	にぶい黄橙	15	覆土	
2	土師坏	(12.8)			A F	普通	にぶい黄橙	15	覆土	
3	土師坏	(13.6)	(3.8)	(6.2)	B F	普通	橙	15	覆土	体部外面中位指ナデ 下位ヘラ削り
4	須恵高台埴			6.8	A C J K	普通	橙	80	覆土	
5	須恵高台埴			6.4	A J	普通	にぶい黄橙	80	覆土	
6	須恵高台坏	13.3	5.2	5.5	A C J	普通	灰白	65	床直	
7	須恵高台埴	(13.5)	5.4	5.6	A C J K	普通	灰	60	床直	
8	灰釉高台埴			7.9	A G J	良好	灰白	40	覆土	底部高台内糸切り 施釉なし 東濃産
9	灰釉高台埴	(16.3)	5.0	(8.4)	G	良好	灰	65	床直	底部高台内ヘラキリ 施釉ツケガケ 二川産
10	土師甕	(19.6)			A B C F	普通	橙	20	カマド	
11	土師甕	21.2	24.2	5.2	A B C F G	普通	にぶい褐	80	貯蔵穴	



第112図 第49号住居跡出土遺物

第49号住居跡出土遺物観察表 (第112図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.8	4.0	5.5	A F J	普通	浅黄橙	100	覆土	内面ロクロナデ
2	土師坏	(12.7)	4.6	(4.6)	F	普通	にぶい橙	20	覆土	底部一方向平行ヘラ削り
3	須恵坏			(6.2)	A B F	普通	にぶい黄橙	40	覆土	酸化焰焼成
4	須恵高台埴			(8.0)	A C F J	普通	にぶい黄褐	45	覆土	
5	須恵高台埴	13.3	5.2	6.9	A I J	普通	にぶい黄褐	95	覆土	
6	須恵高台埴			(7.6)	A J K	不良	灰白	40	覆土	
7	灰釉高台埴			(6.6)	A G	良好	灰	20	覆土	底部高台内糸切り 施釉ツケガケ 浜北産
8	土師台付甕				A J	普通	浅黄橙	70	床直	脚部
9	土師甕	21.8			A B C F	普通	にぶい黄橙	50	カマド	

第51号住居跡 (第113・114図)

Q・R-21グリッドに位置する。規模は、主軸長東西3.62m、南北3.30m、深さ19cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-86°-Eを指す。

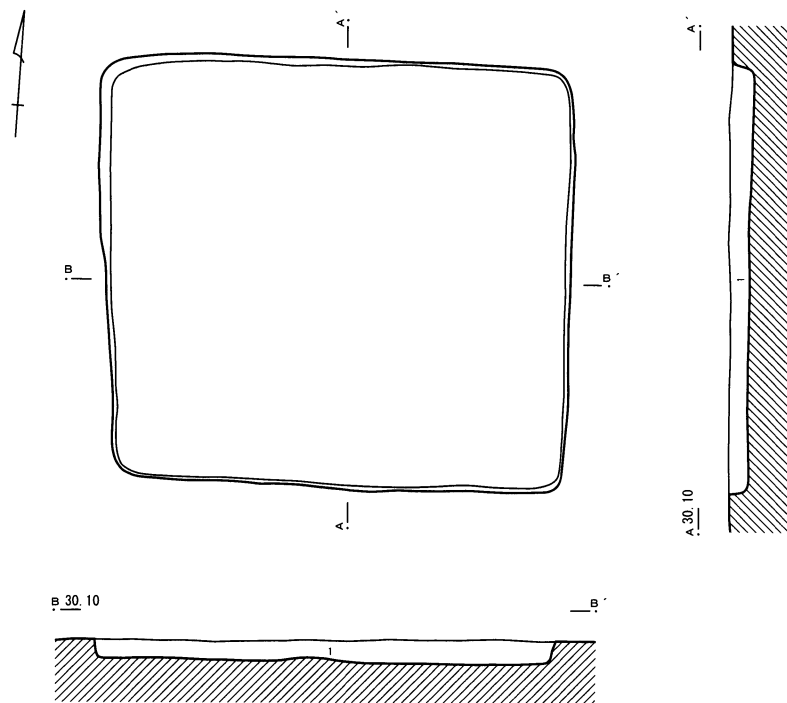
カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏、須恵器坏・蓋が出土した。

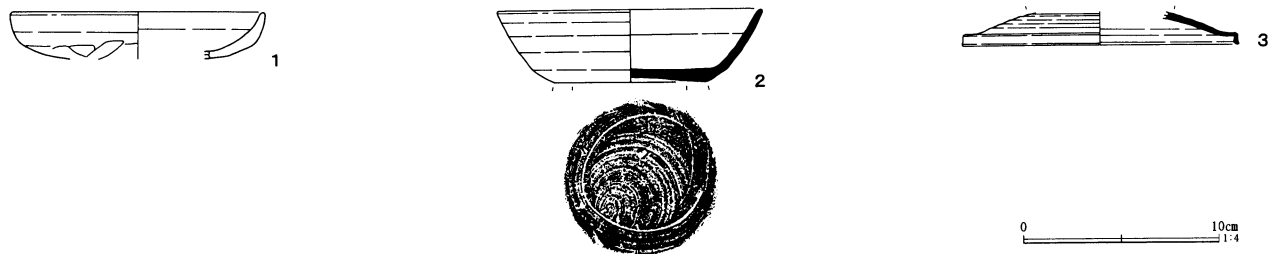
第52号住居跡 (第115図)

P・Q-11グリッドに位置する。第14・20・55号住居跡・第1088号土坑と重複し、住居跡・土坑に切られていることから、最も古い。規模は、主軸長南北3.74m、東西2.92m、深さ36cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-3°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。



第113図 第51号住居跡



第114図 第51号住居跡出土遺物

第51号住居跡出土遺物観察表 (第114図)

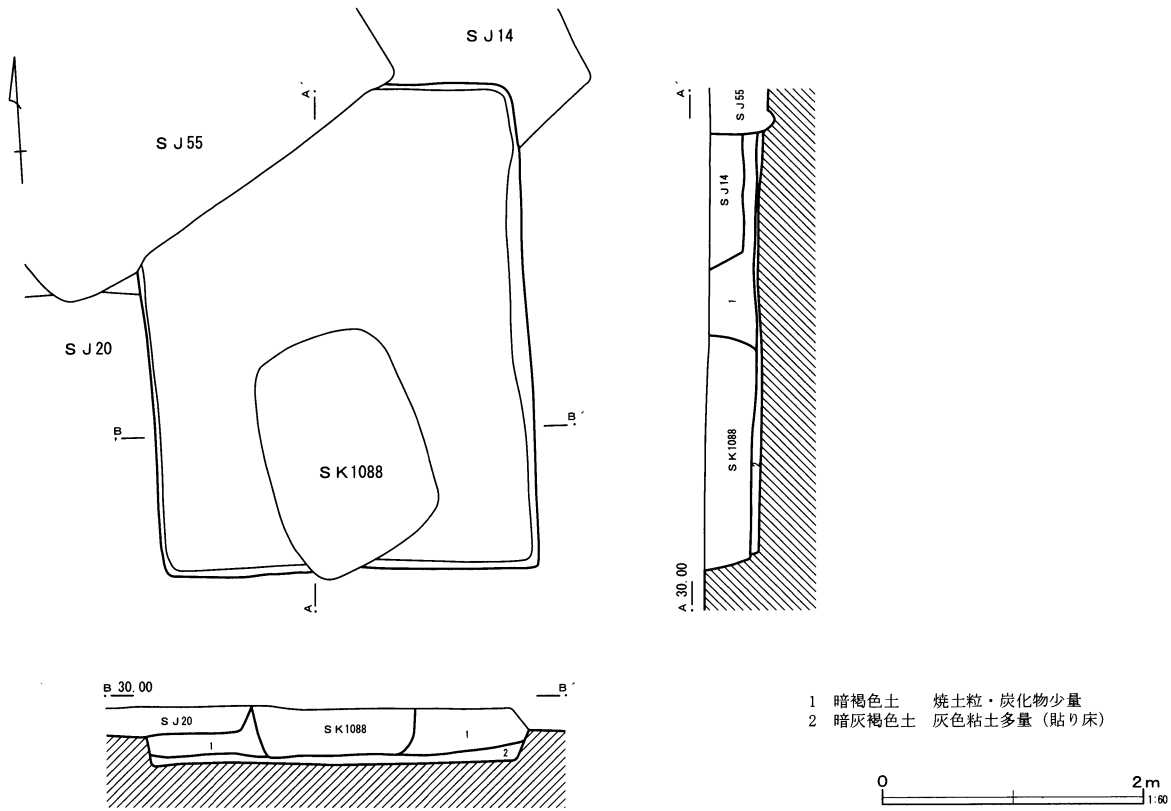
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師杯	(12.8)			AC	良好	明赤褐	10	覆土	口縁部内外面横ナデ
2	須恵杯	(13.4)	3.7	7.9	CHJ	普通	浅黄	60	覆土	底部糸切り後周辺右回転ヘラ削り
3	須恵蓋	(14.0)			AH	良好	灰	5	覆土	

第53号住居跡 (第116・117図)

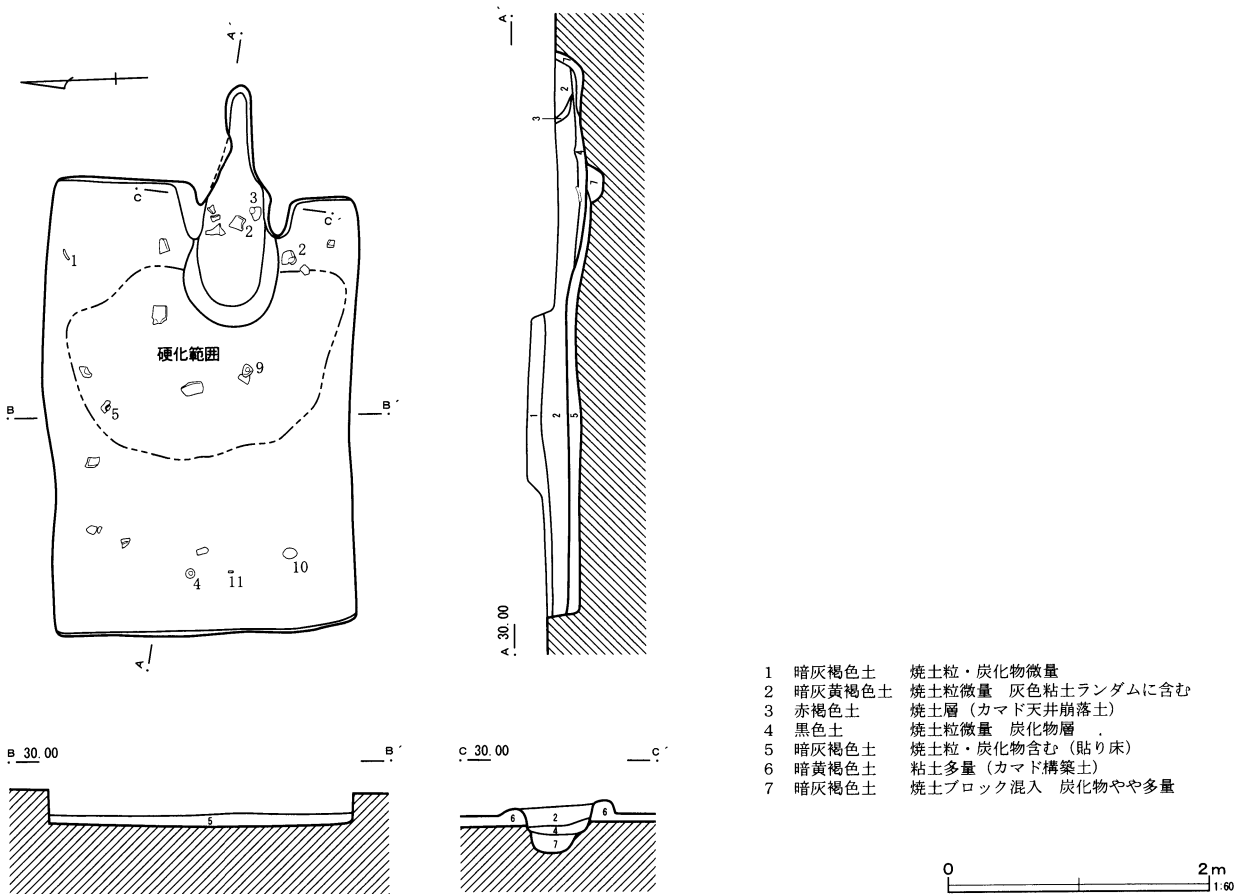
Q-18・19グリッドに位置する。第33・43号住居跡と重複し、住居跡上部が切られることから、2軒の住居跡より古い。規模は、主軸長東西3.46m、南北2.38m、深さ30cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-93°-Eを指す。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃烧部は、130cm×72cm、深さ15cmを測り、煙道部は長さ55cmが確認できた。

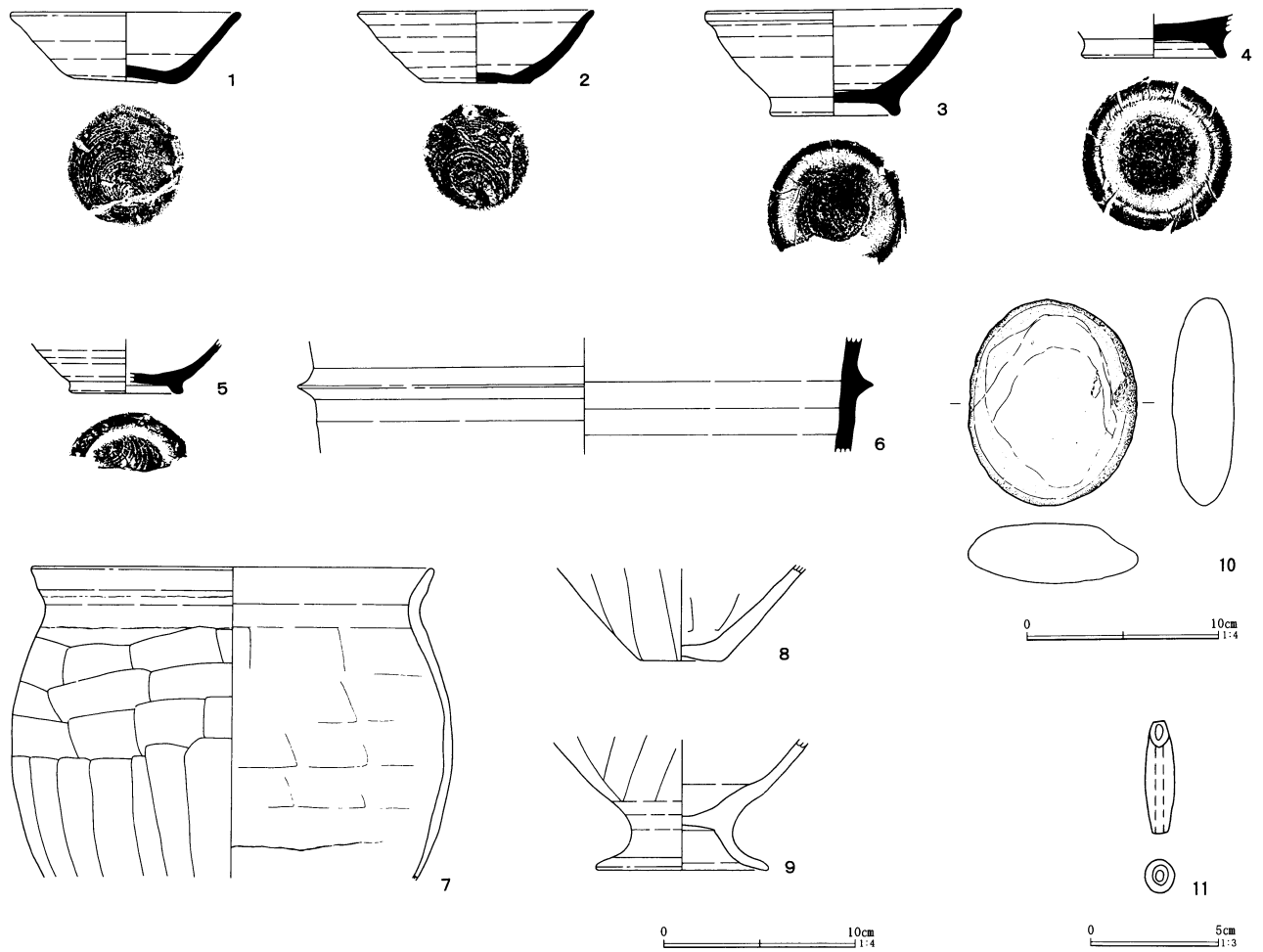
遺物は、須恵器杯・高台付碗・羽釜、土師器甕・台付甕、礫、土錘が出土した。



第115図 第52号住居跡



第116図 第53号住居跡



第117図 第53号住居跡出土遺物

第53号住居跡出土遺物観察表 (第117図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	11.8	3.7	5.2	A	普通	灰白	90	貼床下	底部右回転糸切り
2	須恵坏	12.6	3.8	5.4	ACF	普通	にぶい黄橙	90	カマド	底部右回転糸切り
3	須恵高台碗	(13.0)	5.5	6.3	AC	不良	淡黄	30	カマド	
4	須恵高台			7.1	ACG	普通	灰	95	貼床下	
5	須恵高台碗			(5.5)	ACGK	不良	淡黄	40	貼床下	
6	須恵羽釜				AFI	普通	灰黄	10	覆土	
7	土師甕	(20.7)			AF	良好	にぶい黄橙	50	貼床下	
8	土師甕			(4.3)	FJ	良好	黒褐	破片	カマド	底部のみ
9	土師台付甕				AF	良好	にぶい橙	40	覆土	
10	碟	長さ10.6 幅8.7 厚さ3.1				—	—	—	貼床下	
11	土錘	長さ(4.4)		径1.25 孔径0.3		普通	にぶい褐	90	貼床下	

第54号住居跡 (第118・119図)

Q-18グリッドに位置する。重複はせず第22・44号住居跡の下から確認された。規模は、主軸長南北3.47 m、東西4.83 m、深さ25cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-6°-Wを指す。

壁溝は、北壁のカマド以西と西壁・南壁の一部で確認され、幅16~27cm、深さ13~27cmを測る。

カマドは、北壁に設けられている。燃烧部は、108cm×90cm、深さ5cmを測り、煙道部は、長さ25cmが確認できた。

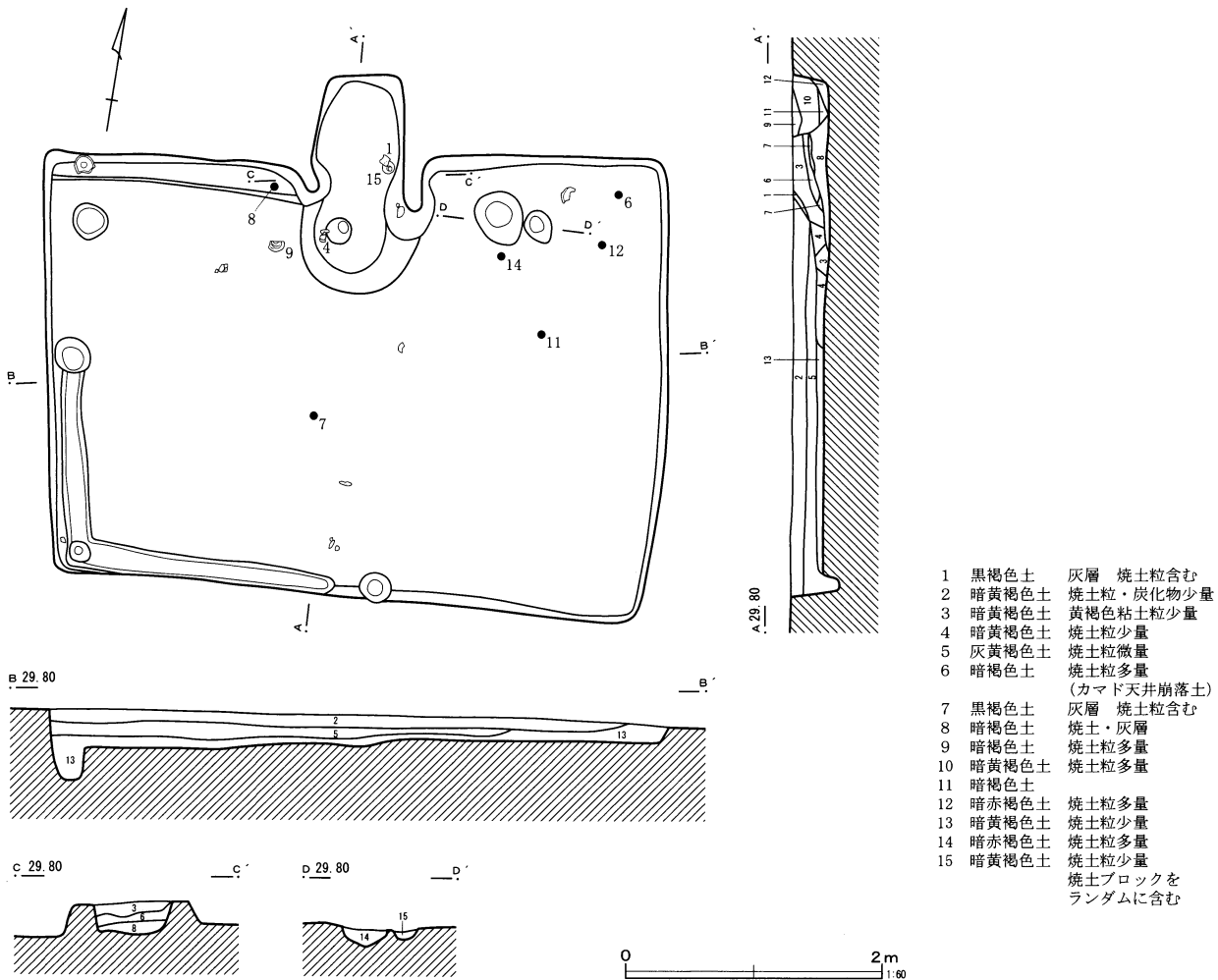
遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・高台付盤、灰釉陶器高台付碗が出土した。

第55号住居跡 (第120図)

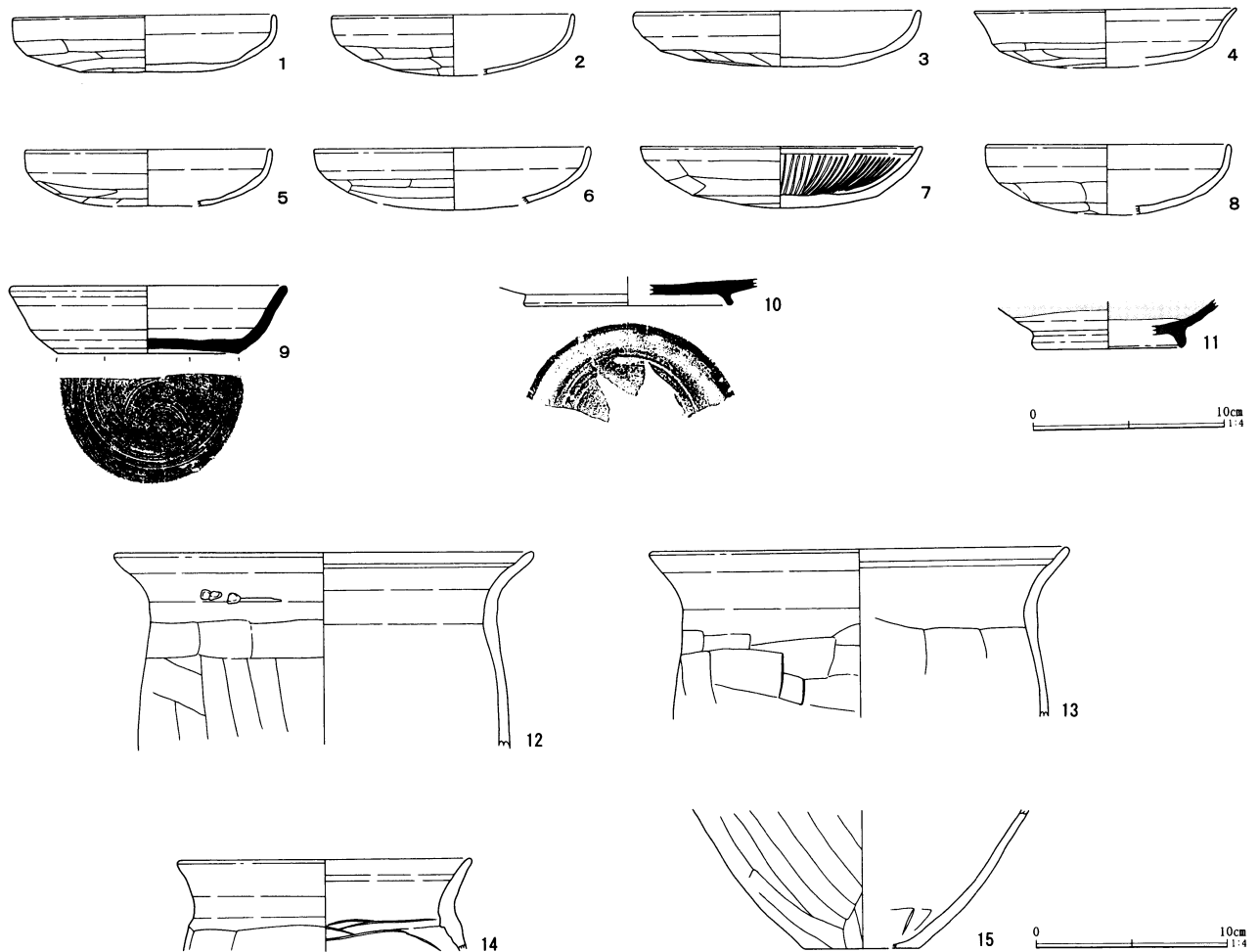
P・Q-11グリッドに位置する。第14・52号住居跡と重複し、第14号住居跡に上部が切られ、第52号住居跡を切ることから、第14号住居跡・当住居跡・第52号住居跡の順に古くなる。規模は、主軸長東西3.22 m、南北2.26 m、深さ35cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-59°-Eを指す。

壁溝は全周し、幅11~20cm、深さを3~4cmを測る。

カマド等の施設は、確認できなかった。



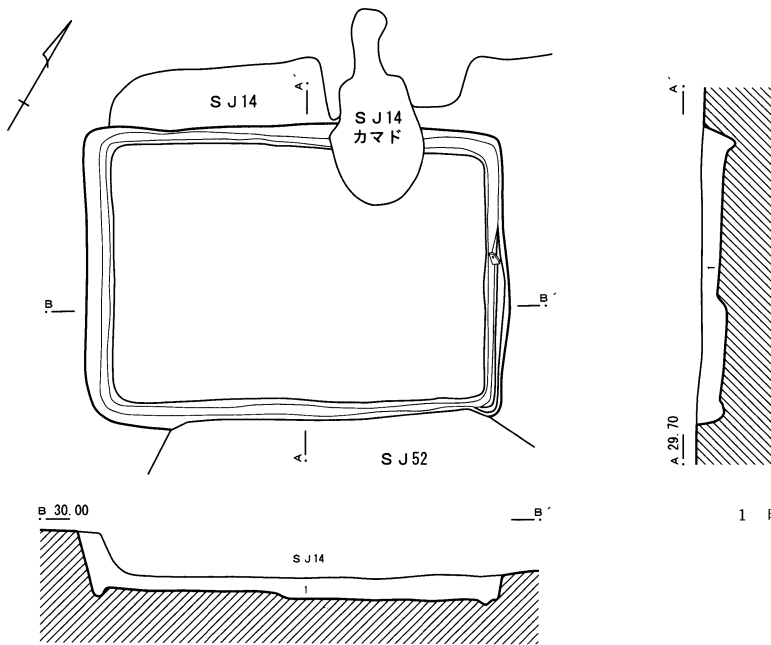
第118図 第54号住居跡



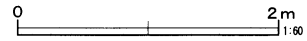
第119図 第54号住居跡出土遺物

第54号住居跡出土遺物観察表 (第119図)

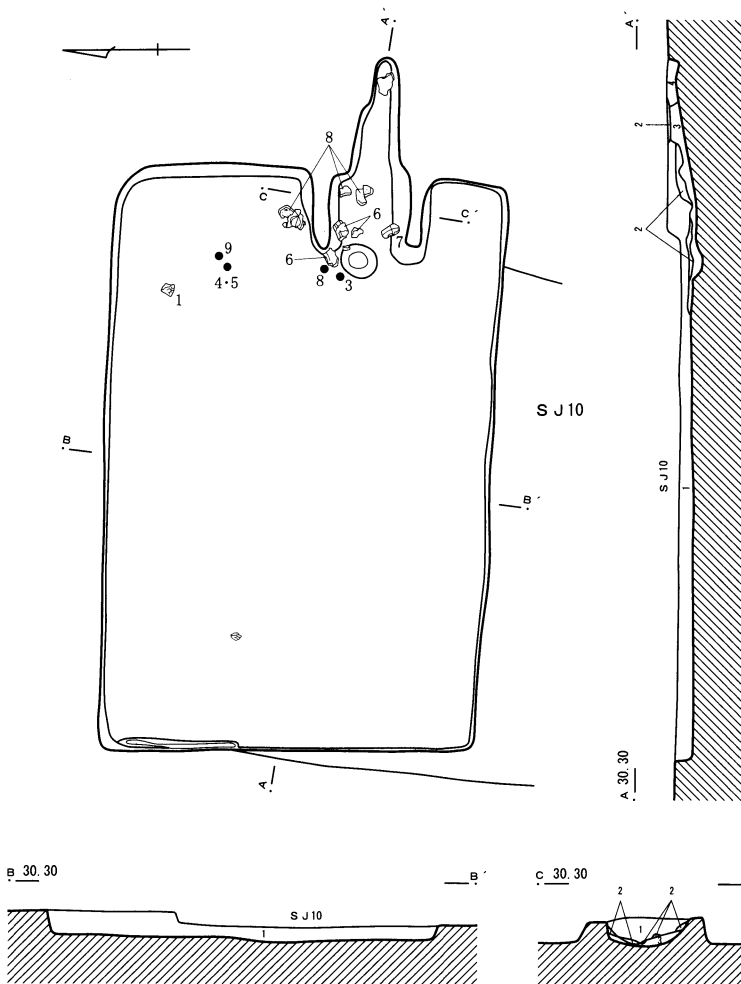
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師杯	(13.6)	3.0		A	普通	にぶい褐	60	カマド	
2	土師杯	(12.6)			A F	普通	橙	35	床下	
3	土師杯	(14.8)	2.9		B C	良好	にぶい橙	25	床下	
4	土師杯	(13.6)			A B	普通	橙	40	カマド	
5	土師杯	(12.7)			A G	普通	にぶい黄橙	25	覆土	口縁部内面横ナデ
6	土師杯	(14.2)			A B C F	普通	橙	15	床直	
7	土師杯	14.6	3.2		A C F	良好	橙	80	覆土	暗文土器
8	土師杯	(12.6)			A B C F	良好	にぶい橙	25	床直	
9	須恵杯	(14.3)	3.5	9.5	A C J	良好	灰白	55	床直	糸切り後周辺右回転ヘラ削り
10	須恵高台盤			(10.8)	A F	良好	灰	35	覆土	
11	灰釉高台碗			(7.7)	G	良好	灰白	10	覆土	底部高台内ヘラ削り 施釉ツケガケ 内面重ね 焼き痕あり 東濃産
12	土師甕	(21.7)			A B F	普通	にぶい黄褐	20	覆土	
13	土師甕	(21.6)			A B G	良好	にぶい橙	20	覆土	口縁部一部に油煙付着
14	土師甕	(15.2)			A B	良好	橙	30	覆土	
15	土師甕			(6.0)	B	良好	にぶい褐	20	カマド	



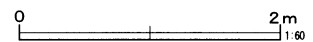
1 暗灰褐色土 暗黄褐色土ブロックを含む (埋め戻し)
灰色粘土



第 120 図 第 55 号住居跡



1 暗灰褐色土 焼土粒微量
2 暗灰褐色土 焼土ブロック多量 (カマド天井崩落土)
3 黒褐色土 灰層
4 暗褐色土 焼土粒少量



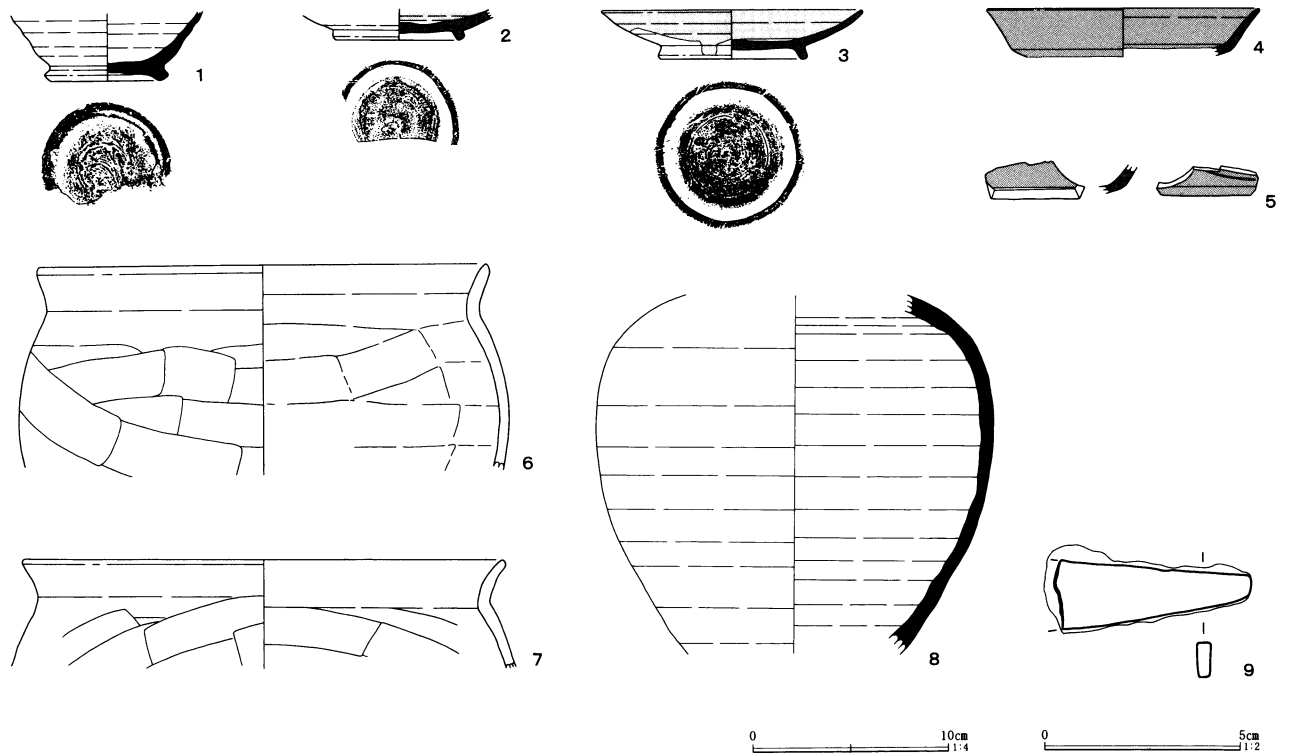
第 121 図 第 56 号住居跡

第56号住居跡 (第121・122図)

N-11・12グリッドに位置する。第10号住居跡と重複し、南半上部が切られることから、当住居跡が古い。規模は、主軸長東西4.43m、南北2.94m、深さ19cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-96°-Eを指す。

カマドは、東壁南寄りに設けられている。燃焼部は、82cm×62cm、深さ8cmを測り、煙道部は長さ88cmが確認できた。

遺物は、須恵器高台付坏・長頸瓶、灰釉陶器高台付皿、土師器甕、緑釉陶器稜塊の他に鉄製品が出土した。9は用途不明の鉄製品である。現存長5.1cm、最大幅1.8cmである。先細りの形状から、刃物の茎先の可能性もある。



第122図 第56号住居跡出土遺物

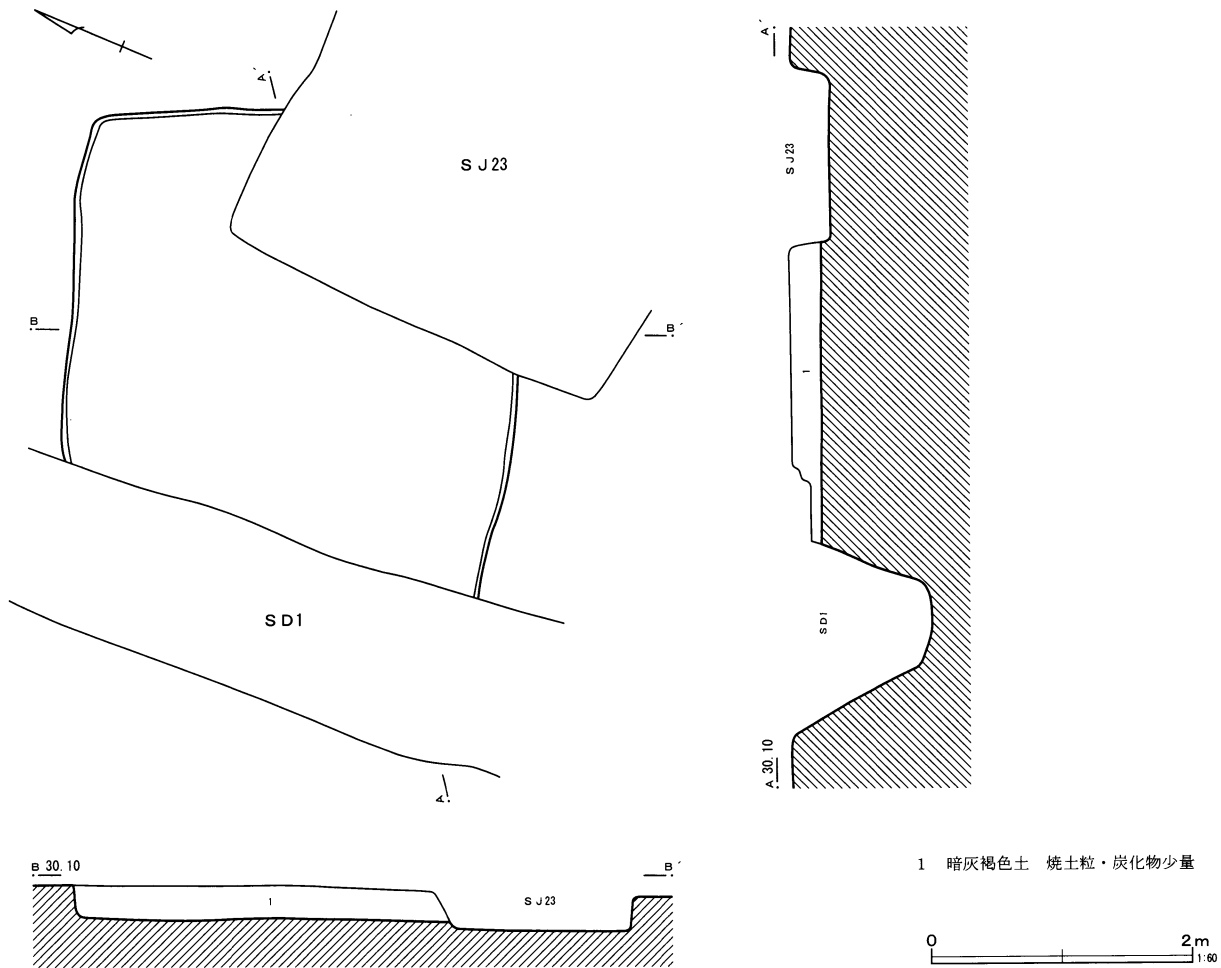
第56号住居跡出土遺物観察表 (第122図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台坏			(5.5)	ACJK	普通	灰白	30	床直	
2	灰釉高台皿			(6.1)	ACG	良好	灰	20	カマド	底部高台内へラ削り 施釉ツケガケ 東濃産
3	灰釉高台皿	(13.2)	2.5	7.3	AGJ	良好	灰黄	70	覆土	底部高台内へラ削り 施釉ツケガケ 東濃産
4	緑釉稜塊	(13.8)			G			破片	床直	猿投産
5	緑釉稜塊				G			破片	床直	猿投産
6	土師甕	(22.8)			ABF	普通	橙	30	カマド	
7	土師甕	(24.4)			ABFJ	普通	橙	15	カマド	
8	須恵長頸瓶				AJ	良好	灰褐	20	カマド	胴部

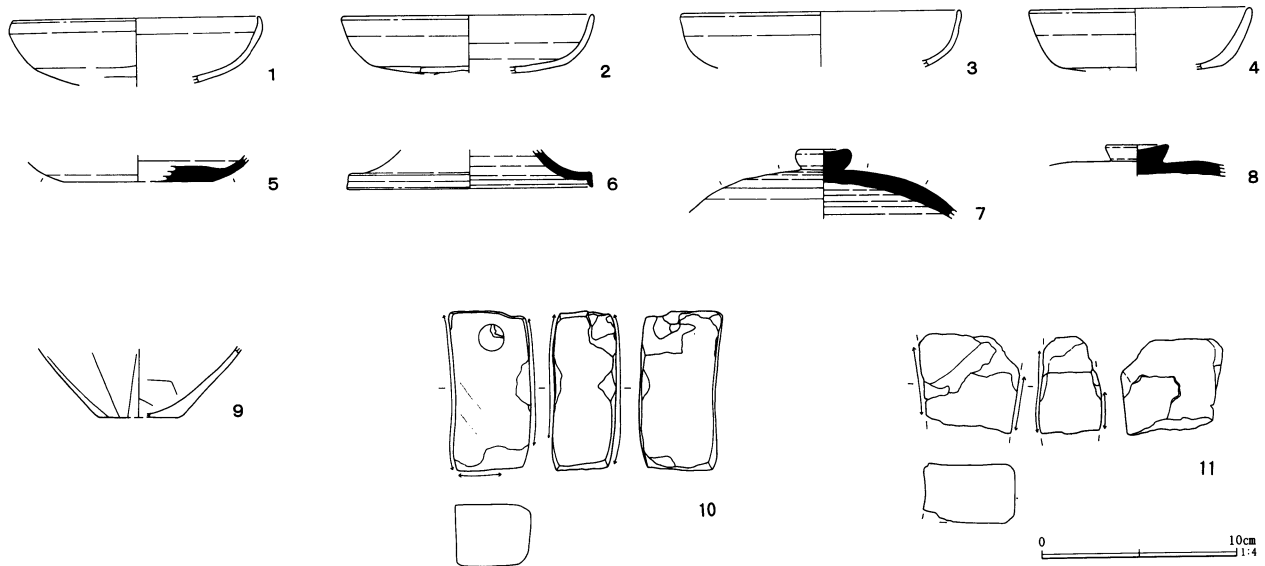
第58号住居跡 (第123・124図)

P・Q-20グリッドに位置する。第23号住居跡・第1号溝と重複し、住居跡に南東隅が、溝に西壁側

が切られ、住居跡・溝より当住居跡が古い。規模は、確認できた主軸長東西3.14 m、南北3.45 m、深さ26cm程を測る。平面形は、方形を呈すると推定さ



第123図 第58号住居跡



第124図 第58号住居跡出土遺物

第 58 号住居跡出土遺物観察表 (第 124 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.6)			A B C G	普通	褐	15	覆土	体部下端～底部右回転ヘラ削り
2	土師坏	(12.8)			A D F	普通	橙	15	覆土	
3	土師坏	(14.2)			A B	普通	にぶい橙	15	覆土	
4	土師坏	(11.3)			C D	普通	にぶい黄橙	15	覆土	
5	須恵埴			(7.6)	A G	普通	灰白	20	覆土	
6	須恵高盤			(12.4)	A G H	良好	灰	10	覆土	
7	須恵蓋				A B C E H	普通	褐灰	20	覆土	
8	須恵蓋				A C H	普通	灰	40	覆土	
9	土師甕			(4.0)	A B	普通	明赤褐	30	覆土	
10	砥石	長さ8.1 幅3.9 厚さ3.2						—	覆土	5面使用
11	砥石	長さ(4.8) 幅(5.3) 厚さ3.0						—	覆土	4面使用

れる。主軸方位は、N-73°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器埴・蓋・高盤の他砥石が出土した。

第 59 号住居跡 (第 125・126 図)

P・Q-19・20グリッドに位置する。第36・65号住居跡・第1号溝と重複し、2軒の住居跡・溝に切られており、当住居跡がもともと古い。規模は、主軸長南北3.72m、東西5.00m、深さ26cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-50°-Wを指す。

壁溝は、カマドの両側を除き全周し、幅22～35cm、深さ14～27cmを測る。

カマドは、北壁やや東寄りに設けられている。燃烧部は、161cm×75cm、深さ11cmを測る。煙道部は、長さ95cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・甕・台付甕、礫の他鉄製品が出土した。19は鉄製鐺である。大きさは5.0×4.1cm、厚さは0.3cmである。透のない無窓鐺である。20は板状の鉄製品である。厚さは0.5cm。鋳造品と考えられる。

第 65 号住居跡 (第 125・127 図)

Q-19・20グリッドに位置する。第36・59号住居跡・溝と重複し、第36号住居跡に切られ、第59号住居跡を切っていることから、第36号住居跡・

第65号住居跡・第59号住居跡の順に古くなる。規模は、確認できた南壁3.00mで、他は不明である。南壁に直行する軸を主軸方向とすると方位は、N-2°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、須恵器坏・蓋が出土した。

第 61 号住居跡 (第 128・129 図)

P・Q-20グリッドに位置する。第23号住居跡と重複し、東半上部が切られている。規模は、主軸長東西3.72m、南北2.22m、深さ9cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-88°-Eを指す。

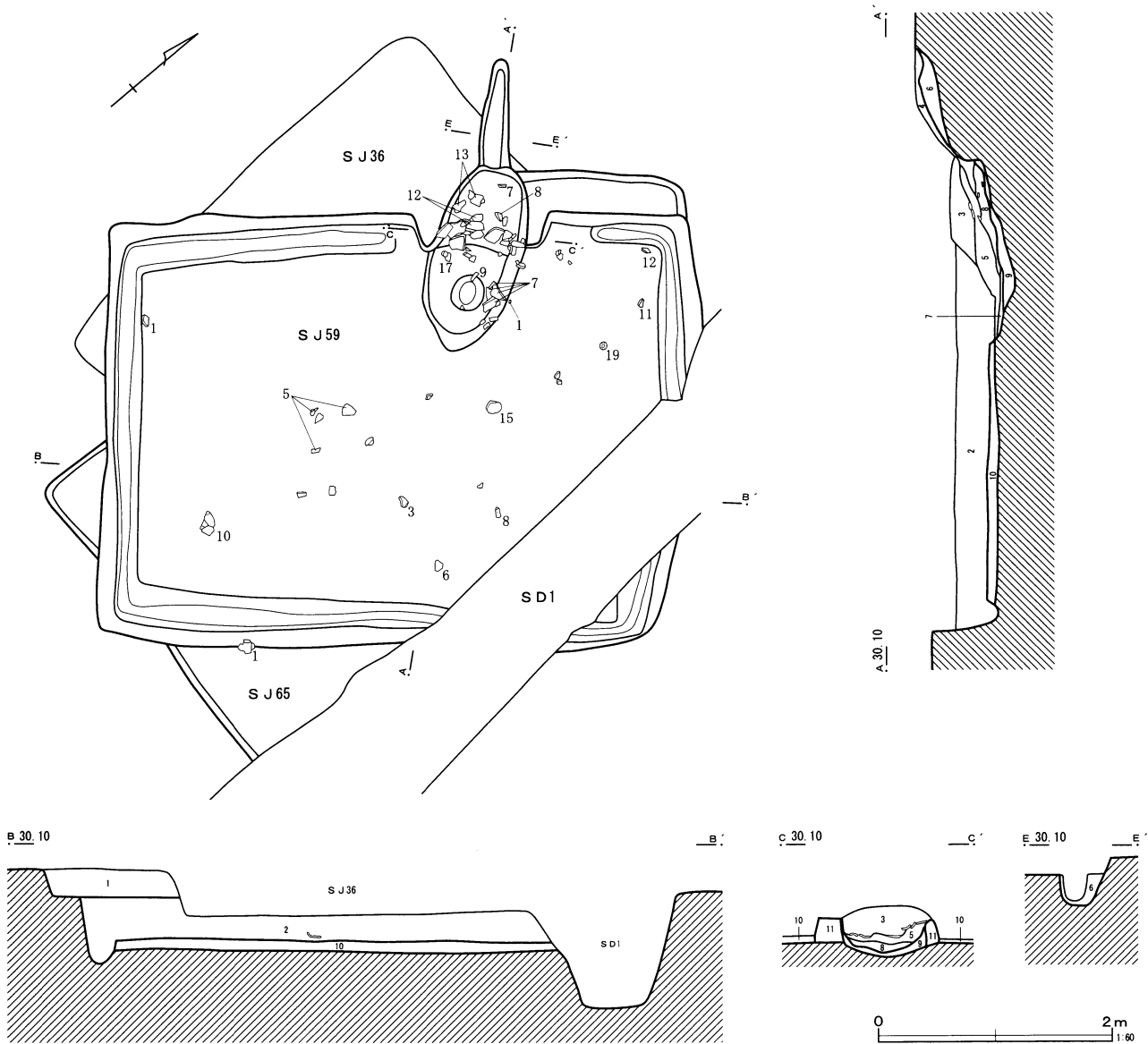
カマドは、東壁やや北寄りに設けられている。燃烧部は、32cm×37cmで、床面と同じ高さである。

遺物は、土師器坏が出土した。

第 62 号住居跡 (第 130・131 図)

P-20グリッドに位置する。北側は調査区域外で、第73号住居跡・第1号溝と重複している。溝に切られ、住居跡を切っていることから、溝・当住居跡・第73号住居跡の順に古くなる。規模は、確認できた主軸長東西3.40m、確認できた南北2.54m、深さ22cm程を測る。平面形は、長方形を呈すると推定される。主軸方位は、N-87°-Eを指す。

カマドは、東壁南寄りに設けられている。燃烧部は、114cm×55cm、深さ9cmを測る。カマド前面の



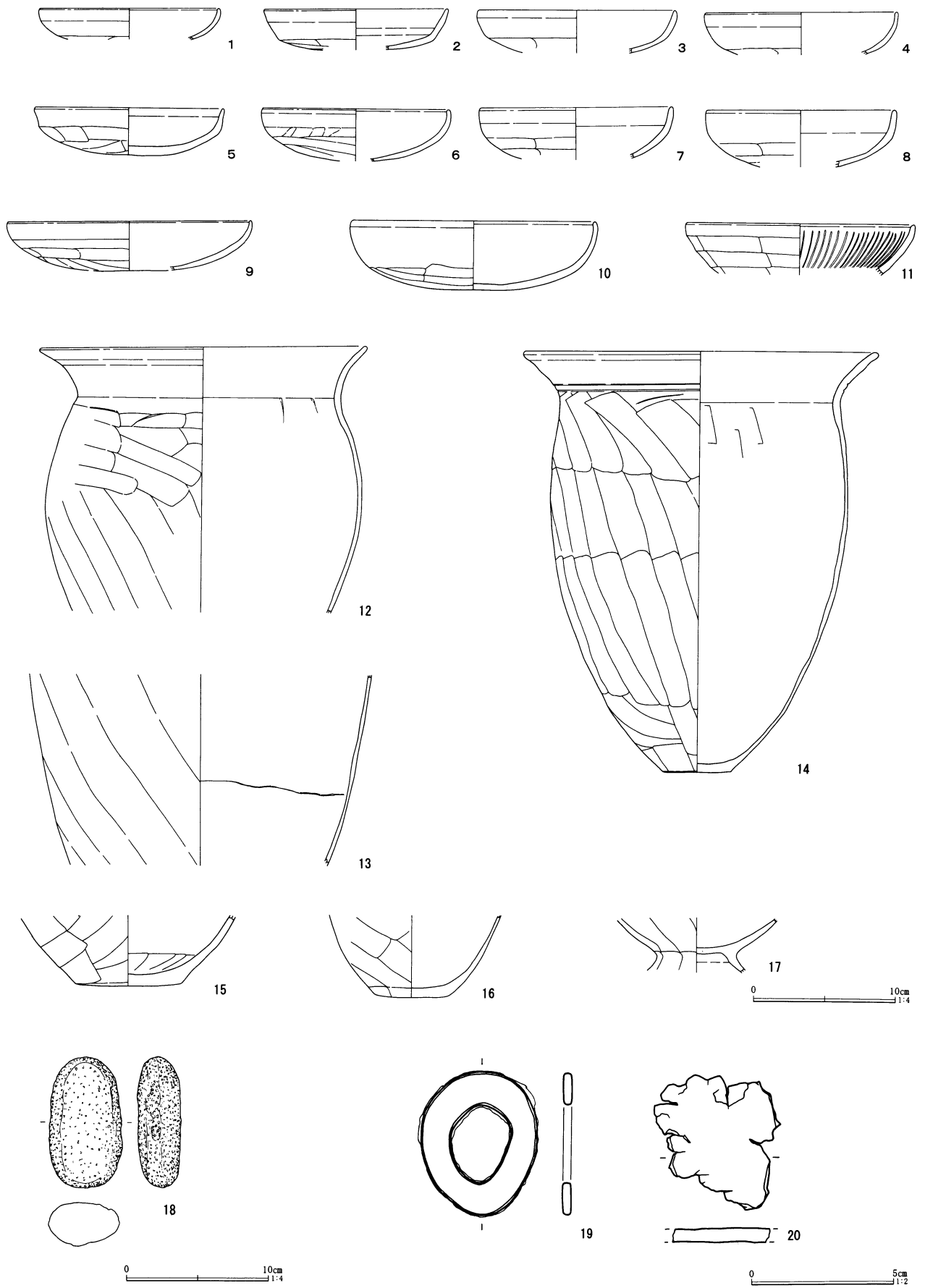
第59・65号住居跡

- | | | | |
|---------|------------------------|----------|-------------------------------------|
| 1 暗褐色土 | 焼土粒・粘土粒含む (S J 65覆土) | 6 暗褐色土 | 焼土粒微量 (カマド掘り方埋土) |
| 2 暗灰色土 | 灰色粘土主体 | 7 暗灰色土 | 灰色粘土主体 |
| 3 暗灰褐色土 | 灰白色粘土斑状 (カマド天井崩落土) | 8 灰層 | 灰層 |
| 4 暗赤褐色土 | 焼土粒・焼ブロック多量 (カマド天井崩落土) | 9 暗褐色土 | 焼土粒・焼土ブロック・炭化物・暗灰褐色土ブロック含む (カマド掘り方) |
| 5 暗褐色土 | (カマド天井崩落土) | 10 暗褐色土 | 暗黄褐色土ブロック・灰色粘土の混土層 (貼り床) |
| | | 11 暗黄褐色土 | 暗黄褐色土・灰色粘土・暗褐色土の混土層 |

第125図 第59・65号住居跡

第59号住居跡出土遺物観察表 (第126図)

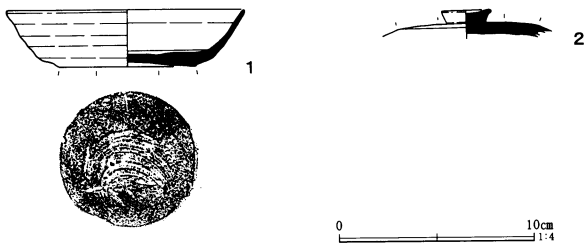
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.6)			AC	普通	にぶい黄褐	10	カマド	
2	土師坏	(12.8)			ABC	普通	橙	15	覆土	
3	土師坏	(13.7)			ABC	普通	にぶい褐	20	覆土	
4	土師坏	(13.4)			ABC	普通	橙	15	カマド	
5	土師坏	13.1	3.4		ABC	普通	褐	90	床直	口唇部に一部油煙
6	土師坏	(13.0)			ABG	良好	にぶい橙	40	覆土	内面全面横ナデ
7	土師坏	13.4			ABCG	普通	にぶい黄褐	50	カマド	口縁部内外面横ナデ
8	土師坏	(13.2)			ABC	普通	橙	15	カマド	内面に油煙多く付着
9	土師坏	(17.0)			AC	良好	褐	30	カマド	口縁部内外面横ナデ 外面に黒斑



第 126 图 第 59 号住居跡出土遺物

第59号住居跡出土遺物観察表 (第126図)

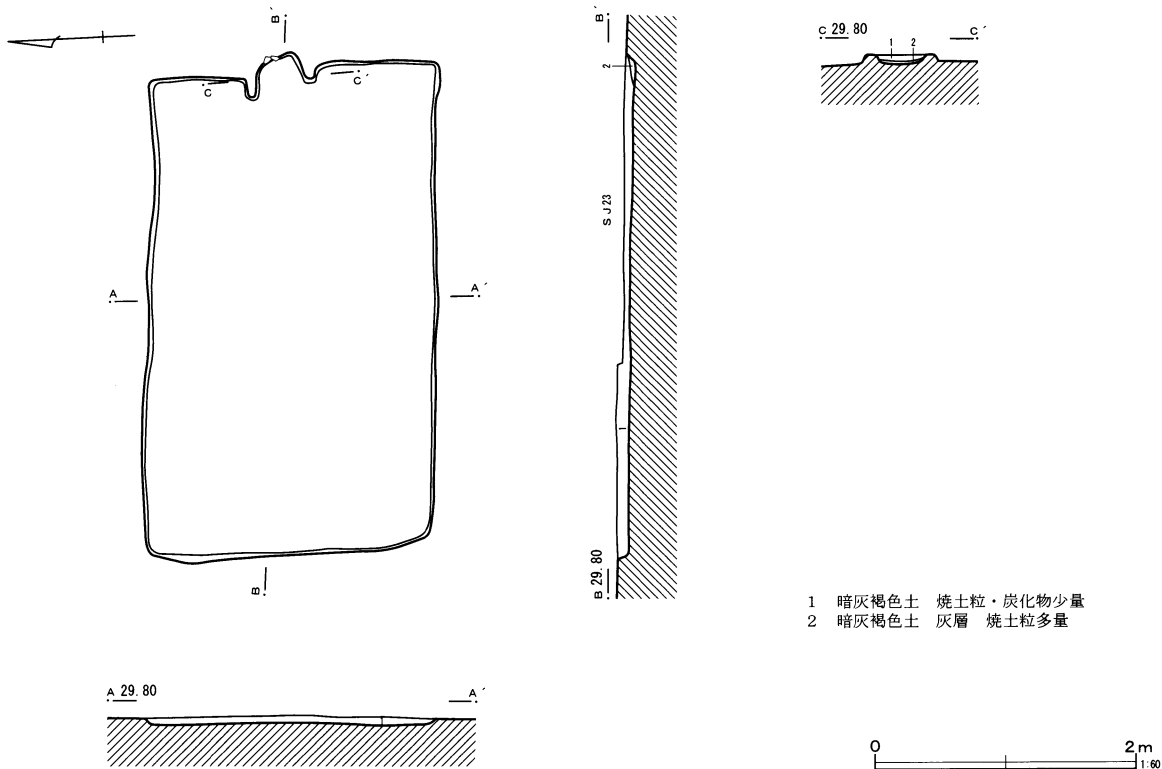
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
10	土師坏	(17.0)	4.9		AB	普通	にぶい赤褐	60	床直	
11	土師坏	(15.9)			ABC F	良好	橙	40	覆土	暗文土器 内面口縁一部器面が剥離
12	土師甕	22.7			AB	良好	橙	60	カマド	口縁部内外面横ナデ
13	土師甕				AB	良好	褐灰	50	カマド	胴部
14	土師甕	24.7	29.7	(4.8)	ADF	良好	にぶい橙	90	カマド	
15	土師甕			7.4	CF G	良好	にぶい黄橙	70	覆土	底部静止一方向ヘラ削り
16	土師甕			5.0	AC F	良好	褐	30	覆土	
17	土師台付甕				ABC	良好	橙	40	カマド	
18	礫	長さ9.2 幅5.0 厚さ3.0						-	覆土	



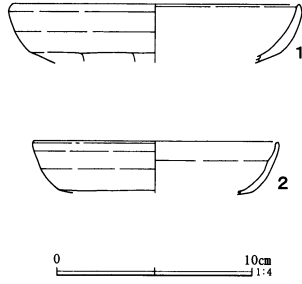
第127図 第65号住居跡出土遺物

第65号住居跡出土遺物観察表 (第127図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(12.1)	2.9	7.0	AG J	良好	灰	60	床直	底部糸切り後、周辺数回の回転ヘラ削り 内外面火燻痕
2	須恵蓋				A F H	良好	灰	40	覆土	つまみ径2.5cm 天井部右回転ヘラ削り



第128図 第61号住居跡



第129図 第61号住居跡出土遺物

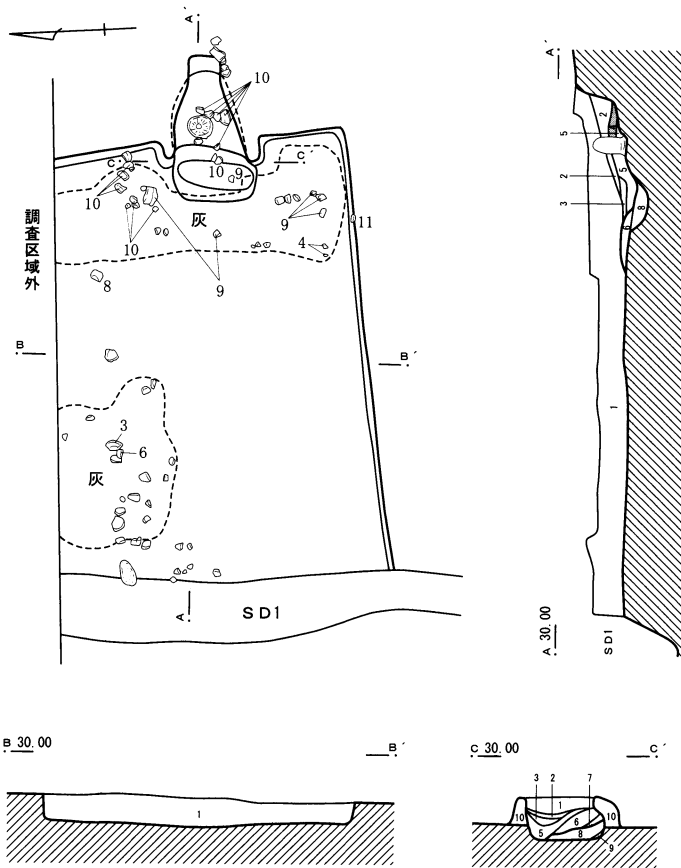
第61号住居跡出土遺物観察表 (第129図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師環	(14.6)			A B D F	普通	橙	10	覆土	
2	土師環	(12.4)			C	普通	灰黄褐	10	覆土	口縁部内面横ナデ

の住居跡東壁側と北西部に灰層が検出された。

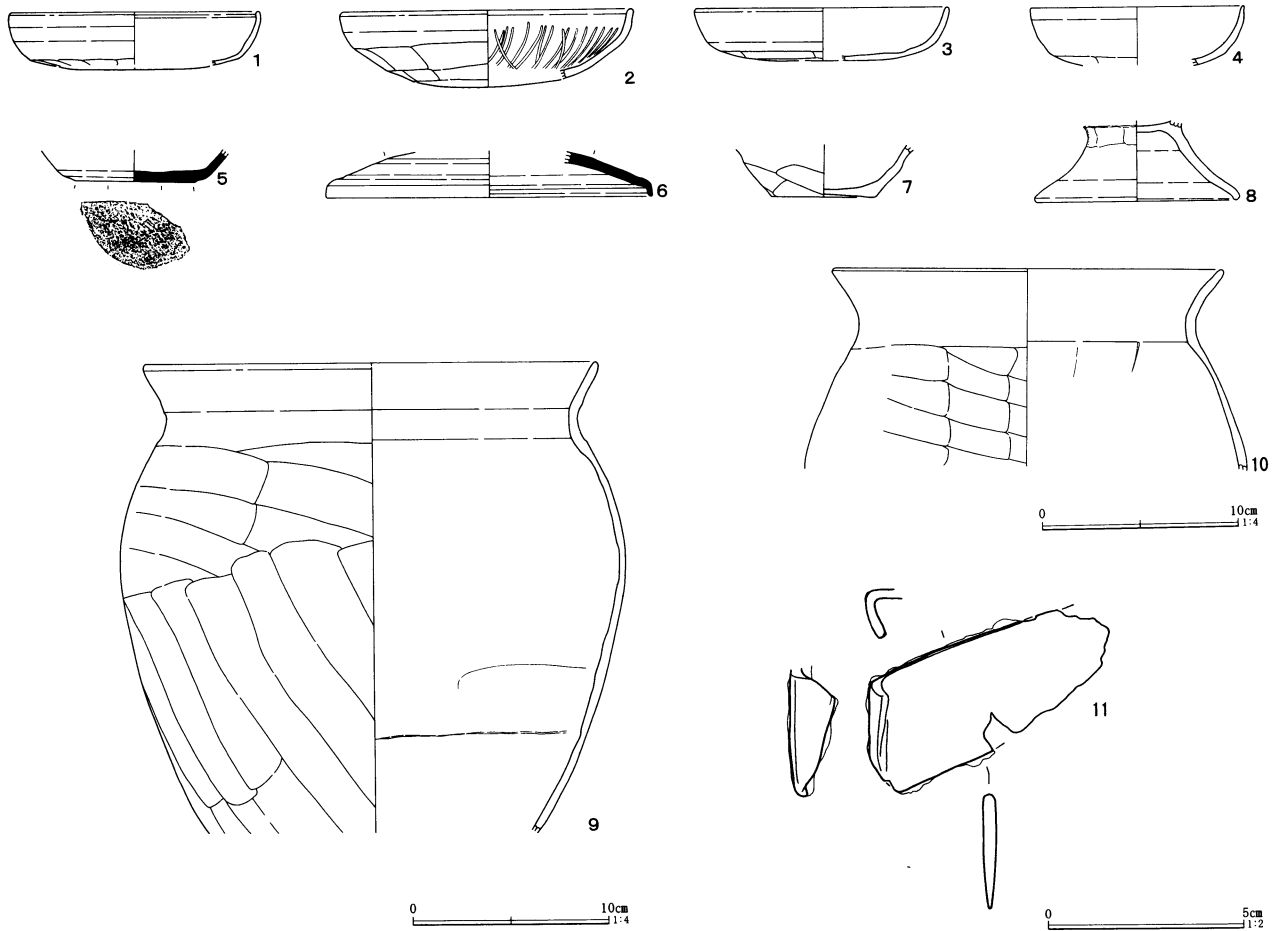
遺物は、土師器環・甕・台付甕、須恵器環・蓋の他に鉄製品が出土した。11は鉄製鎌である。刃部

の大半を失っている。現存長6.9cm、幅2.9cmである。柄装着部は大きく屈曲している。



- 1 暗灰褐色土 焼土粒少量
- 2 暗褐灰色土 焼土粒・焼土ブロック少量
- 3 黒色土 灰層 焼土粒・炭化物多量
- 4 赤褐色土 焼土ブロック主体 (カマド天井崩落土)
- 5 暗灰褐色土 炭化物・灰微量 粘土質
- 6 黒灰褐色土 焼土粒・炭化物・灰含む (カマド掘り方)
- 7 灰褐色土 暗褐色土多量
- 8 暗灰褐色土 粘土質 (カマド掘り方)
- 9 暗褐色土 粘土質 焼土粒・炭化物微量
- 10 暗灰黄褐色土 粘土質 暗褐色土・暗黄褐色土の混土層 (カマド構築土)

第130図 第62号住居跡



第131図 第62号住居跡出土遺物

第62号住居跡出土遺物観察表 (第131図)

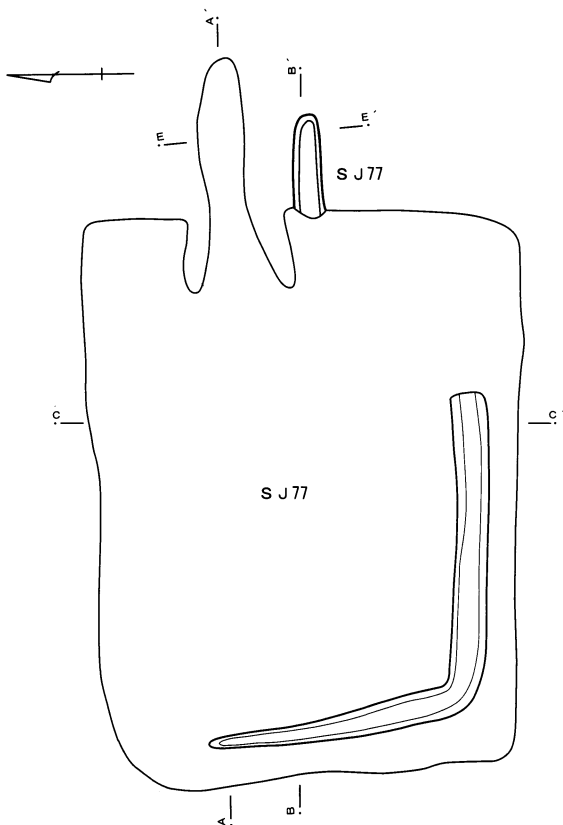
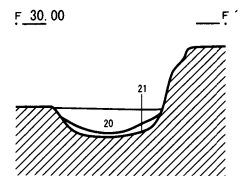
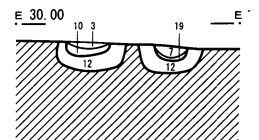
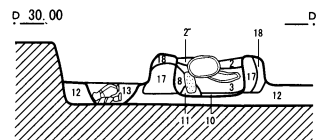
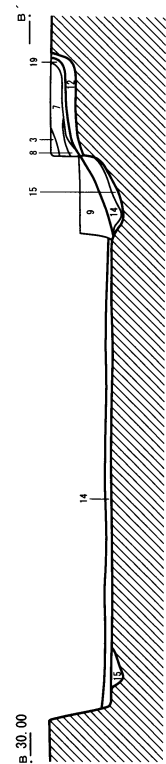
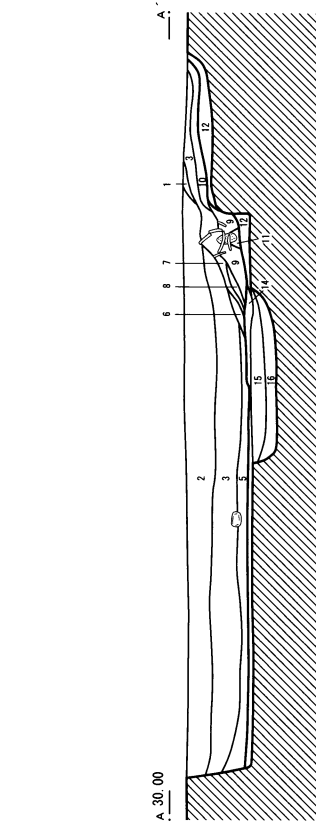
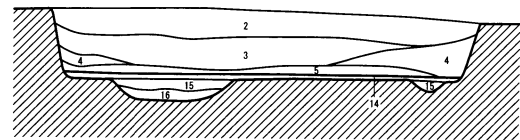
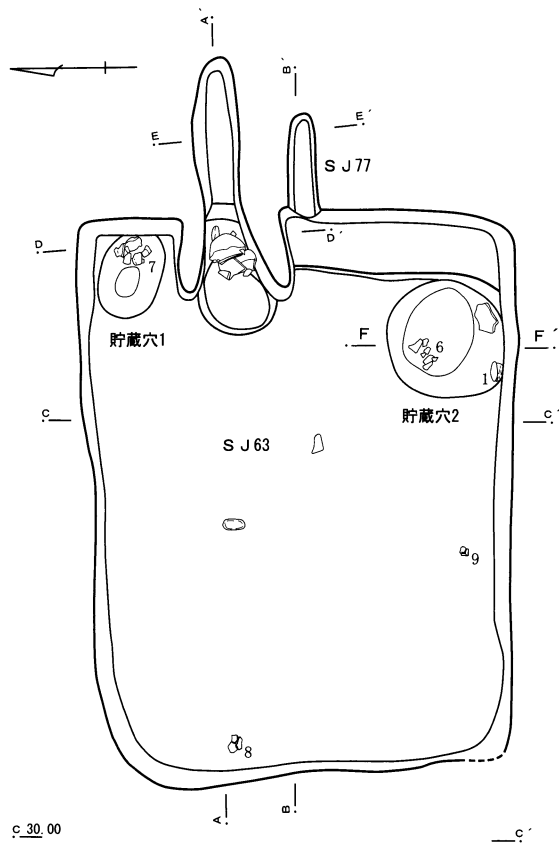
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.7)			BC	良好	橙	10	覆土	
2	土師坏	(14.7)			ACF	良好	橙	10	覆土	暗文土器
3	土師坏	(12.8)			AB	普通	明褐	25	覆土	
4	土師坏	(10.9)			ABC	普通	にぶい黄褐	20	覆土	口縁部外面~体部内面横ナデ
5	須恵坏			(6.0)	A	良好	灰	20	覆土	底部糸切後右回転ヘラ削り
6	須恵蓋	(16.5)			ACGH	良好	灰	10	覆土	天井部右回転ヘラ削り
7	土師甕			5.3	BG	良好	にぶい黄橙	40	覆土	
8	土師台付甕			10.2	ABF	良好	にぶい赤褐	70	床直	内外面ロクロナデ
9	土師甕	(22.8)			ABG	普通	橙	40	カマド	
10	土師甕	(19.7)			ABFG	普通	にぶい橙	25	カマド	

第63号住居跡 (第132・133図)

Q-20・21グリッドに位置する。第77号住居と重複し、切っている。規模は、主軸長東西4.34m、南北3.32m、深さ48cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-89°-Eを指す。

貯蔵穴1は、北西隅に設けられ、軸長64cm×48cmの楕円形で、深さ38cmを測る。貯蔵穴2は、南東隅に設けられ、径90cm×88cmの円形で、深さ67cmを測る。

カマドは、東壁で北に片寄って設けられている。



第63・77号住居跡

- 1 赤褐色土 焼土層 (煙道天井の残存)
- 2 暗灰褐色土 白色粒・焼土ブロック・炭化物少量
- 3 暗灰褐色土 焼土ブロック・炭化物・黄褐色土粒少量
- 4 暗黄灰色土 焼土粒・炭化物少量
- 5 暗灰褐色土 焼土粒・炭化物少量 黄褐色土ブロック含む
- 6 暗灰褐色土 焼土粒・炭化物・灰含む
- 7 暗黄灰色土 黄褐色土主体 (カマド天井の盛土)
- 8 明赤褐色土 焼土層 (カマド天井崩落土)
- 9 暗灰褐色土 灰層 炭化物多量
- 10 暗灰褐色土 焼土粒少量
- 11 赤褐色土 焼土層 硬質 支脚固定の為の粘土ブロック
- 12 黄褐色土 粘土含む (カマド貼り床)
- 13 暗黄灰色土 焼土粒・炭化物少量 貯蔵穴覆土
- 14 暗灰褐色土 粘土含む (S J 63貼り床)
- 15 暗灰褐色土 焼土粒・灰多量
- 16 暗灰褐色土 灰褐色粘土多量
- 17 暗灰褐色土 灰白粘土多量 焼土粒・焼土ブロック・灰含む (貼り床)
- 18 暗灰褐色土 (カマド盛土) 焼土粒少量
- 19 暗黄灰色土 (カマド煙道の貼付部分)
- 20 暗灰褐色土 焼土ブロック多量 灰・黄褐色土含む 下層に炭化物含む
- 21 暗黄灰色土 焼土ブロック多量 炭化物・灰含む (掘り方)



第132図 第63・77号住居跡

燃焼部は、101cm × 53cm、深さは床面と同じである。

煙道部は、長さ111cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・甕・台付甕、須恵器坏・埴の他砥石が出土した。

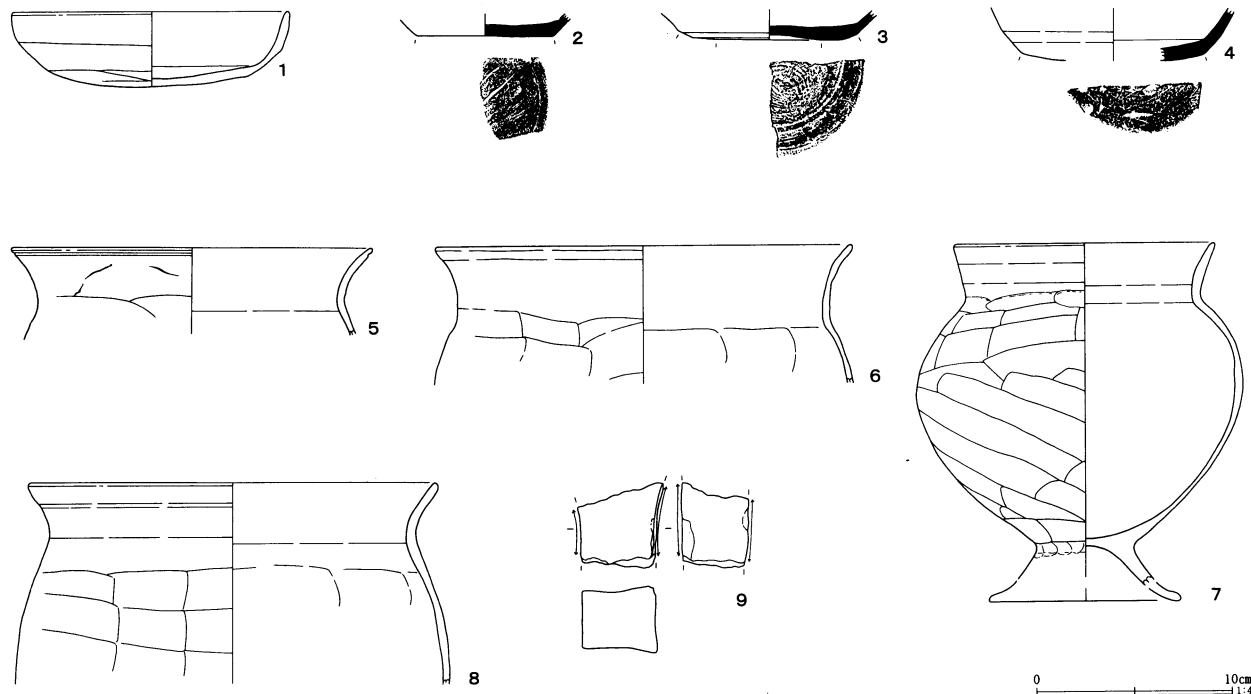
第77号住居跡（第132図）

P・Q-20・21グリッドに位置する。第63号住居跡に切られ、カマド煙道部と南壁・西壁の壁溝が

依存しているのみである。カマド主軸方位は、N-89°-Eを指す。

壁溝は、西壁と南壁の一部で検出し、幅15～25cm、深さ10cmを測る。

カマドは、東壁に設けられている。煙道部は78cmが確認できた。



第133図 第63号住居跡出土遺物

第63号住居跡出土遺物観察表（第133図）

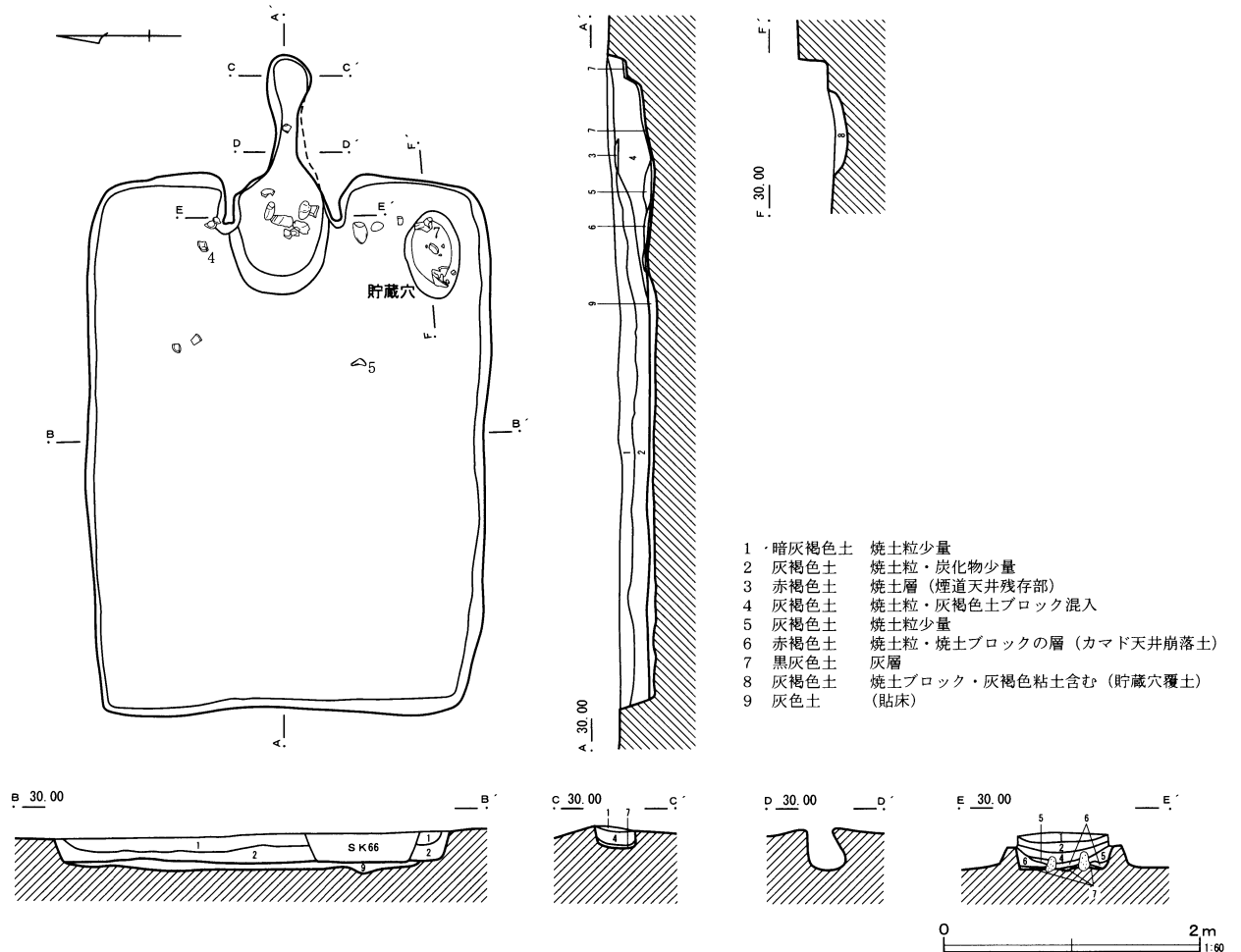
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	14.0	3.8	10.6	A B C D	良好	橙	100	貯蔵穴2	口縁部内面横ナデ 体部下半外面回転ヘラ削り
2	須恵坏			(7.0)	A H	普通	灰黄褐	25	覆土	底部回転ヘラ削り ヘラ描き
3	須恵埴			(7.7)	A C H	良好	灰	20	覆土	底部糸切後周辺右回転ヘラ削り
4	須恵埴			(9.4)	A H	良好	灰	20	カマド	底部回転ヘラ削り
5	土師甕	(18.2)			A B C	良好	橙	15	貯蔵穴	
6	土師甕	(21.0)			A B F	普通	橙	50	貯蔵穴2	
7	土師台付甕	13.1			A B F	普通	灰黄褐	80	貯蔵穴1	
8	土師甕	(20.6)			A B C F	普通	灰褐	25	覆土	
9	砥石	長さ(4.2) 幅(3.8~4.4) 厚さ(2.9~3.4)							覆土	凝灰岩 上下欠損 4面使用

第 64 号住居跡 (第 134・135 図)

Q-21・22 グリッドに位置する。第 66 号土坑と重複し、切られている。規模は、主軸長東西 4.18 m、南北 3.11 m、深さ 23cm 程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-91°-E を指す。

カマドは、東壁僅か北寄りに設けられている。燃焼部は、94cm × 75cm、深さ 7cm を測り、煙道部は長さ 92cm が確認できた。

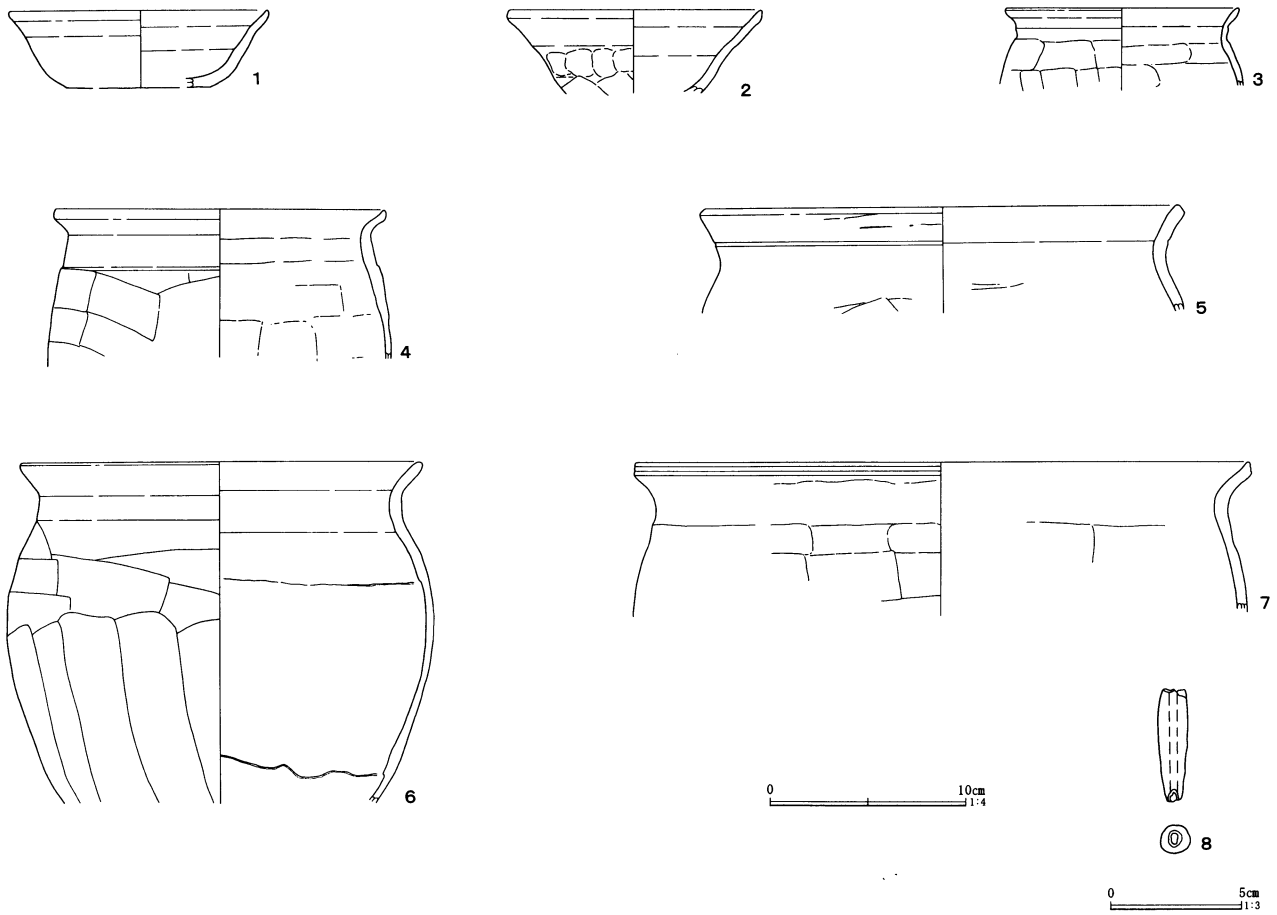
遺物は、土師器坏・甕の他土錘が出土した。



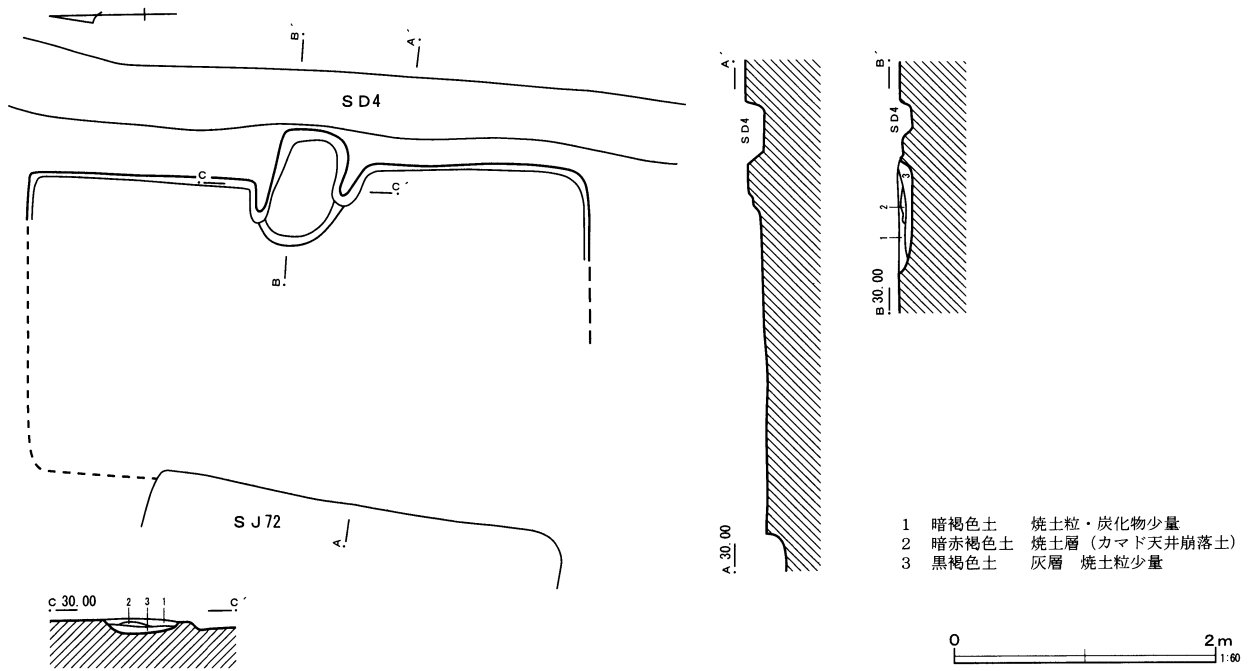
第 134 図 第 64 号住居跡

第 64 号住居跡出土遺物観察表 (第 135 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.3)	3.9	(9.0)	A C F	普通	橙	10	カマド	底部へラ削り 口縁外面~内面ロクロナデ
2	土師坏	(12.8)			A F	良好	橙	20	覆土	内面ロクロナデ
3	土師甕	(12.0)			A B F	普通	にぶい橙	30	覆土	
4	土師甕	(16.8)			A F G	普通	浅黄橙	25	覆土	
5	土師甕	(24.2)			A C J	普通	にぶい黄橙	30	覆土	
6	土師甕	(20.6)			A B E	普通	橙	50	覆土	胴部内面一部油煙付着
7	土師甕	(31.5)			A F	良好	にぶい黄褐	10	貯蔵穴	口縁部内外面ロクロナデ 胴部最上位外面へラ削り後指ナデ
8	土錘	長さ(4.25) 径1.21			A		暗灰黄	70	覆土	
		孔径0.38~0.45 重さ(5.8) g								



第135図 第64号住居跡出土遺物



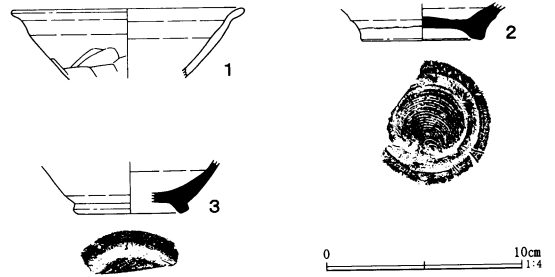
第136図 第66号住居跡

第66号住居跡 (第136・137図)

Q-14グリッドに位置する。第28・72号住居跡と重複し、2軒の住居跡に切られることから、当住居跡が古い。規模は、確認できた主軸長東西2.60m、東壁で南北4.32m、深さ12cm程を測る。平面形は、方形を呈すると推定される。主軸方位は、N-91°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃烧部は、90cm×53cm、深さ9cmを測る。

遺物は、土師器坏、須恵器高台付坏が出土した。



第137図 第66号住居跡出土遺物

第66号住居跡出土遺物観察表 (第137図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(11.9)			BFJ	普通	褐灰	15	カマド	内面ロクロ痕顕著
2	須恵高台坏			6.2	AC	良好	灰	80	カマド	
3	須恵高台坏			(5.2)	ACFJ	普通	にぶい黄	10	カマド	

第67号住居跡 (第138・139図)

N-12グリッドに位置する。第12・45・188号住居跡と重複している。西壁は、第12・45号住居に切れ、第188号住居跡上部を切っていることから、第45号住居跡・第45号住居跡・当住居跡・第188号住居跡の順に古くなる。規模は、主軸長東西は南壁で5.30m以上、南北4.00m、深さ23cm程を測る。平面形は、長方形を呈すると推定される。主軸方位は、N-97°-Eを指す。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃烧部は、121cm×100cm、深さ20cmを測り、煙道部は長さ187cmが確認できた。

遺物は、須恵器坏・高台付杯・高台付碗、土師器小型甕、緑釉陶器破片が出土した。

第68号住居跡 (第140・141図)

N・O-12グリッドに位置する。規模は、主軸長東西3.24m、南北2.34m、深さ26cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-98°-Eを指す。

カマドは、東壁南寄りに設けられている。燃烧部は、86cm×56cm、深さ5cmを測り、煙道部は

72cmが確認できた。

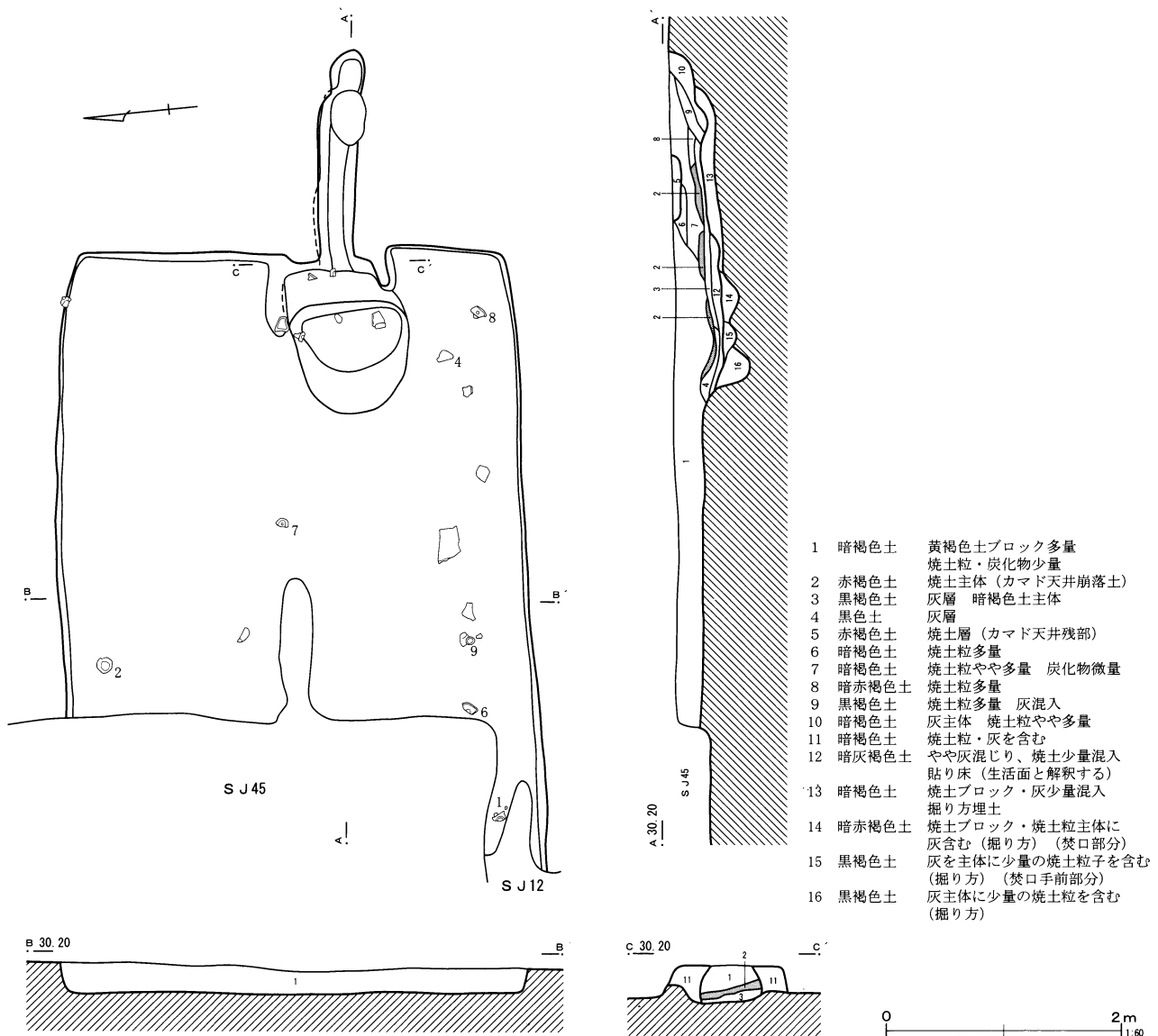
遺物は、須恵器坏・高台付碗、灰釉陶器高台付碗の他に鉄製品が出土した。6は鉄鏃である。鏃身部を欠失し、現存長は9.6cmである。関は角関である。

第69号住居跡 (第142・143図)

Q-14グリッドに位置する。第24・72号住居跡と重複し、北西隅は、第72号住居に壊されている。西壁の一部は第24号住居に切られている。2軒に切られることから、2軒よりも古い。規模は、主軸長東西3.01m、南北3.10m、深さ10cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-115°-Eを指す。

カマドは、東壁北寄りに設けられている。燃烧部は、62cm×57cm、深さ8cmを測る。

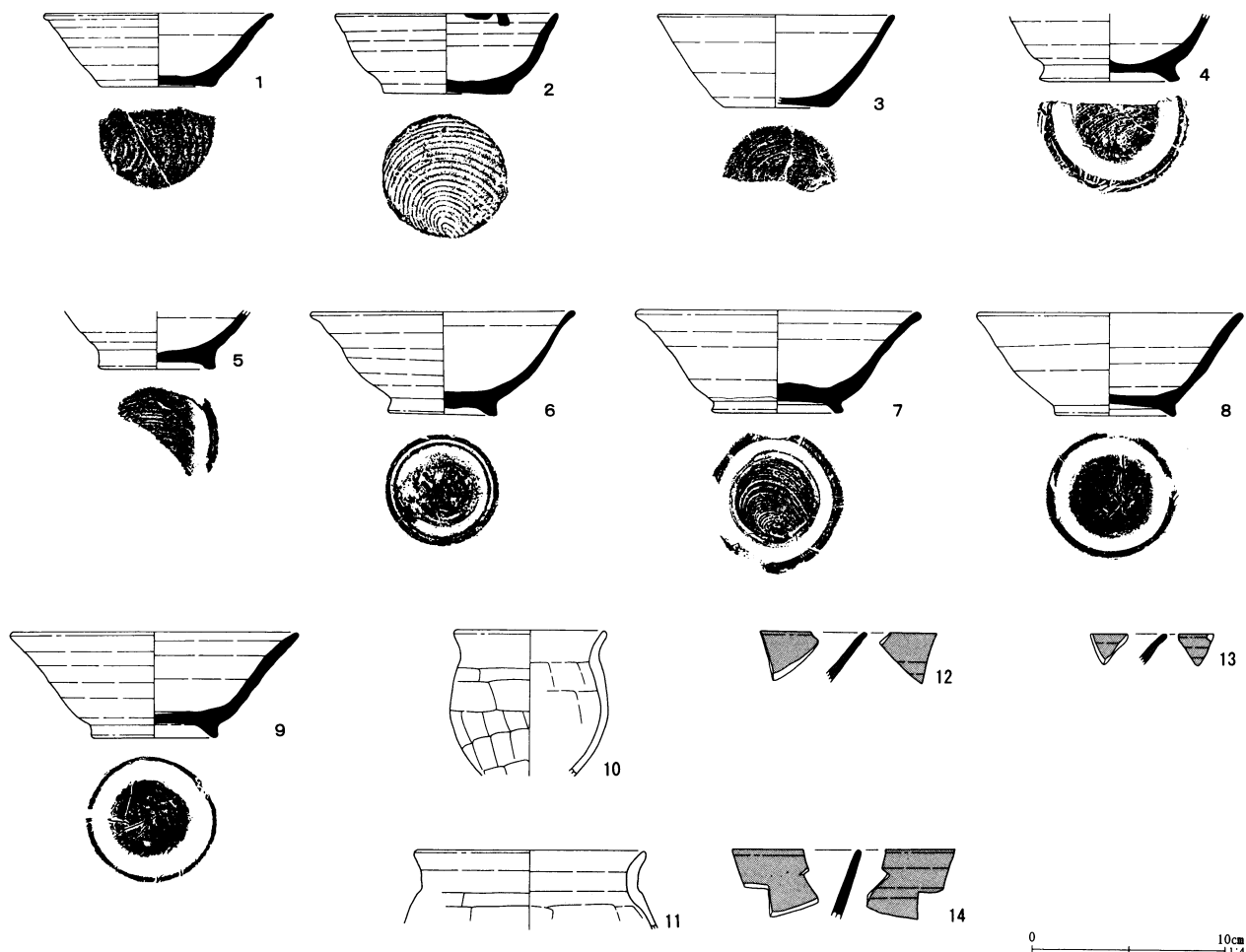
遺物は、須恵器坏・皿が出土した。



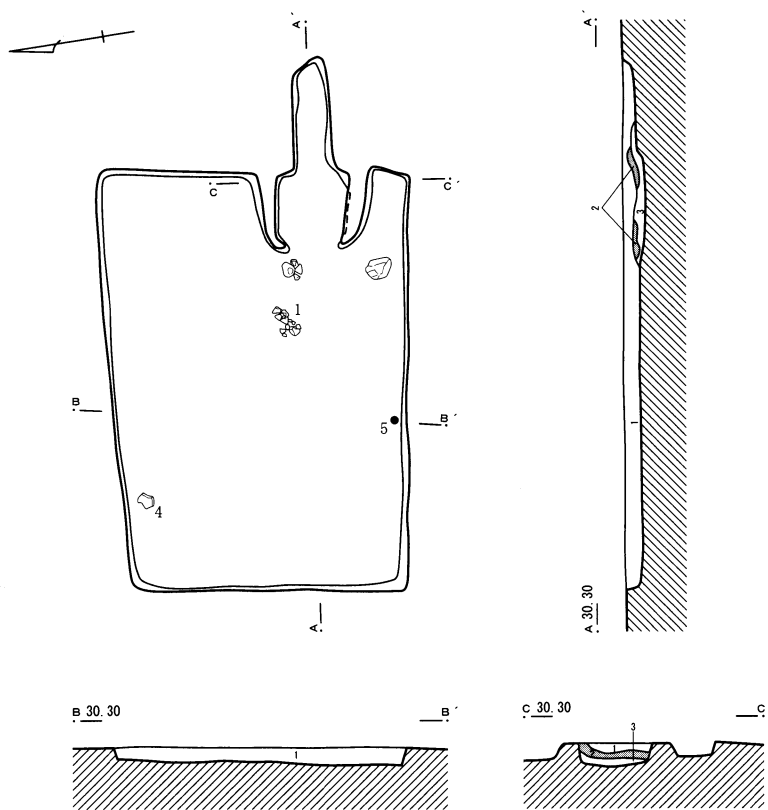
第138図 第67号住居跡

第67号住居跡出土遺物観察表 (第139図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(11.6)	3.8	5.9	F	不良	灰白	40	覆土	
2	須恵坏	11.4	4.2	6.4	A F	普通	灰黄	100	覆土	口縁部油煙付着 底部右回転糸切り
3	須恵坏	(12.1)	4.8	(5.5)	A B	普通	黄灰	30	覆土	
4	須恵高台埴			7.2	A G	良好	灰	30	覆土	
5	須恵高台埴			(6.1)	A B C	良好	黒	20	カマド	
6	須恵高台坏	13.5	5.3	5.5	A J K	普通	灰黄	90	覆土	底部右回転糸切り
7	須恵高台埴	(14.3)	5.3	6.6	C J	普通	灰	40	覆土	
8	須恵高台埴	13.5	5.3	6.1	A C F	不良	オリーブ黒	85	覆土	
9	須恵高台埴	(14.6)	5.4	(6.3)	A F	不良	灰黄	30	覆土	底部回転糸切り
10	土師小形甕	(7.7)			A F J	普通	灰黄褐	15	覆土	
11	土師小形甕	(11.7)			A B J	普通	にぶい橙	20	覆土	
12	緑釉陶器					—	破片	覆土	猿投産	
13	緑釉陶器					—	破片	覆土	猿投産	
14	緑釉陶器					—	破片	覆土	猿投産	

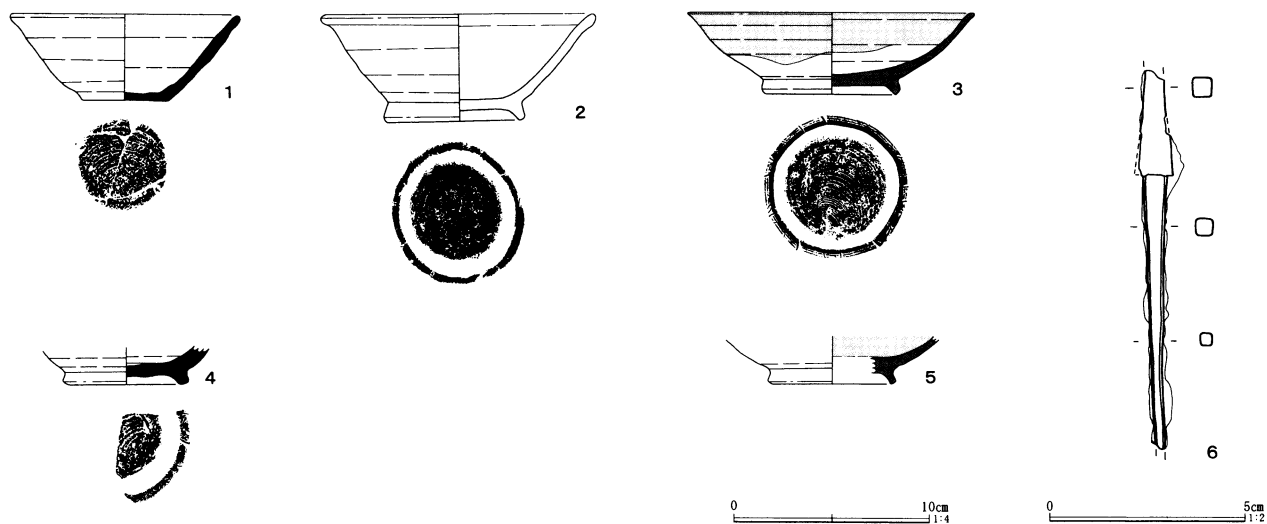


第139図 第67号住居跡出土遺物



第140図 第68号住居跡

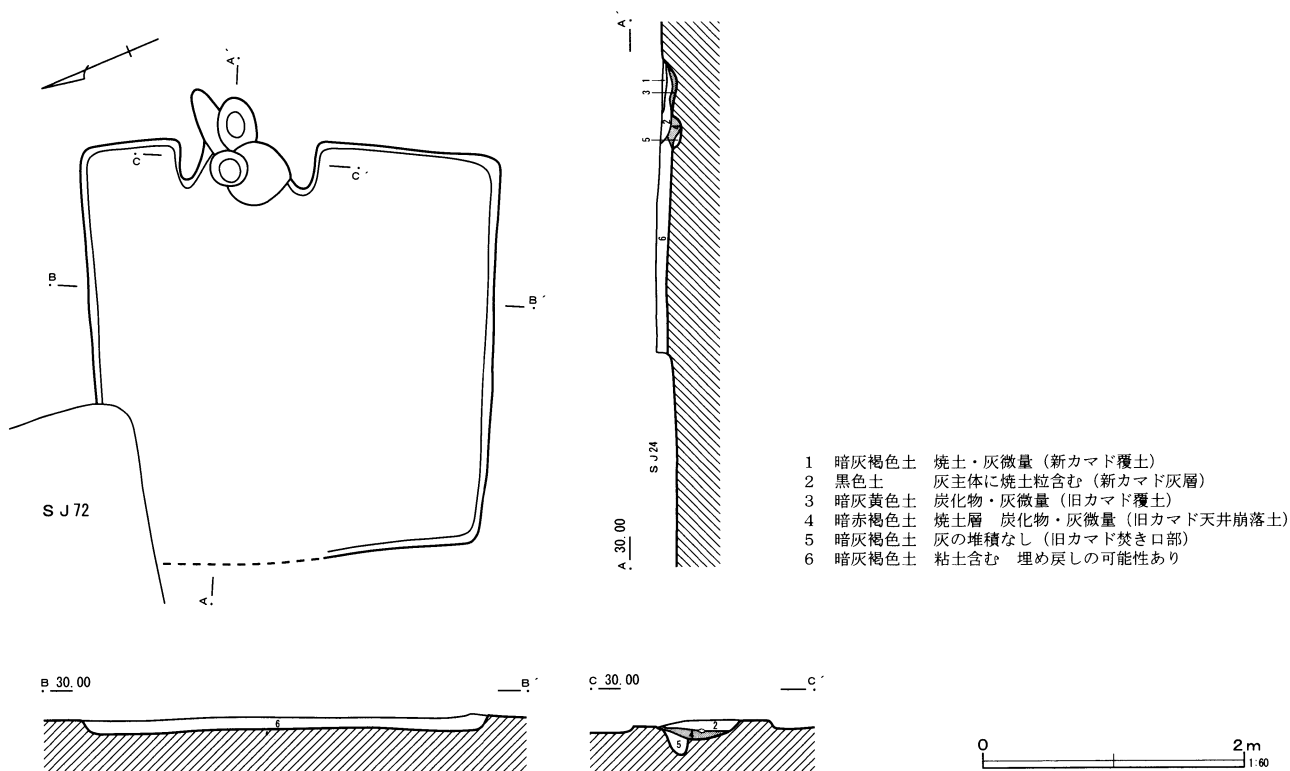
- 1 暗褐色土 焼土粒・炭化物少量
- 2 暗赤褐色土 焼土ブロック主体
(カマド天井崩落土)
- 3 黒褐色土 灰層 焼土粒少量
炭化物・灰少量



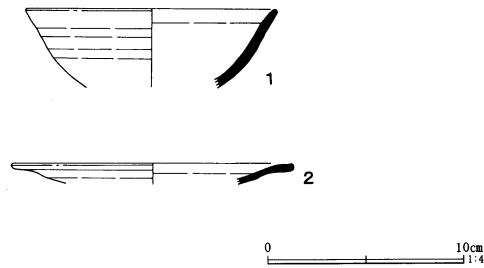
第141図 第68号住居跡出土遺物

第68号住居跡出土遺物観察表 (第141図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	11.6	4.5	4.6	ABI	普通	灰	100	覆土	底部右回転糸切り
2	須恵高台碗	13.7	5.5	6.6	ACFJ	普通	橙	90	覆土	酸化焰焼成
3	灰釉高台碗	(14.5)	4.2	6.6	AGJK	良好	灰	60	覆土	
4	須恵高台碗			(6.4)	AJ	普通	灰白	30	覆土	底部高台内回転糸切り 施釉ツケガケ 東濃産
5	灰釉高台碗			(6.5)	G	良好	灰白	20	覆土	東濃産



第142図 第69号住居跡



第143図 第69号住居跡出土遺物

第69号住居跡出土遺物観察表 (第143図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(12.7)			A	良好	灰	10	覆土	
2	須恵皿	(14.3)			AC	普通	灰	5	カマド	

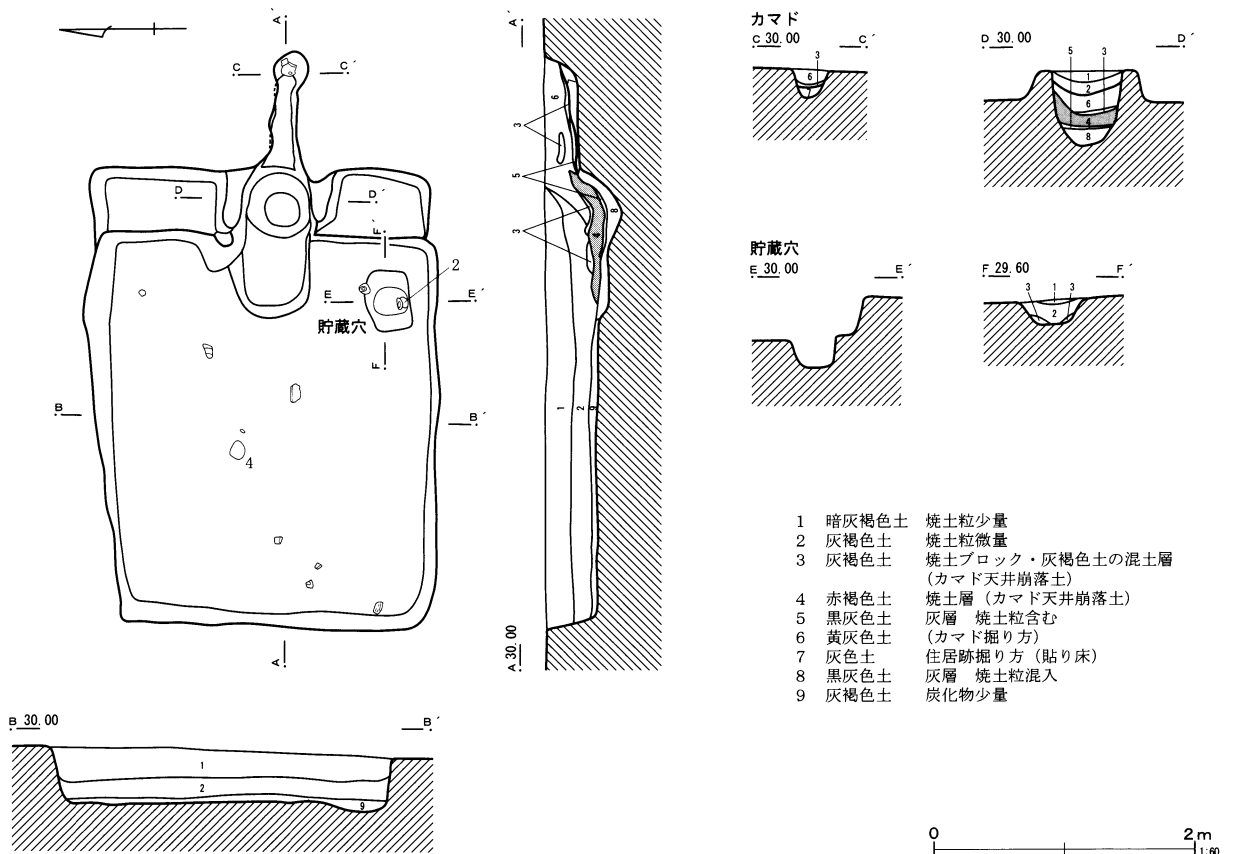
第70号住居跡 (第144・145図)

Q-21・22グリッドに位置する。規模は、主軸長東西3.50m、南北2.68m、深さ42cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-91°-Eを指す。

東壁のカマド両側には、床面より15cmほど高くなった棚状の施設が確認された。

貯蔵穴は、南東隅寄りに設けられており、46cm×34cmの長方形で、深さ19cmを測る。

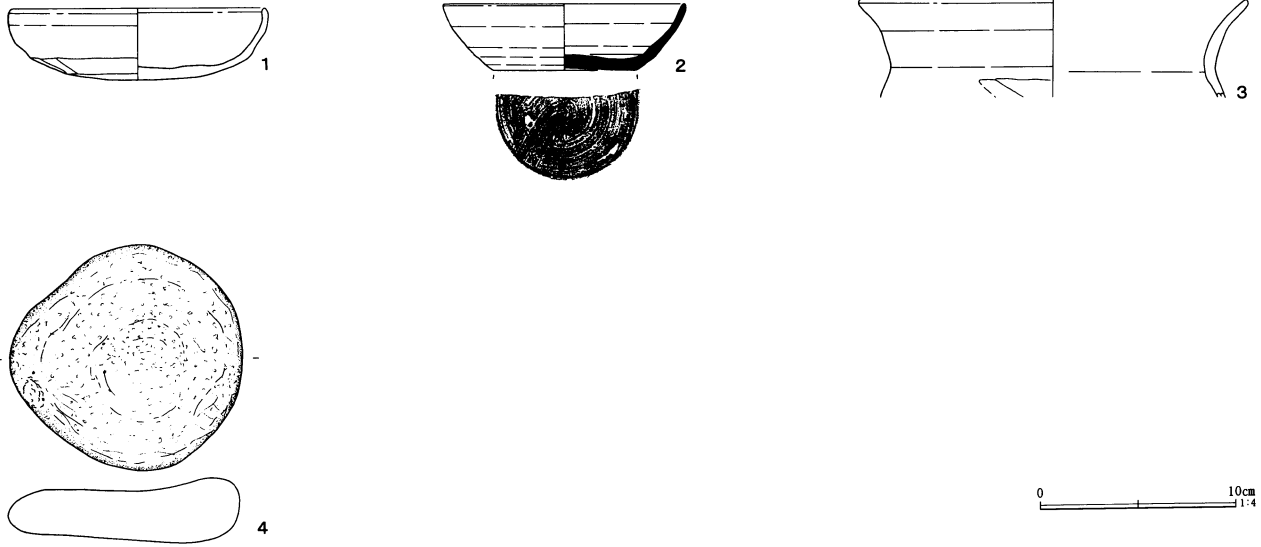
カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、



第144図 第70号住居跡

116cm × 55cm、深さ8～20cmを測り、煙道部は長さ87cmが確認できた。

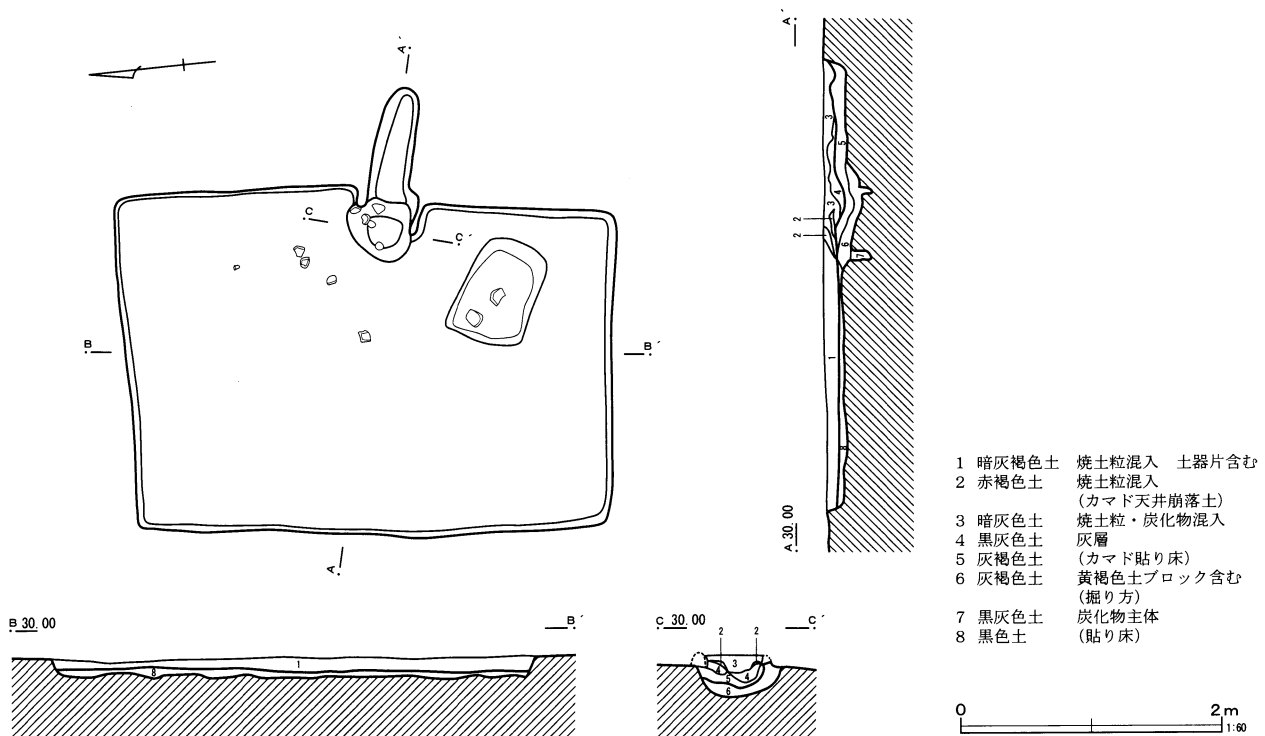
遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏、礫が出土した。



第145図 第70号住居跡出土遺物

第70号住居跡出土遺物観察表 (第145図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.8	3.6		FG	良好	橙	80	覆土	
2	須恵坏	(12.2)	3.4	7.2	AGH	良好	灰	40	貯蔵穴	底部全面右回転ヘラ削り
3	土師甕	(19.7)			AB	良好	明赤褐	25	カマド	口縁部内外面ロクロナデ
4	礫	長さ11.8	幅11.5	厚さ2.3～3.2	重さ643.0g			—	覆土	一部黒変部分あり



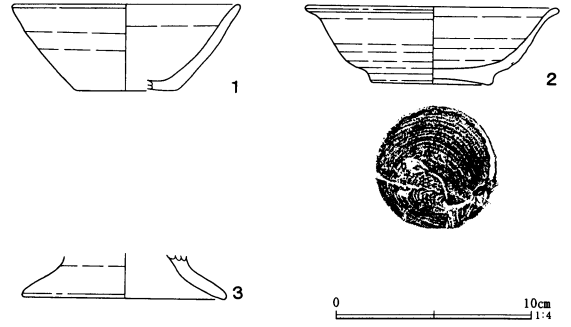
第146図 第71号住居跡

第71号住居跡 (第146・147図)

Q-22グリッドに位置する。規模は、主軸長東西2.64m、南北3.71m、深さ12cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-93°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、55cm×45cm、深さ7cmを測り、煙道部は長さ78cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・台付甕、須恵器坏が出土した。



第147図 第71号住居跡出土遺物

第71号住居跡出土遺物観察表 (第147図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	11.4	4.4	(5.0)	BG	普通	灰黄	60	カマド	口縁部内外面ロクロナデ
2	須恵坏	(12.6)	4.0	6.1	FGH	普通	にぶい黄橙	50	カマド	酸化焰焼成
3	土師台付甕			(10.4)	A	普通	暗褐	35	カマド	脚部内外ロクロナデ

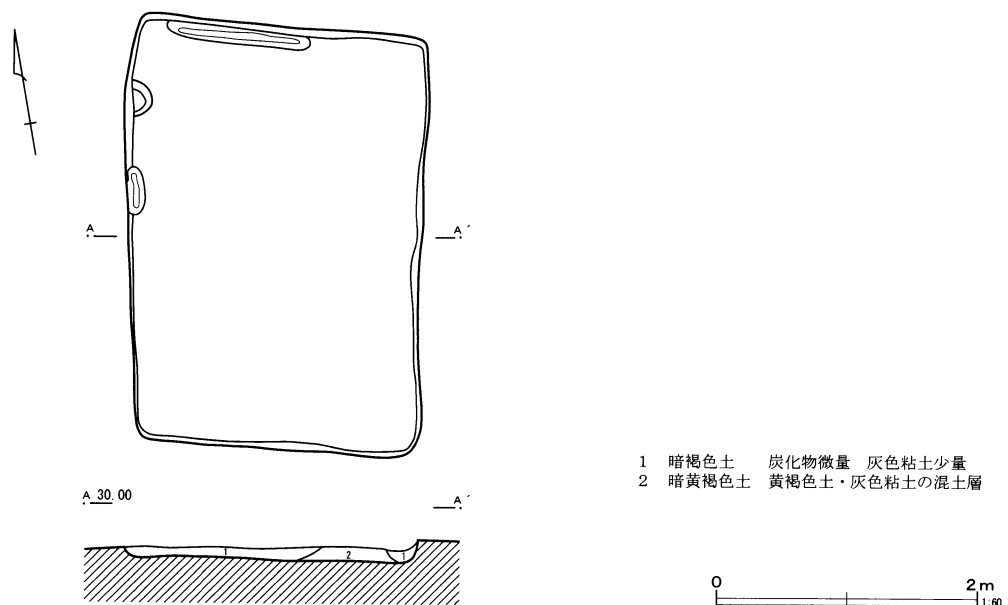
第72号住居跡 (第148・149図)

P・Q-14グリッドに位置する。第27号住居跡と重複し、切っている。規模は、主軸長南北3.23m、東西2.25m、深さ10cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-13°-Eを指す。

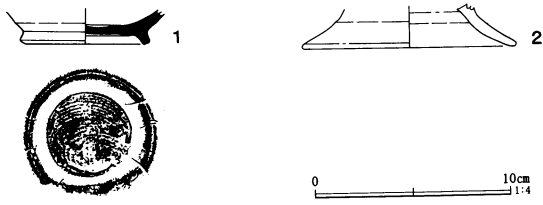
遺物は、須恵器高台付塼、土師器台付甕が出土した。

第73号住居跡 (第150・151図)

P・Q-20グリッドに位置する。第62・78号住居跡・第1号溝と重複し、東壁の一部を第62号住居跡のカマドに切られ、北西部を第78号住居に切られ、西壁側は、第1号溝に切られている。いずれの遺構にも、切られていることから最も古い。規模は、確認できた主軸長3.38m、東西2.74m、深さ



第148図 第72号住居跡



第149図 第72号住居跡出土遺物

第72号住居跡出土遺物観察表 (第149図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台埵			6.7	AG	普通	灰	100	床直	
2	土師台付甕			(10.8)	ABC F J	普通	橙	15	床直	

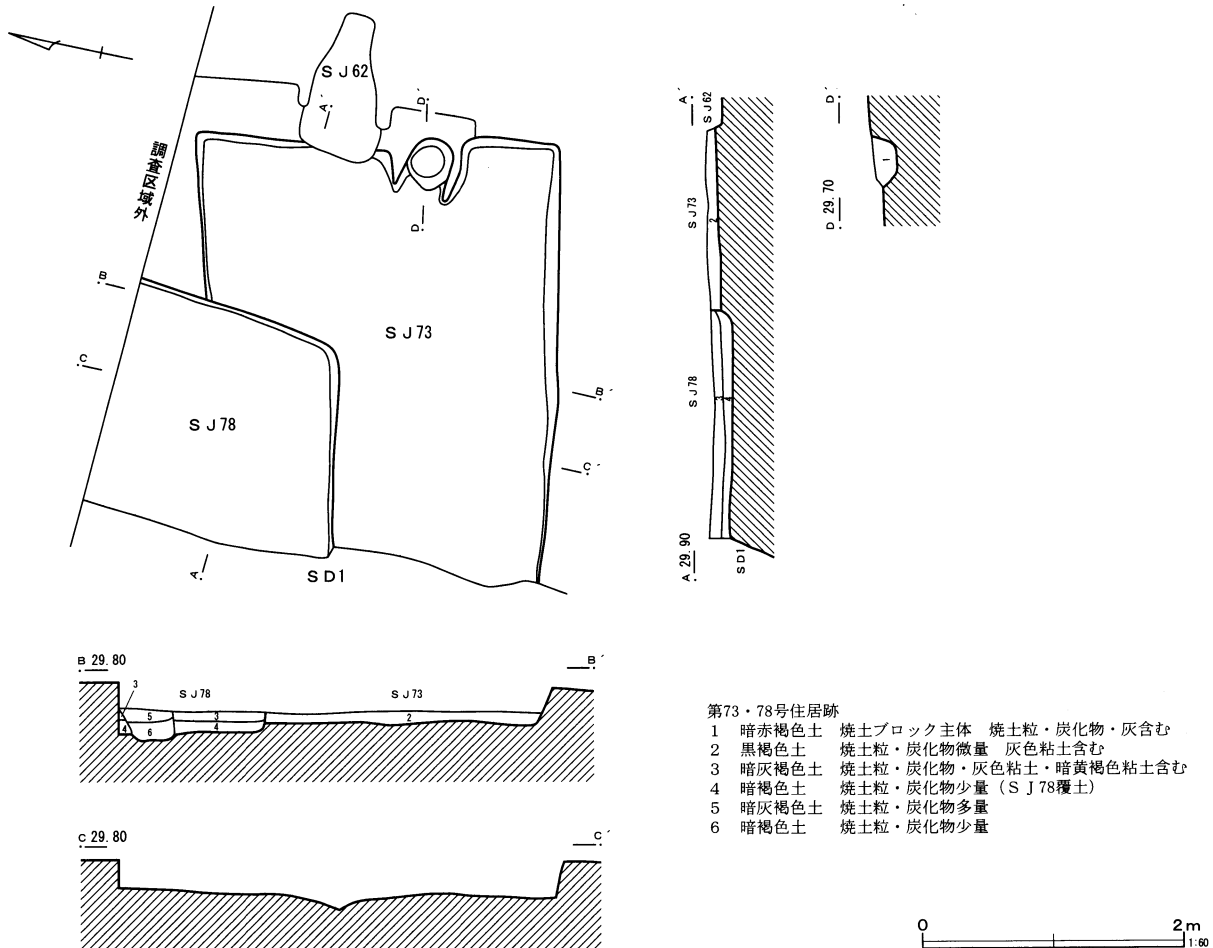
10cm程を測る。平面形は、長方形を呈すると推定される。主軸方位は、N-79°-Eを指す。

カマドは、東壁南寄りに設けられている。燃焼部は、37cm×35cm、深さ18cmを測る。

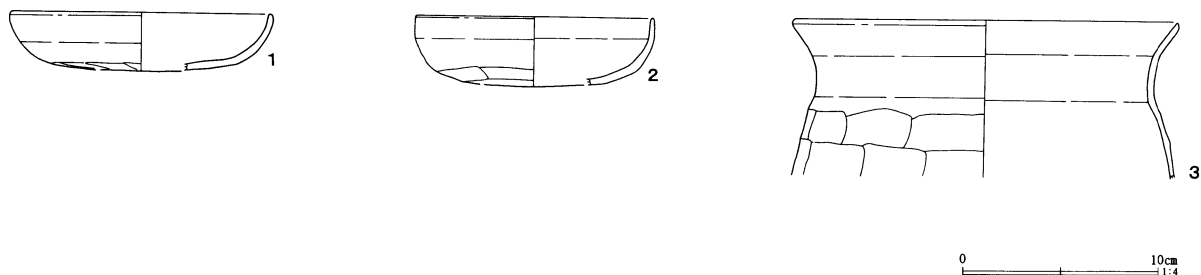
遺物は、土師器坏・甕が出土した。

第78号住居跡 (第150・152図)

P-20グリッドに位置する。北側は調査区域外であり、第23号住居跡・第1号溝と重複する。南は第1号溝に切られ、住居跡を切っている。第1号溝・当住居跡・第73号住居跡の順に古くなる。規



第150図 第73・78号住居跡



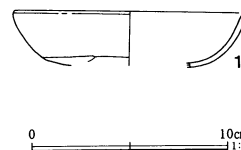
第151図 第73号住居跡出土遺物

第73号住居跡出土遺物観察表 (第151図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.2)			A B	良好	にぶい褐	20	覆土	内面に指頭痕あり
2	土師坏	(12.0)			C F	良好	橙	10	覆土	
3	土師甕	(19.4)			A B C	良好	橙	15	覆土	

模は、確認できた主軸長東西1.78m、確認できた南北1.92m、深さ18cm程を測る。南北を主軸とすると方位は、N-87°-Eを指す。

遺物は、土師器坏が出土した。



第152図 第78号住居跡出土遺物

第78号住居跡出土遺物観察表 (第152図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(11.8)			A C F	普通	橙	10	覆土	

第74号住居跡 (第153・154図)

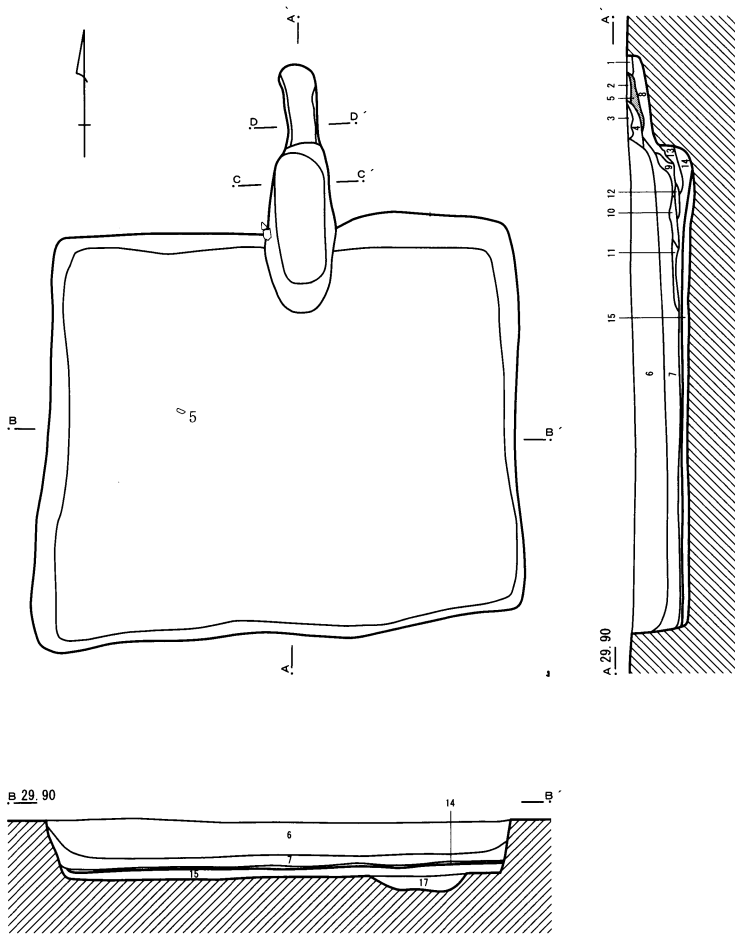
Q-23グリッドに位置する。第89号住居跡と重複し、切っていることから当住居跡が新しい。規模は、主軸長南北3.10m、東西3.58m、深さ36cm程を測る。平面形は、やや歪んだ方形を呈する。主軸方位は、N-0°-Eを指す。

カマドは、北壁に設けられている。燃焼部は、122cm×42cm、深さ10cmを測り、煙道部は長さ68cmが確認できた。

遺物は、土師器坏、磔、鎌が出土した。5は鉄鎌の刃部先端と考えられる。現存長6.8cm、刃部最大幅2.0cmである。

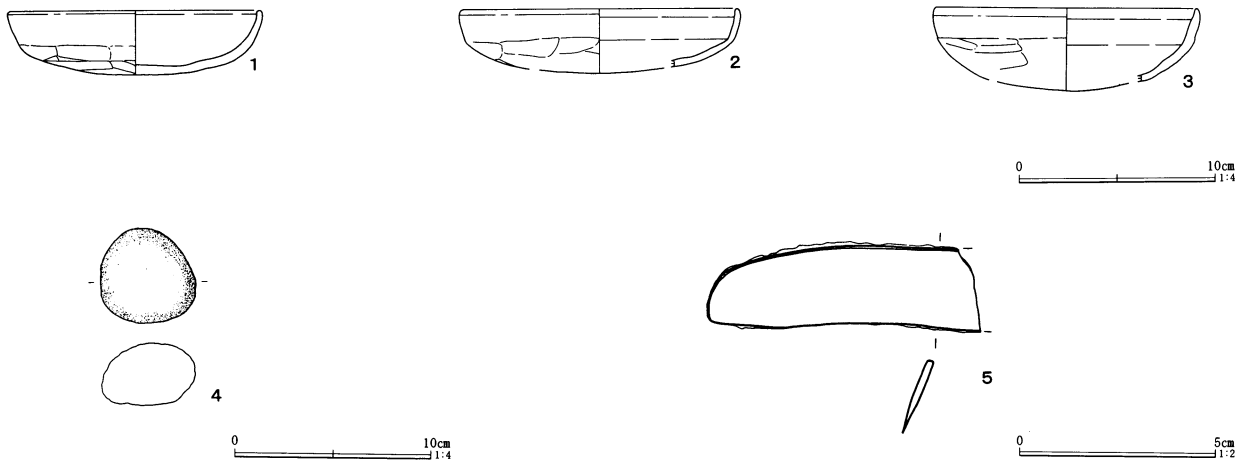
第74号住居跡出土遺物観察表 (第154図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.8	3.2		A	良好	にぶい褐	50	カマド	口縁部外面～体部上位内面ロクロナデ 底部内面「×」ヘラ描き
2	土師坏	(13.9)			A	良好	にぶい褐	20	カマド	口縁部内外面ロクロナデ 口縁部外面一部に油煙附着
3	土師坏	(13.3)			A J	普通	橙	10	覆土	口縁部外面～体部内面ロクロナデ
4	磔	長さ4.9 幅4.8 厚さ3.2 重さ59.7g						-	覆土	角閃石安山岩



-
- 1 暗灰褐色土 焼土粒・炭化物少量
 - 2 暗赤褐色土 焼土ブロックを帯状に、暗黄褐色粘土ブロックを含む
 - 3 明赤褐色土 硬質の焼土（煙道の天井部分）
 - 4 暗灰褐色土 焼土粒少量
 - 5 暗赤褐色土 暗黄灰褐色粘土ブロック少量（天井部崩落土）
 - 6 暗灰褐色土 白色粒少量・焼土ブロック・炭化物を含む
 - 7 暗灰褐色土 焼土粒・同ブロック・炭化物少量
黄褐色粘土ブロック混入
 - 8 暗灰褐色土 焼土粒・炭化物少量
 - 9 暗灰褐色土 炭化物・焼土粒微量 粘土少量
 - 10 赤褐色土 焼土層 カマド天井崩落土
 - 11 暗黄褐色土 粘土・黄褐色土の混土層
 - 12 黒灰色土 灰層 炭化物を含む
 - 13 暗灰黄色土 焼土粒・炭化物少量
 - 14 黒灰色土 灰白色土主体 炭化物多量
 - 15 暗灰褐色土 焼土粒少量 灰褐色粘土多量（貼り床）
 - 16 暗黄灰色土 焼土ブロックやや多量 炭化物少量
 - 17 暗黄灰色土 焼土ブロックやや多量 炭化物含む

第153図 第74号住居跡



第154図 第74号住居跡出土遺物

第76号住居跡 (第155・156図)

P・Q-23グリッドに位置する。北側は調査区域外となっており、第79号住居跡と重複する。第79号住居跡を切っており、当住居跡が新しい。規模は、主軸長東西3.42m、確認できた南北1.98m、深さ35cm程を測る。平面形は、方形を呈すると推定される。主軸方位は、N-84°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられ、北半は調査区域外となっている。燃烧部は、66cm×23cmを確認でき、

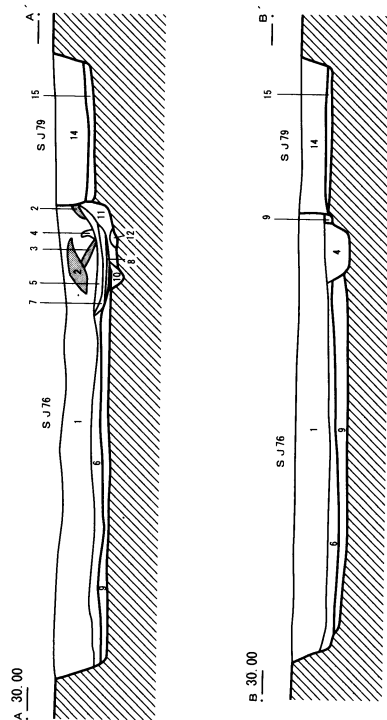
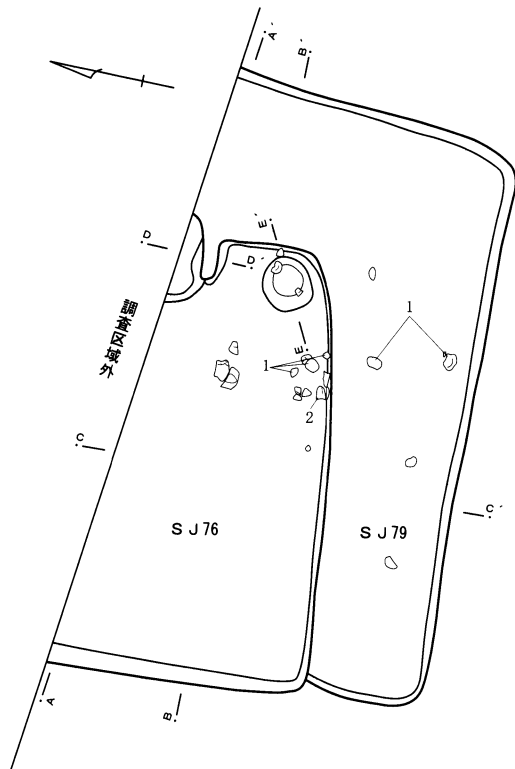
深さ8cmを測る。

遺物は、土師器坏、石製紡錘車、土錘が出土した。

第79号住居跡 (第155・157図)

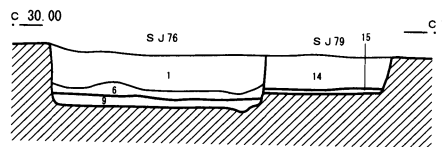
P・Q-23グリッドに位置する。北側は調査区域外となっており、第76号住居と重複し切られている。規模は、主軸長東西4.40m、確認できた南北2.38m、深さ26cm程を測る。主軸方位は、N-90°-Eを指す。

遺物は、土師器甕が出土した。



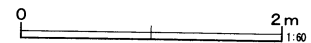
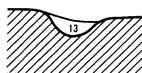
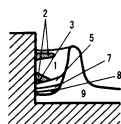
第76・79号住居跡

- 1 暗褐色土 焼土粒・炭化物含む 暗黄褐色土を斑状に含む
- 2 明赤褐色土 焼土層 (カマド天井残存部)
- 3 暗赤褐色土 焼土層 (カマド天井崩落土)
- 4 暗黄褐色土 粘土含む 2層に近似 (カマド天井部盛土)
- 5 暗黄灰色土 焼土粒少量
- 6 暗灰褐色土 炭化物やや多量、灰色粘土多量
- 7 暗灰褐色土 灰層 焼土粒やや多量
- 8 黒灰色土 灰層・炭化物
- 9 暗灰褐色土 焼土ブロック・炭化物少量 (貼り床)
- 10 暗灰褐色土 焼土粒・灰少量
- 11 暗灰褐色土 焼土粒・炭化物少量、灰含む
- 12 暗灰褐色土 焼土粒少量 炭化物多量
- 13 黒褐色土 焼土粒・炭化物含む 灰多量
- 14 暗褐色土 焼土粒微量
- 15 暗灰褐色土 焼土ブロック・炭化物多量 (貼り床)

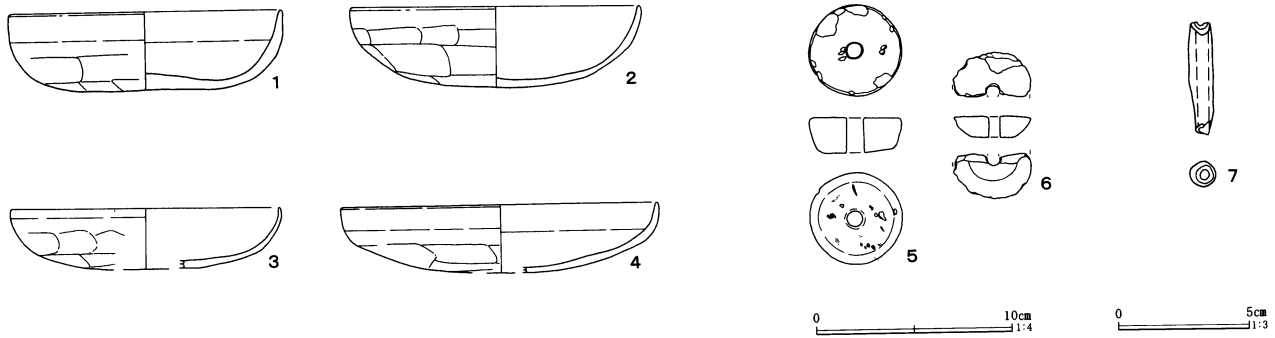


S J 76カマド
P 30.00 D

S J 76ピット
E 30.00 E



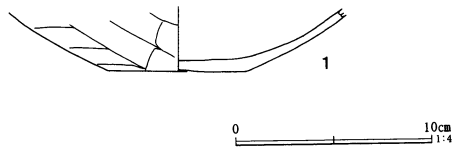
第155図 第76・79号住居跡



第156図 第76号住居跡出土遺物

第76号住居跡出土遺物観察表 (第156図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.9)	4.0		J	普通	にぶい黄橙	70	覆土	口縁部内外面ロクロナデ
2	土師坏	(14.7)	4.1		A	良好	にぶい橙	55	覆土	口縁部内外面横ナデ 口縁部外面下半ヘラナデ
3	土師坏	13.8	3.1		A F	良好	橙	20	貯蔵穴	口縁部内外面ロクロナデ
4	土師坏	16.2	3.5		A J	良好	橙	25	覆土	口縁部内外面ロクロナデ
5	石製紡錘車	長径4.7	短径3.8	厚さ1.8	孔径0.9	重さ(67.9)g		95	覆土	
6	石製紡錘車	長径4.0	短径2.4	厚さ1.1	孔径0.7	重さ(13.2)g		50	覆土	
7	土錘	長さ(4.29)	径1.0	孔径0.45	重さ(3.6)		黒褐	80	覆土	



第157図 第79号住居跡出土遺物

第79号住居跡出土遺物観察表 (第157図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師甕			7.0	A B	良好	にぶい黄橙	70	床直	

第80号住居跡 (第158・159図)

M-10・11グリッドに位置する。第15号溝と重複し、北壁寄りが切られている。規模は、主軸長東西5.15m、南北3.18m、深さ38cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-94°-Eを指す。

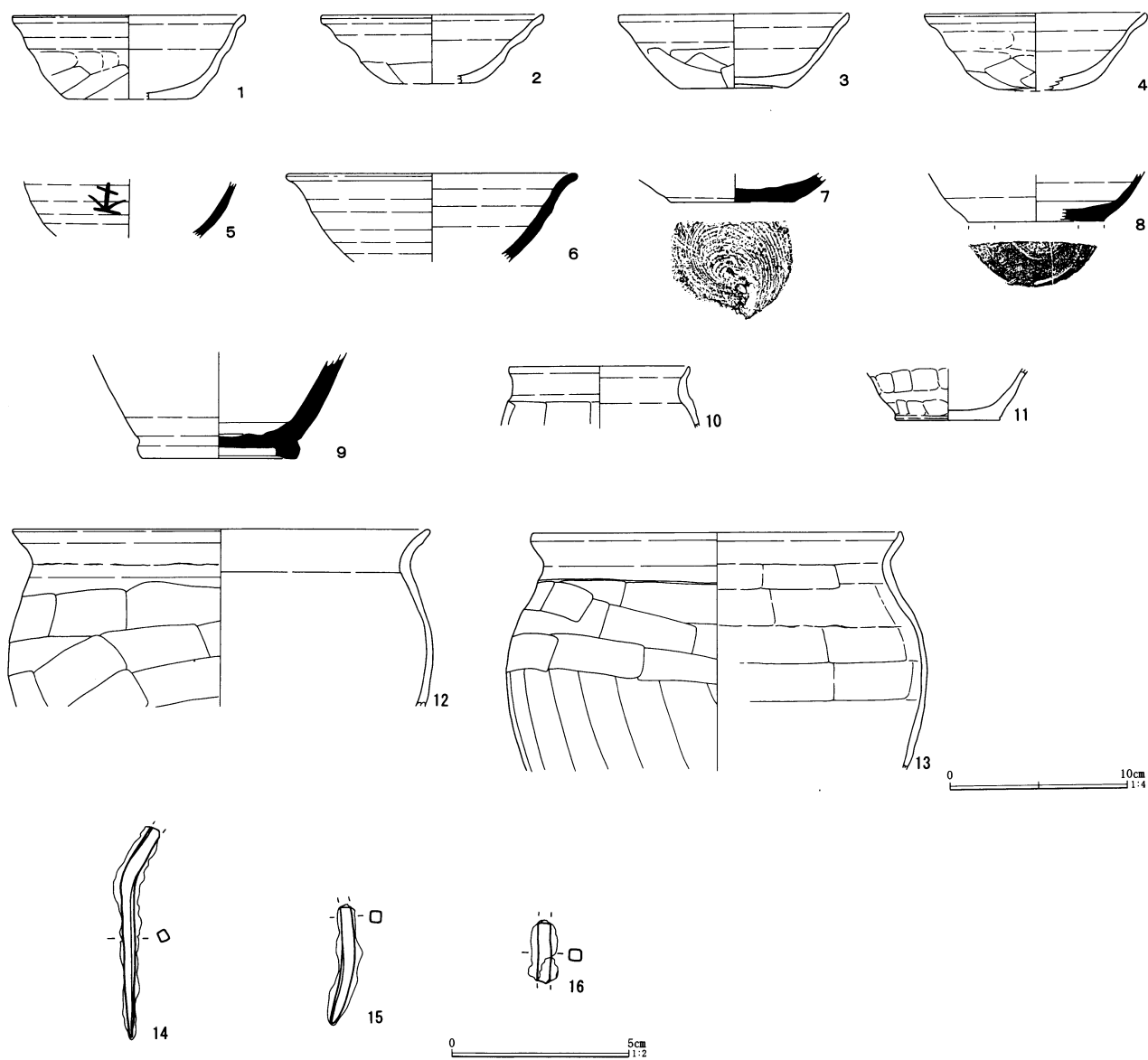
カマドの付け替えと東壁の拡張が行われている。また、住居跡南東隅には、炭化物の分布がみられた。

貯蔵穴は、南東隅に設けられており、軸長77cm

×56cmの楕円形で、深さ46cmを測る。

新カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、96cm×46cmで床面と同じ高さである。煙道部は、長さ94cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・壺・長頸瓶の他鉄製品が出土した。14～16はともに鉄製釘である。14は現存長5.9cm、わずかに屈曲し頭部を欠く。15は現存長3.4cm、14と同様に曲がった基部～脚部が残る。16は現存長1.7cm、基部の破片と考えられる。



第159図 第80号住居跡出土遺物

第81号住居跡 (第160・161図)

M・N-11・12グリッドに位置する。第82・83号住居跡・第79号土坑と重複し、土坑に切られ、2軒の住居跡を切っていることから、土坑・当住居跡・第82・83号住居跡の順に古くなる。規模は、主軸長東西4.69m、南北3.20m、深さ10cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-94°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、124cm×58cm、深さ4cmを測る。

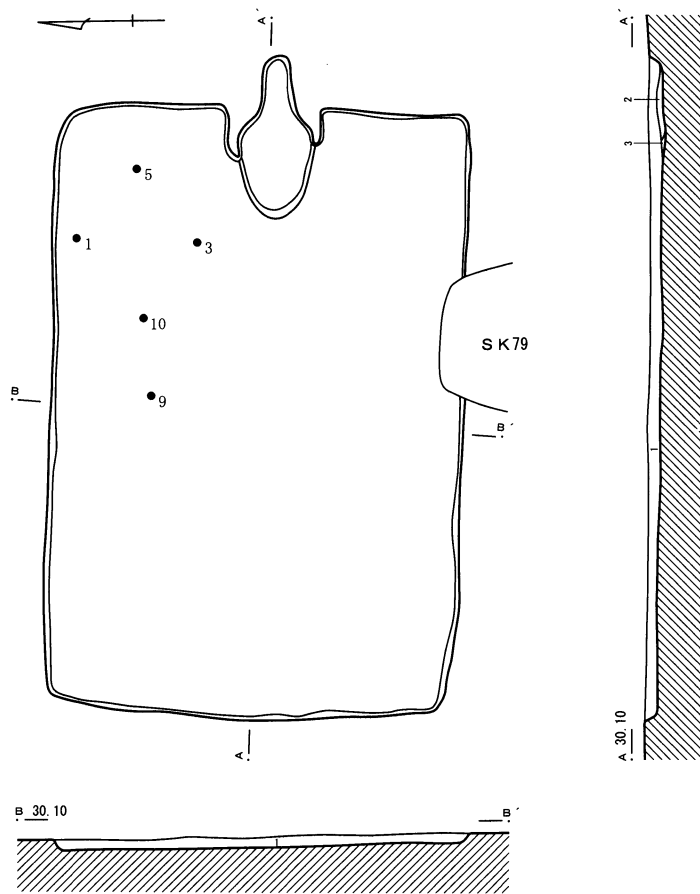
遺物は、土師器坏・甕、須恵器高台付碗、灰釉陶

器高台付碗・高台付皿、緑釉高台付皿・高台・陶器片が出土した。

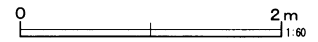
第82号住居跡 (第162・163図)

M-11・12グリッドに位置する。北側は、第6・15号溝・第81・83号住居と重複し、溝と第81号住居跡に切られ、第83号住居跡を切っていることから、住居跡は第81号住居跡・第82号住居跡・第83号住居跡の順に古くなる。規模は、主軸長東西4.00m、確認できた南北2.40m、深さ11cm程を測る。主軸方位は、N-108°-Eを指す。

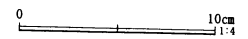
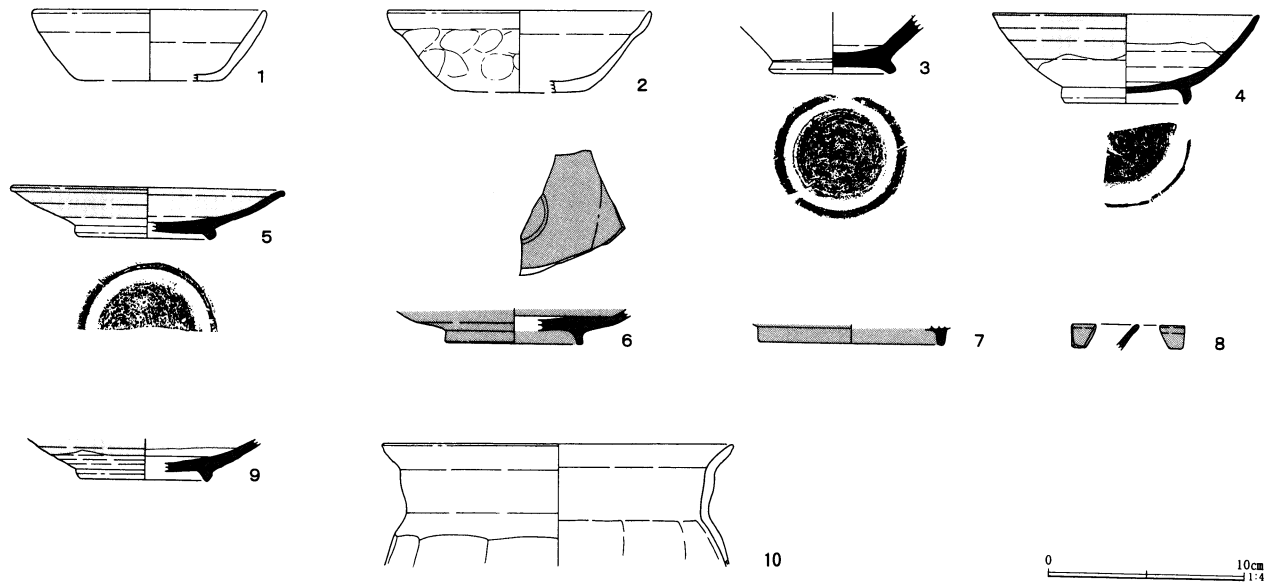
カマドは、東側に設けられている。燃焼部は、



- 1 暗褐色土 焼土粒・炭化物微量
- 2 暗褐色土 焼土粒・炭化物微量 灰少量
- 3 黒褐色土 灰層 炭化物少量



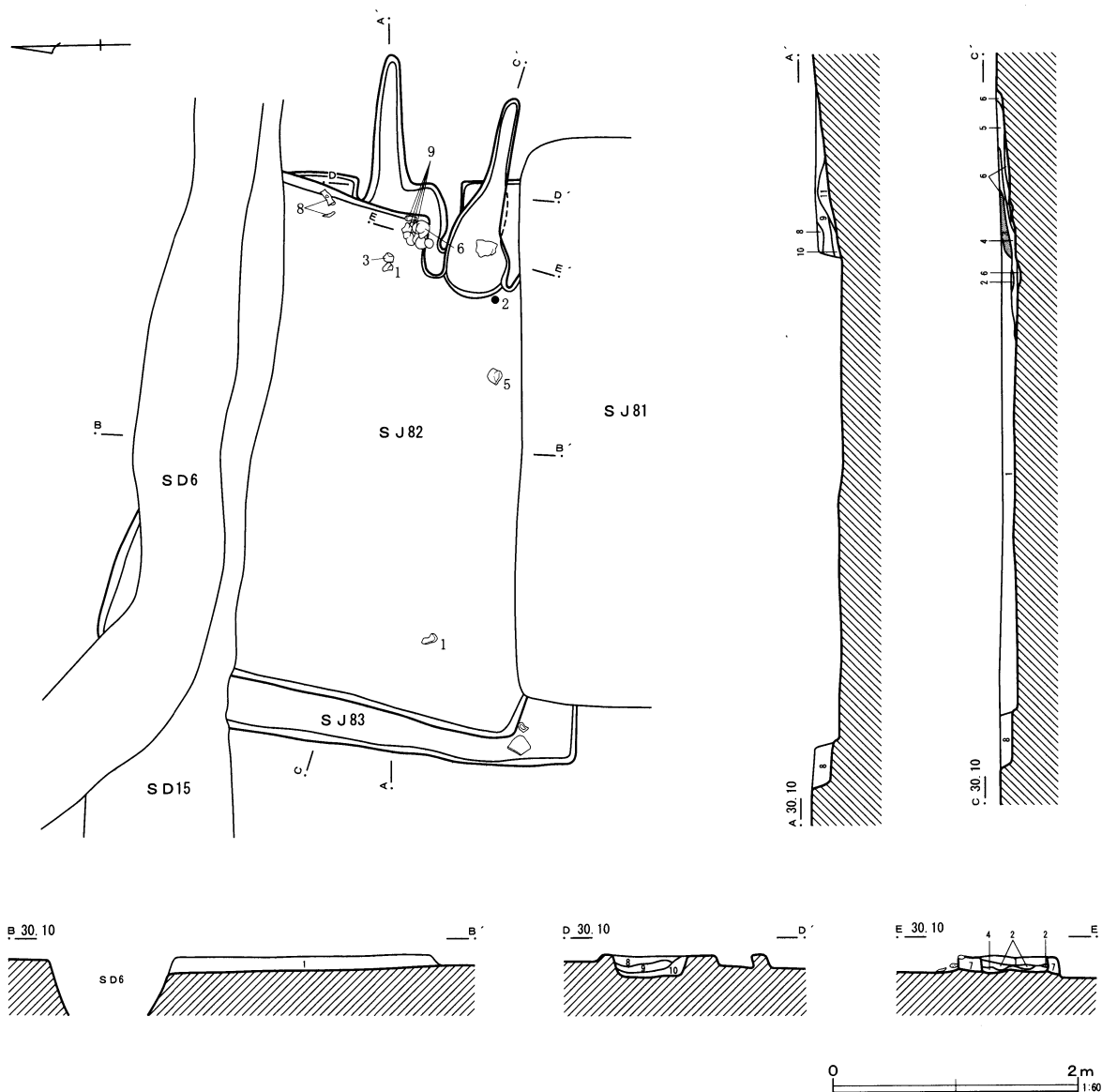
第160図 第81号住居跡



第161図 第81号住居跡出土遺物

第81号住居跡出土遺物観察表 (第161図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(11.8)	3.6	(7.0)	A B F	普通	橙	10	掘方	底部一方向へら削り
2	土師坏	(13.2)	(4.2)	(6.8)	A F J	良好	橙	25	覆土	底部外周のみ手持ちへら削り
3	須恵高台埴			4.9	A B J	普通	灰	80	覆土	底部高台内へら切り
4	灰釉高台埴	(13.4)	4.6	(6.1)	A K	良好	灰白	20	覆土	底部高台内へら削り 施釉ツケガケ 二川産
5	灰釉高台皿	(13.8)	2.6	7.2	A G K	良好	灰	30	覆土	底部高台内糸切り 施釉ツケガケ 東濃産
6	緑釉高台皿			(7.0)	A	良好	—	20	覆土	猿投産
7	緑釉高台			(9.4)	G	普通	—	8	覆土	猿投産
8	緑釉陶器					普通	—	破片	覆土	猿投産
9	灰釉高台皿			(6.5)	A C G	良好	灰白	30	床直	底部高台内へら削り 施釉ツケガケ 東濃産
10	土師甕	(17.7)			A B F J	普通	にぶい橙	15	覆土	

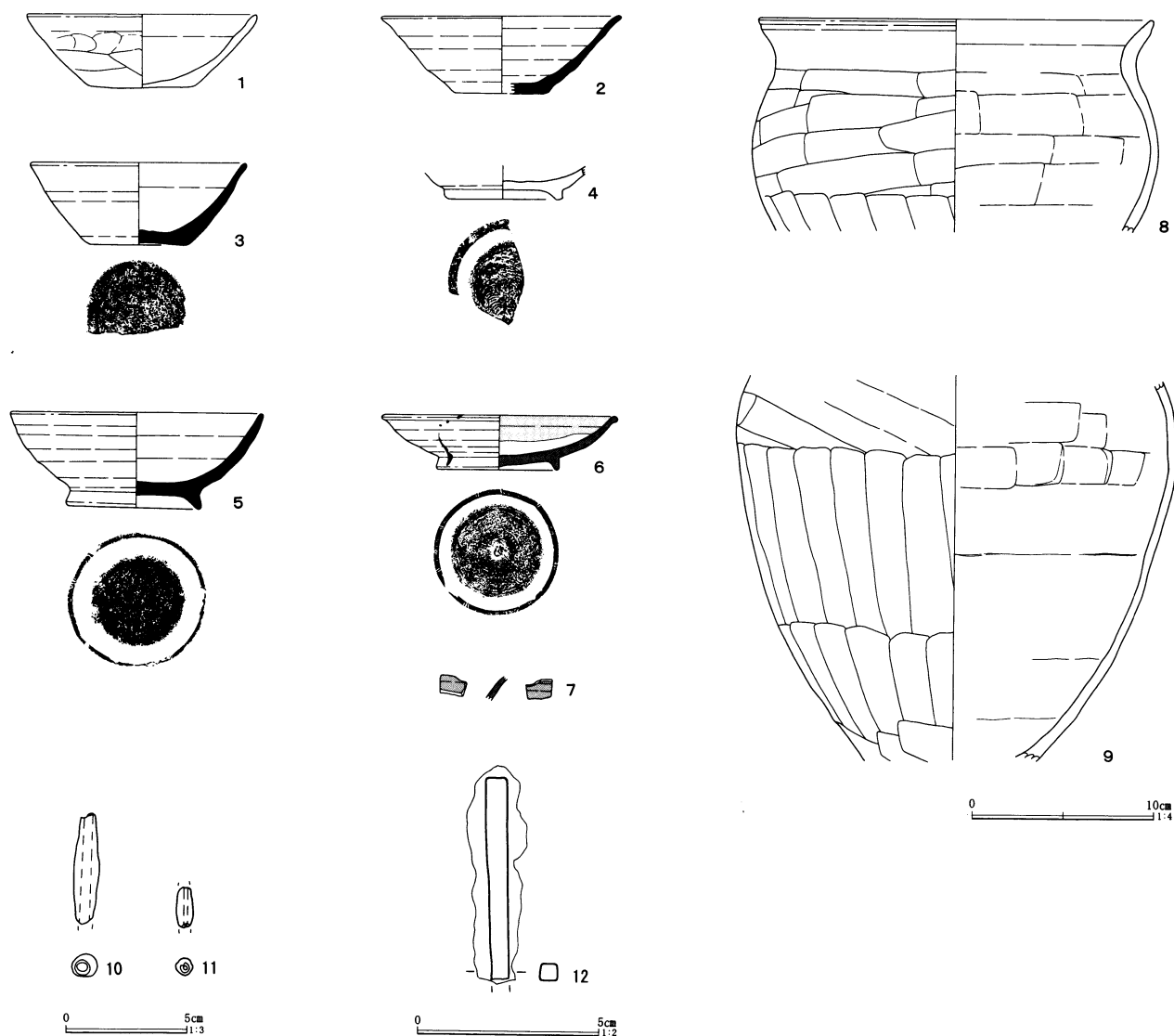


第82・83号住居跡

- 1 暗灰褐色土 焼土粒・炭化物少量 灰色粘土多量
- 2 暗灰褐色土 灰主体 焼土粒少量
- 3 赤褐色土 焼土主体 (カマド天井崩落土)
- 4 暗褐色土 焼土粒・灰少量
- 5 暗赤褐色土 焼土粒主体 (カマド天井崩落土)

- 6 灰褐色土 灰層 炭化物微量
- 7 暗灰褐色土 焼土粒・粘土粒少量
- 8 暗褐色土 焼土粒・炭化物少量
- 9 暗褐色土 焼土粒・炭化物微量 灰色粘土少量 (カマド天井盛土)
- 10 暗赤褐色土 焼土粒・炭化物多量 (カマド天井崩落土)
- 11 暗褐色土 焼土粒・焼土ブロック・灰少量

第162図 第82・83号住居跡



第163図 第82号住居跡出土遺物

第82号住居跡出土遺物観察表 (第163図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.5)	4.1	6.8	A B F	普通	にぶい橙	50	覆土	
2	須恵坏	(12.9)	4.3	(5.2)	A F G	普通	灰	20	覆土	底部調整不明
3	須恵坏	(11.7)	4.5	(5.3)	A J	普通	灰黄	45	床直	
4	須恵高台碗			(6.5)	F J	普通	にぶい黄橙	25	覆土	酸化焰焼成
5	須恵高台碗	(13.7)	5.2	7.2	A B G	普通	黄灰	75	床直	
6	灰釉高台碗	12.6	2.9	6.6	A G	良好	灰	95	覆土	底部高台内へラ削り 施釉ツケガケ 底部内面 重ね焼痕 内外面帯状に油煙 東濃産
7	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
8	土師甕	(21.3)			A F J	普通	にぶい黄橙	25	掘方	胴部内面横ナデ 外面へラ削り
9	土師甕				B F J	普通	橙	30	カマド	胴部
10	土錘	長さ(4.6)	径1.1	孔径0.4		普通	にぶい黄橙	80	覆土	
11	土錘	長さ(1.6)	径0.6	孔径0.2		普通	にぶい黄褐	40	覆土	

113cm × 53cm、深さ 8 cm を測り、煙道部は長さ 92cm が確認できた。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・高台坏塊、灰釉陶器高台付塊、緑釉陶器、土錘の他鉄製品が出土した。12 は角棒状の鉄製品である。現存長 5.5cm、一方の端部は生きているものと考えられる。用途は不明であるが釘の可能性もある。

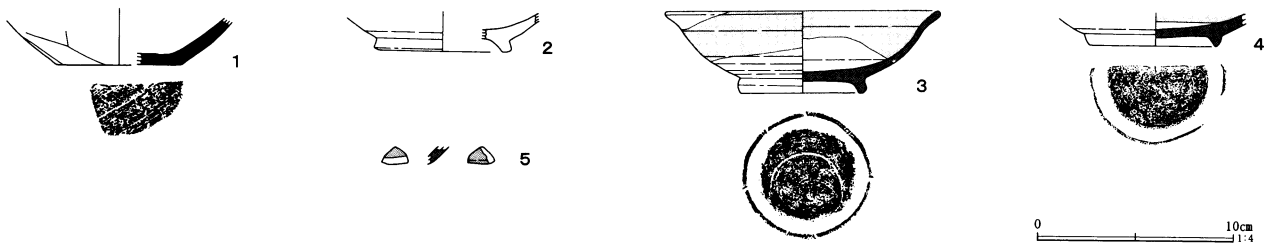
第 83 号住居跡 (第 162・164 図)

M-11・12 グリッドに位置する。第 6・15 号溝・

第 81・82 号住居と重複し、すべてに切られている。規模は、主軸長東西 4.66 m、確認できた南北 2.86 m、深さ 14cm 程を測る。主軸方位は、N-91°-E を指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃烧部は、確認できたのは 135cm × 30cm で床面より高くなる。

遺物は、須恵器坏・須恵器高台付塊、灰釉陶器高台付塊が出土した。



第 164 図 第 83 号住居跡出土遺物

第 83 号住居跡出土遺物観察表 (第 164 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏			(6.4)	A B F	普通	にぶい橙	25	覆土	底部一方向へラ削り
2	須恵高台塊			(7.0)	A F I	普通	にぶい黄橙	20	覆土	酸化焰焼成
3	灰釉高台塊	(13.7)	4.2	6.0	A G J	良好	灰白	45	掘方	底部高台内糸切り 施釉ハケヌリ 浜北産
4	灰釉高台塊			6.5	A G J	良好	灰白	50	掘方	底部高台内へラ削り 東遠江産
5	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産

第 84 号住居跡 (第 165・166 図)

M-11 グリッドに位置する。第 83 号住居跡・第 136 号土坑・第 6・15 号溝と重複し、いずれにも切られている。規模は、確認できた南北 2.42 m、確認できた東西 2.60 m、深さ 16cm 程を測る。西壁を基準とすると、主軸方位は、N-3°-W を指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・高台付塊が出土した。

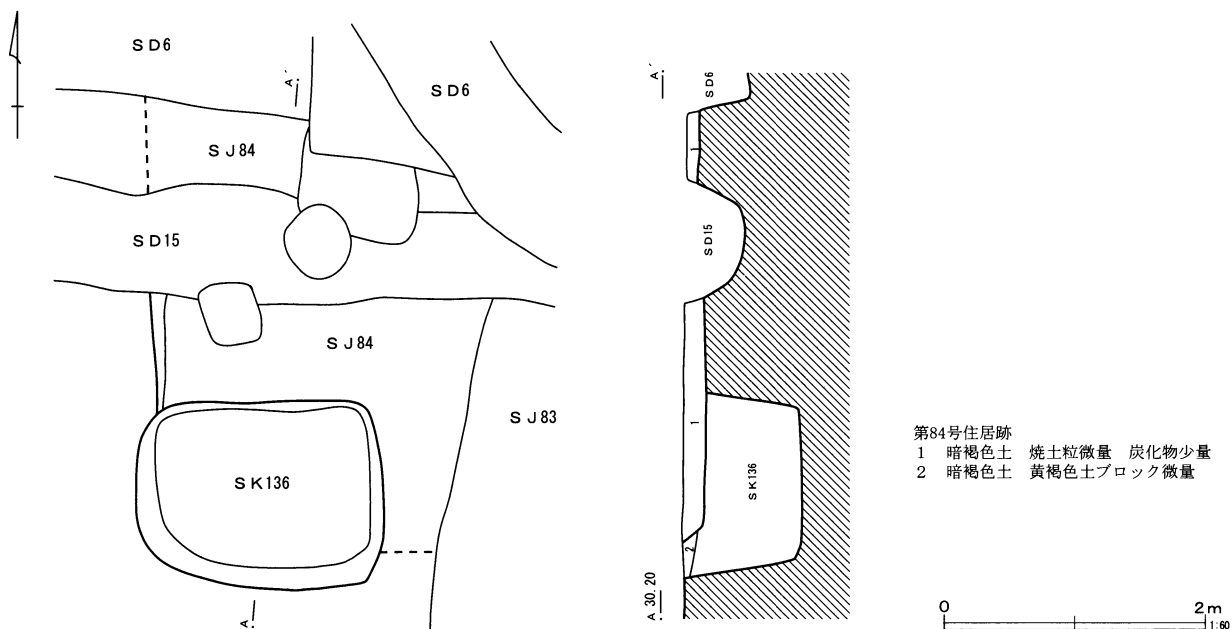
第 85 号住居跡 (第 167・168 図)

L-11・12 グリッドに位置する。第 7 号溝・第 86・87・99 号住居跡と重複し、中央部が南北に溝に切られ、いずれの住居跡も切ることから、溝・当住居

跡・他の 3 軒の住居跡の順に古くなる。規模は、主軸長東西 4.44 m、南北 3.54 m、深さ 18cm 程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-95°-E を指す。

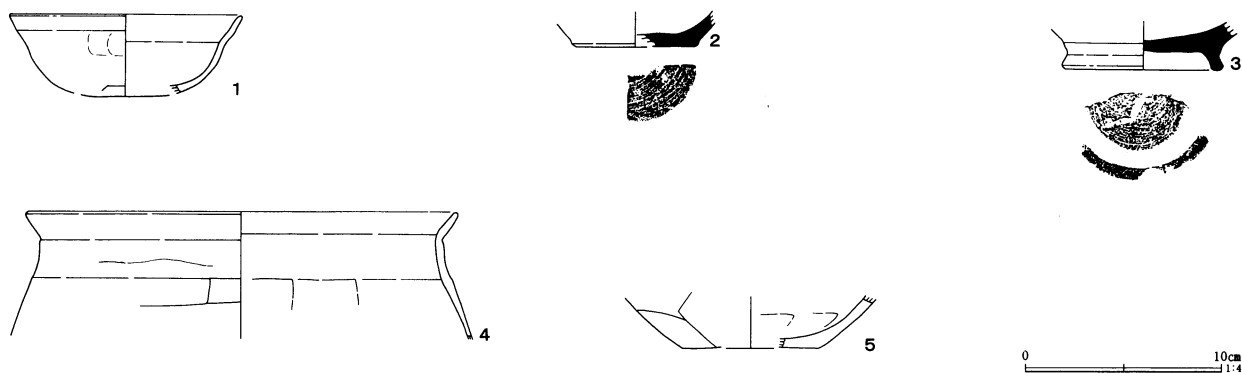
カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃烧部は、62cm × 63cm を測り、床面と同じ高さである。煙道部は長さ 150cm が確認できた。

遺物は、須恵器坏・高台付塊、土師器甕、灰釉陶器高台付塊・高台付皿の他、器形は不明だが緑釉片・灰釉陶器片が出土した。



第84号住居跡
 1 暗褐色土 焼土粒微量 炭化物少量
 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック微量

第165図 第84号住居跡



第166図 第84号住居跡出土遺物

第84号住居跡出土遺物観察表 (第166図)

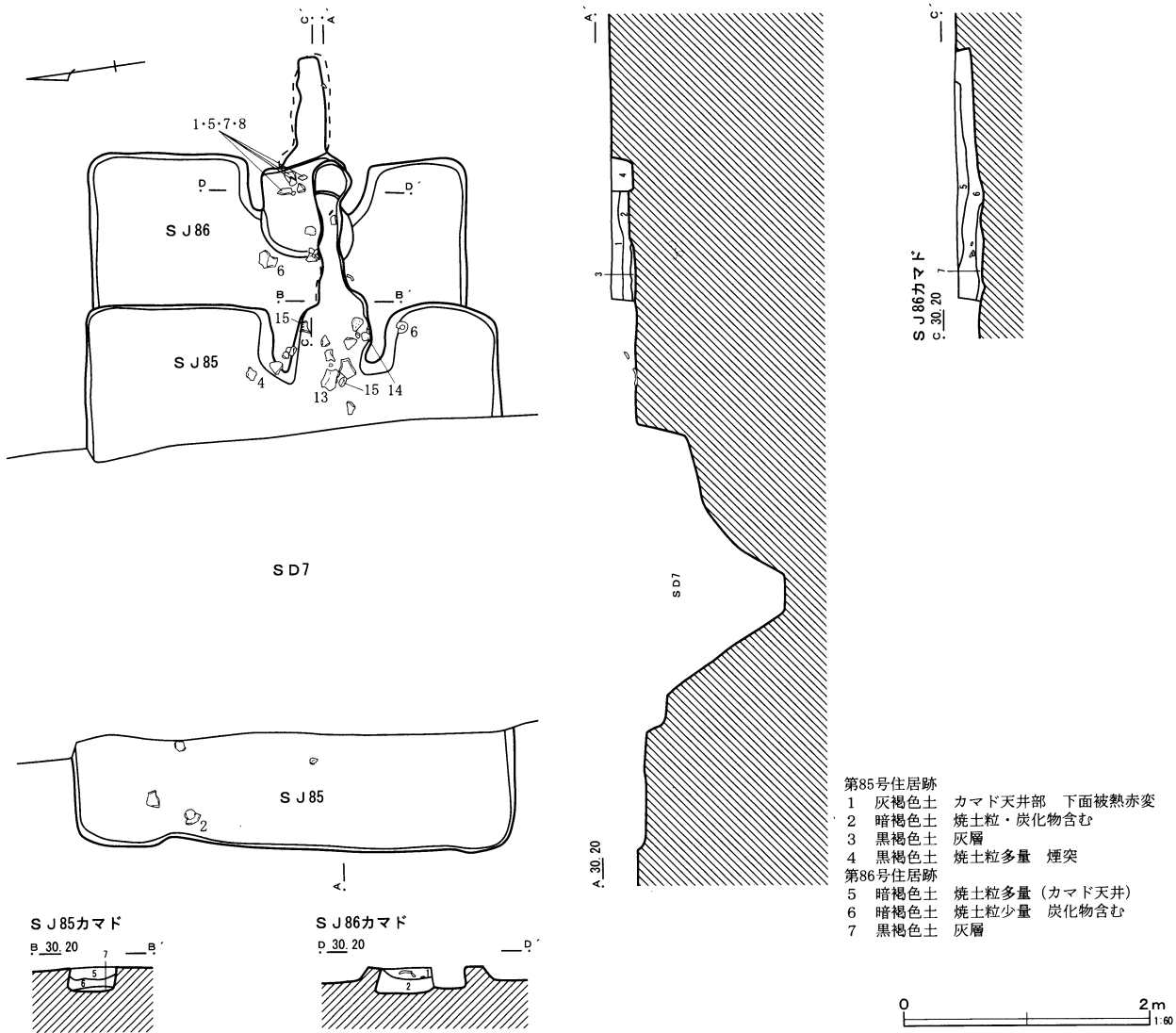
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師碗	(11.7)			A F	不良	橙	15	覆土	
2	須恵坏			(5.8)	A B F	普通	にぶい黄橙	20	覆土	底部回転糸切り
3	須恵高台碗			(8.2)	A F I J	普通	灰	40	覆土	底部回転糸切り
4	土師甕	(21.7)			A F	良好	にぶい褐	10	覆土	
5	土師甕			(7.0)	A B F	普通	黄灰	25	覆土	

第86号住居跡 (第167・169図)

L-12グリッドに位置する。第85号住居と重複し、西半が切られている。規模は、確認できた主軸長東西1.1m、南北3.04m、深さ20cm程を測る。主軸方位は、N-96°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、75cm×80cmを測り、床面と同じ高さである。煙道部は80cmが確認できた。

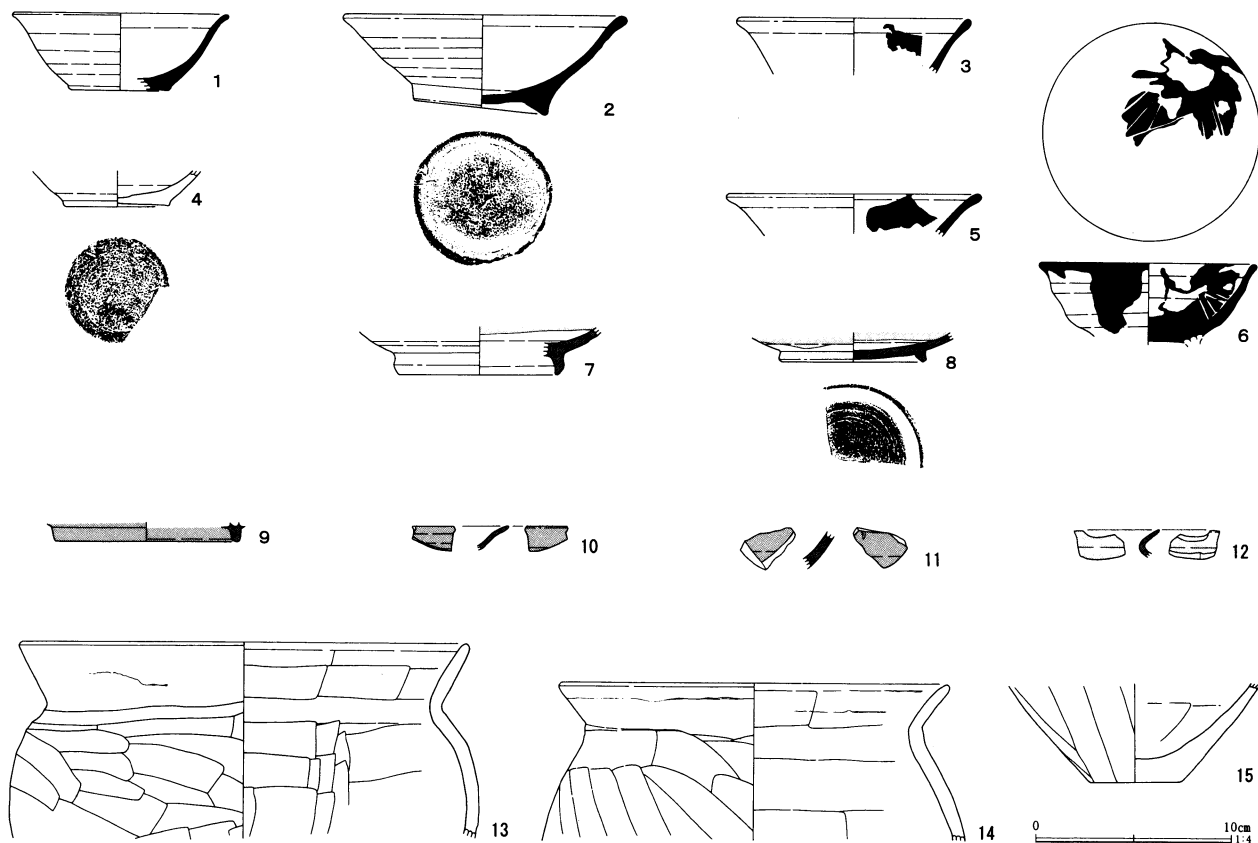
遺物は、須恵器坏、土師器甕、緑釉陶器が出土した。



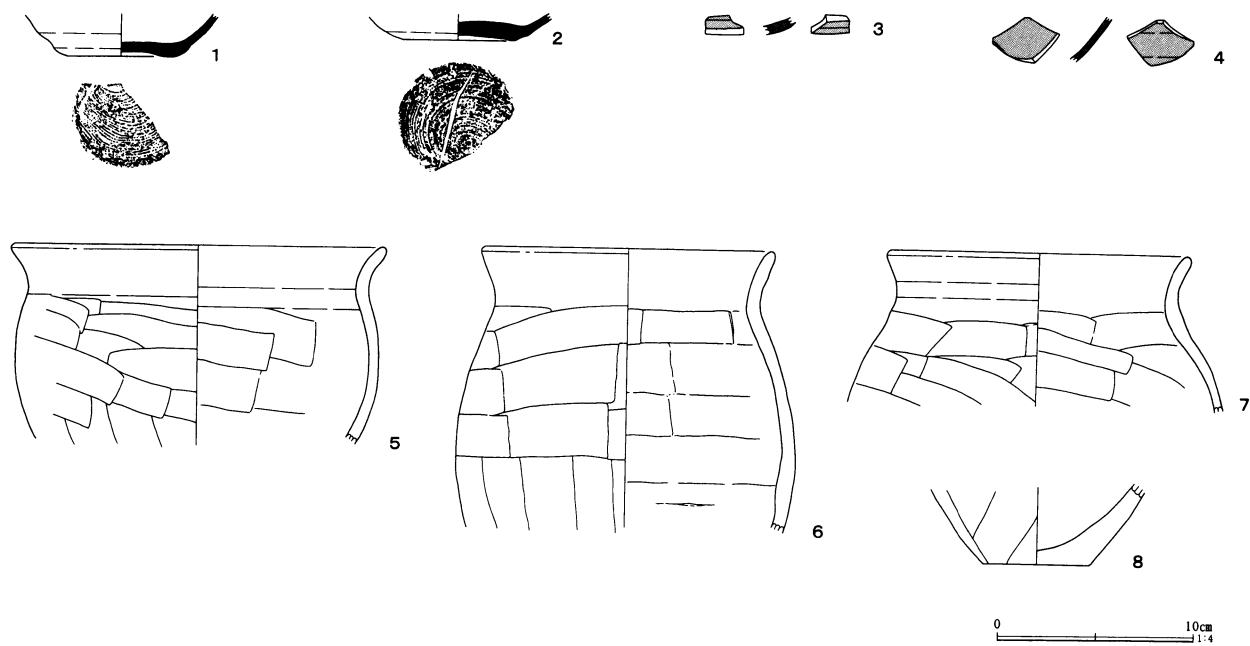
第167図 第85・86号住居跡

第85号住居跡出土遺物観察表 (第168図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(10.8)	3.9	(5.0)	A B F	不良	褐灰	20	カマド	底部回転糸切り
2	須恵高台碗	(14.2)	(5.1)	6.8	F J	普通	灰白	60	覆土	歪み大
3	須恵坏	(10.6)			A	良好	灰	60	カマド	内面タール状付着物
4	須恵坏			5.3	A B F J	普通	橙	70	覆土	酸化焰焼成 底部右回転糸切り
5	須恵碗	(12.7)			A G	普通	灰黄褐	5	カマド	内面タール状付着物
6	須恵高台碗	10.9			A B C J	不良	灰	98	覆土	灯明皿
7	灰釉高台碗			(8.1)	A	普通	灰白	15	覆土	
8	灰釉高台皿			(7.5)	A	良好	灰黄	25	覆土	底部高台内へラ削り 浜北産
9	緑釉高台						—	破片	覆土	猿投産
10	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
11	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
12	灰釉陶器						—	破片	覆土	施釉ハケヌリ 東濃産
13	土師甕	(22.6)			A B F	良好	にぶい橙	20	カマド	口縁部内外面強い横ナデ 胴部外面←方向へラ削り 内面へラ横ナデ
14	土師甕	(19.5)			A B	良好	にぶい橙	15	カマド	
15	土師甕			4.5	A B F J	普通	橙	60	カマド	



第168图 第85号住居跡出土遺物



第169图 第86号住居跡出土遺物

第86号住居跡出土遺物観察表 (第169図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏			(5.4)	A G	普通	灰黄	30	カマド	底部右回転糸切り
2	須恵坏			(5.7)	A J	良好	灰	60	覆土	
3	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
4	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
5	土師甕	(18.5)			A B F	普通	にぶい橙	15	カマド	胴部外面へラ削り 内面へラ横ナデ
6	土師甕	(14.5)			A B F	普通	にぶい橙	20	床直	胴部外面へラ削り 内面へラ横ナデ
7	土師甕	(15.1)			A F	普通	にぶい橙	20	カマド	胴部外面へラ削り 内面ナデ
8	土師甕			(5.4)	A F J	普通	にぶい橙	30	カマド	砂礫が多量に付着

第87号住居跡 (第170・171図)

L-11グリッドに位置する。第85・99・124号住居跡と重複し、切り合いから第85号住居・当住居跡・第99号住居跡・第124号住居跡の順に古くなる。規模は、確認できた東西2.90m、南北2.46m、深さ24cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。東西方向を主軸とすると方位は、N-85°-Eを指す。

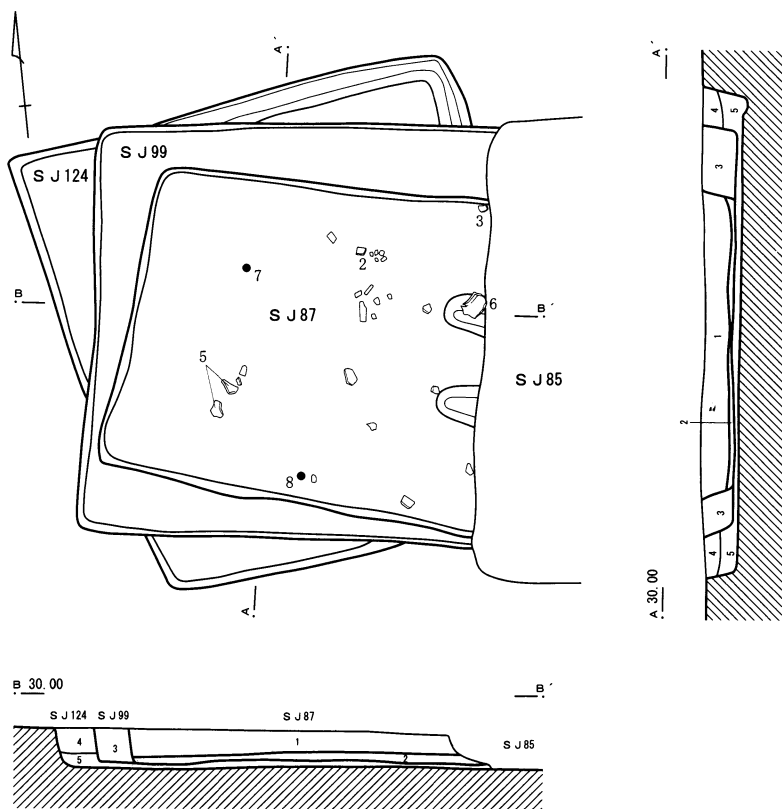
カマドは確認できなかったが、ピット2基が東側で確認できた。

遺物は、須恵器坏・埴・高台付埴、土師器甕、土

錘の他、鉄製品が出土した。9は管状の鉄製品である。厚さ約0.2cmの鉄板を丸めたもので、長さは3.8cm、断面径は0.9cmである。接合部分の中ほどが大きくめくれあがっている。用途は不明である。

第99号住居跡 (第170・172図)

L-11グリッドに位置する。第5・99・124号住居跡と重複し、第85・87号住居跡に切られ、第124号住居跡を切る。規模は、確認できた東西3.02m、南北3.22m、深さ26cm程を測る。平面形は、長方形を呈すると推定される。東西方向を主軸とすると方位は、N-95°-Eを指す。



- 第87号住居跡
- 1 暗褐色土 焼土粒・炭化物・灰少量
- 2 灰褐色土 (貼り床)
- 第99号住居跡
- 3 暗褐色土 焼土粒・炭化物・灰少量
- 第124号住居跡
- 4 灰褐色土 焼土粒・炭化物・粘土粒少量

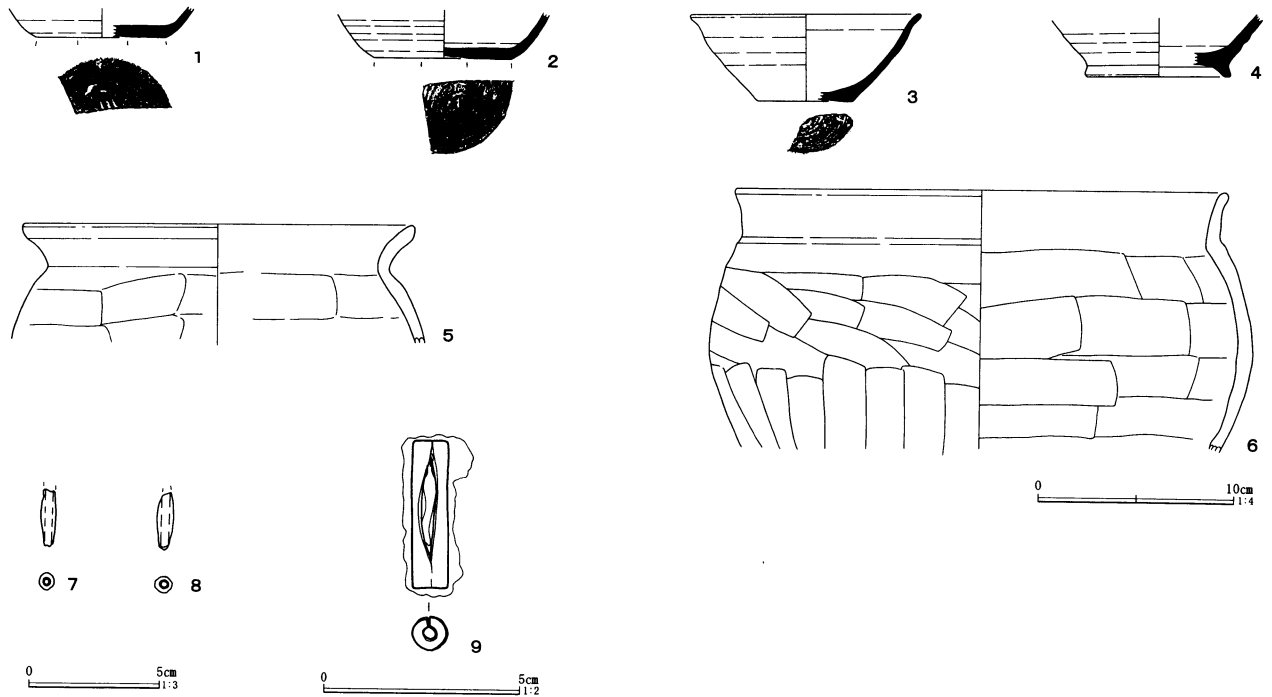
0 2m 1:60

第170図 第87・99・124号住居跡

カマド等の施設は、確認できなかった。
遺物は、須恵器蓋、土錘が出土した。

第124号住居跡 (第170図)

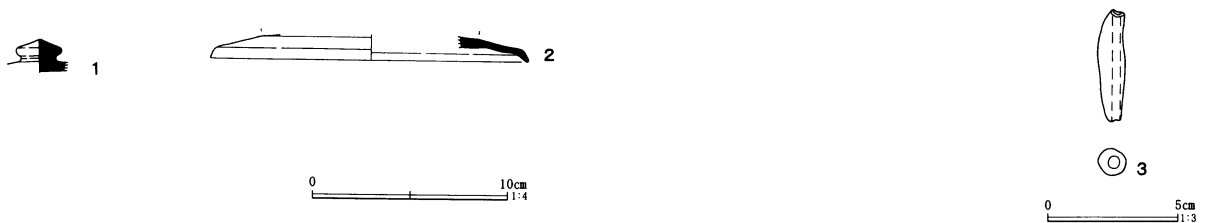
L-11 グリッドに位置する。規模は、西壁で南北3.60 m、北壁で東西3.48 m、深さ29cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-78°-Eを指す。



第171図 第87号住居跡出土遺物

第87号住居跡出土遺物観察表 (第171図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏			(6.6)	A G H	良好	灰	30	覆土	底部糸切り後、右回転周辺へラ削り
2	須恵碗			(7.0)	A G H	良好	灰	20	覆土	底部糸切り後、右回転周辺へラ削り
3	須恵坏	(11.6)	4.4	(4.8)	A I	良好	灰	15	覆土	底部回転糸切り
4	須恵高台碗			(7.4)	A B F J	不良	にぶい黄橙	25	覆土	
5	土師甕	(19.7)			A B F	良好	灰黄褐	20	覆土	
6	土師甕	(24.8)			A B F	良好	暗灰黄	20	覆土	胴部外面へラ削り 内面へラナデ
7	土錘	長さ(2.2)	径0.7	孔径0.15		普通	黒褐	90	覆土	
8	土錘	長さ(2.1)	径0.6	孔径0.15		普通	黒褐	90	覆土	



第172図 第99号住居跡出土遺物

第99号住居跡出土遺物観察表 (第172図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵蓋				A	良好	灰オリーブ	60	覆土	外面自然釉
2	須恵蓋	(16.2)			A G	良好	灰白	10	覆土	天井部外面回転ヘラ削り
3	土錘	長さ4.3	径1.1	孔径0.3		普通	橙	100	覆土	

第89号住居跡 (第173・174図)

Q-23グリッドに位置する。第74・90号住居跡と重複し、第74号住居跡に切られ、第90号住居跡を切ることから、第74号住居跡・第89号住居跡・第90号住居跡の順に古くなる。規模は、主軸長東西2.97m、東壁1.95m、西壁2.50m、深さ44cm程を測る。平面形は、歪んだ台形を呈する。主軸方位は、N-89°-Eを指す。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、105cm×100cm、深さ15cmを測る。

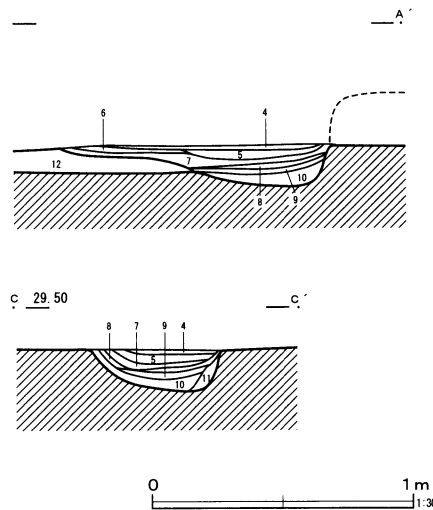
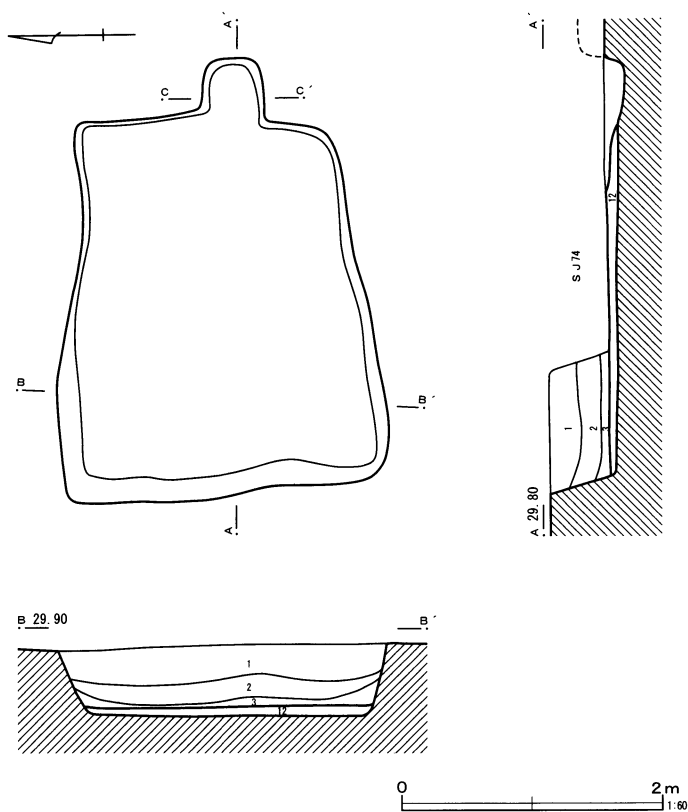
遺物は、土師器坏・甕・台付甕、須恵器坏・高台付壺・皿・甌が出土した。

第90号住居跡 (第175・176図)

Q-22・23グリッドに位置する。第98号住居跡と重複し、南東隅からカマド南半が切られている。規模は、主軸長東西3.94m、南北3.01m、深さ40cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-90°-Eを指す。

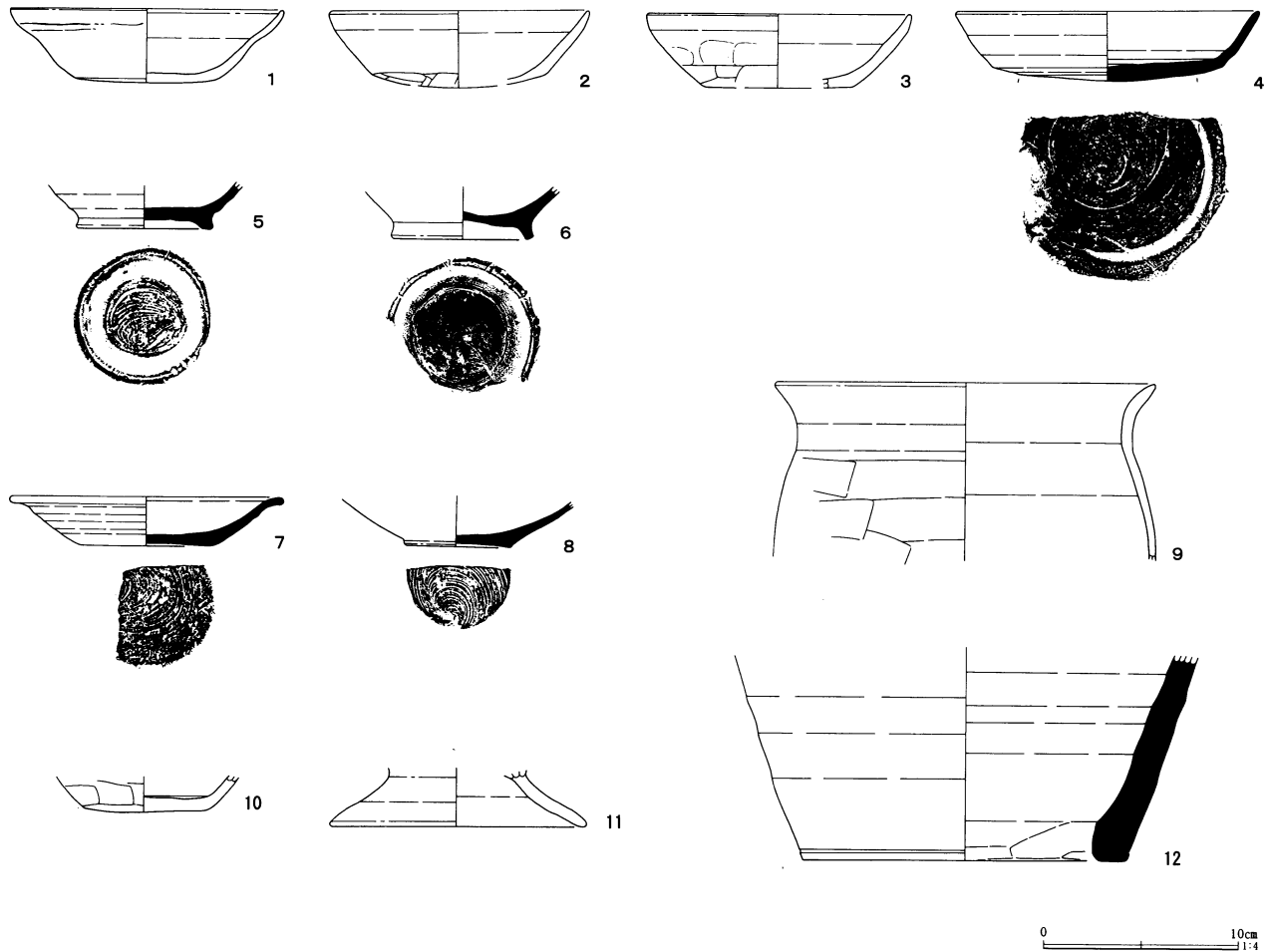
カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、90cm×26cmが確認でき、床面と同じ高さである。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏が出土した。



- 1 暗灰褐色土 白色粒・炭化物少量 焼土粒やや多量
- 2 暗灰褐色土 焼土粒やや多量
- 3 暗灰黄色土 焼土粒・炭化物少量 粘土やや多量
- 4 暗灰褐色土 灰層 焼土粒少量
- 5 暗灰褐色土 灰層 焼土粒・炭化物やや多量
- 6 暗黄褐色土 焼土粒少量 粘土多い
- 7 暗黒褐色土 灰層 焼土粒少量 炭化物多量
- 8 暗灰褐色土 焼土ブロック多量
- 9 暗灰褐色土 焼土粒少量 炭化物・灰多量
- 10 黄褐色土 粘土との混土層
- 11 暗灰褐色土 焼土粒少量 灰多量
- 12 暗黄灰色土 焼土ブロックやや多量 炭化物少量(掘り方)

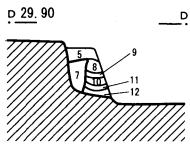
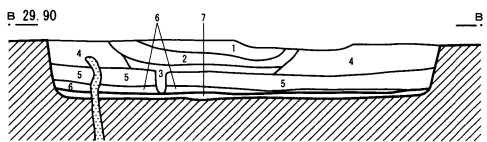
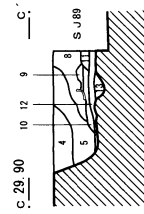
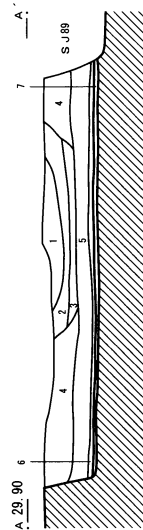
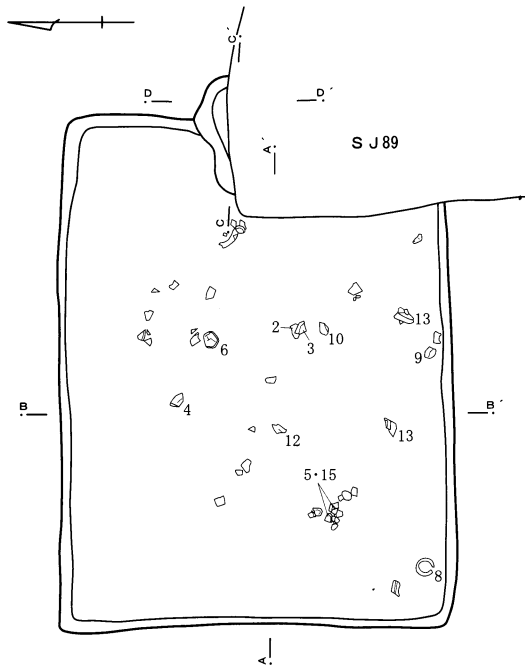
第173図 第89号住居跡



第 174 図 第 89 号住居跡出土遺物

第 89 号住居跡出土遺物観察表 (第 174 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.9)	3.8		A F	普通	橙	40	覆土	口唇内外面ロクロナデ 底部ヘラ削り
2	土師坏	13.1		(8.9)	A B F	良好	明赤褐	30	覆土	口縁部内外面ロクロナデ
3	土師坏	(13.4)	3.8	(7.5)	A B F	良好	にぶい褐	15	覆土	体部外面中位ヘラ削り後指ナデ 底部ヘラ削り
4	須恵坏	(15.3)	3.5	(9.1)	G	普通	灰	50	覆土	底部全面右回転ヘラ削り
5	須恵高台埴			6.9	A J	良好	灰	100	覆土	底部糸切り
6	須恵高台埴			(6.9)	F	良好	橙	80	覆土	酸化焰焼成
7	須恵皿	(13.8)	2.5	(6.8)	J	普通	灰白	30	覆土	底部右回転糸切り
8	須恵皿			5.4	A J K	良好	灰	40	覆土	
9	土師甕	(19.2)			F	良好	橙	15	覆土	口縁内面～頸部外面ロクロナデ
10	土師甕			5.2	A B F	普通	橙	60	覆土	底部一方向ヘラ削り
11	土師台付甕			13.0	A F	良好	黒褐	20	覆土	脚部 裾部ロクロナデ
12	須恵甗			(16.5)	A E K	良好	灰白	15	覆土	



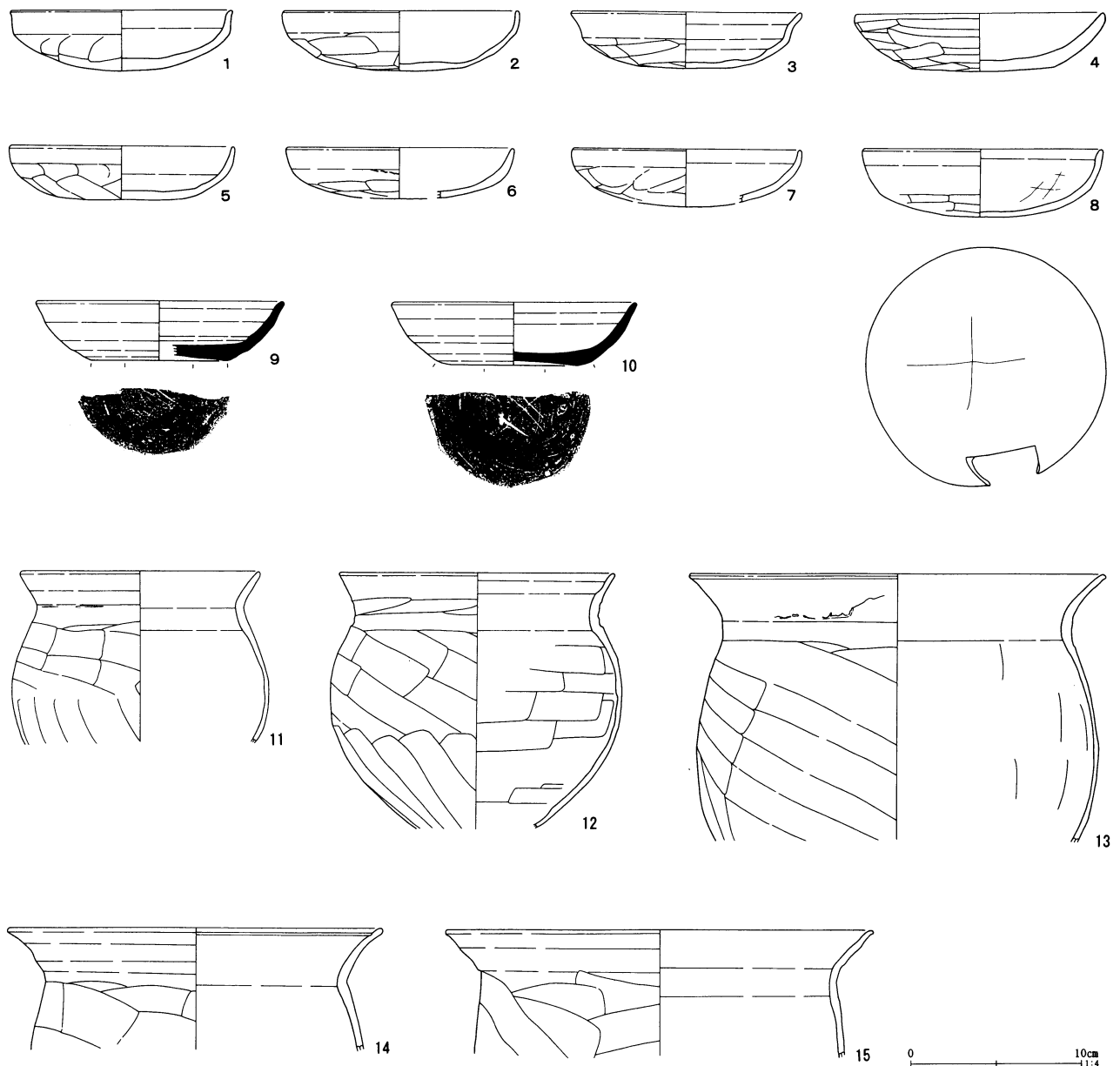
- 1 暗灰褐色土 焼土ブロック多量
- 2 暗灰褐色土 焼土ブロックやや多量
- 3 暗灰褐色土 焼土ブロックやや多量
- 4 暗灰褐色土 焼土ブロック少量
- 5 暗灰褐色土 焼土粒少量、灰色粘土多量、黄褐色粘土ブロック混入 (完形土器を含む層)
- 6 灰褐色土 粘土を主体とする、焼土粒少量
- 7 黄褐色土 粘土・黄褐色土の混土層 (貼り床及びカマド構築土)
- 8 暗灰褐色土 焼土ブロック少量 灰白色粘土ブロック多量
- 9 淡赤褐色土 焼土層 カマド天井崩落土
- 10 暗黄灰褐色土 焼土粒少量 黄白色粘土ブロック含む
- 11 暗灰褐色土 焼土ブロック多量
- 12 暗灰褐色土 灰層 炭化物やや多量
- 13 暗灰褐色土 焼土粒微量 炭化物・灰少量

0 2m
1:60

第 175 図 第 90 号住居跡

第 90 号住居跡出土遺物観察表 (第 176 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.9)	3.5		A	良好	橙	70	覆土	口縁部内外面ロクロナデ 体部内面指ナデ
2	土師坏	(13.8)	3.5		A F G	普通	にぶい黄褐	80	覆土	
3	土師坏	(13.5)	3.3		A F	普通	橙	60	覆土	口縁部内外面ロクロナデ
4	土師坏	(14.5)	3.4	(8.5)	A F G	良好	橙	45	覆土	口縁部内面一部器壁剥離
5	土師坏	(13.2)	3.2		A B C	良好	橙	40	覆土	体部上位横ナデ
6	土師坏	(13.2)	3.0		A B F	良好	明褐	25	カマド	体部外面上位横ナデ
7	土師坏	(13.2)	3.4		A B	良好	橙	20	覆土	内面ロクロナデ 体部外面上位横ナデ
8	土師坏	13.8	4.0		A B F	良好	橙	95	覆土	口縁部外面~体部内面ロクロナデ 底部内外面にヘラ記号
9	須恵坏	(14.2)	3.5	(8.0)	G	普通	灰白	30	覆土	底部糸切り後外周右回転ヘラ削り
10	須恵坏	(14.2)	3.7	7.5	G	普通	灰白	50	覆土	右回転外周ヘラ削り、体部下端に及ぶ底部外面「キ」のヘラ記号
11	土師甕	(13.8)			A C	良好	橙	25	覆土	
12	土師甕	(16.1)			A B C	良好	橙	30	覆土	外面ヘラ削り 内面ナデ
13	土師甕	(24.2)			A B	良好	橙	50	覆土	外面ヘラ削り
14	土師甕	(21.6)			A F	良好	橙	25	覆土	
15	土師甕	(24.9)			A B	良好	にぶい黄橙	25	覆土	



第176図 第90号住居跡出土遺物

第91号住居跡 (第177・178図)

P-17グリッドに位置する。第33号土坑と重複し、切られている。規模は、主軸長東西3.44m、南北2.96m、深さ6cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-93°-Eを指す。

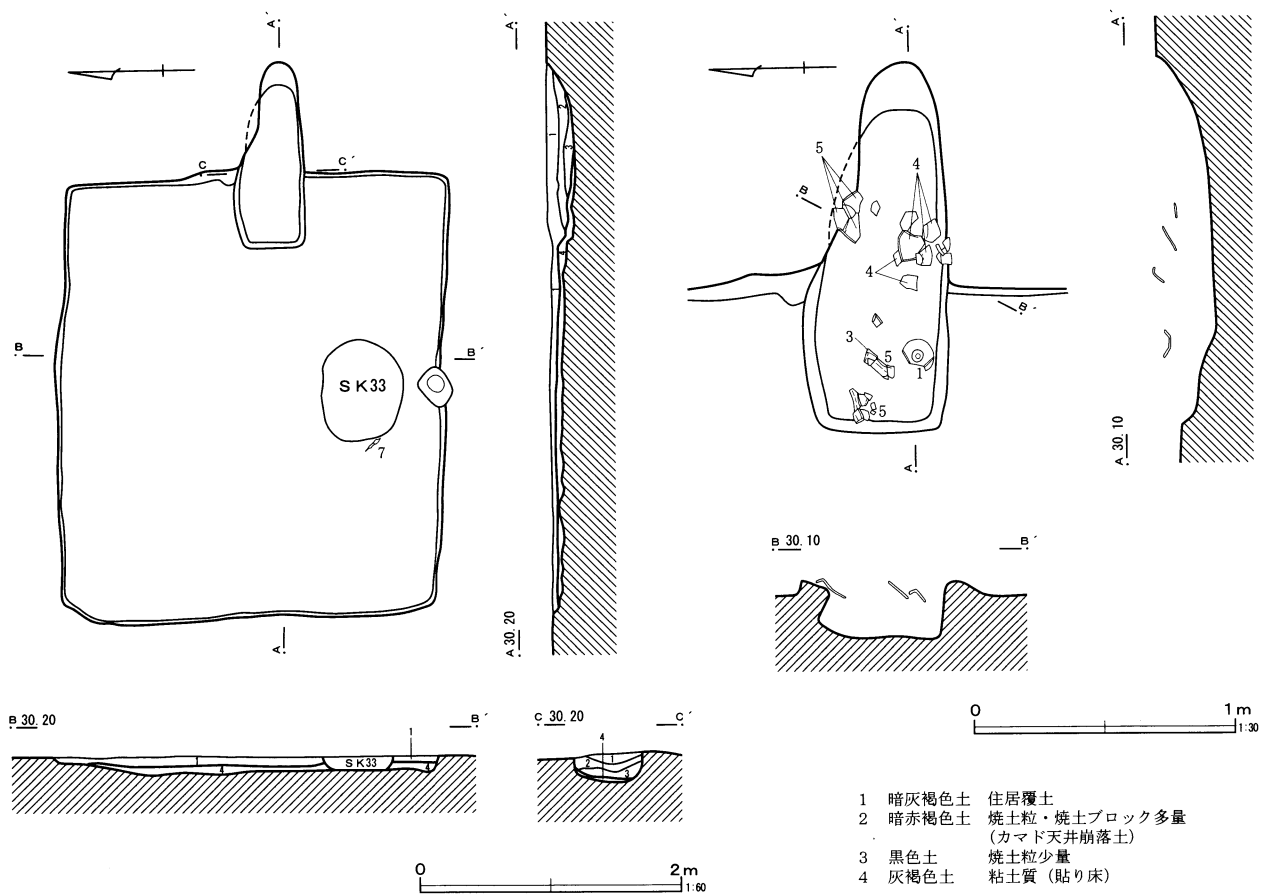
カマドは、東壁に設けられている。燃烧部は、128cm×54cm、深さ12cmを測る。

遺物は、須恵器坏・皿・甕、土師器甕の他に、刀子が出土した。7は鉄製刀子である。現存長14.5cm、刃幅は最大で1.7cm、背幅0.3cmである。切先と茎先を欠く。関は不均等な両関である。

第92号住居跡 (第179・180図)

K-10グリッドに位置する。規模は、東西3.48m、南北2.56m、深さ10cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。東西方向を主軸とすると方位は、N-85°-Eを指す。

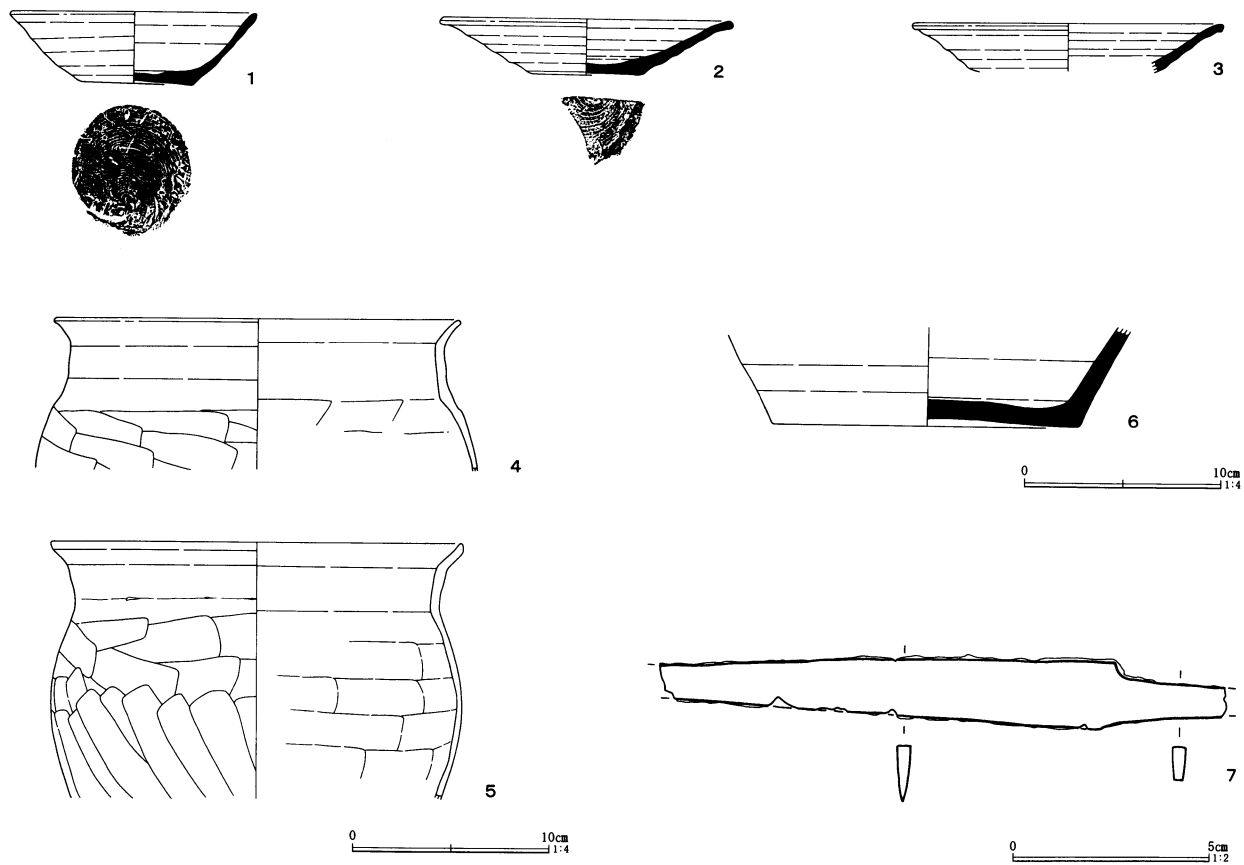
遺物は、土師器坏・甕・小型甕、須恵器坏・皿・高台付碗・甕、緑釉陶器高台付皿が出土した。



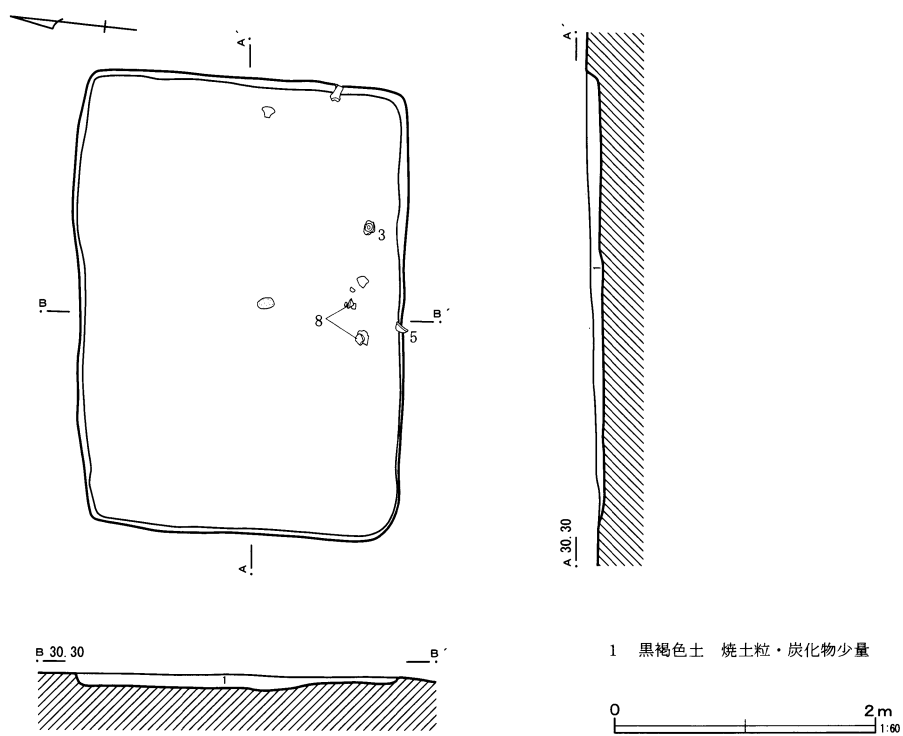
第177図 第91号住居跡

第91号住居跡出土遺物観察表 (第178図)

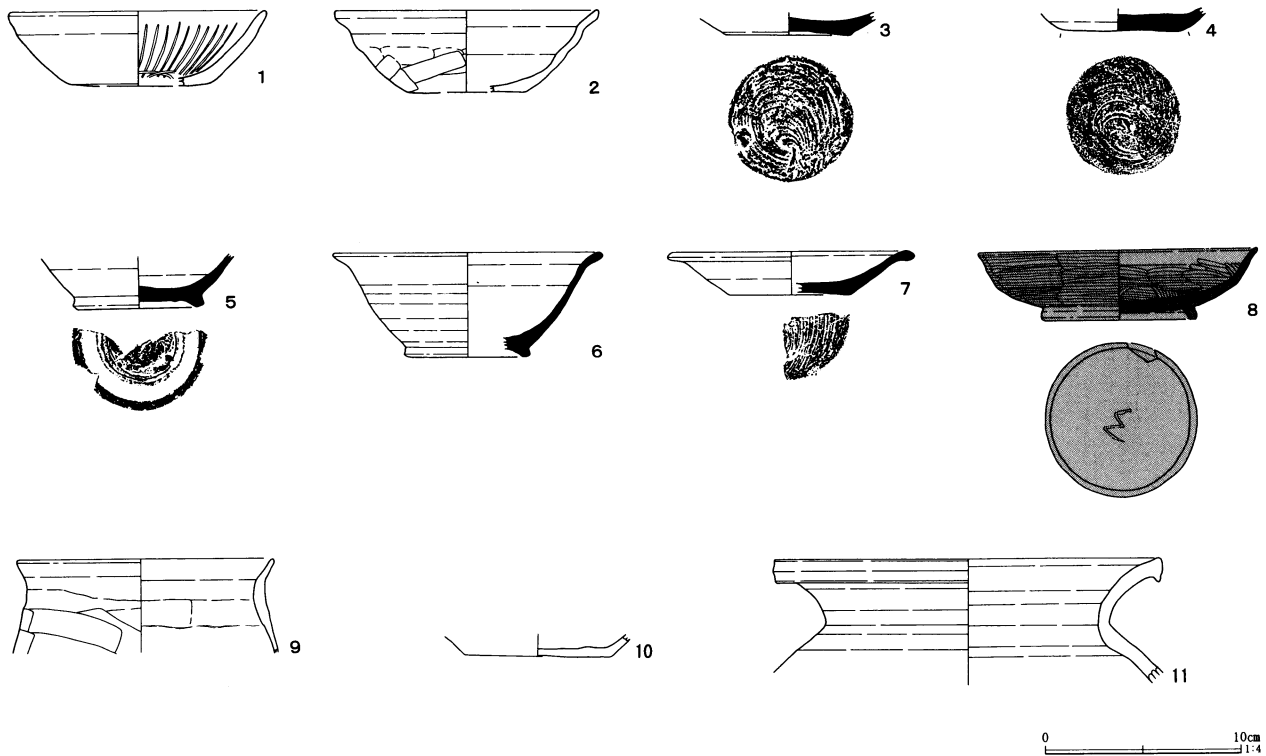
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	12.4	3.7	5.7	ACG	不良	灰	100	カマド	歪みあり
2	須恵皿	(14.6)	2.9	(5.3)	ACF	普通	浅黄	10	カマド	
3	須恵皿	(15.7)			AF	普通	灰黄	20	カマド	
4	土師甕	(20.4)			ABF	普通	橙	70	カマド	口縁部外面斑状に油煙
5	土師甕	20.7			ABF	普通	橙	70	カマド	
6	須恵甕			15.5	AF	普通	にぶい褐	80	カマド	底部一方向平行ヘラ削り 酸化焰焼成



第178图 第91号住居跡出土遺物



第179图 第92号住居跡



第180図 第92号住居跡出土遺物

第92号住居跡出土遺物観察表 (第180図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.0)	3.8	(7.0)	A B C F	良好	にぶい橙	10	覆土	暗文土器 体部外面ヘラナデ
2	土師坏	(13.4)	4.2	(6.2)	A B	普通	にぶい黄褐	10	覆土	
3	須恵坏			6.5	A	良好	暗灰黄	底部	覆土	
4	須恵坏			6.2	A C J	良好	青灰	底部	覆土	底部糸切り後2回の右回転ヘラ削り
5	須恵高台碗			(6.6)	A G K J	良好	灰	40	覆土	
6	須恵高台碗	(13.3)	5.3	(6.4)	A G J	普通	灰	15	覆土	
7	須恵皿	(12.6)	2.2	(6.3)	C G J	普通	褐灰	25	覆土	
8	緑釉高台椀皿	(14.2)	3.6	7.8	A G	良好	灰オリーブ	70	覆土	内外面ヘラ磨き 底部「M」字状ヘラ描き 猿投産
9	土師小型甕	(12.9)			A B C F	良好	にぶい橙	20	覆土	
10	土師甕			(7.4)	A B C	普通	橙	20	覆土	底部一方向平行ヘラ削り
11	須恵甕	(19.8)			A C F K	普通	にぶい黄橙	15	覆土	酸化焰焼成

第93号住居跡 (第181・182図)

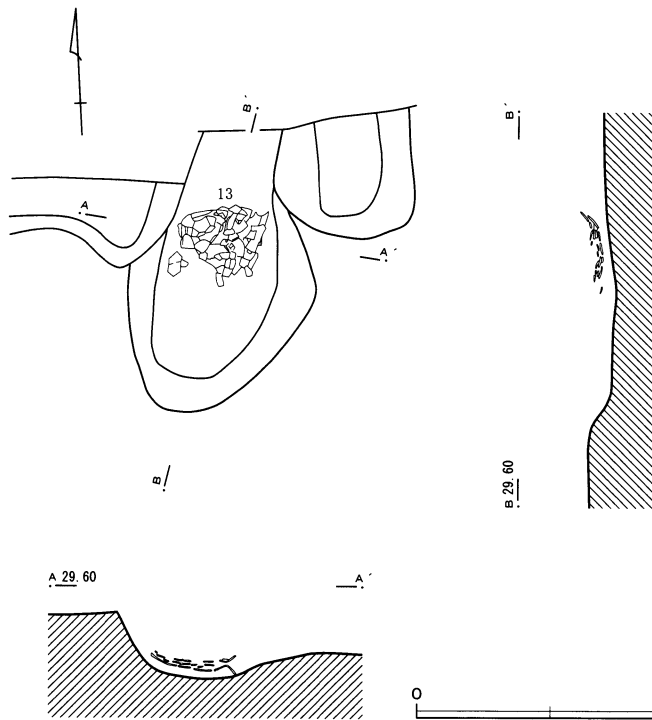
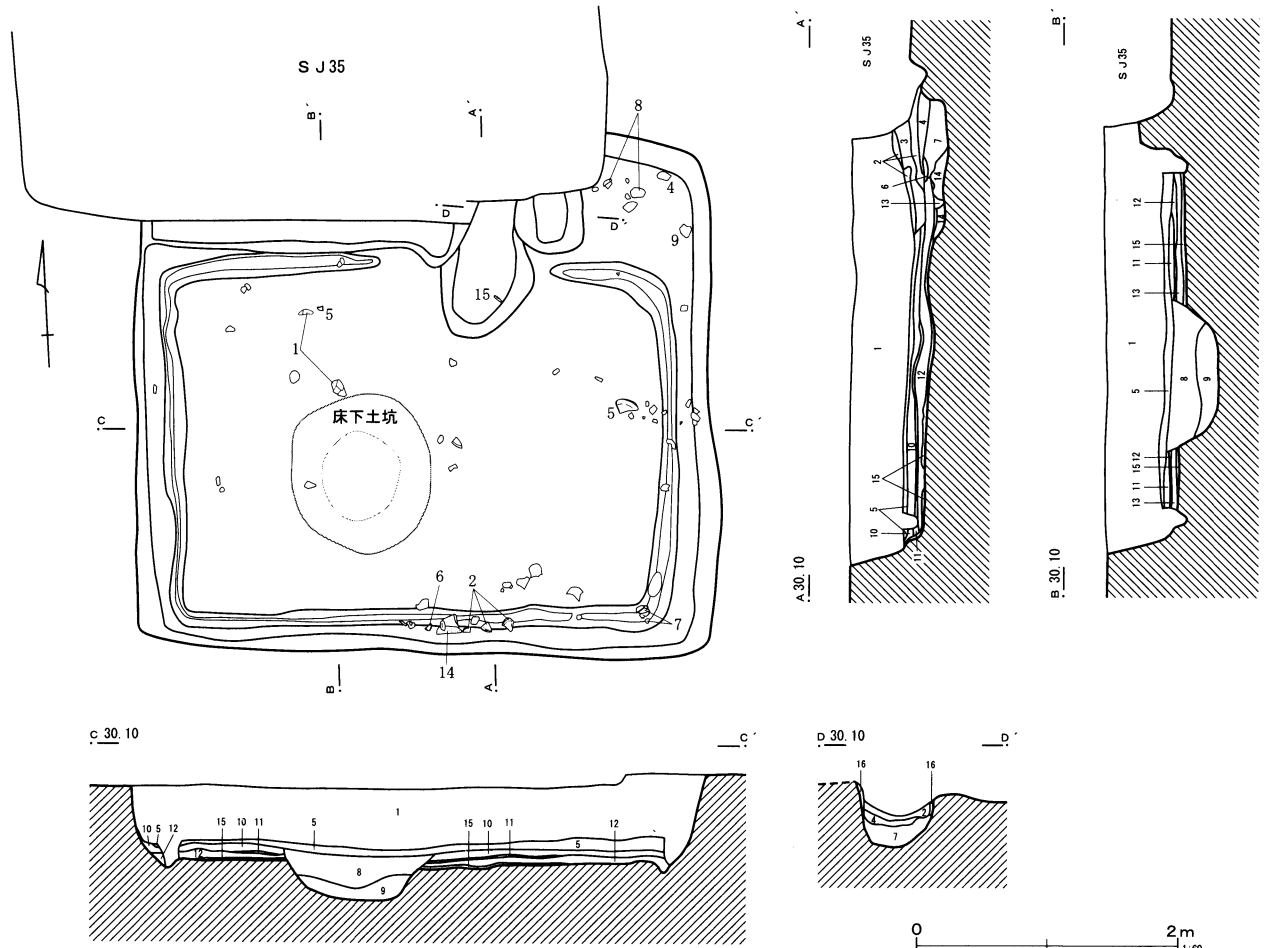
Q-20グリッドに位置する。第35a・35b号住居跡と重複し、カマドと北壁が切られている。規模は、主軸長東壁で南北4.02m、東西4.42m、深さ44cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-5°-Eを指す。

壁溝はカマドを除いて全周し、幅9~25cm、深

さ20cm程を測る。

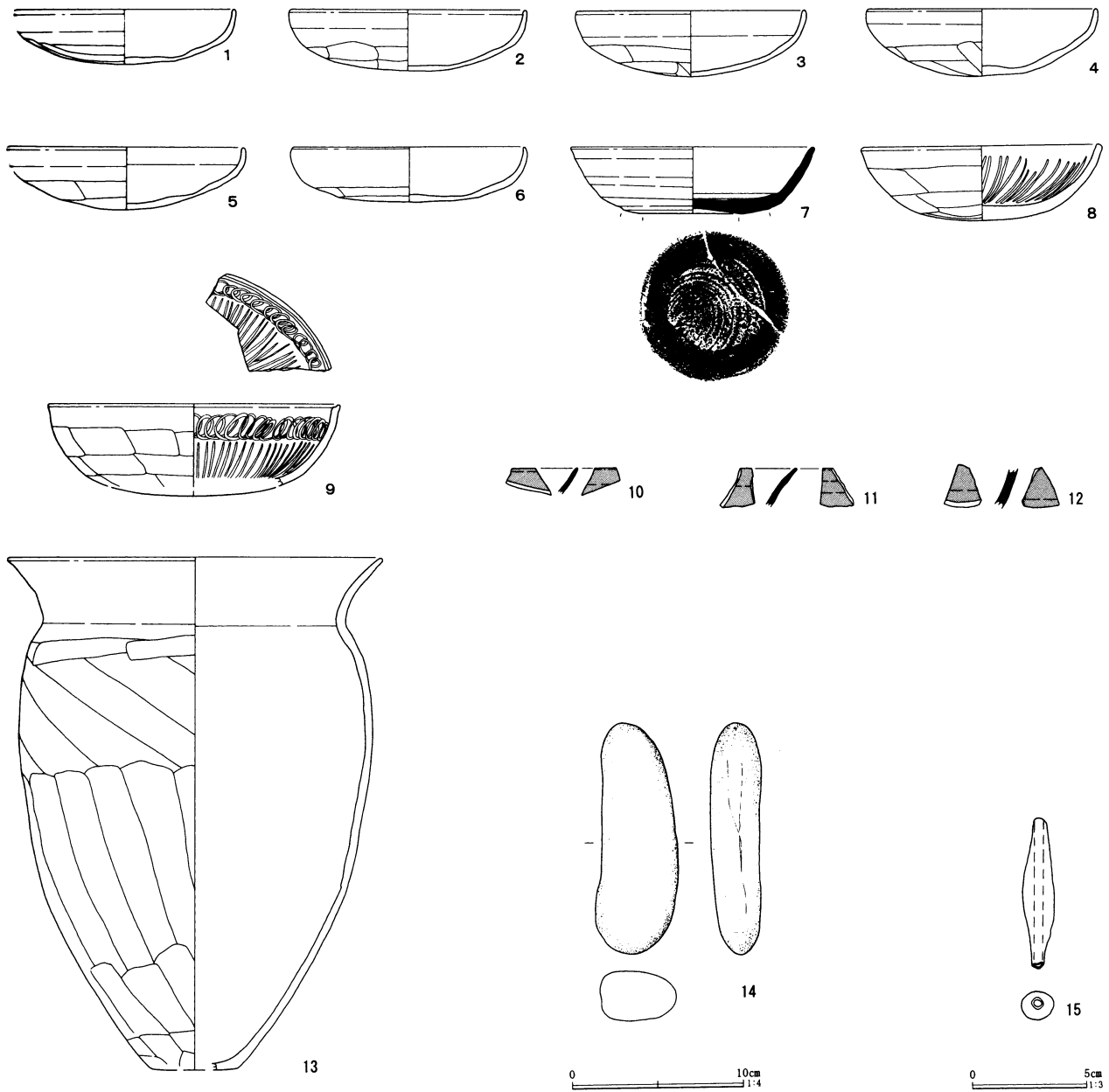
カマドは、北壁やや東寄りに設けられ、先端が切られている。燃烧部は、確認できた105cm×70cm、深さ25cmを測る。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏、土錘、石器、緑釉陶器破片が出土した。



- | | | |
|----|-------|------------------------------|
| 1 | 暗褐色土 | 焼土粒・炭化物混入 |
| 2 | 暗黄褐色土 | 焼土粒・炭化物混入 (カマド天井崩落土) |
| 3 | 灰褐色土 | 焼土粒・炭化物混入 |
| 4 | 黒色土 | 灰層 |
| 5 | 灰褐色土 | 焼土粒・炭化物微量 (貼り床1) |
| 6 | 明灰色土 | 灰層 |
| 7 | 明灰褐色土 | 焼土粒・焼土ブロック・炭化物少量 (カマド掘り方) |
| 8 | 茶褐色土 | 焼土粒・炭化物少量 (床下土坑1) |
| 9 | 灰黒色土 | 炭化物層 焼土粒・黄褐色粘土ブロック混入 (床下土坑1) |
| 10 | 灰褐色土 | 暗黄褐色粘土粒少量 (貼り床2) |
| 11 | 暗灰褐色土 | 焼土粒・炭化物少量 |
| 12 | 灰褐色土 | (貼り床3) |
| 13 | 灰黒色土 | 灰層 焼土粒・炭化物混入 (貼り床3のカマド灰層) |
| 14 | 暗黄褐色土 | (貼り床3のカマド掘り方) |
| 15 | 黄褐色土 | 炭化物微量 |
| 16 | 黄灰色土 | (貼り床1のカマド構築土) |

第181図 第93号住居跡



第182図 第93号住居跡出土遺物

第93号住居跡出土遺物観察表 (第182図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.8	3.2		AC	良好	にぶい橙	90	覆土	口縁部内外面横ナデ 内面油煙痕
2	土師坏	13.8	3.6		ABC	良好	にぶい橙	70	覆土	口縁部内外面横ナデ
3	土師坏	(13.3)	3.9		ABC	良好	にぶい橙	40	覆土	口縁部内外面横ナデ
4	土師坏	13.3	3.9		BCF	普通	明赤褐	75	覆土	
5	土師坏	13.7	3.7		ABC	良好	にぶい橙	70	覆土	口縁部内外面横ナデ 内面一部に油煙付着
6	土師坏	(13.5)	3.2		ABC F	普通	橙	30	覆土	
7	須恵坏	14.1	3.9	8.5	AG	普通	灰	90	覆土	底部糸切後周辺ヘラ削り後ナデ
8	土師坏	(13.7)	4.3		ABC	良好	橙	70	覆土	暗文土器(放射状)
9	土師坏	(16.8)			ABC	良好	橙	10	覆土	暗文土器(螺旋・放射状)
10	緑釉陶器						—	口縁	覆土	猿投産

第93号住居跡出土遺物観察表 (第182図)

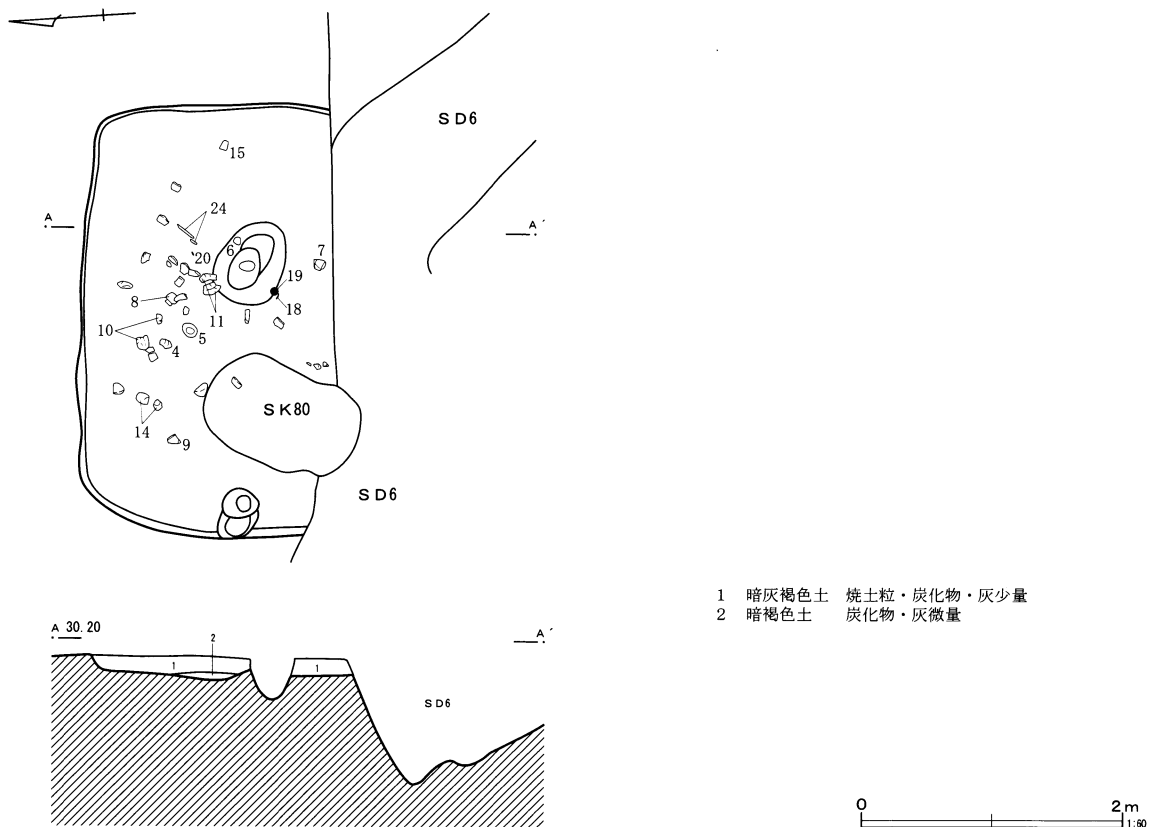
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
11	緑釉陶器						—	口縁	覆土	猿投産
12	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
13	土師甕	22.1	30.0	(5.0)	A B F	良好	明赤褐	75	カマド	
14	編み物石	長さ13.5 幅4.7 厚さ2.9				—		—	覆土	
15	土錘	長さ6.6 径1.65 孔径0.3				普通	灰黄褐	90	カマド	

第94号住居跡 (第183・184図)

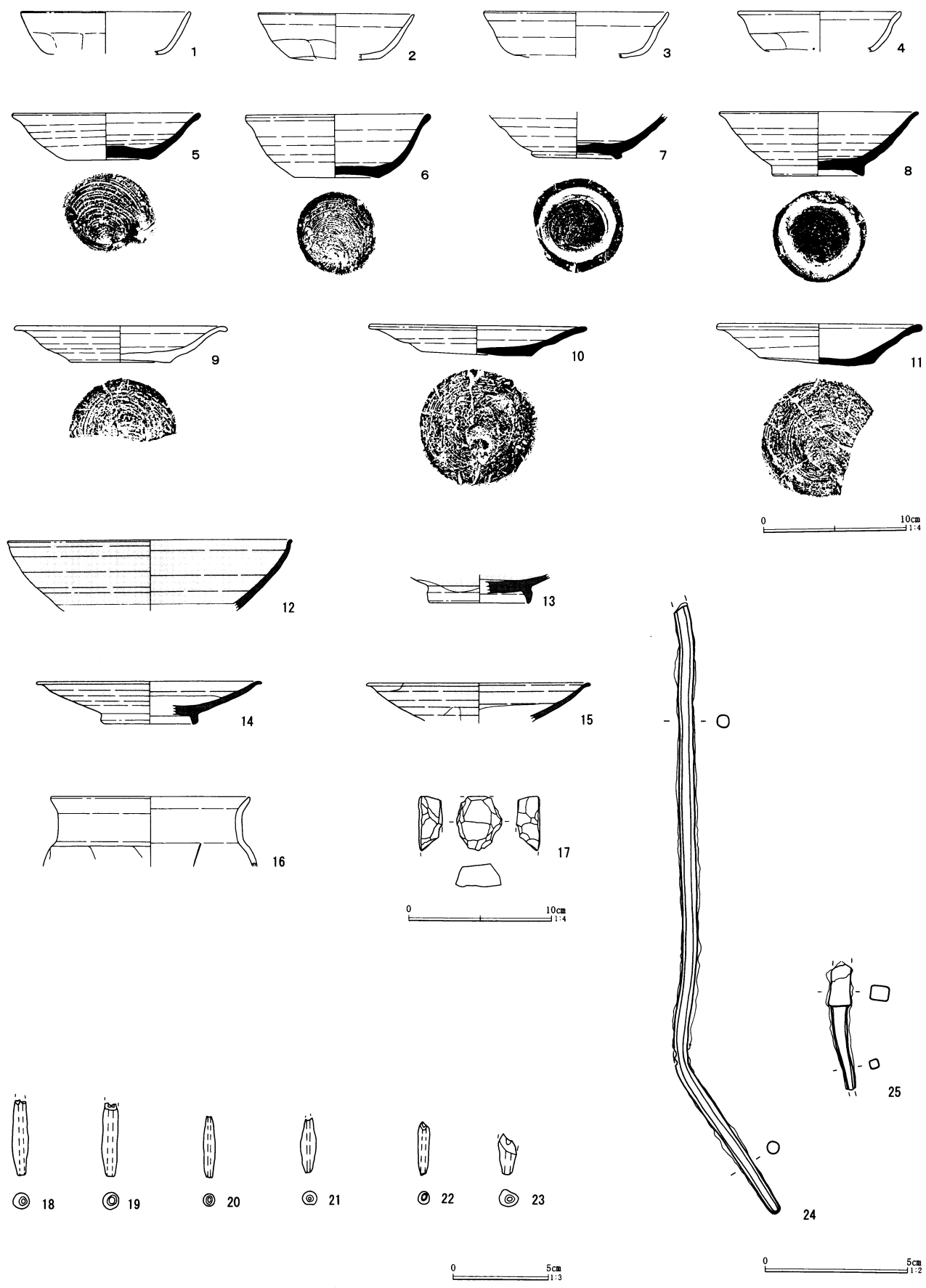
L・M-11グリッドに位置する。第80号土坑・第6号溝と重複し、南半が溝・土坑に切られている。規模は、北壁で東西3.30m、確認できた南北2.00m、深さ44cm程を測る。東壁を基準とすると主軸方位は、N-96°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏、須恵器坏・高台付碗・皿、灰釉陶器高台付碗・高台付皿の他に、砥石、土錘、鉄製品が出土した。24は現存長21.6cm、径0.4cmの丸棒状の鉄製品である。約1/3の部分でゆるく折れている。紡錘車の軸である可能性がある。25は角閔を有する鉄鏃と考えられる。現存長4.4cm。



第183図 第94号住居跡



第 184 图 第 94 号住居跡出土遺物

第94号住居跡出土遺物観察表 (第184図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(11.8)		(8.0)	AC	普通	橙	25	覆土	
2	土師坏	(10.9)		(6.4)	AC	普通	にぶい橙	15	覆土	体部外面下半へラ削り
3	土師坏	(12.8)		(8.8)	ABJ	普通	橙	10	覆土	
4	土師坏	(11.3)			AB	普通	橙	40	覆土	体部外面下半へラ削り
5	須恵坏	13.1	3.3	6.0	ACJ	普通	灰	100	覆土	歪みあり
6	須恵坏	(12.6)	4.4	5.8	AJ	普通	灰	30	覆土	
7	須恵高台埴			6.3	ABG	普通	灰黄	40	床直	底部回転糸切り
8	須恵高台埴	(13.7)	4.5	6.3	ACK	普通	灰黄	65	覆土	
9	須恵皿	(14.9)	3.6	(7.0)	FJK	普通	にぶい赤褐	40	覆土	酸化焙焼成
10	須恵皿	15.2	2.0	7.7	AGK	普通	灰	85	覆土	歪みあり
11	須恵皿	14.5	2.8	8.1	AGJ	普通	灰	70	覆土	歪み大
12	灰釉埴	(19.7)			GK	良好	灰白	10	覆土	体部外面下端右回転へラ削り 施釉ツケガケ 東濃産
13	灰釉高台埴			(7.1)	AG	良好	灰白	20	覆土	底部高台内へラ削り 施釉内外面ハケヌリ 浜北産
14	灰釉高台皿	(15.8)	3.0	(6.5)	AG	良好	灰白	15	覆土	底部高台内へラ削り 施釉内外面ハケヌリ 浜北産
15	灰釉皿	(15.6)			AG	良好	灰白	20	覆土	施釉ツケガケ 浜北産
16	土師甕	(13.9)			ABF	普通	橙	15	覆土	
17	砥石	長さ3.8	幅3.2	厚さ1.6		—	—	—	覆土	
18	土錘	長さ4.1	径0.9	孔径0.3		普通	褐灰	95	覆土	
19	土錘	長さ3.9	径0.8	孔径0.3		普通	にぶい黄橙	90	覆土	
20	土錘	長さ3.3	径0.6	孔径0.15~0.2		普通	にぶい橙	95	覆土	
21	土錘	長さ3.0	径0.8	孔径0.15		普通	灰白	90	覆土	
22	土錘	長さ2.8	径0.6	孔径0.25		普通	橙	90	覆土	
23	土錘	長さ(2.2)	径1.0	孔径0.3		普通	灰白	40	覆土	

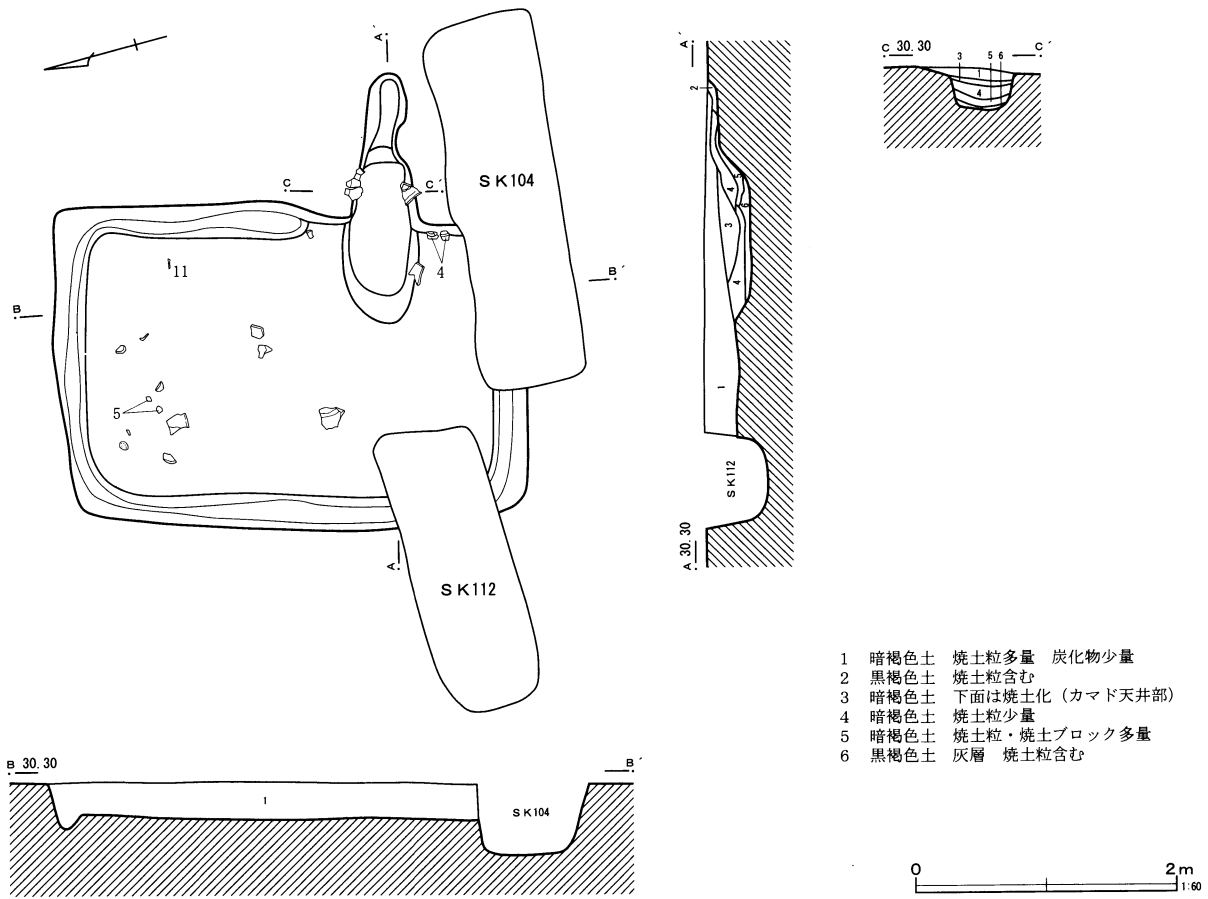
第95号住居跡 (第185・186図)

J・K-11グリッドに位置する。第104号・112号土坑と重複し、いずれの土坑にも切られている。規模は、主軸長東西2.43m、南北3.53m、深さ29cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-104°-Eを指す。

壁溝は、カマドを除き全周し、幅20~28cm、深さ29~35cmを測る。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、134cm×50cm、深さ15cmを測り、煙道部は長さ56cmが確認できた。

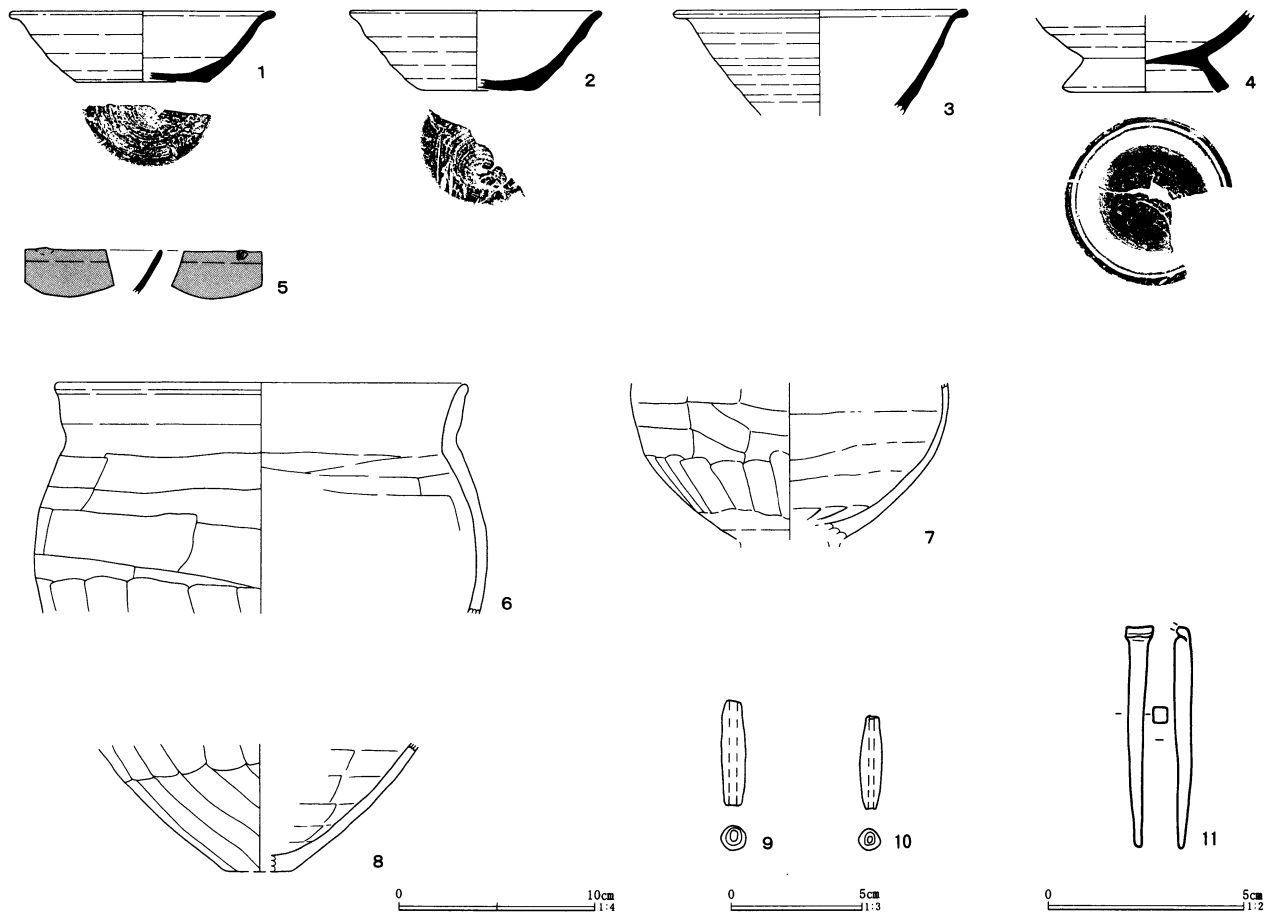
遺物は、須恵器坏・埴・高台付埴、土師器甕・台付甕、緑釉輪花埴、土錘の他、鉄製品が出土した。11は鉄製釘である。現存長5.6cm、頭部を欠いている。



第 185 図 第 95 号住居跡

第 95 号住居跡出土遺物観察表 (第 186 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(13.3)	3.6	(6.8)	A B J	良好	灰	40	覆土	底部回転糸切り 内面底部油煙 輪花碗
2	須恵坏	(12.7)	4.1	(6.1)	A B F	普通	灰白	30	覆土	
3	須恵碗	(14.6)			A B	良好	浅黄橙	20	一括	
4	須恵高台碗			8.5	A B F	普通	浅黄橙	70	床直	
5	緑釉碗					良好	—	破片	覆土	
6	土師甕	(20.8)			A B F J	普通	浅黄橙	45	覆土	
7	土師台付埴				B J	普通	にぶい黄橙	40	覆土	
8	土師甕			(3.4)	A F J	普通	にぶい褐	40	覆土	
9	土錘	長さ4.0	径0.9	孔径0.3		普通	褐灰	100	覆土	
10	土錘	長さ3.6	径0.85	孔径0.2		普通	浅黄	95	覆土	



第186図 第95号住居跡出土遺物

第96号住居跡 (第187・188図)

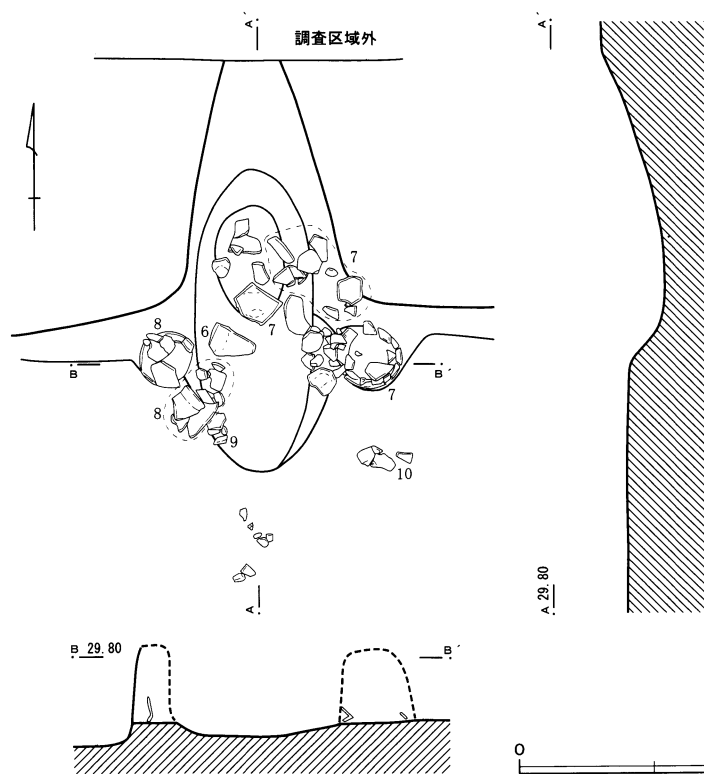
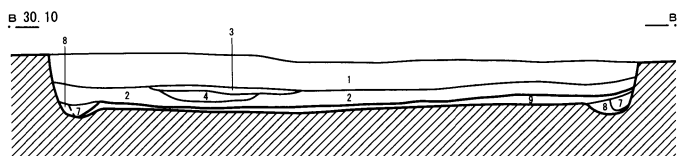
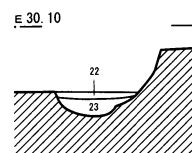
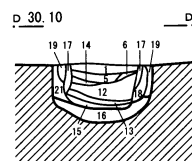
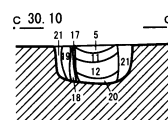
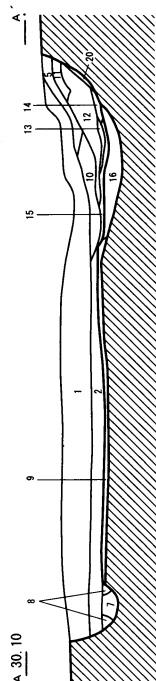
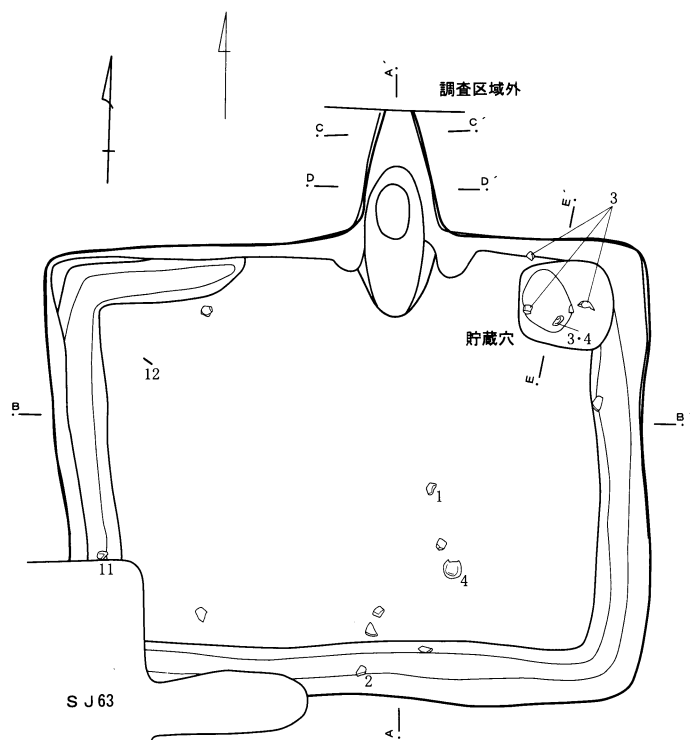
P・Q-21グリッドに位置する。南西隅は、第63号住居に壊されている。規模は、主軸長南北3.57m、東西4.56m、深さ31cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-2°-Wを指す。

壁溝は、カマドを除き全周し、幅30~54cm、深さ37~44cmを測る。

貯蔵穴は、北東隅に設けられており、48cm×72cmの長方形で、深さ50cmを測る。

カマドは、北壁に設けられている。カマドの先端部分は調査区域外となっている。燃烧部は、157cm×65cm、深さ18cmを測る。

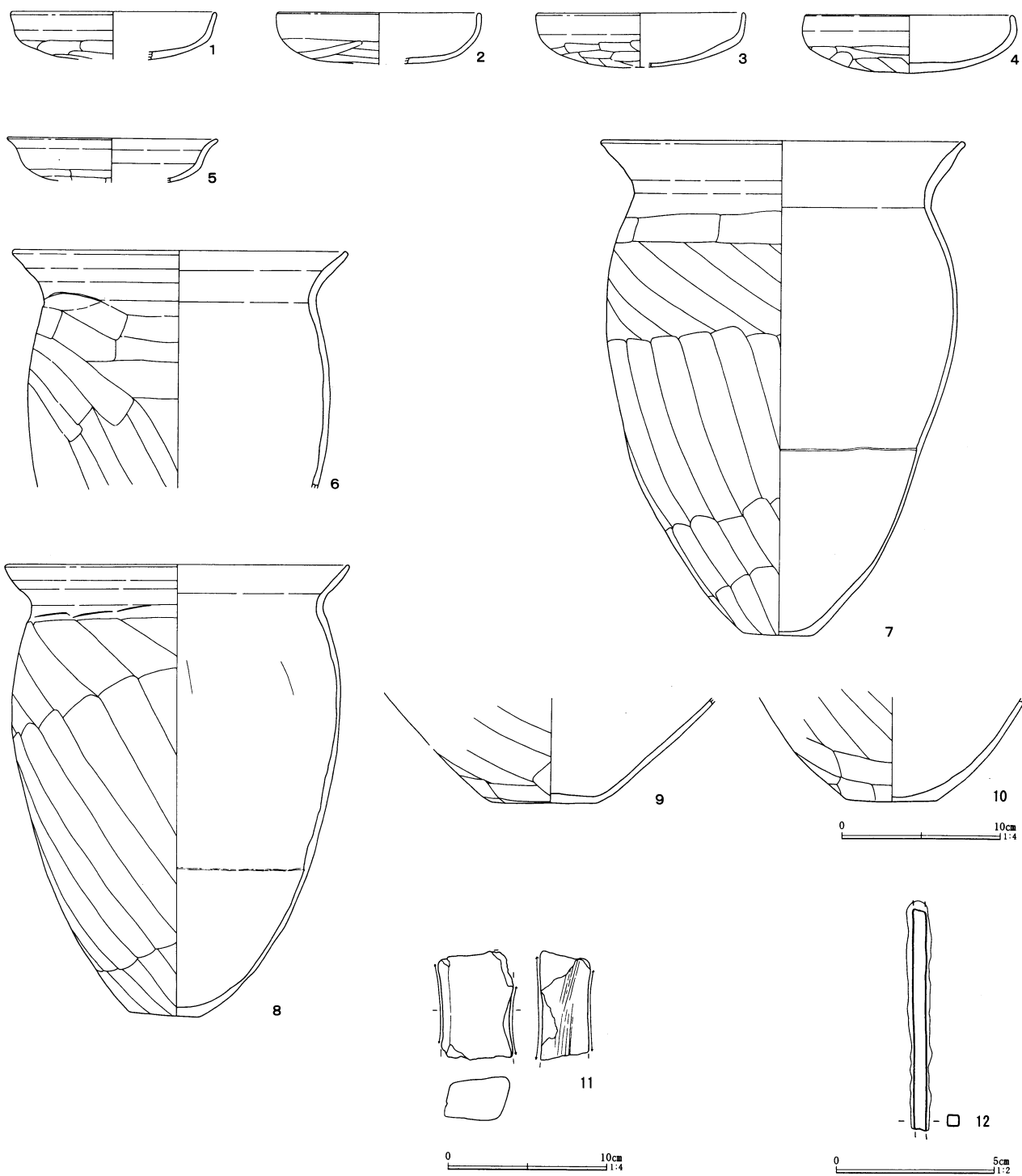
遺物は、土師器坏・甕、砥石、鉄製品が出土した。12は角棒状の鉄製品である。現存長6.9cm。用途は不明である。



- | | |
|------------|---|
| 1 暗灰褐色土 | 焼土ブロック・炭化物やや多量 |
| 2 暗灰褐色土 | 焼土粒少量 |
| 3 暗黄灰褐色土 | 焼土粒少量 黄褐色粘土ブロックやや多量 |
| 4 暗灰褐色土 | 焼土粒 黄褐色粘土ブロック少量 |
| 5 暗灰褐色土 | 焼土粒微量 |
| 6 暗灰褐色土 | 焼土粒・黄褐色粘土粒少量 |
| 7 暗灰褐色土 | 黄褐色粘土ブロックをランダムに多量含む
(周溝の埋土) |
| 8 暗灰褐色土 | 暗灰褐色土ブロックをランダムに含む
焼土粒少量 (周溝の埋土) |
| 9 暗黄灰色土 | 灰色粘土多量 (貼り床) |
| 10 暗灰褐色土 | 焼土ブロック少量 |
| 11 暗灰褐色土 | 焼土ブロック多量 |
| 12 暗灰褐色土 | 焼土粒多量 |
| 13 暗黒色土 | 焼土粒少量 炭化物・灰多量 |
| 14 暗灰褐色土 | 帯状に焼土含む (カマド天井崩落土) |
| 15 暗灰褐色土 | 灰主体 焼土粒微量 炭化物少量 |
| 16 暗黄褐色土 | 焼土粒・炭化物少量 (カマド掘り方) |
| 17 暗赤褐色土 | 粘土質 カマド側壁張り替え部分 |
| 18 暗黄灰褐色土 | 粘土質 新カマド側壁添付部分 |
| 19 淡赤褐色土 | 旧カマド側壁 |
| 20 暗灰褐色土 | 焼土ブロック多量 |
| 21 暗黄灰褐色土 | 黄褐色粘土多量 |
| 22 暗灰褐色砂質土 | 焼土ブロック・炭化物やや多量 (貯蔵穴) |
| 23 暗灰褐色砂質土 | 焼土ブロック・炭化物少量 黄灰褐色粘土
ブロックをランダムに若干含む (貯蔵穴) |



第187図 第96号住居跡



第188図 第96号住居跡出土遺物

第96号住居跡出土遺物観察表 (第188図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.8)			A B C F	普通	にぶい黄褐	10	覆土	
2	土師坏	(12.7)			A B C F	普通	橙	25	壁溝	口縁部内外面横ナデ
3	土師坏	13.0	3.4		A B F	普通	橙	90	床直 貯蔵穴	口縁部内外面横ナデ
4	土師坏	13.0	3.7		A B	普通	にぶい橙	98	貯蔵穴 覆土	口縁部内外面横ナデ
5	土師坏	(13.2)			A C F	普通	橙	10	覆土	

第96号住居跡出土遺物観察表 (第188図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
6	土師甕	(20.8)			A B F	良好	明赤褐	20	カマド	口縁部外面横ナデ
7	土師甕	22.6	31.2	4.2	A B F G J	普通	明赤褐	80	覆土	
8	土師甕	(21.5)	28.5	4.5	A F	良好	橙	70	カマド	
9	土師甕			(6.6)	A B F	普通	にぶい黄橙	30	カマド	
10	土師甕			5.7	A B F	普通	明赤褐	60	カマド	内面一部剥離
11	砥石	長さ(6.8)	幅3.5	厚さ2.2~2.6				—	壁溝	線状痕

第97号住居跡 (第189・190図)

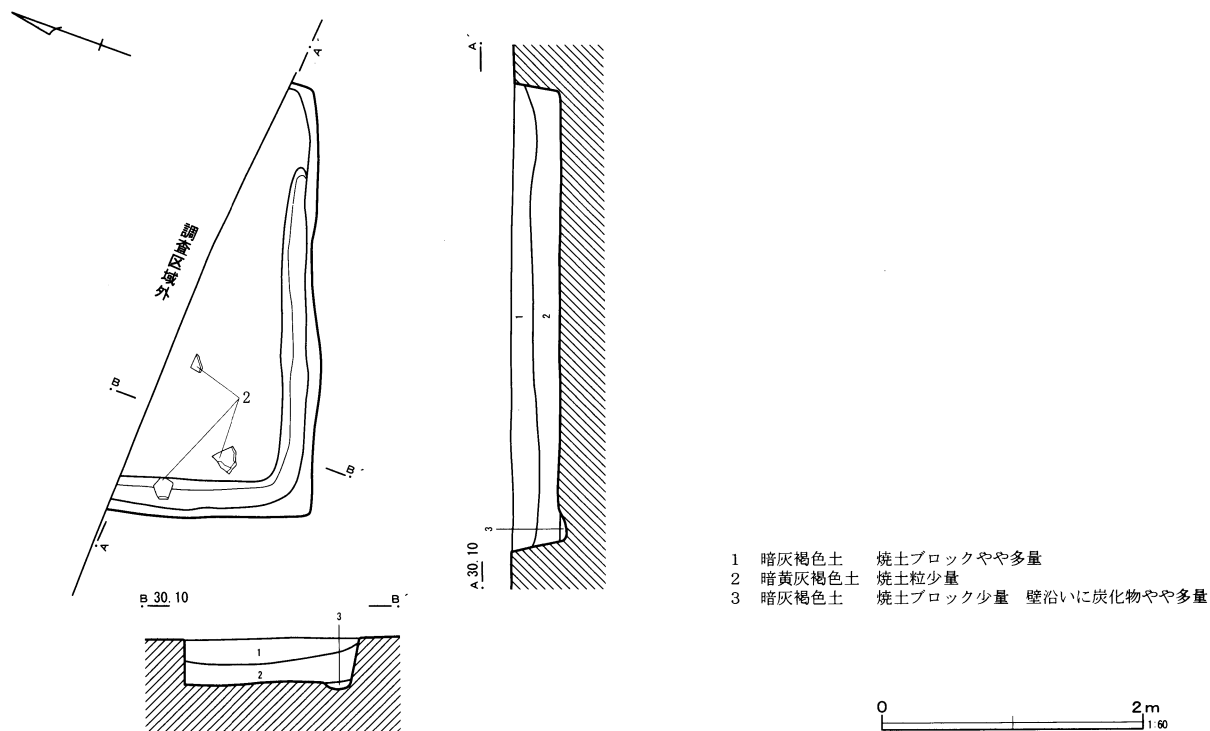
P-21グリッドに位置する。北側は、調査区域外となっている。第96号住居跡と重複し南壁側が切られている。規模は、南壁の東西3.31m、確認できた西壁で南北1.56m、深さ36cm程を測る。南

壁を基準として主軸方位は、N-71°-Eを指す。

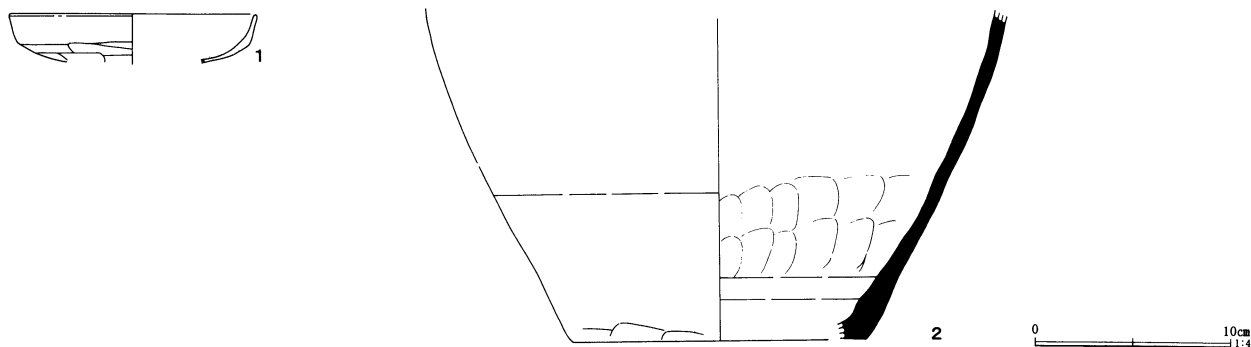
壁溝が確認され、幅20~28cm、深さ10cmを測る。

カマド等の施設は、確認されなかった。

遺物は、土師器坏、須恵器甕が出土した。



第189図 第97号住居跡



第190図 第97号住居跡出土遺物

第 97 号住居跡出土遺物観察表 (第 190 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.4)			ACF	普通	にぶい橙	20	覆土	
2	須恵甕			(15.0)	AGH	良好	灰	40	床直	外面平行叩き後横ナデ、下半ロクロ痕

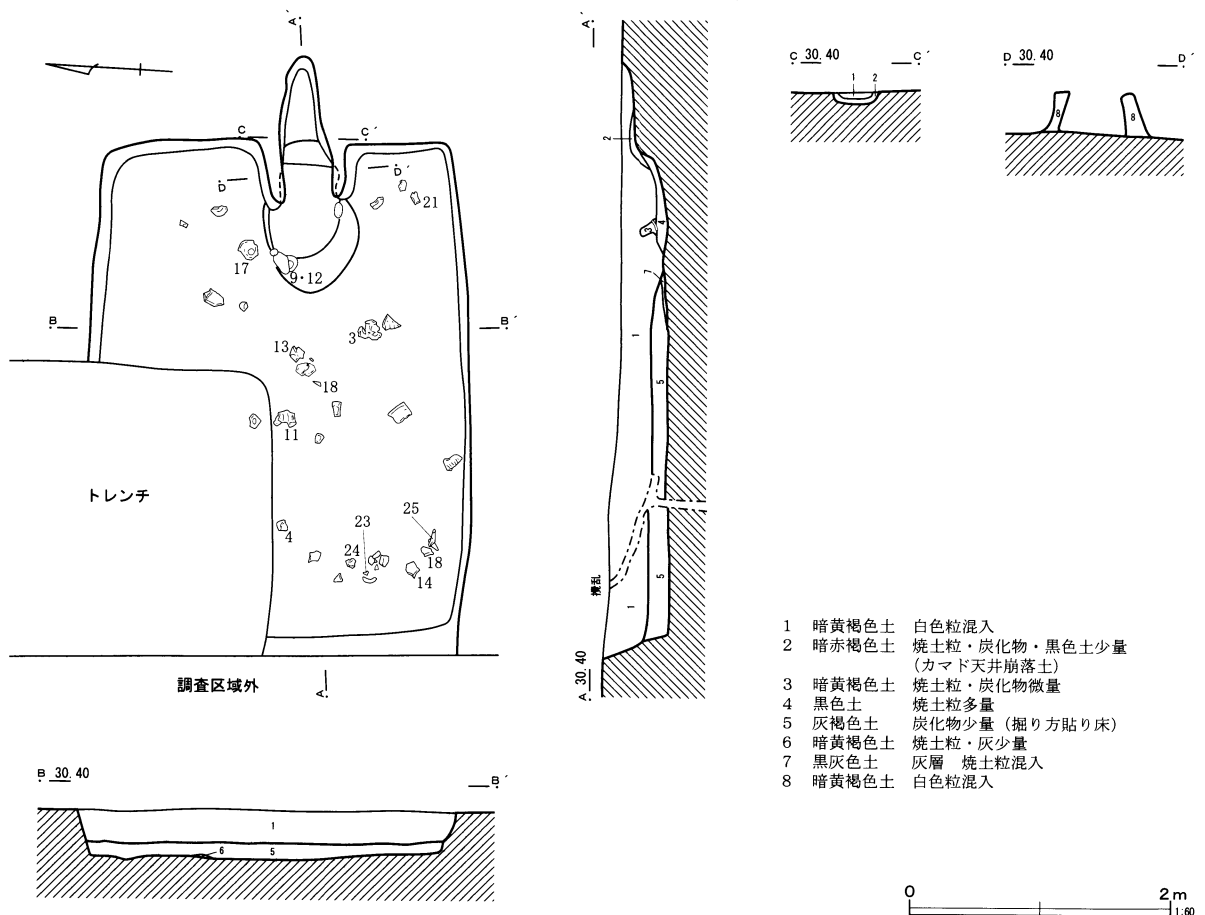
第 98 号住居跡 (第 191 ~ 193 図)

H-10 グリッドに位置する。南壁が調査区域外
 際で、北西隅はトレンチにより切られている。規模
 は、確認できた主軸長東西 3.92 m、南北 2.90 m、
 深さ 30cm 程を測る。平面形は、長方形を呈する。
 主軸方位は、N-85°-E を指す。

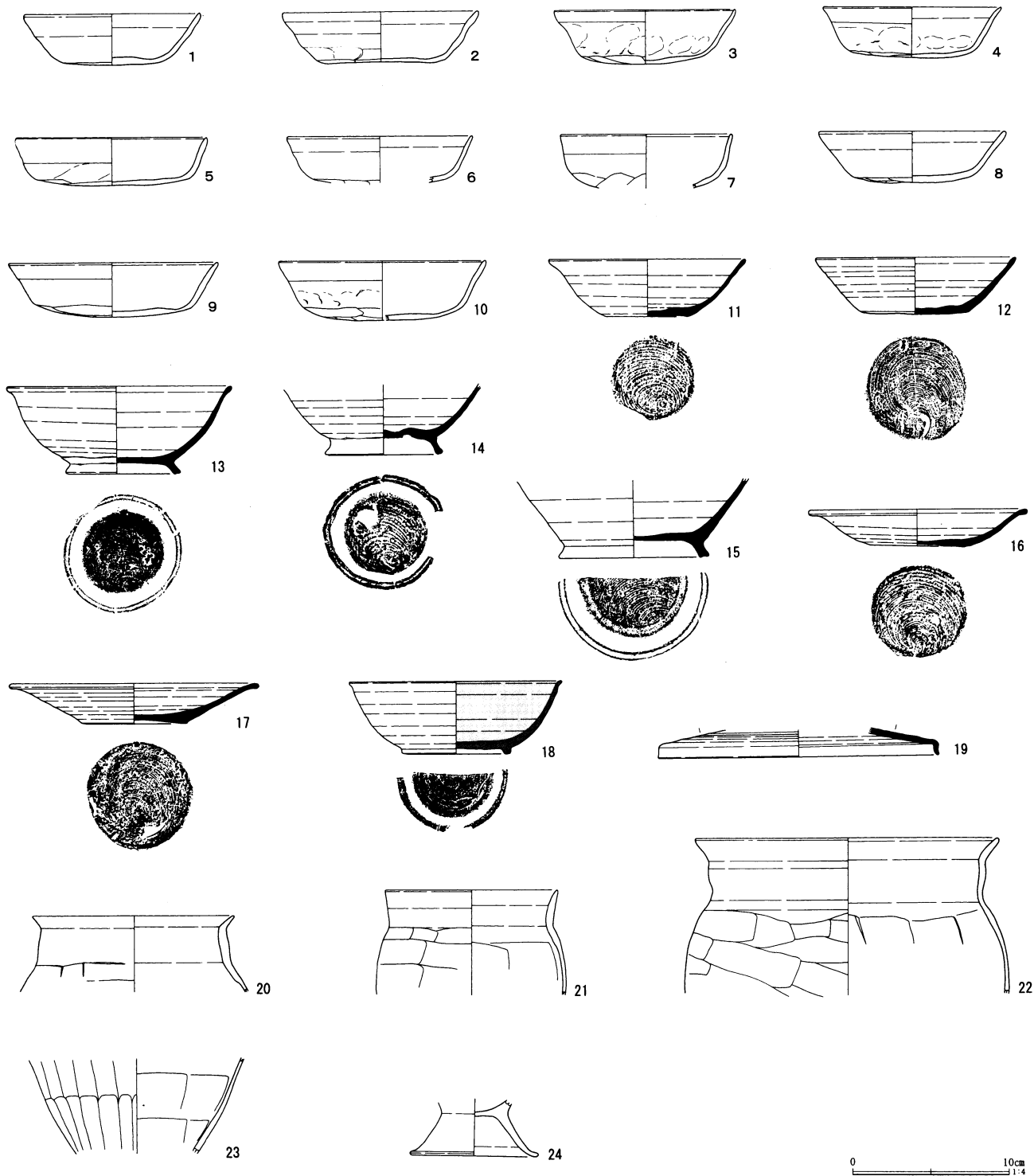
カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃
 焼部は、115cm × 73cm、深さ 12cm を測り、煙道部
 は長さ 66cm が確認できた。

遺物は、土師器坏・甕・台付甕、須恵器坏・高台
 付碗・皿・蓋、灰釉陶器高台付碗と鉄製品が出土し

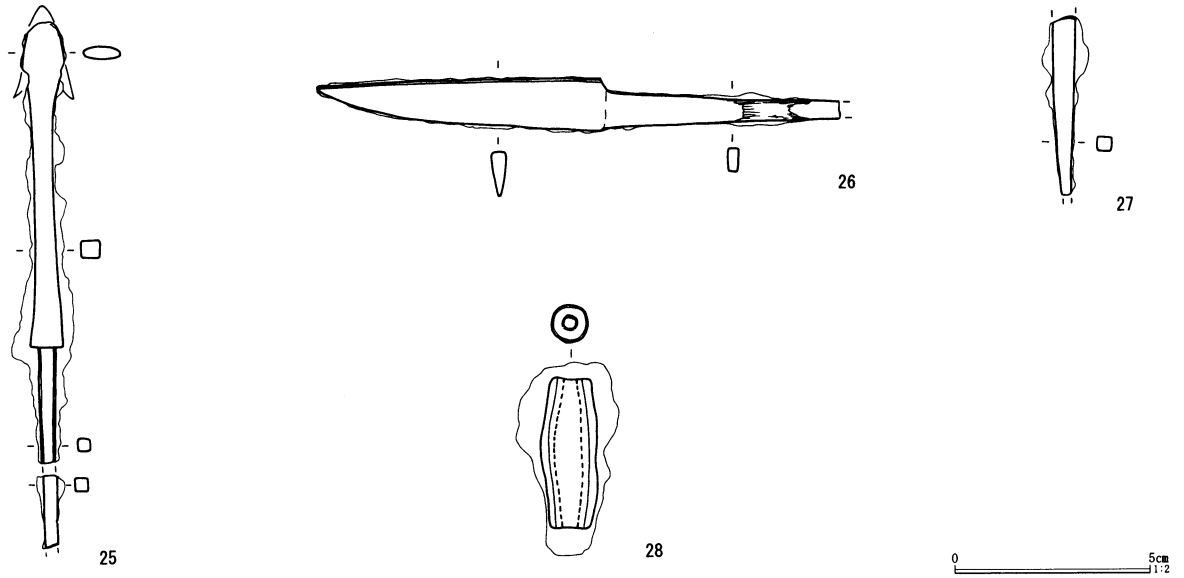
た。25 は鉄鏃である。現存長 11.2cm で、遊離する
 現存長 1.8cm の破片が基部の一部と考えられるが、
 接合せず、別物である可能性もある。長頸鏃で鏃身
 部は両丸造、関は角関である。錆による劣化が著し
 く、図示した鏃身部の形状はあくまで推定の域を出
 ない。26 は鉄製刀子である。現存長 13.3cm、刃部
 長 7.4cm である。茎先を欠く。刃関が浅い両関であ
 る。茎部の表面には柄木が付着している。27 は現
 存長 4.5cm の角棒状鉄製品である。用途は不明だが
 釘の可能性もある。28 は管状の鉄製品である。長
 さ 3.9cm ・最大幅 1.4cm である。用途は不明である。



第 191 図 第 98 号住居跡



第 192 图 第 98 号住居跡出土遺物 (1)



第193図 第98号住居跡出土遺物(2)

第98号住居跡出土遺物観察表(第192・193図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(11.3)	3.3	(6.4)	A	普通	にぶい橙	30	覆土	
2	土師坏	(12.4)	3.3	(8.4)	B	良好	にぶい橙	50	カマド	
3	土師坏	11.7	3.5	8.3	A B J	普通	橙	70	覆土	
4	土師坏	11.5	3.3	8.0	A B F J K	不良	にぶい橙	75	覆土	
5	土師坏	(12.4)	3.1		A B C J	普通	橙	30	覆土	
6	土師坏	(11.8)			A B C	普通	にぶい橙	30	カマド	
7	土師坏	(11.0)			A B J	普通	にぶい橙	15	覆土	
8	土師坏	(11.7)	3.3	(7.6)	A B	普通	橙	30	覆土	
9	土師坏	(13.5)	3.5	(10.0)	B C F J	普通	にぶい赤褐	40	覆土	
10	土師坏	(13.2)	3.8		A B J	普通	橙	25	覆土	
11	須恵坏	12.7	3.7	5.4	A J K	良好	暗灰	60	覆土	底部右回転糸切り
12	須恵坏	12.8	3.6	6.8	A J K	良好	灰	90	カマド	底部右回転糸切り
13	須恵高台埴	14.5	5.7	7.3	A C J K	普通	灰	90	覆土	歪み大きい
14	須恵高台埴			7.5	A C J K	良好	灰	70	覆土	底部右回転糸切り
15	須恵高台埴			9.5	A J	普通	灰	35	覆土	
16	須恵皿	14.0	2.5	6.1	A C J K	良好	灰	100	カマド	底部回転糸切り
17	須恵皿	(16.0)	2.6	6.8	A C J K	良好	にぶい褐	60	覆土	底部回転糸切り
18	灰釉高台埴	(13.6)	4.7	7.0	A G	良好	灰白	30	覆土	底部高台内ヘラ削り 施釉内外面ハケヌリ 二川産
19	須恵蓋	(18.0)			A H J	良好	灰	10	覆土	天井部回転ヘラ削り
20	土師甕	(12.8)			A B C F K	普通	橙	20	カマド	
21	土師甕	(11.0)			A B	普通	にぶい褐	40	カマド	
22	土師甕	(19.2)			A D E J	普通	橙	60	覆土	
23	土師甕				A B F	普通	にぶい褐	20	覆土	
24	土師台付甕			(8.0)	A B	普通	灰黄褐	40	覆土	

第100号住居跡 (第194・195図)

K-12グリッドに位置する。第147号住居跡・第14号溝と重複し、溝に切られ、住居跡を切っている。規模は、主軸長東西4.21m、南北3.32m、深さ15cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-115°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、59cm×43cm、深さ23cmを測り、煙道部は、長さ80cmが確認できた。

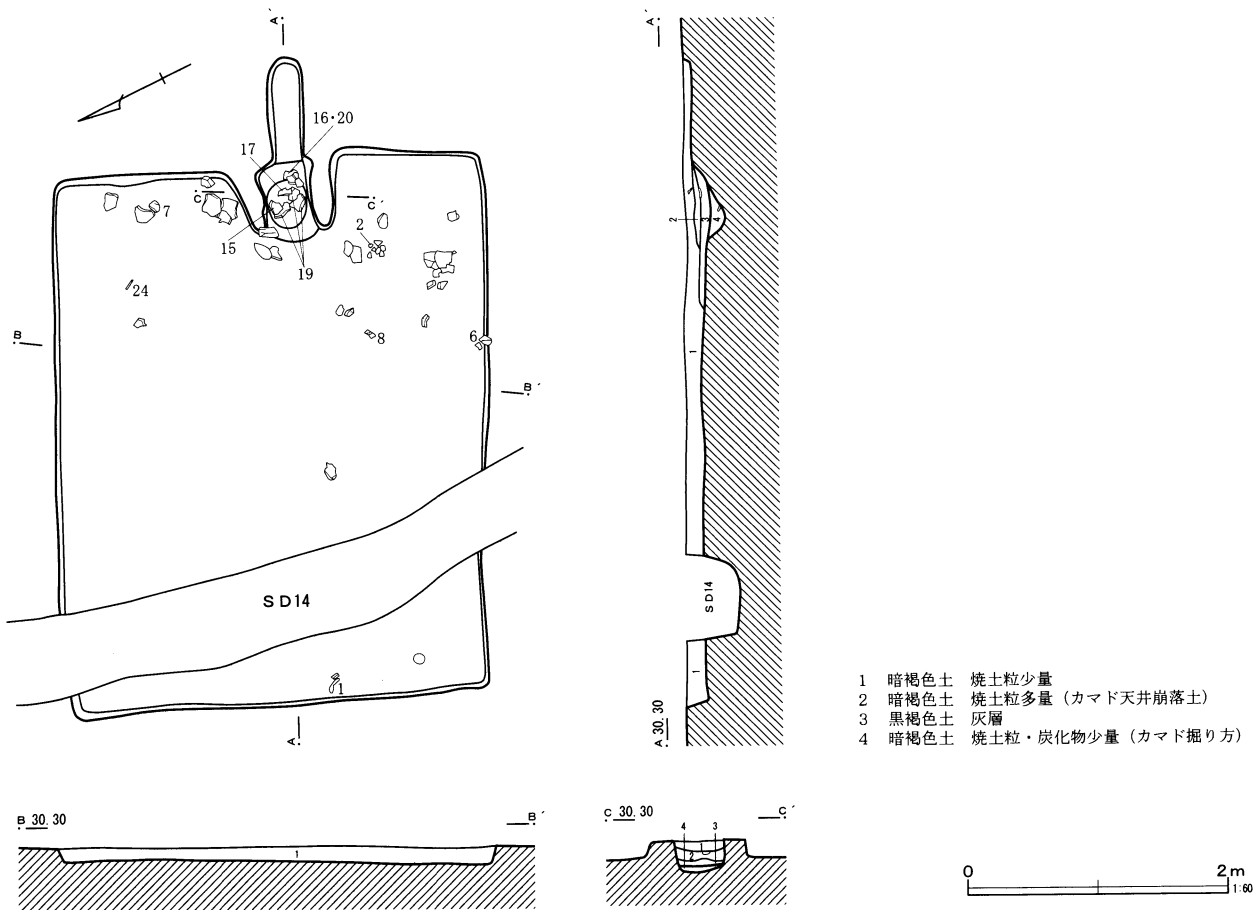
遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・高台付碗、緑釉高台付碗・高台付皿、緑釉片、砥石、鉄製品が出土した。23は紡錘車の車部である。径は推定で5.2cm・厚さ0.2cm・孔径0.4cmである。24は丸棒状鉄製品である。現存長7.6cm。紡錘車の軸である可能性があり、1と同一具のものと推定される。25は用途不明の鉄板片である。現存長3.3cm・厚さ0.2cmである。

第101号住居跡 (第196～198図)

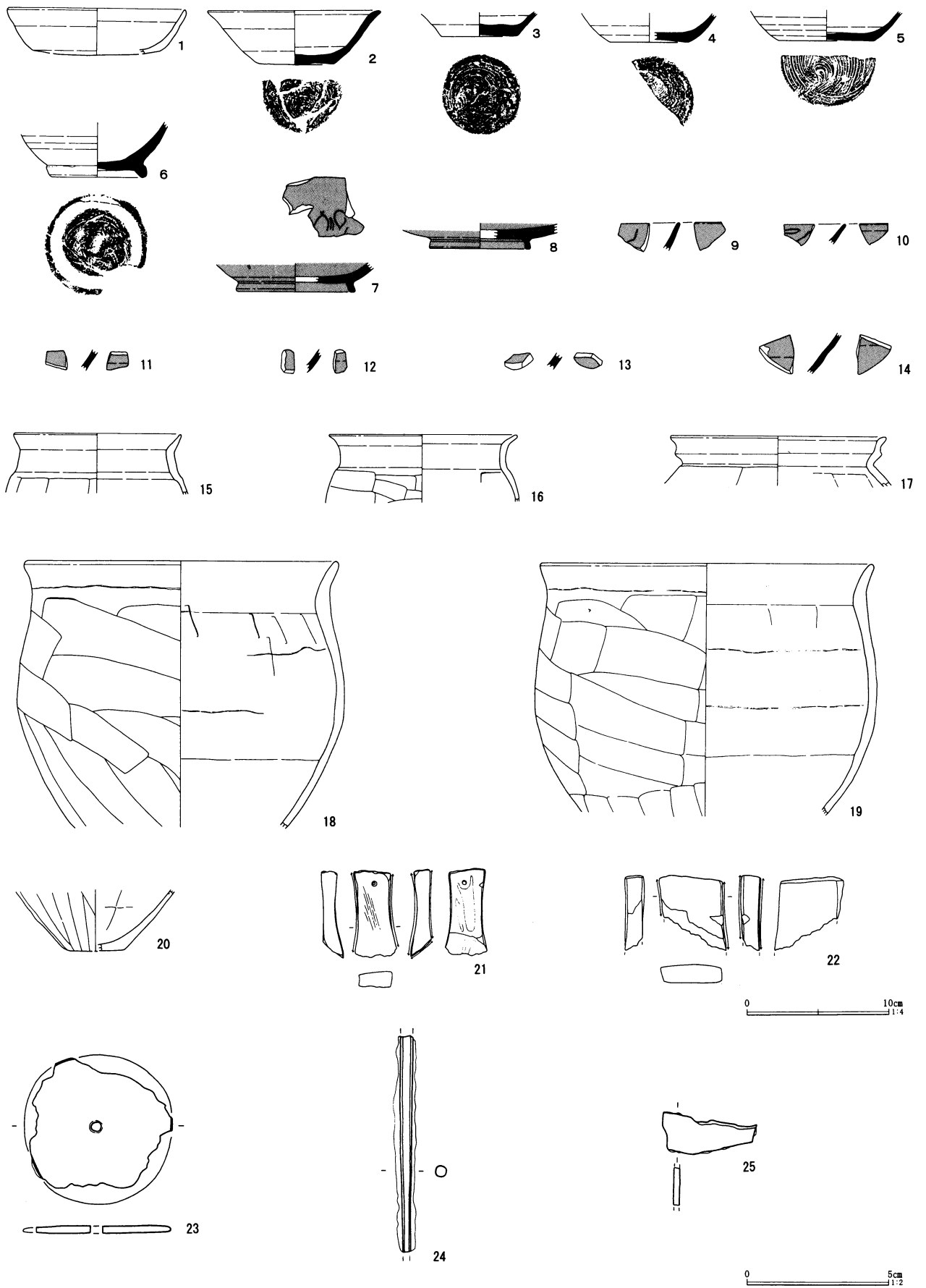
J-10・11グリッドに位置する。第102・103号住居跡・第139号土坑・第19号溝と重複する。第102号住居跡に上部が切られ、第19号溝にも切られ、第103号住居跡を切ることから、第102号住居跡・第101号住居跡・第103号住居跡の順に古くなる。規模は、南北5.08m、東西2.36m、深さ40cm程を測る。平面形は、歪んだ長方形を呈する。長軸の南北方向を基準とすると主軸方位は、N-8°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・高台付碗・高台付皿・甕、灰釉陶器碗・高台付皿、緑釉陶器破片、土錘の他、鉄製品が出土した。25は鏡の吊金具である。鉄製で劣化が著しく形状は歪んでいるが、長さは7.0cm、幅は4.4cmである。左に図示したほうが彎曲の度合いが大きく、鏡の前後の表面に合わせ



第194図 第100号住居跡



第 195 图 第 100 号住居跡出土遺物

第100号住居跡出土遺物観察表 (第195図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.3)			A B C	普通	橙	30	覆土	口縁部外面強い横ナデ
2	須恵坏	(12.0)	4.8	5.3	J	普通	灰黄	45	床直	底部内面同心円文沈線
3	須恵坏			5.4	A B C J	普通	にぶい黄橙	70	覆土	酸化焰焼成
4	須恵坏			(5.6)	A J	普通	にぶい橙	40	覆土	底部回転糸切り
5	須恵坏			6.6	A J	普通	灰オリーブ	40	カマド	底部右回転糸切り
6	須恵高台埴			6.9	J	普通	にぶい黄橙	70	覆土	
7	緑釉高台埴			(9.3)	—	普通	—	15	覆土	印刻花文 猿投産
8	緑釉高台皿			(7.1)	G	良好	—	20	覆土	猿投産
9	緑釉陶器				—	良好	—	破片	覆土	印刻花文 猿投産
10	緑釉陶器				A G	良好	—	破片	覆土	印刻花文 猿投産
11	緑釉陶器				—	—	—	破片	覆土	猿投産
12	緑釉陶器				—	—	—	破片	覆土	猿投産
13	緑釉陶器				—	—	—	破片	覆土	猿投産
14	緑釉陶器				—	—	—	破片	覆土	猿投産
15	土師小形甕	(11.6)			A B F	普通	橙	15	カマド	
16	土師小形甕	(13.0)			B C G	普通	灰褐	15	カマド	
17	土師甕	(15.0)			A F	良好	にぶい黄褐	35	覆土	
18	土師甕	(21.7)			A J	良好	にぶい黄橙	45	床直	
19	土師甕	(23.2)			A B G J	普通	にぶい黄橙	70	カマド	
20	土師甕			(4.0)	A F	良好	にぶい橙	20	カマド	底部ヘラ削り
21	砥石	長さ6.1	幅2.9	厚さ1.3			—	—	覆土	4面使用
22	砥石	長さ5.3	幅4.6	厚さ1.4			—	—	覆土	4面使用

たものと考え、こちらが正面とみなされる。その幅は1.6cmである。背面は正面よりも扁平に近く、幅も2.0cmと幅広となっている。両側に釜本体に固定するための釘孔が2ヶ所にはほぼ等間隔にあいている。26は延板状の鉄製品である。現存長3.7cm・幅2.3cmで、用途は不明である。

第102号住居跡 (第196・199～201図)

J-10・11グリッドに位置する。第101・103号住居跡・第139号土坑・第13号溝と重複し、土坑・溝に切られ、2軒の住居跡を切っている。規模は、南北5.52m、東西3.37m、深さ27cm程を測る。平面形は、歪んだ長方形を呈する。長軸の南北方向を基準とすると主軸方位は、N-9°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏・埴・台付甕・甕、須恵器坏・高台付埴・皿・甕、灰釉陶器高台付埴・高台付皿、緑釉陶器片の他に鉄製品が出土した。43は扁平な角棒

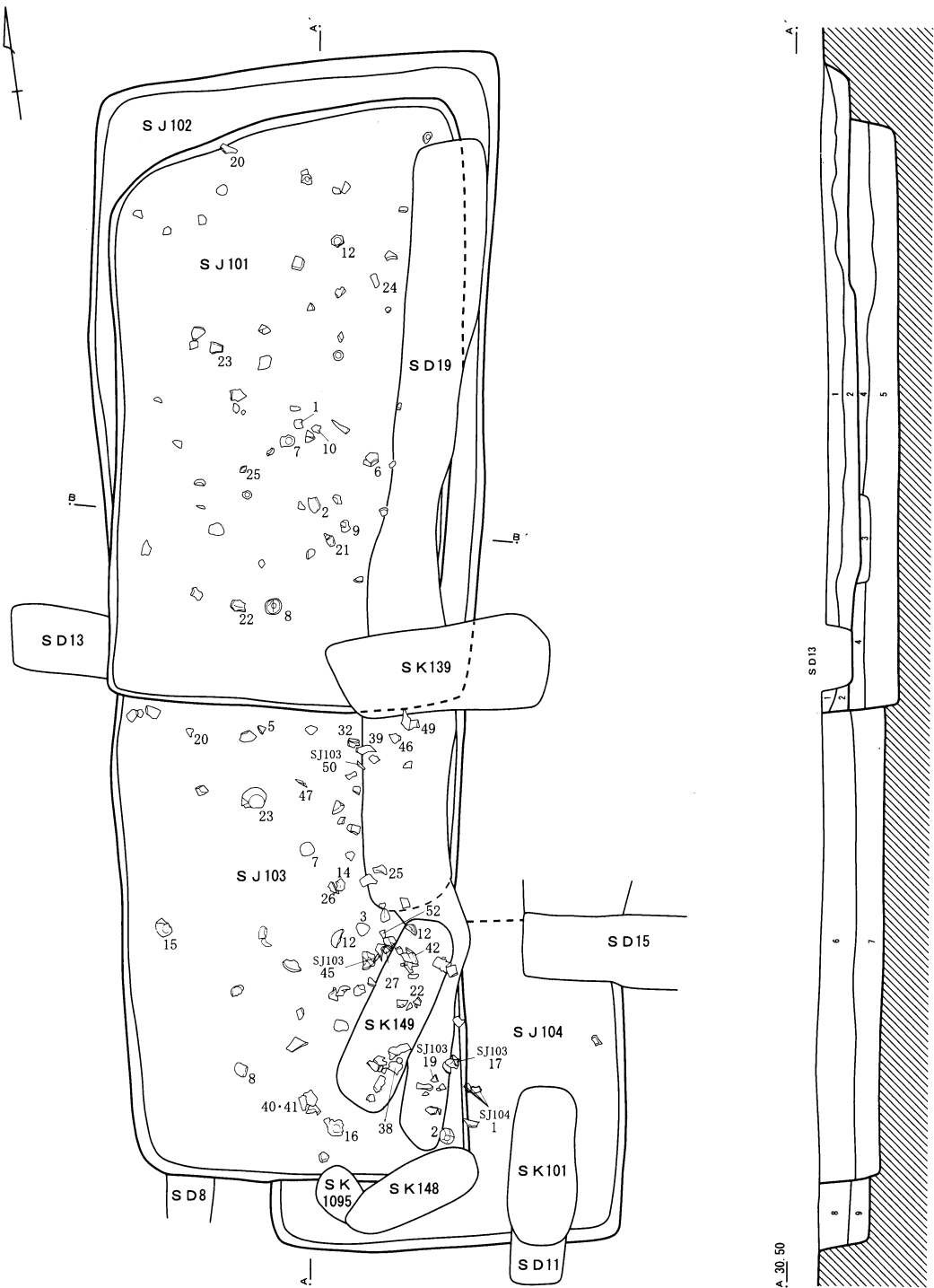
状鉄製品である。現存長6.1cmで、用途は不明である。

第103号住居跡 (第196・202～204図)

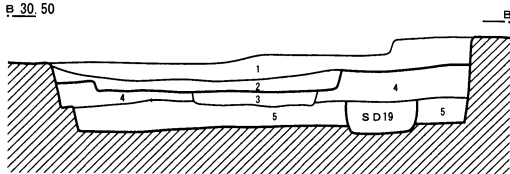
J・K-10・11グリッドに位置する。第101・102・104号住居跡・第148・149・1095号土坑・第19号溝と重複する。第101・102号住居跡・土坑・溝に切られ、第104号住居跡を切る。規模は、確認できた南北4.03m、東西2.88m、深さ52cm程を測る。平面形は、長方形を呈すると推定される。長軸の南北方向を基準とすると主軸方位は、N-5°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

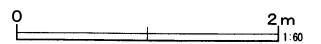
遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・高台付埴・皿・甕、灰釉陶器高台付埴・高台付皿、緑釉陶器片の他に鉄製品が出土した。50は鉄製釘である。現存長6.7cm、頭部の大半と脚部を欠く。51は管状鉄製品である。長さは3.6cm・最大径1.2cmである。厚



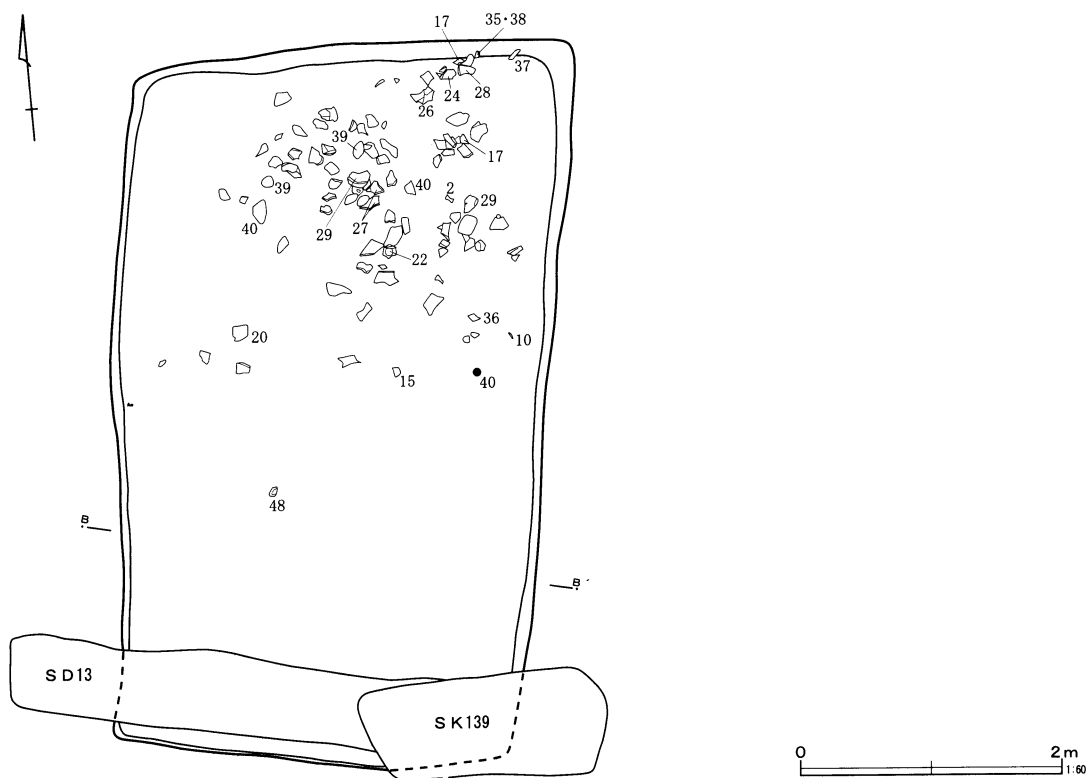
φ 30.50



- 第102号住居跡
 1 暗褐色土 焼土粒・焼土ブロック多量 炭化物少量
 2 黒褐色土 焼土粒・焼土ブロック少量 炭化物多量
 3 灰褐色土 粘土主体 炭化物・焼土粒少量(貼り床)
 4 暗灰褐色土 粘土層 灰混入(貼り床)
 第101号住居跡
 5 灰褐色土 炭化物少量
 第103号住居跡
 6 暗褐色土 焼土粒多量 炭化物微量
 7 暗灰褐色土 焼土粒混じり粘土層
 第104号住居跡
 8 暗褐色土 焼土粒少量 炭化物微量
 9 暗灰褐色土 焼土粒混じり粘土層(貼り床)



第196図 第101・102・103・104号住居跡



第197図 第102号住居跡

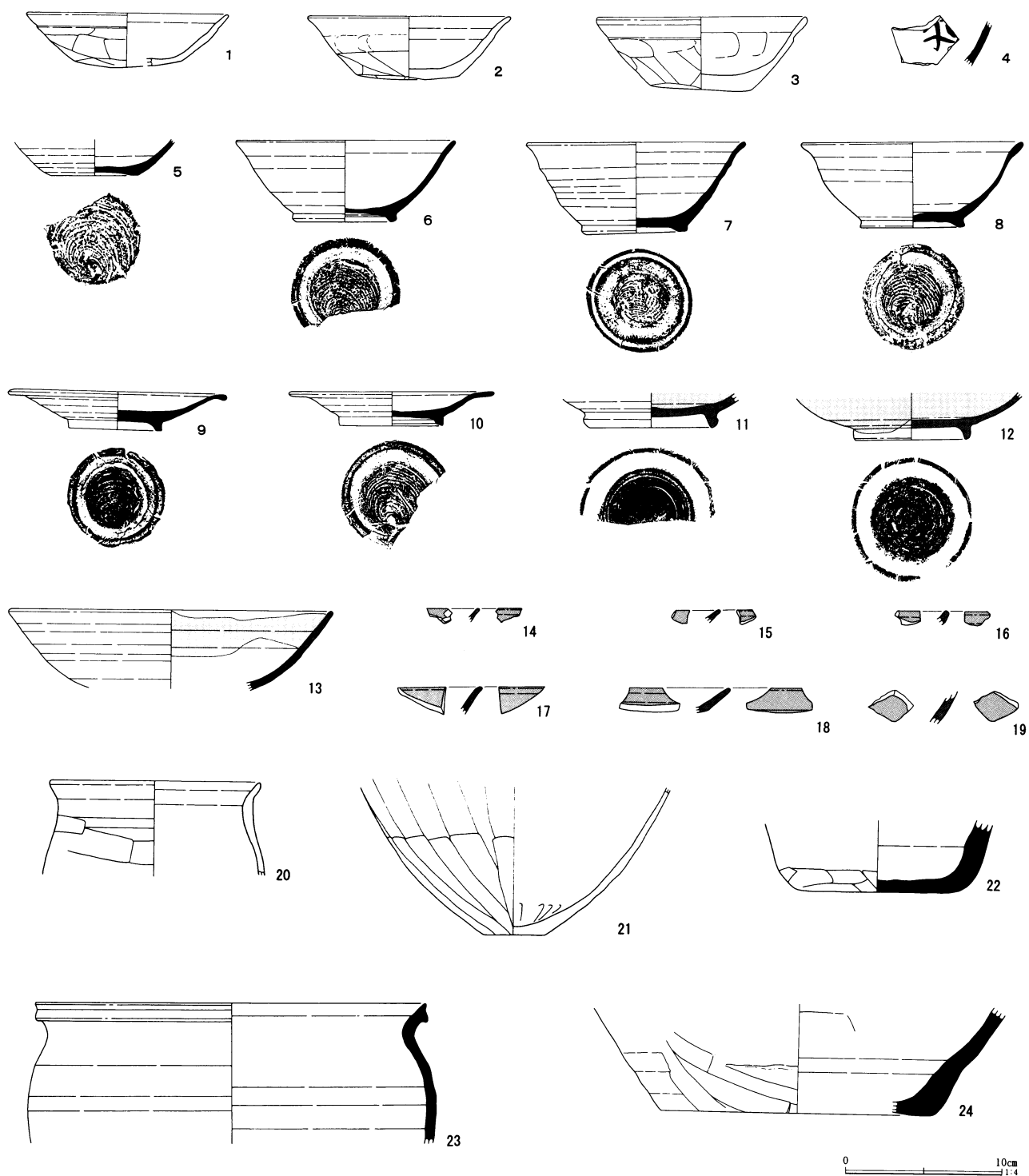
さ0.2cmの鉄板を管状に接合している。52は板状鉄製品である。長さ7.1cm、厚さ0.4cmで、51・52ともに用途は不明である。

第104号住居跡 (第196・205図)

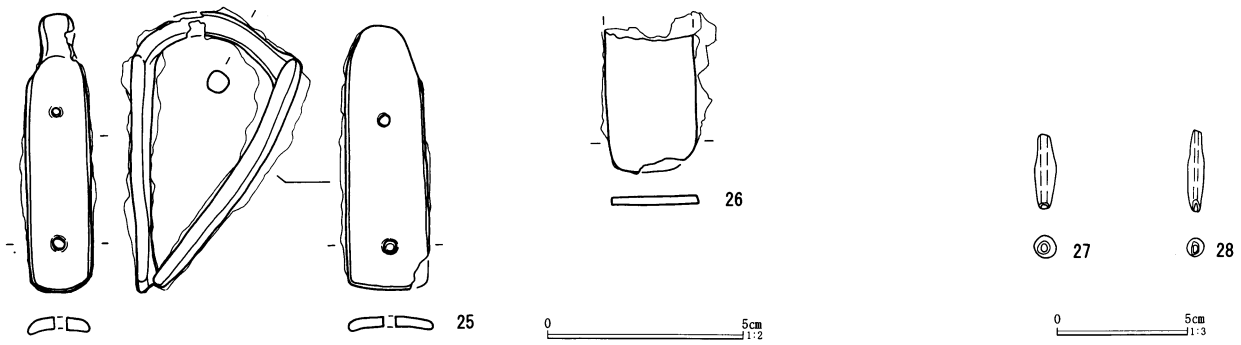
K-10・11グリッドに位置する。第103号住居跡・第101・148・1095号土坑・第11・15号溝と重複し、

すべての遺構に切られている。規模は、東壁で確認できた南北2.22m、南壁で東西3.00m、深さ43cm程を測る。東壁を基準として主軸方位は、N-5°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。遺物は、須恵器坏・土錘が出土した。



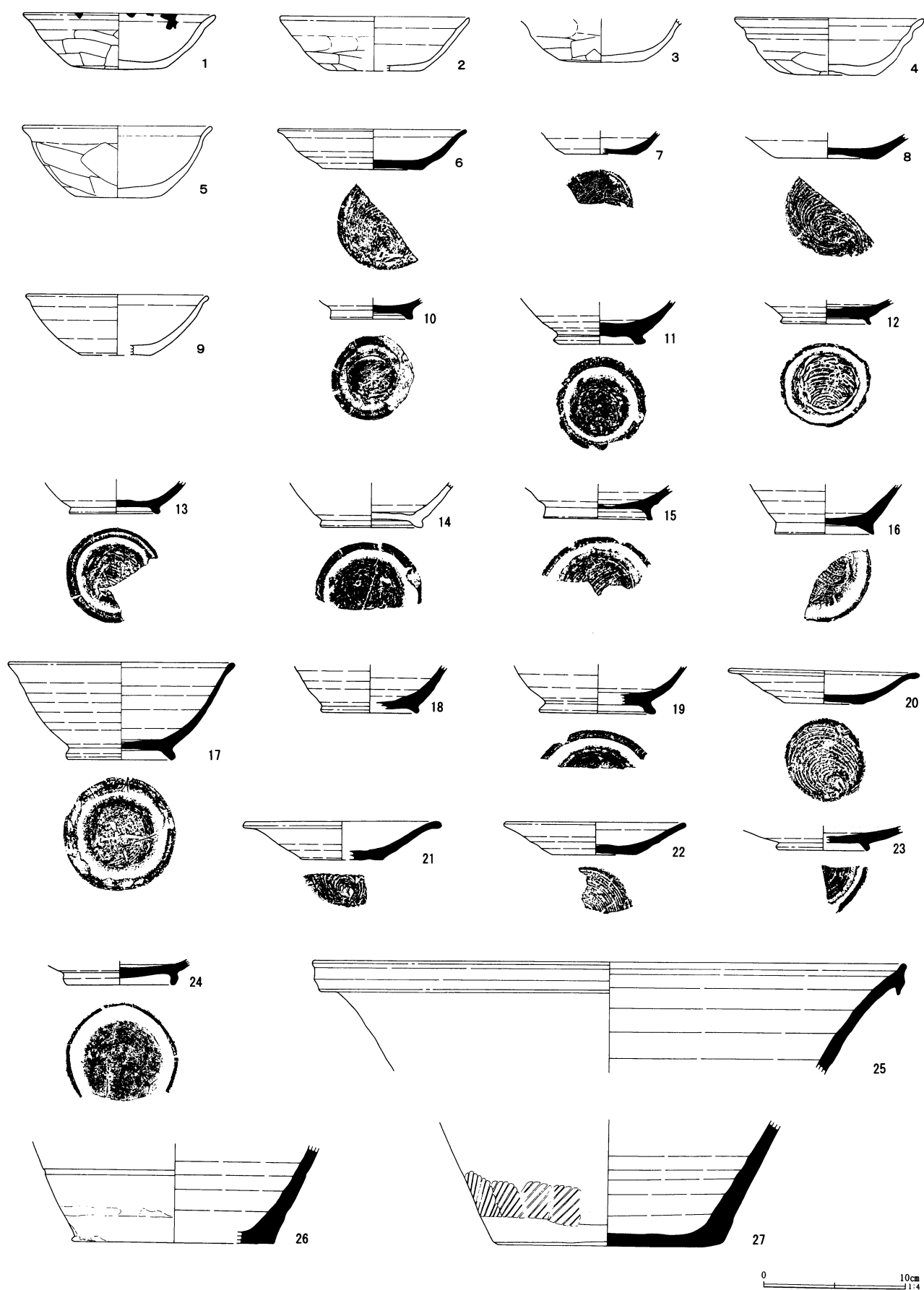
第198图 第101号住居跡出土遺物(1)



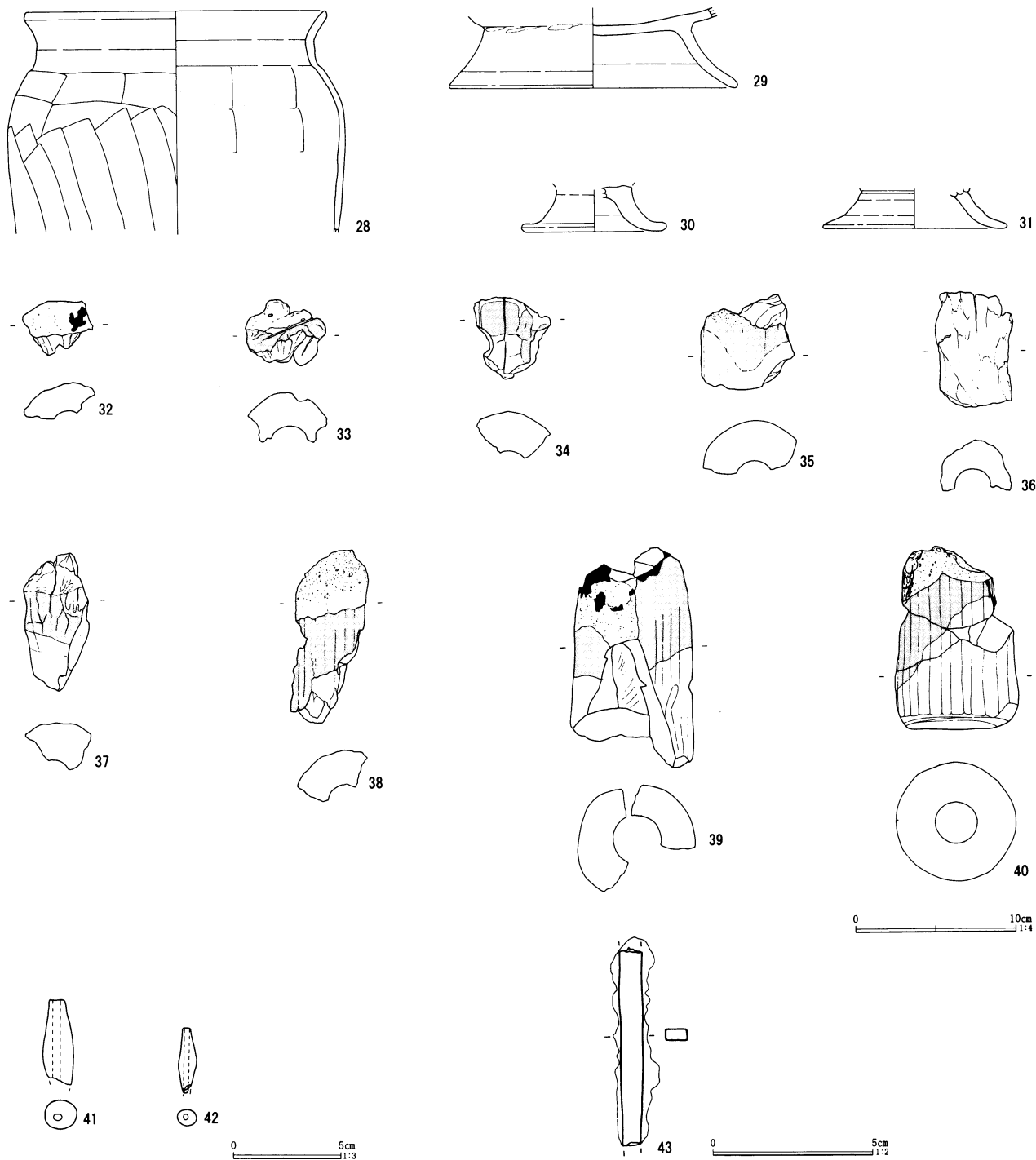
第199図 第101号住居跡出土遺物(2)

第101号住居跡出土遺物観察表(第198・199図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.7)		(6.8)	A B F J	良好	にぶい橙	30	覆土	
2	土師坏	(12.8)	4.0	(6.6)	A B F G	良好	淡黄	45	覆土	底部外面へラ削り 中央未調整 口縁部外面・内面横ナデ
3	土師坏	13.3	4.8	6.3	A F J	普通	浅黄橙	70	覆土	底部手持ちへラ削り
4	須恵坏				A J	良好	灰	破片	覆土	墨書
5	須恵坏			5.6	A C J	普通	灰	40	覆土	
6	須恵高台埴	(13.7)	5.2	6.6	G J K	普通	灰	45	覆土	
7	須恵高台埴	13.7	5.8	6.8	A B C J	普通	灰	95	覆土	
8	須恵高台埴	14.1	5.4	(6.7)	A J K	良好	灰	95	覆土	高台一部欠損
9	須恵高台皿	(14.0)	2.4	6.0	A G	普通	灰白	40	覆土	
10	須恵高台皿	(13.1)	2.2	6.7	A C G K	良好	灰白	40	覆土	
11	灰釉高台碗			(8.6)	G	良好	灰白	40	覆土	底部高台内へラ削り 東遠江産
12	灰釉高台皿			7.5	A G	良好	灰白	70	覆土	底部高台内へラ削り 施釉ツケガケ 内面重ね焼き痕あり 浜北産
13	灰釉埴	(20.9)			A G	良好	灰白	30	覆土	施釉ハケヌリ 体部外面下半回転へラ削り
14	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
15	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
16	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
17	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
18	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
19	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
20	土師甕	(13.2)			A F J	良好	にぶい黄橙	20	覆土	
21	土師甕			3.8	C F J	普通	褐灰	20	覆土	
22	須恵甕			(10.5)	A J K	普通	灰	40	覆土	底部一方向へラ削り
23	須恵甕	(24.7)			A J K	良好	灰	10	覆土	
24	須恵甕			(17.4)	A J K	良好	灰	50	覆土	
27	土錘	長さ2.9	径0.9	孔径0.2		普通	褐灰	100	覆土	
28	土錘	長さ3.2	径0.7	孔径0.2		普通	褐灰	95	覆土	



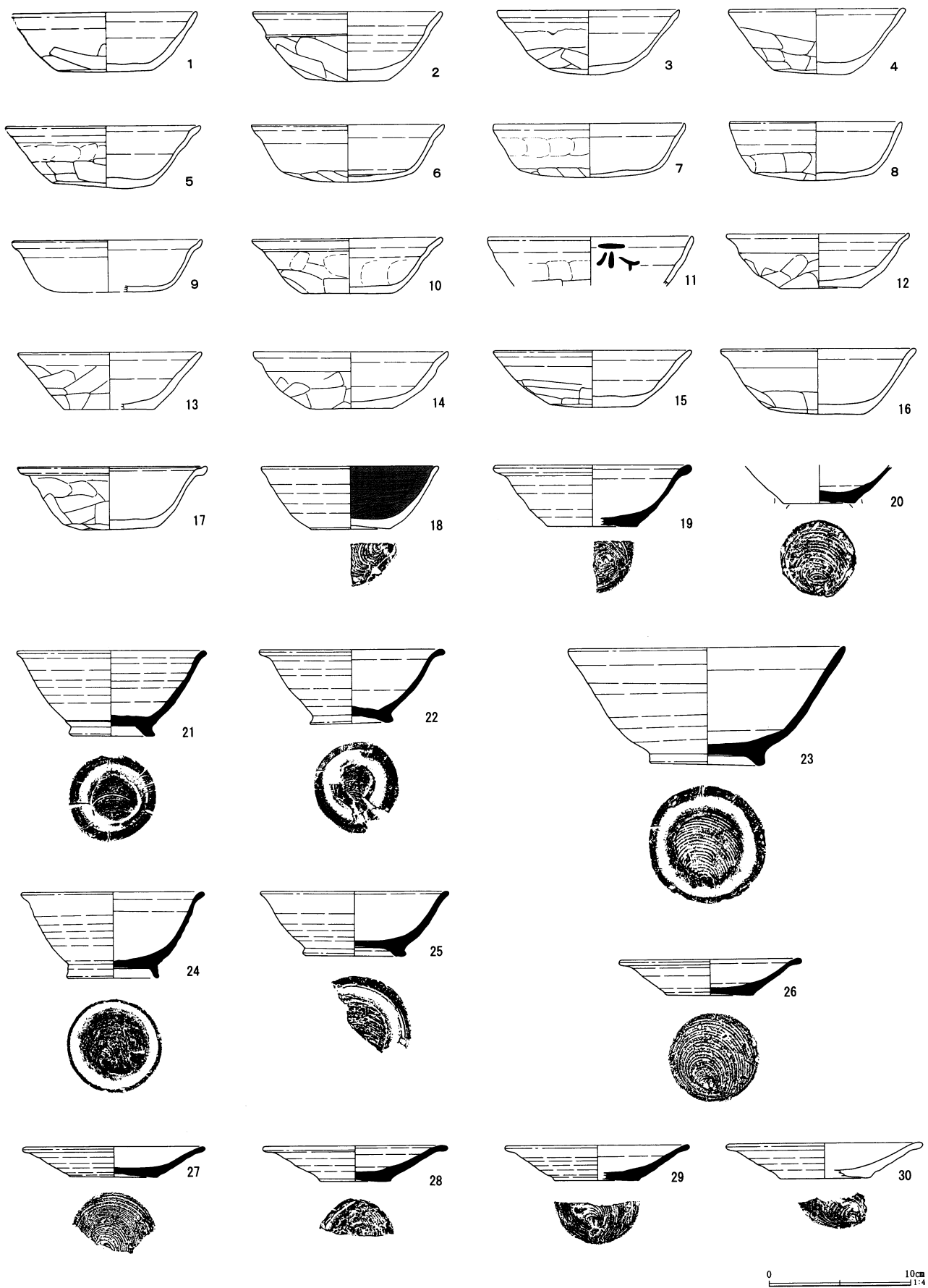
第 200 图 第 102 号住居跡出土遺物 (1)



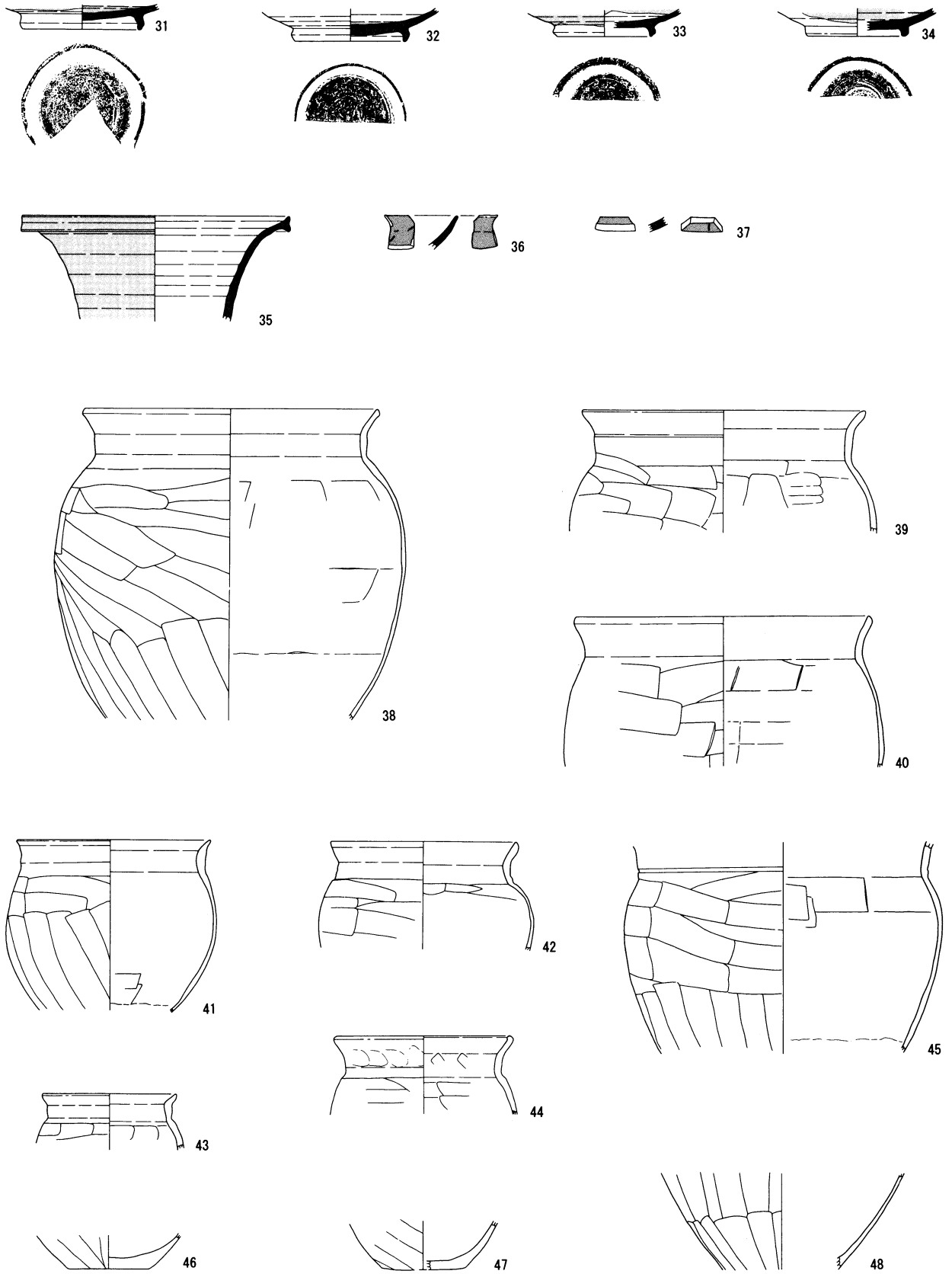
第 201 图 第 102 号住居跡出土遺物 (2)

第 102 号住居跡出土遺物観察表 (第 200・201 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.4)	3.9	(7.0)	A B D F	普通	灰黄褐	30	覆土	口縁部油煙付着
2	土師坏	(13.3)	(3.8)	(6.5)	A D F	普通	橙	15	床直	体部外面中位指ナデ
3	土師坏			(6.0)	A C F J	普通	浅黄橙	20	覆土	底部一方向へラ削り
4	土師坏	(13.2)	4.0	7.0	B F J	良好	浅黄橙	60	覆土	底部手持ちへラ削り、中央部無調整
5	土師坏	(13.2)	5.1	6.0	B F G J	普通	にぶい橙	60	覆土	底部一方向へラ削り
6	須恵坏	(13.0)	2.9	(6.0)	A J	普通	灰白	15	覆土	
7	須恵坏			(5.0)	A J K	普通	灰オリーブ	40	覆土	
8	須恵坏			(7.0)	A C F J	普通	灰オリーブ	40	覆土	
9	須恵坏	(12.7)	4.3	(5.0)	B F J	普通	橙	25	覆土	酸化焰焼成 底部回転糸切り
10	須恵高台坏			5.8	A C G	普通	灰	70	覆土	
11	須恵高台坏			(6.5)	G	普通	灰	50	覆土	
12	須恵高台坏			6.0	A J	普通	灰黄	70	覆土	
13	須恵高台坏			(6.5)	A F G	普通	灰	40	覆土	
14	須恵高台坏			7.1	A D F	普通	灰黄	40	覆土	酸化焰焼成
15	須恵高台坏			(7.7)	A C G	普通	灰	30	覆土	
16	須恵高台坏			(7.0)	A G H	普通	灰	30	覆土	
17	須恵高台坏	(15.8)	6.9	7.7	A G J	普通	灰	30	覆土	底部「×」のへラ痕
18	須恵高台坏			(6.7)	A F G K	普通	灰黄	25	覆土	
19	須恵高台坏			(8.0)	A J	良好	黄灰	30	覆土	
20	須恵皿	13.6	2.3	5.6	A J K	普通	褐灰	80	覆土	
21	須恵皿	(14)	2.7	(5.8)	A G J	不良	暗灰黄	15	覆土	
22	須恵皿	(12.9)	2.3	(6.0)	A J	普通	灰	20	覆土	歪み有り
23	灰釉高台皿			(6.3)	G J	良好	灰白	20	覆土	底部高台内へラ削り 施釉内外面ハケヌリ 浜北産
24	灰釉高台坏			7.7	G J	良好	灰白	80	覆土	底部高台内へラ削り 施釉内外面ハケヌリ 内面重ね焼き痕 浜北産
25	須恵大甕	(41.6)			A G J K	良好	灰	10	覆土	
26	須恵甕			(14.0)	A G J	良好	灰	40	覆土	
27	須恵大甕			15.4	A K	普通	灰	70	覆土	体部外面下端平行叩き後、へラ横ナデ
28	土師甕	18.8			F J	良好	にぶい褐	20	覆土	
29	土師高台鉢			18.0	A B D F	普通	橙	60	覆土	
30	土師台付甕			(9.0)	A B D F	普通	灰褐	20	覆土	脚部
31	土師台付甕			(11.4)	A B	普通	橙	15	覆土	
32	羽口	残存長3.4	孔径2.2	外径5.9	重さ18.27 g			—	覆土	
33	羽口	残存長3.9	孔径2.4	外径—	重さ29.09 g			—	覆土	
34	羽口	残存長5.1	孔径2.2	外径6.6	重さ51.32 g			—	覆土	
35	羽口	残存長4.8	孔径2.2	外径6.8	重さ91.70 g			—	覆土	
36	羽口	残存長7.2	孔径2.2	外径—	重さ67.92 g			—	覆土	外面剥離
37	羽口	残存長8.5	孔径2.2	外径6.8	重さ66.70 g			—	覆土	
38	羽口	残存長10.3	孔径2.2	外径6.4	重さ111.37 g			—	覆土	
39	羽口	残存長(13.8)	孔径3.0	外径6.8~7.7				—	覆土	外面工具ナデ
40	羽口	残存長11.4	孔径2.5	外径7.4				—	覆土	外面器壁工具ナデ
41	土錘	長さ(4.0)	径1.4	孔径0.3		普通	橙	75	覆土	
42	土錘	長さ(3.0)	径0.8	孔径0.2		普通	暗灰	90	覆土	

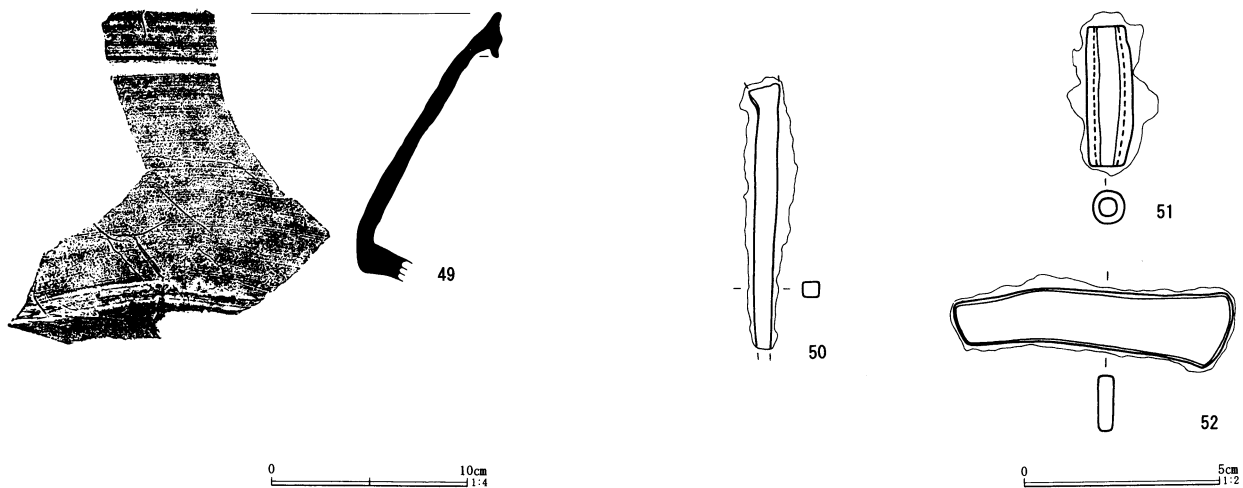


第202図 第103号住居跡出土遺物(1)



0 10cm 1:4

第 203 图 第 103 号住居跡出土遺物 (2)



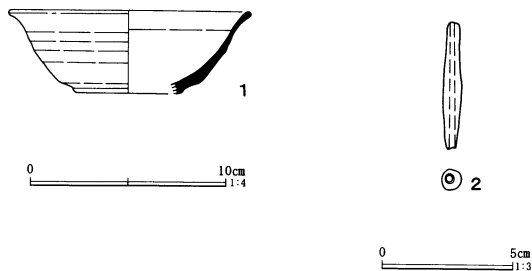
第204図 第103号住居跡出土遺物(3)

第103号住居跡出土遺物観察表(第202図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.8)	(4.2)	(6.5)	A B C F	普通	橙	40	覆土	
2	土師坏	13.2	4.9	5.9	A B F J	良好	橙	80	覆土	
3	土師坏	(12.8)	4.5	(5.5)	A F J	普通	浅黄橙	40	床直	
4	土師坏	12.2	4.6	5.3	A D F J	普通	にぶい黄橙	100	覆土	底部一方向へラ削り
5	土師坏	13.6	4.4	7.0	F J	普通	灰白	75	床直	底部手持ちへラ削り
6	土師坏	(13.4)	4.0	(9.4)	A B J	普通	橙	55	覆土	口縁部内外面横ナデ
7	土師坏	(13.4)	3.8	(10.0)	A B F G	良好	橙	40	覆土	口縁部外面~体部内面横ナデ
8	土師坏	12.1	4.1	8.5	A B F	普通	橙	95	覆土	口縁部内外面横ナデ
9	土師坏	(13.3)	3.6	(8.1)	B C F	普通	橙	25	覆土	口縁部内外面横ナデ
10	土師坏	(13.2)	3.9	6.6	A F J	普通	橙	55	覆土	底部一方向へラ削り
11	土師坏	(14.4)			C F J	普通	浅黄橙	60	掘り方	墨書
12	土師坏	13.8	3.9	5.7	A B F J	普通	橙	95	覆土	口縁部外面~体部内面横ナデ、底部手持ちへラ削り
13	土師坏	(12.8)		(6.4)	A B F	良好	にぶい橙	25	覆土	
14	土師坏	(13.6)	4.0	(6.0)	B F	普通	浅黄橙	25	覆土	底部一方向へラ削り
15	土師坏	13.8	4.0	6.1	A B C F J K	普通	灰黄	90	覆土	底部一方向へラ削り
16	土師坏	13.6	4.6	7.0	A B F J	普通	にぶい黄橙	85	覆土	底部一方向へラ削り
17	土師坏	13.7	4.5	6.6	A B D F J	普通	橙	80	覆土	体部外面指ナデと下半へラ削り
18	土師坏	(12.3)	4.4	(5.5)	A F	普通	にぶい黄橙	25	覆土	内面磨き 黒色土器
19	須恵坏	(13.7)	4.3	(6.4)	J	普通	黄灰	25	覆土	
20	須恵高台坏			(5.0)	A J K	普通	灰黄	40	覆土	高台剥離
21	須恵高台坏	(13.1)	6.0	6.0	A F I	普通	灰	40	覆土	底部酸化焰焼成
22	須恵高台坏	(12.8)	5.2	5.9	A I K	良好	灰	55	覆土	
23	須恵高台坏	(19.4)	8.2	8.1	A C J K	不良	灰黄	80	床直	
24	須恵高台坏	12.7	6.1	6.6	A G J	普通	灰	70	覆土	
25	須恵高台坏	(13.0)	4.6	(7.7)	A C G	不良	灰	20	覆土	
26	須恵皿	(12.9)	2.6	6.1	A G I J K	普通	灰黄	60	覆土	
27	須恵皿	(12.9)	2.1	(6.1)	A G K	普通	灰	20	覆土	
28	須恵皿	(13.0)	2.5	(5.1)	A J K	普通	灰	30	覆土	
29	須恵皿	(12.7)	2.5	(5.9)	A J K	普通	灰	30	覆土	
30	須恵皿	(13.0)	2.5	(6.5)	B F J	不良	にぶい黄橙	20	覆土	酸化焰焼成

第 103 号住居跡出土遺物観察表 (第 203・204 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
31	灰釉高台皿			7.9	G	良好	灰白	70	覆土	底部高台へラ削り 施釉内外面ハケヌリー筆 内重ね焼き痕有り 浜北産
32	灰釉高台皿			(7.4)	A G	普通	灰白	40	覆土	底部高台へラ削り 施釉内外面ハケヌリー筆 内重ね焼き痕有り 東濃産
33	灰釉高台皿			(6.3)	A G	良好	灰白	25	覆土	底部高台へラ削り 施釉内外面ハケヌリー筆 内重ね焼き痕有り 浜北産
34	灰釉高台皿			(6.8)	A G	良好	灰白	30	覆土	底部高台へラ削り 施釉内外面ハケヌリー筆 内重ね焼き痕有り 東濃産
35	灰釉長頸壺	(17.8)			A G	良好	灰	35	覆土	
36	緑釉陶器					—	—	破片	覆土	猿投産
37	緑釉陶器					—	—	破片	覆土	猿投産
38	土師甕	19.5			B F	良好	橙	70	覆土	
39	土師甕	(18.7)			A B F J	普通	黄灰	25	覆土	
40	土師甕	(19.6)			A B C F J	良好	明赤褐	15	覆土	
41	土師甕	(12.8)			A B C D F J	普通	にぶい褐	60	覆土	
42	土師甕	12.4			A B C F	普通	にぶい黄橙	70	覆土	
43	土師甕	(8.8)			A C	普通	浅黄	20	覆土	
44	土師甕	(11.7)			A B F J	普通	にぶい赤褐	20	覆土	
45	土師甕				A F J	良好	にぶい黄橙	20	覆土	
46	土師甕			(5.5)	A B F	良好	灰黄褐	25	覆土	
47	土師甕			(5.5)	A B	普通	暗褐	25	覆土	
48	土師甕				A B C F	良好	橙	40	覆土	
49	須恵甕				A G K	普通	灰	—	覆土	



第 205 図 第 104 号住居跡出土遺物

第 104 号住居跡出土遺物観察表 (第 205 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(12.2)	4.2	(5.6)	A J K	良好	灰	15	覆土	
2	土錘	長さ4.8	径0.9	孔径0.3		普通	浅黄橙	100	覆土	

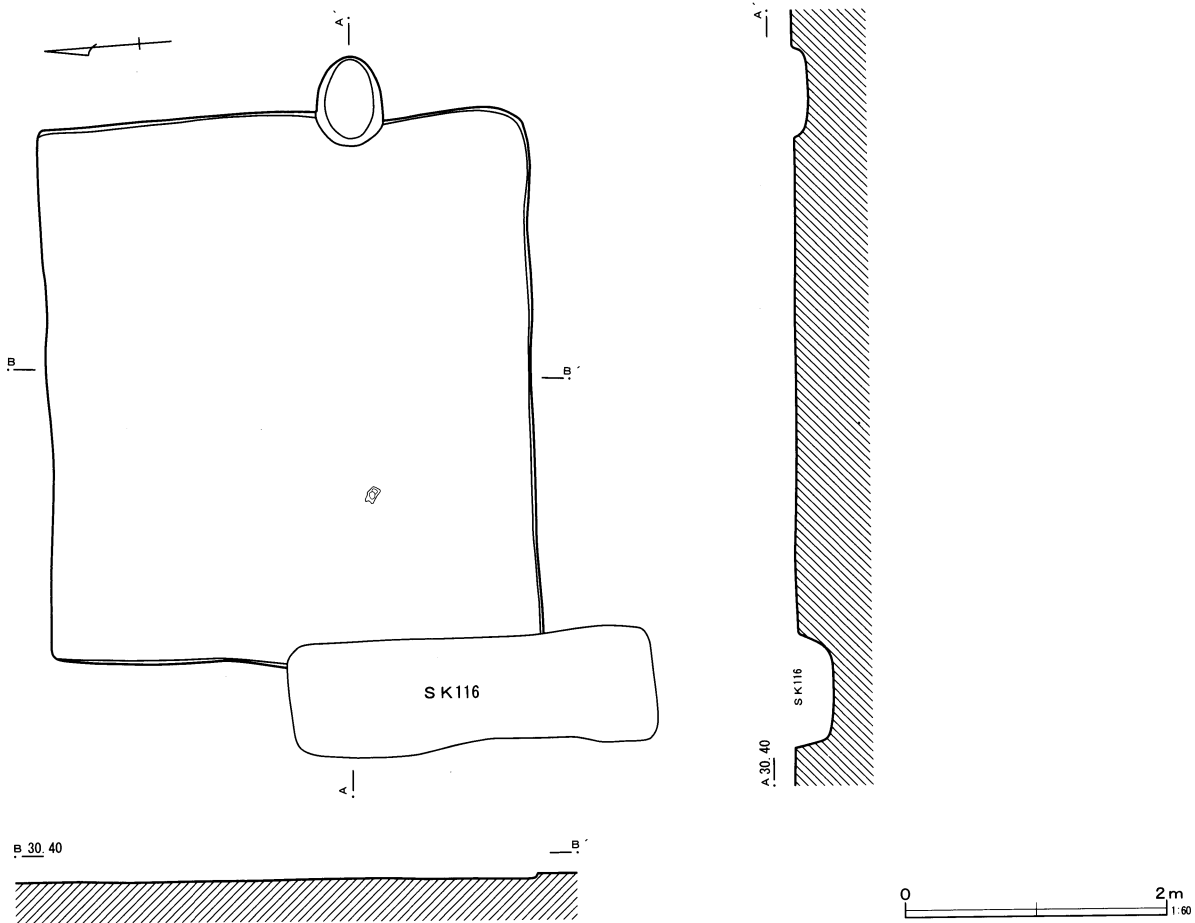
第106号住居跡 (第206・207図)

I-11 グリッドに位置する。第116土坑と重複し、南西隅が土坑に切られている。規模は、主軸長東西4.23 m、南北3.70 m、深さ2 cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-95°-Eを指

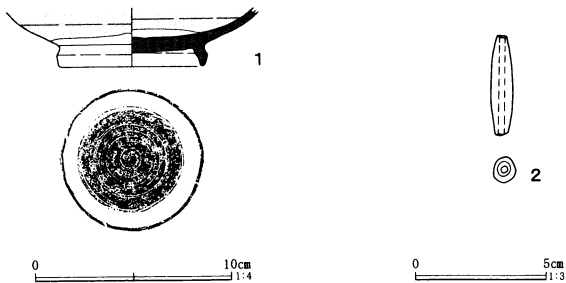
す。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、70cm × 50cm、深さ13cmを測る。

遺物は、灰釉陶器高台付碗、土錘が出土した。



第206図 第106号住居跡



第207図 第106号住居跡出土遺物

第106号住居跡出土遺物観察表 (第207図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	灰釉高台碗			(7.3)	G	良好	灰白	75	覆土	高台内へラ削り 施釉ハケヌリ 内面に重ね焼き痕
2	土錘	長さ3.75	径0.85	孔径0.3		普通	にぶい橙	100	覆土	

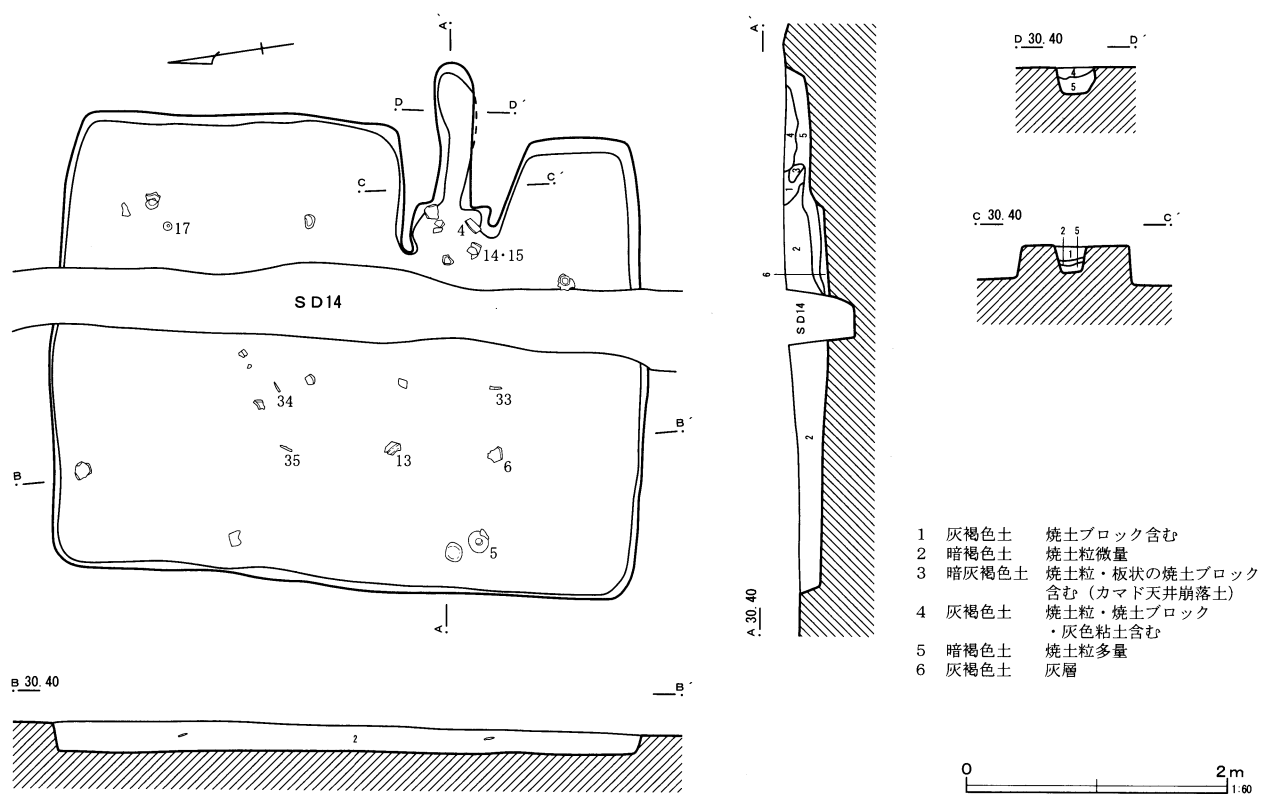
第107号住居跡 (第208～210図)

J・K-12グリッドに位置する。第14号溝により、住居跡の中央を南北に切られている。規模は、主軸長東西3.53m、南北4.52m、深さ17cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-101°-Eを指す。

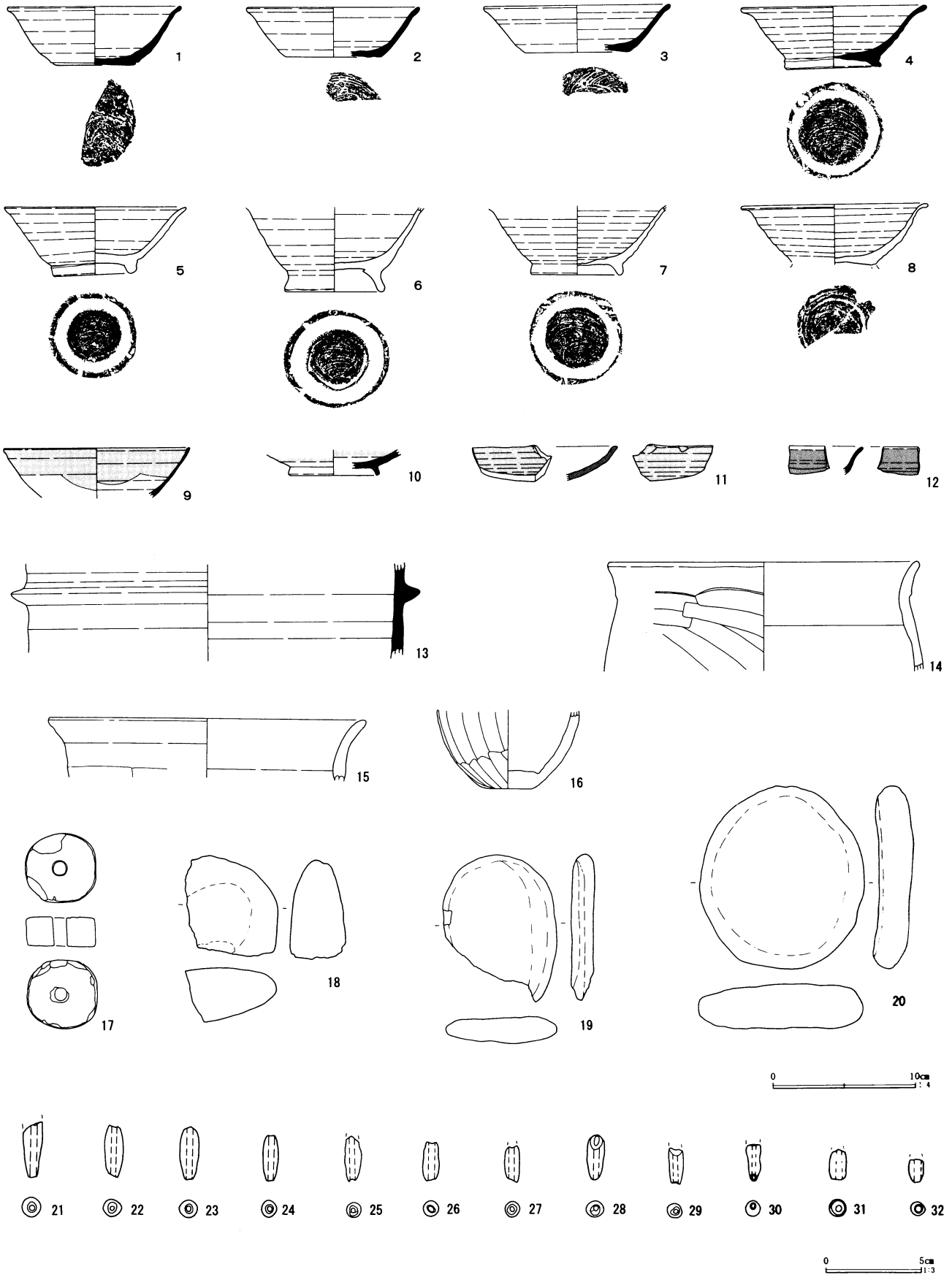
カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、80cm以上×60cmを測り床面と同じ高さで、

煙道は100cm確認できた。

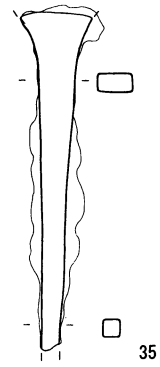
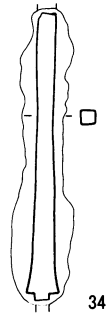
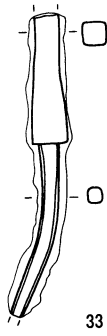
遺物は、須恵器坏・高台付碗・羽釜、土師器高台碗・甕、土製紡錘車、礫、土錘、鉄製品が出土した。33・34ともに鉄鏃と考えられる。33は現存長7.6cm、角関で茎部がわずかに折れ曲がる。34は台形関を呈し現存長7.4cmである。35は鉄製釘である。頭部と脚部を欠き、現存長8.6cmである。床直の出土である。



第208図 第107号住居跡



第209图 第107号住居跡出土遺物(1)



第 210 図 第 107 号住居跡出土遺物 (2)

第 107 号住居跡出土遺物観察表 (第 209・210 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(12.0)	4.1	5.9	A J	良好	灰	40	覆土	底部回転糸切り
2	須恵坏	(12.0)	3.5	(6.6)	A G K	良好	灰黄	20	覆土	底部回転糸切り
3	須恵坏	(13.0)	3.3	(7.2)	A J K	良好	灰	15	覆土	底部回転糸切り
4	土師高台坏	12.9	4.4	6.7	A B F J	普通	橙	80	カマド	歪み大きい 酸化焰焼成 ロクロ土師器
5	土師高台坏	12.8	4.9	5.7	A B F J	普通	にぶい橙	100	覆土	酸化焰焼成 ロクロ土師器
6	土師高台坏			7.0	A B J	良好	にぶい黄橙	80	覆土	酸化焰焼成 ロクロ土師器
7	須恵高台坏			6.4	A F J	普通	橙	40	覆土	酸化焰焼成 底部回転糸切り 周辺ナデ
8	須恵高台坏	(13.0)			A B F J	普通	灰褐	60	覆土	酸化焰焼成 高台部剥離
9	灰釉碗	(12.9)			A G	良好	灰白	10	覆土	施釉ツケガケ 東濃産
10	灰釉高台皿			(6.3)	A G	良好	灰白	5	覆土	底部高台内糸切り 東濃産
11	灰釉陶器				A G	良好	灰白	10	掘り方	輪花碗 施釉ツケガケ 東濃産
12	緑釉稜碗				A	良好	灰オリーブ	破片	覆土	猿投産
13	須恵羽釜				A G	普通	灰	10	覆土	
14	土師甕	(21.4)			A C F J	普通	にぶい橙	15	カマド	
15	土師甕	(21.8)			A B	普通	にぶい黄褐	15	カマド	
16	土師小型甕			3.3	A B F	普通	灰黄褐	70	覆土	
17	石製紡錘車	径4.9 厚さ2.1 孔径0.9						90	覆土	
18	礫	長さ6.9 幅6.4 厚さ3.8						-	覆土	
19	礫	長さ10.1 幅7.8 厚さ1.8						-	覆土	
20	礫	長さ12.0 幅11.4 厚さ2.9						-	覆土	
21	土錘	長さ2.9 径1.0 孔径0.3				普通	にぶい橙	70	覆土	
22	土錘	長さ2.2 径1.0 孔径0.3				普通	黄灰	90	覆土	
23	土錘	長さ2.8 径1.0 孔径0.3				普通	灰黄	80	覆土	
24	土錘	長さ2.4 径0.8 孔径0.3				普通	淡黄	100	覆土	
25	土錘	長さ2.3 径0.8 孔径0.2				普通	黒褐	80	覆土	
26	土錘	長さ2.1 径0.8 孔径0.3				普通	黄灰	95	覆土	
27	土錘	長さ1.9 径0.8 孔径0.3				普通	灰	70	覆土	
28	土錘	長さ2.4 径0.9 孔径0.3				普通	暗赤灰	70	覆土	
29	土錘	長さ1.8 径0.8 孔径0.3				普通	褐灰	80	覆土	
30	土錘	長さ1.9 径0.75 孔径0.3				普通	オリーブ黒	50	覆土	
31	土錘	長さ1.6 径0.9 孔径0.3				普通	赤黒	50	覆土	
32	土錘	長さ1.2 径0.8 孔径0.4				普通	黄灰	50	覆土	

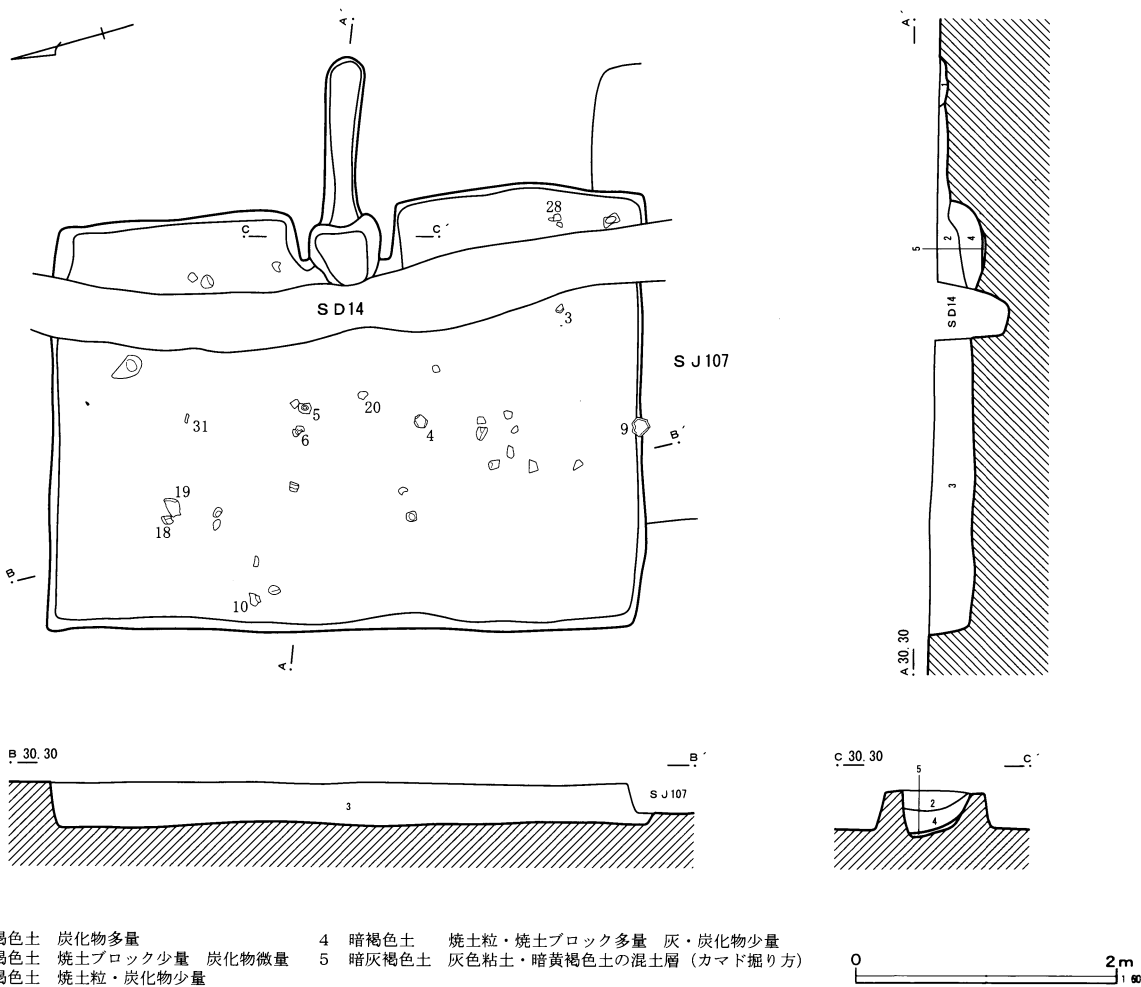
第108号住居跡 (第211～213図)

J・K-12グリッドに位置する。第107号住居跡・第14号溝と重複し、住居跡に南壁上部が切られ、溝が東半部で住居跡を横断して切っている。規模は、主軸長東西3.42m、南北4.54m、深さ34cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-105°-Eを指す。

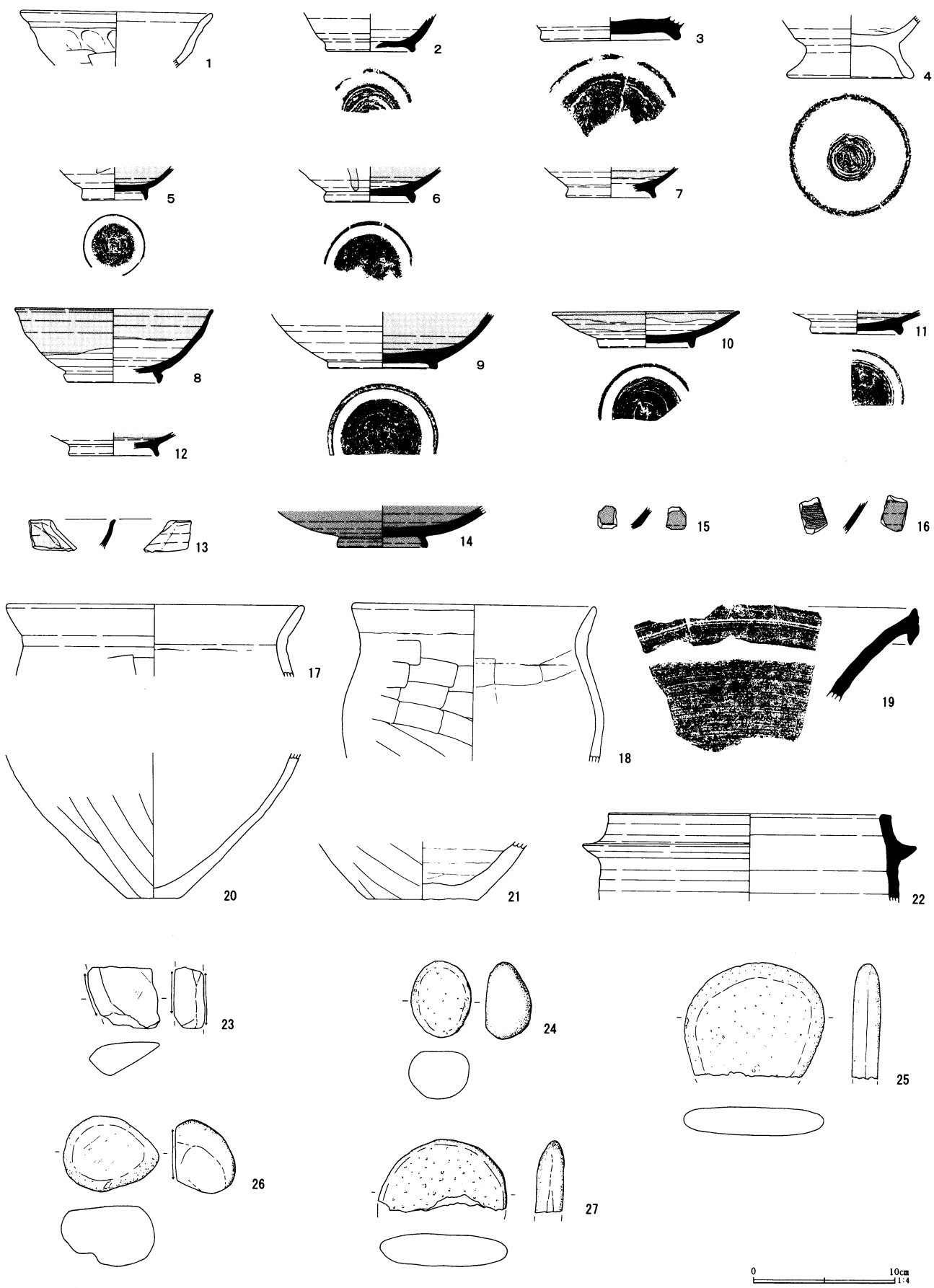
カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は西端が溝に切られているが、68cm×52cm、深さ12cm

が確認でき、煙道部は長さ110cmが確認できた。

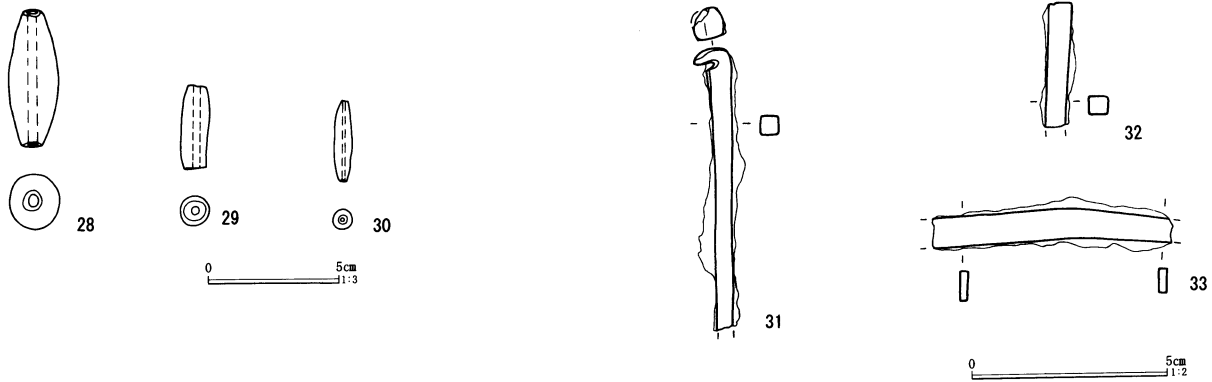
遺物は、土師器坏・甕・羽釜、須恵器高台付碗・甕・羽釜、灰釉陶器高台坏碗・高台坏皿・耳皿、緑釉陶器破片、土錘、礫、鉄製品が出土した。31は鉄製釘である。現存長7.3cm。基部先端をつぶして折り曲げて頭部とする。頭部の幅は0.7cmである。32は角棒状鉄製品である。現存長3.2cm。33は延板状鉄製品である。現存長6.1cm。2・3ともに用途は不明である。



第211図 第108号住居跡



第212图 第108号住居跡出土遺物(1)



第213図 第108号住居跡出土遺物(2)

第108号住居跡出土遺物観察表(第212・213図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.4)			A B C F G	普通	にぶい赤褐	15	覆土	
2	須恵高台埴			(6.0)	A J	良好	灰白	20	覆土	底部回転糸切り
3	須恵高台埴			(10.0)	A C J K	普通	にぶい黄褐	30	覆土	
4	土師高台埴			8.8	A B F J	普通	にぶい橙	90	覆土	ロクロ土師器
5	灰釉高台埴			4.4	A	良好	灰	80	覆土	底部高台内ヘラ削り 施釉内外面ハケヌリ 東濃産
6	灰釉高台埴			6.0	A G K	良好	灰白	60	覆土	底部高台内ヘラ削り 施釉内面ハケヌリ 二川産
7	灰釉高台埴			(6.0)	A	良好	灰白	10	覆土	底部高台内糸切り 東濃産
8	灰釉高台埴	(14.0)	5.2	(6.4)	A	良好	灰白	20	覆土	底部高台内ヘラ削り 施釉内外面ハケヌリ 東濃産
9	灰釉高台埴			7.8	A J	良好	浅黄	60	覆土	底部高台内ヘラ削り 施釉内面ハケヌリ 二川産
10	灰釉高台皿	(13.4)	2.5	6.8	A	良好	灰白	40	床直	底部高台内ヘラ削り 施釉ツケガケ 東濃産
11	灰釉高台皿			(6.2)	A	良好	灰	25	覆土	底部高台内ヘラ削り 東濃産
12	灰釉高台皿			(6.4)	A	良好	灰白	15	覆土	底部高台内糸切り 東濃産
13	灰釉耳皿				A	良好	灰	破片	覆土	底部高台内ヘラ削り 施釉ハケヌリ 東濃産
14	緑釉高台埴			(6.4)	A	良好	オリーブ黄	30	覆土	猿投産
15	緑釉稜埴				A	良好	オリーブ灰	破片	覆土	猿投産
16	緑釉陶器				J	良好	オリーブ灰	破片	覆土	猿投産
17	土師甕	(20.6)			A F G	普通	浅黄橙	25	覆土	
18	土師甕	(16.8)			F G	普通	にぶい橙	15	覆土	
19	須恵甕				A K	普通	灰	破片	覆土	
20	土師甕			3.7	F G	普通	にぶい橙	10	覆土	
21	土師甕			(7.8)	A C J	普通	にぶい黄橙	15	覆土	
22	須恵羽釜	(20.0)			A B J K	良好	にぶい黄橙	15	カマド	
23	砥石	長さ4.3	幅5.0	厚さ2.3					覆土	3面使用
24	礫	長さ5.4	幅4.3	厚さ3.3					覆土	
25	礫	長さ8.1	幅9.8	厚さ1.9					覆土	
26	礫	長さ5.3	幅6.3	厚さ4.2					覆土	
27	礫	長さ5.1	幅9.0	厚さ2.8					覆土	

第 108 号住居跡出土遺物観察表 (第 213 図)

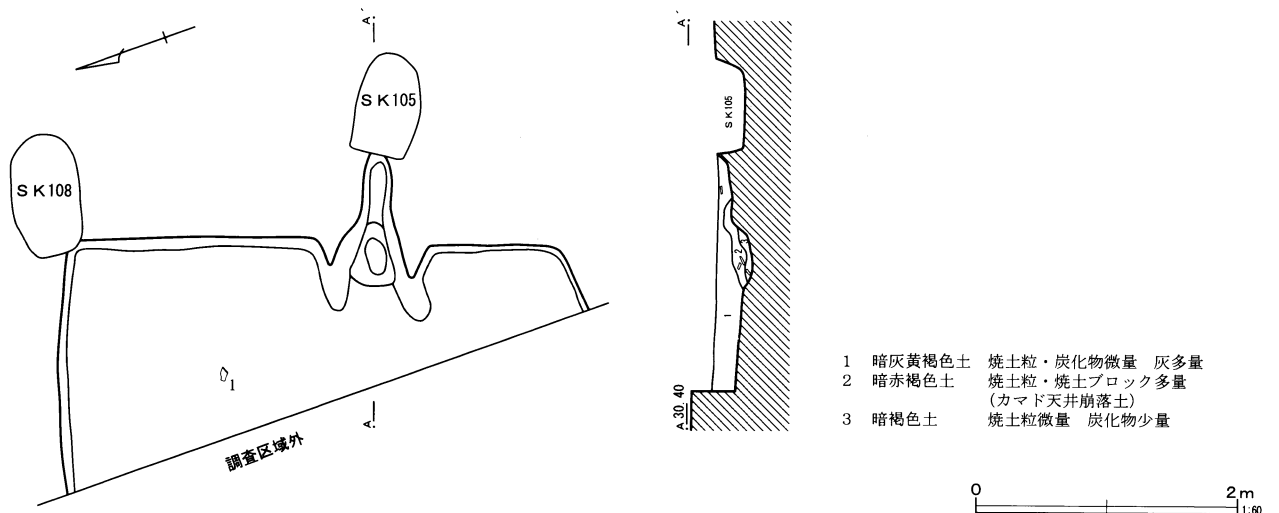
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
28	土錘	長さ5.2	径2.05	孔径0.45		普通	にぶい橙	100	覆土	
29	土錘	長さ3.15	径1.15	孔径0.35		普通	黄灰	100	覆土	
30	土錘	長さ3.05	径0.7	孔径0.15		普通	にぶい黄橙	100	覆土	

第 109 号住居跡 (第 214・215 図)

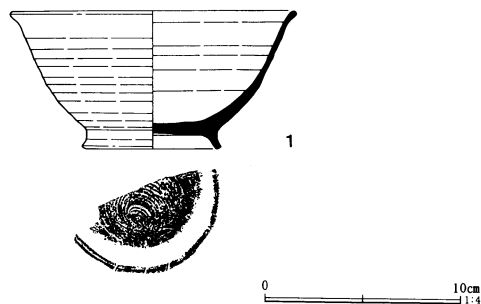
J-10 グリッドに位置する。西側ほとんどが調査区域外になっている。第 105・108 号土坑と重複し、切られている規模は、確認できたのは主軸長が北壁で東西 2.00 m、東壁で南北 3.99 m、深さ 20 cm 程を測る。主軸方位は、N-113°-E を指す。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられていて、煙道先端部分は第 105 号土坑に切られており燃焼部は、48 cm × 60 cm、深さ 13 cm を測り、煙道部は長さ 52 cm が確認できた。

遺物は、須恵器高台付碗が出土した。



第 214 図 第 109 号住居跡



第 215 図 第 109 号住居跡出土遺物

第 109 号住居跡出土遺物観察表 (第 215 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台碗	(14.4)	7.0	(7.6)	A B	普通	灰	30	覆土	

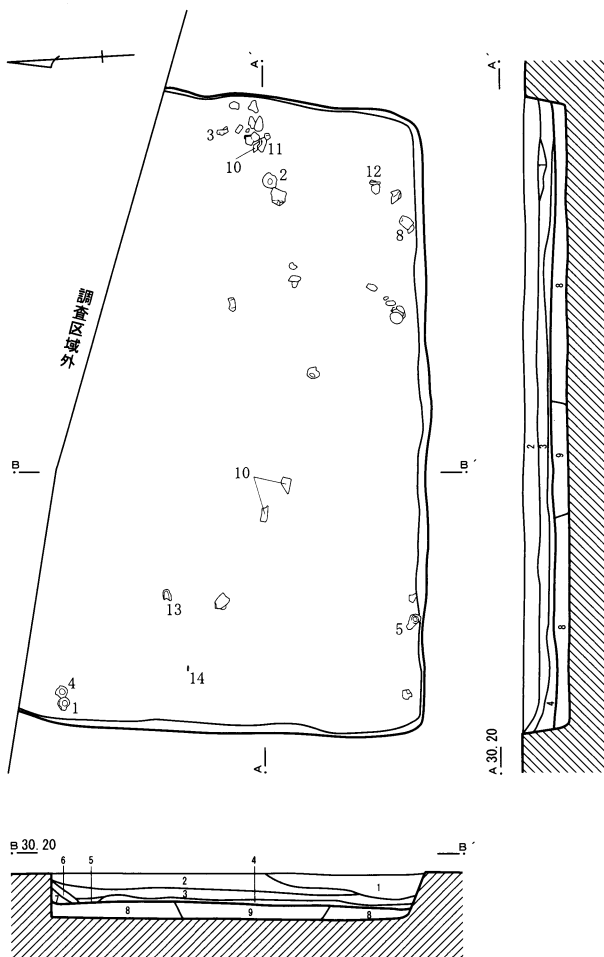
第111号住居跡 (第216・217図)

A-10・11グリッドに位置する。北半部は調査区域外になっている。規模は、主軸長東西4.86m、確認できた南北は西壁で3.06m、深さ24cm程を測る。平面形は、長方形を呈すると推定される。主軸方位は南壁を基準とすると、N-95°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

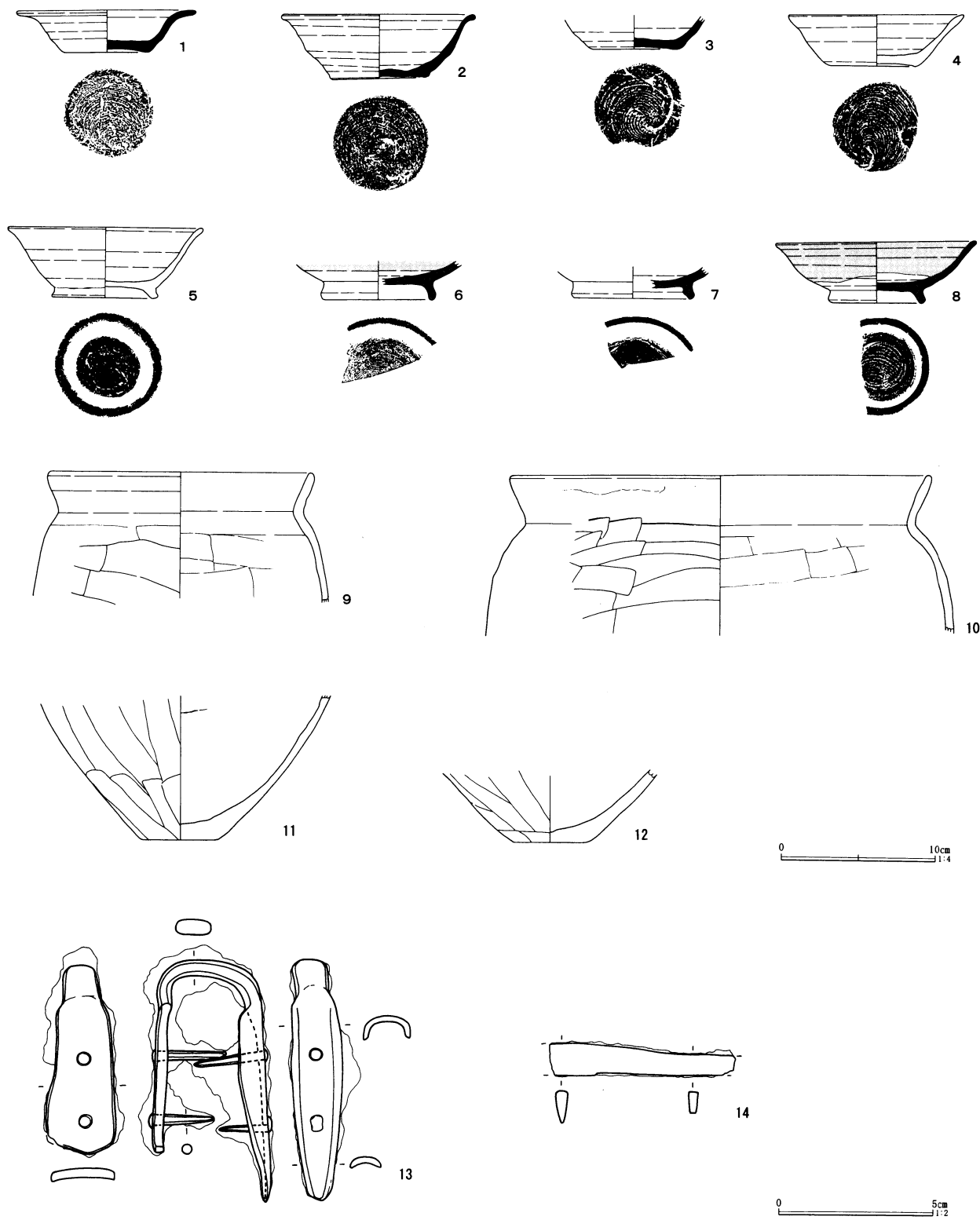
遺物は、須恵器坏、土師器坏・高台坏塊・甕、灰釉陶器高台付塊の他に、鉄製品が出土した。13は鉄製の鏡吊金具である。側面は逆U字形を呈し、長さ8.0cm、端部の幅は3.8cmである。図示した右側

が正面で、鏡本体に固定する部分の長さは6.8cm、最大幅は1.6cm、断面は鏡本体の形状に合わせて縁が大きく折れている。打ち込まれた釘は丸釘で長さは2.5cmと1.7cmである。背面の固定部の長さは5.0cm、最大幅は2.4cmである。断面はわずかに膨らむが、ほぼ扁平である。釘の長さは2.4cmと2.1cmである。吊手の部分は長さ約1.5cm、幅3.3cmである。14は現存長6.0cm、刃幅1.0cmの鉄製刃物である。両関で背関は撫関、刃関は角関であるが浅くわずかである。茎部が幅広となるその形状から、刀子以外の刃物、例えば鋏の可能性もある。



- 1 暗灰褐色土 焼土ブロック少量 炭化物微量
- 2 暗灰褐色土 焼土ブロック・炭化物微量
- 3 暗灰褐色土 焼土ブロック・炭化物少量
黄褐色土ブロックをランダムに含む
- 4 暗灰黄色土 焼土ブロック・炭化物少量
黄褐色土ブロックをランダムに含む
- 5 黒褐色土 焼土ブロック・炭化物含む
- 6 淡赤褐色土 帯状に焼土粒を含む
- 7 暗灰褐色土 焼土粒微量
- 8 暗灰褐色土 焼土粒微量 (掘り方)
- 9 暗灰褐色土 焼土ブロック・炭化物微量
多量の黄褐色土ブロックをランダムに含む (掘り方)

第216図 第111号住居跡



第217图 第111号住居跡出土遺物

第111号住居跡出土遺物観察表（第217図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(11.4)	2.7	5.5	A F J	普通	にぶい橙	60	覆土	
2	須恵坏	12.5	4.2	6.4	A B F J	普通	にぶい褐	90	覆土	底部回転糸切り
3	須恵坏			5.6	A B J	良好	灰黄	80	覆土	底部回転糸切り
4	土師坏	11.5	3.4	5.5	A B G J	普通	橙	90	覆土	底部右回転糸切り やや歪みあり
5	土師高台壺	(12.6)	4.6	7.0	A B F J	普通	にぶい橙	40	覆土	ロクロ土師器 底部回転糸切り
6	灰釉高台壺			(7.2)	A	良好	灰白	40	覆土	底部高台内糸切り 内面重ね焼き痕 浜北産
7	灰釉高台壺			(7.6)	A	普通	灰白	20	覆土	底部高台内へラ削り 橙濃産
8	灰釉高台壺	13.0	4.0	6.2	A G	良好	灰黄	55	覆土	底部高台内糸切り 施釉ツケガケ 東濃産
9	土師甕	(16.9)			A B	良好	暗灰黄	10	覆土	
10	土師甕	(26.8)			B J	普通	にぶい黄	10	覆土	
11	土師甕			4.5	B E	普通	浅黄橙	60	覆土	
12	土師甕			4.8	B C	普通	灰褐	40	覆土	

第112号住居跡（第298図）

A-10グリッドに位置する。北側及び西側は調査区域外になっている。規模は、南東壁で2.86m、北西から南東で確認できた2.49m、深さ20cm程を測る。主軸方位は南東壁を基準として、N-45°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

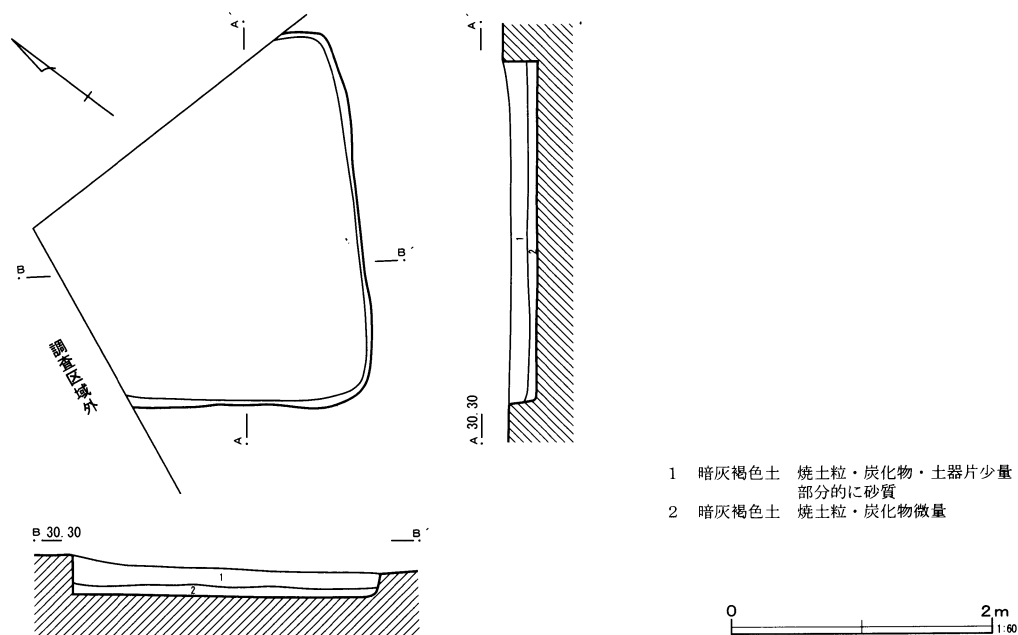
第114号住居跡（第219・220図）

I・J-12グリッドに位置する。第115・116・

143号住居跡・第7号溝と重複している。溝に西半、第143号住居跡に南半を切られ、第115・116号住居跡とも切っている。規模は、東壁で確認できた2.92m、確認できた東西方向は1.09m、深さ41cm程を測る。主軸方位は東壁を基準とすると、N-2°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、灰釉高台付皿、土錘が出土した。



第218図 第112号住居跡

第115号住居跡 (第219・221 図)

I・J-12グリッドに位置する。第114・116・143号住居跡・第15号溝と重複している。第114・143号住居跡に西側切れられ、溝にも覆土が掘り込まれている。規模は、南壁確認できた東西1.54m、南北3.10m、深さ50cm程を測る。東壁を基準とすると主軸方位は、N-2°-Wを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏・壺・甕、須恵器壺・高台付壺・蓋、灰釉陶器高台付壺の他に、鉄鏃が出土した。20は鉄鏃である。完形で全長は12.9cmである。鏃身部は長さ4.0cm、逆刺を有する長三角形を呈し、両

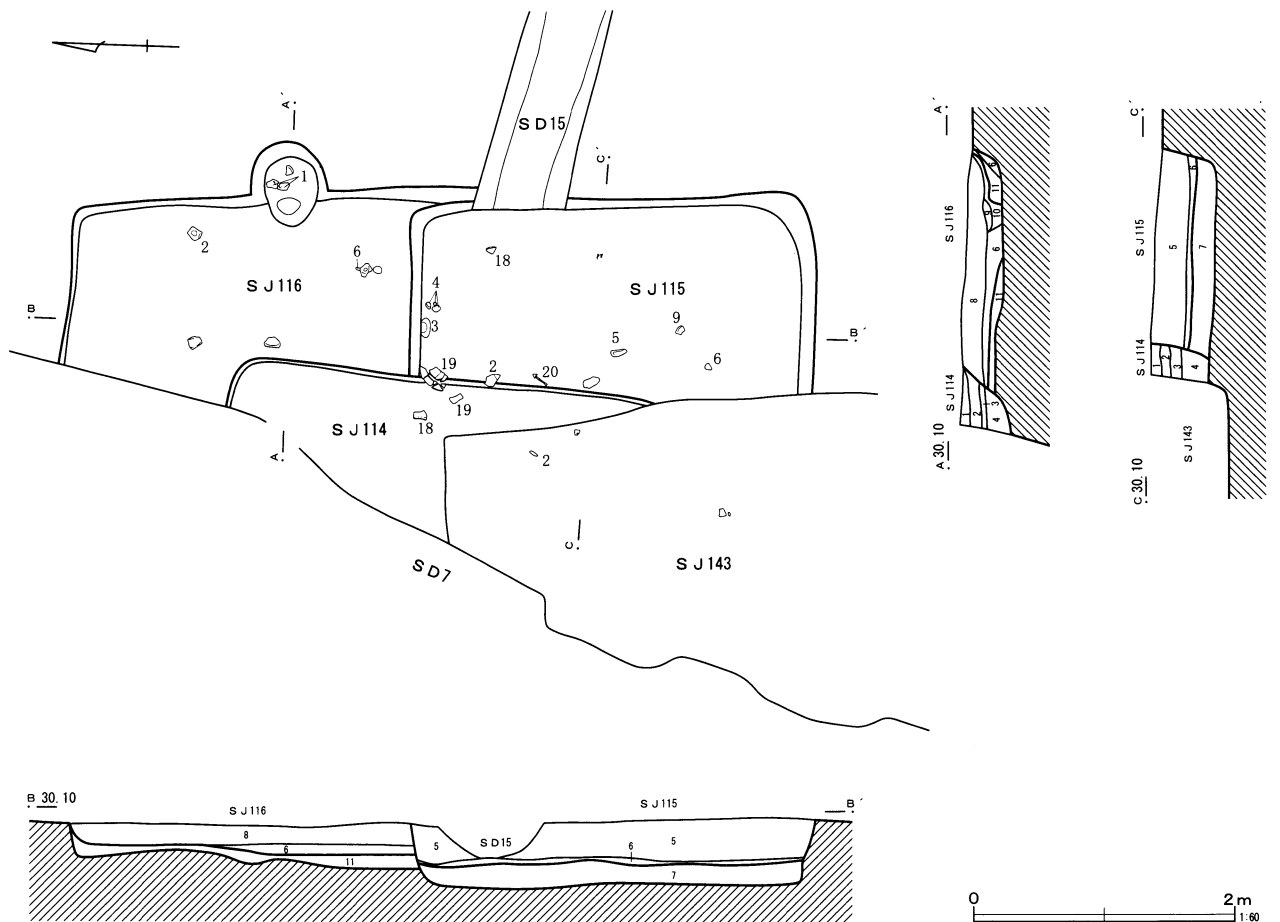
丸造である。頸部は長さ3.4cm、関はややふくらむ角関である。基部は長さ6.1cmである。

第116号住居跡 (第219・222 図)

I-12グリッドに位置する。第114・115号住居跡・第7・15号溝と重複している。規模は、確認できた主軸長東西1.60m、東壁で確認できた南北3.02m、深さ34cm程を測る。主軸方位は、N-87°-Eを指す。

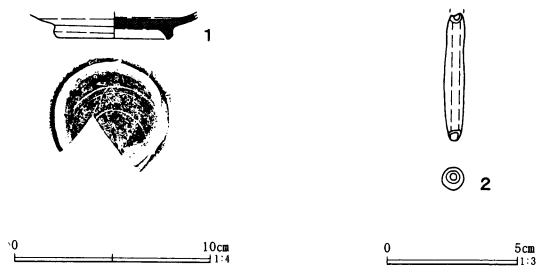
カマドは、東壁に設けられている。燃烧部は、67cm×58cm、深さ8cmを測る。

遺物は、土師器高台付壺・甕、須恵器高台付壺・鉢、土錘が出土した。

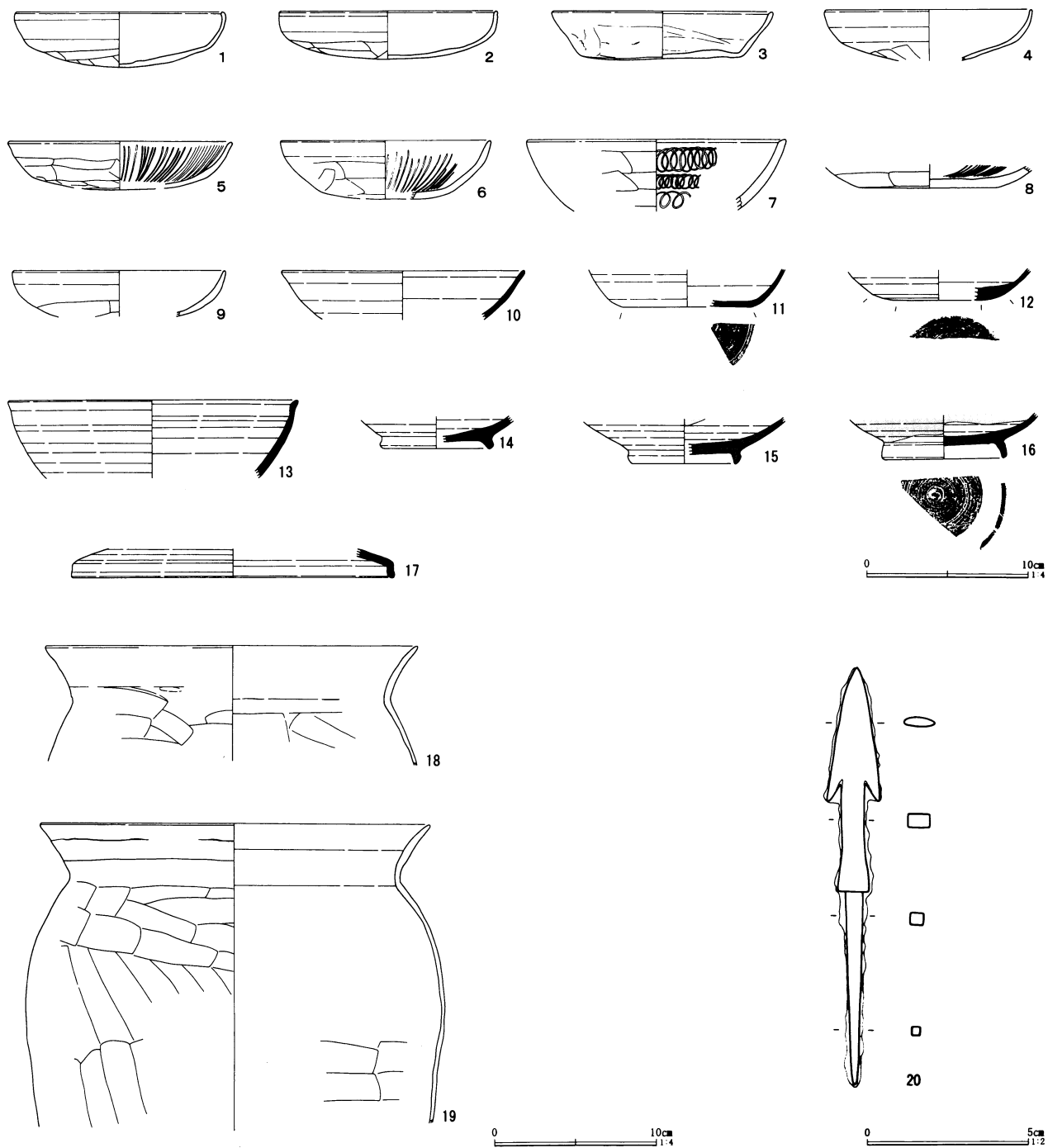


- | | | |
|----------|---------|----------------------|
| 第114号住居跡 | 6 暗褐色土 | 焼土粒・炭化物混入 |
| 1 暗褐色土 | 7 暗灰褐色土 | 灰褐色粒土・黄褐色土の混土層 (掘り方) |
| 2 黒褐色土 | 8 暗褐色土 | 焼土粒・炭化物少量 |
| 3 灰褐色土 | 9 暗黄褐色土 | 焼土粒・炭化物多量 |
| 4 灰白色土 | 10 黒灰色土 | 灰層 焼土粒混入 |
| 第115号住居跡 | | |
| 5 暗褐色土 | | |

第219 図 第114・115・116号住居跡



第 220 图 第 114 号住居迹出土遺物



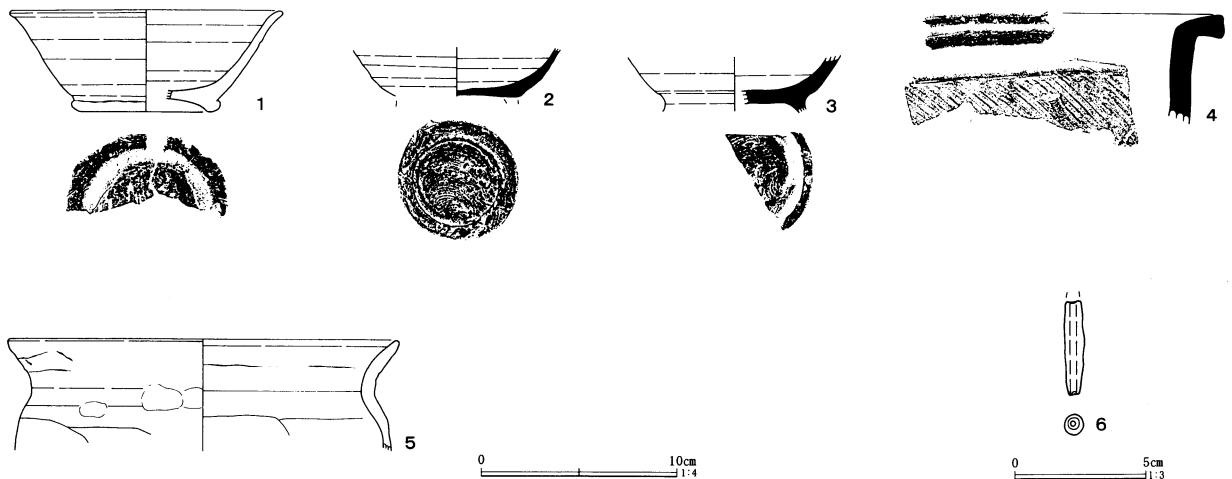
第 221 图 第 115 号住居迹出土遺物

第 114 号住居跡出土遺物観察表 (第 220 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	灰釉高台皿			5.8	A G	良好	灰	50	覆土	底部高台内糸切り 内面重ね焼き痕 施釉なし 東濃産
2	土錘	長さ4.85	径0.8	孔径0.3		普通	浅黄橙	95	床直	

第 115 号住居跡出土遺物観察表 (第 221 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.8	3.4		A B C	普通	橙	.70	覆土	
2	土師坏	(13.4)	3.0		A B F J	普通	橙	40	覆土	
3	土師坏	13.7	3.0	10.2	A B C	普通	橙	100	床直	
4	土師坏	(12.7)			A C	良好	にぶい橙	20	床直	
5	土師坏	(13.7)			F G	良好	橙	30	床直	内面放射状暗文 口縁部外面回転ナデ
6	土師坏	(12.9)			A C F G	良好	橙	20	床直	内面放射状暗文
7	土師壺	(15.9)			A F	良好	にぶい赤褐	10	覆土	内面螺旋状暗文
8	土師壺			(8.4)	A F G	良好	橙	20	覆土	内面放射状暗文
9	土師坏	(13.1)			A B	良好	橙	20	覆土	
10	須恵壺	(15.0)			A H	良好	灰	10	覆土	
11	須恵壺			(8.0)	A H	良好	灰	10	覆土	底部回転ヘラ削り
12	須恵壺			(8.2)	A H	良好	灰	30	覆土	
13	須恵壺	(18.0)			A H	普通	灰	5	覆土	
14	須恵高台壺			(7.0)	A J	良好	灰	15	覆土	
15	灰釉高台壺			(6.4)	A J	良好	灰白	15	覆土	底部高台内ヘラ削り 施釉内面ハケヌリ 二川産
16	灰釉高台壺			(7.4)	A G	良好	灰白	15	覆土	底部高台内ヘラ削り 施釉ツケガケ 東濃産
17	須恵蓋	(20.0)			A H	良好	灰	5	覆土	
18	土師甕	(22.9)			A B C G	普通	橙	10	覆土	
19	土師甕	(24.0)			A B C G J	普通	にぶい褐	25	覆土	



第 222 図 第 116 号住居跡出土遺物

第116号住居跡出土遺物観察表 (第222図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師高台碗	(14.0)	5.2	(7.5)	A C F J K	普通	にぶい赤褐	40	カマド	酸化焰焼成 ロクロ土師器
2	須恵高台碗			(6.4)	A J K	良好	灰	70	覆土	底部回転糸切り 高台部欠損
3	須恵高台碗			(7.4)	A G J	良好	灰白	20	覆土	高台部先端欠損
4	須恵鉢				A J	良好	灰	破片	覆土	口縁部
5	土師甕	(20.0)			A B C J	普通	にぶい橙	15	覆土	
6	土錘	長さ3.6	径0.75	孔径0.25		普通	灰白	90	床直	

第117号住居跡 (第223・224図)

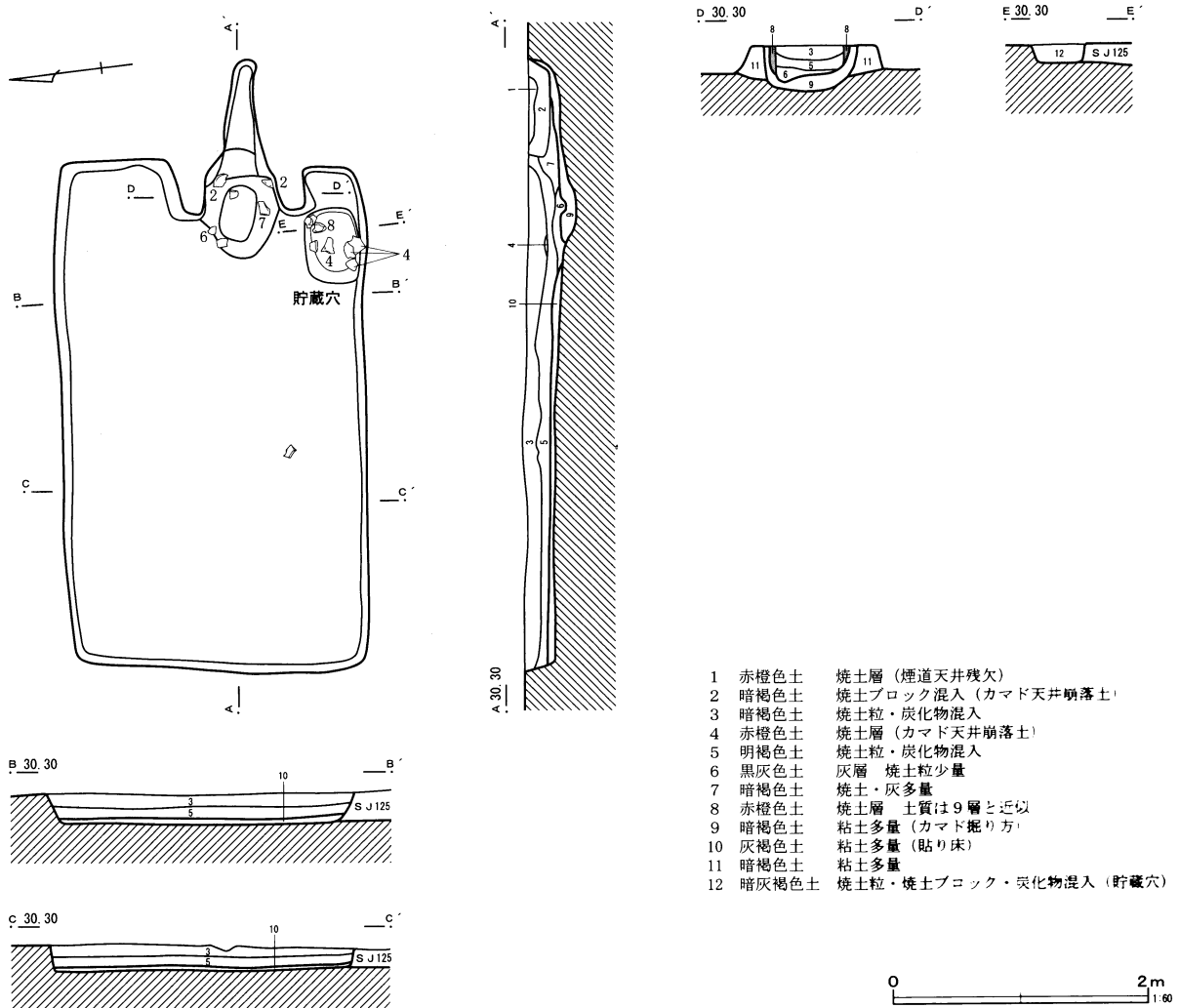
G-13グリッドに位置する。第125号住居跡と重複し、切っていることから当住居跡が新しい。主軸長東西3.93m、南北2.38m、深さ20cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-97°-Eを指す。

貯蔵穴は、南東隅に設けられており、59cm ×

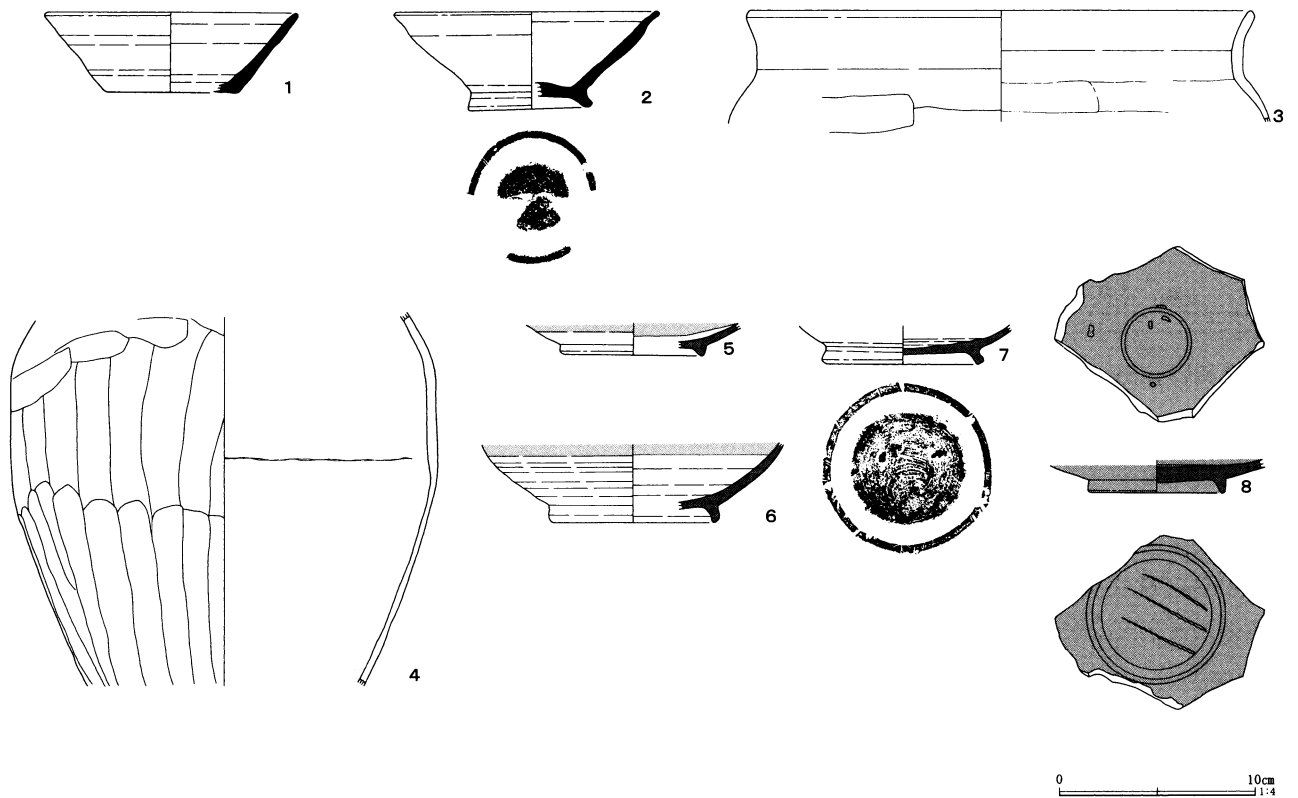
42cmの隅丸長方形で、深さ15cmを測る。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃烧部は、84cm × 60cm、深さ15cmを測り、煙道部は長さ69cmが確認できた。

遺物は、須恵器坏・高台付碗、土師器甕、灰釉陶器高台付碗、緑釉陶器高台付皿が出土した。



第223図 第117号住居跡



第224図 第117号住居跡出土遺物

第117号住居跡出土遺物観察表 (第224図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(12.7)	4.1	(6.7)	B C F J	普通	灰白	30	貯蔵穴	底部回転糸切り
2	須恵高台埴	13.3	5.2	6.3	A F	不良	灰	80	カマド	体部一部酸化焰焼成
3	土師甕	(25.6)			A B F	普通	にぶい褐	10	覆土	
4	土師甕				A F	普通	にぶい褐	30	貯蔵穴	胴部
5	灰釉高台埴			(7.4)	A G	良好	灰白	20	覆土	底部高台内へラ削り 東濃産
6	灰釉高台埴			(8.7)	C G	良好	灰白	20	カマド	底部高台内へラ削り 東濃産
7	灰釉高台埴			8.2	J K	良好	灰白	60	カマド	底部高台内糸切り 施釉なし 東濃産
8	緑釉高台皿			6.9	A	良好	—	70	貯蔵穴	内面砂目・円文 底部高台内沈線

第120号住居跡 (第225～227図)

I-11・12グリッドに位置する。規模は、主軸長東西4.63m、南北3.06m、深さ61cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-83°-Eを指す。

貯蔵穴は、北東隅に設けられており、136cm×106cmの楕円形で、深さ38cmを測る。

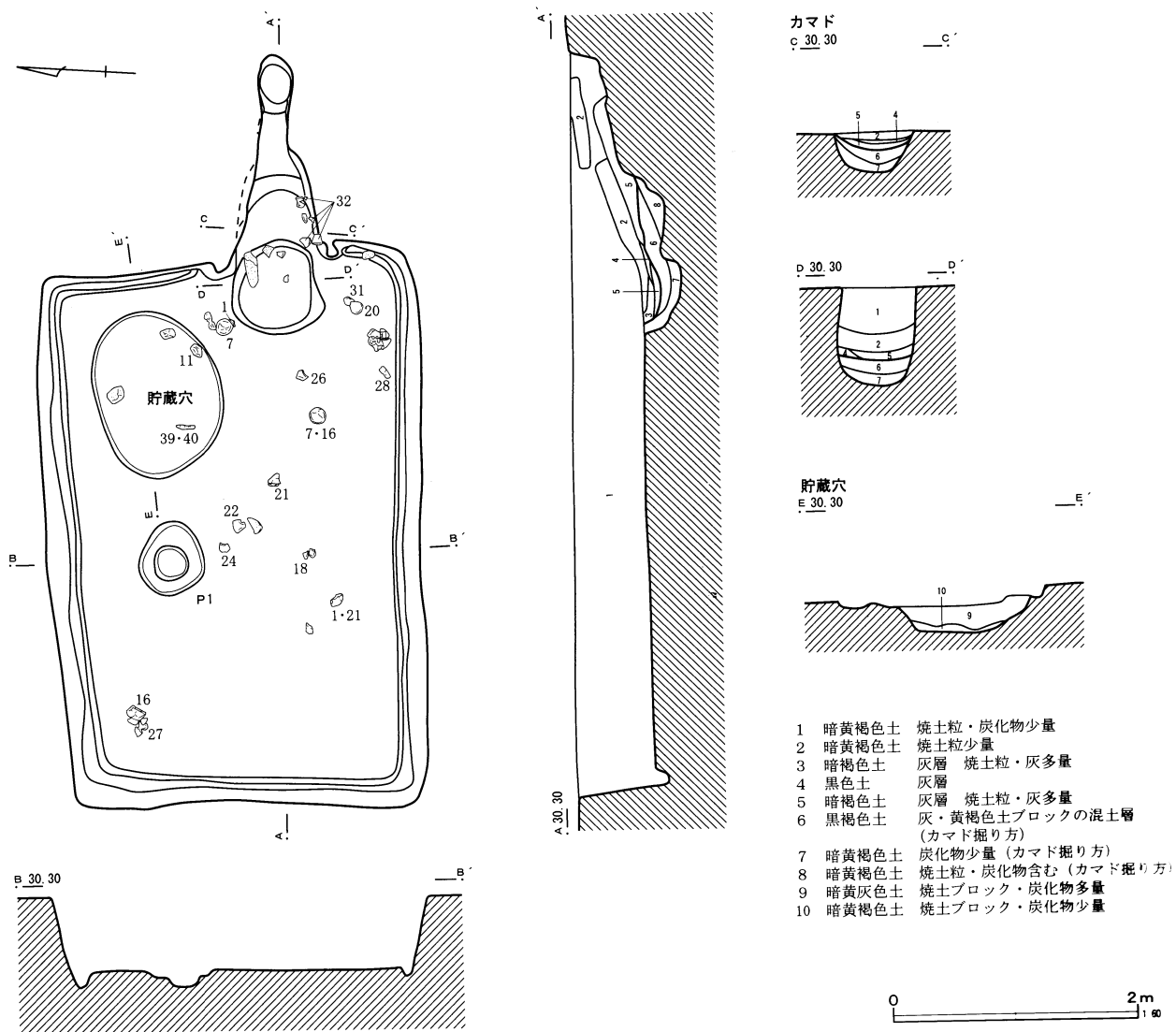
カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、130cm×60cm、深さ18cmを測り、煙道部

は長さ100cmが確認できた。

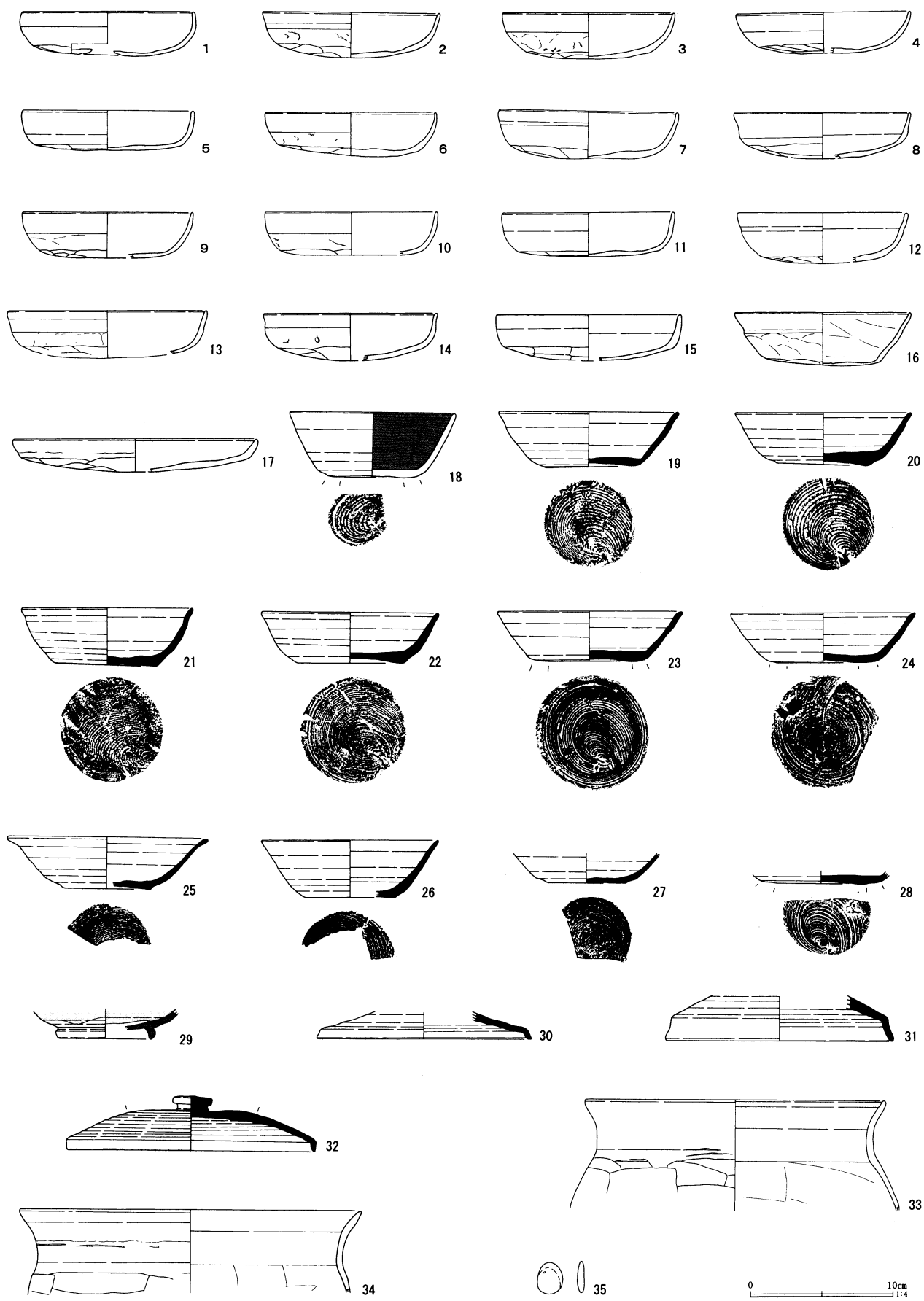
遺物は、土師器坏・甕・盤、須恵器坏・蓋、灰釉陶器高台付埴、基石、石帯具、鉸具・帯金具、刀子等が出土した。37・38銅製の腰帯具である。37は鉸具で、長さは6.5cmである。縁金がほぼ直角に曲がって癒着しているため、平らに復元して実測した。縁金は長さ2.4cm、幅4.8cm、刺金は長さ2.2cmである。銚板は長さ4.5cm、幅3.6cm、厚さ約0.1cmの銅板を折り合わせ、裏側に設けられた脚鉾(長さ

0.4cm) で固定されている。革を挟み込んだ2枚の銅板の隙間は0.2~0.6cmである。縁金と刺金と鍔板は、長さ3.9cmの軸金でからくり留めにされている。38は巡方の表金具である。約1/3を失っており、復元した長さは2.9cm、幅は1.3cmである。垂孔は幅約0.1cmと細長い。脚鉾は2ヶ所に見られるが、本来は3ヶ所に設けられていたものと考えられる。

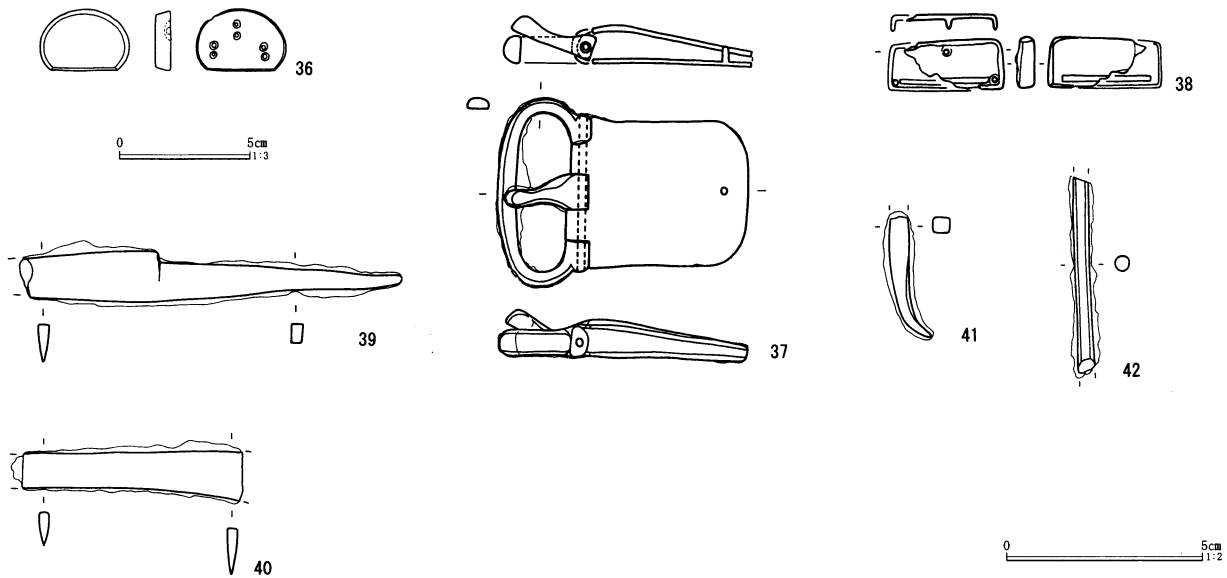
39・40は鉄製刀子である。39は現存長9.7cm、刃幅最大1.3cm、茎長6.2cm、切先を含む刃部の一部を欠く。背関は段差のある角関であるが、刃関は明瞭でない。40は現存長5.6cm、刃幅0.9~1.2cmの刃部の一部である。41は釘と考えられる鉄製品である。現存長3.4cm。42は用途不明の丸棒状の鉄製品である。現存長5.0cm。



第225図 第120号住居跡



第 226 图 第 120 号住居跡出土遺物 (1)



第227図 第120号住居跡出土遺物(2)

第120号住居跡出土遺物観察表(第226図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.0	3.1		ABJ	普通	にぶい橙	100	覆土	底部焼成後穿孔
2	土師坏	12.4	3.2		ABJ	普通	橙	40	貯蔵穴	
3	土師坏	(12.0)	3.2		ABCJ	良好	橙	60	覆土	やや歪みあり
4	土師坏	(12.1)			ABC	良好	にぶい褐	15	覆土	
5	土師坏	(11.9)	2.8	(10.2)	BFJ	普通	にぶい橙	45	覆土	
6	土師坏	(12.0)	3.1		ABFJ	普通	橙	70	貯蔵穴	
7	土師坏	12.5	3.4		ABFJ	普通	橙	100	覆土	
8	土師坏	(12.4)	3.2		ABC F J	普通	橙	60	覆土	
9	土師坏	(12.0)	3.2		ABJ	普通	橙	20	覆土	
10	土師坏	(12.0)	3.0		ABJ	普通	橙	20	覆土	
11	土師坏	(11.8)	3.1	(9.8)	ABCJ	普通	にぶい黄橙	50	貯蔵穴	
12	土師坏	(11.8)			ABC	良好	にぶい橙	10	貯蔵穴	
13	土師坏	(14.0)	(3.0)		ABC	普通	にぶい橙	10	覆土	
14	土師坏	(12.0)	3.3		ABJ	普通	にぶい橙	30	覆土	
15	土師坏	(12.7)	3.2	(11.9)	ABCJ	普通	にぶい橙	30	覆土	
16	土師坏	12.4	3.7	8.0	AFJ	普通	橙	100	覆土	
17	土師盤	(17.0)	2.3		ABCJ	普通	橙	15	貯蔵穴	
18	土師碗	(11.6)	4.6	(6.4)	ABC F J	普通	橙	30	覆土	黒色土器 ロクロ土師器 内面磨き
19	須恵坏	12.6	4.0	6.2	AHJK	良好	灰	90	覆土	底部回転糸切り
20	須恵坏	12.4	3.7	6.6	ACJK	良好	灰黄	95	覆土	底部右回転糸切り
21	須恵坏	12.0	4.1	7.3	AJK	良好	灰	100	覆土	底部周辺手持ちヘラ削り
22	須恵坏	12.4	3.6	7.5	ACGJK	良好	灰	85	覆土	底部右回転糸切り
23	須恵坏	12.9	3.5	7.6	AJ	良好	灰オリーブ	85	覆土	底部周辺回転ヘラ削り
24	須恵坏	(13.0)	3.5	7.7	AJK	普通	灰白	60	貯蔵穴	底部周辺回転ヘラ削り
25	須恵坏	(14.0)	3.6	(5.8)	ACJ	良好	灰	40	覆土	底部回転糸切り
26	須恵坏	(12.4)	4.0	6.2	ACJ	良好	灰	30	覆土	底部回転糸切り

第120号住居跡出土遺物観察表 (第226・227図)

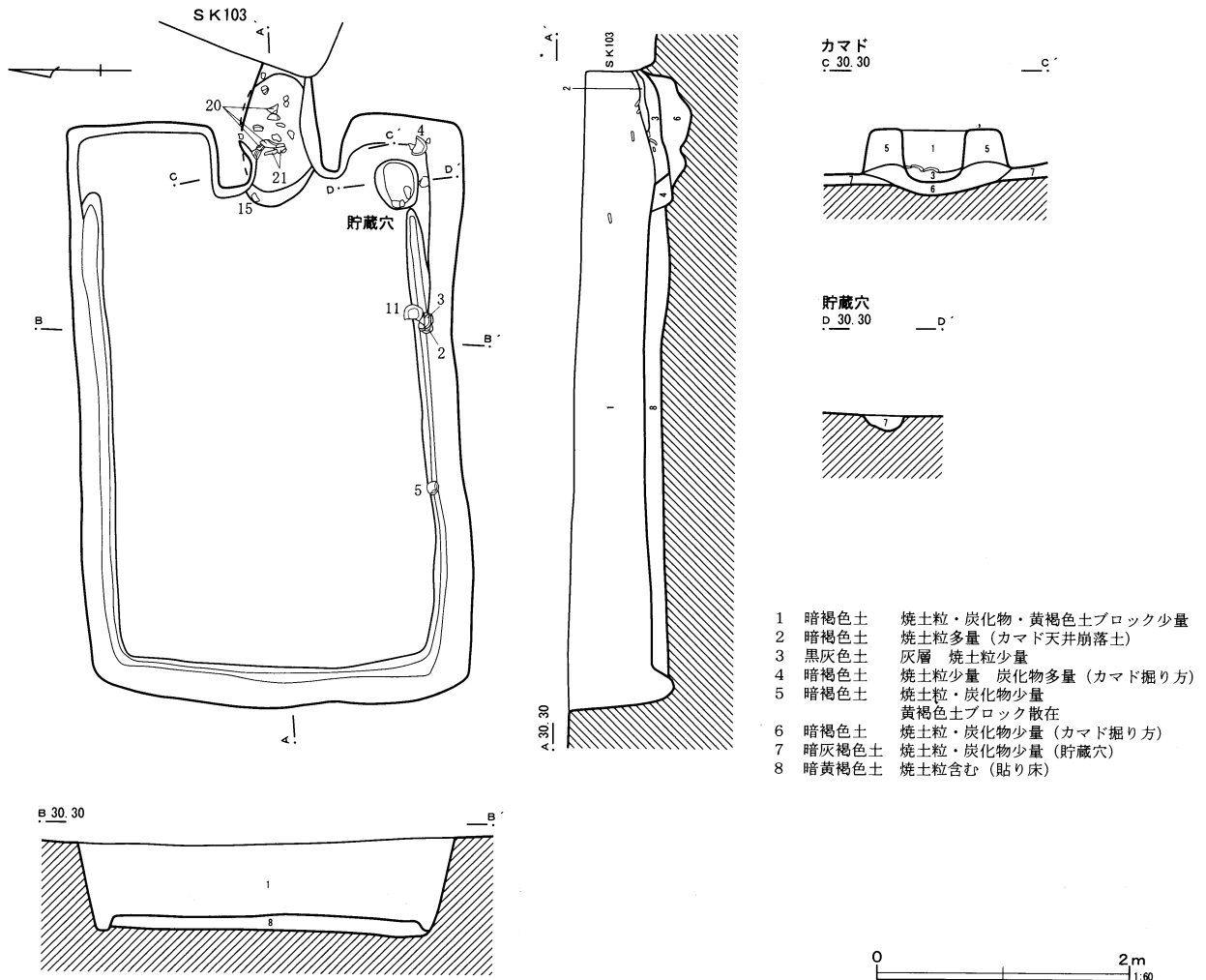
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
27	須恵坏			(5.6)	AJK	良好	灰	40	覆土	底部右回転糸切り
28	須恵坏			8.4	A	良好	灰	50	覆土	底部周辺ヘラ削り
29	灰釉高台埴			(6.4)	AG	良好	灰白	15	覆土	底部高台内ヘラ削り 施釉ツケガケ 浜北産
30	須恵蓋	(15.0)			AJ	良好	浅黄橙	10	覆土	
31	須恵蓋	(16.0)			AJK	良好	灰	15	床直	
32	須恵蓋	17.2	3.8		AHJ	良好	灰	90	カマド	つまみ径2.7 天井部回転ヘラ削り
33	土師甕	(21.0)			ABFJ	普通	にぶい黄褐	40	覆土	
34	土師甕	(23.7)			BCJ	普通	にぶい橙	25	貯蔵穴	
35	基石	長さ2.2	幅1.8	厚さ0.45			—	—	覆土	
36	石帯具	長さ2.3	幅3.4	厚さ0.6			—	—	覆土	丸柄

第122号住居跡 (第228・229図)

I・J-11・12グリッドに位置する。第103号土坑と重複し、カマド先端が切られている。規模は、主軸長東西4.62m、南北3.12m、深さ65cm程を測

る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-88°-Eを指す。

壁溝は、カマドのある東壁を除いて検出され、幅23~33cm、深さ8~17cmを測る。



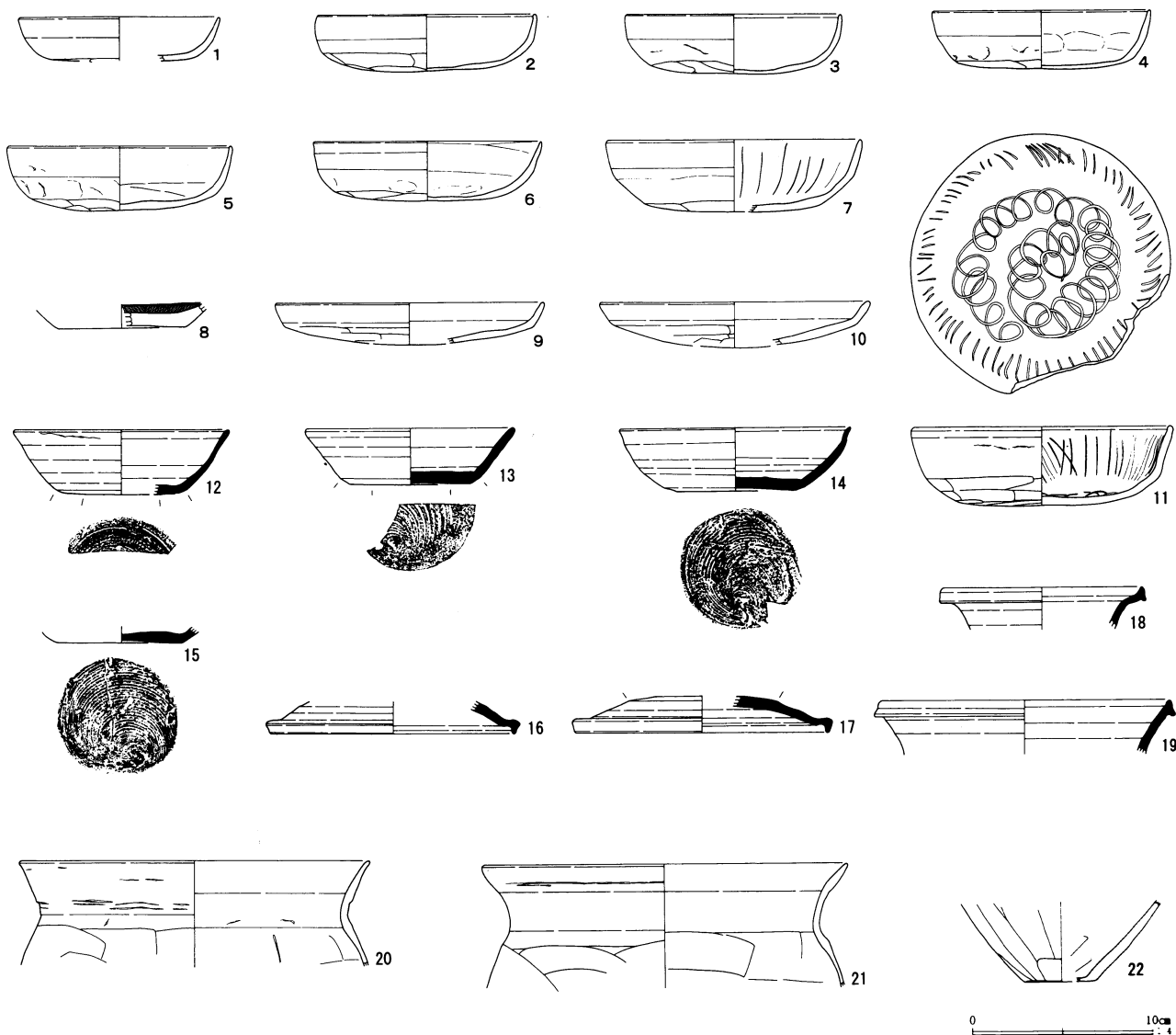
第228図 第122号住居跡

貯蔵穴は、南東隅に設けられており、39cm × 33cmの円形で、深さ12cmを測る。

カマドは、東壁に設けられている。先端部分は、第103号土坑に切られている。燃焼部は、85cm ×

60cm、深さ20cmを測り、煙道部は僅かに確認された。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・蓋・長頸瓶・甕が出土した。



第229図 第122号住居跡出土遺物

第122号住居跡出土遺物観察表 (第229図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(11.1)			AB	普通	灰褐	20	覆土	
2	土師坏	12.2	3.2		ABFJ	普通	にぶい橙	60	壁溝	
3	土師坏	12.0	3.3		ABFJ	普通	橙	65	壁溝	
4	土師坏	12.2	3.3		ABCJ	普通	橙	90	床直	
5	土師坏	12.5	3.6		ABJ	普通	橙	85	壁溝	
6	土師坏	12.7	3.3		ABJK	普通	にぶい橙	80	覆土	
7	土師坏	(14.0)	4.0		ABCFJ	普通	にぶい橙	15	掘り方	内面暗文

第122号住居跡出土遺物観察表 (第229図)

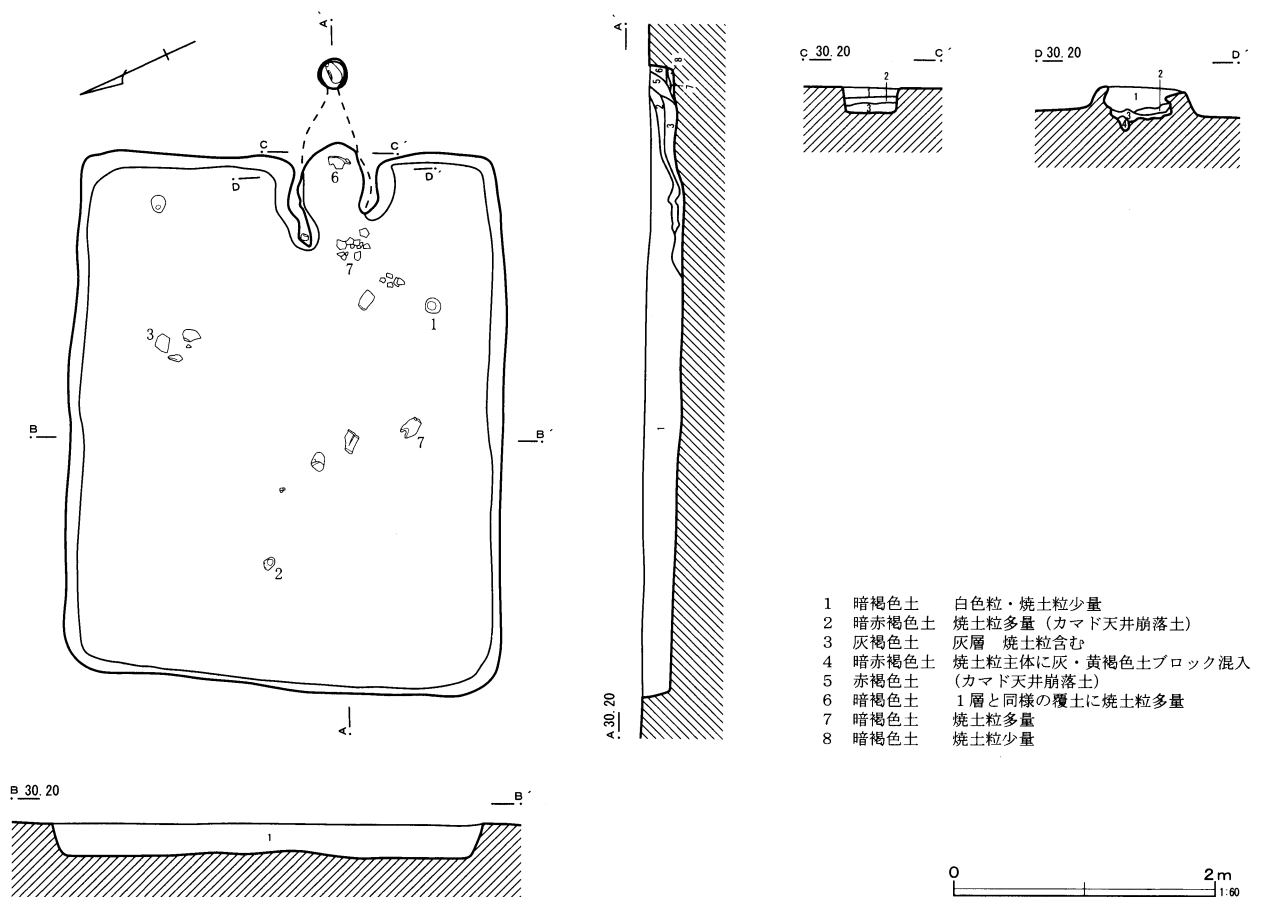
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
8	土師坏			(7.0)	A G	普通	にぶい黄橙	40	覆土	黒色土器 内面磨き
9	土師盤	(14.7)			A B F	普通	橙	15	壁溝	
10	土師盤	(14.7)			A B J	普通	にぶい橙	10	覆土	
11	土師坏	14.2	4.4		A B C F	良好	明褐	90	壁溝	内面放射状暗文、螺旋暗文
12	須恵坏	(12.0)	3.6	7.2	A H J K	良好	灰	10	覆土	
13	須恵坏	(11.4)	3.1	(6.8)	A G K	良好	灰	30	覆土	底部回転糸切り、周辺回転ヘラ削り
14	須恵坏	(12.8)	3.5	6.6	A C J K	良好	灰	60	カマド	底部回転糸切り
15	須恵坏			6.8	G H	良好	暗青灰	100	カマド	底部回転糸切り
16	須恵蓋	(13.4)			A	普通	青灰	20	掘り方	回転ロクロナデ
17	須恵蓋	(14.0)			A J K	良好	灰	10	覆土	天井部右回転ヘラ削り
18	須恵長頸瓶	(11.0)			A	普通	灰	10	カマド	回転ロクロナデ
19	須恵甕	(16.0)			A	普通	灰	10	覆土	
20	土師甕	(19.4)			A B C F J	普通	橙	30	カマド	
21	土師甕	20.0			A F J	普通	橙	60	カマド	
22	土師甕			(4.0)	A B F J	普通	にぶい褐	10	覆土	

第123号住居跡 (第230・231図)

E-11 グリッドに位置する。規模は、主軸長東西4.12m、南北3.30m、深さ28cm程を測る。平面

形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-114°-Eを指す。

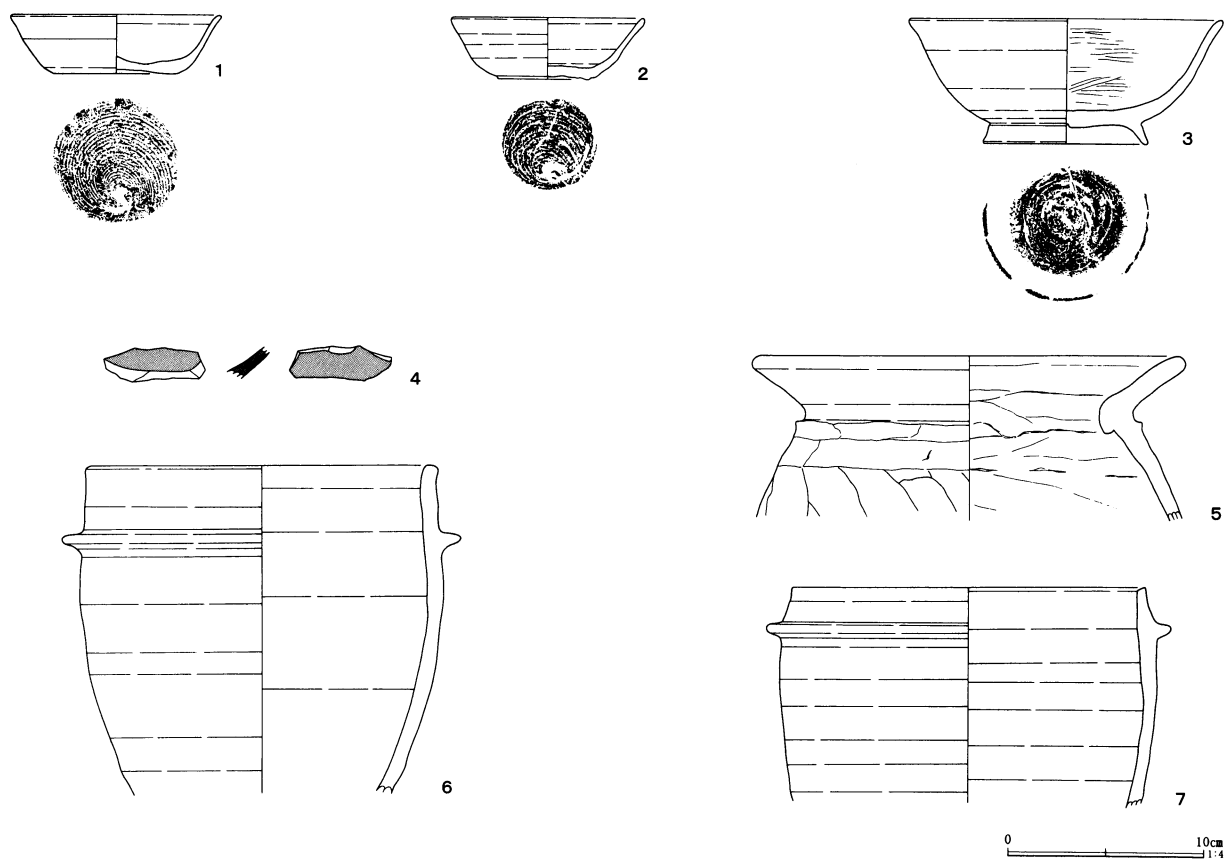
カマドは、東壁南寄りに設けられている。燃焼部



第230図 第123号住居跡

は、137cm × 55cmを測り、床面と同じ高さである。
煙道部は、長さ25cmが確認できた。

遺物は、須恵器坏・土師器坏・甕・羽釜、緑釉陶器破片が出土した。



第231図 第123号住居跡出土遺物

第123号住居跡出土遺物観察表 (第231図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	10.5	3.0	6.4	A F G K	普通	にぶい橙	100	覆土	酸化焰焼成
2	土師坏	9.8	3.2	5.0	A B F J	普通	橙	90	覆土	底部回転糸切り
3	土師高台埴	(16.0)	6.4	8.4	A F J	普通	にぶい黄褐	60	覆土	底部回転ヘラ削り
4	緑釉陶器					—	—	破片	カマド	猿投産
5	土師甕	(22.0)			A B C F J	普通	にぶい黄橙	40	覆土	
6	土師羽釜	(17.3)			A B C F J	普通	にぶい黄橙	20	カマド	
7	土師羽釜	(18.0)			A F K	普通	にぶい黄橙	破片	カマド	

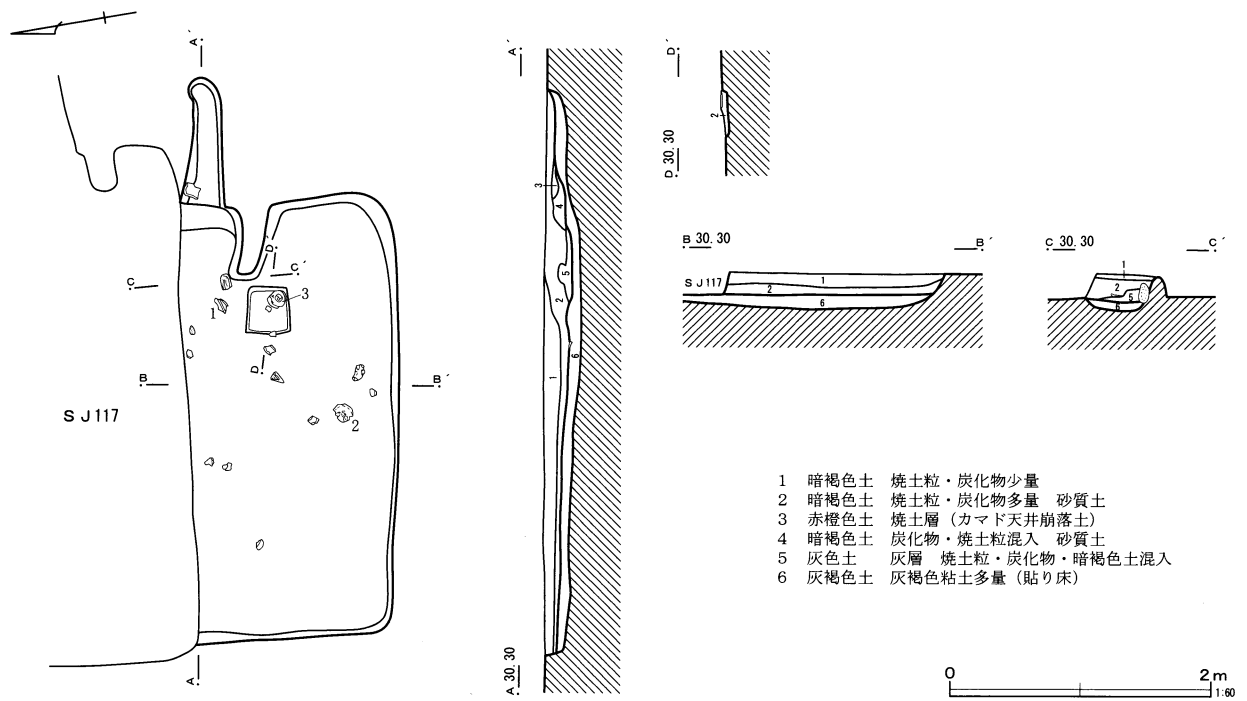
第125号住居跡 (第232・233図)

G-13グリッドに位置する。第117・132号住居と重複し、第177号住居跡に北半部が切られ、第132号住居跡の上部を切っていることから、第177号住居跡・当住居跡・第132号住居跡の順に古くなる。規模は、主軸長東西3.34m、南北で確認できた1.65m、深さ13cm程を測る。主軸方位は、N-

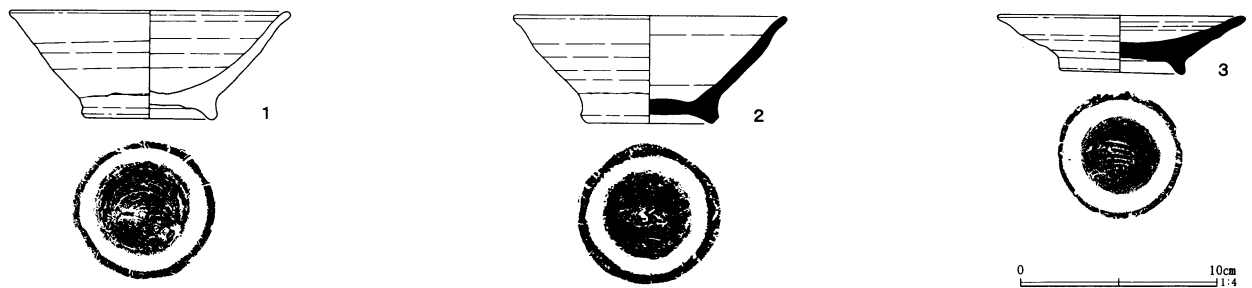
100°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、100cmと北半は切られているが幅50cmが確認でき、深さは7cmを測る。煙道部は、長さ97cmが確認できた。

遺物は、須恵器高台付埴、高台坏皿が出土した。



第232図 第125号住居跡



第233図 第125号住居跡出土遺物

第125号住居跡出土遺物観察表 (第233図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台壺	14.1	5.5	6.9	CFJ	普通	橙	70	覆土	酸化焰焼成
2	須恵高台壺	(13.6)	5.5	7.0	AJ	普通	灰	60	カマド	
3	須恵高台皿	12.7	2.9	6.4	ABCJ	普通	灰白	95	覆土	

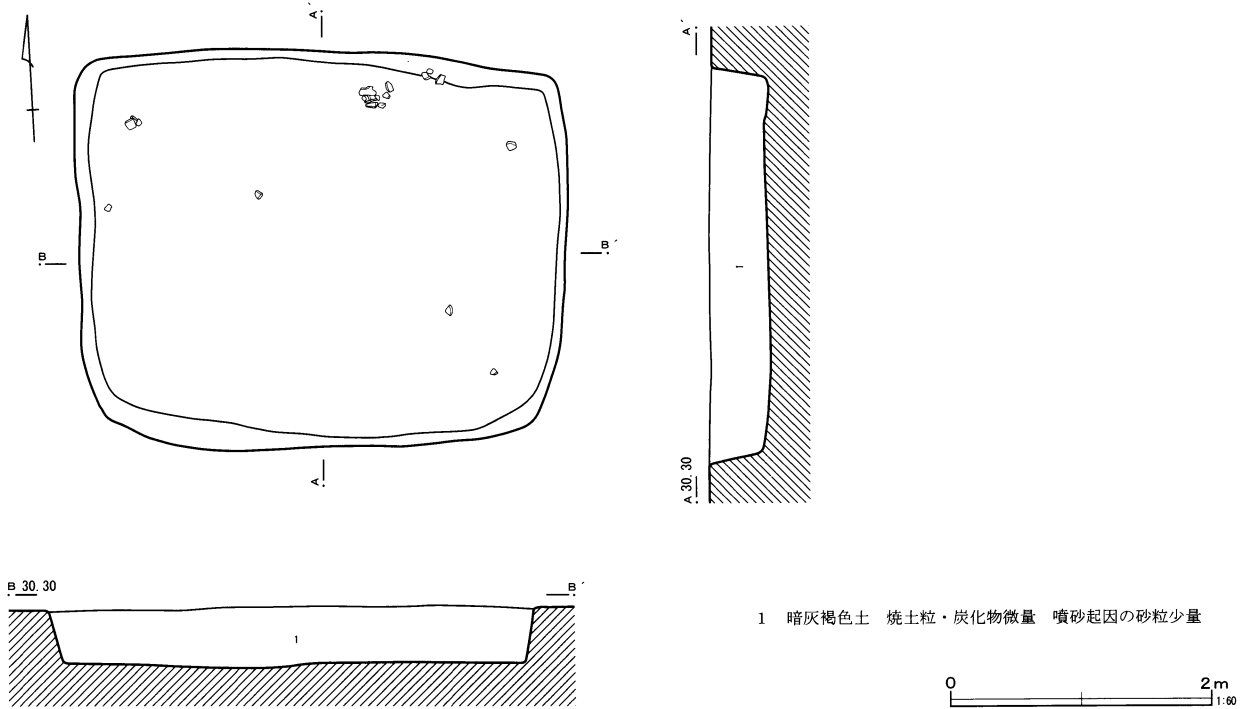
第126号住居跡 (第234図)

F-12グリッドに位置する。規模は、主軸長東西3.71m、南北3.06m、深さ46cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-92°-E

を指す。

カマド等の施設は確認できなかった。

遺物は、土師器甕破片が出土したが図示しうる物がなかった。



第234図 第126号住居跡

第127号住居跡 (第235・236・237図)

K・L-12グリッドに位置する。第209・212号住居跡・第132号土坑・第14号溝と重複し、土坑・溝に切られ、2軒の住居跡を切っている。規模は、主軸長東西4.33m、南北3.72m、深さ44cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-94°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、83cm×67cmを測り、床面と同じ高さである。煙道部は、長さ106cmが確認できた。

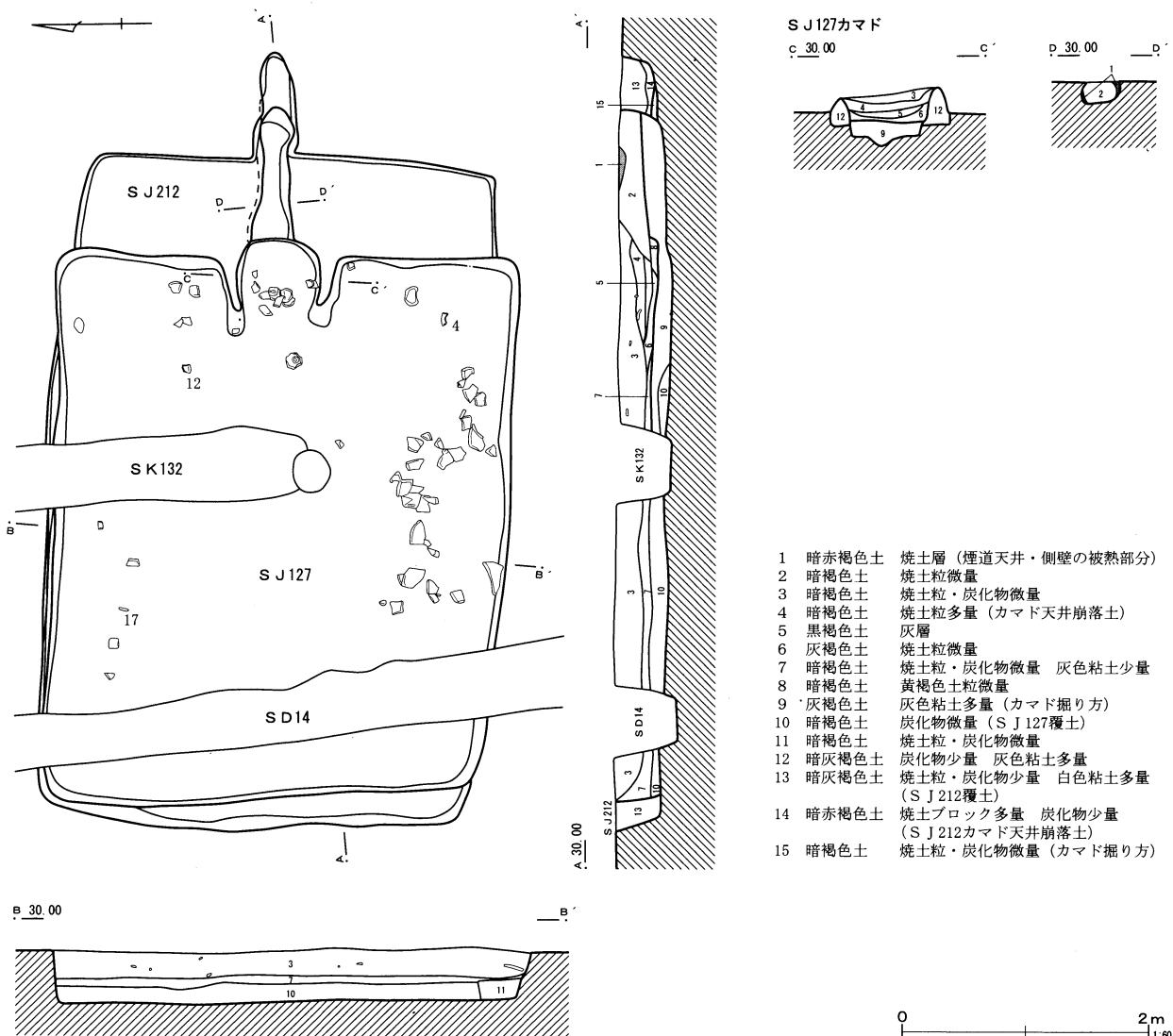
遺物は、土師器坏・小型甕、須恵器坏・高台付壺・甕、灰釉陶器高台付皿、緑釉陶器高台付皿、土錘、鉄製品が出土した。17は丸棒状の鉄製品で、現存長は7.9cmである。一方は先端部と思われる。用途は不明である。

第212号住居跡 (第235・238図)

K-12、L-12・13グリッドに位置する。第127号住居跡・第132号土坑・第14号溝と重複し、すべての遺構に切られている。規模は、確認できた主軸長東西5.50m、南北3.41m、主軸方位は、N-93°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。カマドもほとんどが切られており、煙道部は44cmが確認された。

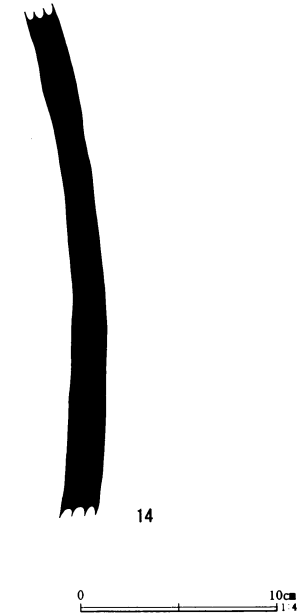
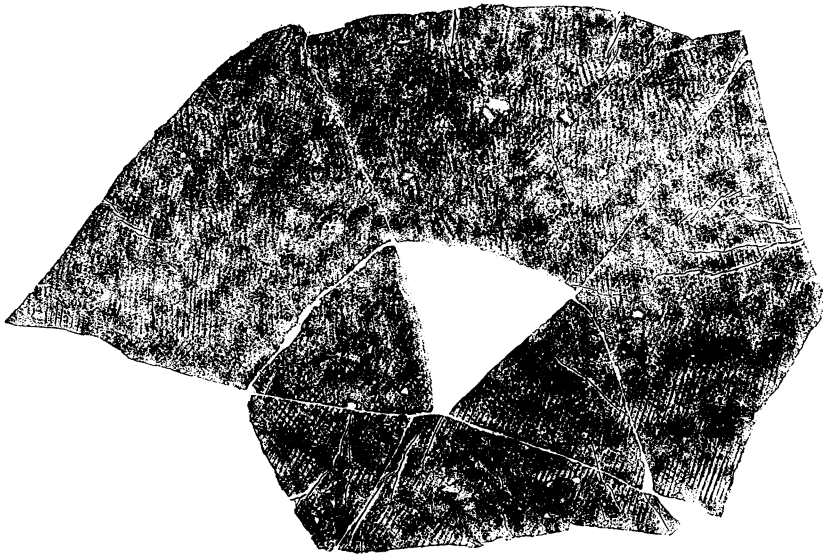
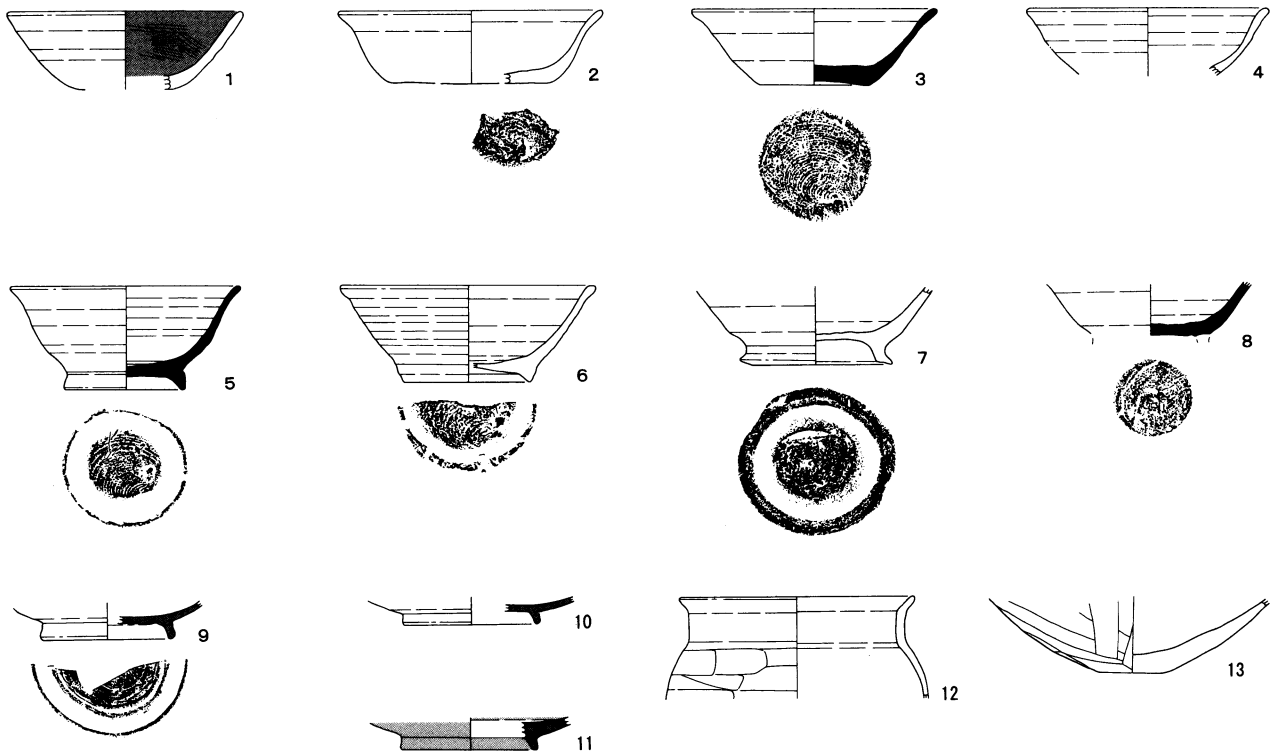
遺物は、須恵器高台付壺、土師器甕、緑釉陶器高台付皿が出土した。



第 235 図 第 127・212 号住居跡

第 127 号住居跡出土遺物観察表 (第 236 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師杯	(10.7)	(4.0)		A G	普通	にぶい黄橙	25	掘り方	黒色土器 ヘラ磨き
2	土師杯	(13.2)	3.7	(8.0)	A C F	普通	明赤褐	25	覆土	
3	須恵杯	(12.2)	3.9	5.5	A G	普通	にぶい橙	70	覆土	
4	須恵杯	(12.0)			A B	普通	橙	35	覆土	酸化焰焼成
5	須恵高台壺	(11.5)	5.3	6.0	F J	不良	にぶい橙	30	覆土	
6	須恵高台壺	(12.8)	5.0	(6.4)	A F	不良	橙	40	覆土	酸化焰焼成
7	須恵高台壺			(7.7)	A B F G	普通	橙	60	覆土	酸化焰焼成 底部内面螺旋状ヘラ痕
8	須恵高台壺			(6.1)	G J	普通	黄灰	70	覆土	高台欠損
9	灰釉高台皿			(6.8)	G J	良好	灰白	40	覆土	底部高台内糸切り 施釉なし 東濃産
10	灰釉高台皿			(6.8)	G	普通	灰白	10	覆土	底部高台内ヘラ削り 施釉なし 浜北産
11	緑釉高台皿					良好	—	—	覆土	猿投産
12	土師小型甕	(11.9)			B F	普通	にぶい褐	20	覆土	
13	土師甕			3.3	A F	良好	にぶい橙	35	覆土	
14	須恵甕				A J K	良好	灰	—	覆土	



第 236 図 第 127 号住居跡出土遺物 (1)

第 127 号住居跡出土遺物観察表 (第 237 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
15	須恵甕				A J	良好	灰	—	覆土	
16	土錘	長さ3.3 径0.8 孔径0.2				普通	灰黄褐	100	掘り方	

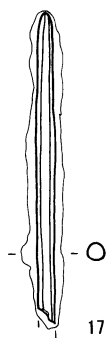


0 10cm
1:4



◎ 16

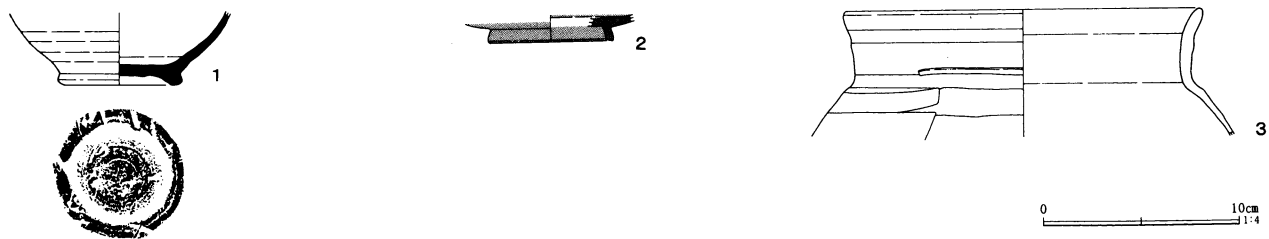
0 5cm
1:3



17

0 5cm
1:2

第 237 图 第 127 号住居跡出土遺物 (2)



第238図 第212号住居跡出土遺物

第212号住居跡出土遺物観察表 (第238図)

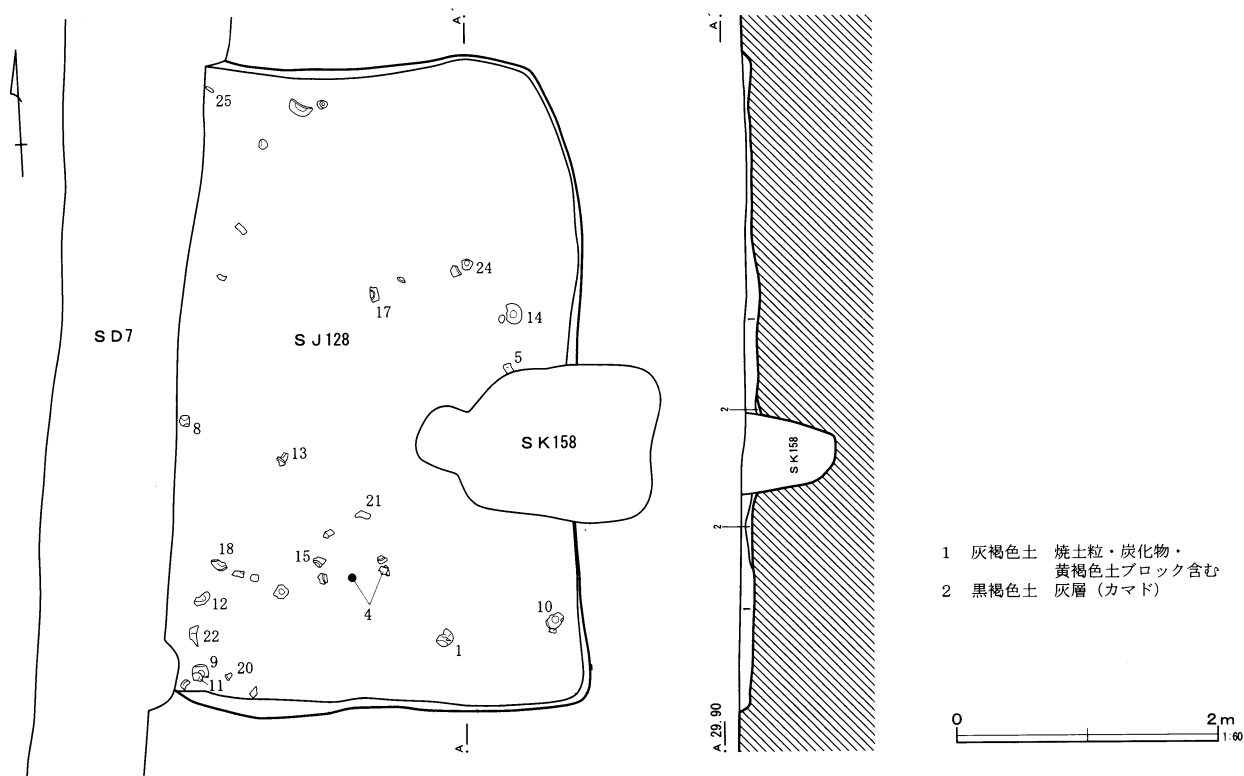
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台碗			6.4	A I J K	不良	灰白	40	覆土	尾北産
2	緑釉高台皿			(6.4)		良好	淡緑	8	覆土	
3	土師甕	(18.0)			A B F K	普通	にぶい黄橙	15	覆土	

第128号住居跡 (第239・240図)

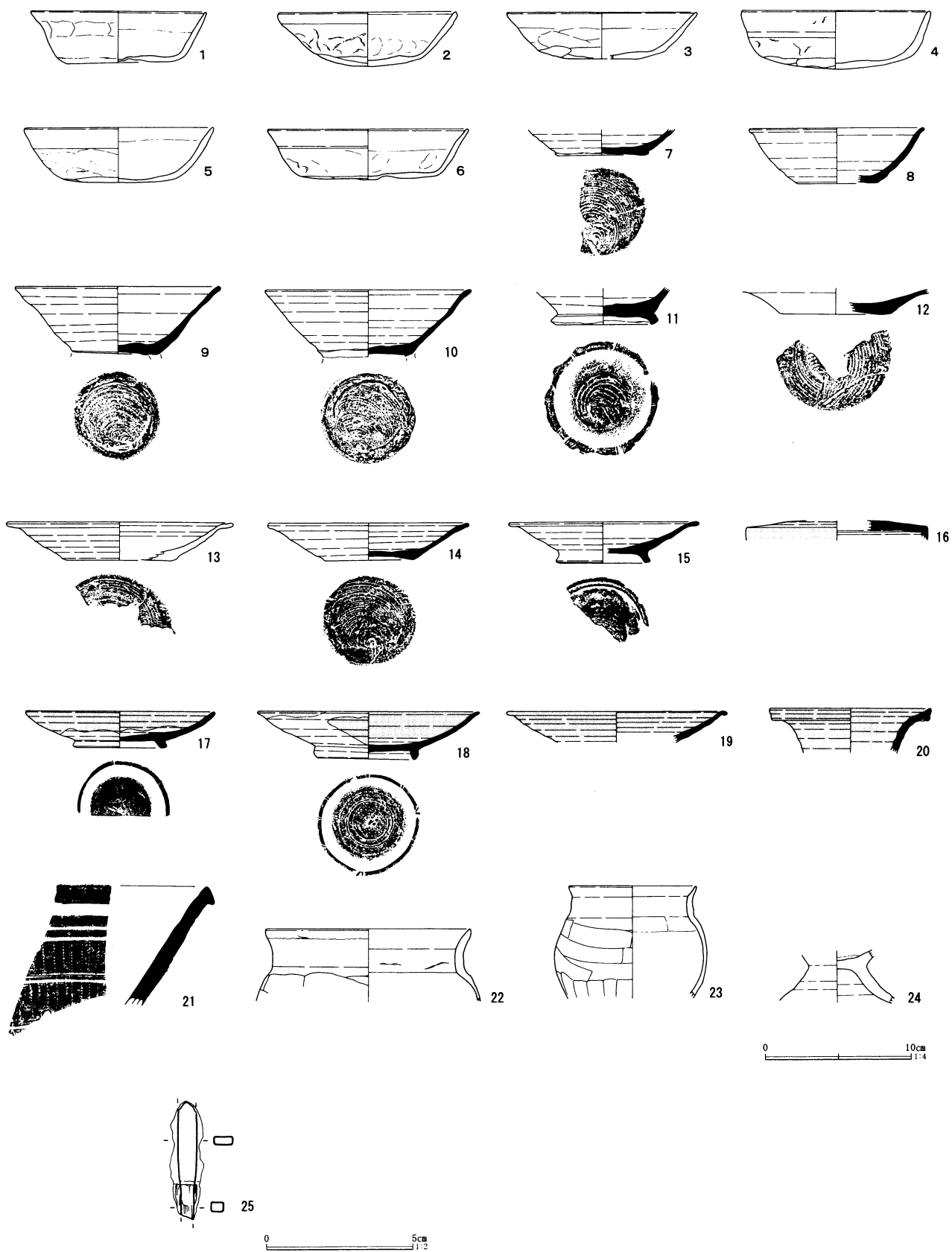
J・K-12グリッドに位置する。第149号住居跡・第158号土坑・第7号溝と重複し、西半部は溝、東壁一部は土坑に切られ、住居跡を切っている。規模は、主軸長確認できた東西3.02m、南北4.97m、深さ10cm程を測る。平面形は、長方形を呈すると推定される。主軸方位は、N-4°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏・甕・小型甕・台付甕、須恵器坏・高台付碗・皿・高台付皿・蓋と灰釉陶器高台付皿・長頸瓶の他、鉄製品が出土した。25は角棒状の鉄製品である。現存長4.0cmで、1.3cmのところまで木質が付着している。釘のような接合具の一種と推定される。床直の出土である。



第239図 第128号住居跡



第 240 图 第 128 号住居跡出土遺物

第 128 号住居跡出土遺物観察表 (第 240 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.0	3.6	8.0	A B C F J K	不良	橙	60	覆土	
2	土師坏	12.2	3.7		A C F J	普通	橙	70	覆土	
3	土師坏	(13.0)	3.2		A F J	普通	橙	30	覆土	
4	土師坏	(13.0)	4.0		A C J	普通	橙	20	床直	
5	土師坏	(13.0)	3.7	(7.8)	A C F J	普通	にぶい橙	40	覆土	
6	土師坏	(13.6)	3.5	9.4	A B J	普通	橙	20	覆土	
7	須恵坏			6.3	A J K	普通	灰白	60	覆土	底部回転糸切り
8	須恵坏	(12.0)	3.8	(5.8)	A J K	良好	灰	15	覆土	
9	須恵高台壺	14.0	4.7	6.0	A C J K	普通	黄灰	80	床直	やや歪みあり 高台部剥離
10	須恵高台壺	14.0	(4.6)	(6.2)	A G J K	良好	黄灰	60	覆土	底部回転糸切り 高台部剥離
11	須恵高台壺			7.3	A J K	普通	灰黄褐	80	覆土	底部右回転糸切り
12	須恵皿			(7.6)	A F J K	普通	灰	50	覆土	底部全面糸切り
13	須恵皿	(15.5)	2.6	(7.0)	A F J	普通	にぶい橙	25	覆土	酸化焰焼成
14	須恵皿	13.8	2.6	6.2	A C F J	良好	灰黄褐	100	床直	器形の歪み大きい 底部右回転糸切り
15	須恵高台皿	(13.0)	2.8	(6.4)	A J K	良好	灰	30	床直	底部回転糸切り
16	須恵蓋				A	良好	—	15	覆土	自然釉緑色 外面外周部降灰付着
17	灰釉高台皿	(13.0)	2.5	6.3	J	良好	灰白	40	覆土	底部高台内へラ削り 施釉ツケガケ 東濃産
18	灰釉高台皿	15.2	3.3	6.6	A G	良好	灰白	100	覆土	底部高台内へラ削り 施釉内外面ハケヌリ 浜北産
19	灰釉皿	(15.0)			G	良好	灰白	10	覆土	施釉ツケガケ 東濃産
20	灰釉長頸瓶	(11.0)			A G	良好	灰白	10	覆土	施釉ハケヌリ 東濃産
21	須恵甕				A G J	良好	灰	破片	覆土	
22	土師甕	(13.8)			A C F G	良好	にぶい黄褐	30	床直	
23	土師甕	(8.7)			A C F G	良好	灰黄褐	30	掘り方	
24	土師台付甕				A B F	良好	にぶい橙	80	覆土	

第 129 号住居跡 (第 241・242 図)

J-12・13 グリッドに位置する。第 146 号住居跡・第 176 号土坑と重複し、土坑に切られ、第 146 号住居跡の上部を切る。規模は、主軸長東西 3.47 m、南北 2.50 m、深さ 19cm 程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-94°-E を指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、72cm × 68cm、深さ 13cm を測り、煙道部は長さ 80cm が確認できた。

遺物は、須恵器坏・高台付壺、土師器小型甕、灰釉陶器高台付壺・緑釉陶器片が出土した。

第 130 号住居跡 (第 243・244 図)

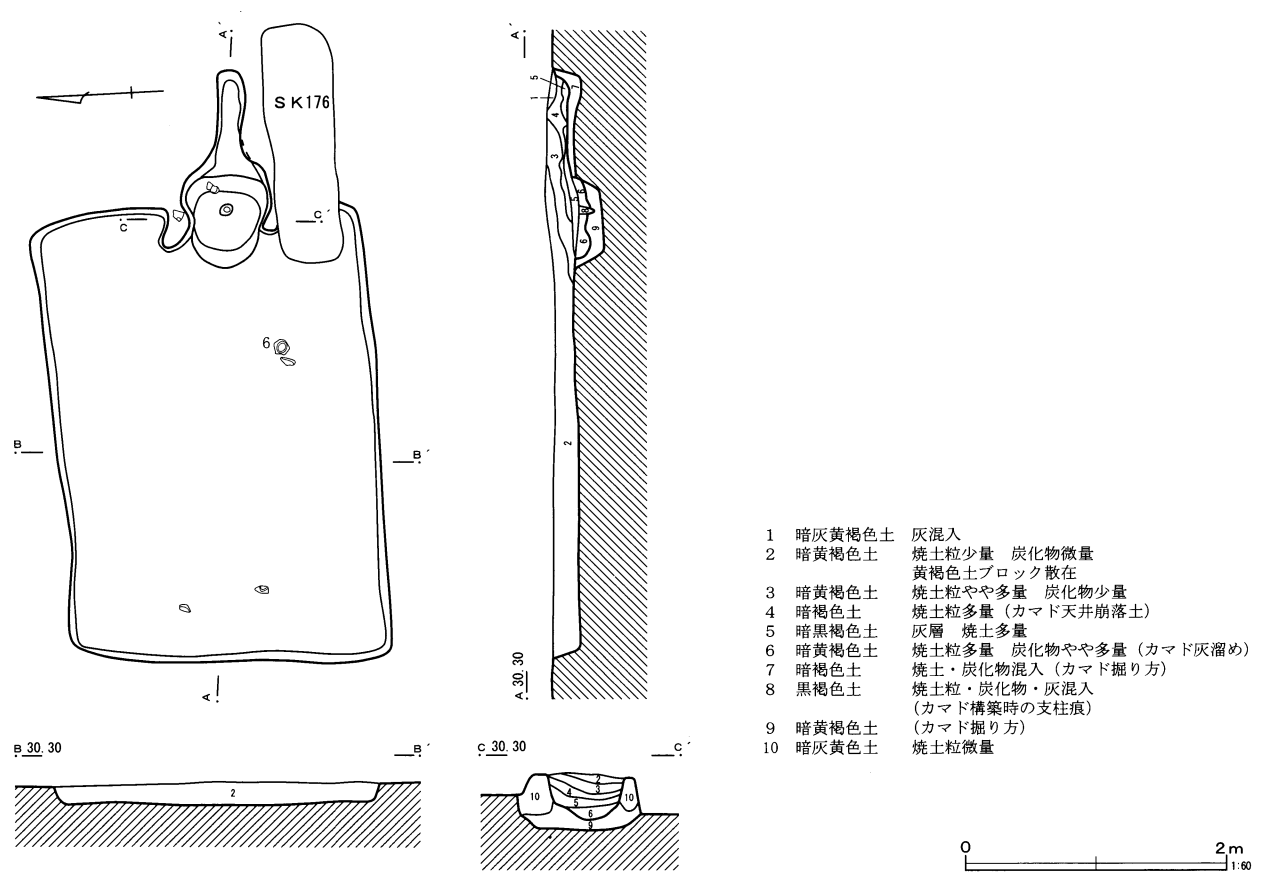
K-11 グリッドに位置する。第 112 号土坑と重複し、東壁のカマド北側が切られている。規模は、主軸長東西 3.31 m、南北 3.00 m、深さ 50cm 程を測

る。平面形は、若干歪んだ方形を呈する。主軸方位は、N-98°-E を指す。

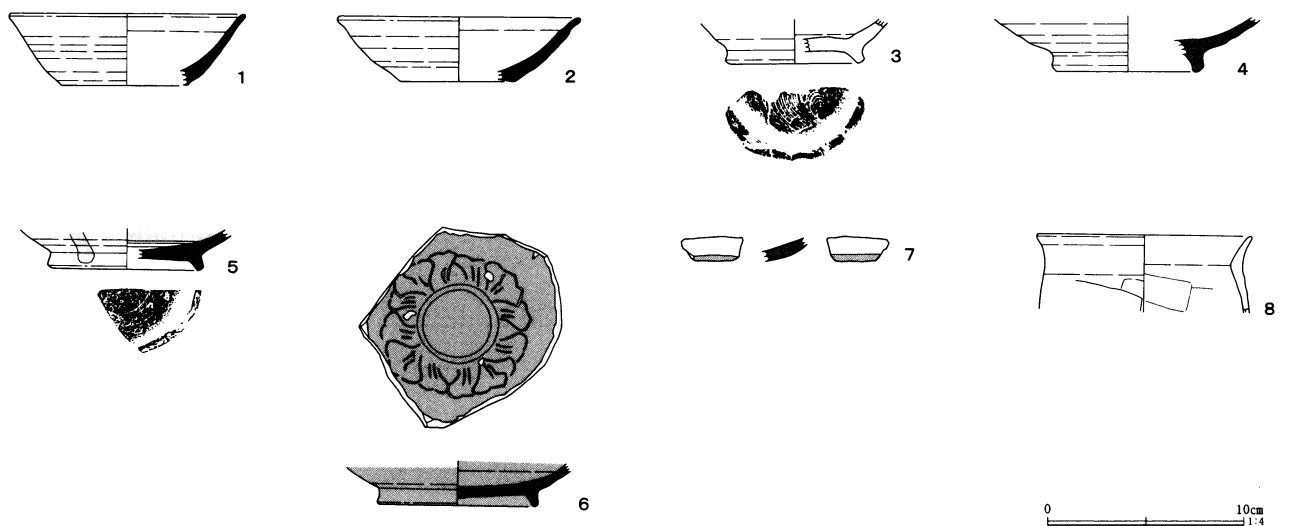
貯蔵穴は、南東部に設けられており、52cm × 29cm の楕円形で、深さ 14cm を測る。

カマドは、東壁やや北寄りに設けられている。燃焼部は、92cm × 60cm、深さ 4cm を測る。煙道部は、長さ 69cm が確認できた。

遺物は、須恵器坏・高台坏壺・高台坏皿・長頸瓶、土師器甕、須恵器底部転用の紡錘車、石製紡錘車、鉄製品が出土した。16 は火熨斗の火皿部の一部と思われる銅製品である。現存する大きさは 3.9cm × 2.3cm、厚さは約 0.2cm で縁は 0.3cm と肥厚する。表面にはカキ目状の沈線を施すが、やや太くはつきりとした線の間細く薄い線が配される。復元するとおよそ径 14cm になると考えられる。



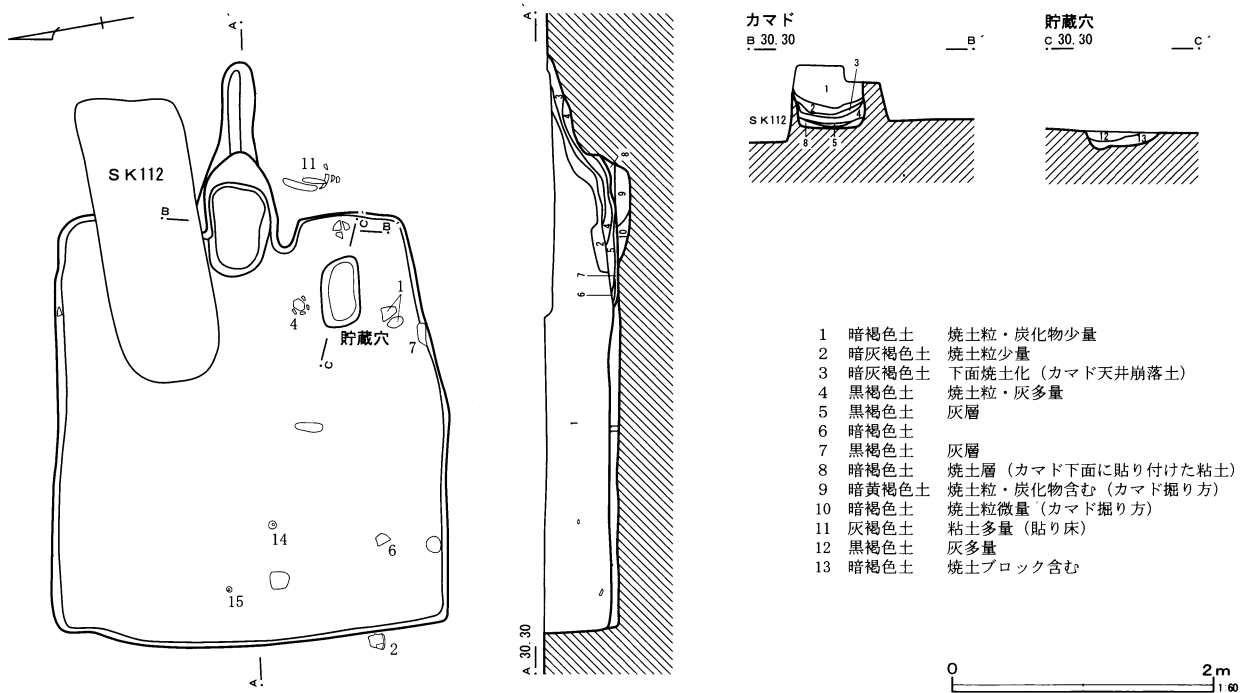
第 241 図 第 129 号住居跡



第 242 図 第 129 号住居跡出土遺物

第 129 号住居跡出土遺物観察表 (第 242 図)

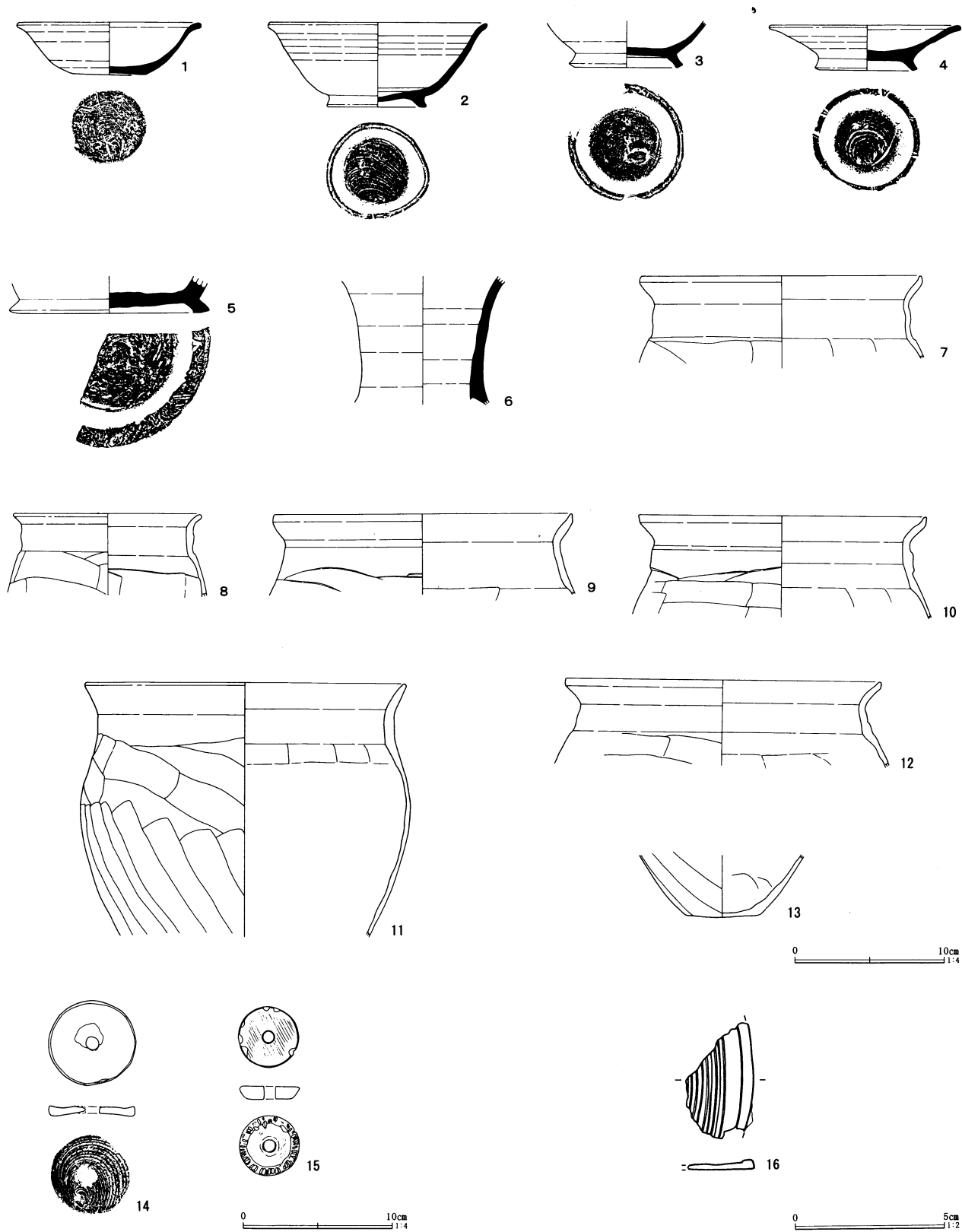
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(11.9)	3.6	(6.3)	A J	普通	黄灰	20	覆土	
2	須恵坏	(12.2)	3.3	(5.8)	J	不良	灰白	15	覆土	
3	須恵高台埴			(6.5)	F J	普通	にぶい黄橙	25	覆土	酸化焰焼成
4	灰釉高台埴			(7.2)	A G	普通	灰白	10	覆土	施釉なし 内面に重ね焼き痕 東遠江産
5	灰釉高台皿			(7.3)	G	良好	灰白	20	覆土	底部高台内へラ削り 浜北産
6	緑釉高台埴			(8.0)	G	普通	オリーブ黄	100	覆土	底部外面へラ磨き 印刻花文 トチン痕 3箇所 猿投産
7	緑釉稜皿				J	不良	灰白	破片	覆土	器壁一部磨耗 猿投産
8	土師甕	(10.8)			A B F	普通	褐灰	20	覆土	



第 243 図 第 130 号住居跡

第 130 号住居跡出土遺物観察表 (第 244 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	12.1	3.5	5.0	A I J K	普通	灰	60	覆土	底部全面糸切り
2	須恵高台埴	(14.4)	5.7	6.6	A J	普通	灰	55	覆土	歪みあり
3	須恵高台埴			7.7	A K	普通	灰オリーブ	70	覆土	底部回転糸切り
4	須恵高台皿	12.8	3.0	6.8	A J	普通	灰	85	覆土	
5	須恵長頸瓶			(12.0)	A G I	良好	灰	底部	覆土	底部回転糸切り
6	須恵長頸瓶				A C G	良好	灰	30	覆土	
7	土師甕	(18.8)			A B J	良好	橙	35	覆土	
8	土師甕	(12.5)			A B	良好	にぶい赤褐	40	掘り方	
9	土師甕	(20.0)			A B F	普通	橙	25	覆土	
10	土師甕	(19.2)			A C F	普通	にぶい赤褐	45	覆土	
11	土師甕	21.4			A B E	良好	橙	60	覆土	
12	土師甕	(21.1)			A F I	普通	橙	15	貯蔵穴	



第 244 图 第 130 号住居跡出土遺物

第130号住居跡出土遺物観察表 (第244図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
13	土師甕			(5.0)	A B E	良好	橙	40	覆土	
14	紡錘車	径5.6	孔径0.8	厚さ0.45		普通	灰	100	覆土	須恵器坏底部の転用
15	石製紡錘車	径4.0	孔径0.8	厚さ0.85		—	—	100	覆土	

第132号住居跡 (第245・246図)

G-13グリッドに位置する。第125・142号住居と重複し、第125号住居跡北半の上部を切られ、第142号住居跡を切っている。規模は、主軸長東西3.39m、南北2.72m、深さ20cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-102°-Eを指す。

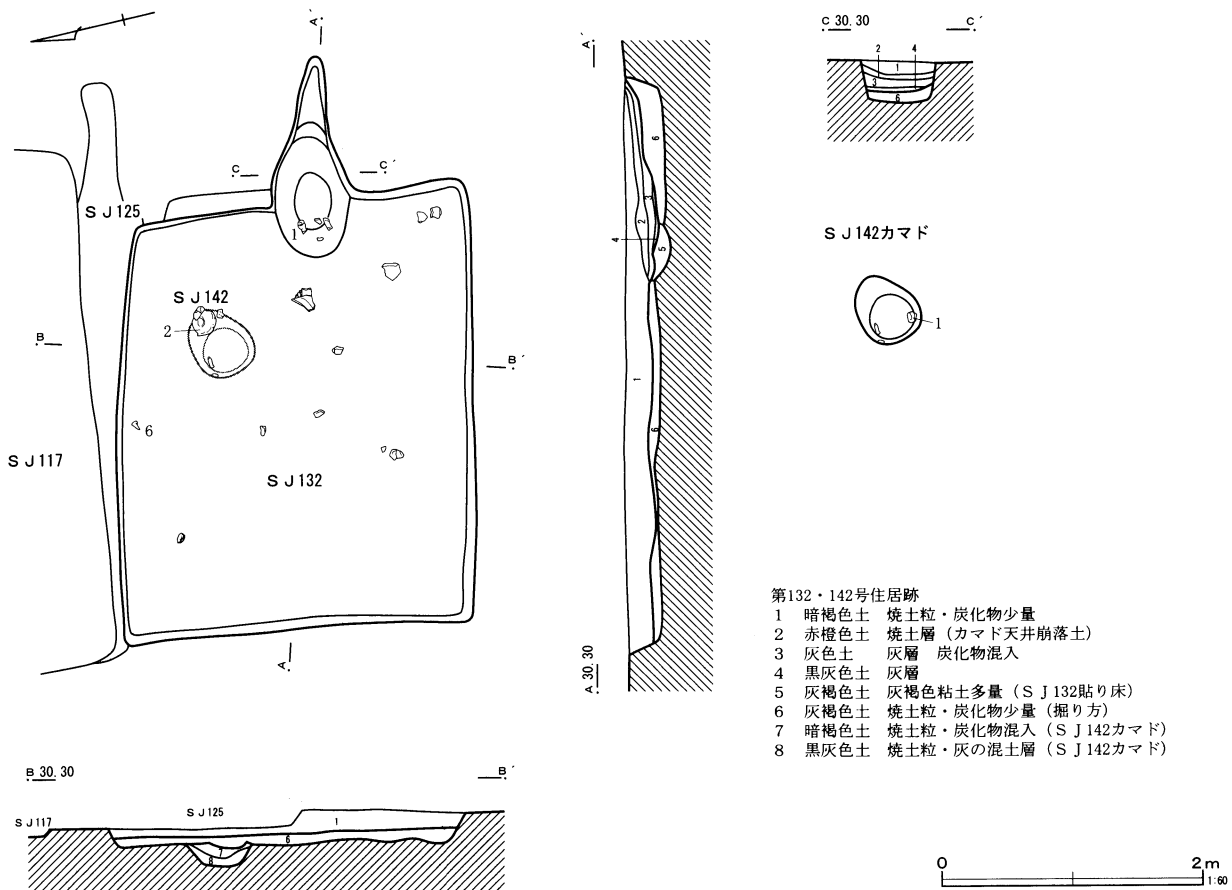
カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、102cm×60cm、深さ8cmを測り、煙道部は長さ50cmが確認できた。

遺物は、須恵器坏・埴・高台付埴、土師器甕と鉄釘が出土した。6は鉄釘である。長さ4.5cm、基部端を叩き潰し、折り曲げて頭部を造りだしている。

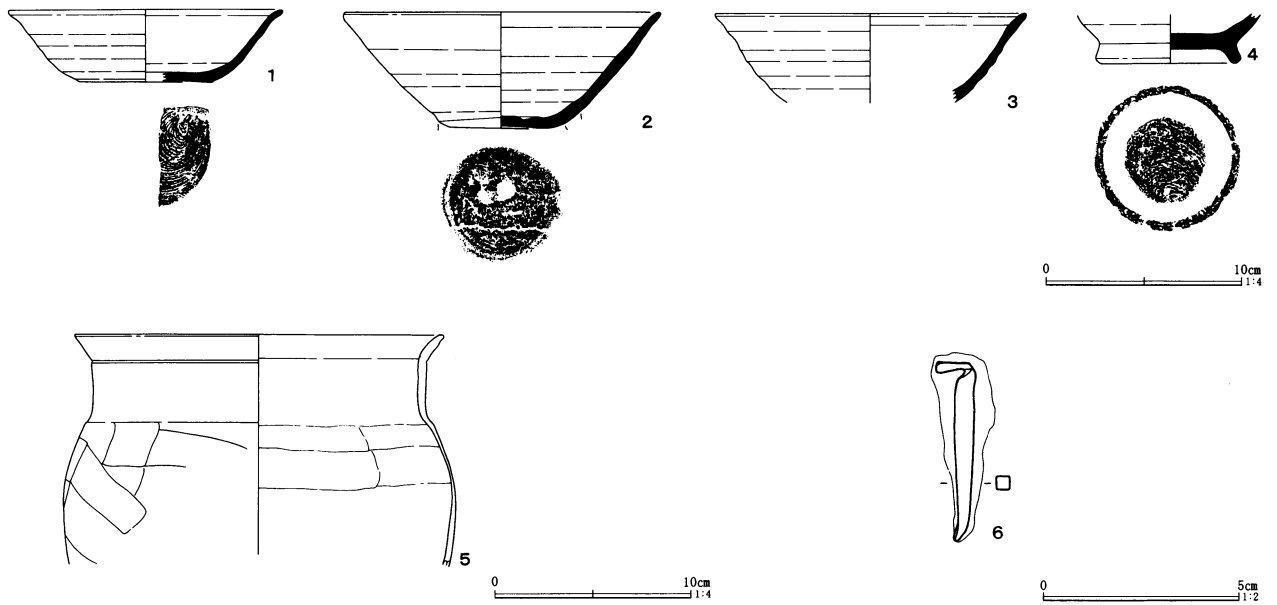
第142号住居跡 (第245・247図)

G-13グリッドに位置する。カマドのみの検出で第132号住居跡の床下から確認された。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸0.54m、短軸0.45m、深さ20cmを測る。

遺物は、須恵器高台付坏が出土した。



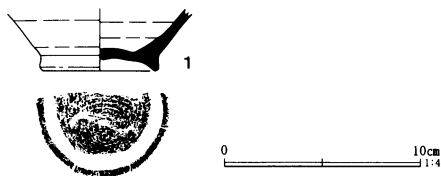
第245図 第132・142号住居跡



第246図 第132号住居跡出土遺物

第132号住居跡出土遺物観察表 (第246図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(13.9)	3.7	(6.9)	A E G	普通	灰	15	カマド	高台部欠損
2	須恵高台坏	(16.0)	(5.9)		A J K	不良	灰	75	床直	
3	須恵坏	(15.8)			G J	良好	黄灰	20	カマド	
4	須恵高台坏			7.4	A G J K	普通	灰	80	覆土	
5	土師甕	(18.8)			A B C F I	普通	明赤褐	20	覆土	



第247図 第142号住居跡出土遺物

第142号住居跡出土遺物観察表 (第247図)

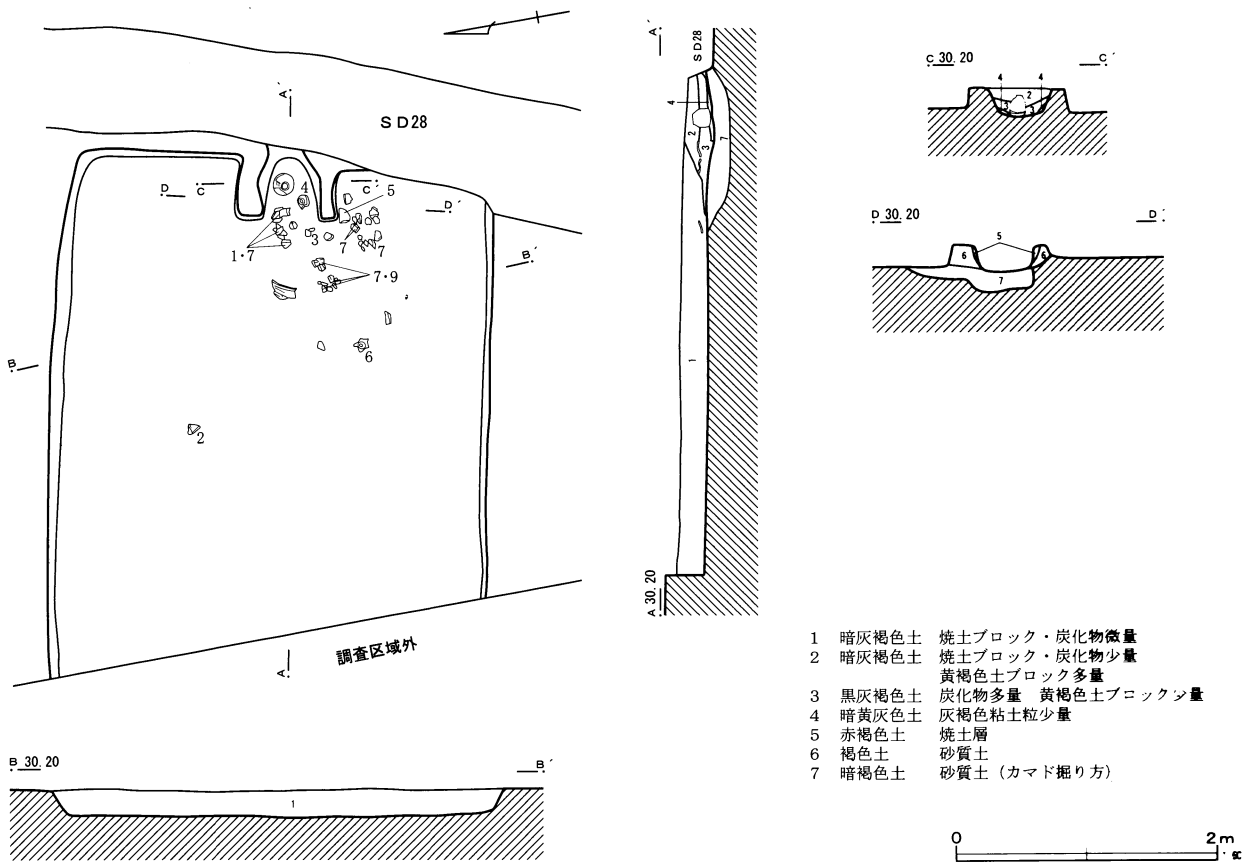
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台坏			(6.1)	A F J	普通	灰白	40	カマド	土師質

第133号住居跡 (第248・249図)

C・D-10グリッドに位置する。西側は調査区域外となっており、西壁は確認できなかった。第28号溝と重複し、カマド先端と東壁のカマドより南側が切られている。規模は、主軸長北壁で確認できたのは東西3.95m、南北3.38m、深さ20cm程を測る。平面形は、長方形を呈すると推定される。主軸方位は、N-101°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、カマド先端が切られているため53cm×50cmが確認でき、深さ7cmを測る。

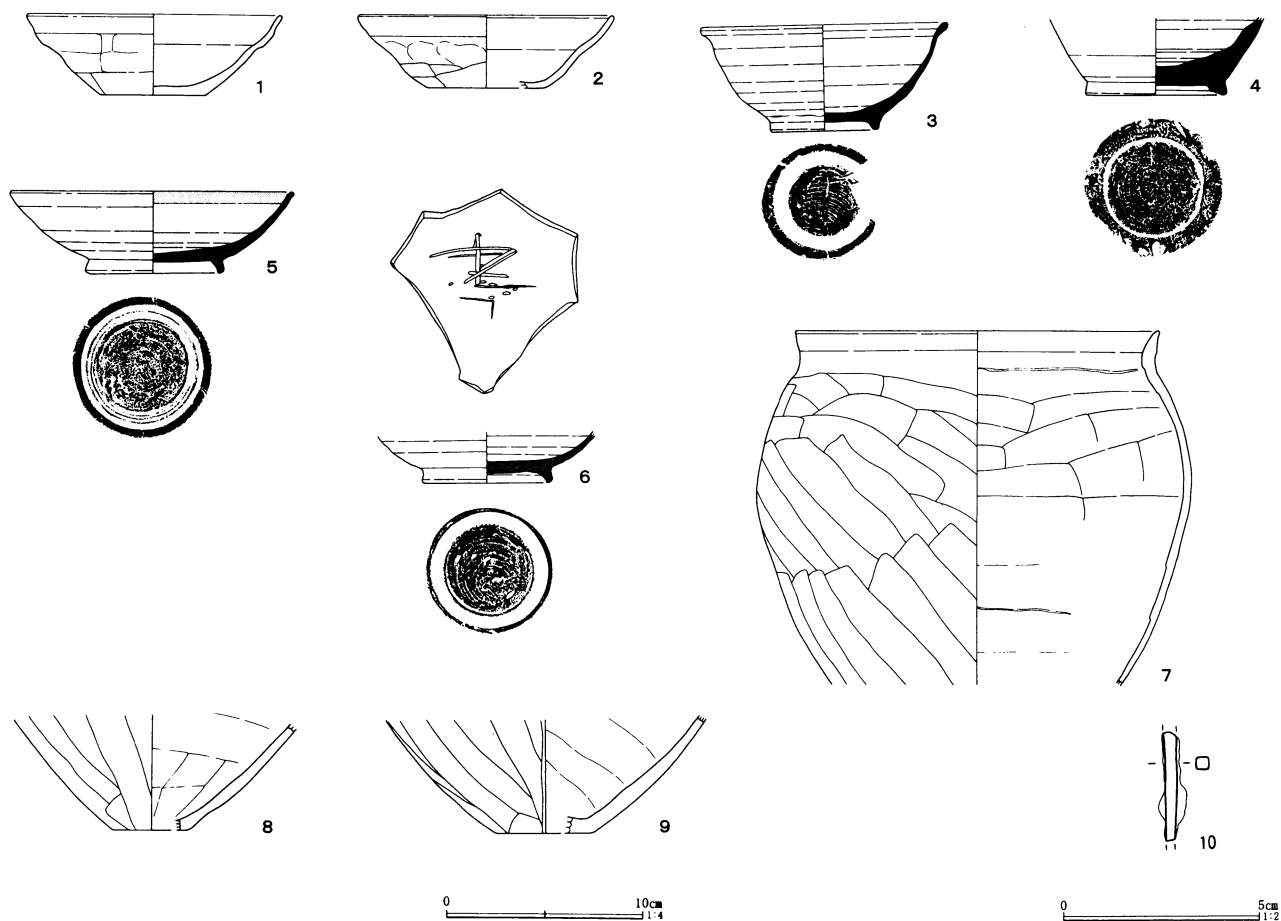
遺物は、土師器坏・甕、須恵器高台坏碗・瓶、灰釉陶器高台付碗の他、鉄製品が出土した。10は角棒状の鉄製品である。現存長2.7cm。釘の可能性もある。



第248図 第133号住居跡

第133号住居跡出土遺物観察表 (第249図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.6)	4.1	(5.4)	B J	普通	にぶい橙	30	カマド	
2	土師坏	(13.0)	3.7	(6.0)	A B F J	普通	橙	20	覆土	
3	須恵高台埴	(12.6)	5.4	5.6	A J K	普通	灰黄	40	カマド・他	底部回転糸切り
4	須恵瓶			7.2	A G J K	良好	灰白	80	カマド	体部外面回転ヘラ削り 底部内面自然釉外面にも釉薬下流痕
5	灰釉高台埴	(14.2)	4.2	6.5	G J K	普通	灰白	60	掘り方	底部高台内ヘラ削り 施釉内外面ハケヌリ 内面重ね焼き痕 東遠江産
6	灰釉高台埴			(6.6)	A K	良好	灰白	60	覆土	底部高台内糸切り 底部内面ヘラ描き・ 重ね焼き痕 東濃産
7	土師甕	(18.5)			A F J	普通	にぶい橙	40	カマド・他	
8	土師甕			(3.8)	A F J K	普通	橙	—	覆土	
9	土師甕			(4.7)	A J	普通	にぶい橙	60	覆土	



第249図 第133号住居跡出土遺物

第134号住居跡 (第250・251・252図)

J-11グリッドに位置する。第150号土坑と重複し、南東隅が切られている。規模は、主軸長東西4.50m、南北3.78m、深さ58cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-94°-Eを指す。

東壁カマド両側は、棚状に一段高くなっている。

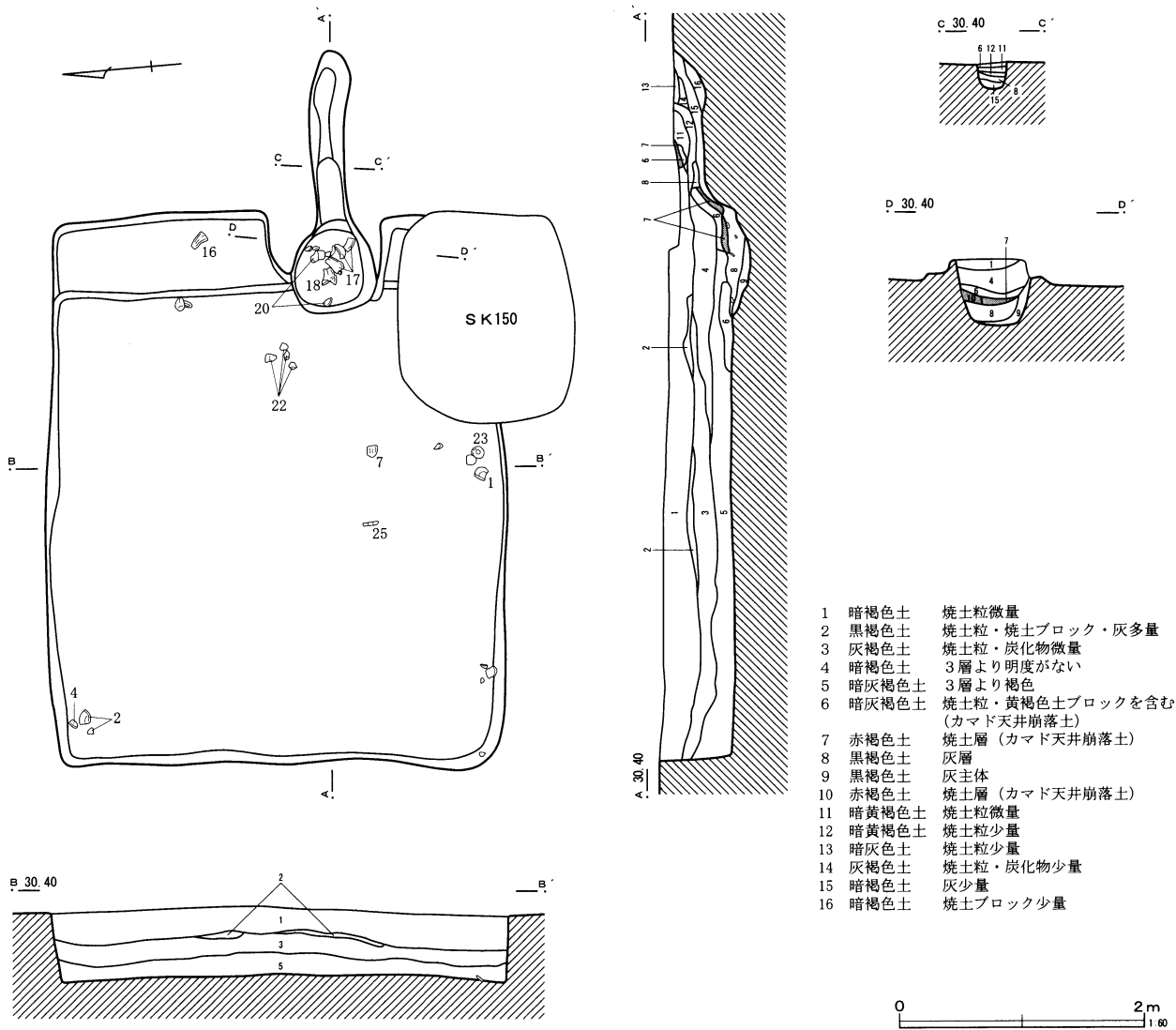
カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は100cm×68cm、深さ15cmを測り、煙道部は

長さ122cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・甕・台坏甕、須恵器坏・高台坏碗・高台坏皿・蓋、緑釉陶器蓋、土錘、鉄製品が出土した。25は鉄鏃である。2片に遊離するが同一個体と考えられる。現存長は5.0cmおよび6.5cmである。鏃身部は両丸造で角関の長三角形鏃と推定される。茎部の長さは4.2cm、頸部の関は角関である。26は角棒状で幅が狭まる端部が曲がる鉄製品である。現存長は2.7cmである。用途は不明である。

第134号住居跡出土遺物観察表 (第251・252図)

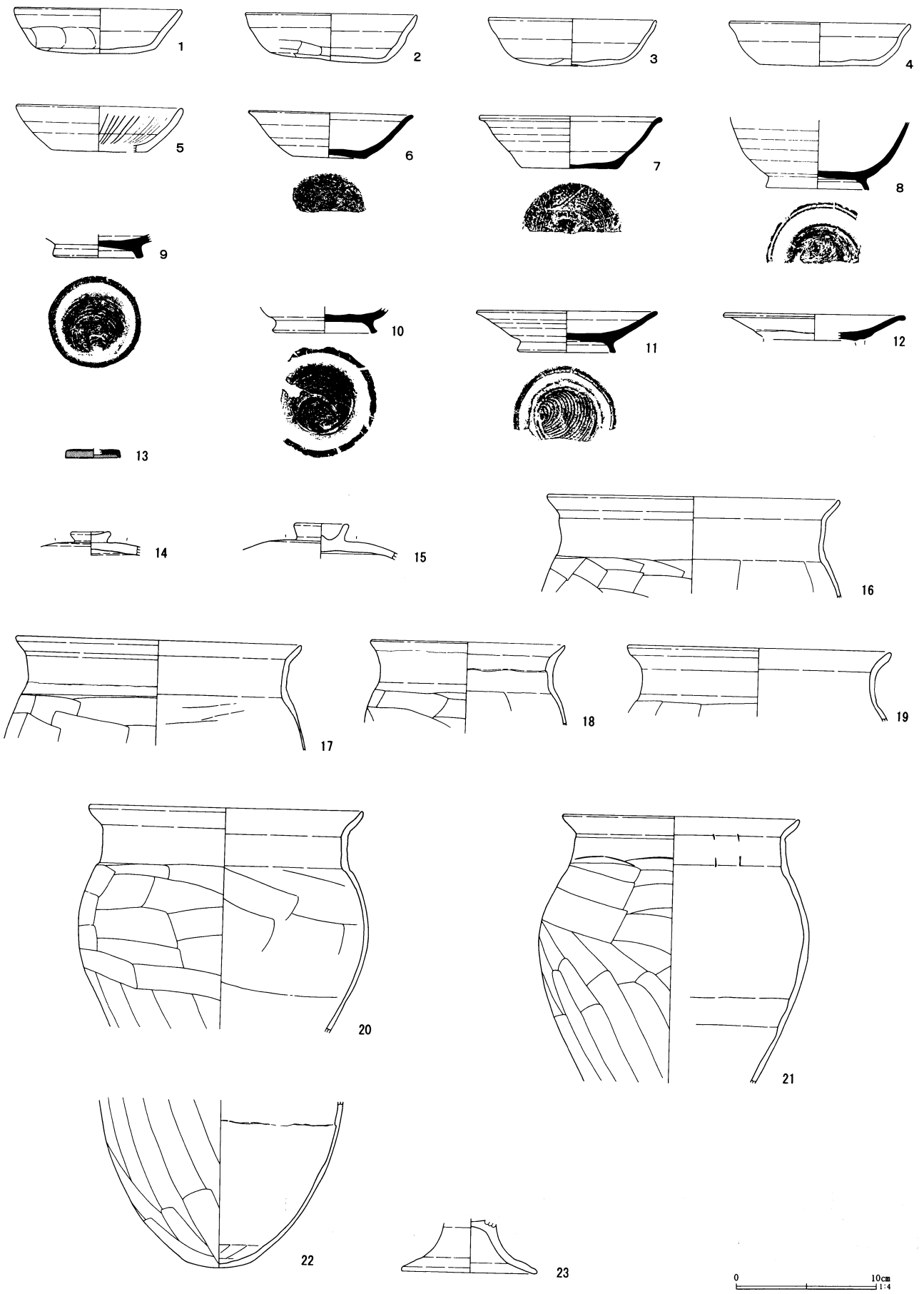
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(11.8)	3.2	(8.4)	ABJ	普通	橙	70	覆土	歪みあり
2	土師坏	12.2	3.5	8.2	AFJ	良好	にぶい褐	60	床直	歪みあり
3	土師坏	(11.9)	3.4		ABJ	普通	橙	60	覆土	
4	土師坏	(12.8)	3.1	(8.6)	CFGJ	良好	橙	30	覆土	
5	土師坏	(11.7)	3.2	(7.0)	-	普通	橙	15	覆土	暗文



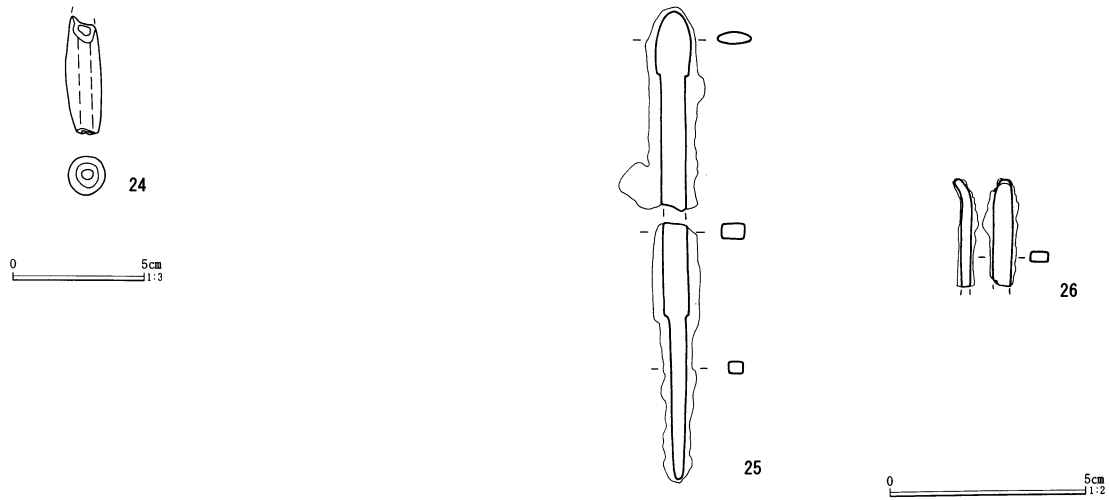
第250図 第134号住居跡

第134号住居跡出土遺物観察表 (第251・252図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
6	須恵坏	(11.5)	(3.2)	(5.1)	A K	普通	暗灰	30	覆土	
7	須恵坏	(12.7)	3.7	(6.8)	A K	良好	灰	30	覆土	
8	須恵高台埴			(7.4)	A G	良好	灰	30	覆土	底部糸切り
9	須恵高台埴			6.5	A I J	不良	灰黄	底部	覆土	底部糸切り
10	須恵高台埴			7.4	G J K	普通	灰白	底部	覆土	
11	須恵高台皿	(12.8)	2.9	7.0	A G I	普通	灰	30	覆土	
12	須恵高台皿	(12.8)			A	良好	灰	25	覆土	
13	緑釉陶器蓋	(2.0)			-	良好	-	15	覆土	猿投産
14	須恵蓋				A G H	普通	にぶい黄橙	40	覆土	天井部右回転ヘラ削り 酸化焰焼成
15	須恵蓋				A F	普通	にぶい橙	25	覆土	天井部右回転ヘラ削り 酸化焰焼成
16	土師甕	(20.8)			A B F	良好	にぶい褐	25	覆土	
17	土師甕	20.6			A F	良好	橙	90	カマド	
18	土師小型甕	(13.8)			B D	良好	にぶい褐	20	カマド	
19	土師甕	(18.7)			A B F	普通	オリーブ黒	20	覆土	



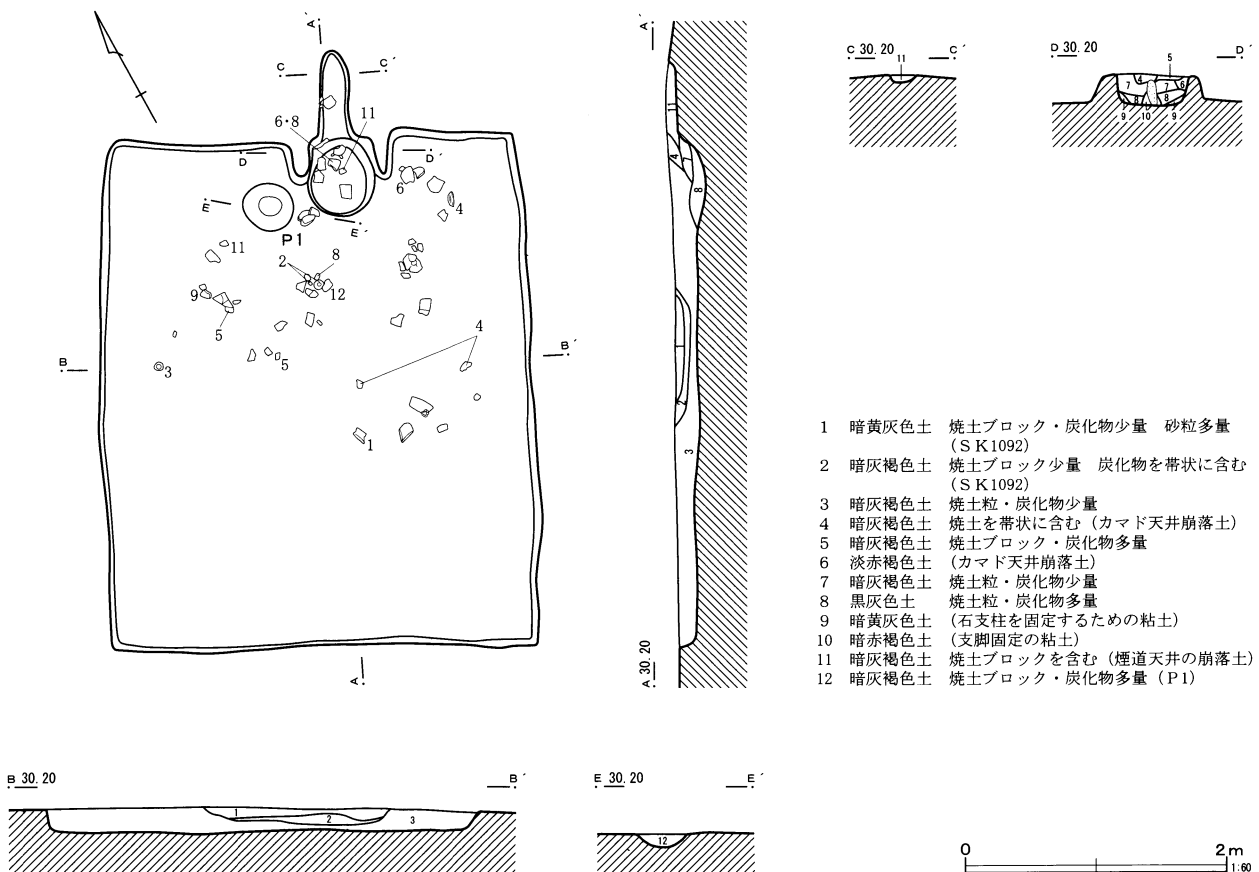
第251图 第134号住居跡出土遺物(1)



第252図 第134号住居跡出土遺物(2)

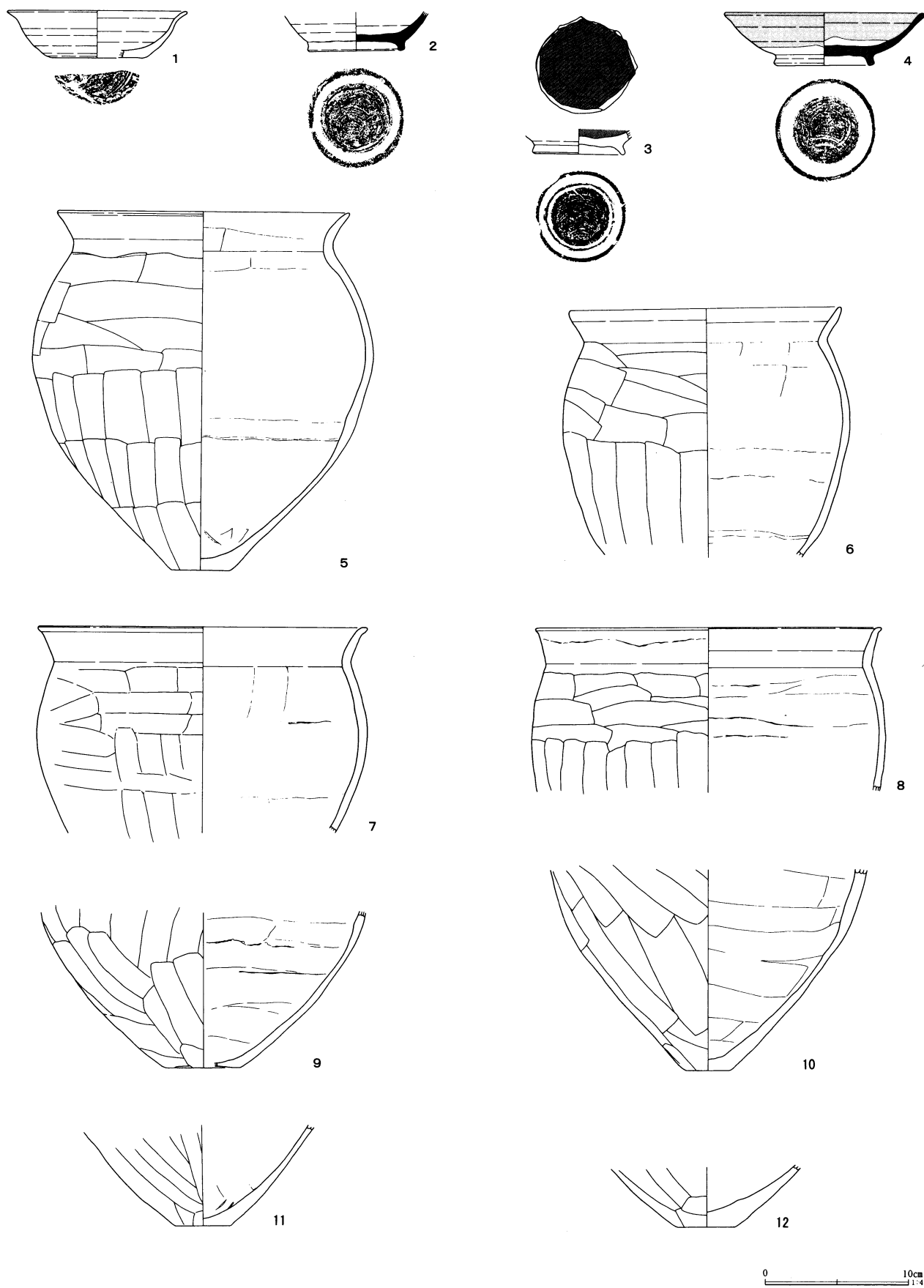
第134号住居跡出土遺物観察表(第251・252図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
20	土師甕	(19.4)			A B F	普通	にぶい黄褐	20	カマド	
21	土師甕	(16.7)			A B F J	良好	にぶい黄褐	55	覆土	
22	土師甕			(4.6)	A	良好	オリーブ黒	30	覆土	
23	土師台付甕			9.8	A B	良好	橙	100	覆土	
24	土錘	長さ(4.55)	径1.4	孔径0.45		普通	にぶい黄橙	95	覆土	



- 1 暗黄灰色土 焼土ブロック・炭化物少量 砂粒多量 (S K1092)
- 2 暗灰褐色土 焼土ブロック少量 炭化物を帯状に含む (S K1092)
- 3 暗灰褐色土 焼土粒・炭化物少量
- 4 暗灰褐色土 焼土を帯状に含む(カマド天井崩落土)
- 5 暗灰褐色土 焼土ブロック・炭化物多量
- 6 淡赤褐色土 (カマド天井崩落土)
- 7 暗灰褐色土 焼土粒・炭化物少量
- 8 黒灰色土 焼土粒・炭化物多量
- 9 暗黄灰色土 (石支柱を固定するための粘土)
- 10 暗赤褐色土 (支脚固定の粘土)
- 11 暗灰褐色土 焼土ブロックを含む(煙道天井の崩落土)
- 12 暗灰褐色土 焼土ブロック・炭化物多量 (P1)

第253図 第135号住居跡



第 254 图 第 135 号住居跡出土遺物

第135号住居跡 (第253・254図)

D-12グリッドに位置する。第140号住居跡・第1092号土坑と重複し、土坑に住居跡中央が切られ、住居跡を切っている。規模は、主軸長南北3.90m、東西3.32m、深さ20cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-26°-Eを指す。

カマドは、北壁やや東寄りに設けられている。燃焼部は、73cm×55cm、深さ8cmを測り、煙道部は長さ55cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・高台付壺・甕、須恵器高台付壺、灰釉陶器高台付壺が出土した。

第135号住居跡出土遺物観察表 (第254図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.6)	3.3	(6.4)	A B F J	普通	にぶい橙	20	覆土	底部回転糸切り 黒色土器 内面磨き 底部高台内糸切り、周辺ヘラ削り 施釉ツケガケ
2	須恵高台壺			6.8	A B J	普通	灰黄褐	80	覆土	
3	土師高台壺			6.1	A F	普通	にぶい橙	100	覆土	
4	灰釉高台壺	(13.8)	3.6	6.5	A G	普通	灰白	40	覆土	
5	土師甕	(20.1)	25.0	(4.0)	A B F G	普通	にぶい褐	40	覆土	
6	土師甕	(18.7)			A B F	普通	にぶい橙	40	カマド・他	
7	土師甕	(22.7)			B F J	普通	にぶい黄橙	15	カマド・他	
8	土師甕	(24.0)			A B F J	良好	橙	25	カマド・他	
9	土師甕			5.0	A B C F J	普通	にぶい褐	30	覆土	
10	土師甕			(3.0)	A C F J	良好	にぶい黄褐	60	カマド・他	
11	土師甕			3.7	A C	普通	灰黄褐	70	カマド・他	
12	土師甕			4.1	A F	普通	にぶい黄褐	65	床直	

第136号住居跡 (第255・256図)

D-10グリッドに位置する。第28・29号溝と重複し、第28号溝に住居跡中央部を南北に切られ、第29号溝にカマド先端が切られている。規模は、主軸長南北3.72m、東西3.14m、深さ26cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-6°-Eを指す。

74cmの楕円形で、深さ44cmを測る。

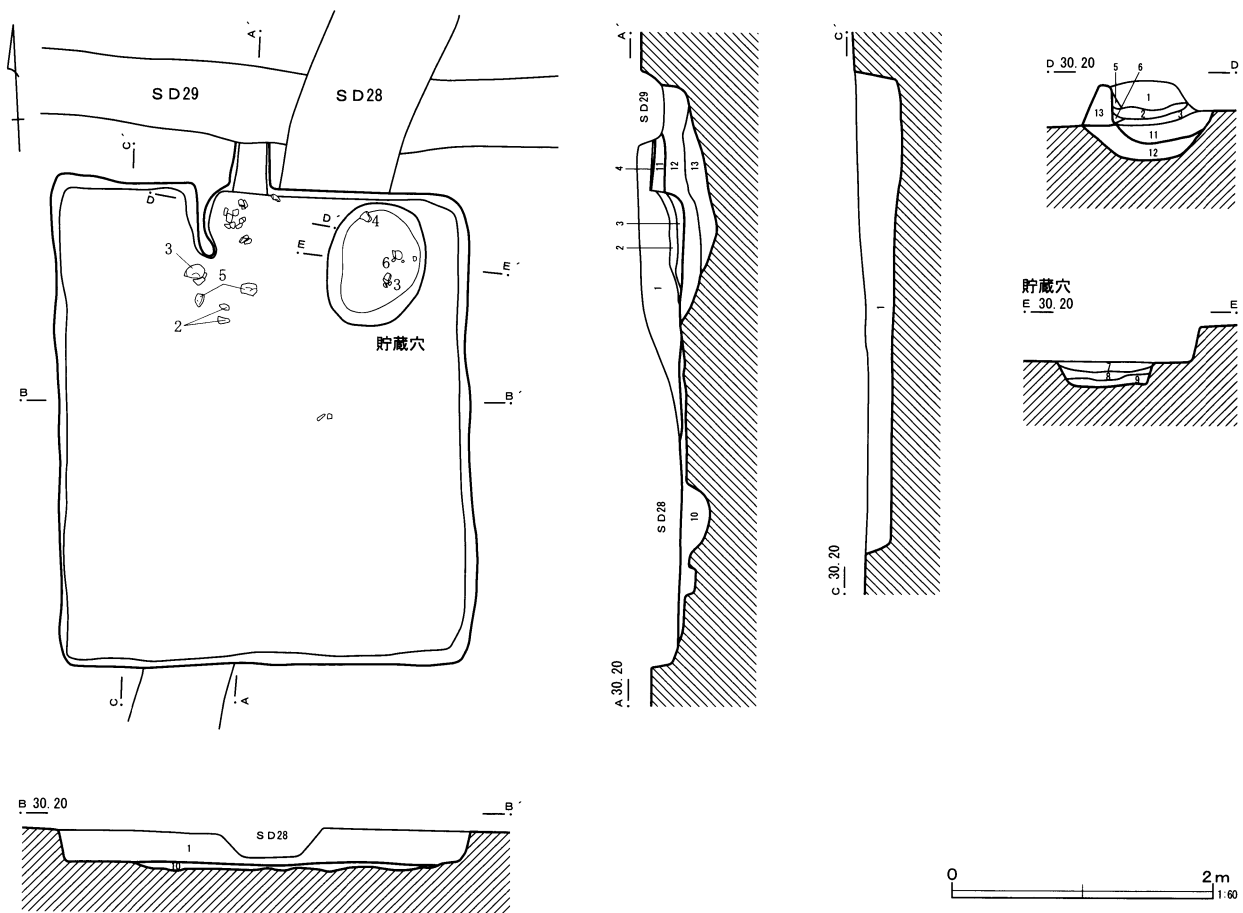
カマドは、北壁やや西寄りに設けられている。カマドの先端部分は、第29号溝に壊されている。燃焼部は、102cm×77cmで床面と同じ高さである。煙道部は長さ40cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・高台坏壺・甕、須恵器坏・皿が出土した。

貯蔵穴は、北東隅に設けられており、94cm×

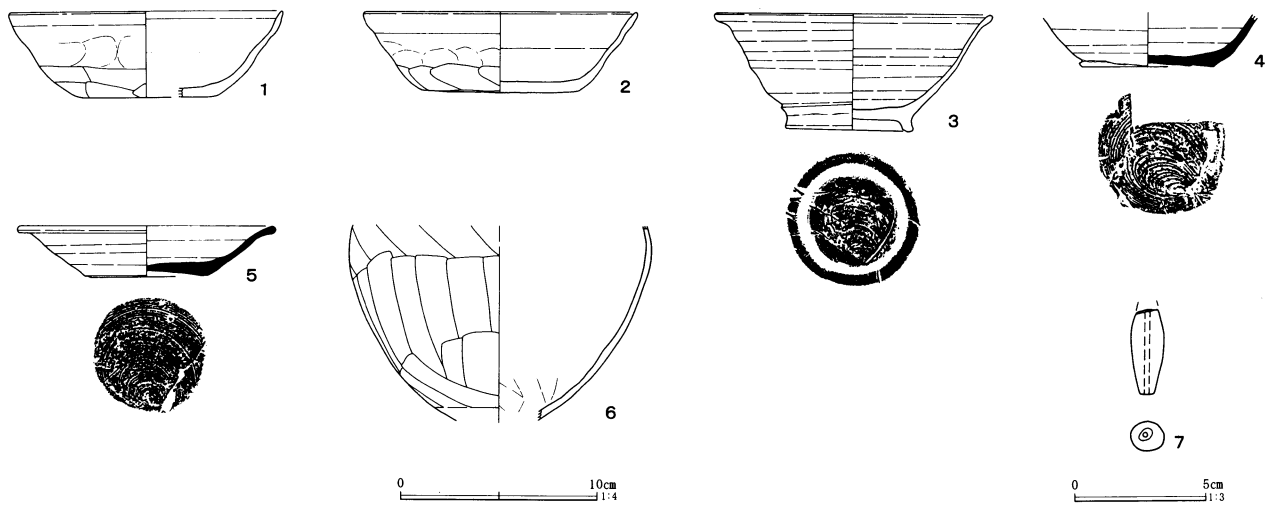
第136号住居跡出土遺物観察表 (第256図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.8)	4.4	(6.8)	A B C J	普通	にぶい橙	25	貯蔵穴	ロクロ土師器
2	土師坏	(14.0)	4.1	(8.0)	A B F J	普通	橙	40	カマド	
3	土師高台壺	14.2	6.0	6.6	A C F J K	普通	にぶい黄褐	90	カマド袖	
4	須恵坏			6.8	A C J	良好	灰	60	貯蔵穴	
5	須恵皿	13.0	2.6	6.0	A J K	良好	灰	90	床直	
6	土師台付甕				A F G	普通	にぶい黄褐	25	貯蔵穴	
7	土錘	長さ(3.2)		径1.2 孔径0.2		普通	灰黄	80	覆土	胴部



- | | | | |
|----------|------------------|----------|--------------------------------|
| 1 暗灰褐色土 | 焼土粒・炭化物微量 砂粒多量 | 8 暗灰褐色土 | 焼土粒・炭化物微量 (貯蔵穴) |
| 2 暗灰褐色土 | 灰層 焼土粒少量 灰・炭化物多量 | 9 暗黄灰褐色土 | 黄褐色土ブロック多量 (貯蔵穴) |
| 3 暗黒灰褐色土 | 灰層 焼土粒微量 灰・炭化物多量 | 10 灰褐色土 | しまり強 (貼り床) |
| 4 暗灰褐色土 | 粘土粒含む | 11 暗褐色土 | 炭化物・焼土粒少量 |
| 5 暗黄灰褐色土 | (煙道部掘り方) | 12 暗褐色土 | 炭化物・焼土粒・黄褐色土ブロック少量
(カマド掘り方) |
| 6 淡赤褐色土 | 焼土ブロック (壁面の崩落土) | 13 暗黄褐色土 | 炭化物・焼土粒微量 (カマドソデ) |
| 7 暗灰褐色土 | 焼土粒・炭化物多量 (貯蔵穴) | | |

第255図 第136号住居跡



第256図 第136号住居跡出土遺物

第137号住居跡 (第257・258図)

I-12・13グリッドに位置する。第137号住居跡と重複し、切っている。規模は、主軸長東西4.58m、南北2.90m、平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-97°-Eを指す。

貯蔵穴は、南東隅に設けられており、46cm×63cmの楕円形で、深さ47cmを測る。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、102cm×72cm、深さ8cmを測り、煙道部は長さ108cmが確認できた。

遺物は、土師器坏、須恵器坏・高台付塊、灰釉陶器高台付塊・高台坏皿、緑釉陶器破片と土錘が出土した。

第154号住居跡 (第257・259図)

I-13グリッドに位置する。第137号住居跡・第11号掘立柱建物跡・第229号土坑と重複し、いづれにも切られている。規模は、主軸長東西2.85m、南北2.50m、深さ19cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-106°-Eを指す。

壁溝は、東壁と南壁の一部を除き確認され、幅8～18cm、深さ10cm程を測る。

カマド等の施設は、確認されなかった。

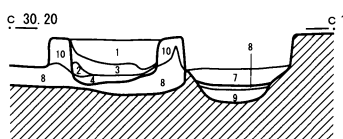
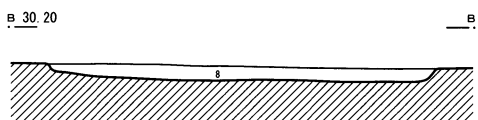
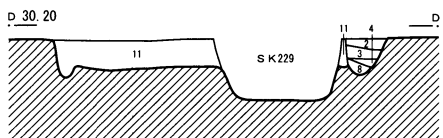
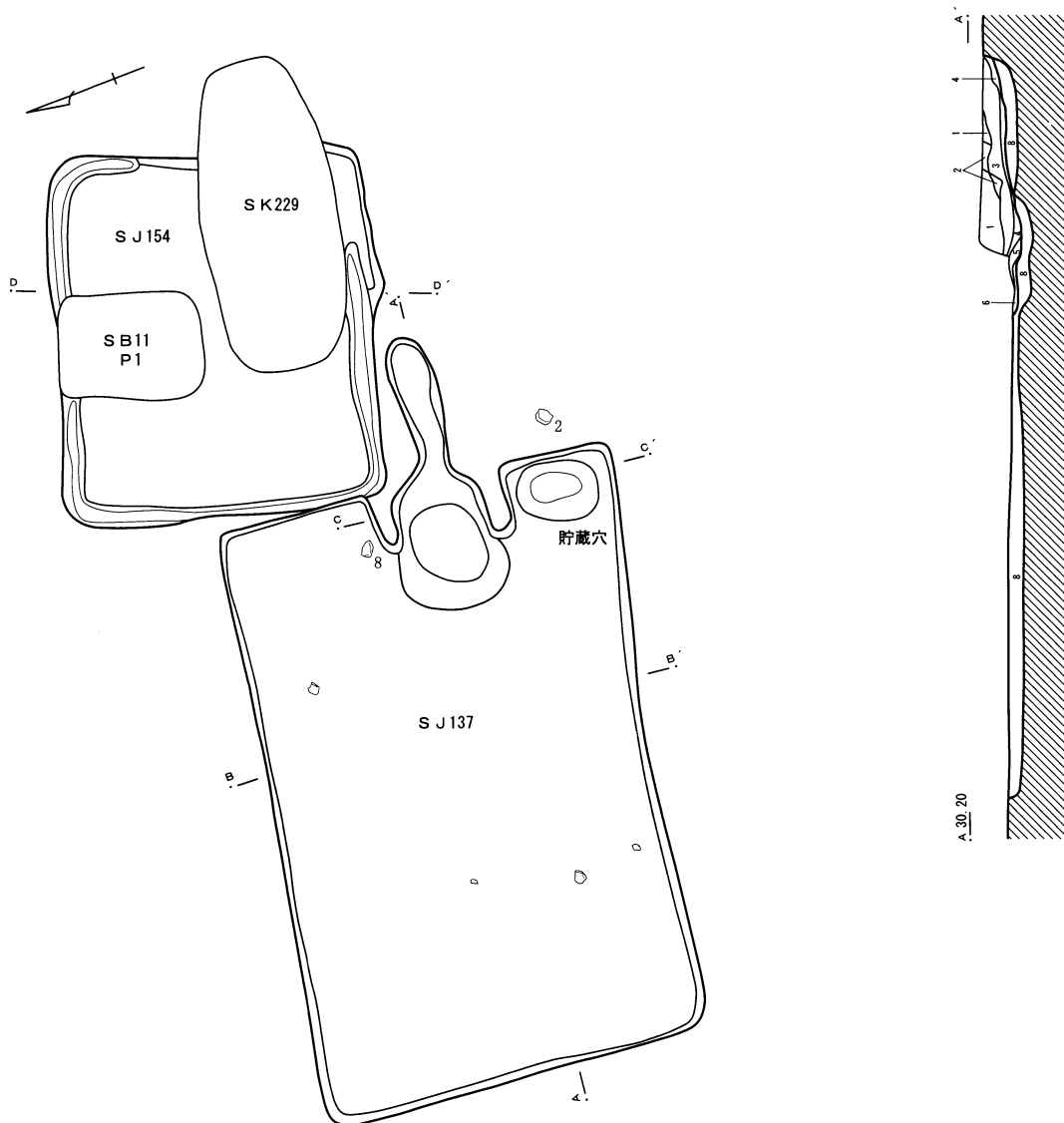
遺物は、土師器坏、灰釉陶器高台付塊が出土した。

第137号住居跡出土遺物観察表 (第258図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(11.4)	(3.6)	(6.3)	ABFJ	普通	にぶい橙	15	床下	
2	土師坏	(13.6)	3.5		ABJ	普通	にぶい橙	70	床下	
3	須恵塊	(13.6)			AJ	普通	灰	15	覆土	
4	須恵高台塊			(5.9)	FGJ	普通	オリーブ黒	30	覆土	
5	須恵高台塊			(5.5)	FJK	普通	にぶい橙	25	覆土	酸化焰焼成
6	須恵高台塊			(6.1)	ABJK	普通	にぶい黄橙	40	覆土	酸化焰焼成 高台剥離
7	灰釉塊			(15.8)	AG	良好	灰白	10	カマド	施釉内外面ハケヌリ 口縁部外面に重ね焼き痕 浜北産
8	灰釉高台塊	(13.8)	4.4	(6.2)	AG	普通	灰白	45	貼床	底部高台内ヘラ削り 施釉内外面ハケヌリ 東濃産
9	灰釉高台塊			(7.2)	G	普通	灰白	15	覆土	底部高台内糸切り 東濃産
10	灰釉高台皿	(14.9)	2.4	(7.1)	AG	良好	灰白	40	床下	底部高台内ヘラ削り 施釉ツケガケ 浜北産
11	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
12	土錘	長さ4.7	径1.9	孔径0.5		普通	にぶい黄橙	100	覆土	
13	土錘	長さ(4.3)	径2.05	孔径0.5		普通	にぶい黄橙	95	覆土	

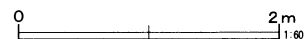
第154号住居跡出土遺物観察表 (第259図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(12.4)			ABF	普通	橙	40	覆土	体部中位外面横ナデ
2	土師坏	(12.8)	4.2		ABFJ	普通	にぶい橙	30	覆土	
3	灰釉高台塊			(8.0)	AG	良好	灰白	20	覆土	底部高台内ヘラ削り 施釉内外面ハケヌリ 一筆 浜北産

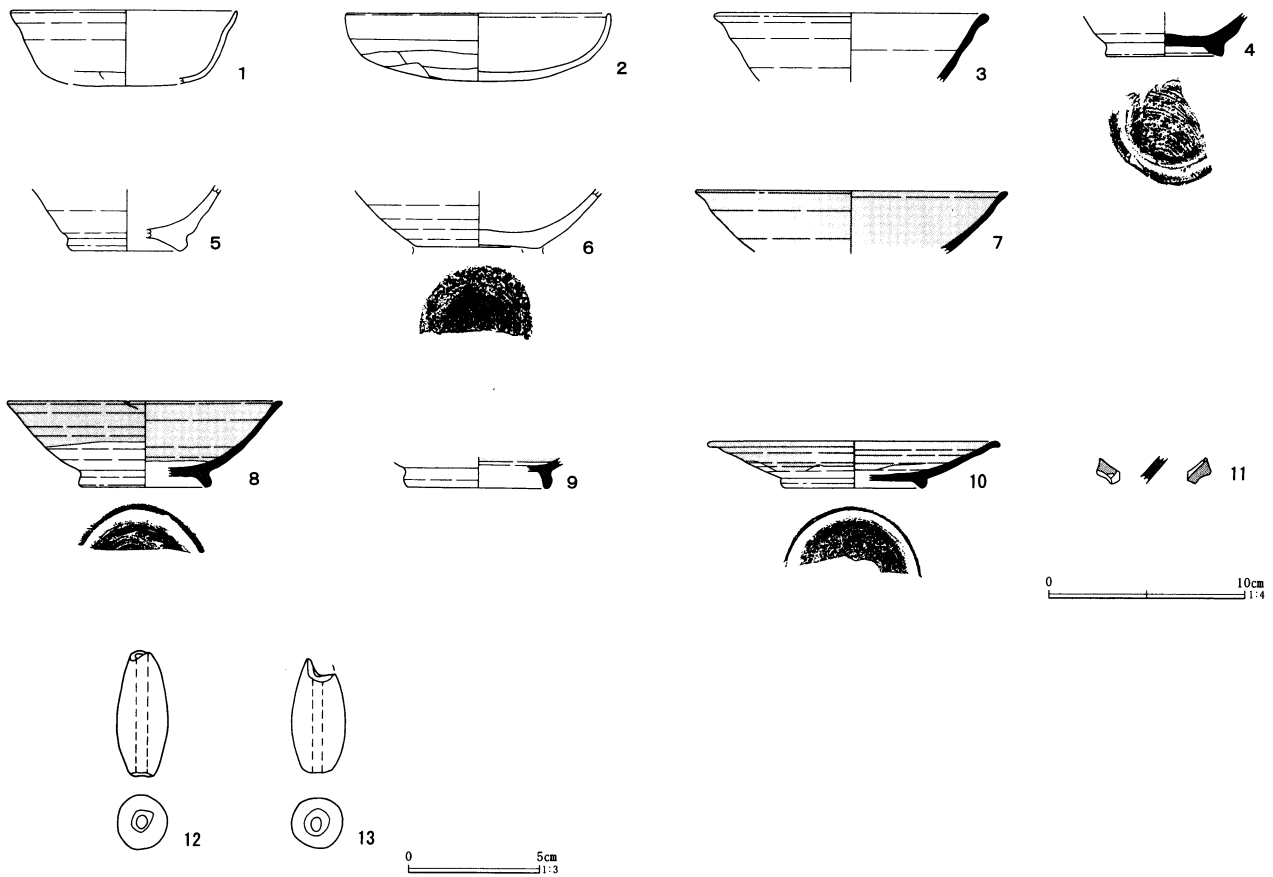


第137・154号住居跡

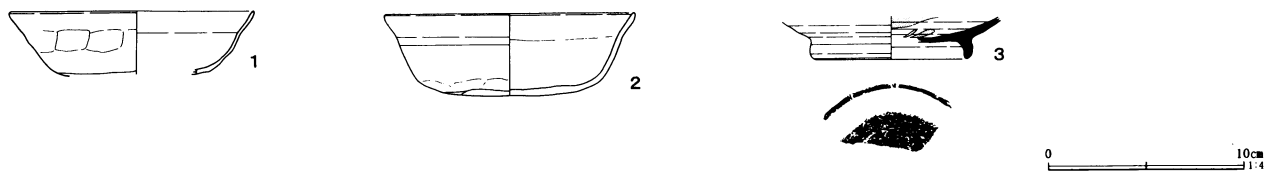
- 1 暗褐色土 焼土粒・炭化物少量
- 2 赤橙色土 焼土層 (カマド天井被熱崩落土)
- 3 暗褐色土 焼土粒・炭化物多量
- 4 黒灰色土 灰層
- 5 褐色土 焼土粒・炭化物少量 (カマドの造り換えに伴う貼り床)
- 6 黒灰色土 灰層
- 7 黒灰色土 灰と暗褐色土ブロックの層 (貯蔵穴)
- 8 灰褐色土 粘土多量 (貼り床)
- 9 黒灰色土 灰層
- 10 暗褐色土 焼土粒・炭化物少量
- 11 暗褐色土 焼土粒・炭化物微量 (S J 154)



第257図 第137・154号住居跡



第 258 図 第 137 号住居跡出土遺物



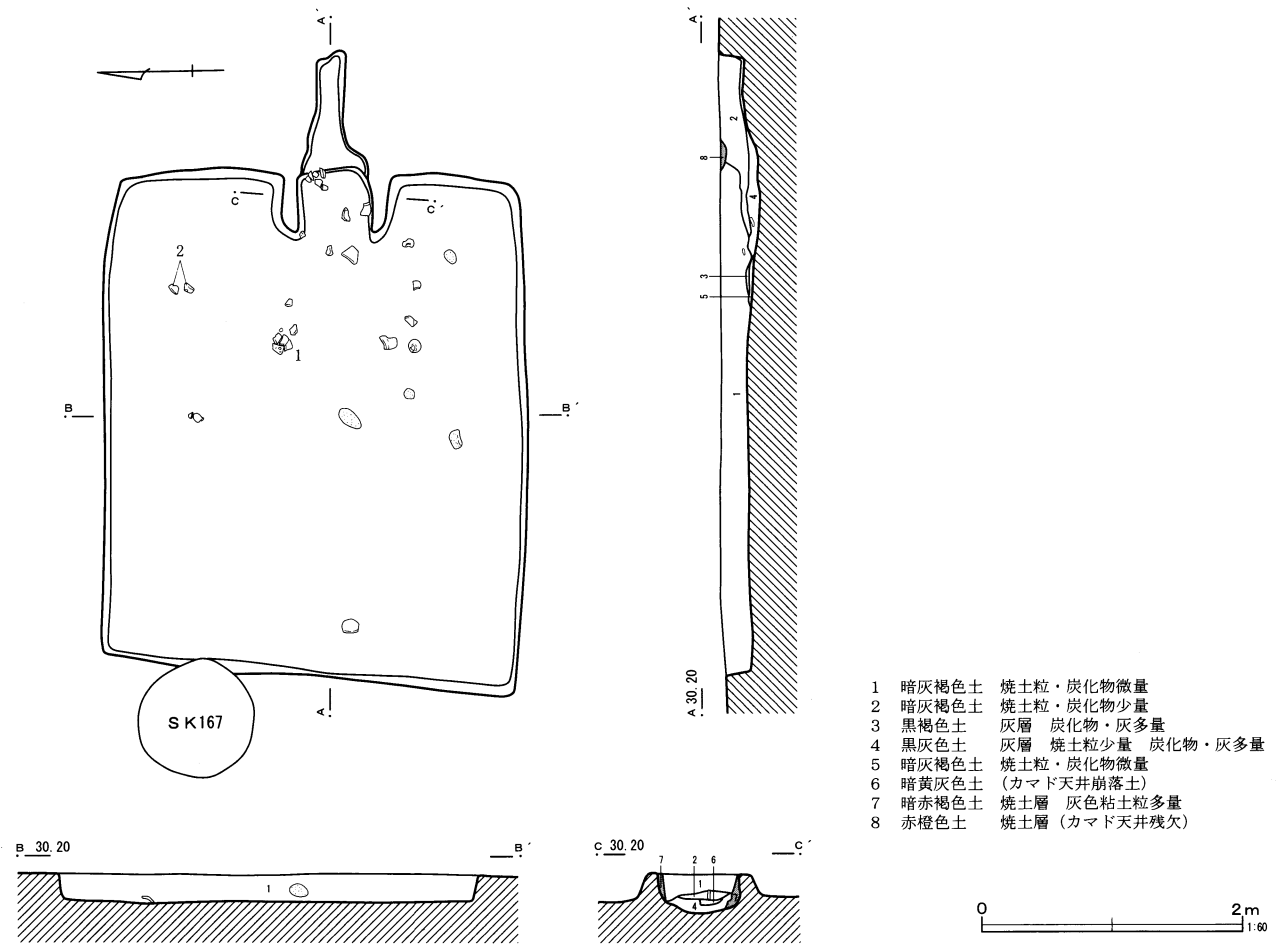
第 259 図 第 154 号住居跡出土遺物

第 138 号住居跡 (第 260・261 図)

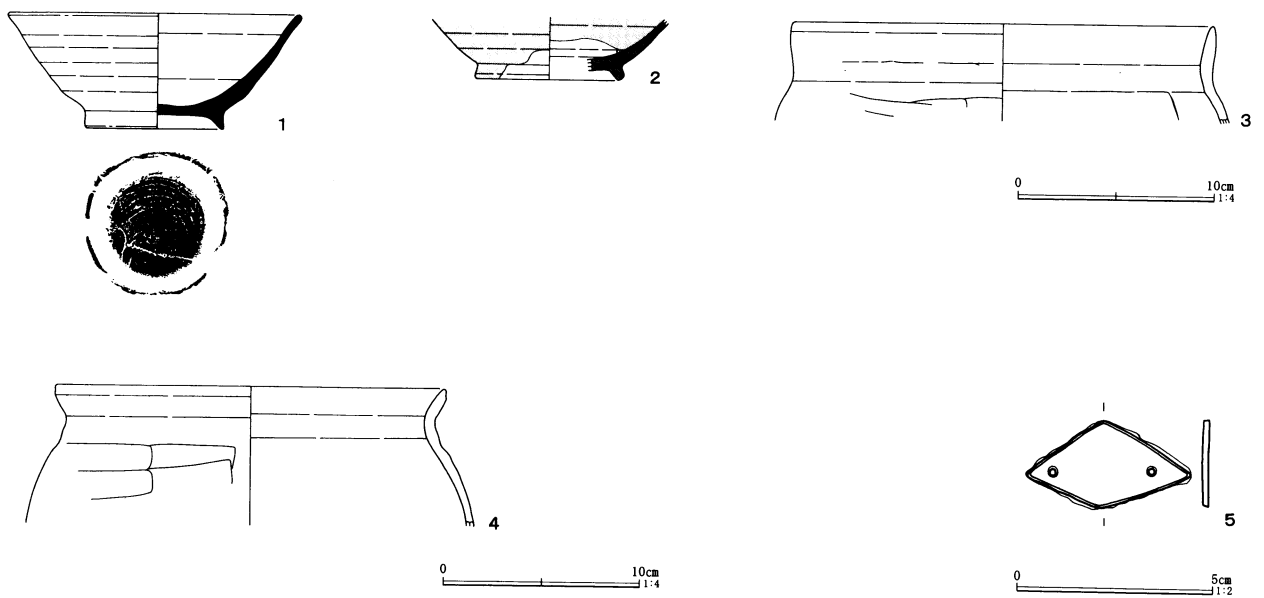
E-12 グリッドに位置する。第 167 号土坑と重複し、西壁一部が切られている。規模は、主軸長東西 3.85 m、南北 3.24 m、深さ 21cm 程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-92°-E を指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、100cm × 57cm、深さ 12cm を測り、煙道部は長さ 60cm が確認できた。

遺物は、須恵器高台付埴、土師器甕、灰釉陶器高台付埴と鉄製の菱形の金具が出土した。5 は菱形の板状鉄製品である。大きさは 2.2cm × 4.1cm、厚さは約 0.1cm である。左右対称に径約 0.2cm の孔が開けられている。留金具の一種か。



第260図 第138号住居跡



第261図 第138号住居跡出土遺物

第138号住居跡出土遺物観察表 (第261図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台壺	(14.8)	5.8	7.1	A B F G	不良	にぶい黄橙	50	覆土	底部高台内へラ削り 施釉内外面ハケヌリ 東濃産
2	灰釉高台壺			(7.6)	A	良好	灰白	20	覆土	
3	土師甕	(21.3)			A B F	良好	浅黄橙	10	覆土	
4	土師甕	(19.8)			A B C F	普通	浅黄橙	15	覆土	

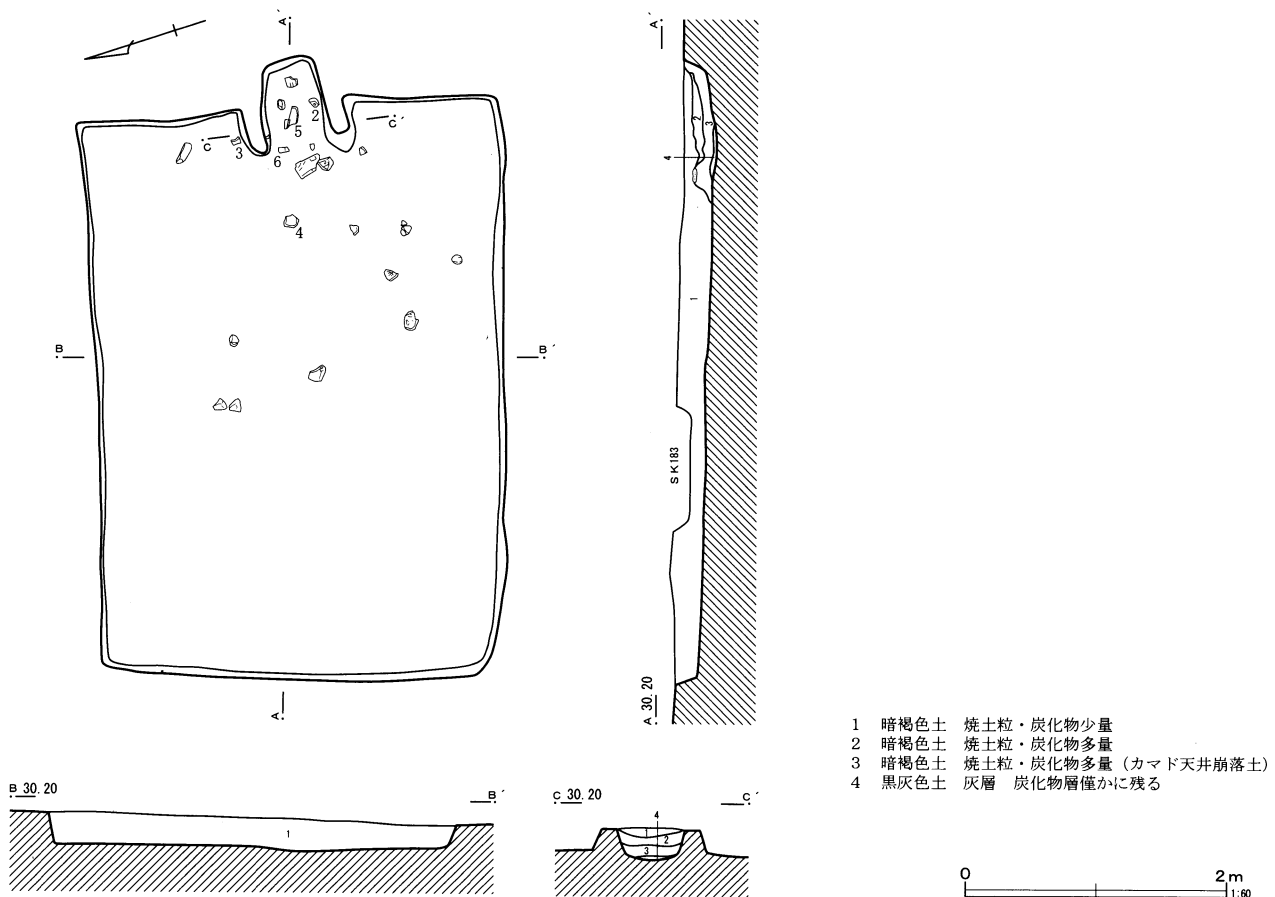
第139号住居跡 (第262・263図)

D-11、E-11・12グリッドに位置する。第182・183・185号土坑と重複し、3基の土坑に切られている。規模は、主軸長東西4.46m、南北3.12m、深さ22cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。

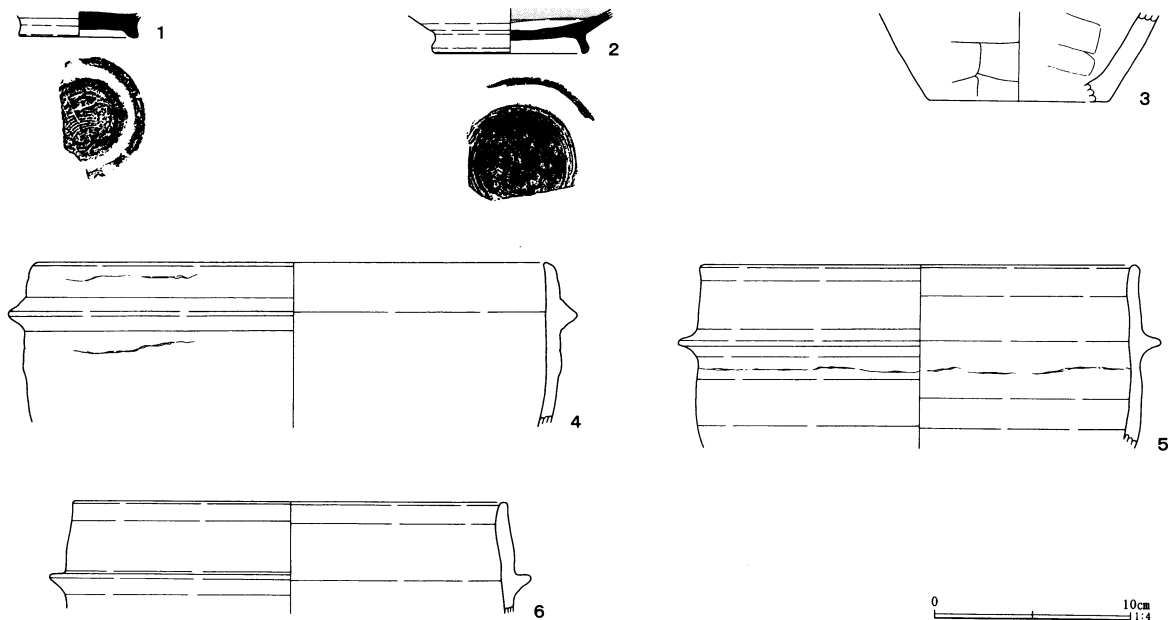
主軸方位は、N-108°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、85cm×50cm、深さ5cmを測る。

遺物は、須恵器高台付坏、土師器甕・羽釜、灰釉陶器高台付壺が出土した。



第262図 第139号住居跡



第263図 第139号住居跡出土遺物

第139号住居跡出土遺物観察表 (第263図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台坏			5.8	A J	普通	灰黄	50	覆土	底部回転糸切り
2	灰釉高台坩			(8.0)	A J	良好	灰白	70	カマド	底部高台内へう削り 施釉ハケヌリ 東遠江産
3	土師甕			(9.0)	A B J	普通	にぶい赤褐	10	覆土	
4	土師羽釜 (26.0)				A C F J	普通	橙	10	覆土	突帯やや不整
5	土師羽釜 (22.0)				A B C F J	普通	にぶい橙	10	カマド	ロクロ土師器
6	土師羽釜 (22.0)				A B C F J	良好	浅黄橙	5	カマド	ロクロ土師器

第140号住居跡 (第264・265図)

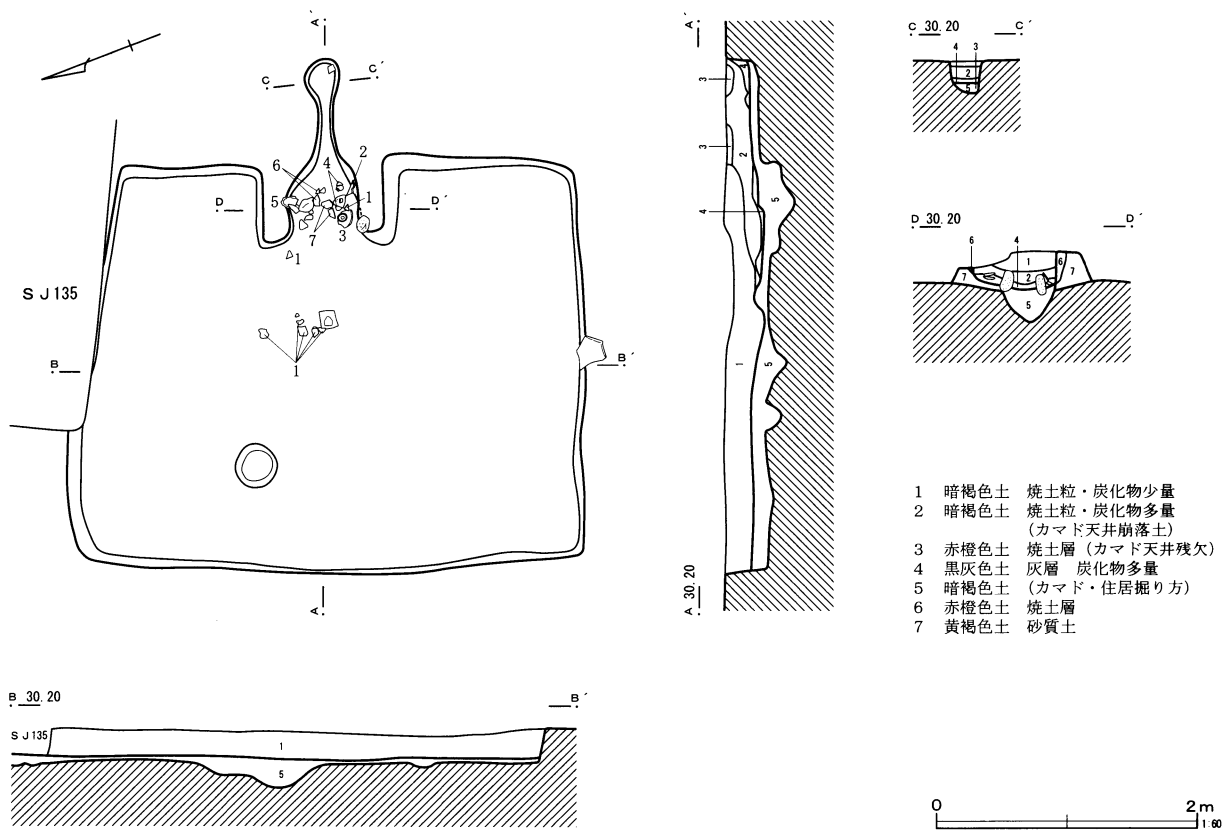
D-11・12グリッドに位置する。第135号住居跡と重複し、北壁の一部が切られている。規模は、主軸長東西3.20m、南北3.92m、深さ21cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-110°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、83cm×55cm、深さ3cm程を測り、煙道部は長さ80cmが確認できた。

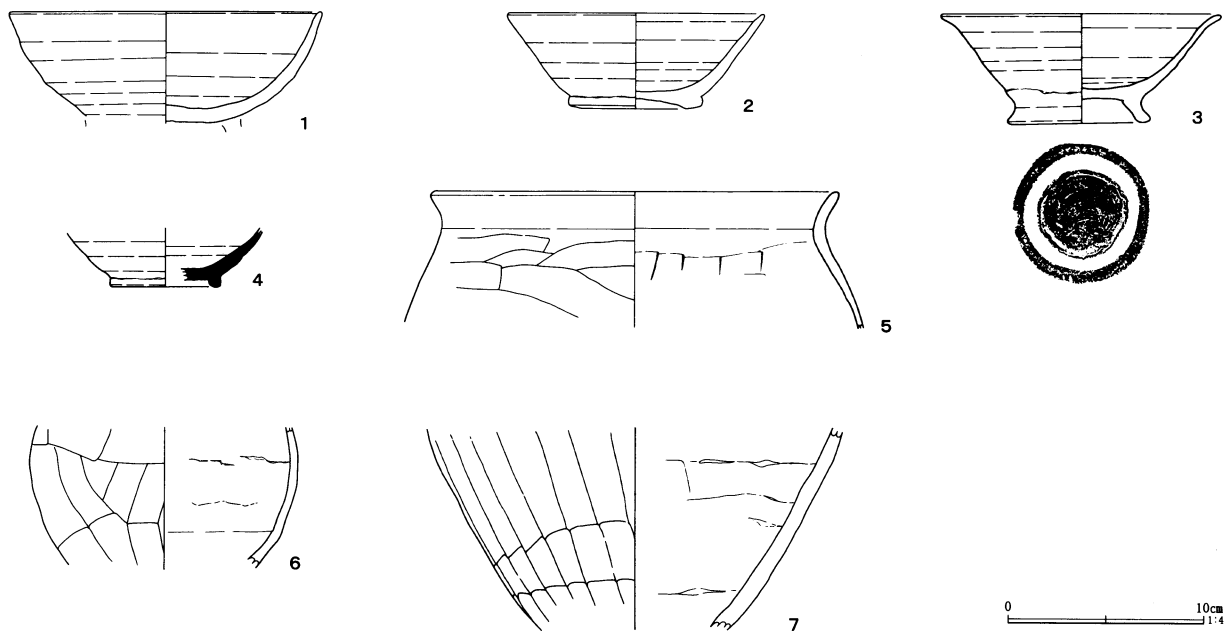
遺物は、土師器高台付坩・甕、須恵器高台付坏が出土した。

第140号住居跡出土遺物観察表 (第265図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師高台坩	16.0			A F J K	不良	にぶい黄橙	70	床直	ロクロ土師器 高台部欠損
2	土師高台坩	(13.2)	4.8	(6.8)	A B F J K	普通	にぶい褐	40	カマド	
3	土師高台坩	14.3	5.6	7.4	A B F J	普通	明赤褐	80	カマド	底部回転糸切り
4	須恵高台坏			5.7	A J K	良好	褐灰	40	カマド	
5	土師甕 (20.5)				A B F	良好	にぶい黄橙	20	カマド	
6	土師甕				A B F J	普通	明赤褐	25	カマド	胴部
7	土師甕				A F G J	普通	にぶい橙	20	カマド	胴部



第264図 第140号住居跡



第265図 第140号住居跡出土遺物

第141号住居跡 (第266・267図)

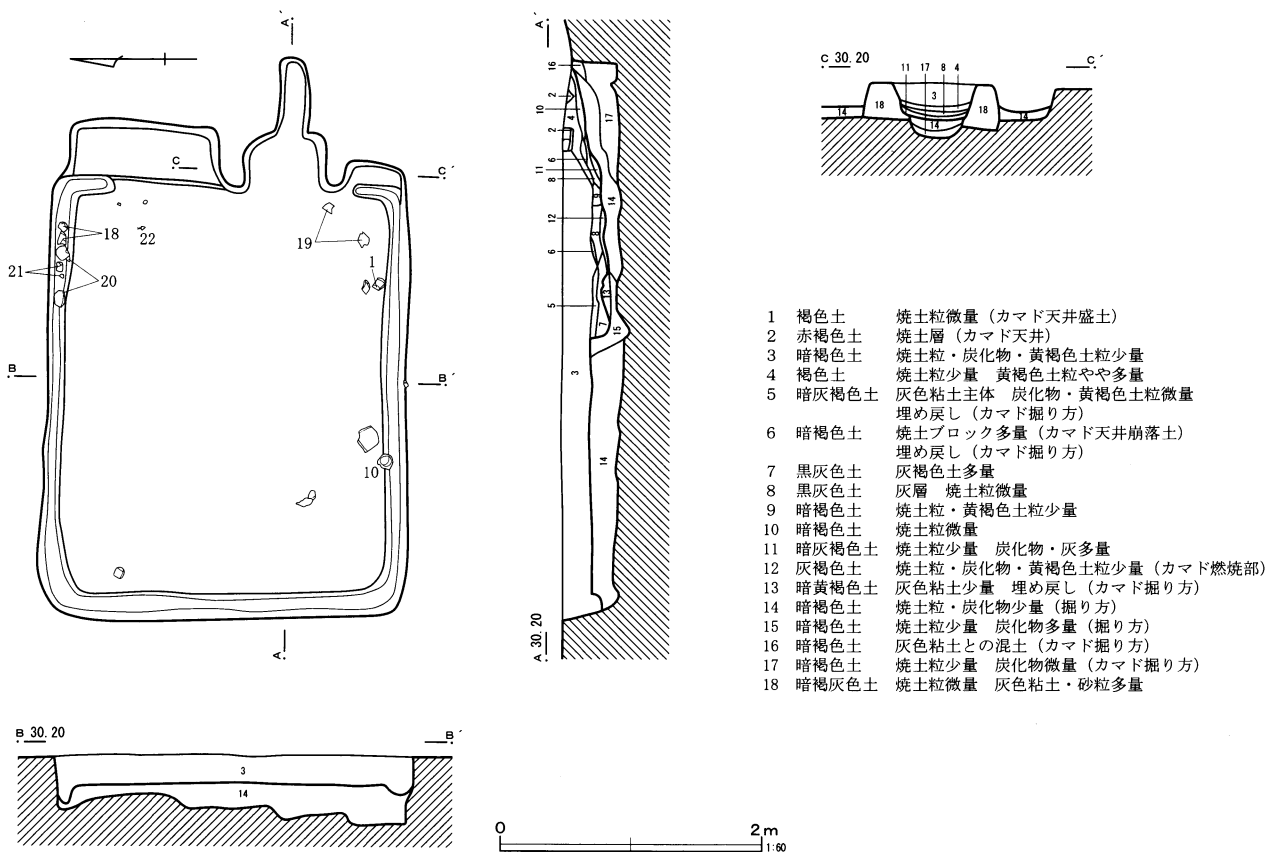
K-13グリッドに位置する。第211号住居跡と重複し、切っている。規模は、主軸長東西3.74m、南北2.82m、深さ21cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-91°-Eを指す。

壁溝は、東壁を除き確認され、幅13~23cm、深さ8~15cmを測る。東壁のカマド北側は、一段高くなり棚状となっている。

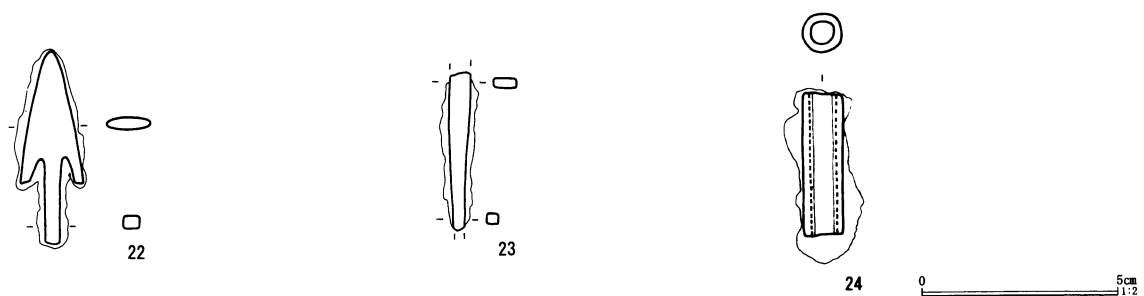
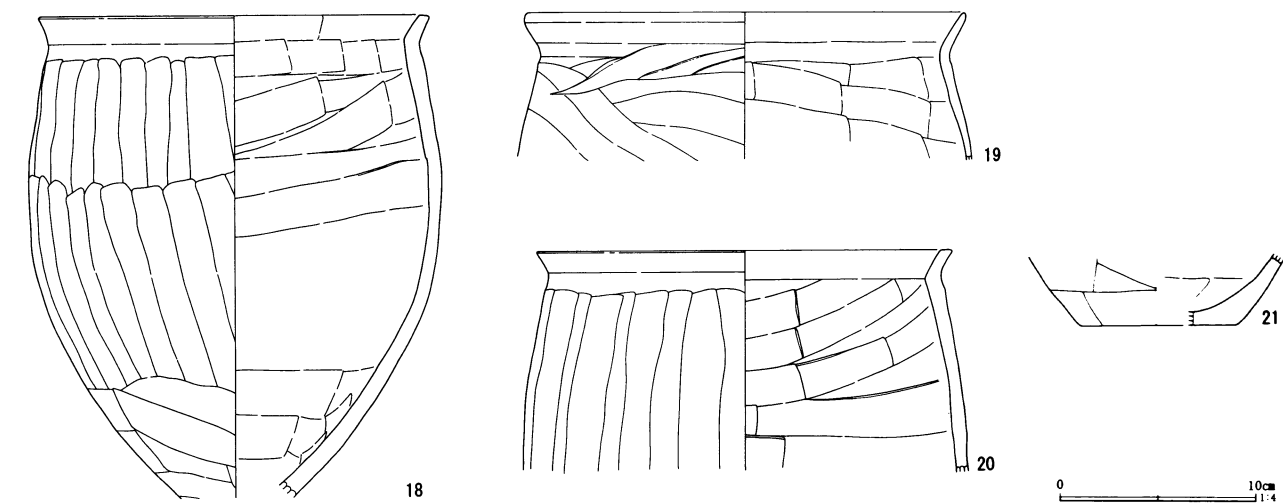
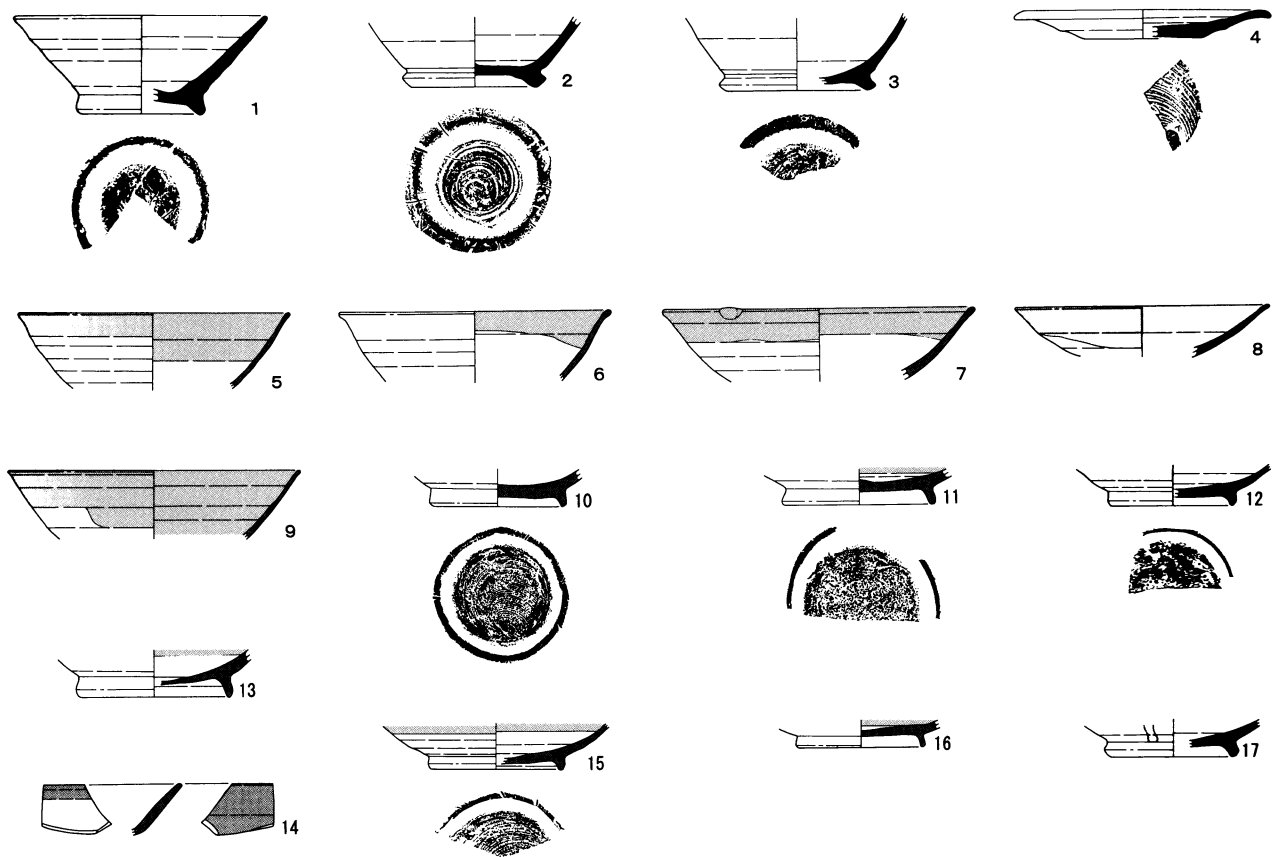
カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、104cm×63cm、深さ18cmを測り、煙道部

は長さ58cmが確認できた。

遺物は、須恵器高台坏壺・皿、土師器甕、灰釉陶器壺・高台坏壺、緑釉陶器破片と鉄鏃、管状鉄製品が出土した。22は鉄鏃の鏃身部を中心とした破片である。現存長は4.9cm、鏃身部の長さは3.4cmである。両丸造で逆刺を有する長三角形鏃である。2は棒状鉄製品である。現存長は3.9cmである。24は管状鉄製品である。長さ3.6cm、径1.0cmである。用途は不明である。



第266図 第141号住居跡



第 267 图 第 141 号住居跡出土遺物

第 141 号住居跡出土遺物観察表 (第 267 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台坏	(12.8)	5.0	(6.5)	A J	良好	灰	30	覆土	
2	須恵高台碗			7.3	A J	普通	灰	底部	覆土	
3	須恵高台碗			(8.0)	J	普通	灰	20	覆土	
4	須恵皿	(13.1)	1.5	(6.0)	A J	良好	灰白	20	覆土	
5	灰釉碗	(13.7)			A G	良好	灰	15	覆土	施釉ツケガケ 東濃産
6	灰釉碗	(13.6)			A G	良好	灰	70	覆土	施釉ツケガケ 東濃産
7	灰釉碗	(15.8)			G	良好	灰	15	覆土	施釉ツケガケ 東濃産
8	灰釉皿	(12.3)			A G	良好	灰	25	覆土	施釉ツケガケ 東濃産
9	灰釉碗	(14.8)			A G K	良好	灰	40	覆土	施釉ツケガケ 東濃産
10	灰釉高台碗			7.0	A J	良好	灰	底部	覆土	底部高台内糸切り 施釉なし 東濃産
11	灰釉高台			7.8	A G K	良好	灰	50	覆土	底部高台内ヘラ削り 施釉ハケヌリ 浜北産
12	灰釉高台皿			(6.6)	A G	良好	灰	25	覆土	底部高台内糸切り 施釉ハケヌリ 東濃産
13	灰釉高台碗			(8.0)	A	良好	灰	10	覆土	底部高台内ヘラ削り 施釉ハケヌリ 東遠江産
14	緑釉稜碗				—	普通	にぶい赤褐	破片	覆土	釉被熱変色 猿投産
15	灰釉高台皿			(7.0)	A G	良好	灰	25	覆土	底部高台内糸切り 施釉ツケガケ 東濃産
16	灰釉高台皿			(6.6)	G	良好	灰	15	覆土	底部高台内糸切り 施釉ハケヌリ 東濃産
17	灰釉高台皿			(6.8)	G	良好	灰	20	覆土	底部高台内ナデ 施釉
18	土師甕	(19.8)			B F J	普通	にぶい黄橙	20	床直	
19	土師甕	(22.2)			A B C F	普通	灰褐	25	覆土	
20	土師甕	(22.1)			B D F J	良好	にぶい黄橙	15	壁溝	胴部内面ナデ
21	土師甕			(8.0)	A B F J	普通	にぶい黄橙	25	床直	

第 143 号住居跡 (第 268・269 図)

I・J-12 グリッドに位置する。第 114・115 号住居跡・第 103・163・223 号土坑・第 7 号溝と重複し、土坑・溝に切られ、溝は住居跡中央を縦断している。また、2 軒の住居跡を切っている。規模は、主軸長南北 4.66 m、東西 6.45 m、深さ 21cm 程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-11°-W を指す。

北壁のカマド両側に、20cm ほど高くなった棚状施設がある。壁溝は南壁東半部でのみ確認され、幅 50cm、深さ 15cm 程を測る。

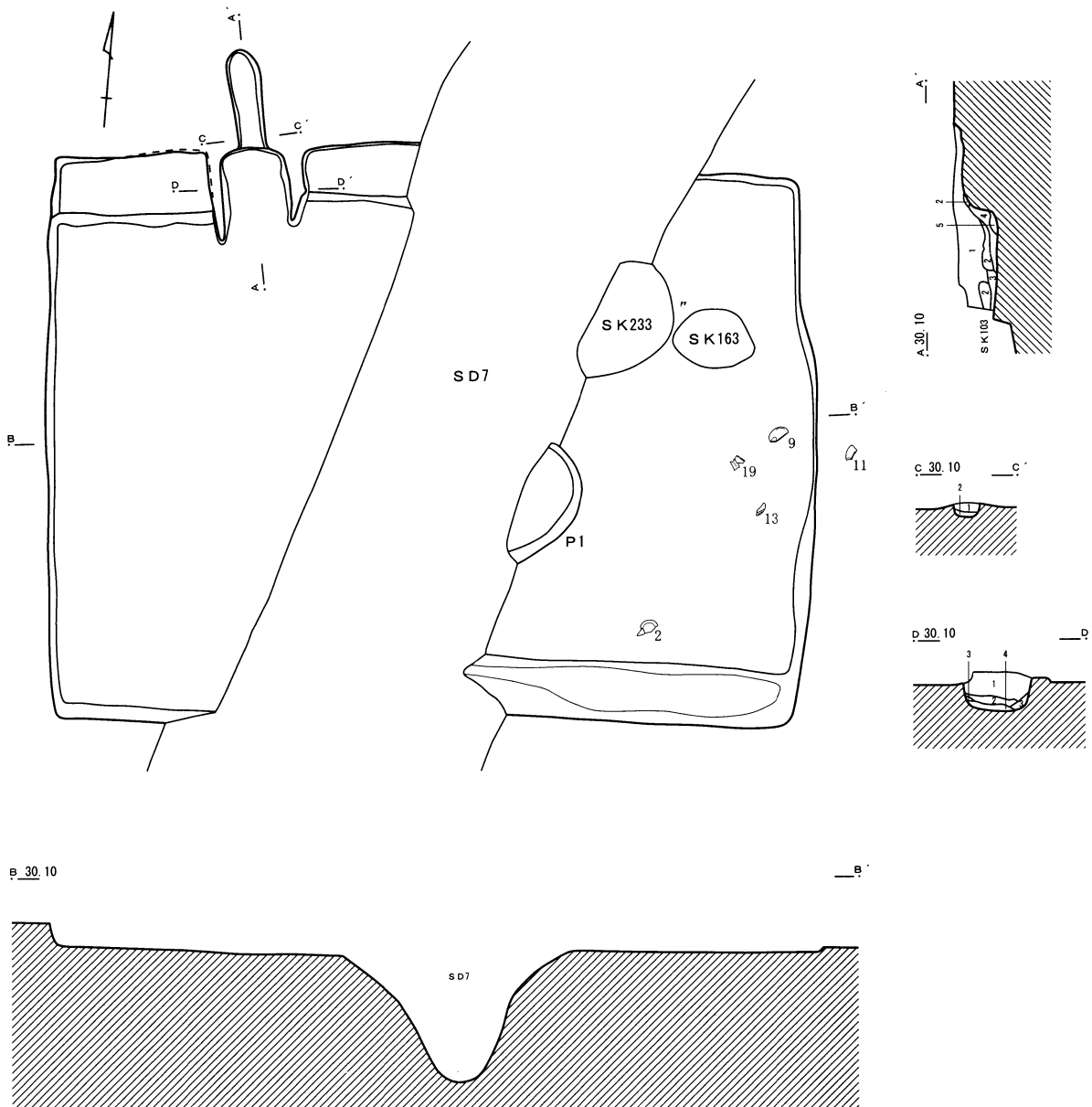
カマドは、北壁で西に片寄って設けられている。

カマド前が第 103 号土坑に切られているため確認できた燃焼部は、73cm × 53cm で床面と同じ高さである。煙道部は、長さ 80cm が確認できた。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・高台付坏・蓋と鉄製品が出土した。20 は現存長 7.5cm の角棒状鉄製品である。約 3.6cm の幅に木質が残り、反対側の端部は先細りとなり曲がっている。釘のような接合具の一種かもしれない。21・22 はともに釘の基部～脚部である。21 は現存長 3.7cm で、ほぼ全面に木質が残る。22 は現存長 3.6cm、脚部先端から 1.8cm の範囲に木質が残っている。

第 143 号住居跡出土遺物観察表 (第 269 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.3)	2.9		A B F G	普通	橙	30	覆土	
2	土師坏	13.6	3.1		A B C F J	普通	明赤褐	80	覆土	
3	土師坏	(14.0)	(3.2)		A B C F J	普通	橙	50	覆土	
4	土師坏	(14.0)	(3.0)		A C F J	普通	灰黄褐	15	覆土	やや磨耗する



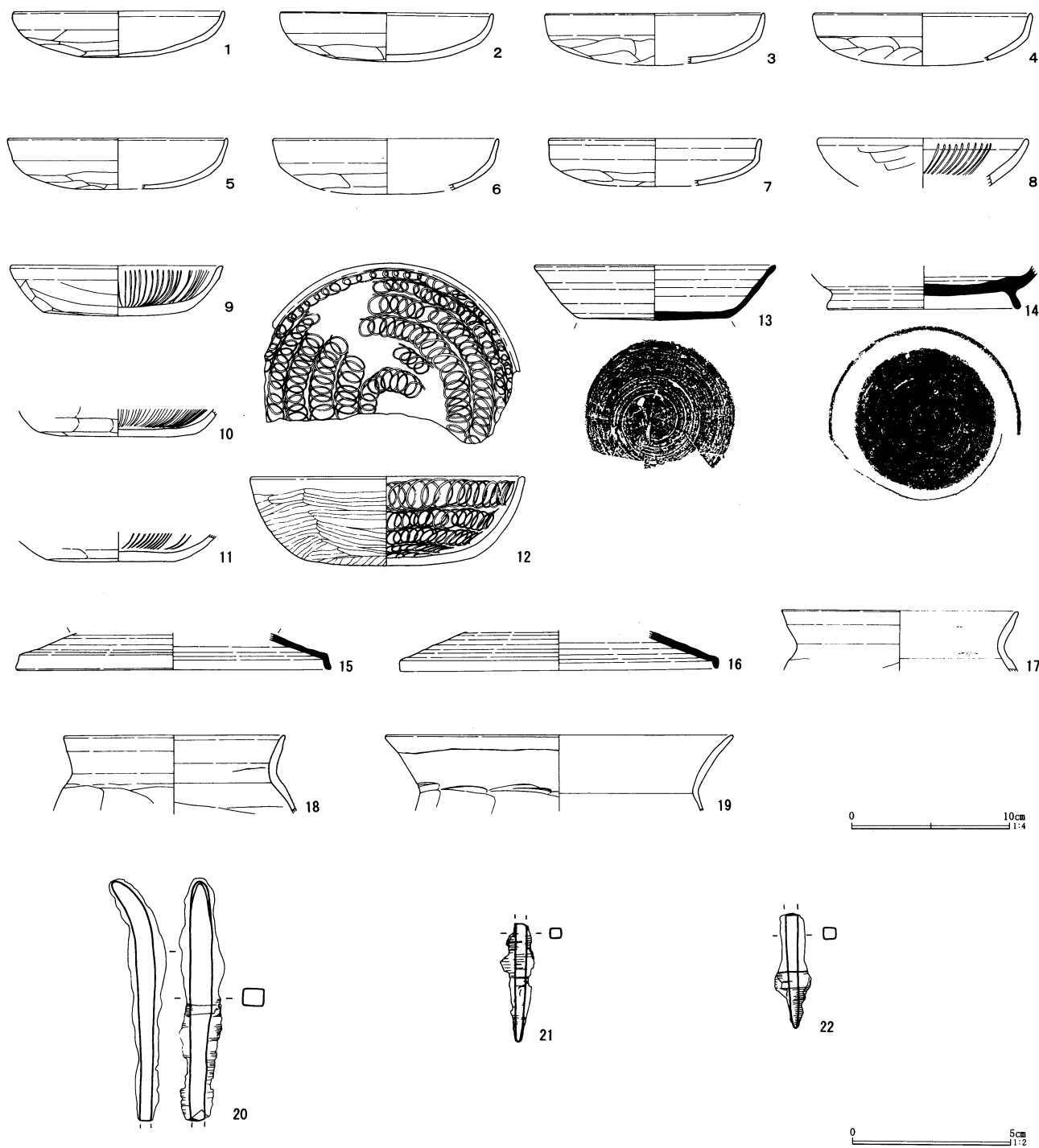
- 1 暗褐色土 焼土粒少量
- 2 暗灰褐色土 灰褐色粘土含む (カマド天井盛土)
- 3 暗褐色土 焼土粒少量
- 4 暗褐色土 灰層 焼土ブロック・灰多量
- 5 暗褐色土 焼土粒・灰含む

0 2m
1:60

第268図 第143号住居跡

第143号住居跡出土遺物観察表 (第269図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
5	土師坏	(14.0)	3.2		ABFJ	普通	橙	10	覆土	
6	土師坏	(14.1)	(3.5)		ABCF	良好	橙	50	覆土	
7	土師坏	(13.2)	(3.0)		ABCD F	良好	橙	35	覆土	
8	土師坏	(13.2)			ACFJ	良好	橙	15	覆土	内面放射状暗文
9	土師坏	13.4	3.2	9.1	AFGJ	良好	橙	95	覆土	内面放射状暗文
10	土師坏			(10.0)	ABF	良好	橙	20	覆土	内面放射状暗文
11	土師壺			(8.0)	ACFG	普通	にぶい黄橙	20	覆土	内面放射状暗文
12	土師坏	(17.3)	5.7	11.1	ACFG	良好	橙	50	覆土	内面螺旋状暗文 底部外面へラ磨き



第 269 図 第 143 号住居跡出土遺物

第 143 号住居跡出土遺物観察表 (第 269 図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
13	須恵坏	(15.0)	3.5	9.5	A C H J K	良好	灰白	60	床直	底部全面回転ヘラ削り
14	須恵高台坏			12.0	A C J K	良好	灰	90	覆土	底部全面回転ヘラ削り
15	須恵蓋	(20.0)			A H	良好	灰	5	覆土	天井部回転ヘラ削り
16	須恵蓋	(20.0)			A J	良好	灰	10	覆土	
17	土師甕	(14.8)			A B C D F	良好	にぶい橙	15	覆土	
18	土師甕	(14.0)			A B C J	普通	明赤褐	10	覆土	
19	土師甕	(22.0)			A B C F J	普通	橙	20	覆土	

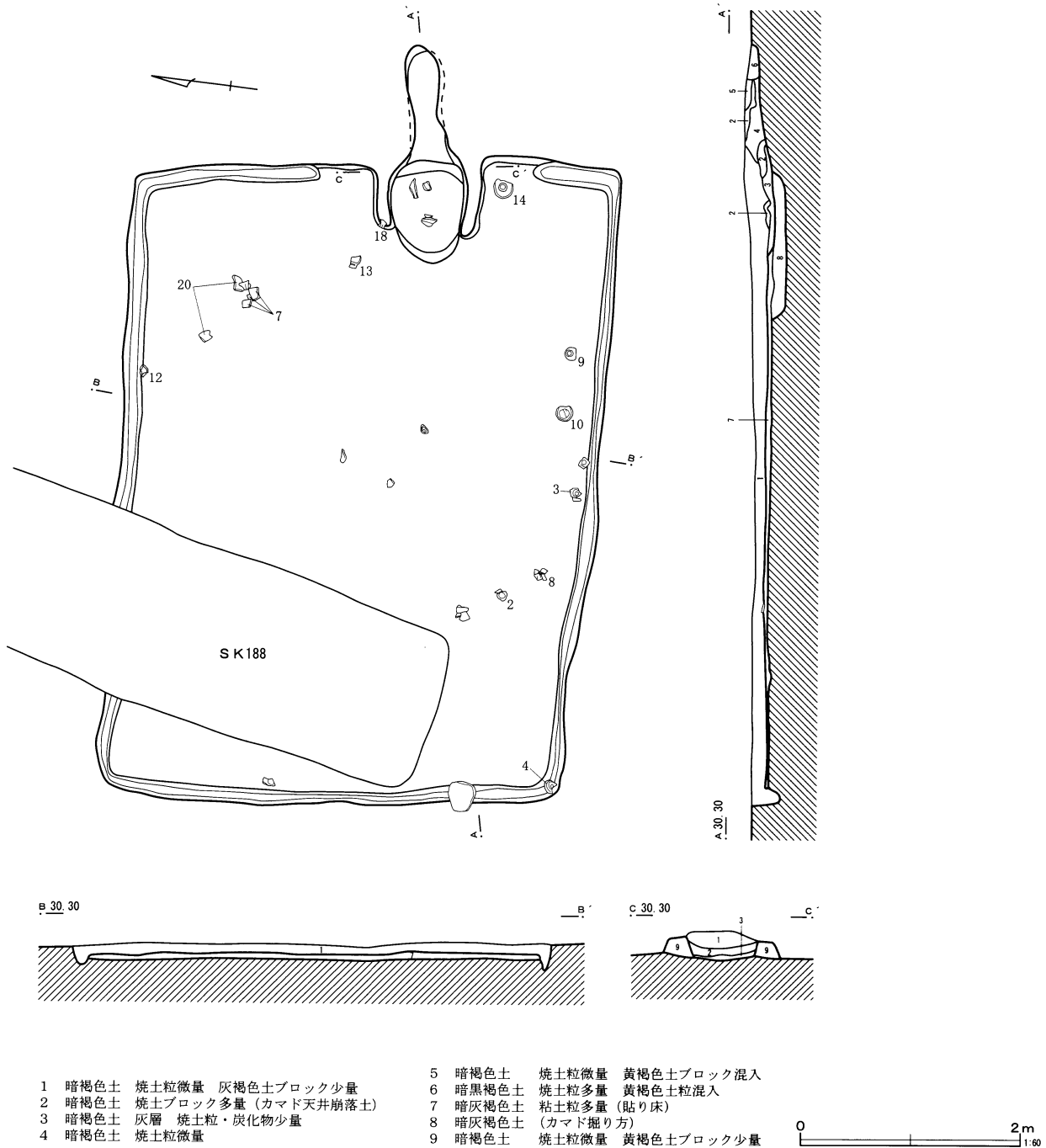
第144号住居跡 (第270・271・272図)

J・K-12・13グリッドに位置する。第188号土坑と重複し、北壁の一部が切られている。規模は、主軸長東西5.80m、南北4.40m、深さ10cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N-86°-Eを指す。

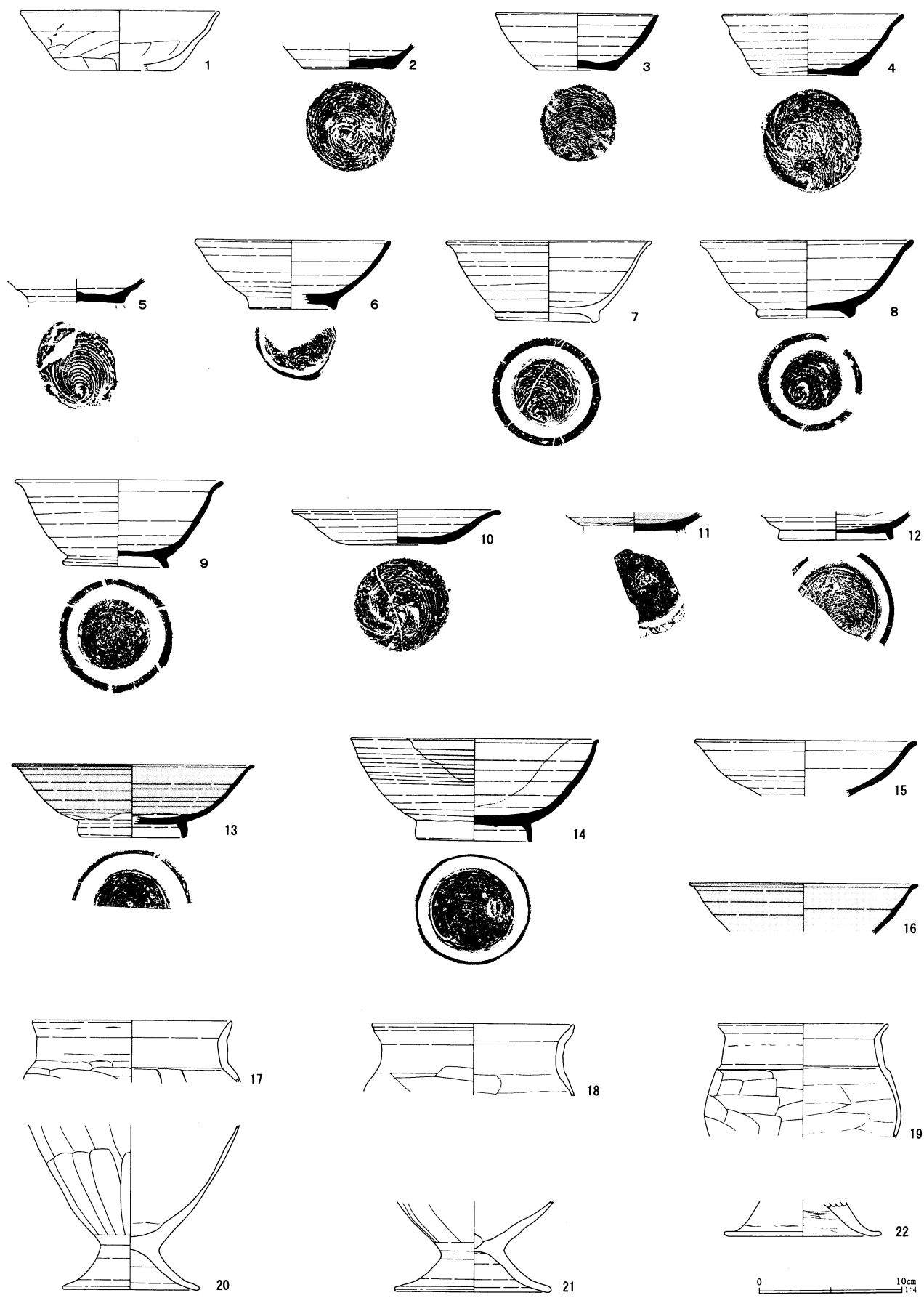
カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃

焼部は、92cm×73cm、深さ10cm程を測る。煙道部は、長さ106cmが確認できた。

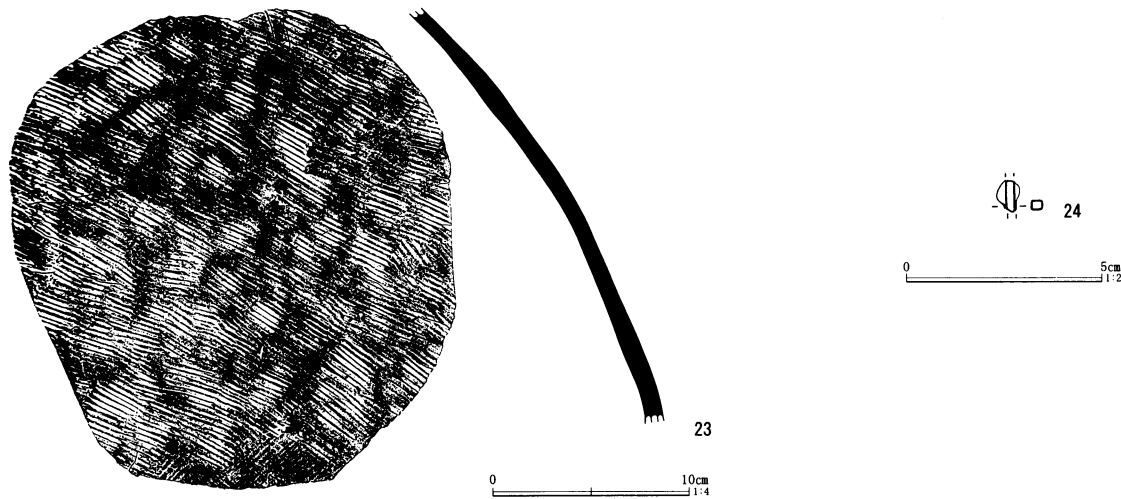
遺物は、土師器坏・甕・台付甕、須恵器坏・高台付碗・皿・甕、灰釉陶器高台付碗と鉄製品が出土した。24は角棒状の鉄製品である。現存長0.8cm。用途は不明である。



第270図 第144号住居跡



第271图 第144号住居跡出土遺物(1)



第272図 第144号住居跡出土遺物(2)

第144号住居跡出土遺物観察表(第271・272図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(14.0)	4.2	(7.4)	A B F J	普通	橙	10	覆土	
2	須恵坏			6.4	A J K	良好	灰	90	覆土	
3	須恵坏	(11.4)	4.0	5.6	A J	普通	黄灰	40	覆土	底部回転糸切り
4	須恵坏	(12.6)	4.3	7.0	A J K	良好	黄灰	60	壁溝	やや歪みあり 底部回転糸切り
5	須恵高台埴				A C J	普通	灰白	60	覆土	高台部剥離
6	須恵高台埴	13.6	4.8	(6.0)	A J	普通	灰白	50	掘り方	底部回転糸切り
7	須恵高台埴	14.3	5.7	7.2	A C F J K	普通	明赤褐	85	床直	酸化焰焼成 底部回転糸切り、周辺ナデ
8	須恵高台埴	15.0	5.5	6.7	A C G J K	普通	黄灰	70	覆土	やや歪みあり
9	須恵高台埴	14.6	6.2	7.5	A C J K	普通	黄灰	90	床直	
10	須恵皿	14.7	2.5	7.1	A C F J K	普通	灰黄褐	100	覆土	やや歪みあり 底部回転糸切り
11	灰釉高台埴				A G J	良好	灰白	30	覆土	高台部剥離 底部高台内へラ削り 施釉ハケヌリ一筆 東遠江産
12	灰釉高台埴			8.0	A C J	良好	灰白	40	壁溝	底部高台内糸切り 東濃産
13	灰釉高台埴	(17.0)	5.1	7.2	A G	良好	灰白	20	覆土	底部高台内へラ削り 内外面ハケヌリ 浜北産
14	灰釉高台埴	17.3	7.3	7.9	A G	良好	灰白	90	覆土	底部高台内糸切り 施釉 東遠江産
15	灰釉埴	(15.3)			A G	良好	灰黄	15	掘り方	施釉なし
16	灰釉埴	(15.8)			A G	良好	灰白	15	覆土	施釉内外面ハケヌリ 浜北産
17	土師甕	(14.0)			A B F J	普通	にぶい赤褐	10	覆土	
18	土師甕	(14.1)			A C F	良好	にぶい褐	40	カマド	
19	土師甕	(12.0)			A G J	普通	にぶい褐	15	覆土	
20	土師台付甕			9.5	B C F	普通	にぶい黄橙	60	覆土	
21	土師台付甕			10.7	A B C	良好	にぶい赤褐	75	カマド	
22	土師台付甕			(11.0)	A B C F J	普通	橙	30	覆土	
23	須恵甕				A G J K	良好	灰	—	掘り方	

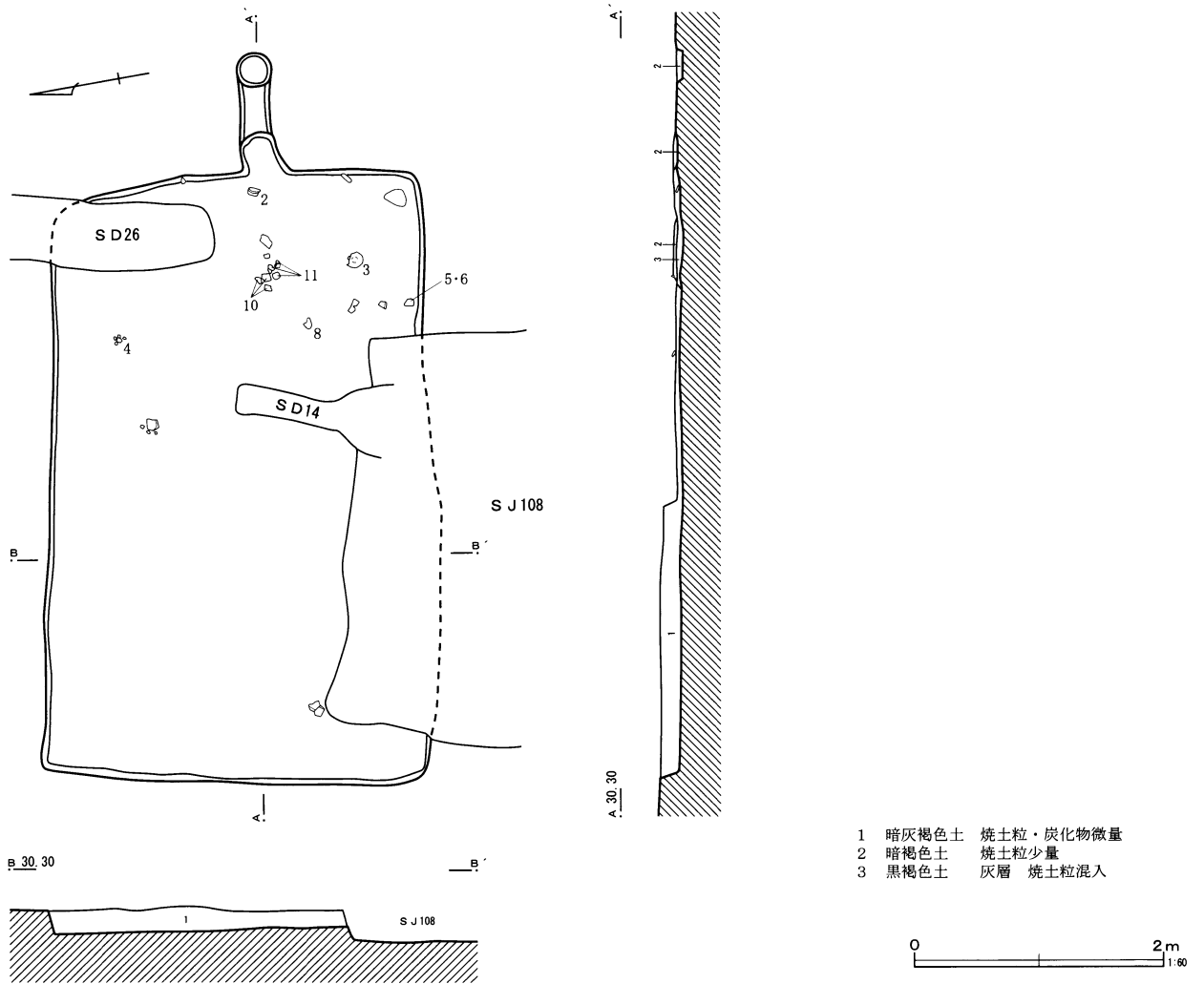
第146号住居跡 (第273・274図)

J-12グリッドに位置する。第108・129号住居跡・第14・26溝と重複し、北東隅は第26号溝に切られ、南壁は第108号住居に切られている。規模は、主軸長東西4.89m、南北3.10m、深さ19cm程を測る。平面形は、長方形を呈する。主軸方位は、N

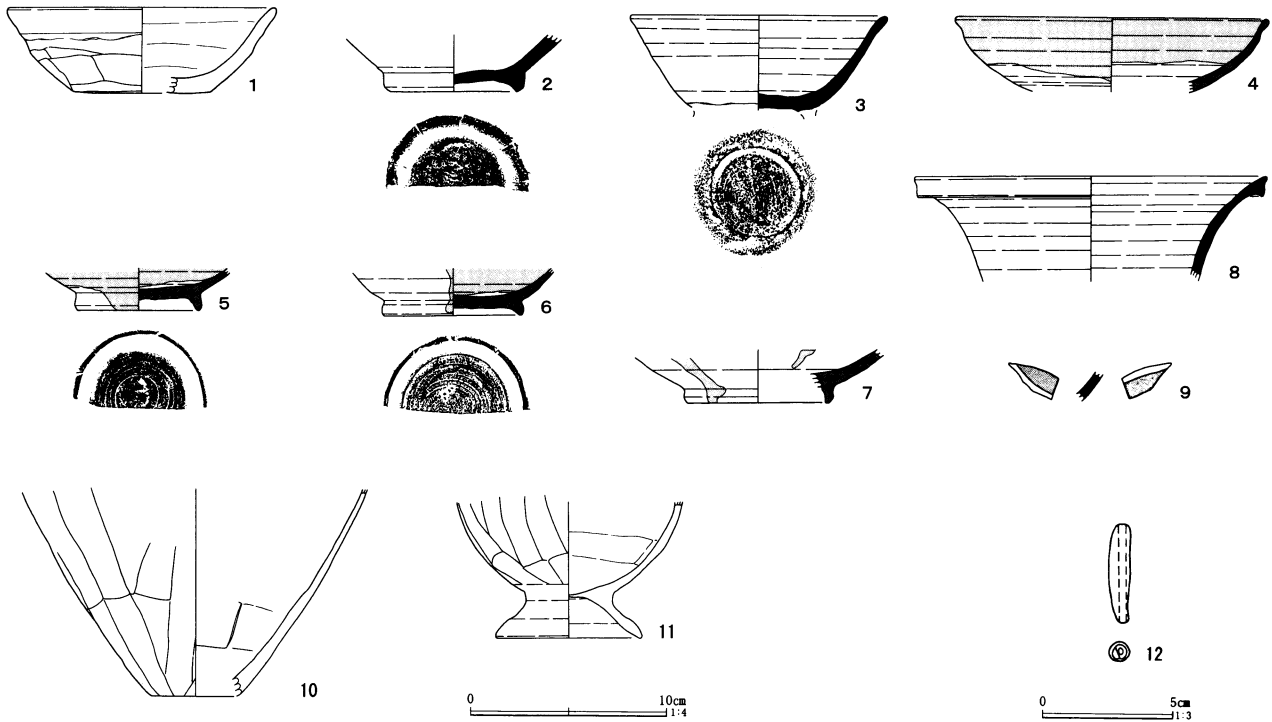
-98°-Eを指す。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃焼部は、130cm×33cmで床面と同じ高さである。

遺物は、土師器坏・甕・台付甕、須恵器高台付碗・甕、灰釉陶器高台付碗、緑釉陶器破片、土錘が出土した。



第273図 第146号住居跡



第274図 第146号住居跡出土遺物

第146号住居跡出土遺物観察表 (第274図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(13.6)	4.4	(7.0)	A B F J	普通	浅黄橙	10	覆土	
2	須恵高台碗			(6.5)	A C G	不良	にぶい橙	40	床直	
3	須恵高台碗	13.2	(5.0)		A B J K	普通	にぶい橙	90	覆土	高台部剥離
4	灰釉碗	(16.0)			A G	良好	灰	15	覆土	施釉内外面ハケヌリ 東遠江産
5	灰釉高台碗			6.2	A	良好	灰白	50	覆土	底部高台内ヘラ削り 施釉内外面ハケヌリ 東濃産
6	灰釉高台碗			7.0	A G	良好	灰	40	覆土	底部高台内糸切り 施釉ハケヌリ 東濃産
7	灰釉高台碗			(7.2)	A G	良好	灰白	5	覆土	施釉内外面ハケヌリ 東遠江産
8	須恵甕	(18.0)			A G	良好	灰白	15	覆土	
9	緑釉陶器					—	—	破片	覆土	猿投産
10	土師甕			(4.3)	A B F J	普通	にぶい橙	20	覆土	
11	土師台付甕			(7.3)	A B F J	普通	にぶい黄橙	40	床直	
12	土錘	長さ3.8 径0.9 孔径0.3				普通	浅黄橙	100	覆土	

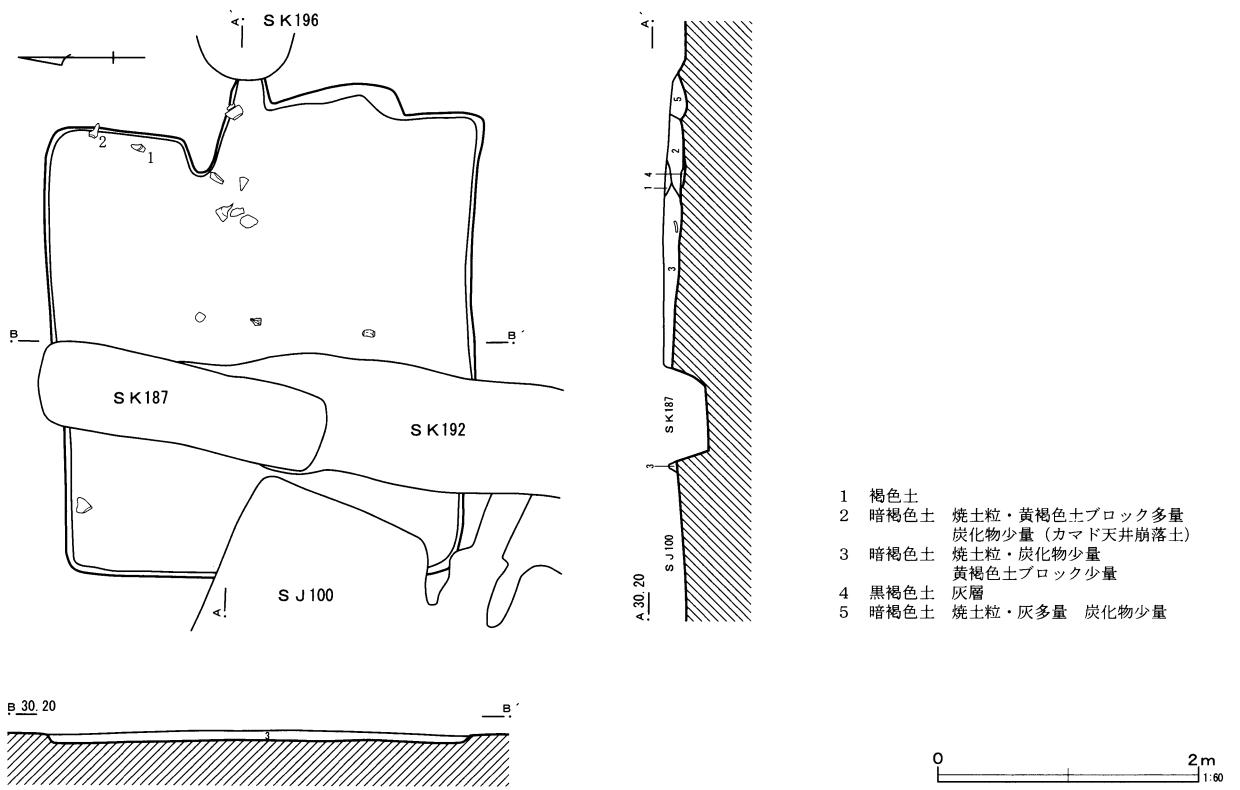
第147号住居跡 (第275・276図)

K-12・13グリッドに位置する。第100号住居跡・第187・192・196号土坑と重複し、西壁の一部は住居跡に切られている。2基の土坑は住居跡中央を南北に横断し、また、別の土坑にカマドの先端も切られている。規模は、主軸長東西3.40m、南北3.30

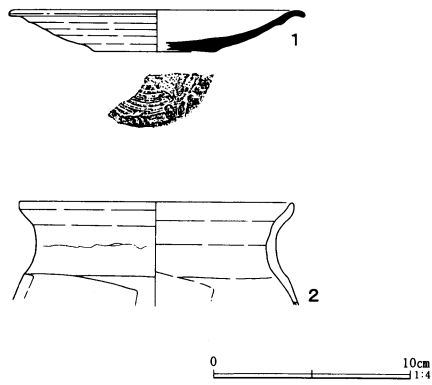
m、深さ10cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-90°-Eを指す。

カマドは、東壁北寄りに設けられている。燃燒部は、96cm×30cmを測り、ほぼ床面と同じ高さである。

遺物は、須恵器皿、土師器甕が出土した。



第275図 第147号住居跡



第276図 第147号住居跡出土遺物

第147号住居跡出土遺物観察表 (第276図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵皿	(15.0)	2.1	(6.2)	AJK	普通	灰	35	覆土	
2	土師甕	(13.8)			ABC	普通	灰褐	20	覆土	

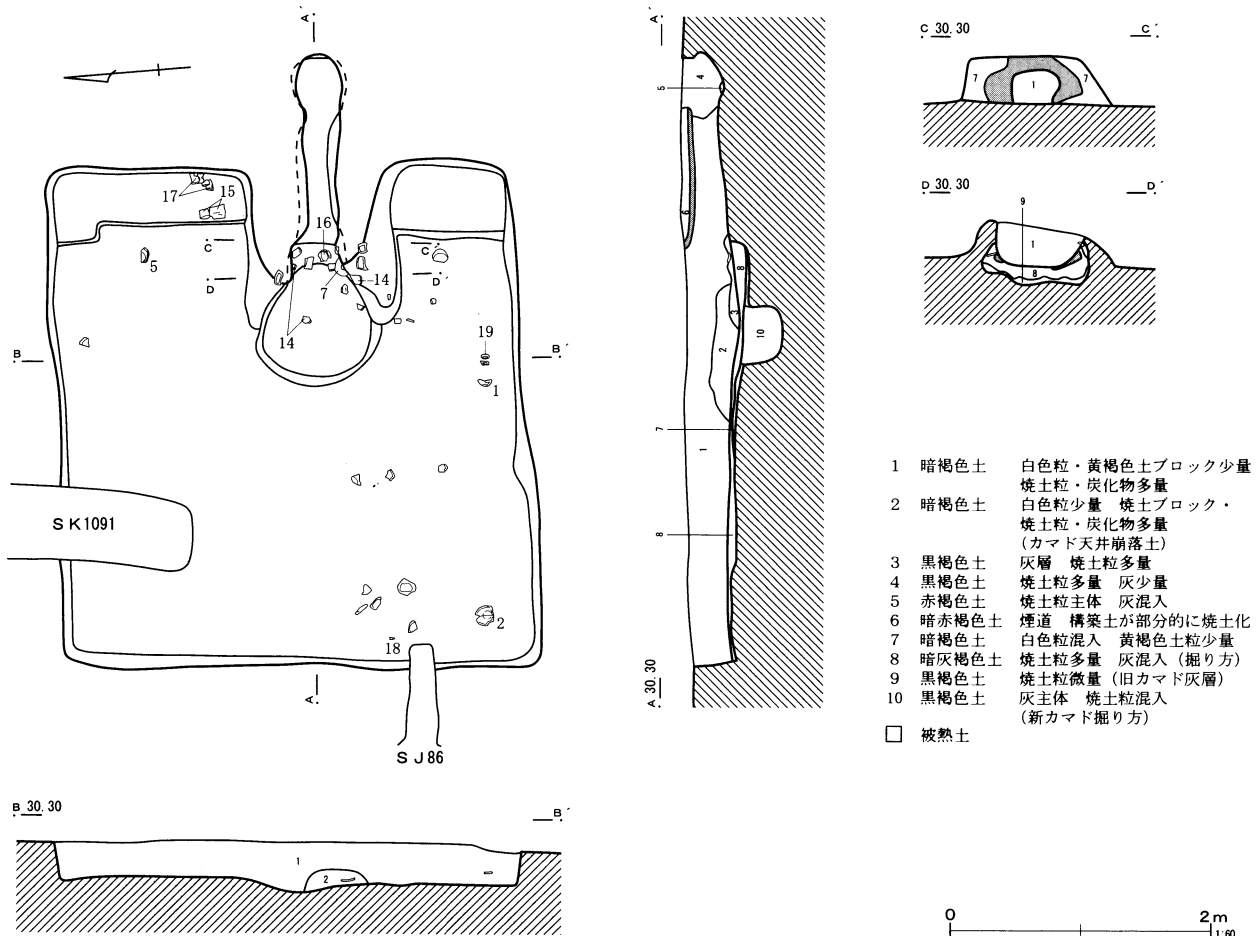
第148号住居跡 (第277・278図)

L-12グリッドに位置する。第86・185・209・210号住居跡・第1091号土坑と重複し、土坑と第86号住居跡に切られ、その他の住居跡は切っている。規模は、主軸長東西3.82m、南北3.60m、深さ37cm程を測る。平面形は、方形を呈する。主軸方位は、N-96°-Eを指す。

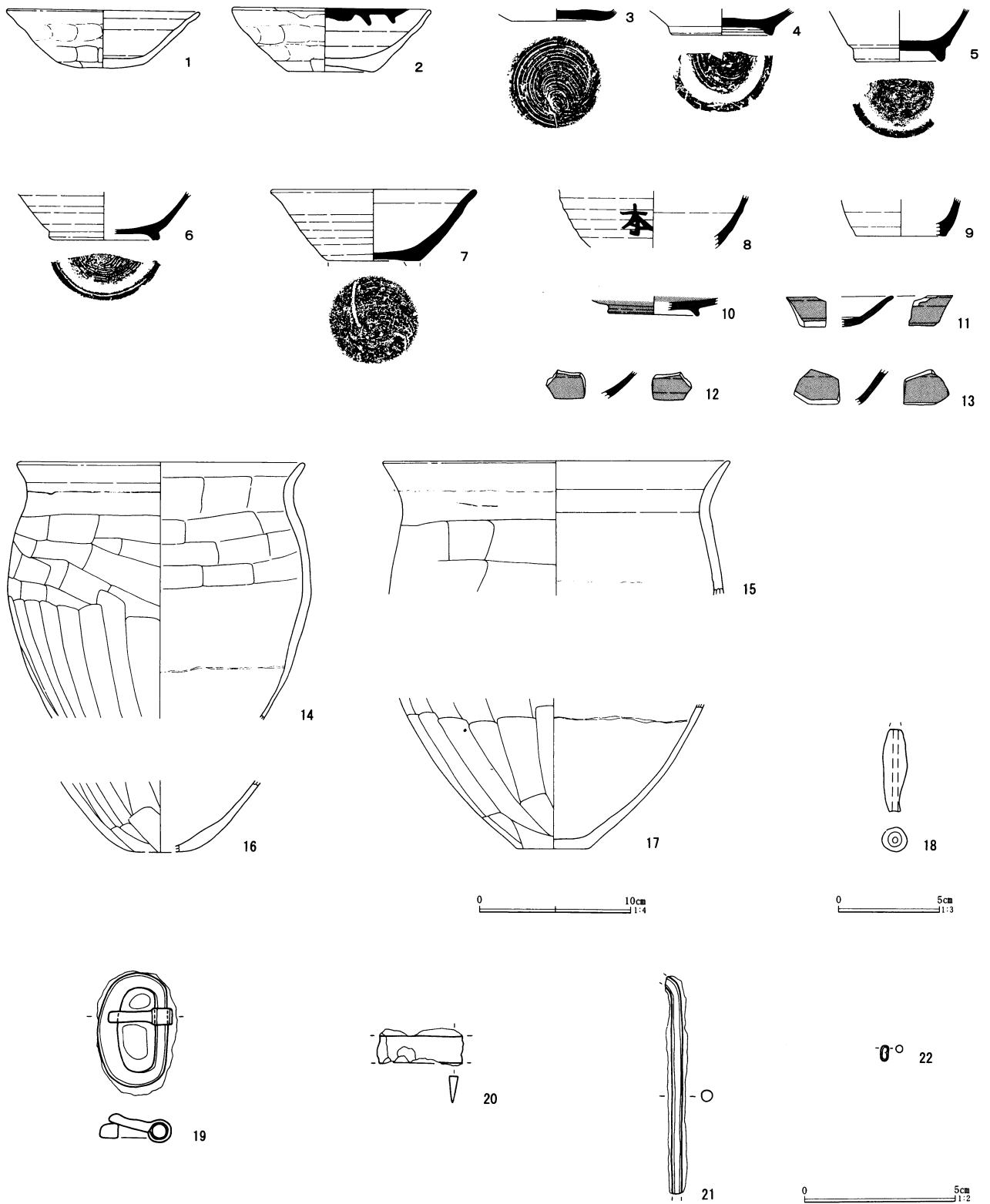
カマドの両側の東壁は、北側は5cm、南側は18cmの段差をもって棚状となっている。

カマドは、東壁やや南寄りに設けられている。燃燒部は、109cm×92cm、深さ10cmを測り、煙道部は長さ145cmが確認できた。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・埴・高台付埴・長頸瓶、緑釉陶器高台坏皿・稜皿、土錘と鉄製品・銅製品が出土した。19は鉄製鉸具である。縁金具と軸金が一体となるタイプで、長さ2.3cm、幅3.7cmである。刺金は長さ2.2cmで、一方を径0.7cmの管状にして軸金に装着される。20は鉄製刀子の刃部片である。現存長2.9cm、刃幅は0.9cmである。21は丸棒状の鉄製品である。現存長7.1cmで一方が折れ曲がっている。用途は不明であるが、紡錘車の軸部の可能性もある。22は粒状の銅塊である。長さ0.5cm。



第277図 第148号住居跡



第 278 图 第 148 号住居跡出土遺物

第148号住居跡出土遺物観察表 (第278図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	12.7	3.9	5.3	F G	普通	灰白	85	覆土	体部外面上位指ナデ 下半へラ削り 底部へラ削り
2	土師坏	13.0	4.2	5.7	A B F J	普通	灰白	80	覆土	体部外面中位指ナデ 下端へラ削り 灯明皿 油煙付着
3	須恵杯			6.0	A J	良好	灰白	破片	カマド	
4	須恵高台埴			(6.7)	A G	普通	灰黄	40	カマド	底部回転糸切り
5	須恵高台埴			(6.0)	A B J	普通	浅黄橙	40	覆土	底部回転糸切り
6	須恵高台埴			(7.4)	A	良好	灰	20	覆土	底部回転糸切り
7	須恵高台埴	13.4	(4.7)	(6.0)	A D F I	普通	褐	95	カマド	高台部剥離
8	須恵埴				A C G	良好	灰白	40	カマド	墨書有り
9	須恵長頸瓶			(6.0)	A	良好	灰	20	覆土	外面へラナデ
10	緑釉高台皿			(6.0)		良好	—	20	覆土	猿投産
11	緑釉稜埴						—	破片	覆土	猿投産
12	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
13	緑釉陶器						—	破片	覆土	猿投産
14	土師甕	(18.7)			C F	普通	にぶい褐	60	カマド	外面へラ削り 内面横ナデ
15	土師甕	(22.9)			A J	良好	淡黄	20	覆土	
16	土師甕			(4.1)	F J	普通	にぶい黄橙	30	カマド	
17	土師甕			4.8	A B J	普通	褐灰	50	床直	
18	土錘	長さ(4.0)	径1.3	孔径0.3			灰褐	90	覆土	

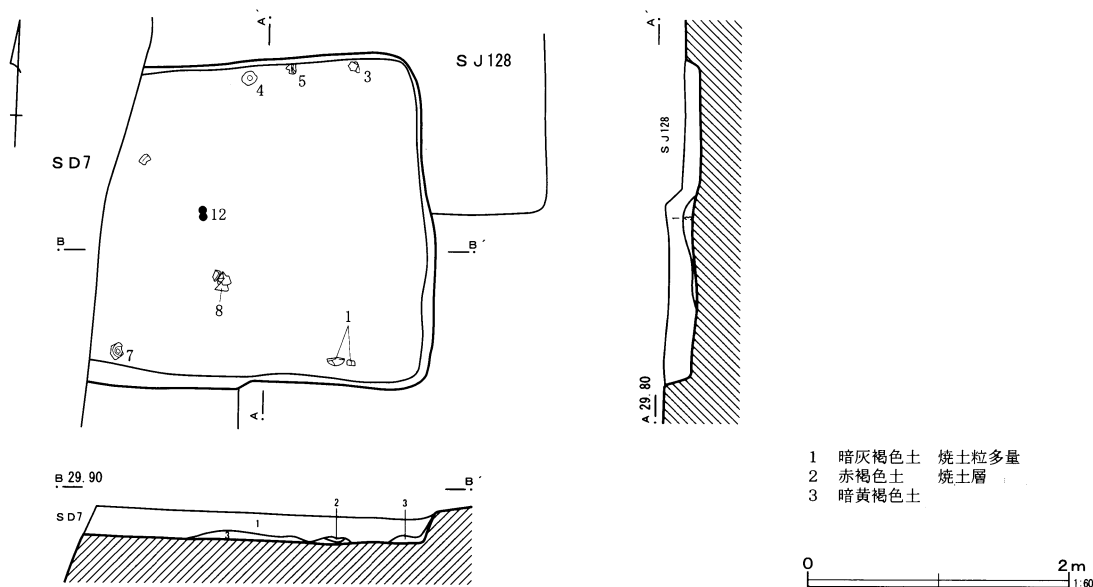
第149号住居跡 (第279・280図)

K-12グリッドに位置する。第128号住居・第7号溝と重複し、西側を溝に、北側の上部が住居跡に切られている。規模は、東西長2.58mが確認でき、南北2.54m、深さ21cm程を測る。東西方向を主軸

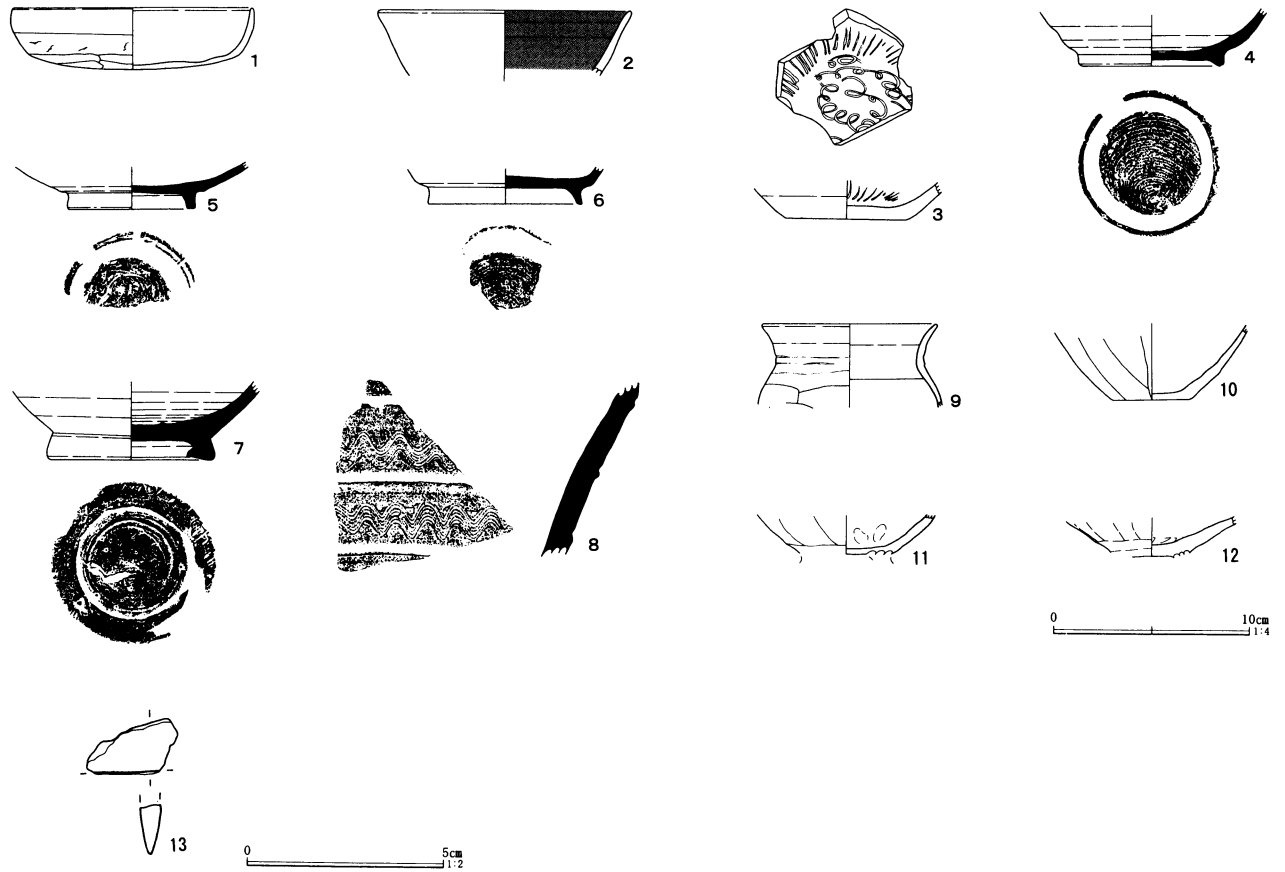
とすると方位は、N-90°-Eを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器坏・甕・台付甕、須恵器高台付埴・長頸瓶・甕と鉄製品が出土した。13は刃物の一部と考えられる。現存長2.4cm。



第279図 第149号住居跡



第280図 第149号住居跡出土遺物

第149号住居跡出土遺物観察表 (第280図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師杯	12.4	3.2		A B F J	普通	橙	70	覆土	
2	土師杯	(12.7)			A F	良好	にぶい橙	10	覆土	黒色土器
3	土師杯			(5.1)	A J	良好	にぶい黄橙	40	床直	暗文
4	須恵高台壺			6.9	A I J	普通	灰オリーブ	80	覆土	底部回転糸切り
5	須恵高台壺			(6.6)	A G	良好	灰	30	覆土	底部回転糸切り
6	須恵高台壺			(7.9)	A J	良好	灰	20	覆土	
7	須恵長頸瓶			8.5	A C J	良好	灰	80	覆土	底部内面に自然釉 底部回転ヘラ削り
8	須恵甕				A J K	良好	灰	破片	覆土	
9	土師甕	(9.0)			A B J	普通	にぶい褐	30	覆土	
10	土師甕			(4.0)	A F	普通	にぶい橙	40	覆土	
11	土師台付甕				A B F G	普通	にぶい橙	40	覆土	脚部欠損
12	土師台付甕				B C F	普通	にぶい橙	40	覆土	脚部欠損

報 告 書 抄 録

ふりがな	いづかきた いせき							
書名	飯塚北遺跡 I							
副書名	妻沼西部工業団地造成事業用地内埋蔵文化財発掘調査報告							
巻次	I <第1分冊>							
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書							
シリーズ番号	第306集							
編著者名	山本 禎							
編集機関	財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒369-0108 埼玉県大里郡大里町船木台4-4-1 TEL0493-39-3955							
発行年月日	西暦2005(平成17)年3月24日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
いづかきたいせき 飯塚北遺跡	さいたまけんおおさとぐんぬままち 埼玉県大里郡妻沼町 おおあざながいおた 大字永井太田 ほんちほか 1,531番地他	11403	042	36° 13' 15"	139° 21' 09"	19770401~ 19990831	10,000	工業団地 造成
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
飯塚北遺跡	集落跡	弥生時代 奈良時代 平安時代	再葬墓 5基 土壇 6基 遺物集中範囲 5箇所 竪穴住居跡 34軒 竪穴住居跡 229軒	弥生式土器 土師器・須恵器 土師器・須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・鉄製品		灰釉陶器・緑釉陶器が出土		

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第306集

大里郡妻沼町

飯塚北遺跡 I

妻沼西部工業団地造成事業用地内埋蔵文化財発掘調査報告

— I —

< 第 1 分冊 >

平成17年3月14日 印刷

平成17年3月24日 発行

発行／財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
〒369-0108 埼玉県大里郡大里町船木台4-4-1
電話 0493 (39) 3955

印刷／誠美堂印刷株式会社